山形県埋蔵文化財センター調査報告書第230集

馳上遺跡 第7・8次
元立北遺跡

発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 230 集

２０１８

公益財団法人　山形県埋蔵文化財センター

馳上遺跡第7・8次
元立北遺跡
発掘調査報告書
公益財団法人　山形県埋蔵文化財センター

馳上遺跡（はせがみ） 第7・8次
元立北遺跡（もとだてきた）

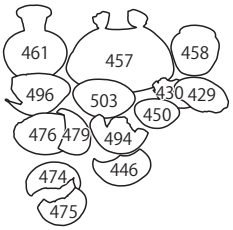
発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第230集

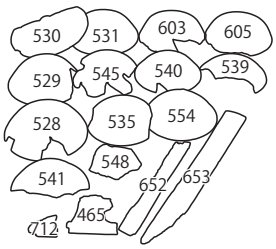
平成30年

公益財団法人　山形県埋蔵文化財センター

馳上遺跡西側調査区遺構集中部



馳上遺跡河川跡 SG1 出土土器類



馳上遺跡出土文字関係遺物

序

本書は、公益財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、馳上遺跡、元立北遺跡の調査成果をまとめたものです。

馳上遺跡及び元立北遺跡は、山形県南部、置賜地方に位置する米沢市にあります。市内には670か所を超える埋蔵文化財包蔵地が登録され、縄文時代から江戸時代にわたる各時代に地域の中心となるような遺跡が存在します。中世には長井氏・伊達氏の本拠として、江戸時代は上杉氏の城下町として栄え、現在も伝統を受け継ぎ、文化財を活用した整備が進められています。また、山形新幹線や高速道路の整備に伴い、県南の中核都市として重要な役割を果たしています。

この度、（仮称）道の駅よねざわ建設、並びに主要地方道米沢高畠線改築事業に伴い、事前に工事予定地内に包蔵される上記両遺跡の発掘調査を実施しました。馳上遺跡では３条の河川跡、古墳時代・平安時代の竪穴建物、平安時代の掘立柱建物跡や井戸跡などが検出されました。特に、河川跡からは木簡が出土しています。その他、一般の集落からはあまり出土しない墨書土器・双耳坏・横瓶などが出土しており、遺跡の性格を考える上で重要な情報を提供してくれました。

元立北遺跡からは古墳時代中期の竪穴建物が２棟検出されました。その内の一棟からは県外からの搬入品と考えられる須恵器𤭯（はそう）が２個出土しました。当時の地域間交流を示す、貴重な資料といえます。また、建物内から一括で遺物が出土しています。当時の食器構成が分かる重要な資料になると考えられます。他に、明確な遺構からではありませんが縄文土器も出土しています。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先のつくり上げた歴史を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちに課せられた重要な責務と考えます。その意味で本書が文化財保護活動の普及啓発や、学術研究、教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりますが、当遺跡を調査するに際し御支援、御協力いただいた関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

平成30年３月

公益財団法人　山形県埋蔵文化財センター

理事長　　廣瀬　渉

凡　例

1　本書は、「（仮称）道の駅よねざわ」建設と主要地方道米沢高畠線道路改築事業に係る「馳上遺跡」の第７・８次、「元立北遺跡」の発掘調査報告書である。

2　既刊の年報、速報会資料、調査説明会資料などの内容に優先し、本書をもって本報告とする。

3　調査は米沢市産業部商工課・山形県置賜総合支庁建設部道路計画課の委託により、公益財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。

4　本書の執筆は、須賀井新人・渡辺和行・森谷康平・吉田満が担当し、齋藤稔、黒坂雅人、伊藤邦弘が監修した。

5　遺構図に付す座標値は、平面直角座標系第Ⅹ系（世界測地系）により、高さは海抜高で表す。方位は座標北を表す。

6　本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記のとおりである。

ST…竪穴建物	SB…掘立柱建物・礎石建物		SA…柵列	SE…井戸
SK…土坑	SP…ピット	SG…河川	SD…溝跡	SX…性格不明遺構
EP…遺構内柱穴	EK…遺構内土坑	EL…カマド跡	EB…建物跡柱穴	
RP…登録土器	RQ…登録石器・石製品		RW…登録木製品	RM…登録金属製品

7　遺構・遺物実測図の縮尺・網点の用法は各図に示した。

8　遺物実測図の断面黒塗りは須恵器を表す。また、拓影断面図の配置は左から内面・断面・外面の順に掲載した。

9　墨書土器の底部に文字のあるものは赤外線スキャナーで撮影したものを実測図の底径に合わせて配置している。体部及び、体部と底部に書かれた文字は赤外線フィルターを装着したカメラにて撮影し、実測図にあわせて配置している。

10　第Ⅴ章　理化学分析におけるパリノ・サーヴェイ株式会社で行った分析における引用文献については第Ⅴ章第15節元立北遺跡の金属遺物の分析の後にまとめて掲載した。

11　基本層序および遺構覆土の色調記載については、1998年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖」によった。

12　発掘調査、整理作業および本書を作成するにあたり、下記の方々から御指導と御助言をいただいた。（敬称略）

国立歴史民俗博物館　三上喜孝　　金城学院大学　森勇一

13　本書の執筆分担は、以下のとおりである。

第Ⅰ章	第１節	須賀井新人・吉田満
	第２節	吉田満
第Ⅱ章		森谷康平
第Ⅲ章		渡辺和行
第Ⅳ章		森谷康平・渡辺和行
第Ⅴ章		業務委託による
第Ⅵ章		渡辺和行
付編		三上喜孝（国立歴史民俗博物館）

調 査 要 項

調査委託者	米沢市・山形県置賜総合支庁		
調査受託者	公益財団法人山形県埋蔵文化財センター（平成 27 ～ 29 年度）		
受託期間	平成 27 年 10 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日		
	平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日		
	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日		

遺跡名	馳上（はせがみ）遺跡		
遺跡番号	202 - 560		
所在地	山形県米沢市大字川井字元立 1019 - 1		
現地調査	第 7 次調査	平成 27 年 11 月 2 日～ 11 月 20 日	
	第 8 次調査	平成 28 年 4 月 25 日～ 11 月 11 日	
調査担当者	平成 27 年度	調査課長	斉藤敏行
		調査課課長補佐	須賀井新人（調査主任）
		調査員	阿部明彦
	平成 28 年度	業務課長	伊藤邦弘
		調整主幹（兼）課長補佐	須賀井新人
		調査研究員	渡辺和行（調査主任）
		調査員	森谷康平
		調査員	安達将行
		調査員	吉田満
		調査員	三浦一樹
		調査員	山田めぐみ
	平成 29 年度	業務課長	伊藤邦弘
		調整主幹（兼）課長補佐	須賀井新人
		主任調査研究員	渡辺和行（整理主任）
		調査員	森谷康平
		調査員	安達将行
		調査員	吉田満

遺跡名	元立北（もとだてきた）遺跡		
遺跡番号	202 - 688		
所在地	山形県米沢市大字川井字元立 1058 - 1		
現地調査	平成 28 年 4 月 25 日～ 7 月 13 日		
調査担当者	平成 28 年度	業務課長	伊藤邦弘
		調整主幹（兼）課長補佐	須賀井新人
		調査研究員	渡辺和行（調査主任）

		調査員	森谷康平
		調査員	安達将行
		調査員	吉田満
		調査員	山田めぐみ
	平成 29 年度	業務課長	伊藤邦弘
		調整主幹(兼)課長補佐	須賀井新人
		主任調査研究員	渡辺和行（整理主任）
		調査員	森谷康平
		調査員	安達将行
		調査員	吉田満

調査指導　山形県教育庁文化財・生涯学習課

調査協力　米沢市総務部財政課
米沢市建設部土木課、都市計画課
米沢市教育委員会
山形県県土整備部道路整備課
山形県置賜教育事務所

業務委託　基準点測量業務　株式会社ケンコン（平成 27 年度）
基準点測量業務　株式会社春日測量設計（平成 28 年度）
地形・遺構測量（俯瞰撮影）業務　株式会社ケンコン（平成 28 年度）
金属製品保存処理業務　株式会社吉田生物研究所（平成 29 年度）
木製品保存処理業務　株式会社吉田生物研究所（平成 29 年度）
公益財団法人山梨文化財研究所（平成 29 年度）
漆付着土器保存処理　株式会社上田墨縄堂（平成 29 年度）
理化学分析業務　株式会社加速器分析研究所（平成 28 年度）
理化学分析業務　パリノ・サーヴェイ株式会社（平成 29 年度）

発掘作業員

嵐田久雄	有海洋子	綾部千恵美	飯野喜恵子	伊藤丈雄	伊藤美恵子
井上芳子	江袋吉男	遠田光俊	遠田やす子	遠藤リカ	大河原建吉
大平晶一	大和田久美子	小形かつよ	小形昇	加科有希子	粕谷洋之助
片上修	川村義廣	上林満広	栗田憲夫	黒田沙紀	桑島茂
小池利夫	小浦由美	小関哲志	齋藤功	斎藤榮子	齋藤富男
齋藤美恵子	齋藤友季絵	坂野健二	佐藤孝一	佐藤秀造	佐藤則一
佐藤昌一	杉原一夫	鈴木あけみ	鈴木幸子	鈴木友寛	鈴木ひろ美
清井修二	情野道夫	相馬雄一	高橋進	高橋信行	高橋二夫
高橋麻奈美	高野正喜	田村三男	中川真美	長谷川力	樋口藤男
菱沼敬嘉	古畑知美	本田昭吉	本間儀助	松浦薫	松木哲雄
松村洋一	丸山福彦	間山伊蔵	三浦弘	味田雄樹	村山道雄
山岸扶三雄	淀野秀明	我妻隆	渡部昭男	渡部惇	渡部正善
渡邉優	藁科清夫				（五十音順）

整理作業員　伊藤あかね　大城麻衣　小川幸子　後藤幸子　鈴木美香　長谷川公一
半田清　森谷和弘　（五十音順）

目　次

Ⅰ　調査の経緯

1　調査に至る経緯…… 1

2　発掘調査の方法と経過…… 1

3　整理作業の方法と経過…… 3

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1　地理的環境 …… 6

2　歴史的環境 …… 6

Ⅲ　馳上遺跡

1　遺跡の概要 ……14

2　A 区の遺構と遺物 ……14

3　B 区の遺構と遺物……23

4　C 区の遺構と遺物 ……23

5　D 区の遺構と遺物 ……25

Ⅳ　元立北遺跡

1　遺跡の概要 …… 292

2　D 区の遺構と遺物 …… 292

3　B 区の遺構と遺物…… 296

4　その他の出土遺物 …… 297

Ⅴ　理化学分析

1　馳上遺跡の放射性炭素年代測定（1） …… 326

2　馳上遺跡の放射性炭素年代測定（2） …… 329

3　馳上遺跡の放射性炭素年代測定（3） …… 331

4　馳上遺跡の出土木製品樹種同定（1） …… 332

5　馳上遺跡の出土木製品樹種同定（2） …… 334

6　馳上遺跡の出土木製品樹種同定（3） …… 343

7　馳上遺跡の植物遺体同定（プラントオパール分析） …… 344

8　馳上遺跡の漆塗膜分析（1） …… 346

9　馳上遺跡の漆塗膜分析（2） …… 346

10　馳上遺跡の金属遺物の分析 …… 347

11　馳上遺跡の漆付着土器から発見された
双翅目昆虫とその意義について …… 349

12　元立北遺跡の放射性炭素年代測定（1） …… 357

13　元立北遺跡の放射性炭素年代測定（2） …… 359

14　元立北遺跡の放射性炭素年代測定（3） …… 360

15　元立北遺跡の金属遺物の分析 …… 362

Ⅵ　総括

1　馳上遺跡 …… 364
2　元立北遺跡 …… 368

参考文献 …… 368
山形県米沢市馳上遺跡第八次調査出土木簡 …… 付編
報告書抄録 …… 巻末

表

表１　遺跡地名表…… 11

馳上遺跡

表２　土器観察表……260
表３　墨書・刻書土器観察表……284
表４　木製品観察表……290
表５　石製品観察表……291
表６　土製品観察表……291
表７　金属製品観察表……291

元立北遺跡

表８　土器観察表……322
表９　石製品観察表……324
表１０　木製品観察表……324
表１１　木製品観察表……325
表１２　金属製品観察表……325

理化学分析

表１３　放射性炭素年代測定結果（$\delta^{13}C$ 補正値）（1）……327
表１４　放射性炭素年代測定結果（$\delta^{13}C$ 未補正値、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代）（1）……328
表１５　放射性炭素年代測定結果（1）……330
表１６　放射性炭素年代測定結果（2）……333
表１７　樹種同定結果（1）……334
表１８　樹種同定結果（2）……337
表１９　樹種同定結果（3）……343
表２０　化学組成分析結果……348
表２１　放射性炭素年代測定結果（$\delta^{13}C$ 補正値）（2）……353
表２２　放射性炭素年代測定結果（$\delta^{13}C$ 未補正値、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代）（2）……353
表２３　放射性炭素年代測定結果（3）……355
表２４　放射性炭素年代測定結果（4）……356

図　版

第１図　調査区概要図…… 5
第２図　馳上遺跡周辺の地形分類図…… 7
第３図　遺跡位置図…… 9

馳上遺跡

第４図　馳上遺跡第７次トレンチ配置図の割付図…… 26
第５図　馳上遺跡第７次トレンチ配置図１…… 27
第６図　馳上遺跡第７次トレンチ配置図２…… 28
第７図　馳上遺跡第７次トレンチ配置図３…… 29
第８図　馳上遺跡第７次トレンチ配置図４…… 30
第９図　馳上遺跡第７次トレンチ配置図５…… 31
第10図　馳上遺跡第７次トレンチ配置図６…… 32
第11図　馳上遺跡第７次トレンチ配置図７…… 33
第12図　馳上遺跡第７次トレンチ配置図８…… 34
第13図　馳上遺跡第７次トレンチ配置図９…… 35
第14図　馳上遺跡第７次トレンチ配置図10…… 36
第15図　馳上遺跡第７次トレンチ配置図11…… 37
第16図　馳上遺跡第７次トレンチ配置図12…… 38
第17図　馳上遺跡第７次トレンチ配置図13…… 39
第18図　馳上遺跡第７次トレンチ配置図14…… 40
第19図　馳上遺跡第７次トレンチ配置図15…… 41
第20図　馳上遺跡第７次トレンチ配置図16…… 42
第21図　馳上遺跡第７次トレンチ配置図17…… 43
第22図　馳上遺跡第７次トレンチ配置図18…… 44
第23図　馳上遺跡第８次遺構配置図の割付図…… 45
第24図　区割り図…… 46
第25図　馳上遺跡第８次遺構配置図１…… 47
第26図　馳上遺跡第８次遺構配置図２…… 48
第27図　馳上遺跡第８次遺構配置図３…… 49
第28図　馳上遺跡第８次遺構配置図４…… 50
第29図　馳上遺跡第８次遺構配置図５…… 51
第30図　馳上遺跡第８次遺構配置図６…… 52
第31図　馳上遺跡第８次遺構配置図７…… 53
第32図　馳上遺跡第８次遺構配置図８…… 54
第33図　馳上遺跡第８次遺構配置図９…… 55
第34図　馳上遺跡第８次遺構配置図10…… 56
第35図　馳上遺跡第８次遺構配置図11…… 57

第 36 図　馳上遺跡第 8 次遺構配置図 12 …… 58
第 37 図　基本層序のセクションポイント配置図…… 59
第 38 図　基本層序…… 60
第 39 図　A 区　竪穴建物 ST1200 …… 61
第 40 図　A 区　竪穴建物 ST1200 の注記…… 62
第 41 図　A 区　竪穴建物 ST1210（1）…… 63
第 42 図　A 区　竪穴建物 ST1210（2）…… 64
第 43 図　A 区　竪穴建物 ST1210 の注記…… 65
第 44 図　A 区　竪穴建物 ST1441・2591 …… 66
第 45 図　A 区　竪穴建物 ST1441・2591 の注記（1）…… 67
第 46 図　A 区　竪穴建物 ST1441・2591 の注記（2）…… 68
第 47 図　A 区　竪穴建物 ST1554（1）…… 69
第 48 図　A 区　竪穴建物 ST1554（2）…… 70
第 49 図　A 区　竪穴建物 ST1554 の注記…… 71
第 50 図　A 区　竪穴建物 ST2361 …… 72
第 51 図　A 区　竪穴建物 ST2361 の注記（1） …… 73
第 52 図　A 区　竪穴建物 ST2361 の注記（2） …… 74
第 53 図　A 区　竪穴建物 ST2554 …… 75
第 54 図　A 区　竪穴建物 ST2554 の注記…… 76
第 55 図　A 区　掘立柱建物 SB300 …… 77
第 56 図　A 区　掘立柱建物 SB1240（1）…… 78
第 57 図　A 区　掘立柱建物 SB1240（2）…… 79
第 58 図　A 区　掘立柱建物 SB1240 の注記…… 80
第 59 図　A 区　掘立柱建物 SB1882 …… 81
第 60 図　A 区　掘立柱建物 SB1882 の注記…… 82
第 61 図　A 区　掘立柱建物 SB1883（1）…… 83
第 62 図　A 区　掘立柱建物 SB1883（2）…… 84
第 63 図　A 区　掘立柱建物 SB2341 …… 85
第 64 図　A 区　掘立柱建物 SB2341 の注記…… 86
第 65 図　A 区　掘立柱建物 SB2518（1）…… 87
第 66 図　A 区　掘立柱建物 SB2518（2）…… 88
第 67 図　A 区　掘立柱建物 SB2518 の注記…… 89
第 68 図　A 区　掘立柱建物 SB2520 …… 90
第 69 図　A 区　掘立柱建物 SB2520 の注記…… 91
第 70 図　A 区　掘立柱建物 SB2522 …… 92
第 71 図　A 区　掘立柱建物 SB2522 の注記…… 93
第 72 図　A 区　掘立柱建物 SB2523 …… 94
第 73 図　A 区　掘立柱建物 SB2523 の注記…… 95
第 74 図　A 区　掘立柱建物 SB2527 …… 96
第 75 図　A 区　掘立柱建物 SB2527 の注記…… 97
第 76 図　A 区　掘立柱建物 SB2536（1）…… 98
第 77 図　A 区　掘立柱建物 SB2536（2）…… 99
第 78 図　A 区　掘立柱建物 SB2547（1）……100
第 79 図　A 区　掘立柱建物 SB2547（2）……101
第 80 図　A 区　掘立柱建物 SB2793（1）……102
第 81 図　A 区　掘立柱建物 SB2793（2）……103
第 82 図　A 区　柵列 SA2893・2894・2895・2896（1） ‥104
第 83 図　A 区　柵列 SA2893・2894・2895・2896（2） ‥105
第 84 図　A 区　柵列 SA2923・井戸 SE1660 ……106
第 85 図　A 区　井戸 SE1660 注記・1671・1706・SK1705
……107
第 86 図　A 区　井戸 SE1940・2081 ……108
第 87 図　A 区　土坑 SK1022・1122・1123・1157・1158
……109
第 88 図　A 区　土坑 SK1168・1169・1175・1214・2553・
1222 ……110
第 89 図　A 区　土坑 SK1228・1269・1271・1280・1284
……111
第 90 図　A 区　土坑 SK1285・1295・1308・1329・2696
……112
第 91 図　A 区　土坑 SK1356・1383・1388・1389・1478・
1479・1485……113
第 92 図　A 区　土坑 SK1522・1538・1541・1570・1592・
ピット SP1524・2133 ……114
第 93 図　A 区　土坑 SK1603・1619・1624・1625・1648・
ピット SP1602・1825 ……115
第 94 図　A 区　土坑 SK1658・1659・1690 ……116
第 95 図　A 区　土坑 SK1812・1903・1912・1919 ……117
第 96 図　A 区　土坑 SK1924・1925・1926・1929・2039・
ピット SP1928……118
第 97 図　A 区　土坑 SK1966・1991・1995・2016・2017・
ピット SP2018……119
第 98 図　A 区　土坑 SK2024・2040・2054・2057・2059
……120
第 99 図　A 区　土坑 SK2060・2067・2091・2121 ……121
第 100 図　A 区　土坑 SK2102・2769・2770・2884・2885・
ピット SP2645・2764・2765・2768・2883 ‥‥122
第 101 図　A 区　土坑 SK2113・2719・2123・2124・
ピット SP2715・2857・2858・2859 ……123
第 102 図　A 区　土坑 SK2131・2136・2114・2145 ……124
第 103 図　A 区　土坑 SK2146・2148・2167・2844・
ピット SP1958・2147・2149・2155・2156・
2157 ……125
第 104 図　A 区　土坑 SK2182・2567・2568・
性格不明遺構 SX1352……126
第 105 図　A 区　土坑 SK2609・2668・2730・2731・

性格不明遺構 SX2790 ……127
第 106 図　A 区　土坑 SK2737・2761・2762・2789・
ピット SP2736・2745 ……128
第 107 図　A 区　土坑 SK2792・2856・2879・
ピット SP2648・2649・2650・
性格不明遺構 SX2854 ……129
第 108 図　A 区　土坑 SK2882・2899・ピット SP1024・1025・
1046・1048 ……130
第 109 図　A 区　ピット SP1049・1054・1113・1116・1120・
1121・1125・1795・1796 ……131
第 110 図　A 区　ピット SP1143・1145・1146・1147・1164・
1198・1220・1224・2322・2323 ……132
第 111 図　A 区　ピット SP1229・1230・1231・1282・1283・
1296・1297・1302・1312・1800 ……133
第 112 図　A 区　ピット SP1331・1344・1360・1368・1379・
1382・1385 ……134
第 113 図　A 区　ピット SP1387・1392・1395・1406・1407・
1416・1460・1811 ……135
第 114 図　A 区　ピット SP1469・1470・1471・1472・1465・
1474・1475・1487・1489 ……136
第 115 図　A 区　ピット SP1491・1494・1500・1511・1512・
1514・1516・1517・1519・1807・2818 ……137
第 116 図　A 区　ピット SP1520・1523・1532・1534・1535・
1537・1539・1543・1848・2689 ……138
第 117 図　A 区　ピット SP1544・1547・1548・1549・1550・
1585・1591・1594・1595・1597 ……139
第 118 図　A 区　ピット SP1598・1605・1606・1615・1620・
1621・1629・1636・1637 ……140
第 119 図　A 区　ピット SP1616・1655・1656・1666・1679・
1722・1725・1726 ……141
第 120 図　A 区　ピット SP1742・1744・1746・1751・1761・
1762・1763 ……142
第 121 図　A 区　ピット SP1772・1774・1781・1803・1826・
1858・1874・1888 ……143
第 122 図　A 区　ピット SP1892・1910・1911・1975・1976・
1978・1981 ……144
第 123 図　A 区　ピット SP1990・2005・2007・2031・2032・
2033・2108・2109・2120・2687 ……145
第 124 図　A 区　ピット SP2140・2168・2181・2184・2207・
2208・2610・2612 ……146
第 125 図　A 区　ピット SP2246・2300・2329・2331・2510・
2511・2563 ……147
第 126 図　A 区　ピット SP2566・2604・2636・2637・2638・
2657・2690・2735・2915 ……148
第 127 図　A 区　ピット SP2741・2738・2805・2816・2817・
2890 ……149
第 128 図　A 区　溝跡 SD2085・ピット SP2159・
性格不明遺構 SX2041 ……150
第 129 図　A 区　溝跡 SD2664・ピット SP2662・2663・2675・
2697・2862 ……151
第 130 図　A 区　河川 SG1661 ……152
第 131 図　A 区　性格不明遺構 SX2144・2242・ピット SP2646・
2647 ……153
第 132 図　B 区　竪穴建物 ST2435 ……154
第 133 図　B 区　竪穴建物 ST2435 の注記 ……155
第 134 図　B 区　土坑 SK2825・ピット SP76・79・81・83・91
……156
第 135 図　B 区　ピット SP92・2310・2810 ……157
第 136 図　C 区　竪穴建物 ST250（1） ……158
第 137 図　C 区　竪穴建物 ST250（2） ……159
第 138 図　C 区　竪穴建物 ST250 の注記（1） ……160
第 139 図　C 区　竪穴建物 ST250 の注記（2） ……161
第 140 図　C 区　竪穴建物 ST362 ……162
第 141 図　C 区　竪穴建物 ST362 の注記 ……163
第 142 図　C 区　掘立柱建物 SB1080 ……164
第 143 図　C 区　掘立柱建物 SB1080 の注記 ……165
第 144 図　C 区　礎石建物 SB2760 ……166
第 145 図　C 区　礎石建物 SB2760 の注記 ……167
第 146 図　C 区　土坑 SK96・179・180・181・1103・1104・
ピット SP2892 ……168
第 147 図　C 区　土坑 SK1259・2438・2707・2720・
ピット SP23・89 ……169
第 148 図　C 区　ピット SP97・100・101・102・108・109・
112・114・124・125 ……170
第 149 図　C 区　ピット SP126・130・132・135・136・137・
138 ……171
第 150 図　C 区　ピット SP182・184・187・188・189・207・
375 ……172
第 151 図　C 区　ピット SP2171・2331・2234・2315・2316・
2334・2700 ……173
第 152 図　C 区　ピット SP2702・2703・2833・2865・2866・
2878 ……174
第 153 図　C 区　溝跡 SD3 ……175
第 154 図　C 区　溝跡 SD74・75 ……176
第 155 図　C 区　溝跡 SD2100・2708・
河川 SG2887 セクションポイント配置図 ……177

第156図　C区　溝跡SD2100・2708・河川SG2887 ……178
第157図　C区　溝跡SD74・河川SG72 ……179
第158図　D区　土坑SK27・228・352・1115・ピットSP26・350……180
第159図　D区　ピットSP164・199・200・210・211・212・213・214……181
第160図　D区　ピットSP215・221・222・245・266・269・270・271……182
第161図　D区　ピットSP276・287・288・295・1068・1069・1150・1704……183
第162図　D区　ピットSP1152・1156 ……184
第163図　D区　河川SG 1 (1)……185
第164図　D区　河川SG 1 (2)……186

出土遺物

第165図　A区　竪穴建物ST1200出土遺物……187
第166図　A区　ST1200・1210出土遺物 ……188
第167図　A区　ST1210出土遺物……189
第168図　A区　竪穴建物ST1210・ST1441・2591出土遺物……190
第169図　A区　竪穴建物ST1441・1554・ST2591出土遺物……191
第170図　A区　竪穴建物ST2591出土遺物……192
第171図　A区　竪穴建物ST2591・1554出土遺物 ……193
第172図　A区　竪穴建物ST1554・2361出土遺物 ……194
第173図　A区　竪穴建物ST2361出土遺物……195
第174図　A区　竪穴建物ST2361・2554出土遺物 ……196
第175図　A区　竪穴建物ST2554・掘立柱建物SB300・1240・1882・1883・2341・2518出土遺物 ……197
第176図　A区　掘立柱建物SB2520・2523・2527・2547・2793・井戸SE1660出土遺物 ……198
第177図　A区　井戸SE1660・1671出土遺物 ……199
第178図　A区　井戸SE1671出土遺物……200
第179図　A区　井戸SE1706・1940・2081出土遺物……201
第180図　A区　井戸SE2081出土遺物……202
第181図　A区　土坑SK1329・1350・1428・1603・1658・1659・1884・1919出土遺物 ……203
第182図　A区　土坑SK1919・1924・1968・2016・2057・2060出土遺物 ……204
第183図　A区　土坑SK2067・2091・2145・2148・2167・2609・2627・2719・2731・2844出土遺物 ……205
第184図　A区　土坑SK2879・2882・ピットSP出土遺物……206
第185図　A区　ピットSP・溝跡SD2022・河川SG1661出土遺物 ……207
第186図　A区　河川SG1661出土遺物 ……208
第187図　A区　性格不明遺構SX1351・1352・2144・2870出土遺物……209
第188図　B区　竪穴建物ST2435、C区　ST250出土遺物（1） ……210
第189図　C区　竪穴建物ST250出土遺物（2）……211
第190図　C区　竪穴建物ST250出土遺物（3）……212
第191図　C区　竪穴建物ST250出土遺物（4）……213
第192図　C区　竪穴建物ST250出土遺物（5）……214
第193図　C区　竪穴建物ST250出土遺物（6）……215
第194図　C区　礎石建物SB2760・土坑SK1103出土遺物……216
第195図　C区　土坑SK1103・1104・1259・2380出土遺物……217
第196図　C区　土坑SK2405・2438・ピットSP・溝SD193・2100・2708出土遺物 ……218
第197図　C区　河川SG72・2887出土遺物 ……219
第198図　D区　土坑SK352・ピットSP・河川SG1（1）出土遺物 ……220
第199図　D区　河川SG1（2）出土遺物 ……221
第200図　D区　河川SG1（3）出土遺物 ……222
第201図　D区　河川SG1（4）出土遺物 ……223
第202図　D区　河川SG1（5）出土遺物 ……224
第203図　D区　河川SG1（6）出土遺物 ……225
第204図　D区　河川SG1（7）出土遺物 ……226
第205図　D区　河川SG1（8）出土遺物 ……227
第206図　D区　河川SG1（9）出土遺物 ……228
第207図　D区　河川SG1（10）出土遺物 ……229
第208図　D区　河川SG1（11）出土遺物 ……230
第209図　D区　河川SG1（12）出土遺物 ……231
第210図　D区　河川SG1（13）出土遺物 ……232
第211図　D区　河川SG1（14）出土遺物 ……233
第212図　D区　河川SG1（15）出土遺物 ……234
第213図　D区　河川SG1（16）出土遺物 ……235
第214図　D区　河川SG1（17）出土遺物 ……236
第215図　D区　河川SG1（18）出土遺物 ……237
第216図　D区　河川SG1（19）出土遺物 ……238
第217図　D区　河川SG1（20）出土遺物 ……239
第218図　D区　河川SG1（21）出土遺物 ……240
第219図　D区　河川SG1（22）出土遺物 ……241
第220図　D区　河川SG1（23）出土遺物 ……242
第221図　D区　河川SG1（24）出土遺物 ……243
第222図　D区　河川SG1（25）出土遺物 ……244

第223図　D区　河川SG1（26）出土遺物 ……245
第224図　D区　河川SG1（27）出土遺物 ……246
第225図　D区　河川SG1（28）出土遺物 ……247
第226図　D区　河川SG1（29）出土遺物 ……248
第227図　D区　河川SG1（30）出土遺物 ……249
第228図　D区　河川SG1（31）出土遺物 ……250
第229図　D区　河川SG1（32）出土遺物 ……251
第230図　D区　河川SG1（33）出土遺物 ……252
第231図　D区　河川SG1（34）出土遺物 ……253
第232図　D区　河川SG1（35）出土遺物 ……254
第233図　グリッド出土遺物（1） ……255
第234図　グリッド出土遺物（2） ……256
第235図　グリッド出土遺物（3） ……257
第236図　グリッド出土遺物（4） ……258
第237図　グリッド出土遺物（5）、出土地点不明遺物 ……259

元立北遺跡

第238図　遺構配置図の割付……298
第239図　遺構配置図1……299
第240図　遺構配置図2……300
第241図　遺構配置図3……301
第242図　遺構配置図4……302
第243図　D区　竪穴建物ST51 ……303
第244図　D区　竪穴建物ST51の注記……304
第245図　D区　基本層序及び各遺構のセクション取得位置‥305
第246図　D区　基本層序の注記（1） ……306
第247図　D区　基本層序の注記（2）、溝跡SD53・58、
土坑SK57・62……307
第248図　D区　ピットSP4・5・8～11……308
第249図　D区　ピットSP12・20・23・25・30・31 ……309
第250図　D区　ピットSP35・36・39・40・42・43 ……310
第251図　D区　ピットSP44・45・47・49・50 ……311
第252図　D区　河川跡SG1断面図 ……312
第253図　B区　竪穴建物ST60 ……313
第254図　B区　竪穴建物ST60の注記……314

出土遺物

第255図　D区　竪穴建物ST51出土遺物（1）……315
第256図　D区　竪穴建物ST51出土遺物（2）……316
第257図　D区　竪穴建物ST51出土遺物（3）……317
第258図　D区　竪穴建物ST51出土遺物（4）、
河川SG1出土遺物 ……318
第259図　B区　竪穴建物ST60出土遺物（1）……319
第260図　B区　竪穴建物ST60出土遺物（2）、
性格不明遺構SX61出土遺物……320
第261図　7次T33、グリッド、出土地点不明遺物……321

理化学分析

第262図　暦年較正結果（1） ……328
第263図　暦年較正結果（2） ……329
第264図　暦年較正結果（3） ……331
第265図　暦年較正結果（4） ……333
第266図　木材（1） ……335
第267図　木材（2） ……337
第268図　木材（3） ……338
第269図　木材（4） ……339
第270図　木材（5） ……340
第271図　木材（6） ……341
第272図　木材（7） ……342
第273図　木製品の光学顕微鏡写真（1） ……343
第274図　木製品の光学顕微鏡写真（2） ……344
第275図　顕微鏡写真……345
第276図　漆塗膜断面（1） ……346
第277図　漆塗膜断面（2） ……347
第278図　金属遺物（1） ……348
第279図　標本1～6の顕微鏡写真 ……353
第280図　標本8～11の顕微鏡写真……354
第281図　馳上標本1とニッポンガガンボダマシのスケッチ図、
ニッポンガガンボダマシの現生標本……355
第282図　標本5・6のスケッチ図、ガガンボダマシ科・ガガンボ
ダマシ属*Trichocera* sp.の右前翅……356
第283図　暦年較正結果（5） ……358
第284図　暦年較正結果（6） ……359
第285図　暦年較正結果（7） ……360
第286図　暦年較正結果（8） ……361
第287図　金属遺物（2） ……387

写真図版

巻頭写真1　馳上遺跡西側調査区遺構集中部
巻頭写真2　馳上遺跡河川跡SG1出土土器類・文字関係遺物

馳上遺跡

写真図版1　7次　トレンチ1・2調査状況
写真図版2　7次　トレンチ3・4調査状況
写真図版3　7次　トレンチ5・6調査状況
写真図版4　7次　トレンチ7・8調査状況
写真図版5　7次　トレンチ9・10調査状況

写真図版 6　7 次　トレンチ 11・12 調査状況
写真図版 7　7 次　トレンチ 13・14 調査状況
写真図版 8　7 次　トレンチ 15・16 調査状況
写真図版 9　7 次　トレンチ 17・18 調査状況
写真図版 10　7 次　トレンチ 19・20 調査状況
写真図版 11　7 次　トレンチ 21・22 調査状況
写真図版 12　7 次　トレンチ 23・24 調査状況
写真図版 13　7 次　トレンチ 25・26 調査状況
写真図版 14　7 次　トレンチ 27・28 調査状況
写真図版 15　7 次　トレンチ 29・30 調査状況
写真図版 16　7 次　トレンチ 31・32 調査状況
写真図版 17　7 次　トレンチ 33・34 調査状況
写真図版 18　A 区　竪穴建物 ST1200 検出・完掘
写真図版 19　A 区　竪穴建物 ST1200 土層断面・ST1200-EL EK 土層断面・遺物出土状況
写真図版 20　A 区　竪穴建物 ST1200-EP 土層断面
写真図版 21　A 区　竪穴建物 ST1210 検出・完掘
写真図版 22　A 区　竪穴建物 ST1210 土層断面
写真図版 23　A 区　竪穴建物 ST1210-EP 土層断面
写真図版 24　A 区　土坑 SK1784・1785・2627・2679
写真図版 25　A 区　竪穴建物 ST1441・2591 完掘 ST1441 土層断面
写真図版 26　A 区　竪穴建物 ST1441・2591 土層断面 EL・EP 土層断面
写真図版 27　A 区竪穴建物 ST1441・2591 土層断面
写真図版 28　A 区竪穴建物 ST2591-EL、EP 土層断面 遺物出土状況
写真図版 29　A 区　竪穴建物 ST1554 完掘状況・EL、EK 土層断面
写真図版 30　A 区　竪穴建物 ST1554-EK、EP 完掘、土層断面
写真図版 31　A 区　竪穴建物 ST2361 完掘・土層断面
写真図版 32　A 区　竪穴建物 ST2361-EL、EK、EP 完掘、土層断面
写真図版 33　A 区　竪穴建物 ST2554 遺物出土状況 EL、EP 土層断面・完掘
写真図版 34　A 区　掘立柱建物 SB300 完掘・EB 土層断面
写真図版 35　A 区　掘立柱建物 SB1240 完掘・EB 土層断面
写真図版 36　A 区　掘立柱建物 SB1240-EB 土層断面 性格不明遺構 SX2631 土層断面
写真図版 37　A 区　掘立柱建物 SB1882 完掘・EB、SP 土層断面
写真図版 38　A 区　掘立柱建物 SB1882-EB 土層断面・SB1883 完掘・EB 土層断面
写真図版 39　A 区　掘立柱建物 SB2341 完掘・EB 土層断面
写真図版 40　A 区　掘立柱建物 SB2341-EB 土層断面・SB2518 完掘・EB 土層断面
写真図版 41　A 区　掘立柱建物 SB2520 完掘・EB 土層断面
写真図版 42　A 区　掘立柱建物 SB2522 完掘・EB、SP 土層断面
写真図版 43　A 区　掘立柱建物 SB2523 完掘・EB 土層断面
写真図版 44　A 区　掘立柱建物 SB2527 完掘・EB、SP 土層断面
写真図版 45　A 区　掘立柱建物 SB2536 完掘 EB、SK 土層断面
写真図版 46　A 区　掘立柱建物 SB2547 完掘・EB 土層断面
写真図版 47　A 区　掘立柱建物 SB2793 完掘・EB、SK 土層断面
写真図版 48　A 区　柵列 SA2895・2893・2896・2894 完掘、SP 土層断面
写真図版 49　A 区　柵列 SA2923 完掘、SP 土層断面 井戸 SE1660、1671 土層断面・完掘
写真図版 50　A 区井戸 SE1706・1940・2081 土層断面、完掘
写真図版 51　A 区　土坑 SK 土層断面（1）
写真図版 52　A 区　土坑 SK・ピット SP 土層断面（2）
写真図版 53　A 区　土坑 SK 土層断面・完掘・遺物出土状況（3）
写真図版 54　A 区　土坑 SK・ピット SP 土層断面（4）
写真図版 55　A 区　土坑 SK・ピット SP 土層断面（5）
写真図版 56　A 区　土坑 SK・ピット SP・性格不明遺構 SX 土層断面（6）
写真図版 57　A 区　土坑 SK 土層断面（7）・ピット SP 土層断面
写真図版 58　A 区　ピット SP・溝跡 SD2085・河川 SG1661 性格不明遺構 SX2242 土層断面・SP2513・2206 RP・RQ 遺物出土状況
写真図版 59　B 区　竪穴建物 ST2435 完掘、土層断面
写真図版 60　B 区　竪穴建物 ST2435-EK、EP 土層断面
写真図版 61　B 区　竪穴建物 ST2435-EP 土層断面 遺物出土状況、SK2825、SP2310・2810 土層断面
写真図版 62　C 区　竪穴建物 ST250 完掘、土層断面
写真図版 63　C 区　竪穴建物 ST250 土層断面 EL251 土層断面・完掘
写真図版 64　C 区　竪穴建物 ST250-EK、EP 土層断面 遺物出土状況
写真図版 65　C 区　竪穴建物 ST250-EP 土層断面・遺物出土状況
写真図版 66　C 区　竪穴建物 ST250-EP 土層断面、遺物出土状況 ST362 土層断面、完掘・EP 土層断面
写真図版 67　C 区　土坑 SK、溝跡 SD、河川 SG 土層断面
写真図版 68　C 区　掘立柱建物 SB1080 完掘・EB 土層断面
写真図版 69　C 区　礎石建物 SB2760 完掘・EB 土層断面
写真図版 70　C 区　掘立柱建物 SB2760-EB 土層断面・完掘

写真図版 71　D 区　土坑 SK27、228、352、1115 土層断面
河川 SG 1 土層断面
写真図版 72　D 区　河川 SG 1 全景

出土遺物

写真図版 73　A 区　竪穴建物 ST1200 出土遺物（1）
写真図版 74　A 区　竪穴建物 ST1200 出土遺物（2）
写真図版 75　A 区　竪穴建物 ST1210 出土遺物（1）
写真図版 76　A 区　竪穴建物 ST1210 出土遺物（2）
写真図版 77　A 区　竪穴建物 ST1441 出土遺物（1）
写真図版 78　A 区　竪穴建物 ST1441（2）・ST2591（1）出土遺物
写真図版 79　A 区　竪穴建物 ST2591 出土遺物（2）
写真図版 80　A 区　竪穴建物 ST2591 出土遺物（3）
写真図版 81　A 区　竪穴建物 ST2591（4）・ST1554（1）出土遺物
写真図版 82　A 区　竪穴建物 ST1554 出土遺物（2）
写真図版 83　A 区　竪穴建物 ST2361 出土遺物（1）
写真図版 84　A 区　竪穴建物 ST2361 出土遺物（2）
写真図版 85　A 区　竪穴建物 ST2361 出土遺物（3）
写真図版 86　A 区　竪穴建物 ST2361 出土遺物（4）
写真図版 87　A 区　竪穴建物 ST2554 出土遺物（1）
写真図版 88　A 区　竪穴建物 ST2554（2）・掘立柱建物 SB300・1240・1882・2341（1）出土遺物
写真図版 89　A 区　掘立柱建物 SB2341（2）・2518 出土遺物
写真図版 90　A 区　掘立柱建物 SB2520・2522・2523・2527 出土遺物
写真図版 91　A 区　掘立柱建物 SB2547・2793・井戸 SE1660（1）出土遺物
写真図版 92　A 区　井戸 SE1660 出土遺物（2）
写真図版 93　A 区　井戸 SE1671 出土遺物（1）
写真図版 94　A 区　井戸 SE1671 出土遺物（2）
写真図版 95　A 区　井戸 SE1706 出土遺物
写真図版 96　A 区　井戸 SE1940・2081（1）出土遺物
写真図版 97　A 区　井戸 SE2081 出土遺物（2）
写真図版 98　A 区　井戸 SE2081 出土遺物（3）
写真図版 99　A 区　土坑 SK1329・1350・1428・1603・1658 出土遺物
写真図版 100　A 区　土坑 SK1658・1659・1884・1919（1）出土遺物
写真図版 101　A 区　土坑 SK1919 出土遺物（2）
写真図版 102　A 区　土坑 SK1924・1968・2016・2057・2060（1）出土遺物
写真図版 103　A 区　土坑 SK2060（2）・2067・2091・2145 出土遺物
写真図版 104　A 区　土坑 SK2148・2167・2609・2627・2719（1）出土遺物
写真図版 105　A 区　土坑 SK2719（2）・2731・2844・2879・ピット SP（1）出土遺物
写真図版 106　A 区　ピット SP 出土遺物（2）
写真図版 107　A 区　ピット SP 出土遺物（3）
写真図版 108　A 区　ピット SP 出土遺物（4）
写真図版 109　A 区　ピット SP（5）・溝跡 SD2022・河川 SG1661（1）出土遺物
写真図版 110　A 区　河川 SG1661 出土遺物（2）
写真図版 111　A 区　河川 SG1661（3）・性格不明遺構 SX1351・1352（1）出土遺物
写真図版 112　A 区　性格不明遺構 SX1352（2）・2144・2870（1）出土遺物
写真図版 113　A 区　性格不明遺構 SX2870 出土遺物（2）
写真図版 114　B 区　竪穴建物 ST2435 出土遺物
写真図版 115　C 区　竪穴建物 ST250 出土遺物（1）
写真図版 116　C 区　竪穴建物 ST250 出土遺物（2）
写真図版 117　C 区　竪穴建物 ST250 出土遺物（3）
写真図版 118　C 区　竪穴建物 ST250 出土遺物（4）
写真図版 119　C 区　竪穴建物 ST250 出土遺物（5）
写真図版 120　C 区　竪穴建物 ST250 出土遺物（6）
写真図版 121　C 区　礎石建物 SB2760・土坑 SK1103（1）出土遺物
写真図版 122　C 区　土坑 SK1103（2）・1104 出土遺物
写真図版 123　C 区　土坑 SK1259・2380・2405・2438 出土遺物
写真図版 124　C 区　ピット SP・溝跡 SD195・2100・2708 出土遺物
写真図版 125　C 区　河川 SG72・2887（1）出土遺物
写真図版 126　C 区　河川 SG2887 出土遺物（2）
写真図版 127　C 区　河川 SG2887（3）・D 区　土坑 SK352・360・河川 SG 1（1）出土遺物
写真図版 128　D 区　河川 SG 1 出土遺物（2）
写真図版 129　D 区　河川 SG 1 出土遺物（3）
写真図版 130　D 区　河川 SG 1 出土遺物（4）
写真図版 131　D 区　河川 SG 1 出土遺物（5）
写真図版 132　D 区　河川 SG 1 出土遺物（6）
写真図版 133　D 区　河川 SG 1 出土遺物（7）
写真図版 134　D 区　河川 SG 1 出土遺物（8）
写真図版 135　D 区　河川 SG 1 出土遺物（9）
写真図版 136　D 区　河川 SG 1 出土遺物（10）

写真図版 137　D 区　河川 SG 1 出土遺物（11）
写真図版 138　D 区　河川 SG 1 出土遺物（12）
写真図版 139　D 区　河川 SG 1 出土遺物（13）
写真図版 140　D 区　河川 SG 1 出土遺物（14）
写真図版 141　D 区　河川 SG 1 出土遺物（15）
写真図版 142　D 区　河川 SG 1 出土遺物（16）
写真図版 143　D 区　河川 SG 1 出土遺物（17）
写真図版 144　D 区　河川 SG 1 出土遺物（18）
写真図版 145　D 区　河川 SG 1 出土遺物（19）
写真図版 146　D 区　河川 SG 1 出土遺物（20）
写真図版 147　D 区　河川 SG 1 出土遺物（21）
写真図版 148　D 区　河川 SG 1 出土遺物（22）
写真図版 149　D 区　河川 SG 1 出土遺物（23）
写真図版 150　D 区　河川 SG 1 出土遺物（24）
写真図版 151　D 区　河川 SG 1 出土遺物（25）
写真図版 152　D 区　河川 SG 1 出土遺物（26）
写真図版 153　D 区　河川 SG 1 出土遺物（27）
写真図版 154　D 区　河川 SG 1 出土遺物（28）
写真図版 155　D 区　河川 SG 1 出土遺物（29）
写真図版 156　D 区　河川 SG 1 出土遺物（30）
写真図版 157　D 区　河川 SG 1 出土遺物（31）
写真図版 158　D 区　河川 SG 1 出土遺物（32）
写真図版 159　D 区　河川 SG 1 出土遺物（33）
写真図版 160　D 区　河川 SG 1 出土遺物（34）
写真図版 161　D 区　河川 SG 1 出土遺物（35）
写真図版 162　D 区　河川 SG 1 出土遺物（36）
写真図版 163　D 区　河川 SG 1 出土遺物（37）
写真図版 164　D 区　河川 SG 1 出土遺物（38）
写真図版 165　D 区　河川 SG 1 出土遺物（39）
写真図版 166　D 区　河川 SG 1 出土遺物（40）
写真図版 167　D 区　河川 SG 1 出土遺物（41）
写真図版 168　D 区　河川 SG 1 出土遺物（42）
写真図版 169　D 区　河川 SG 1 出土遺物（43）
写真図版 170　グリッド出土遺物（1）
写真図版 171　グリッド出土遺物（2）
写真図版 172　グリッド出土遺物（3）
写真図版 173　グリッド出土遺物（4）
写真図版 174　グリッド出土遺物（5）
写真図版 175　グリッド（6）・遺構外出土遺物

元立北遺跡

写真図版 176　元立北遺跡完掘全景
写真図版 177　D 区　竪穴建物 ST51 完掘・炭化物出土状況
写真図版 178　D 区　竪穴建物 ST51 土層断面
写真図版 179　D 区　竪穴建物 ST51-EL67 土層断面・完掘状況
写真図版 180　D 区　竪穴建物 ST51-EL67 遺物出土状況
写真図版 181　D 区　竪穴建物 ST51-EK84 土層断面・遺物出土状況
写真図版 182　D 区　竪穴建物 ST51-EP 土層断面・遺物出土状況
写真図版 183　D 区　竪穴建物 ST51 遺物出土状況
写真図版 184　D 区　河川 SG 1 土層断面
写真図版 185　D 区　溝跡 SD53・58 土層断面
写真図版 186　D 区　土坑 SK57・62、ピット SP 土層断面
写真図版 187　D 区　ピット SP 土層断面
写真図版 188　D 区　ピット SP 土層断面、B 区　性格不明遺構 SX61 土層断面
写真図版 189　B 区　竪穴建物 ST60 完掘・土層断面
写真図版 190　B 区　竪穴建物 ST60、EK 土層断面 遺物出土状況 （1）
写真図版 191　B 区　竪穴建物 ST60-EP 土層断面・遺物出土状況（2）

出土遺物

写真図版 192　D 区　竪穴建物 ST51 出土遺物（1）
写真図版 193　D 区　竪穴建物 ST51 出土遺物（2）
写真図版 194　D 区　竪穴建物 ST51 出土遺物（3）
写真図版 195　D 区　竪穴建物 ST51 出土遺物（4）、河川 SG1 出土遺物（1）
写真図版 196　D 区　河川 SG1 出土遺物（2）、B 区竪穴建物 ST60 出土遺物（1）
写真図版 197　B 区　竪穴建物 ST60 出土遺物（2）
写真図版 198　B 区　竪穴建物 ST60 出土遺物（3）、性格不明遺構 SX61 出土遺物
写真図版 199　7 次調査 T33 出土遺物、グリッド、出土地点不明遺物

Ⅰ　調査の経緯

1　調査に至る経緯

米沢市では、東北中央自動車道の福島 JCT ～米沢北 IC 間の建設に合わせて、休憩及び物産販売などを行う施設設置の検討を、平成 25 年より進めてきた。当初は、東北中央自動車道本線上へのサービスエリアまたはパーキングエリアの設置が望まれたが、この区間の整備は国と地方自治体が費用分担して行う新直轄方式となり、完成後も当区間は無料供用となることから、本線上での整備は手続きやコスト面から困難と判断されるに至った。このため、サービスエリアまたはパーキングエリアの持つ休憩施設や情報発信機能を有し、さらに地域連携機能を併せ持つ“道の駅”を整備することになった。

平成 26 年 6 月に国土交通省が示した無料の高速道路区間における休憩施設等の方針（案）では、無料の高速道路における安全で快適な道路通行を確保するために、本線への直結を基本としながら、IC 近傍型の道の駅も活用することが示された。

「米沢市新道の駅基本構想」では、高速道路の有効活用を図る目的から、より市街地に近い主要地方道米沢高畠線（県道 1 号線）との交差点に、山形県が主体となって設置した（仮称）米沢中央 IC の東側に道の駅を建設する計画が示された。この基本構想は平成 27 年 1 月に、国土交通省が提唱する「地域外から活力を呼ぶゲートウェイ型の道の駅」として、全国の“重点道の駅”の一つに選定されている。同年 4 月の道の駅基本計画では、平成 29 年度の自動車道開通に合わせてオープンする事業スケジュールが示された。

主要地方道米沢高畠線及び東北中央自動車道の路線は、いずれも周知の馳上遺跡に係り、試掘調査においても遺構・遺物の存在が確認されたことから、当センターが主体となってこれまで都合 6 次に亘る発掘調査を実施してきた。今回の道の駅建設事業区域は遺跡範囲の北東部に当たり、これまでの調査結果から事業区内の発掘調査は必然と判断された。今回の事業主体は米沢市と山形県が分担して行うもので、発掘調査を実施する際は何れの機関が担当するのか、また調査機関や経費負担などについて、関係機関における種々の調整が必要であった。

遺跡の取り扱いについては、保護側の米沢市及び山形県の教育委員会と、開発側である市と県の事業担当課の間で、平成 26 年 11 月から調整が進められてきた。米沢市教育委員会では平成 28・29 年に大規模な発掘調査が予定されており、当事業に係る発掘調査は全面的に当埋蔵文化財センターへ委託する方向性が示唆された。平成 27 年 4 月の基本計画策定を受け、同年 5 月に当センターを含めた関係機関 5 者により、埋蔵文化財の扱いに関する全体調整が図られた。その結果、発掘調査の実施期間は平成 27 年の稲刈り後と平成 28 年度の 2 ヶ年で、整理作業及び報告書刊行を平成 29 年度で行うこと、調査経費は市と県の事業面積により按分し、センターは年度ごと各々と委託契約を締結すること等が申し合わされた。

第 7 次に当たる平成 27 年度の調査は、事業範囲内における馳上遺跡の遺存状況の確認を目的として行った。この調査により馳上遺跡の遺跡範囲東側が確定し、さらに遺跡の 50m 程東側に新たな遺跡が確認されたため、「元立北遺跡」として県教委より新規登録され馳上遺跡と並行して発掘調査を行うこととなった。

平成 28 年 2 月には、市・県双方の事業担当者と、発掘調査の方法及び工程等について調整を重ねた。

平成 28 年度は 4 月下旬からの調査開始に備え、文化財保護法第 92 条に基づく「埋蔵文化財発掘調査の届け出」を、3 月中に県教育委員会に提出した。4 月 1 日付けで米沢市及び山形県と委託契約を締結し、発掘調査開始直前にも関係機関 5 者による最終調整のための事前打ち合わせを行った。

2　発掘調査の方法と経過

A　平成 27 年度

馳上遺跡第 7 次調査

平成 27 年 9 月に調査経費積算について回答し、10

月１日付けで委託契約を締結した。調査は約 21,600 ㎡の事業区を対象に 10 ｍ× ２ｍ規模のトレンチを 34 箇所設定して行った。

その結果､事業範囲内の中央部から西側部分には遺構･遺物が密に分布することが明らかとなった。

発掘調査は、使用賃借物件等の入札や納品等が整ったのを受けて、11 月２日～ 20 日に実施した。

７次調査は、公共座標に基づき等間隔に設定したトレンチを重機械にて掘削し、遺構や遺物の有無を確認して次年度の調査区を決定することが目的である。トレンチは東西・南北方向とも 20m の間隔で設置し、東側から西側へ向かって掘り進めた。西側の一部区画について１× １ｍのトレンチを設定し人力で掘削した。各トレンチとも、東西両端で遺構検出面までの深さと土層断面を記録し、遺構が確認されたトレンチについては平面図を作成した。なお、事業区東端部において唯一遺構・遺物を認めた箇所があり、遺構や遺物包含層の広がりを把握するため、周辺にトレンチを追加して調査に当たった。すべてのトレンチは写真等の記録終了後、埋戻しを行って原状に復した。

11 月 16 日に県教育委員会が主催して関係機関５者が参集し、調査成果の確認と次年度の第８次調査に向けて課題等を整理した。前述したように、県教育委員会によって遺跡範囲の修正がなされ、これまで曲線で示されていた東辺部が直線的な囲いに改められた。また、事業区東端にて新たに登録された元立北遺跡は、古墳～平安時代の遺物包含層のほか縄文土器も散布し、その範囲はさらに東側へ広がることが予測された。

現地調査終了後は、出土遺物と写真や図面等の記録類を整理した。出土遺物は洗浄・注記した後、接合及び復元を行って可能な範囲で原状に復した。資料整理において、撮影したデジタル写真はトレンチごとにフォルダにまとめ、並行して調査区におけるトレンチ配置図を作成し、検出遺構を表記した。また、各地点で計測した土層の深さを柱状図として併記し、次年度調査のための資料を整えた。

B　平成 28 年度

調査方法は、事業用地の確認、調査区の設定、バックホウによる表土除去、面整理、遺構検出を行い、遺構の登録後、遺構配置図を作成した。遺構配置図及び遺構の平面図作成には電子平板を使用し、作業の効率化を図った。遺構配置図作成後、遺構の半截等を行い、土層断面図の作成・各写真撮影等の諸記録を経て完掘を行った。

その後、ラジオコントロールヘリコプターによる調査区全体の空中写真撮影及び図化を行った。

これらの方法は馳上遺跡、元立北遺跡両遺跡に共通する。

馳上遺跡

馳上遺跡はこれまで６次にわたり、発掘調査が実施されてきた。発掘原因は主要地方道米沢高畠線道路改良工事（第１次：調査面積 12,000 ㎡）、東北中央自動車道（米沢～米沢北間）改築事業（第２～４・６次：調査面積 23,200 ㎡）、道路改築事業（交付金・地方道）主要地方道米沢高畠線川井ＩＣ工区（第５次:調査面積 1,289 ㎡）の３事業である。

馳上遺跡は約 36,500 ㎡にわたる発掘調査により、古墳時代から奈良・平安時代、中世にわたり断続的に営まれた集落跡であることが確認されている。

８次調査もそれに順ずる成果が期待された。以下に調査の経過について記載する。

「埋蔵文化財発掘調査の届出」を山形県教育委員会に平成 28 年３月 20 日付で提出、受理された後「埋蔵文化財の発掘調査について」の通知を同年４月 20 日に受け取った。

現地調査は平成 28 年４月 25 日から 11 月 11 日までの日程で行った。調査区は事業区域の西端から中央部分に相当し、調査面積は 13,489 ㎡である。調査区の中央を南北方向に延びる農道を挟んで東と西に調査区を分け、工事が先行して開始される東側の調査区から調査を開始した。

４月下旬から作業員雇用に先駆けてバックホウを用い、表土除去を開始した。５月 16 日より作業員を雇用し本格的に調査を開始する。表土部分の土量が想定より多く表土除去が終了したのは５月中旬となった。その後、東側調査区の遺構検出作業を開始する。 遺構の登録番号は調査開始の段階で本調査以前の調査報告書がすべて刊行になる計画であったため、遺構及び遺物とも登録を１から順に行うこととした。７月中旬からは、遺構検出と並行して、検出された遺構の段下げ・半截作業を開始

し、順次断面図の作成、写真撮影、遺構配置図作成を進めた。遺構は、竪穴建物、土坑、ピット、溝跡、河川が確認された。竪穴建物・河川の精査を優先的に進めた。竪穴建物からは一括性の高い土器が大量に出土し、精査・記録を慎重に進めた。

河川は東調査区の中央部に位置し、南北方向に蛇行しながら横断する。延長は 80 m以上を測る。適宜、トレンチを設定し、河川の堆積状況を確認し、精査を進めた。８月末に東調査区の遺構精査・記録作業が完了し、調査区全景の空中写真撮影を行い、調査を完了した。東調査区には湧水地があり、水中ポンプを利用した排水作業並びに排水溝の設定を行いながらの調査となった。

西調査区については７月末から遺構検出を開始した。遺構検出と並行し、精査作業、記録作業を進めた。この際、まだ、調査を継続中であった東側調査区との遺構番号重複を避けるため、遺構番号を 1000 から付すこととした。なお、その判断をする前段階ですでに 300 番台の遺構番号を西側の調査区で使用しており、その番号を付した遺構については変更をしていない。

遺構は竪穴建物、掘立柱建物、礎石建物、井戸、土坑、ピット、溝跡、河川があり、東調査区に比べ、遺構の密度が高い様相である。特に西側から中央部にかけて遺構が密集しているため、西側の遺構から優先的に進め、その中でも竪穴建物、掘立柱建物を重点的に精査・記録作業を進めた。竪穴建物や掘立柱建物は他の遺構との重複が多く、切り合い関係の判断や記録作業には特に時間を費やした。調査も終盤にさしかかった 11 月３日に現地説明会を開催し、８日の空中写真撮影、11 日の発掘機材の撤収、調査区の片づけを以て調査を終了した。

元立北遺跡

「埋蔵文化財発掘調査の届出」の提出並びに「埋蔵文化財の発掘調査について」の通知の日付は、馳上遺跡（第８次）の内容と同じである。

現地調査は平成 28 年 4 月 25 日から 7 月 13 日までの日程で行った。調査区は事業範囲東端に相当し、調査面積は 1,000 ㎡である。

４月下旬から、重機を用いた表土除去を先行し行った。５月16日より作業員を雇用し本格的に調査を開始する。翌日より、調査区内の壁立てや遺構検出などの作業を行う。６月上旬に遺構検出が終了し、調査区全景の写真撮影を行い、遺構精査へと移行した。遺構は大型の竪穴建物、土坑、ピット、溝跡、河川が確認された。竪穴建物と河川を優先的に遺構精査、記録作業を進めた。特に竪穴建物からは一括性のある土器の出土や、家屋が焼失した様相が窺えたため、より慎重に精査・記録作業を行った。遺構精査と並行し、記録作業を進め、終盤に調査区全景と竪穴建物完掘状況の写真撮影を行い７月 13 日に調査を終了した。

馳上遺跡同様、調査区内には湧水地があり、水中ポンプを利用した排水作業並びに排水溝の設定を行いながらの調査となった。

C　グリッドの設定

調査区を設定するグリッドは、山形県域全体を囲むように、南西端を原点に、南北をＸ軸、南西をＹ軸として、40km四方の大グリッドを設定した。さらに大グリッド１つを南から北へ 00 ～ 99、西から東へ 00 ～ 99 と 400 m四方の中グリッド、さらに中グリッドを４m四方の小グリッドに分割した。そのため、グリッド番号を「大グリッド南北・東西、中グリッド南北・東西、小グリッド南北・東西」の順で、AB0000-0000 の 10 桁のアルファベットと数字で示すこととした。その基準をもとに、グリッド名を４m間隔で打設した基準杭に付していった。グリッドの帰属は南西隅を基準とし、国土座標は平面直角座標系第Ⅹ系：Ｘ＝－ 260000.000、Ｙ＝－ 120000.000 である。また、本報告書では大・中グリッドの表記を省略し、小グリッドのみの表記としている。

３　整理作業の方法と経過

報告書作成の整理作業は、馳上遺跡第７次調査が行われた平成 27 年から３ヶ年にわたり断続的に実施した。平成 27 年度は発掘調査が 11 月 20 日に終了し、その翌週 24 日から年度末まで整理作業を実施した。平成 28 年度は馳上遺跡第８次調査期間ではあるが、並行して整理作業を９月１日から年度末まで実施した。平成 29 年度は通年で整理作業を実施した。平成 28 年度以降の整理作業では、平成 27 年度に実施した馳上遺跡第７次調査分も含め一緒に作業を行った。また、馳上遺跡・元立北遺跡の２遺跡を同時進行で進めた。

平成 27 年度は、馳上遺跡第７次調査の出土遺物の基

礎整理及び記録類整理を行った。11 月 24 日より、写真撮影データの整理、トレンチ配置図の作成など記録類の整理作業を開始した。12 月からは出土遺物の洗浄・注記・接合・復元などといった基礎整理も順次並行しながら作業を進めた。注記は遺跡名をそれぞれ「ハセ上７次」・「ハセ上８次」・「元立北」とし、出土遺構・層位・取得座標名の順に記載した。出土年月日は省略した。

平成 28 年度は、元立北遺跡出土遺物の洗浄を９月１日から開始した。終わり次第、馳上遺跡第８次で出土した遺物の洗浄も進めた。11 月 11 日に馳上遺跡第８次現地調査を終了し、翌週から遺構図面や写真データなどの記録類の整理作業も並行して進めた。その際、馳上遺跡第７次調査分の遺物および記録類を再確認した。遺物洗浄後の乾燥を経て 12 月上旬から、元立北遺跡と馳上遺跡第８次の注記作業を行った。１月上旬より木製品の保存処理に備え実測作業を開始し、金属製品のクリーニング作業も並行し行った。３月中旬に注記作業を終了し、土器の接合作業を開始した。３月末段階で、遺構図面の校正作業、木製品の実測と土器の接合作業を並行し行った。

平成 29 年度は、平成 28 年度に引き続き、遺構図面の校正、木製品の実測と土器の接合等の整理作業から開始した。接合・復元が完了したものや完形の土器など実測可能な遺物から順次実測を開始しデジタルトレース作業も同時に進めた。遺構図面もデジタルトレースにて修正・編集を行った。５月上旬に木製品の実測が完了し、すぐに写真撮影及び現像を行った。木製品は高級アルコール法や真空凍結乾燥法・PEG 含侵などの保存処理、金属製品は付着土・錆の除去後、ＰＶＢ樹脂含浸による保存処理をそれぞれ委託業務で実施した。また、漆付着土器で漆に昆虫が封入された資料があり、その昆虫の同定を依頼し、「ガガンボダマシ」という昆虫であることが同定された。さらに漆部分についても土器から漆膜が剥離しかけており、その剥離面と土器の再接着及び今後漆が剥離してこないように表面を樹脂でコーティングする処理を委託業務で実施した。

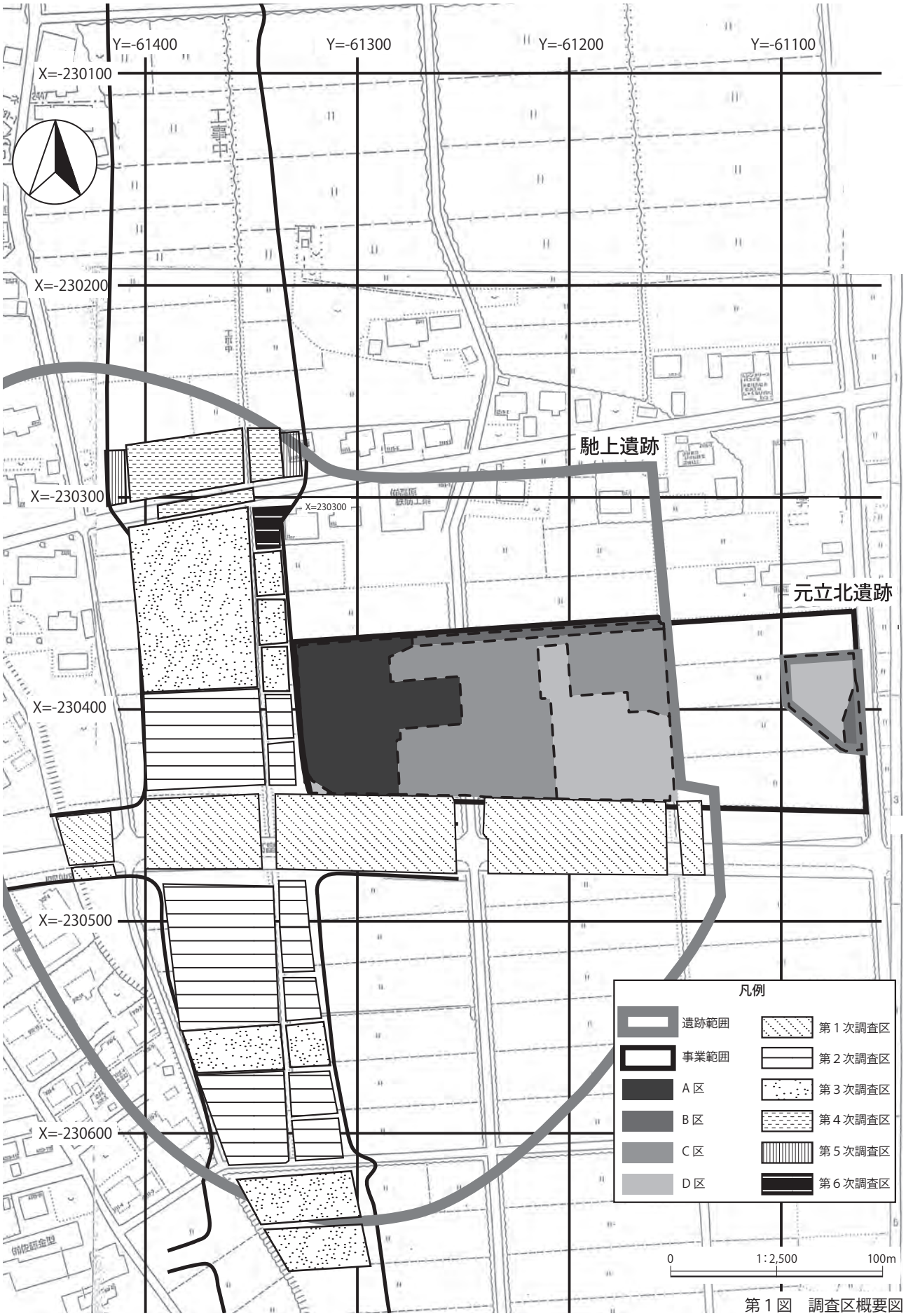
８月上旬、事業者である米沢市商工課より、調査区を施工工事毎に分けるよう要請があった。

そこで各施工工事ごとにＡ～Ｄの４区割とした。Ａ区が防災支援施設広場、Ｂ区が市道、Ｃ区がその他市エリア、Ｄ区が補助対象及び県単独エリアとした。この区割を本報告の調査区割とし、馳上遺跡はそのままＡ～Ｄの４区割となり、元立北遺跡では、補助対象及び県単独エリアをＤ区、市道をＢ区とした２区割となる。

10 月中旬に土器の接合・復元作業が完了し、その後、遺物の拓本作成や写真撮影を行った。なお、墨書土器は打ち欠き行為の痕跡を残すため、復元は最小限としている。

11 月中旬に遺物の実測作業が完了し、遺物実測図およびトレース図の確認・分類作業や、写真撮影データの加工、遺物観察表の作成を実施した。11 月中旬以降、遺構・遺物図版の版組作業、遺物の収納作業、本文の執筆を進めて１月中旬に印刷業者へ入稿し、数回の校正を経て３月 31 日に報告書を刊行した。

なお、業務委託による理化学分析は、放射性炭素年代測定、灰像分析、漆塗膜分析、樹種同定分析、金属遺物の分析を行った。詳細な分析結果は第Ⅴ章に掲載している。


Y=-61400
Y=-61300
Y=-61200
Y=-61100
X=-230100
X=-230200
X=-230300
X=-230400
X=-230500
X=-230600
X=230300
工事中
馳上遺跡
元立北遺跡
凡例
遺跡範囲
事業範囲
A 区
B 区
C 区
D 区
第 1 次調査区
第 2 次調査区
第 3 次調査区
第 4 次調査区
第 5 次調査区
第 6 次調査区
0
1：2,500
100m

第 1 図　調査区概要図

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1　地理的環境

馳上遺跡、元立北遺跡が所在する米沢市は山形県の東南端に位置し、豪士山・駒ヶ岳・栗子山といった奥羽山系の嶺々に東を限られ、磐梯朝日国立公園の一角をなす吾妻の山塊が南を画しており、東南に聳え立つ山々が福島県との境界ともなっている。米沢市はこれらの山々と、西部に広がる低平な玉庭丘陵に囲まれた典型的な盆地である。したがって、気候は寒暖の差が大きい盆地性内陸型であり、年間降水量はやや少ないが冬期には降雪量が多い。市街地でも積雪量が１ｍを超える豪雪地帯であるものの、日照時間は比較的長い。また、内陸盆地の中では平均風速が最も強い地域である。

山地が 70％に及ぶ置賜地方には、渓谷や河川が多いために植物の生育には好適で、緑豊かな自然環境が形成されている。気候との関係で冷温帯性植物が植生の多くを占め、広葉樹ではブナやミズナラが代表的である。その他、ユキツバキ等の常緑低木、ヒメサユリ等の草木類が生態系を形成している。また置賜地方は、数種の植物において分布の限界地域となっており、ヤマグルマやマメ科のオヤマノエンドウは日本の北限、ヒナザクラやイソツツジは日本海側の南限地域となっている。一方、鳥類ではフクロウやハヤブサといった猛禽類が、哺乳類ではコウモリが他地方より比較的多く生息している。

奥羽山系や吾妻山系に源を発する幾筋もの水流は、鬼面（おもの）川・松川（最上川）・羽黒川・天王川（梓川）などの河川となって氾濫原を形成しつつ北流している。これら諸河川は、やがて合流し最上川となって県内を貫き、県土を潤しながら日本海へと注ぐ。米沢盆地の南端から中央部にかけては、各々の河川により形成された緩やかな扇状地となっており、低地の占める割合が高くなっている。比較的平坦地が多いために農地が多く、森林の割合が少ないのが特徴である。また、扇状地であることから、排水状況が良好な地盤に恵まれている。

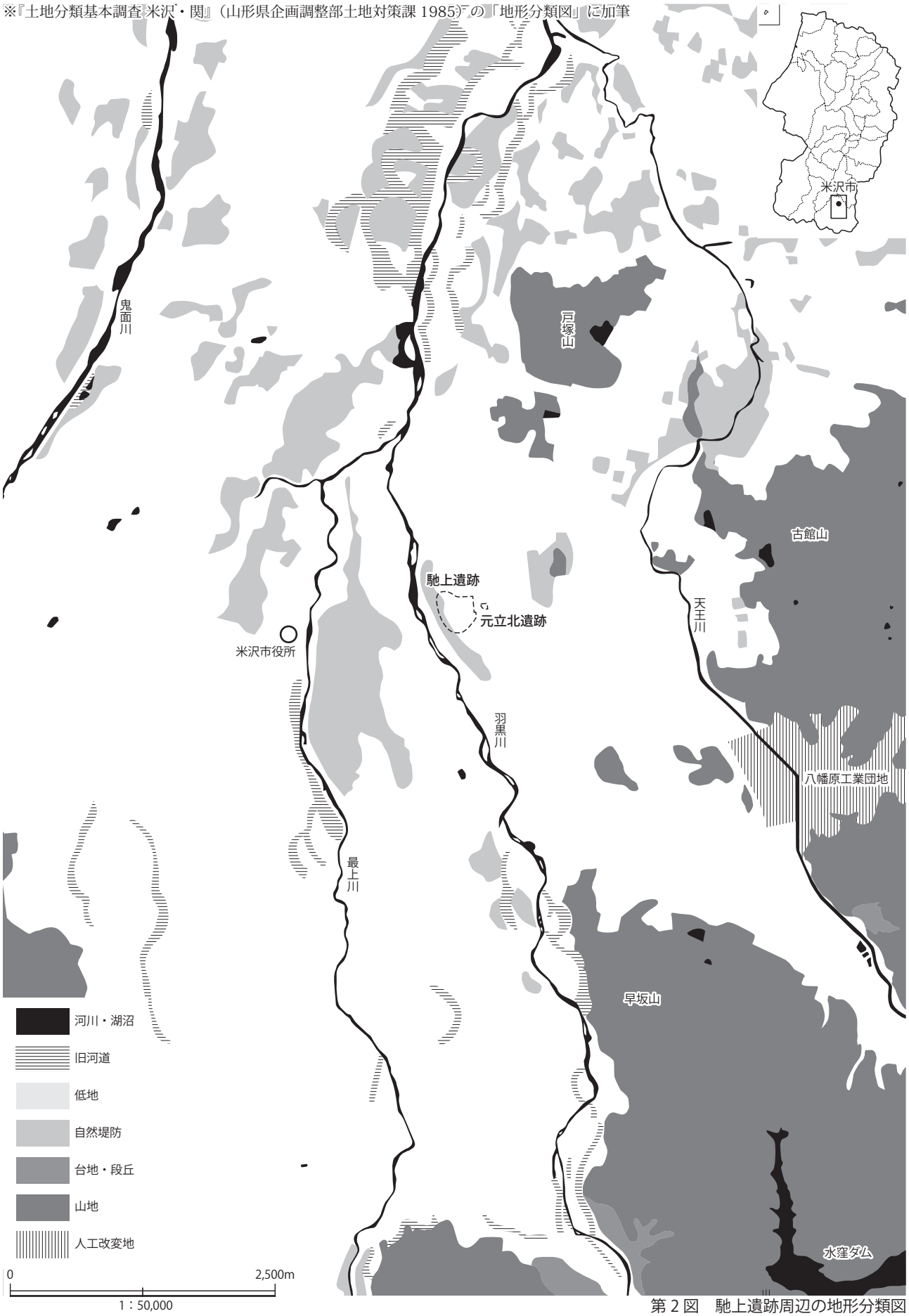
当遺跡が所在する川井地区の南東に当たる万世町（ばんせいちょう）周辺には、縄文時代の遺跡群や牛森古墳など数多くの遺跡が確認されている。周囲は八幡原（はちまんばら）や牛森原と呼ばれる原野であったが、江戸時代後期に藩政改革の一環として開拓が行われた。低地や緩傾斜の扇状地面のほとんどは農地化が進められ、自然堤防や傾斜の急な丘陵地においても、桑畑や畑地として土地利用がなされた。現在では八幡原中核工業団地への企業進出や、それに伴う宅地の造成などで都市化が進み、一部では切土や盛土による人工的な土地の改変が行われている。

当遺跡は米沢市役所より東へ約 1.5km、羽黒川右岸の自然堤防上に立地し、標高は 240 m前後を測る（第２図）。遺跡西側を北流する羽黒川は、北方約２km 先で最上川と合流する。遺跡周辺の地形は、羽黒川によって形成された緩やかな自然堤防の後背湿地に当たり、排水が良好とは言えない。土地利用状況は水田が主体であり、一部では畑地としても利用されている。表層の地質は第四紀に形成された未固結の洪積・扇状地堆積物であり、細粒で軟質の砂や泥からなる。耕作土は細粒強グライ土壌が大部分を占め、畑地として利用されている部分のみに中粗粒褐色低地土壌が分布している。グライ土壌は非固結堆積岩を母岩とし、地下水位が 50cm 前後と高い。土質は粘性で還元状態が強く、各種養分は多いが排水能力に乏しいため、生産力が高いとは言えない。

2　歴史的環境

米沢市では 670 箇所を超える遺跡の存在が知られている。なかでも前述した万世町地内は密集地帯となっており、縄文時代早期から中世まで各時代の遺跡が分布している。狩猟・採集を主としていた時代から、稲作を根幹とする生産基盤を持つ社会を通じて、当地域が一貫して利用され続けてきたことを示している。八幡原周辺の遺跡群は、昭和 50 年代の道路建設や大規模な工業団地の造成に伴い発掘調査された遺跡群である。広域に及ぶ調査によって、遺跡相互の立地関係や時期的変遷を窺えたことは評価できよう。以下、時代順に周辺遺跡の概略や歴史事象について記述するが、各遺跡名（アルファベット表記等）は県ホームページの山形県遺跡地図「市町村

※『土地分類基本調査 米沢・関』（山形県企画調整部土地対策課 1985）の「地形分類図」に加筆



第 2 図　馳上遺跡周辺の地形分類図

一覧表」の記載に準拠する。なお本文中の遺跡名に続く括弧内数字は、第 3 図・表 1 の遺跡番号に対応している。

周知遺跡の約半数は縄文時代に属するものであり、市南部及び西部の台地上を中心に分布している。代表的なものとして、前期初頭の石器工房跡と推定される国内最長の大型竪穴建物が検出され、その希少性から国指定史跡に登録された一ノ坂遺跡（米沢市矢来）と、土偶をはじめ中期中葉の遺物が大量に出土し、大規模かつ中核的な集落跡と判明した台ノ上遺跡（293）の 2 例が挙げられよう。万世町に所在する二タ俣 a(264)・柿の木(269)・水神前（270）・大清水（272）の各遺跡は、早期前半から後半までの 5 期の変遷が辿れる集落跡である。東北中央自動車道建設を原因として発掘調査が行なわれた遺跡では、早期末葉の竪穴建物や前期前葉の落とし穴などが検出された梓山 a 遺跡（319）、大木 7b 式の埋設土器などが出土した山ノ下遺跡（307）などがある。

弥生時代の遺跡は、杢代・笹原（71）・清水北 c・d（237・239）の 4 箇所と極めて少なく、縄文時代などとの複合遺跡として登録されるものに限られる。清水北 c 遺跡では、10 基の土坑から中期中葉の土器・管玉などが出土し、再葬墓ないし土坑墓と考えられている。なお第 1 号土坑出土の壺形土器に籾痕が認められるとの指摘があるが、レプリカ法による確認は行われていない。

古墳時代に入ると、丘陵や山麓に大小の古墳が築造されるようになる。万世町の比丘尼平遺跡（230）では、県内で初めて前期の方形周溝墓が 3 基検出された。近接する八幡堂遺跡（261）においても、方形周溝墓が 5 基確認されているが、ここでは南小泉式併行の土師器を伴い、大西遺跡（62）や北小屋屋敷遺跡（米沢市窪田町）とともに、前期の方形周溝墓が在地化して中期まで存続したものとする意見がある。北部の窪田地区には、東北地方最大級の前方後方墳である寶領塚古墳（14）をはじめ、中期に属する窪田古墳（22）・八幡塚古墳（26）などが点在している。西部丘陵に位置する成島 1 号墳（米沢市広幡町）は、墓坑に割竹形木棺を埋置した 4 世紀後葉の前方後円墳である。市街地北東部の独立丘に総数 201 基の古墳が営まれた戸塚山古墳群（77・97 ～ 105）は、大半が横穴式石室を埋葬施設とする終末期の円墳で構成されるが、山頂付近を中心に前方後円墳 1 基・帆立貝形古墳 2 基・方墳 4 基も含まれる。とくに中期後葉に位置づけられる帆立貝形古墳の 137 号墳は、埋葬施設の箱形石棺から竪櫛・鹿角装刀子とともに壮年の女性人骨が発見され、女性首長の存在が明らかとなった。集落遺跡としては、鬼面川右岸の後背湿地に営まれた鎌倉上遺跡（63）や、最上川の自然堤防から河間低地にかけて立地する南原遺跡（18）などが挙げられる。米沢市窪田地区の鎌倉上遺跡は、前期後半と中期後半の 2 時期があり、とくに中期後半の焼失竪穴建物から土師器を中心とした一括資料が出土している。高畠町糠野目地区の南原遺跡では、中期後半を中心とする竪穴建物 33 軒と、鍛冶炉ないし製錬炉の可能性がある燃焼施設 5 基が検出された。上新田 a 遺跡は奈良・平安時代の遺構が主体を占めるものの、一部の竪穴建物や河川跡から後期前半の土器がまとまって出土し、馳上遺跡（193）第 1 次調査成果の様相と似ている。

奈良・平安時代の遺跡は、平野部の主要な河川に沿って広範囲に分布する様相が窺える。置賜地方は『日本書紀』持統天皇 3 年（689 年）に「陸奥国優曇郡」との記述が史料的に初見である。その後の『続日本紀』によると、和銅 5 年（712 年）に越後国出羽郡を改めて出羽国が建国され、さらに陸奥国から最上郡・置賜郡が編入されて、現在の山形県域とおよそ同じ地域が出羽国としてまとまったことになる。一方、この 8 世紀前半の置賜盆地では終末期古墳の造墓・追葬が継続しており、凝灰岩割石と円礫で構築した T 字形石室を埋葬施設とする牛森古墳（278）には、青銅製銙帯金具などが副葬されていた。また先述した戸塚山古墳群などの終末期群集墳は、一つの地縁的な村落集団の共同墓地であり、その支群の中の 1 基の古墳は有力家族の墳墓である。その中には律令制の官位・官職を与えられる者もいたと考えられ、当該期の在地状況をよく示していると思われる。須恵器の在地生産も開始され、木和田窯跡（221）や大神窯跡（米沢市下小菅）からは 8 世紀代の登窯が検出されている。図幅外になるが平成 28 年度に山形県埋蔵文化財センター（以下センター）が調査を行った川西町の所在する壇山古窯跡群では、県内では数少ない地下式の須恵器窯が発見され、周辺の遺跡との関係性が注目される。また集落遺跡では、幅 6 mの道路状遺構と 10 個体もの円面硯の出土から官衙的性格が想定されている西町田下遺跡（140）や、「延暦廿三年」（804 年）の具

米沢市
高畠町
東北中央自動車道事業中区間
193
194
米沢市
※国土地理院発行
2万5千分の1地形
図「米沢」・「米沢北
部」・「米沢東部」・「糠
野目」を使用
0
1,000m
1：50,000

第3図　遺跡位置図

注暦漆紙文書や布目瓦が出土し、8 世紀後半から 9 世紀前半まで機能した置賜郡衙跡と推定される大浦 b 遺跡（146）、木簡や墨書土器・円面硯が出土している笹原遺跡（71）などが、当該期の代表例として挙げられる。そのほか、平成 12 年（2000 年）9 月に国史跡の指定を受けた古志田東遺跡（281）では、蛇行する河川跡沿いに配置された 7 棟の掘立柱建物や船着場・木橋が検出され、出土木簡などの検討から多くの労働力を集約した大規模な農業経営や船による交易、文書作成などを盛んに行っていた 9 世紀代の有力豪族居館として注目を集めた。

本書で報告する馳上遺跡（193）も、センターで行った計 6 次の調査で当時の様相が明らかになりつつある。馳上遺跡は古墳時代から中世・近世にかけて断続的に営まれた集落遺跡で、官衙またはそれに伴う公的な施設の可能性が想定されている。遺構は当該時期の竪穴住居・掘立柱建物跡が中心で、その集中域が徐々に北上していることが確認できている。いずれの遺構集中域も調査区内を東西南北に走る川跡に面して形成されており、この川跡を中心に多くの遺物が出土している。中でも、一般的な集落遺跡では見られない浄瓶・双耳坏、呪符木簡、円面硯・風字硯、石印などが見つかっている。

摂関政治が最盛期を迎える 11 世紀以降は、最上川・羽黒川より西が成島荘（米沢市）、東が屋代荘（高畠町）として摂関家藤原氏の荘園となっており、また米沢盆地北辺部（南陽市域）には北条荘が成立していて、米沢盆地西辺部と長井盆地のみが置賜郡の管轄下に残った。

中世に至ると、成島荘・屋代荘・北条荘・置賜郡は、すべて鎌倉幕府創設の功臣である大江広元の所領となった。広元の後は、その次男である時広が「長井庄」地頭として所領を受け継ぎ、暦仁元年（1238 年）、米沢に居城を構えたと伝えられる。大江氏は時広以後、長井氏を称して八代約 200 年におよぶ支配を続けたが、天授 6 年（1380 年）に伊達宗遠の侵攻によって滅ぼされ、置賜は伊達領となった。置賜支配の中心は高畠であったが、天文 17 年（1548 年）に 15 代晴宗が米沢に入部後、米沢を本拠地とした伊達の治世は輝宗・政宗と続き、天正 19 年（1591 年）豊臣秀吉によって政宗が岩出山（宮城県大崎市）へ移封となるまでの 210 年間にわたった。秀吉の奥州仕置において、米沢は会津に移封された蒲生氏郷の支配下に置かれ、農村は文禄 3 年（1594 年）検地によって年貢の村請制のもとに共同体として編成された。このとき画定した村名・村域が、現在の大字として存続している。

当該期の遺跡は城館跡が多数を占め、米沢市の中世城館跡は県内で最も多い 200 箇所以上とされる。とくに木和田館跡（214）は、12 世紀代に位置づけられる県内最古の館跡との見方も示されている。付近には、鎌倉期と考えられる堂森山館跡（245）や、出土した内耳土鍋から 15 世紀前後に位置づけられる我妻館跡（263）などの平城が営まれている。さらに南には、南北朝期の築城とされる早坂山館跡（303）や万世館山城跡（312）、東西 700 m×南北 850 mと置賜地方最大規模を誇り、戦国期に築城されたと考えられる鷺城跡（302）といった山城が旧街道沿いに分布する。当該地が交通の要衝であったとともに、地域支配の要であったことが推察されよう。

慶長 6 年（1601 年）関ヶ原の敗戦で上杉景勝は会津から減転封されて米沢城主となる。当初 30 万石であった石高は、寛永 15・16 年（1638・39 年）の総検地で実高約 51 万石を記録したとある。これは、直江兼続による積極的な新田開発が実を結んだもので、米沢藩政の基礎を確立するのに大きく貢献している。しかし 4 代綱憲の治世である寛文 4 年（1664 年）には、表高 15 万石に減封となる。それでも保科正之の助言から家臣の召し放ちは知行取で約 1 割、全体でも約 2 割にとどまって、領知高の割に多数の家臣団を擁し続けたため、藩財政や家臣の生活の窮乏化に拍車がかかった。恒常的な財政難に苦しむ米沢藩を再建したのは、明和 4 年（1767 年）に 9 代藩主となった上杉治憲（鷹山）で、普門院（375）は鷹山が師の細井平洲を出迎えた場所として知られる。

慶応 4 年／明治元年（1868 年）の戊辰戦争では、12 代斉憲が仙台藩主とともに奥羽越列藩同盟の盟主として新政府軍と対立したが、敗北を重ねた末に恭順・降伏し、戦後処分で嗣子の茂憲が家督を継いだ翌年（1869 年）、版籍奉還がなされた。明治 4 年（1871 年）の廃藩置県に伴い米沢県となり、置賜県を経て明治 9 年（1876 年）に山形県に編入された。明治 22 年（1889 年）に市制が施行されて現在に至っている。

表１　遺跡地名表

※“時代”の列の“旧・縄・弥・古・奈・平・中・近”は、それぞれ“旧石器・縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世”の略。
括弧内の“早・前・中・後・晩・終”は、“早期・前期・中期・後期・晩期・終末期”の略。遺跡名に【高畠町】と記した遺跡以外は全て米沢市。

番号	遺跡名	時代	種別
1	鍛冶作館跡	中	城館跡
2	馬場田館跡	中	城館跡
3	屋敷田館跡Ｂ	中	城館跡
4	東江股遺跡	縄(晩)	集落跡
5	台之南館跡	中	城館跡
6	四郎右ェ門檀館跡	中	城館跡
7	北ノ屋敷跡	中	城館跡
8	東江股堀の内館跡	中	城館跡
9	大壇廻館跡	中	城館跡
10	井戸尻館跡	中	城館跡
11	早稲田堀合館跡	中	城館跡
12	粡井屋敷跡		城館跡
13	矢野目前田館跡	中	城館跡
14	寳領塚古墳	古(前)	古墳
15	入生屋敷跡	中	城館跡
16	半在家館跡	中	城館跡
17	【高畠町】館屋敷跡	中	城館跡
18	【高畠町】南原遺跡	古・奈・平	集落跡
19	【高畠町】堂ノ下遺跡	奈・平	集落跡
20	中里屋敷跡	中	城館跡
21	中里遺跡	中	集落跡
22	窪田古墳	古(後)	古墳
23	外ノ内塚群	中	土壇
24	外ノ内遺跡	縄(中・後)	集落跡
25	窪田下前田館跡	中	城館跡
26	八幡塚古墳	古(中)	古墳
27	窪田荒館跡		城館跡
28	【高畠町】露藤下館跡	中	城館跡
29	【高畠町】露藤西屋敷遺跡	中・近	
30	【高畠町】五輪窪Ｂ遺跡	縄(後・晩)	散布地
31	【高畠町】露藤上館跡	中	城館跡
32	【高畠町】関口遺跡	平	散布地
33	【高畠町】二ッ橋Ａ遺跡	縄(中)	遺物包蔵地
34	【高畠町】二ッ橋Ｂ遺跡	平	散布地
35	【高畠町】新町遺跡	縄	散布地
36	【高畠町】新町窯跡	奈・平	窯跡
37	一漆館跡		城館跡
38	六郷元館跡		城館跡
39	一ノ坪館跡		城館跡
40	小山田下在家館跡	中	城館跡
41	腰巻館跡	中	城館跡
42	田中屋敷跡	中	城館跡
43	立屋敷跡	中	城館跡
44	窪田館跡	中	城館跡
45	窪田屋敷裏館跡	中	城館跡
46	窪田新館跡		城館跡
47	小舎屋敷跡	中	城館跡
48	川原屋敷跡	中	城館跡
49	御行屋敷跡	中	城館跡
50	【高畠町】五輪窪Ａ遺跡	縄(中)	散布地
51	下新田ｃ遺跡	奈・平	集落跡
52	下新田ｂ遺跡	縄・奈・平	集落跡
53	下新田ａ遺跡	平	集落跡
54	大南遺跡	縄・古・奈・平・中	集落跡
55	【高畠町】嘉膳屋敷跡	近	屋敷跡
56	【高畠町】中島館跡	中	城館跡
57	同心屋敷跡	中	城館跡
58	荒屋敷跡	中	城館跡
59	天神前中館跡	中	城館跡
60	渡北館跡	中	城館跡
61	杉之崎下館跡	中	城館跡

番号	遺跡名	時代	種別
62	大西遺跡	古・平・中	古墳・集落跡
63	鎌倉上遺跡	古(前・中)	集落跡
64	唐屋敷跡		城館跡
65	窪田元屋敷跡		城館跡
66	窪田館野館跡	中	城館跡
67	舟入田屋敷跡	中	城館跡
68	谷地在家館跡	中	城館跡
69	下ノ在家館跡	中	城館跡
70	川崎屋敷跡	中	城館跡
71	笹原遺跡	弥・奈・平	官衙・散布地
72	保呂羽堂遺跡	奈・平	集落跡
73	金ヶ崎ａ遺跡	奈・平	集落跡
74	三号目館跡	中	城館跡
75	小山塚跡	中	塚
76	置賜学園東遺跡	中	集落跡
77	山崎古墳群	古(後)	群集墳
78	下新田館跡	中	城館跡
79	【高畠町】斎藤遺跡	縄(中)	遺物包蔵地
80	【高畠町】海道下遺跡		散布地
81	【高畠町】上光田Ａ遺跡	縄(中)	遺物包蔵地
82	【高畠町】上光田Ｃ遺跡	奈・平	散布地
83	【高畠町】石ヶ森山遺跡	縄(中・後)	散布地
84	館田前館跡	中	城館跡
85	小菅舘ノ在家館跡ａ	中	城館跡
86	小菅舘ノ在家館跡ｂ	中	城館跡
87	塩野中屋敷跡	中	城館跡
88	中屋敷館跡		城館跡
89	街道西下遺跡	中・近	集落跡
90	外ノ内館跡		城館跡
91	中川原館跡	中	城館跡
92	上新田ｂ遺跡	奈・平・中	集落跡
93	中川原遺跡	奈・平	集落跡
94	戸塚山幼稚園ａ遺跡	縄(前)	集落跡
95	戸塚山幼稚園ｂ遺跡	縄(前)・奈・平・中	集落跡
96	飯塚館跡	中	城館跡
97	金ヶ崎古墳群	古(終)	群集墳
98	飯塚北古墳群	古(終)	群集墳
99	飯塚南古墳群	古(終)	群集墳
100	森合西古墳群	古(終)	群集墳
101	森合東古墳群	古(終)	群集墳
102	山頂古墳群	古(中・後)	群集墳
103	戸塚山北古墳	古(前)	古墳
104	上浅川堤入ａ古墳群	古(終)	群集墳
105	上浅川堤入ｂ古墳群	古(終)	群集墳
106	堤入西塚群	中	塚
107	戸塚山館跡	中	城館跡
108	堤入廃寺跡	中	寺院跡
109	堤入細石塚ａ遺跡	古(中)	砕石加工場
110	堤入細石塚ｂ遺跡	古(中)	砕石加工場
111	堤入東塚群	中	塚
112	萩の森塚群	中	塚
113	戸塚山石切場跡	古(終)	石切場
114	森合館跡	中	城館跡
115	上新田ｃ遺跡	奈・平・中	集落跡
116	森合遺跡	縄・奈	集落跡
117	上浅川ａ遺跡	縄(中・後)・古(中)・奈	集落跡・官衙・墓跡
118	上浅川ｂ遺跡	縄(中)・奈・平・中	集落跡
119	上浅川館跡	中	城館跡
120	萩の森遺跡	奈・平・中	集落跡
121	薬師山古墳群	古(終)	群集墳
122	森合土壇跡	中	土壇

番号	遺跡名	時代	種別
123	長手遺跡	平・中	集落跡
124	天神裏古墳	古(終)	古墳
125	天神裏塚群	中	塚
126	【高畠町】佐沢亀ヶ森遺跡	縄	散布地
127	【高畠町】佐沢館跡	中	城館跡
128	【高畠町】清水川遺跡	縄	散布地
129	塩野西上屋敷跡		城館跡
130	蔵之館跡		城館跡
131	馬館跡		城館跡
132	塩野古屋敷跡	中	城館跡
133	塩野新館前館跡	中	城館跡
134	塩野西中屋敷跡	中	城館跡
135	塩野館跡		城館跡
136	川辺館跡	中	城館跡
137	塩野上屋敷東館跡	中	城館跡
138	延徳寺遺跡	古(中)・中・近	集落跡
139	塩野坊中屋敷跡	中	城館跡
140	西町田下遺跡	奈・平	集落跡
141	上町遺跡	縄(晩)	集落跡
142	荒川２遺跡	縄・奈・平・中	城館跡・集落跡
143	荒川遺跡	縄・平	集落跡
144	徳町遺跡	縄	集落跡
145	春日町遺跡	縄	集落跡
146	大浦ｂ遺跡	奈・中	官衙・集落跡
147	大浦ａ遺跡	縄(中)・奈・平	官衙・集落跡
148	大浦ｃ遺跡	奈・平・中	集落跡・官衙・城館跡
149	大浦ｄ遺跡	中	集落跡・城館跡
150	大浦館跡	中	城館跡
151	大浦舘ノ内館跡		城館跡
152	八木橋ａ遺跡	縄・中	集落跡
153	八木橋ｂ遺跡	縄・中	集落跡
154	八木橋館跡		城館跡
155	上新田ａ遺跡	縄(前・中・後)・古(後)	集落跡・祭祀跡
156	西の屋敷跡	奈・平・中	集落跡
157	西谷地ａ遺跡	奈・平	集落跡
158	西光寺古墳群	古(終)	群集墳
159	熊野山館跡	中	城館跡
160	皇太神社古墳群	古(終)	群集墳
161	熊野橋遺跡	奈・平・中	集落跡
162	堰場遺跡	奈・平・中	集落跡
163	堂田古墳群	古	古墳
164	堂田遺跡	奈・中	集落跡
165	荒屋遺跡	奈・平・中	集落跡
166	中谷地ａ遺跡	平・中	集落跡
167	川井平館北遺跡	中・近	城館跡
168	川井平館南遺跡	中・近	城館跡
169	川井館跡	中	城館跡
170	上野遺跡	奈	集落跡
171	中の目遺跡	奈・平・中	集落跡
172	天満神社跡	中	経塚
173	長手館跡	中	城館跡
174	長手古墳群	古(終)	群集墳
175	長手居館跡	縄・中	集落跡・城館跡
176	中谷地北塚跡	中	塚
177	中谷地南塚群	中	塚
178	中谷地ｂ遺跡	奈・平・中	集落跡
179	古峰神社館跡	中	城館跡
180	古舘山１号墳	古	古墳
181	古舘山２号墳	古	古墳
182	古郷部館跡	中	城館跡
183	釜ヶ島館跡		城館跡
184	古郷部遺跡	縄	集落跡
185	谷ノ口館跡	中	城館跡
186	谷ノ口山城跡	中	城館跡

番号	遺跡名	時代	種別
187	花沢ａ遺跡	縄(前・中・後)・近	集落跡・墓跡
188	花沢ｂ遺跡	縄	集落跡
189	佐氏泉館跡		城館跡
190	台坂遺跡	中	集落跡
191	下花沢ａ遺跡	縄	集落跡
192	西谷地ｂ遺跡	古・奈・平・中	集落跡
193	**馳上遺跡**	**古・奈・平・中**	**集落跡**
194	**元立北遺跡**	**縄・古・奈・平**	**集落跡**
195	元立遺跡	奈・平	集落跡
196	羽黒神社館跡	中	城館跡
197	上谷地ｃ遺跡	奈・平・中	集落跡
198	東屋敷館跡		城館跡
199	東屋敷遺跡	奈・平・中	集落跡
200	野際遺跡	縄	集落跡
201	上谷地館跡	中	城館跡
202	上谷地ｂ遺跡	縄(前・中・後・晩)	集落跡
203	野際塚跡	中	塚
204	上谷地ｄ遺跡	縄(前・後)	集落跡
205	上谷地ａ遺跡	縄	集落跡
206	沼田土壇跡	中	土壇
207	玉ノ木ａ遺跡	奈・平	集落跡
208	竹井遺跡	縄(晩)・奈・平	集落跡
209	玉ノ木ｂ遺跡	奈・平	集落跡
210	竹井境ｂ遺跡	縄(前・中・後)・奈・平	集落跡
211	竹井境ａ遺跡	縄(前・中・後)・奈・平	集落跡
212	木和田塚跡ａ	中	塚
213	木和田塚群ｂ	中	塚
214	木和田館跡	中	城館跡
215	横山ａ遺跡	縄(早・前・中・後)・奈	集落跡
216	横山ｂ遺跡	奈・平	集落跡
217	横山ｃ遺跡	縄(晩)・奈・平	集落跡
218	木和田塚群ｃ	中	塚
219	木和田中屋敷館跡		城館跡
220	木和田古墳	古(終)	古墳
221	木和田窯跡	奈	窯跡
222	木和田月ノ原館跡		城館跡
223	木和田遺跡	縄	集落跡
224	馬ノ越道館跡	中	城館跡
225	上海上遺跡	奈・平	集落跡
226	城西一丁目遺跡	縄(前)	集落跡
227	米沢城跡	中・近	城館跡・集落跡
228	米沢城東二の丸跡	中・近	城館跡・集落跡
229	下花沢ｂ遺跡	縄	集落跡
230	比丘尼平遺跡	縄(前・中・晩)・古(前)	集落跡
231	堂森山塚ａ	中	塚
232	比丘尼平廃寺	中	寺院跡
233	金谷ｂ遺跡	縄	集落跡
234	金谷館跡	中	城館跡
235	八幡原ａ遺跡	縄(早・前・中)	集落跡
236	八幡原ｂ遺跡	縄(早・前・中)・近	集落跡・墓跡
237	清水北ｃ遺跡	縄(早・前・中・後・晩)・弥	集落跡・墓跡
238	八幡原ｃ遺跡	縄(前)	散布地
239	清水北ｄ遺跡	縄(前)・弥	集落跡
240	清水北ｂ遺跡	縄(早・中・後)	集落跡
241	慶治清水ａ遺跡	縄(早・前・後)	集落跡
242	山影遺跡	縄	集落跡
243	耳取ｂ遺跡	縄(早・前)・平	集落跡
244	堂森山塚ｂ	中	塚
245	堂森山館跡	中	城館跡
246	慶治清水ｂ遺跡	縄(早・中・後)	集落跡
247	焼山下遺跡	縄	集落跡
248	清水北ａ遺跡	縄	散布地
249	慶治清水ｃ遺跡	縄	散布地
250	耳取ａ遺跡	縄(前)	集落跡

番号	遺跡名	時代	種別
251	堂森東遺跡	縄	集落跡
252	中焼山下遺跡	古(終)	散布地
253	牛森山塚群	中	塚
254	竹井境ｃ遺跡	中	土壇
255	長壇遺跡	縄(後)	散布地
256	辻の堂ａ遺跡	近	散布地
257	辻の堂ｂ遺跡	近	散布地
258	牛森山古墳	古(終)	古墳
259	牛森山南下遺跡	平・中	集落跡
260	金谷ａ遺跡	縄	集落跡
261	八幡堂遺跡	縄(前・後・晩)・古(前)	集落跡・墓跡
262	前野遺跡	縄	散布地
263	我妻館跡	中・近	城館跡
264	二タ俣ａ遺跡	縄	集落跡
265	下原田遺跡	縄	集落跡
266	原田館跡	中	城館跡
267	東原塚		
268	二タ俣ｂ遺跡	縄(後)	集落跡
269	柿の木遺跡	縄	集落跡
270	水神前遺跡	縄(前)	集落跡
271	小谷地遺跡	縄	散布地
272	大清水遺跡	縄	集落跡
273	十文字西遺跡	中	集落跡
274	牛森遺跡	縄	集落跡
275	牛山遺跡	縄	集落跡
276	細原ｂ遺跡	縄	集落跡
277	細原前川原遺跡	中	散布地
278	牛森古墳	古(終)	古墳
279	井ノ鼻遺跡	縄・中	集落跡
280	原ノ上遺跡	縄	集落跡
281	古志田東遺跡	平	豪族屋敷
282	笹野町赤坂館跡	中	城館跡
283	八方屋道北館跡		城館跡
284	笹野町遺跡	縄	集落跡
285	古志田館跡	中	城館跡
286	一本橋ｃ遺跡	縄(中・後)	集落跡
287	一本橋ａ遺跡	縄(中・後)	集落跡
288	大塚山遺跡	縄(前・中)	集落跡
289	大檀Ａ遺跡	縄(前・中・後)	集落跡
290	大檀Ｂ遺跡	縄	散布地
291	大檀Ｃ遺跡	縄(前・中)	集落跡
292	太田遺跡	縄(中)	集落跡
293	台ノ上遺跡	縄(前・中)	集落跡
294	芳泉塚	中	塚
295	下原ｂ遺跡	縄	集落跡
296	通町遺跡	縄(中)	集落跡
297	東大通一丁目遺跡	縄・平	集落跡
298	第五中学校裏遺跡	縄	集落跡
299	早坂山ａ遺跡	縄・中	集落跡
300	早坂山ｄ遺跡	縄	集落跡
301	早坂山ｂ遺跡	縄・中	集落跡・城館跡
302	鷺城跡	中	城館跡
303	早坂山館跡	中	城館跡
304	早坂山ｃ遺跡	縄	集落跡
305	下屋敷遺跡	縄・平・中	集落跡
306	堤屋敷遺跡	縄・平・中・近	集落跡
307	山ノ下遺跡	縄	集落跡
308	普門寺遺跡	縄	集落跡
309	稲荷山館跡	中	城館跡
310	八幡原土壇群	縄(後)・中	集落跡・土壇
311	梓山館跡	中	城館跡
312	万世館山城跡	中	城館跡
313	松林寺館跡	中	城館跡
314	松林寺遺跡	縄(前)	集落跡

番号	遺跡名	時代	種別
315	松林寺ｃ遺跡	縄(前)	集落跡
316	町在家館跡	中	城館跡
317	町在家遺跡		散布地
318	上窪遺跡	縄(中・後)	集落跡
319	上小菅遺跡／梓山ａ遺跡	旧／縄	散布地／集落跡
320	法将寺遺跡	縄(早・前・中)	集落跡
321	梓山ｂ遺跡	縄	集落跡
322	梓山ｃ遺跡	縄(中)	集落跡
323	梓山ｄ遺跡	縄(前)	集落跡
324	笹野山館跡	中	城館跡
325	笹野チャシ跡	奈・平・中	城館跡
326	笹野観音堂西遺跡	縄	集落跡
327	最上在家館跡	中	城館跡
328	笹野館ノ内館跡Ｂ	中	城館跡
329	尾在家館跡	中	城館跡
330	館ノ内ｃ遺跡	縄・平	集落跡
331	笹野館ノ内館跡Ａ	中	城館跡
332	館ノ内ａ遺跡	縄(中・後)	集落跡
333	館ノ内ｂ遺跡	縄(前・中・後)	集落跡
334	廟葬館跡	中	城館跡
335	一本橋ｂ遺跡	縄(中・後)	集落跡
336	高山裏遺跡	縄	集落跡
337	長次郎屋敷跡	中	城館跡
338	長泉寺遺跡	縄	集落跡
339	南原中学校遺跡	縄	集落跡
340	猪苗代新屋敷跡	中	城館跡
341	先達在家館跡	中	城館跡
342	笹野屋敷田館跡	中	城館跡
343	夏屋敷跡	中	城館跡
344	十郎在家館跡		城館跡
345	大坊東館跡	中	城館跡
346	上道弓館跡	中	城館跡
347	東裏町遺跡	平	集落跡
348	横堀遺跡	縄・中	集落跡
349	石垣町遺跡	中	散布地
350	横堀廃寺跡	中	寺院跡
351	下原ａ遺跡	縄(前)	集落跡
352	松原遺跡	縄(前・中)	集落跡
353	小峡遺跡	縄	集落跡
354	三沢ａ遺跡	縄(前)	集落跡
355	丸山日景館跡	中	城館跡
356	中島遺跡	縄	集落跡
357	三沢ｂ遺跡	縄	集落跡
358	白旗遺跡	縄(早・前・中)	集落跡
359	山崎ｃ遺跡	縄	集落跡
360	山崎ａ遺跡	縄	集落跡
361	山崎ｂ遺跡	縄	集落跡
362	三沢前田下館跡	中	城館跡
363	三沢館跡	中	城館跡
364	三沢京塚	中	経塚
365	大海老ヶ沢ｂ遺跡	縄	集落跡
366	大海老ヶ沢ａ遺跡	縄(後)	集落跡
367	坊中ｃ遺跡	縄	集落跡
368	関根中屋敷(西館)跡	中	城館跡
369	普門院西遺跡	縄(中)	集落跡
370	坊中ｂ遺跡	縄・中	集落跡
371	坊中ａ遺跡	縄	集落跡
372	喜多(北)館跡	中	城館跡
373	普門院北遺跡	縄(中)	集落跡
374	坊中前館跡		城館跡
375	普門院館跡	中	城館跡
376	普門院遺跡	縄	集落跡
377	普門院東遺跡	縄(中・後・晩)	集落跡
378	前ガ沢遺跡	縄	集落跡

Ⅲ　馳上遺跡

1　遺跡の概要

A　概　　要

本遺跡は第Ⅰ章でも既述したように、前段階として、第1次から第6次までの調査が行われている。「馳上遺跡第2～4・6次発掘報告書」においてそれまでの調査結果を踏まえた検討がなされている。

そのため、本報告では第7・8次調査にて新規に得られた知見や主要な遺構と遺物について報告する。本書の体裁として下記のとおりとした。

遺構と遺物は節をわけず、遺構の句の中で報告することとした。なお、図版においては実測可能なものについて出来る限り掲載している。本稿の中で記述されていないものについては遺物観察表も含め、図版及び写真図版を参照されたい。

調査区（第1図）

本報告における調査区は、前回までの調査区と十字で重なり合う中心より北東方向にあたり、第1次調査区と第8次調査区の南辺が、第2・3次調査区と西辺を接する。

そのため、遺構や遺物についても前回までの調査とほぼ変わらない状況であると考えられた。

第7次調査（第4～22図）

調査は第Ⅰ章にある通り、遺跡の遺存状況の確認を目的としたトレンチ調査である。調査したトレンチは配置図と平面図を兼ねて柱状図とともに掲載した。なお、調査の中で出土した遺物は第8次調査並びに元立北遺跡の中で紹介している。

B　基本層序

基本層序は東西の調査区で各3ヶ所、計6ヶ所記録している（第37･38図）。いずれも北壁である。また、1ヶ所、地山を掘り込んだ形で層序を記録した基本層序⑦がある。

まず、西側の調査区であるが4層以下が地山面に相当する。1層が水田の現耕作土にあたる。2・3層は水田の床土とみられる。4層は地山面と理解した。なお、基本層序①を記録した場所はSG1661に掛かる箇所にあたり5層以下についてはその覆土となる。

表土掘削を行った段階で西側の調査区では圃場整備が原因とみられる撹乱が部分的に確認された。また、南側においては表土直下が、遺構検出面である場合が多くみられた。そのため、この調査区は近現代の圃場整備時に土地を削られ整備された場所だと考えられる。

続いて東側調査区の基本層序であるが、5層以下が地山面と考えられる。地山面は北西側以外、調査区全域でグライ化が進んでいた。1層はいずれも現耕作土にあたる。2層はSG72の覆土、3層は水田の床土、4層はそれ以前の耕作土である。

基本層序⑤における5～7層についてはSG1の覆土である。

基本層序⑦は地山を掘り込んだものになる。11層以外の層で炭化物が若干ながら検出されている。また、土色は灰色にグライ化している。この他に数箇所、地山面を掘り込み、層などを確認したが遺物の出土はなかった。

この東側調査区は北から南に傾斜している地形であった。地形的な観点からも標高の低い南側は一度氾濫が起こればなかなか水の引かない場所であったことが想起される。

2　A区の遺構と遺物

A　竪穴建物

竪穴建物ST1200（第39・40図）

西側調査区の西南に位置する竪穴建物である。平面形はほぼ方形で北辺が丸みを帯びており、EK2354が張り出す形となっている。南北4.5m、東西4.2mを測る。検出面からの深さは東西、南北とも15～20㎝である。

カマドは南西壁に設置されており、袖も確認されている。燃焼部からは潰れた状態で長胴甕である第165図8が出土している。それを囲むようにして、袖と同様の構築材が検出された。カマドの天井が崩落したものである可能性がある。主柱穴はEP2530・EP2356・EP2539・EP2533

と考えられる。また床面に炭化物の集中域が確認出来た。

遺物は第 165・166 図 1 ～ 13 が出土している。 1 は須恵器有台坏、2 ～ 4 は須恵器無台坏である。 2 は回転糸切りで、1・3・ 4 は回転ヘラ切りで切り離しが行われている。 5 は瓶類の破片、 6 は黒色土器の坏底部、 7・10・12・13 は土師器の甕底部、9 は土師器の甕体部にあたる。

これらの遺物から、この ST1200 の帰属年代は 9 世紀中葉といえる。

竪穴建物 ST1210（第 41 ～ 43 図）

西側調査区の中央南寄りに位置し、南東には SB1240 が位置する。平面形は隅丸方形を呈する。焼土は確認出来たがカマドであるという確信は得られなかった。主柱穴も明確なものは確認出来ず、建物の角に複数のピットが確認されるにとどまった。これらピットにそれぞれ柱を立て束にし柱とした可能性がある。床面は非常に硬く締められていた。貼床は確認できず、地山面をそのまま使用したものと考えられる。床面で検出した SK2627・SK1797・SK2797 は、土のしまり具合と出土した遺物から竪穴建物構築以前に埋め戻された土坑であったと考えられる。SK2627 からは第 183 図 244・245 が出土している。いずれも古墳時代の所産である。SK2555 は近世もしくは近代の土坑である。

遺物は第 166 ～ 168 図 14 ～ 28 が出土している。14・15 は須恵器無台坏、16 は須恵器甕の肩の破片である。17 はロクロ土師器蓋のツマミ、18 は黒色土器の体部から口縁、19 は黒色土器の底部、20 は長胴甕の口縁から体部の破片、21 は土師器甕の底部である。22・23 は石製品である。いずれも用途は判然としないが、22 は中央に凹(くぼ)みを有すことから、食材等を潰すのに使用したと考えられる。23 は片面に均等な幅で削った痕跡が無数にみられる、円形の石である。

24 ～ 28 は竪穴内の EP 等から出土した遺物である。24 は須恵器坏の口縁部、25・27 は土師器甕の破片で、25 は口縁部､27 は底部である。26 は器種不明の土師器、28 は土師器の壺である。

これらの遺物から ST1210 の帰属年代は 9 世紀代としたい。

竪穴建物 ST1441・ST2591（第 44 ～ 46 図）

西側調査区西端で確認され、西に SG1661 が位置する。平面形の歪(いびつ)さとカマドが二基設置されていることから、二棟の竪穴建物が重複するものと考え調査した遺構である。

検出面から底面までの深さは、南北断面 a-a’ で 10 ～ 25 ㎝、b-b' で 5 ㎝～ 20 ㎝、c-c' で数㎝～ 20 ㎝であった。ピットや土坑が関係するところは 20 ㎝程度の深さを有するが、それ以外の場所は 5 ㎝程度の深さのみであったことから、明確な切り合いを判断しがたかった。それゆえ破線での切り合い表示とした。

この位置で線を引いた理由として平面形及び、土層断面の観察による若干の土色変化による。しかし、検出した柱と考えられるピットの位置から検討すると一つの遺構であった可能性が高い。そこで、拡張された竪穴建物の可能性を提示しておく。ST1441 は壁際内部に周溝 SD2754 を巡らす建物で、今回の調査で建物に伴う周溝が検出されたのはこの一棟のみであった。ST2591 のカマドである EL2678 周辺からは、多くの長胴甕の破片が確認された。カマドで鍋として使用された土器の破片と考えられる。カマド廃棄あるいは家の廃棄に伴い、破壊したものと考えられる。

ST1441 の出土遺物は第 168・169 図 29 ～ 37 である。29 は須恵器無台坏、30 は長胴甕の口縁部から体部。31 は甕の底部から体部、32 は長胴甕であり、ST2591 出土遺物と接合している。33 は須恵器甕、34 は土師器甕の底部でカマド EL2863 から出土している。35 は須恵器有台坏、36 は須恵器蓋で EP2787 から出土している。37 は須恵器瓶もしくは壺類の体部下半である。ここで注目されるのは 35 の須恵器有台坏で、これから記載する、ST1554 出土遺物と遺構間で接合している。

なお、この遺構から出土した長胴甕は、いずれも被熱により外面の劣化が著しい。また、本遺構からは鉄滓が出土しており、金属の組成分析から鍛冶鉄の鉄滓である可能性が指摘されている（第Ⅴ章 10 節）。

ST2591 から出土した遺物は第 169 ～ 171 図 38 ～ 48 にあたる。38 は土師器の鉢。39 ～ 47 までは土師器甕のいずれかの部位にあたる。40 は小型の甕、41 ～ 47 は調理用の長胴甕である。47 は EL2678 からの出土している。48 は須恵器無台坏の底部である。こちらも EL2678 から出土している。

これらから ST1441 の帰属年代は､9 世紀中葉から後半、ST2591 は 9 世紀後半とみられる。このことも踏まえ、二

棟あると考えたST1441・2591は拡張した竪穴建物の可能性が高いといえる。

竪穴建物 ST1554（第47～49図）

西側調査区の中央付近に位置する遺構である。平面形は方形である。カマドEL2753が住居南西壁に設けられている。この竪穴からは多くの土坑を検出している。また焼土範囲が、広く点在している状況であった。これらは今回検出した、他の竪穴建物とは違う点である。主柱穴も判然としない。

出土した遺物は第171・172図49～66にあたる。49～52は黒色土器である。49・50・52は黒色土器の無台坏、51は有台坏にあたる。53は12世紀ごろのかわらけである。この1点は竪穴建物を検出した際に上面から出土したものである。54～56はロクロ土師器の坏の破片である。57・58はロクロ土師器の甕で、57は体部下端や底部付近をタタキにより成形し、上端をケズリによって整形している。59以降は竪穴内の遺構から出土した遺物である。59・60・62はEK2595から出土した黒色土器の坏の破片である。63は同遺構から出土した須恵器坏の体部から口縁部にあたる。61・64・65はEK2838から出土した土師器甕の破片である。66はEP1552から出土した土師器甕の体部から底部の破片である。これらの遺物を出土した遺構はカマド周辺に設けられた食器類を貯蔵していた施設と考えられる。

これらの遺物からST1554の帰属年代は9世紀後半と考えられる。

竪穴建物 ST2361（第50～52図）

西側調査区中央北側に位置する竪穴建物である。平面形は方形である。明確なカマドを検出できなかったが、北西側に強く被熱した焼土範囲を確認出来たことから、ここをカマド跡と考えた。主柱穴はEP2681・2724・2742と考えられ、南東の主柱穴は確認出来なかった。この竪穴からも多くの土坑が検出された。しかし、用途が明確なものはない。

遺物は第172～174図67～89である。その他の竪穴と比べ掲載点数は多い。67はロクロ土師器の坏で体部から口縁部、68は黒色土器の無台坏、70はロクロ土師器の鉢と思われる器種で、内面にミガキを施す。69と71はEK2665からの出土である。69は黒色土器の無台坏で、底部外面全面をケズリで整形している。71は土師器の甕である。体部下部をケズリで調整し、上部をカキメで整形している。72から79まではEK2667から出土している。72は黒色土器の無台坏で、73・74はロクロ土師器の坏である。73は有台坏の底部、74は坏の体部から口縁部の破片である。75は黒色土器の鉢であり、整形の方法は71と同様である。76は両面に黒色処理を行った耳皿である。77は土師器甕の体部から口縁部の破片。78は須恵器甕の体部破片、79は黒色土器の有台坏にあたる。80・81はEK2672からの出土である。80はロクロ土師器の甕、81は甕の底部破片である。82・83はEK2783からの出土で82はロクロ土師器の無台坏、83は黒色土器の坏である。83は69同様に底部外面をケズリで整形している。84から87はEL2782から出土した遺物である。84はロクロ土師器の無台坏、85～87はロクロ土師器の甕である、85は体部から口縁部、86は体部の破片である。86は下部をケズリで整形し、上部をカキメで整形している。87は体部の破片で下部をタタキで整形している。88・89はEP2860から出土した遺物である。88は甕のロクロ土師器の底部、89は黒色土器の坏にあたる。これらからST2361の帰属年代は9世紀後半と考えられる。

竪穴建物 ST2554（第53・54図）

西側調査区南西壁に接する形で検出された竪穴建物である。遺構の大半が調査区外に係り、全容は把握できない。カマドEL2569は南東隅に設置されていた。

遺物は第174・175図90～96が出土している。90・91は須恵器で90が底部切り離しが回転ヘラ切りの無台坏、91は底部切り離しが回転ヘラ切りの有台坏である。92～96は土師器の甕類の破片にあたる。これらの遺物には酸化鉄が土器外面に付着しており、全体を覆っている場合があった。埋没後の環境によるものと思われる。帰属年代は9世紀後半と考えられる。

B　掘立柱建物

掘立柱建物 SB300（第55図）

西側調査区南東に位置し、南壁に接する形で検出された側柱の掘立柱建物である。建物の半分以上は南側の調査区外に係り、全容を把握することは出来ない。

東西南北のどちらの列が梁か桁か不明であるため、東西を梁行と仮定して記載する。梁行3間で桁行は不明である。次に柱間寸法である。梁行は北西から1.5m・1.4

m・1.6 mで桁行は 1.5 mである。なお、柱間寸法については左上端を基点として計測値を記載する。すなわち、SB300 では梁行は EB302 から EB305 に向かって、桁行 EB302 から EB301 に向かっての記載となる。主軸方向はほぼ真北を向く。掘り方は円形であり長軸径 70 ㎝を測る。

柱痕は直径 40 ㎝程になる。深さは 10 ㎝～ 20 ㎝である。

遺物は EB302 から須恵器壺の破片 97・98 が出土している。他に出土遺物がないため正確な帰属年代は不明といわざるを得ないが、古代の範囲内と考えられる。

掘立柱建物 SB1240（第 56 ～ 58 図）

西側調査区南東側、竪穴建物 ST1210 の南東に位置する梁行 3 間、桁行 4 間の北側に庇が付く側柱の掘立柱建物である。梁行の柱間は EB1242 を起点とし EB1253 まで、1.75 m・2.1 m・1.75 mである。桁行は EB1242 から EB1246 までで 1.9 m・1.75 m・1.75m・1.75 mである。柱穴の深さは 15 ～ 25 ㎝程度である。

今回の調査で確認された、庇が付く掘立柱建物は、この一棟のみである。遺物は EB2544 から出土した 99 の土師器甕の底部と、図示していない土器片である。古代の遺物より新しいものは混入していないため、帰属時期としては古代の範囲内かと考えられるが、時期不明としておきたい。

掘立柱建物 SB1882（第 59・60 図）

側柱の掘立柱建物である SB1882 は西側調査区南西、竪穴建物 ST1200 の南西で検出された。梁行 2 間、桁行 3 間の建物である。柱間は梁行が EB1743 から EB1754 までで 1.8 m・2 mである。梁行は EB1743 から EB1075 まで 1.8 m・1.7 m・1.5 mである。各柱間にズレがあり、さらに左右対称の柱配置ではない。柱穴の深さは 20 ～ 40 ㎝程度である。

図示した遺物は EB1075 から出土した 100 の土師器甕の底部のみである。他の遺物は小破片であり、図化は行っていない。そのため、遺物からの年代推定は難しく、この遺構の帰属年代は不明である。

掘立柱建物 SB1883（第 61・62 図）

西側調査区北西 SG1661 に隣接するように建設された総柱の掘立柱建物である。梁行、桁行とも 2 間の建物で、4 隅の柱穴は長いところで一辺 70 ㎝から 1 mと大きい。その他の柱穴の掘り方は一辺 50 ㎝程度である。掘り方の平面形は崩れているものもあるがほぼ方形を呈する。柱痕の大きさは径 20 ㎝程度であるから、掘り方との差は 2.5 倍以上となる。

柱間は梁行 EB1432 から EB1438 で 1.4 m・1.7 mであり、東側の間尺が長い。桁行は EB1432 から EB1434 で 1.7 m・1.5m であるが、これは西側の列のみでその他は 1.5 mで統一されている。柱穴の深さは 10 ～ 30 ㎝程度である。SG1661 付近にはこの SB1883、SB2518、少し離れるが SB2547 などの総柱建物が存在する。SB2547 は柱の規模が小さいので検討を要するが本遺構と SB2518 に関しては SG1661 を使用した舟運に関係する物資の倉庫であった可能性がある。

遺構の帰属年代は、出土した小破片の土器の年代と、柱穴の掘り方の大きさに対して柱痕の規模が 3 分の 1 程度であること、また、柱穴の平面形が方形であることから、古代の範囲内であると考えられる。

掘立柱建物 SB2341（第 63・64 図）

西側調査区東側中央付近に位置し、SG2887 を北東に臨む。梁行 3 間、桁行 3 間の側柱建物である。平面形は方形のものもあれば楕円形のものもあり、規則性は見いだせない。楕円形のものが比較的多い。柱穴は大きいもので長軸径が 1 m、小さいもので 50 ㎝程度であり、柱穴の大きさなどに規則性は見いだせない。柱間は梁行が EB2342 から EB2351 まで 1.2m・1.2m・1.1m である。桁行は EB2342 から EB2345 までで、各 1.5m である。今回検出した側柱建物の中では最大のものである。柱穴の深さは 20 ～ 40 ㎝程度である。EB2345 で柱穴底部から石が検出されているが、他の柱穴からは検出されていない。礎石として考えるよりは、柱の高さを揃える等の意図で配置されたものと考えられる。

遺物は第 175 図 101 ～ 105 が出土している。101 ～ 103 は EB2342 から出土した須恵器である。101・102 は須恵器坏の体部から口縁部、103 は甕の口縁部である。104 は EB2349 から出土した土師器と思われる土器だが、内外面とも著しく磨滅しており、情報量が非常に少ないため、観察表では種別についても不明としている。105 は EB2352 から出土したロクロ土師器の甕の体部破片である。内面をカキメで調整している。

これら遺物から帰属年代は 9 世紀後半と考えられる。

掘立柱建物 SB2518（第 65 ～ 67 図）

西側調査区西側、SB1883 の南東に位置する、梁行 2

間、桁行３間の総柱建物である。掘立柱建物 SB2520 に切られる。北辺は性格不明遺構 SX2605 によって、２基の柱穴が壊されていた。また、同質の土で埋め戻されたためか検出時には、はっきりとした切り合いを確認出来なかった。そのため、SX2605 として掘っていく中で断面上で切り合いを確認した。柱穴の平面形は不定形のものや他の遺構との切り合いにより、不明なものが多数ある。だが、単独に存在しているものから、方形ないしは隅丸方形であったと推測される。柱穴の大きさは長いところで一辺 70 ㎝～１m である。柱間は梁行が EB2507 から EB1426 で各 1.7m、桁行が EB1830 から EB1823 で各 1.5m である。深さは 20 ～ 40 ㎝である。底面形状が複雑な様相を呈するため、重複した遺構が存在した可能性がある。断面上では明確な切り合いは確認出来なかった。

遺物は第 175 図 106 ～ 115 が出土している。EB1419 からは 106 の土師器甕の体部破片、EB1426 からは 107 の土師器甕の底部破片、108 の土師器坏と思われる破片、109 の土師器甕の口縁部の破片が出土している。110 は EB1822 から出土した玉髄製の石鏃。111 は EB1822 から出土した土師器甕の口縁部、112 は EB1823 から出土した土師器の肩から頸部の破片である。器種は甕か壺のようではあるが不明である。113 は土師器甕の口縁部。114 は EB1823 から出土した甕の体部、115 は EB2592 から出土した甕の体部である。110 の石鏃は流れ込みと考えられる。114・115 などの須恵器の出土から、遺構の帰属時期は古代の範疇と考えられるが、後述する SB2520 に切られていることから９世紀中葉に廃絶した可能性がある。

掘立柱建物 SB2520（第 68・69 図）

西側調査区西側の ST1441 の東側に位置する側柱建物である。SB2518 と SB2522 を切る。梁行３間、桁行３間の側柱建物である。柱穴の平面形は方形である。柱穴の大きさは長軸 80 ㎝～１.2 m程度である。柱間は梁行が EB2501 から EB1510 まで 2m・1.5m・1.7m である。桁行は EB1844 から EB2501 までで、2m・2m・2.3m である。柱穴の深さは 15 ～ 60 ㎝程度である。四隅の柱穴の規模がその他の柱穴と比較して大きく深いことが特徴といえ、その点は SB1883 と同様である。EB2515 は柱痕部のみが残ったものと思われる。

遺物は第 175 図 116 ～ 122 が出土している。116 は EB1510 から出土した須恵器無台坏で、同様に EB2501・1871 からも須恵器無台坏が出土している。EB2501 からはロクロ土師器の無台坏である 121 が出土している。EB1859 からは須恵器蓋が出土し、EB2525 からは須恵器の瓶類と思われる破片と土師器の壺と思われる破片が出土している。これらの遺物から帰属年代は９世紀後半と考えられる。なお、この SB2520 を切る SP2513 からは、第 184 図 271・272 の金属製品が出土している。また SP2513 に切られる SK1428 からも第 181 図 201 の金属製品が出土している。272 は刀子であり、271 はその部品と考えられる。201 は判然としないが、刀子の部品である可能性が高いと思われる。SK1428 は他の出土遺物の破片から９世紀中葉に埋没したと思われる。SP2513 は SB2520 の帰属時期から９世紀後半以降の遺物と考えられる。

掘立柱建物 SB2522（第 70・71 図）

西側調査区の西側、ST1441 の真東に位置する。梁行２間、桁行３間の側柱建物である。SB2520 に切られる。柱穴の平面形は円形であり、直径は 40 ～ 50 ㎝である。柱間は梁行 EB1870 から EB1877 で、1.5m・1.7m である。桁行は EB1870 から EB2502 で 1.7m・1.3m・1.5 m である。深さは 10 ～ 40 ㎝である。概ね、20 ㎝程度のものが多い。

遺物は第 176 図 123・124 が出土している。いずれも EB1870 からの出土であり、123 は須恵器の瓶類、124 は須恵器甕の体部破片である。

帰属年代は古代の範囲内と考えられる。切り合いから SB2520 以前、つまり９世紀後半以前に廃絶していたと考えられる。また、切り合ってはいないが、建物配置上 SB2523 とは共存しない（第 35 図）。

掘立柱建物 SB2523（第 72・73 図）

西側調査区の西側 SB2522 と重なるように位置する。梁行３間、桁行３間の側柱建物である。柱穴の平面形は長円形や不定形である。長軸は 60 ㎝～１m である。柱間は梁行 EB2548 から EB1462 で、1.6m・1.4m・1.7m、桁行 EB2548 から EB1371 で、2m・1.6m・1.8m である。柱穴の深さは 10 ～ 20 ㎝である。

遺物は第 176 図 125 ～ 127 が出土している。いずれも土師器の甕と考えられる破片で 125 は EB1374 から、

126 は EB1448 から出土している。127 は EB2517 から出土している。これら破片は古墳時代の所産である。流れ込みの可能性もあるが、他の建物と比べ東に軸線が傾く点や SB2522 との重なりを考慮すると、古墳時代の建物の可能性がある。いずれにせよ、SB2523 は SB2522 以前の建物であることがいえる。

掘立柱建物 SB2527（第 74・75 図）

西側調査区西端 ST2591 の南に位置する梁行 2 間、桁行 2 間の側柱建物である。柱穴の平面形は円形である。長軸は 60 ㎝で柱穴の深さは 20 ～ 30 ㎝である。柱間は梁行 EB1235 から EB1377 で各 2.2m、桁行は EB1235 から EB1268 で各 2m である。

遺物は第 176 図 128・129 が出土している。128 は EB1219 から出土した須恵器無台坏である。129 は EB1377 から出土した土師器甕の頸部である。出土遺物は少ないが、古代の範疇と考えられる。

掘立柱建物 SB2536（第 76・77 図）

西側調査区の西側に位置し、SB2520 に切られ、ST1441 を切る。梁行 2 間、桁行 2 間の総柱建物である。柱穴の平面形は円形や不定形である。長軸径は 40 ～ 80 ㎝である。だが、ほとんどの柱穴は径 40 ㎝程度の規模である。深さは 10 ～ 20 ㎝で浅い。柱間は梁行 EB1421 から EB1835 で各 1.9m。梁行は EB1421 から EB2504 で 1.8m・2m である。

遺物の出土はなく、帰属年代は不明とせざるを得ない。但し、SB2520 から切られており、且つ ST1441 を切っていることから 9 世紀中葉前後に短期間のみ存在した簡易的な小屋とみられる。このことは柱穴の小ささからも指摘出来よう。

掘立柱建物 SB2547（第 78・79 図）

西側調査区の西側、SB2523 の東側に位置する梁行 2 間、桁行 2 間の総柱建物である。柱穴の平面形は円形、もしくは方形をなす。柱穴の大きさは 50 ～ 60 ㎝であり、南東隅の EB2546 のみ 40 ㎝程度の大きさで、不定形である。柱間は EB1443 から EB1477 で 2.2m・1.9m、EB1443 から EB2544 で 2m・2.4 mである。柱穴の深さは 20 ～ 30 ㎝を測る。

遺物は第 176 図 130 ～ 132 が出土している。130 は EB2546 からの出土で、須恵器無台坏の体部から口縁部である。131 は EB2544 からの出土で、同じく須恵器無台坏の底部である。EB2516 から出土した 132 は土師器の装飾器台で両面共に赤彩されており、円形と思われる透かしが入る。古墳時代前期の所産である。流れ込みと思われる。遺物点数は少ないが 131・132 の様な須恵器坏の出土から古代の範囲内に収まると考えられる。

掘立柱建物 SB2793（第 80・81 図）

西側調査区の西側、SB1883 から東に位置し、北に SA2923 を臨む。梁行、桁行ともに 2 間の側柱建物である。建物中央に SK1649 が存在しており、中央に柱穴があった場合、この土坑に壊された可能性がある。平面形は円形か楕円形である。柱間は EB2682 から EB2684 まで 1.4m・1.7m である。EB2682 から EB1654 は 1.8m・1.7m である。柱穴の深さは 5 ～ 15 ㎝である。

遺物は第 176 図 133 の須恵器の長頸瓶の頸部破片が EB2691 から出土している。帰属年代は古代の範囲内と考えられる。なお、すぐ北に SA2923 が存在しており、当遺構との関連が考えられるところであるが軸線がそろっておらず、柱穴の平面形の大きさにも相違がみられたため、別遺構としている。

C　柵　　列

柵列 SA2893（第 82・83 図）

西側調査区北側中央、ST2361 を切る形で検出された遺構である。整理作業の段階で確認した。8 基の柱穴により構成されている。柱間は SP1669 から始め、各 2m である。

年代が判別できる出土遺物がなかったため、帰属年代は不明である。しかし、ST2361 を切っていることから 9 世紀後半以降の構築であると考えられる。

柵列 SA2894（第 82・83 図）

西側調査区北側中央、SB2760 の西側に位置する。 7 基の柱穴で構成される。柱間は SP2080 から各 2m で SP2071 と SP2263 の間が 4.4m 程開く。

上記 SA2893 と同様、年代を判別できる出土遺物はない。ただ、SA2893 と平行して構築されており、両者には関係性があったと考えられる。塀などの構築物であった場合、この SA2893 と SA2894 の間の空間は道であったと考えられる。さらに柱の間隔が開く、SP2071 と SP2263 の間は入口であった可能性を指摘できる。そう

した場合、SB2760 との関連が考えられ、帰属年代もおのずと SB2760 と同時期と考えられる。だが根拠に乏しいため、帰属年代としては SA2893 と同様で 9 世紀後半以降の構築と考えたい。

柵列 SA2895（第 82・83 図）

西側調査区北側中央、SA2893 と並ぶ様に検出された柵列である。3 基で構成される。柱間は SP1950 から 4.2m・2.2m である。

上記の SA 同様、年代を判別出来る遺物の出土がない。そのため、帰属年代は不明である。

柵列 SA2896（第 82・83 図）

西側調査区北側中央、SA2894 の西側で検出された柵列である。柱穴 4 基で構成される。柱間は SP2708 から 2.2m・2.2m・2m である。

こちらも年代を判別できる出土遺物がないため、帰属年代は不明であるが、SA2895 と平行して構築されているため、同時期の遺構と考えられる。SA2893・2894 と比べ軸線が東に傾く。新旧は不明ながら、SA2893・2894 と SA2895・SA2896 の間では、建て替えが行われていたと思われる。

柵列 SA2923（第 84 図）

西側調査区北側中央から若干東に位置し、SB2793 の北に位置する柵列である。柱穴の平面形は方形で柱間は SP1695 から 1.7m・1.6m を測る。SB2793 と関連が考えられ、この列も SB2793 を構成する柱穴と考えたが、前述した通り別遺構と解釈した。年代を判別できる遺物がなく時期は判然としない。

D　井　　戸

井戸 SE1660（第 84・85 図）

西側調査区北側 SG1661 の南東に位置する。長軸 3.8m、短軸 3.4 mを測る。深さは 80 ㎝である。覆土は斑状であったり、質の違う土がブロックとして混じることから人為的に埋められたと考えられる。

遺物は第 176・177 図 134 ～ 148 が出土している。135 や 136 のような古墳時代前期に属する遺物も見受けられるが、ほとんどが須恵器や黒色土器である。いずれの種類も供膳具である坏類が多い。143 の黒色土器は底部回転ヘラ切りの後、何らかの調整を行ったのか、筋状の傷が何条か付けられている。遺物から埋没年代は 9 世紀後半と考える。

井戸 SE1671（第 85 図）

西側調査区中央北側 SA2893 のすぐ西に位置する。長軸 3.3m、短軸 3m の円形で、深さは 45 ㎝程である。

規模と、湧水の具合から井戸と判断した。こちらも斑状の覆土、さらにはこぶし大の石が覆土に含まれていることから、人為的に埋め戻されたと判断した。

遺物は第 177・178 図 149 ～ 169 が出土している。149 は須恵器蓋で、壺類用のものと考えられる。短頸壺等に使用したものと考えられる。一部自然釉がかかり、胎土は緻密である。154 は外面を赤彩した小型の壺の口縁部破片と考えられる。古墳時代に属する。160 は両面黒色処理を施した坏である。164 は古墳時代前期にあたる器台である。169 は長頸瓶等の頸部である。その他、調理具である土師器の甕類や、貯蔵具である須恵器の壺・甕類の出土もみられる。遺物は埋め土に伴って廃棄されたものと思われる。遺物の年代から 9 世紀後葉には埋め戻されたと考えられる。

井戸 SE1706（第 85 図）

西側調査区南西に位置し、SB1882 の範囲内に存在する。SK1705 に切られる。直径 1 m程の円形で、深さは湧水によりすべてを把握できなかったものの、計測出来たところまでで 1.2m を測る。掘削深度 1m 程で多量の湧水が起こり、地山面が砂地であったことも影響し、崩落の危険が高まったため、掘り下げはここまでの深さで留めた。1・2 層は土が斑状、及び帯状に堆積していることから埋め土と考えられる。3 層は混ざりも少ないことから自然堆積の可能性が高い、4 層は使用時もしくは井戸掘削時の崩落土と考えられる。3 層が自然堆積土と考えられるため、使用されない時期があり、その後、埋められたと考えられる。

遺物は第 179 図 170 ～ 172 が出土している。170 は土師器甕の底部で網代痕を有す。171 は須恵器甕の体部で、172 はロクロ土師器の坏の体部である。これらの遺物から古代の範囲内と考えられる。この井戸跡とそれに重なる SB1882 との関係であるが、いずれも出土遺物が少なく時期の判別が出来ないことから、新旧関係を明確にすることが出来ない。並行関係であったならば、SE1706 に架る屋根であった可能性を提示出来る。

その場合、SB1882 の南東に井戸を配置し、その他の

空間を作業場として使用していたと考えられる。

井戸 SE1940（第 86 図）

西側調査区東側、0278G に位置する直径 2.4m の円形の井戸である。規模及び、地下からの湧水により判断した。深さは 80 ㎝を測る。1・2 層は斑状の堆積ではないものの、大きめの石など自然堆積では混入しない物があるため人為的に埋め戻されたといえる。4 層は使用中に堆積した可能性がある覆土である。

遺物は第 179 図 173 ～ 178 が出土している。いずれも破片であり、古代の範疇に収まる物である。ロクロ土師器・須恵器・黒色土器の坏類（173・175・176）や須恵器甕の底部、体部に横位の沈線を巡らせたロクロ土師器甕の体部などが出土している。これらの遺物から埋没年代は 9 世紀後半と考えられる。

井戸 SE2081（第 86 図）

西側調査区、SB1240 の北側、9878G に位置する長軸 3.3m、短軸 3m のほぼ円形の井戸跡である。深さは 1.6m を越える。しかし、SE1706 同様、湧水によって地山を構築する砂層が削られ崩壊の危険があったため、この深度で留めた。1 ～ 14 層までは廃棄の際の埋め土である。15 層は井戸構築時の埋め土と考えた。上部が開き、下部が窄（すぼ）まる形状から、使用時には井戸枠が設けてあった可能性がある。廃棄の段階で 11 層まで掘り下げ井戸枠を外し、その後、埋め戻したと考えられる。

遺物は第 179・180 図 179 ～ 195 が出土している。179 は弥生土器の甕と考えられる破片で、口縁部下半に縦方向の押圧縄文が 3 ヶ所と、両端にその痕跡であろう凹みが 2 ヶ所確認される。流れ込みと理解される。183 は土師器の小型壺である。底部外面は木葉痕の上から指で中央より底部外側に向けて筋状に施文する菊花状の痕跡が認められる。また、須恵器の坏類や黒色土器の坏類も確認されるが、甕や壺といった大型の貯蔵具の破片が目立つ。185 は静止糸切りで底部切り離しを行っている須恵器無台坏であり、遺跡内で一点のみの出土である。191 は口縁部の下に櫛描波状文を施した甕の口縁である。193 は底部下端から体部にかけてケズリで整形した甕の破片である。こういった遺物から、埋没年代は 9 世紀後半であるといえる。

E　土　坑

土坑 SK1658（第 94 図）

西側調査区北側 SB2793 の東に位置する長方形の遺構である。長軸 2.4m、短軸 2.1m を測る。深さは 20 ㎝を測る。用途は判然としない。出土した遺物は第 181 図 203 ～ 210 である。203・204 は金属製品で 203 は両端に貫通孔がある。飾り金具の可能性がある。204 は釘か刀子の一部と考えられる。206 は古墳時代の高坏である。流れ込みと考えられる。その他 208・209 の須恵器の坏と 210 の長頸瓶の破片が出土している。

土坑 SK1659（第 94 図）

西側調査区北側、ST2361 に切られる形で検出された遺構である。直径 2.8m の円形で深さは 30 ㎝を測る。検出当初は井戸と考えていたが、精査したところ浅く、湧水も確認出来なかったことから土坑とした。ゴミ捨て穴かと考えたが遺物の出土は少なく、用途は不明とせざるを得ない。

図示した遺物は第 181 図 211・212 である。211 は石器の剥片、212 は黒色土器の無台坏である。遺物からすると 9 世紀代の埋没と考えられる。加えて ST2361 が 9 世紀後半代の帰属年代であるから、少なくとも 9 世紀後半以前に埋没していたと考えられる。

土坑 SK1812（第 95 図）

西側調査区北側中央、SE1671 の北側に位置する長方形の遺構である。長軸 1.5m、短軸 70 ㎝、深さ 15 ㎝程の遺構である。多量の焼土が確認された。鍛冶遺構の可能性がある。遺物の出土がないため、帰属年代は不明である。

土坑 SK1919（第 95 図）

西側調査区中央付近、0275G に位置する不整形の土坑である。深さは約 25 ㎝である。遺物は第 181・182 図 214 ～ 222 が出土している。214 や 215 の黒色土器を始め、216・217 のロクロ土師器の坏や 218 の須恵器の短頸壺、221・222 の土師器の甕などが出土している。いずれも壊れた上での廃棄であるので、土坑の用途としてはゴミ捨て穴と考えられる。

土坑 SK2060（第 99 図）

西側調査区西側、SB2547 から南東に位置する不整形の遺構である。SP2062 と切り合うが新旧は不明である。

遺物は第 182 図 228 ～ 232 が出土している。228・229 は須恵器の無台坏、230 は双耳坏の耳（把手）、

231 は土師器甕の底部破片である。232 は黒色土器の有台坏で底部外面に「大」と思われる墨書がある。

遺構の用途は不明で、遺物から埋没年代は 9 世紀と考えられる。

F　溝　　跡

溝跡 SD2009・2085（第 128 図）

西側調査区、中央付近 9976G に位置する溝跡である。平面形は逆コの字である、深さは 10 ㎝程度である。構築時は両溝跡とも繋がっていた可能性があるため併記した。SD2009 は 4.5m 程の長さで幅は約 30 ㎝である。SD2085 は南北 6m、東西 1.8m で幅は 30 ～ 60 ㎝である。

図示できる遺物はなく、年代を判断できる遺物もないため、帰属年代は不明である。平面の形状から竪穴建物の周溝であった可能性がある。

溝跡 SD1983・2022・2028・2664（第 129 図）

西側調査区の西側、SB2547 の南東に位置する。平面形及び遺構の配置から、同じ構造物として存在したと考えられたため併記した。SD1983 は長さ 1.2m、幅 20 ㎝を測る。SD2022 は 1.8m、幅は 20 ㎝を測る。SD2028 は長さ 1.1m、幅 20 ㎝を測る。SD2664 は長さ 3.2m を測り、幅は 20 ～ 30 ㎝である。深さは 10 ～ 15 ㎝である。

４本の溝にはピットが複数切り合う状態で検出されている。4 本の溝はコの字状に配置しており、竪穴建物の周溝の可能性がある。また、それに切り合うピットや、内部の SK2167・SK2609・2668、SX2790 はそういった建物の構造物であったとも考えられる。図示できる遺物はなく、時代を判別できる遺物もないため、時期は不明である。

G　河　　川

河川 SG1661（第 130 図）

西側調査区の北西隅で検出された南北 28.5m、東西 25m の河川である。幅は東及び北側の対岸が検出されていないため、不明である。深さは 40 ～ 50 ㎝を測る。岸に近い部分での深さである。

遺物は第 185・186 図 288 ～ 302 である。288 は砥石と考えられる石製品で、筋状の使用痕が見受けられる。厚さから使用限度に達したための廃棄と考えられる。289・290 は土師器坏であり、古墳時代の所産である。291 は有孔鉢で、同様の遺物が C 区で検出された竪穴建物 ST250 から出土している。古墳時代中期のものと考えられる。口縁部は粘土を折り返して作り出されており、段を有するような器形となっている。292 ～ 294・296 は古墳時代の遺物で 294 は丸底坩である。その他は甕である。295・297 は黒色土器で 295 は無台坏、297 は有台坏である。高台部分は薄く、削り出したのちに整形したとみられる。298 ～ 302 は須恵器である。298・300 は須恵器無台坏で、299・301・302 は甕である。古墳時代と 9 世紀中葉頃の二時期の遺物が目立つ。古墳時代の流路は確認されていないため、古墳時代の遺物は流れ込みと思われる。

9 世紀中葉以降の遺物は出土していないため、この河川は 9 世紀中葉まで開口していたといえる。また、9 世紀中葉頃にはほとんど埋没している状態であったことが、ST2591 との切り合いから考えられる。

H　その他の出土遺物

土坑 SK2167 出土遺物（第 183 図）

西側調査区、9674G に位置する。240 ～ 242 が出土している。240 はミニチュア土器、もしくは器台と考えられる土器である。241 はロクロ土師器の蓋のツマミ、242 は内外面ともに黒色処理を施してある坏である。

当遺跡では両黒の土器が一定量出土している。注目されるところである。

ピット SP1167 出土遺物（第 184 図）

西側調査区、9475G に位置する。258・259 が出土している 258 は高坏の坏部の破片である。内面はミガキで整形している。外面は下部に一条の撚糸文を横位に巡らせ、その上下で施文を変えている。上端は横ナデ、下端は縄文を転がしているとみられる。縄の撚りは明確ではない。弥生時代に属するとみられる。259 は土師器の甕の底部である。詳しい年代は不明ながら古墳時代に属すると考えられる。

ピット SP2206 出土遺物（第 184 図）

西側調査区、0381G に位置する。273 ～ 276 が出土している。いずれも古墳時代に属する遺物である。273 は小型の埦である。非常に薄手であり、口縁部は内湾する。274 は高坏の坏部である。内外面をミガキで調整し、

外面口縁部を横ナデで整形している。275 は器種不明の土師器である。体部と頸部に明確なくびれをもち、頸部が外反しながら伸びる形状と、体部下端、底部に向けて丸みを帯びて向っていく形状から小型丸底鉢とみられるが定かではない。276 は土師器甕である。体部、内外面はともにハケメで整形している。整形方向は横、もしくは斜めである。その後、頸部の整形を行っている。頸部は外面が縦方向のハケメ調整で、内面は頸部にそって横方向のハケメ調整を行っている。

これら遺物は一括で出土しており、当期の組成を考えるうえで重要な資料といえる。

3　B 区の遺構と遺物

A　竪穴建物

竪穴建物 ST2435（第 132・133 図）

西側調査区東側、北壁に接する形で検出された遺構である。平面形は南北に長い長方形で、遺構全体の３分の２程を検出した。北側は調査区外である。長軸は 4.2m で、短軸は 3.3m である。明確な主柱穴を確認することは出来なかった。建物南西と北西に大型の土坑が検出されたが、用途については不明である。

遺物は第 188 図 320 ～ 326 が出土している。いずれも古墳時代前期に該当する土器である。320 ～ 322 は恐らく同一個体だと考えられる。320 は口縁部の破片で、口縁端部に先の鋭角な工具を使用し、刻み目を施している。体部は目が細かく、凹凸がはっきりした道具を使用し、ハケメ調整を行っている。内面も同様にハケメでの調整であるが、外面より目の粗い道具を使用している。321・322 も同様の調整が施されている。323・324 は甕の体部から口縁部の破片である。器厚は非常に薄く作り上げている。325・326 は甕の底部である。326 は台の様な底部を作り出している。

以上の遺物から、ST2435 は古墳時代前期に帰属する建物と考えられる。

4　C 区の遺構と遺物

A　竪穴建物

竪穴建物 ST250（第 136 ～ 139 図）

東側調査区、中央からやや西よりに位置する。平面形は方形であり、長軸 4.6m、短軸 4.5m である。カマド EL251 は北東壁に付属していた。主柱穴は土層断面からは、はっきりとしないが、配置上では EK331・334、EP373 と考えられる。また EP335 も位置的に柱穴であった可能性が高い。この遺構で注目されるのは EK351 において、一括性の高い土器群が出土したことである。

EK351 の構築について記す。断面図 x- x’において 1・2 層が袖の構築土である。EK351 の覆土は 1・2 層の下にあるため、袖構築以前に埋められていたといえる。遺物は 1・2 層と同じ高さ、もしくはより標高の高いところで出土した。つまり、土坑を底面まで掘り、土を入れ替え、その後、カマド及び袖を構築した後、EK351 上面に土器を置いていたと考えられる。土器検出の段階では土圧により EK351 に押し込まれる形になっていたと考えられる。そのため、本来の出土位置は ST250 の床面となるが、出土状況と EK351 上に意図して土器を置いたという観点から、出土地点は EK351 としている。

EK351 は地盤改良を行った土坑といえるが、地盤改良の意図は判然としない。

その他に土器が出土した場所として EP325 が存在する。このピットでは土師器坏が重なって出土した。収納用の穴であったと考えられる。

出土した遺物は第 188 ～ 193 図 327 ～ 369 である。327 ～ 329 は覆土もしくは床面からの出土である。330 ～ 335 までは EL251 からの出土、336 ～ 360 は EK351 からの出土である。361 ～ 367 は EP325、368 は EL251、EP324 からの出土、369 は EP312 からの出土である。EL251 から出土した遺物は 330・331 が器高があり、いずれも口縁部が外反する坏である。その他は煮炊き具である甕類が出土している。EK351 からは坏類が多く検出されている。337 ～ 340 は坏身が浅く、口縁端部が上を向くものである。341 ～ 347 は頸部で屈曲し口縁部が外反するもので、内面の屈曲部に明瞭な稜を有すものである。347 は、その他のものと少し器形が違い、坏身に丸みがなく直線的に立ち上がる印象をもつ。348 ～ 350 は小型の鉢である。351 は単孔式の甑で頸部に貫通孔をもつ。貫通孔は対称に配置されている。352 は有孔鉢、354 は丸底坩の体部である。355 は壺の底部破片であり、353 は多孔式の甑である。

底部は破損しており、孔の痕跡は３ヶ所のみ確認出来た。356 ～ 359 は甕、360 は壺である。356 ～ 359 は煮炊きに使用したものと判断する。これら遺物は EK351 上に重ねられた状態で置かれており、その都度、使用するものを取り出したものと推察される。361 ～ 367 は坏でいずれも EK351 で出土した坏類と同様の形である。362 のみ口縁部が内湾するが、それ以外は外反もしくは直線的に立ち上がるものである。こちらのピットの出土状況は、前述したようにそれぞれの坏が重なった形で出土した。重ねた形で保管していたことが明確にわかる資料群である。368 は甕。369 は甕の底部から体部の破片である。これらの遺物から竪穴建物の年代は古墳時代中期と考えられる。なお、EK351 及び EP325 出土の遺物は、当期の土器組成も含めた上で重要な遺物である。

竪穴建物 ST362（第 140・141 図）

東側調査区の西側、南壁に接する位置で検出した。竪穴建物の北東隅のみが検出された、全容は不明である。

EP369 に柱根が残っており、放射性炭素年代測定を行った結果、700 年から 800 年の値を示した。8 世紀～ 9 世紀であり、古代の範疇にあたる。また、SP361 及び 365 でも同様に柱根の年代測定を行っており、いずれも同様の年代を示している。SP361 と EP369 は並びが良く、同年代の柱を使用していたと考えることが出来るため柵列の可能性があり、その場合 EP369 は竪穴建物を切ることになる。そういったことも踏まえると、ST362 は可能性も含めて、8 世紀以前のものか 9 世紀ごろのものと推定される。

B　掘立柱建物

掘立柱建物 SB1080（第 142・143 図）

西側調査区、南東に位置する 2 間× 2 間の総柱建物である。SD2708 を切る。柱穴の平面形は、円形もしくは楕円形である。柱間は EB1081 から EB1083 が 2m・1.8m である。EB1081 から EB1087 の柱間は 1.8m・2.1 mである。深さは 4 隅の柱穴が 30 ㎝程、それぞれの中間に位置する柱穴が 10 ～ 20 ㎝程度である。遺物の出土はない。切り合いのある、SD2708 から青磁が出土している。そのことから、これら溝の上に建てられた SB1080 は、中世以降の建物と考えられる。

C　礎石建物

礎石建物 SB2760（第 144・145 図）

西側調査区、北東側に位置し SA2894 の東側に位置する梁行 2 間、桁行 6 間の側柱建物である。梁行は EB2780 から EB2266 で 2.3m・2.4 m で、桁行は EB2266 から E2272 で 1.3m・2.1m・2.2m・2.1m・2.3m・2.2m である。この建物には母屋の外側にも礎石が配置されている。庇か下屋の可能性がある。

遺物は EB2301 から器種不明の須恵器 370 が出土している。また、EB2302 からは須恵器の無台坏 371 が出土している。

1 次調査でも同様の礎石建物が検出されており、中世に帰属するものとみられている。礎石の大きさから柱自体も細いものと考えられる。1 次調査の結果と柱の大きさから、今回検出した建物も中世に属すると判断する。

D　土　　坑

土坑 SK1103（第 146 図）

西側調査区の南東、SB1080 の西に位置する不定形の土坑である。長軸 1.4m、短軸 80 ㎝を測る。

遺物は第 194・195 図 372 ～ 381 が出土している。372 は壺の口縁部であり、装飾的要素を持つものである。373 は土師器坏である。374 は外面を赤彩した甕の底部である。375 ～ 377 は甕の破片で内面に明瞭の輪積み痕を有す。胎土の質や色から同一個体と考えられる。378 は甕で 379 ～ 381 は坏である。

これら遺物から、遺構の帰属年代は古墳時代中期と考えられる。こちらも一括性の高い資料である。すぐ北西に位置する SK1104 からも、同時期の遺物が出土している。ならびに、SG2887 からは同期の器台がまとまって出土している。この付近で当該期、何らかの活動が行われていたと考えられる。

土坑 SK2438（第 147 図）

西側調査区の東端、調査区東壁付近で検出された土坑である。調査区を一部拡張し、全体を検出した。長軸 80 ㎝、短軸 75 ㎝を測る。深さは 20 ㎝を測る。土層は 1 層が埋め土と考えられる。この 1 層には現代の重機の痕跡があった。圃場整備を行った形跡と考えられる。2 層以下はグライ化が著しい状態であった。水の影響を受

ける場所であったと考えられる。

遺物は第 196 図 383 ～ 391 が出土している。388 ～ 390 は黒色土器の坏で、388 は体部下端に明瞭な段をもつ。底部は丸底で体部下端でくびれ、口縁に向かうにつれ丸みを帯びながら立ち上がる。389 も丸底で 388 程ではないが、体部下端に稜を作り出している。390 は頸部と体部で明確な調整の違いがみられる。391 は長胴の甕である底部を台の様に作り出し、体部下端で丸みを帯びながら立ち上がる。その後は直立的に肩まで立ち上がり、肩付近で丸みを帯びつつ窄まっていく。

これら遺物の年代は 7 世紀中ごろと考えられ、山形県内でも出土例の少ない時期の遺物である。さらに、391 に付着していた炭質物を年代測定に掛けたところ、645 年から 711 年の測定結果を得た。測定に出した試料の炭素量が少なく、アルカリ処理の際、濃度を薄くした状態での結果である（第Ⅴ章 3 節）。

試料の炭質物は 391 を使用し、煮炊きをした結果ついたものと考えられる。つまり、土器の製作年代は測定結果より若干古いものと考えられる。いずれにせよ、7 世紀中ごろと考えられる遺物が、土坑から一括で出土したのは重要なことである。

E　河　　川

河川 SG2887（第 155・156 図）

西側調査区南東で検出された河川である。南壁を越え、調査区外に延びる。検出した長さは南北 47m である。深さは 30 ㎝程である。河川であったが、後に湿地化したと考えられる。遺物は第 197 図 408 ～ 419 である。408 は壺で頸部の割れた箇所に刻み目が付けられている。粘土の繋ぎ目から破損したとみられ、この刻みは粘土どうしの接合を助けるために付けたと考えられる。409・410 は甕の破片である。411 ～ 417 は高坏で 415 は脚部が八の字に開くものであるが、それ以外は棒状で中が空洞のものである。脚部は八の字状に開く。417 は脚部に段を持つものである。418 は須恵器の有台坏、419 は無台坏である。

これら遺物は古墳時代と古代の二時期に分けられる。この状況は SG1661 と同様である。埋没時期も同様の 9 世紀中葉には埋没していた可能性がある。

5　D 区の遺構と遺物

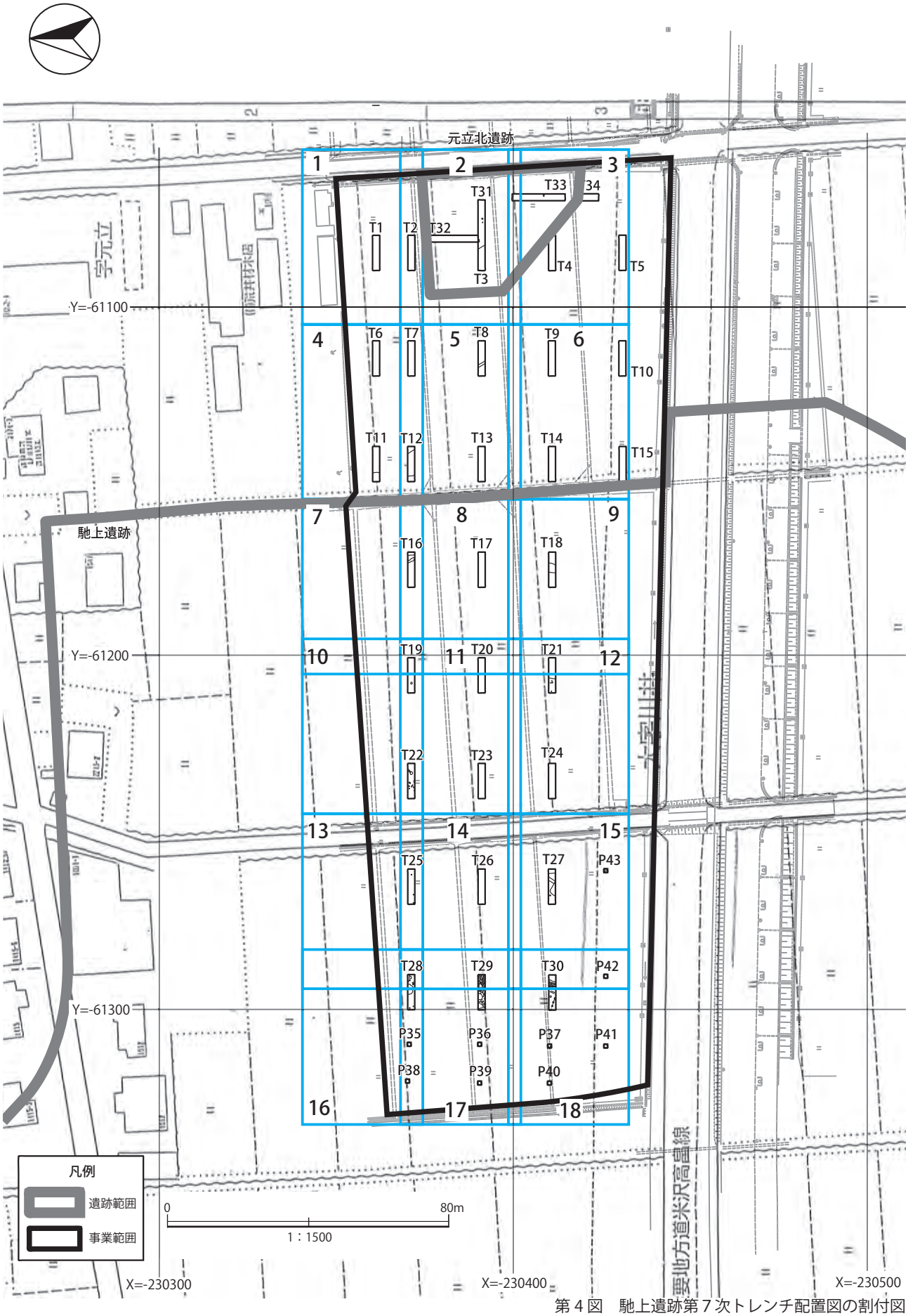
A　河　　川

河川 SG1（第 163・164 図）

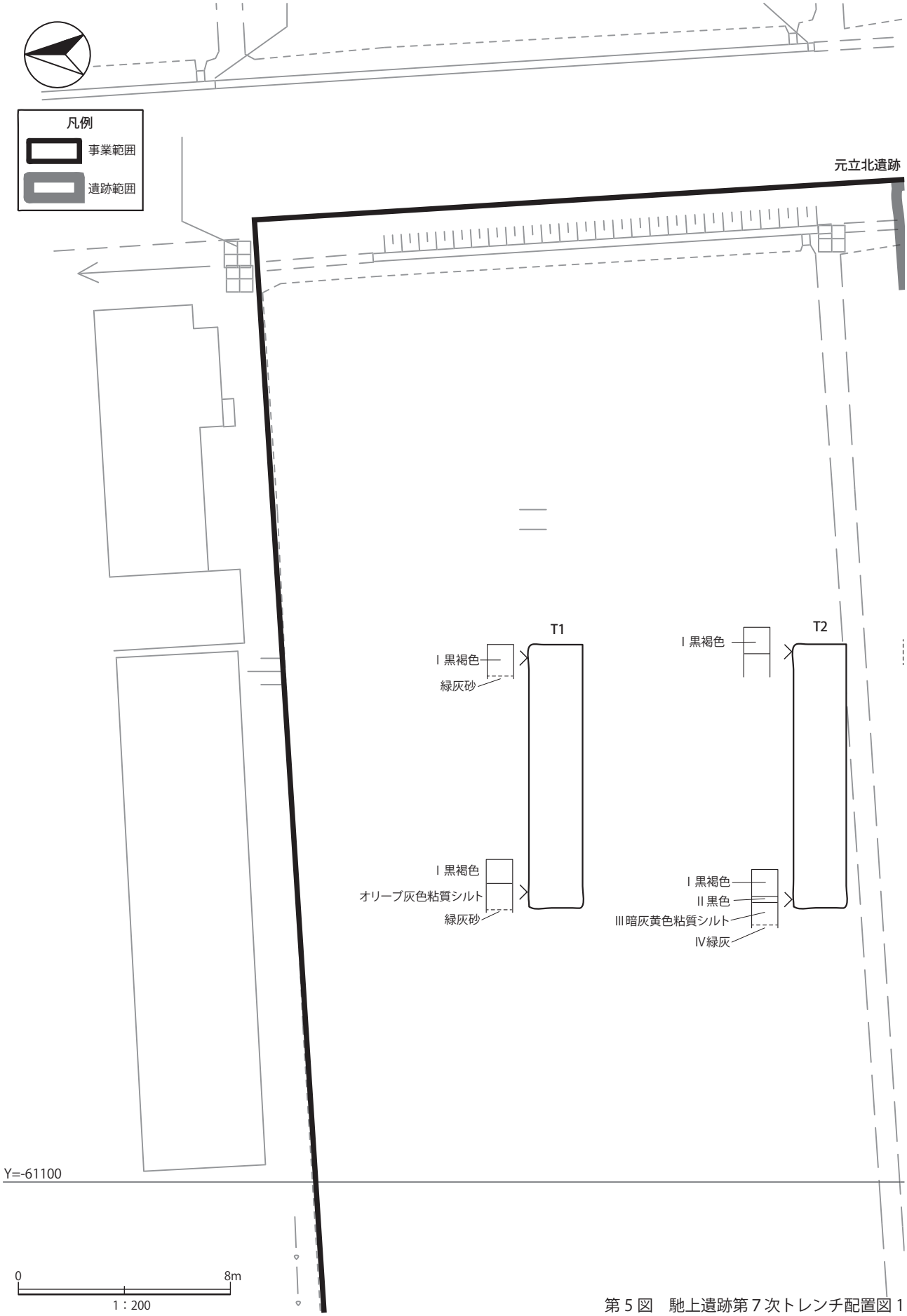
東側調査区中央を蛇行しながら南北に 80m 検出した河川である。幅は 3m から 9m で、深さは 60 ㎝から 1m である。この河川から東側には遺構がないため、馳上遺跡の東端となっていた河川と考えられる。遺物は主に北側、第 163 図のセクションポイント c-c' 以北から出土している。河川の屈曲部など遺物の溜まりやすい個所にトレンチを設定し、遺物の出土の有無を確認したが、北側以外で遺物が出土したのは南側の屈曲部のみであった。

遺物は多種多様で、第 198 ～ 232 図 424 ～ 709 が出土している。大別すると土器類と木製品に分けられる。424 ～ 651 までが土器類、652 ～ 709 までが木製品である。土器類で注目されるのは 465 ～ 472 の円面硯と 527 ～ 651 の墨書土器である。これらは、木製品の一部を含め、総括で詳しく述べる。ここではそれ以外の遺物で注目されるものについて紹介する。須恵器は蓋・有台坏・稜碗・無台坏・双耳坏・壺・甕・横瓶・長頸瓶が出土している。

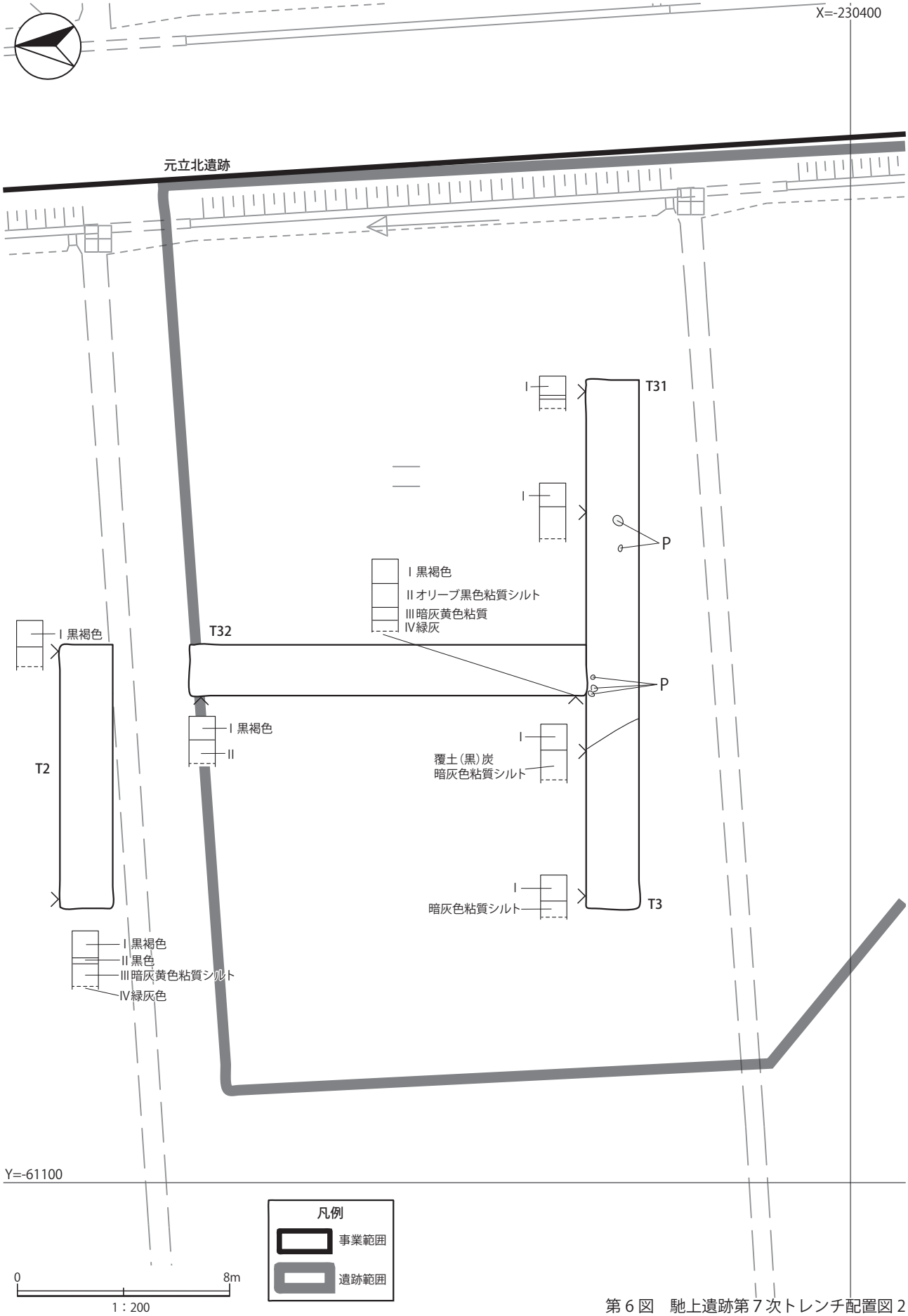
有台坏では 430 や 431 など底径が大きく坏身の浅い、8 世紀中ごろのものが出土している。稜碗の出土もみられる。9 世紀前半までの有台坏がそれぞれ出土している。無台坏は 447 など時代が下った 8 世紀後半のものが古く、新しいものは 9 世紀中葉頃の 450 が出土している。458・459 は短頸壺と考えられる。その他、462 の横瓶や 461 の長頸瓶などが出土している。黒色土器は丸底浅身で両黒の 473 ～ 475、8 世紀中葉に位置すると思われる体部下端に段や稜線を持つ坏、479 ～ 481 が注目される。土師器も同様で 498 ～ 502 は上記と同器形である。その他、土製品では漆を塗った紡錘車 524 が注目される。494 は黒色土器で土器に付着した漆に昆虫が封入されたものである。こちらも総括で触れたい。古墳時代の土器もあるが、相対的に古代の土器が多い。これら遺物からこの河川は、9 世紀後半まで開口していたと考えられる。古墳時代の遺物は点数も少ないことから流れ込みと考えられる。



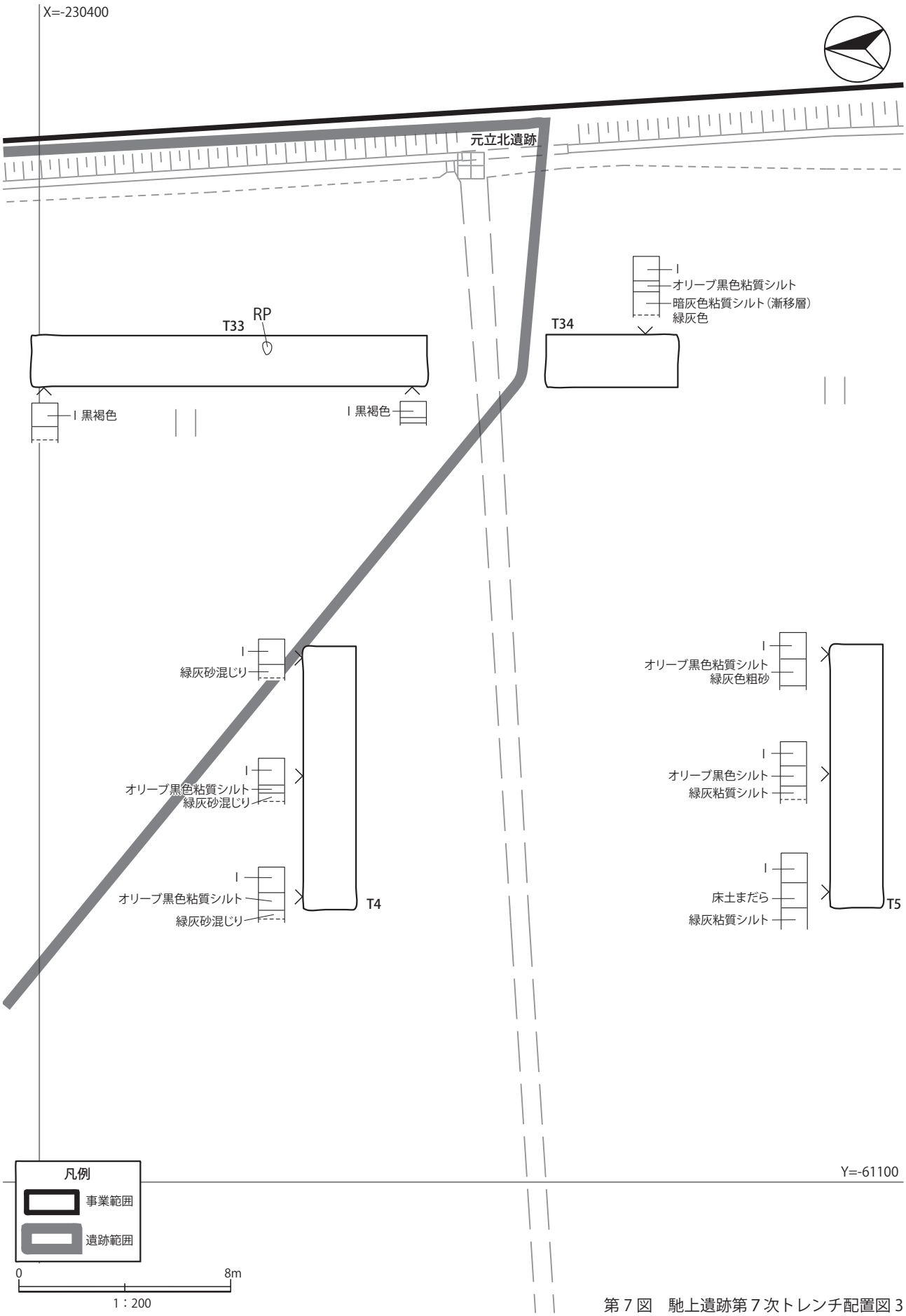
第４図　馳上遺跡第７次トレンチ配置図の割付図



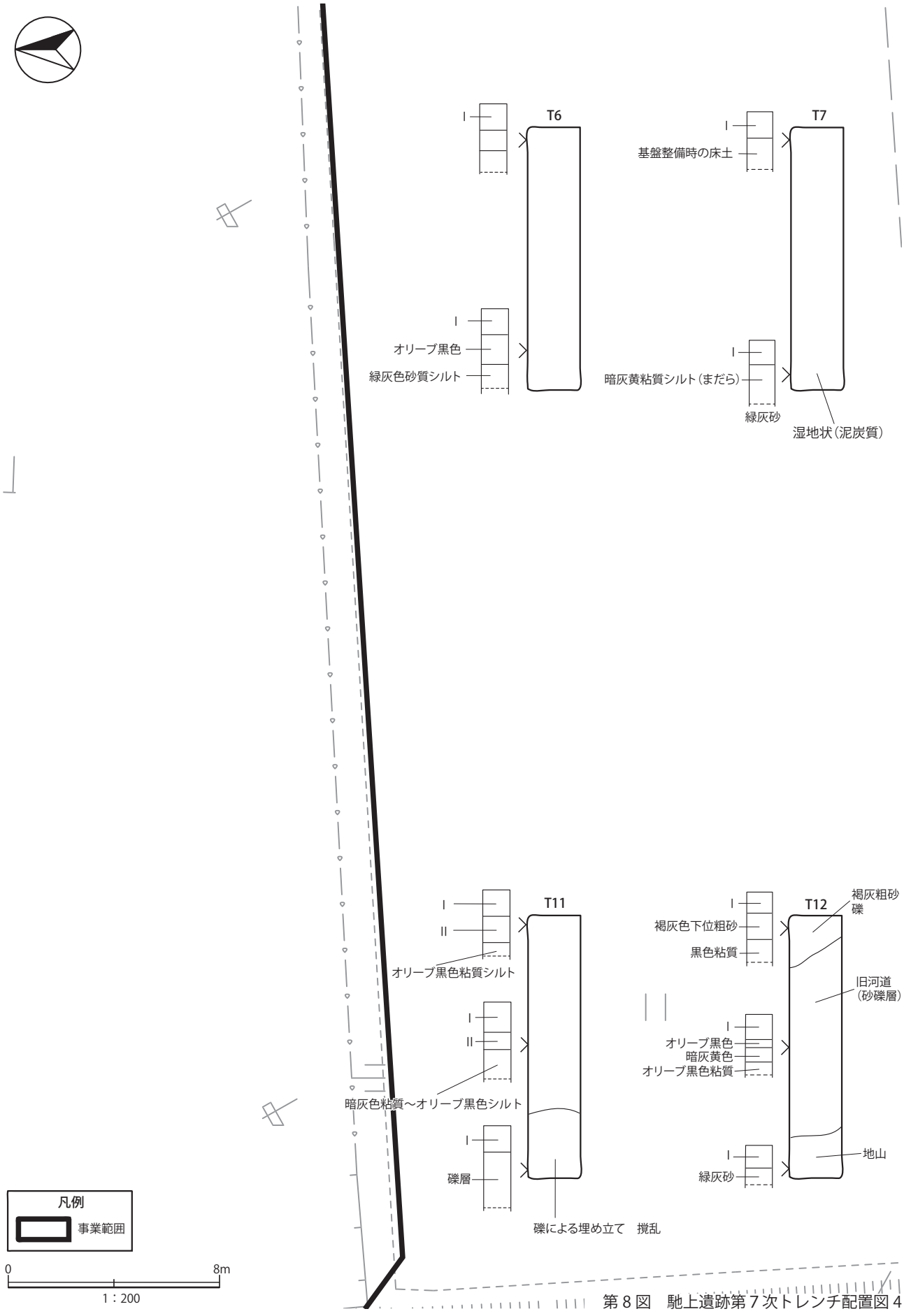
第 5 図　馳上遺跡第 7 次トレンチ配置図 1



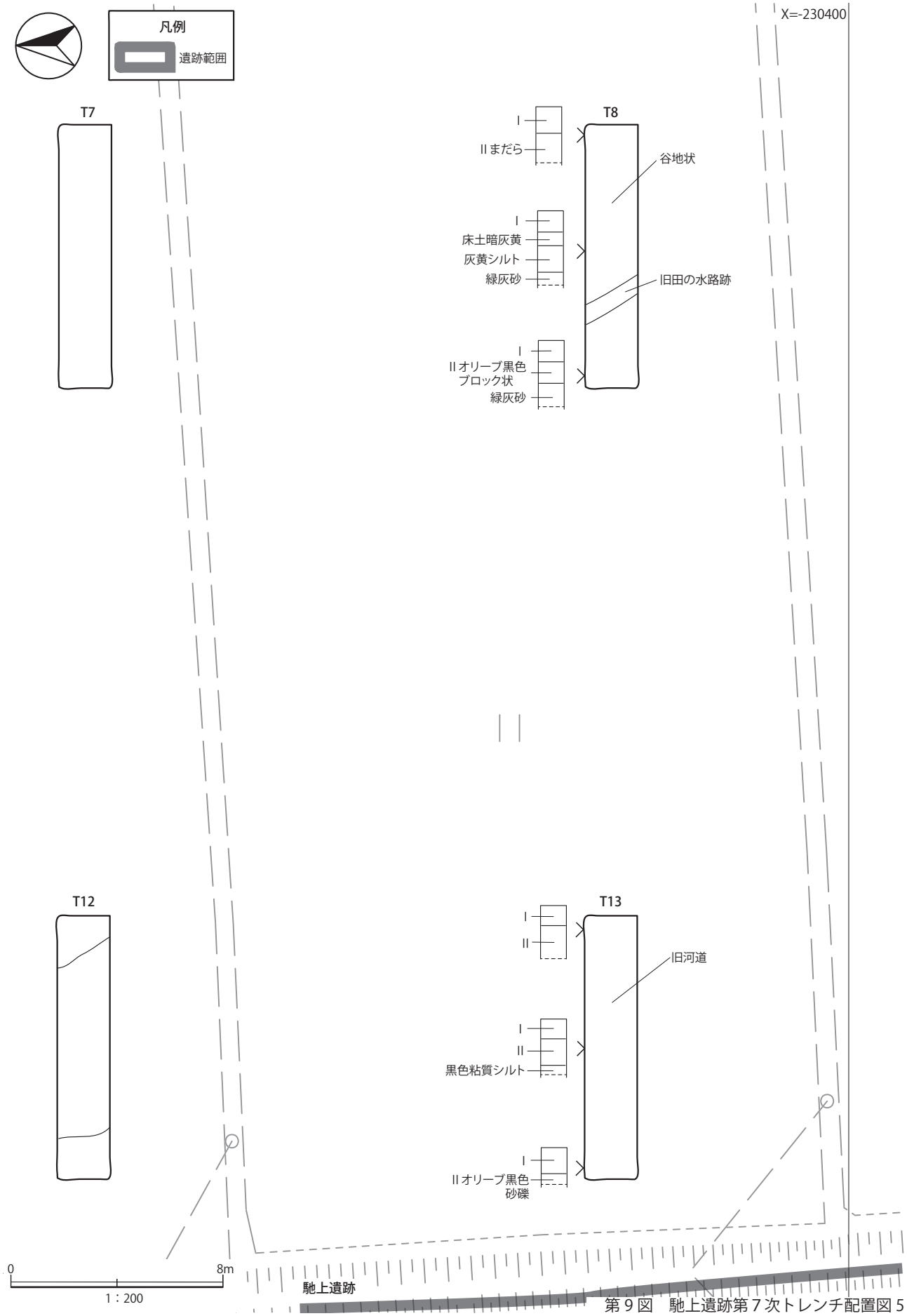
第６図　馳上遺跡第７次トレンチ配置図２



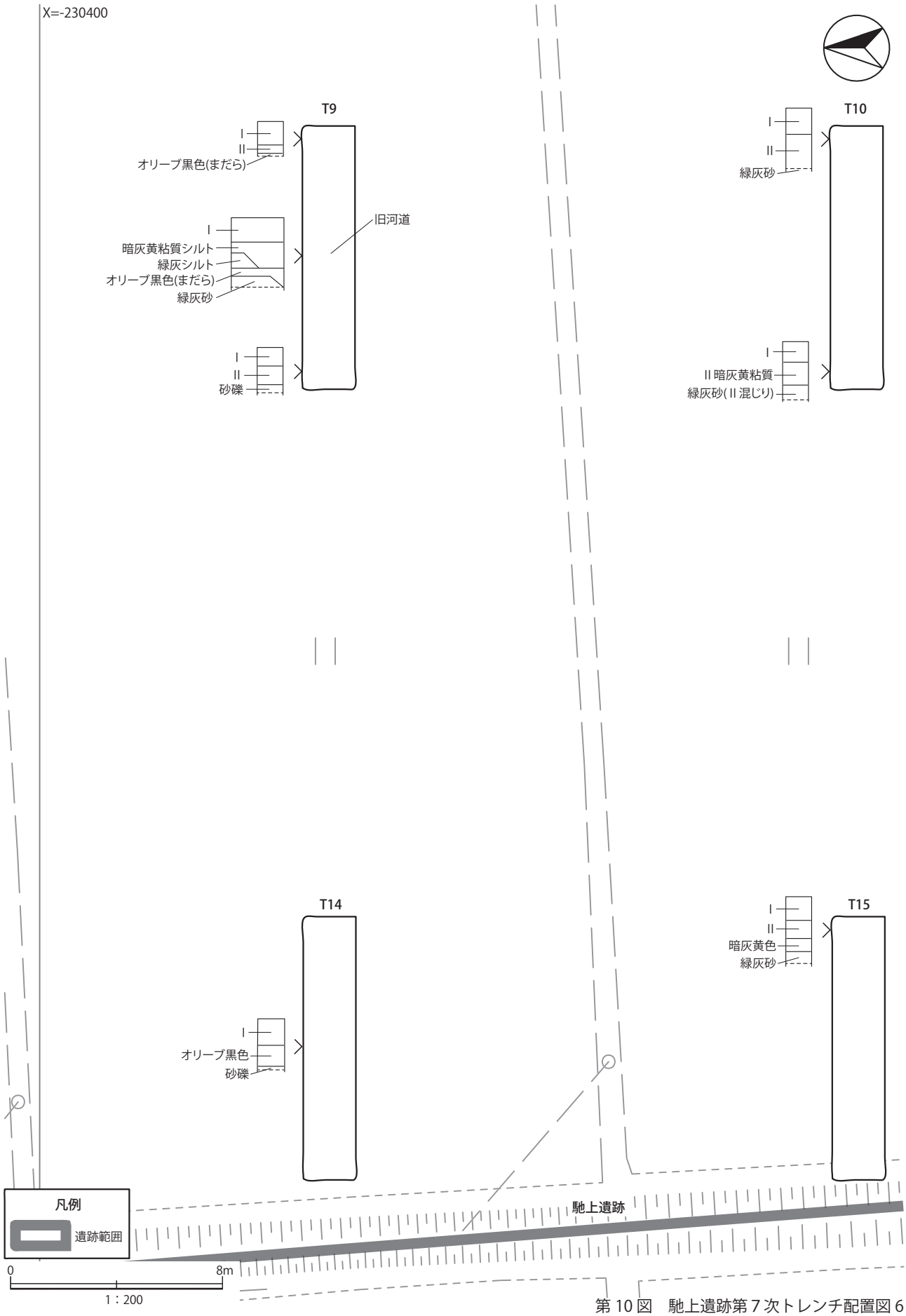
第７図　馳上遺跡第７次トレンチ配置図３



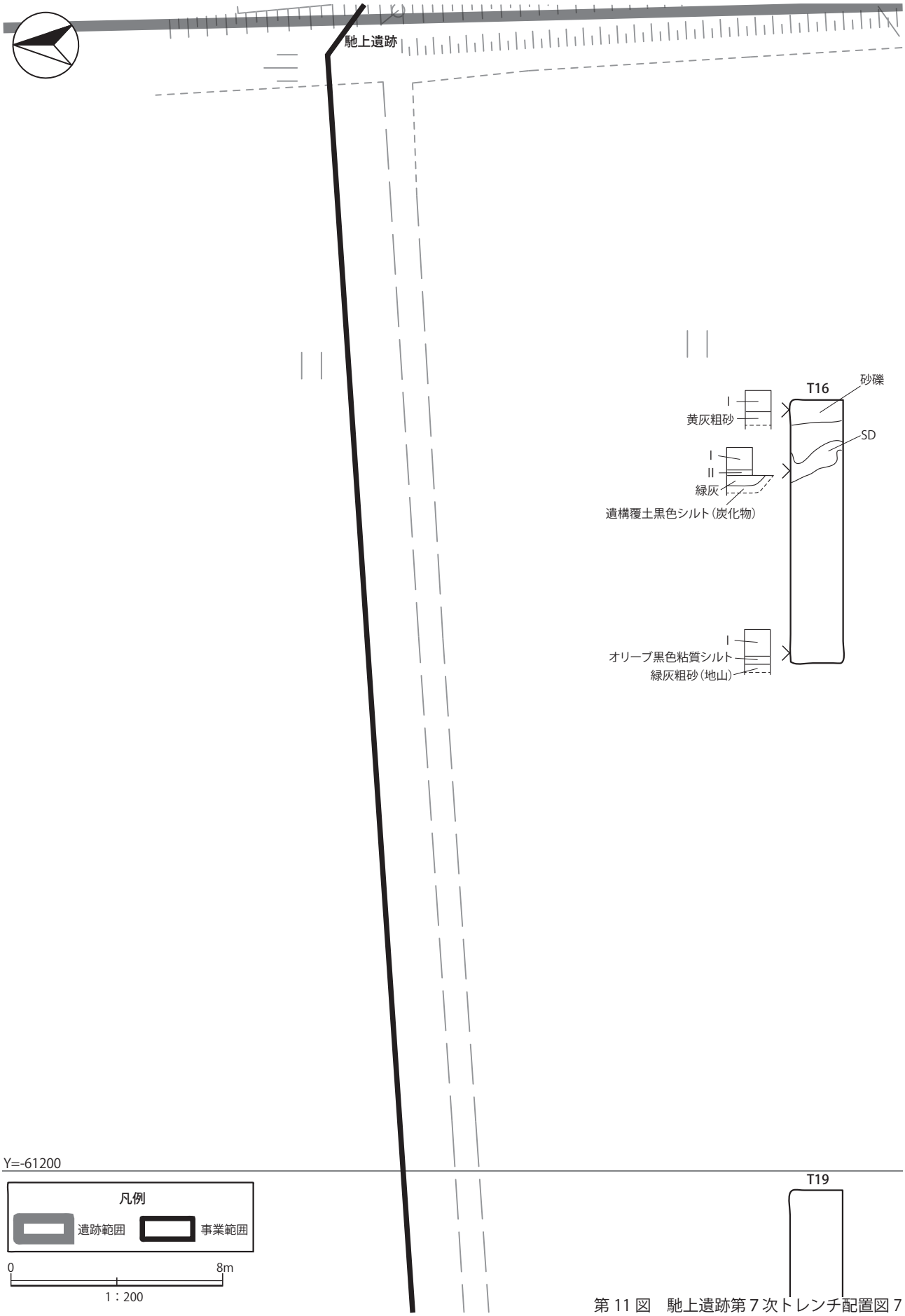
第 8 図　馳上遺跡第 7 次トレンチ配置図 4



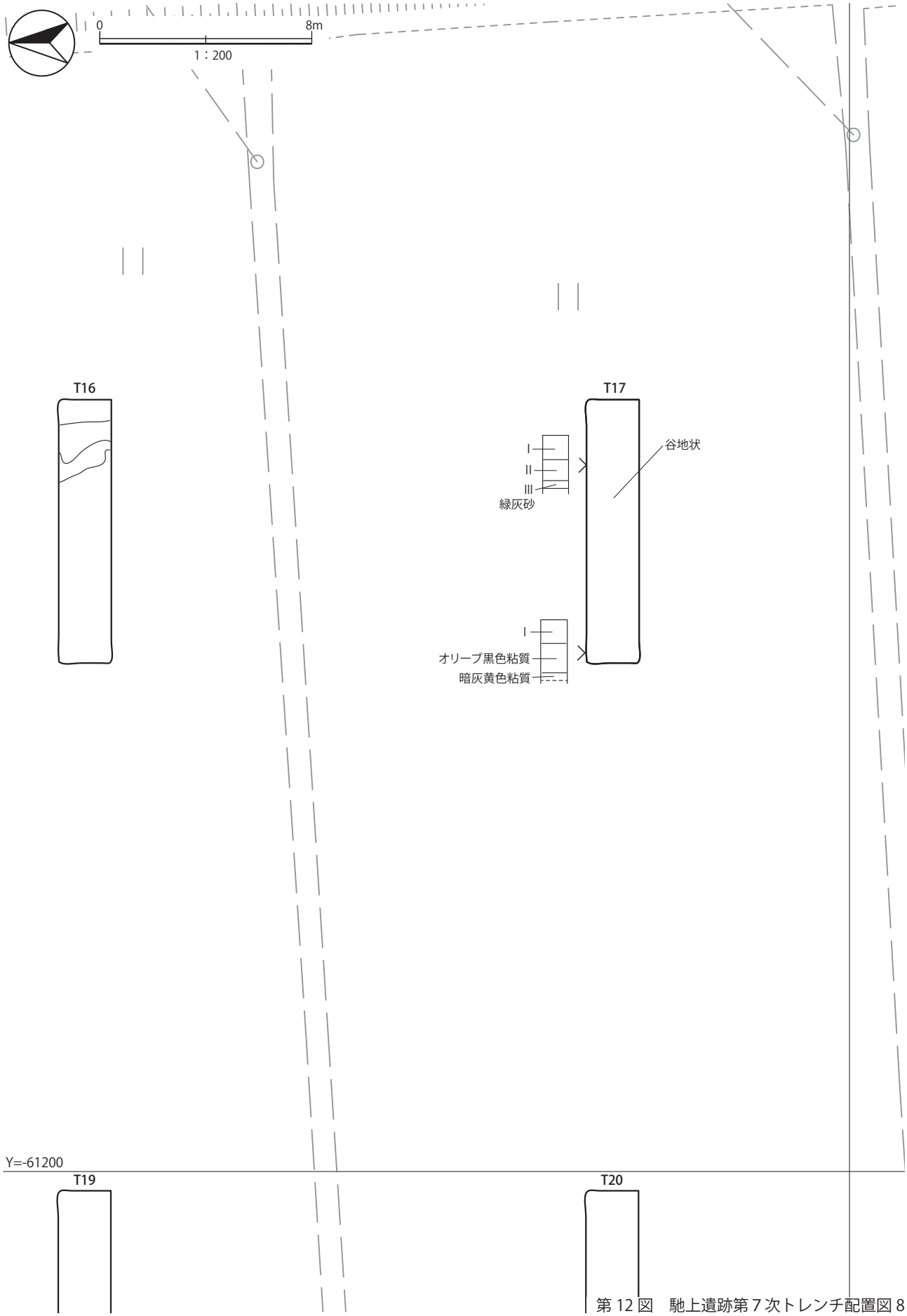
第９図　馳上遺跡第７次トレンチ配置図５



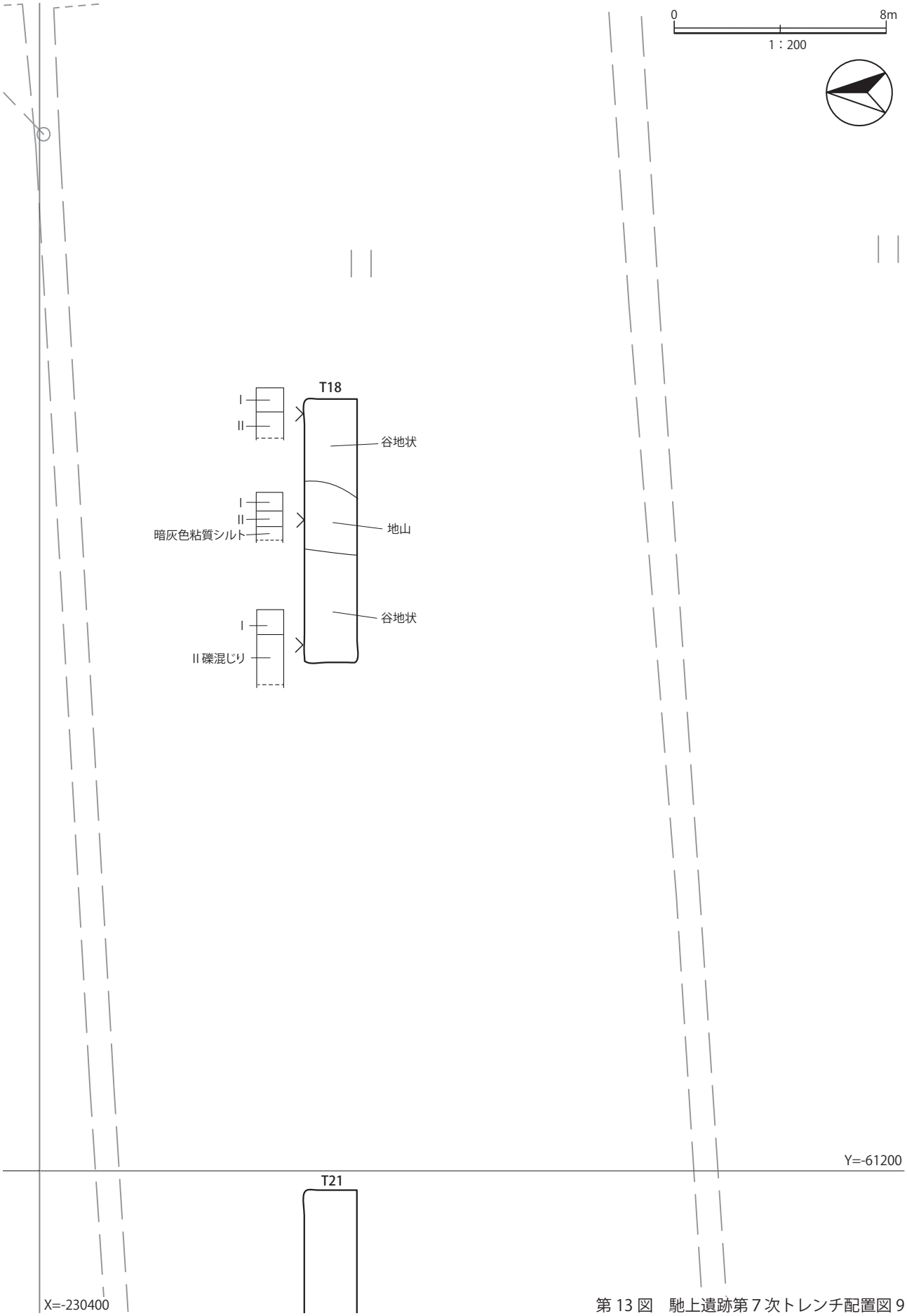
第 10 図　馳上遺跡第 7 次トレンチ配置図 6



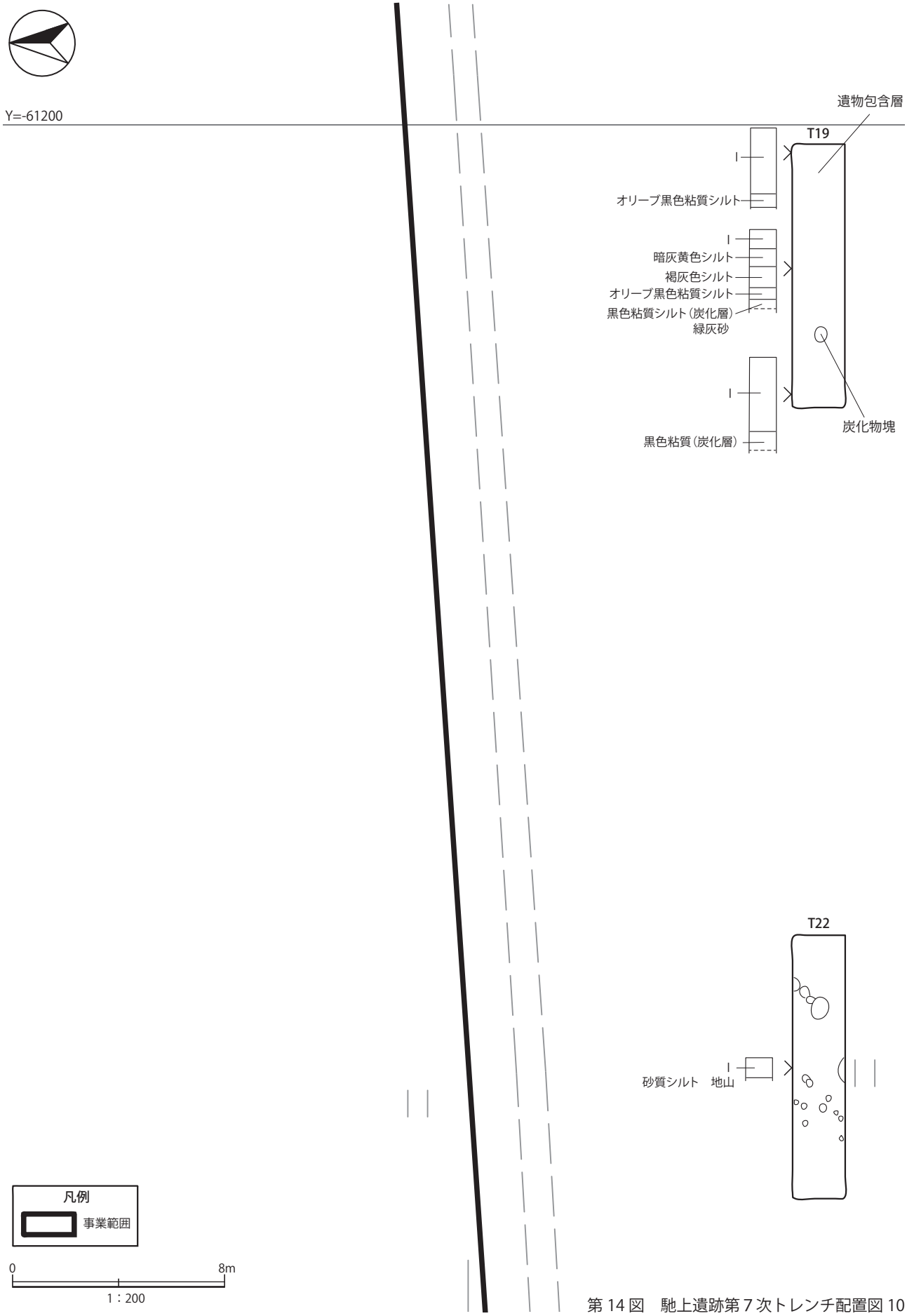
第 11 図　馳上遺跡第 7 次トレンチ配置図 7



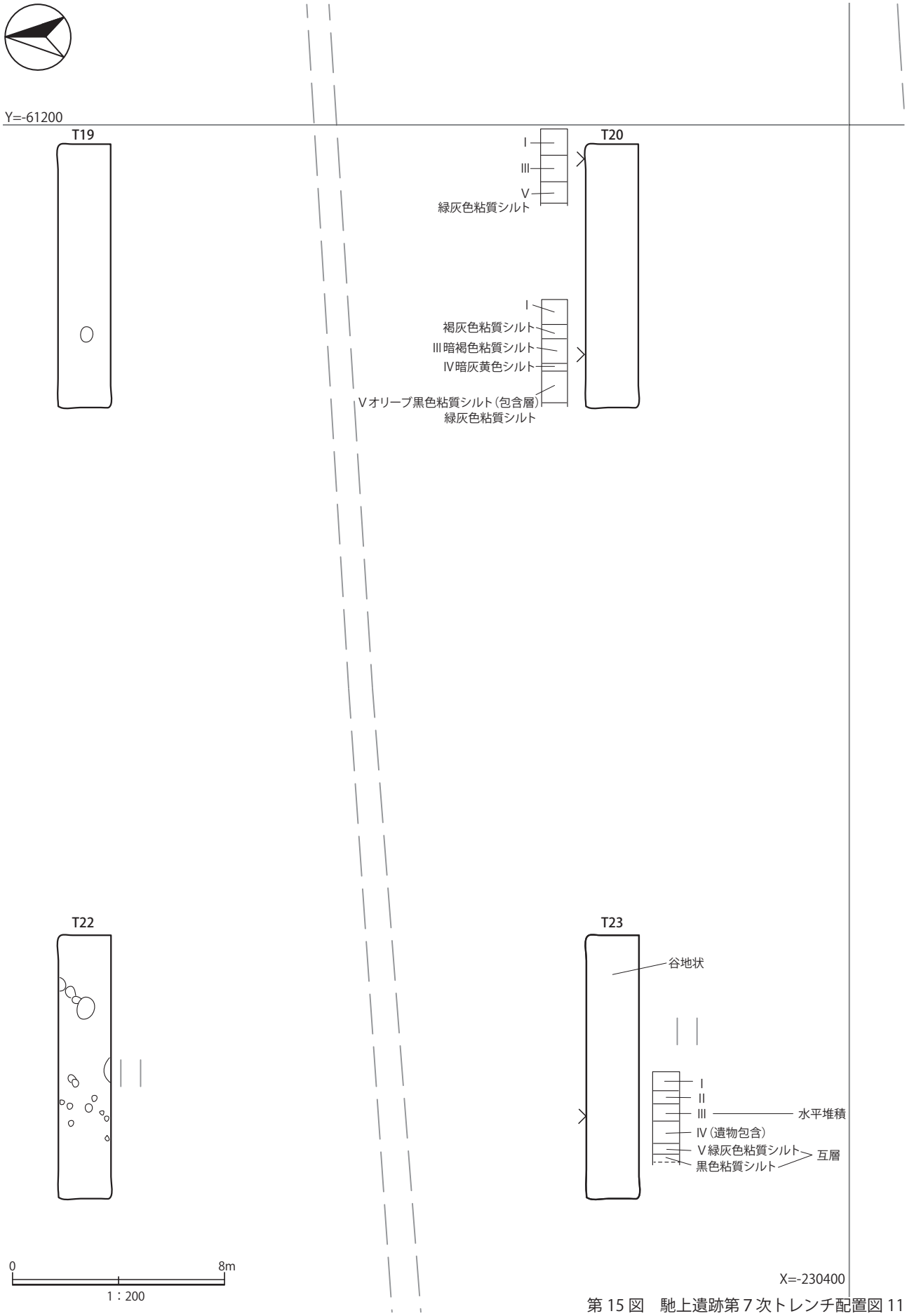
第 12 図　馳上遺跡第 7 次トレンチ配置図 8



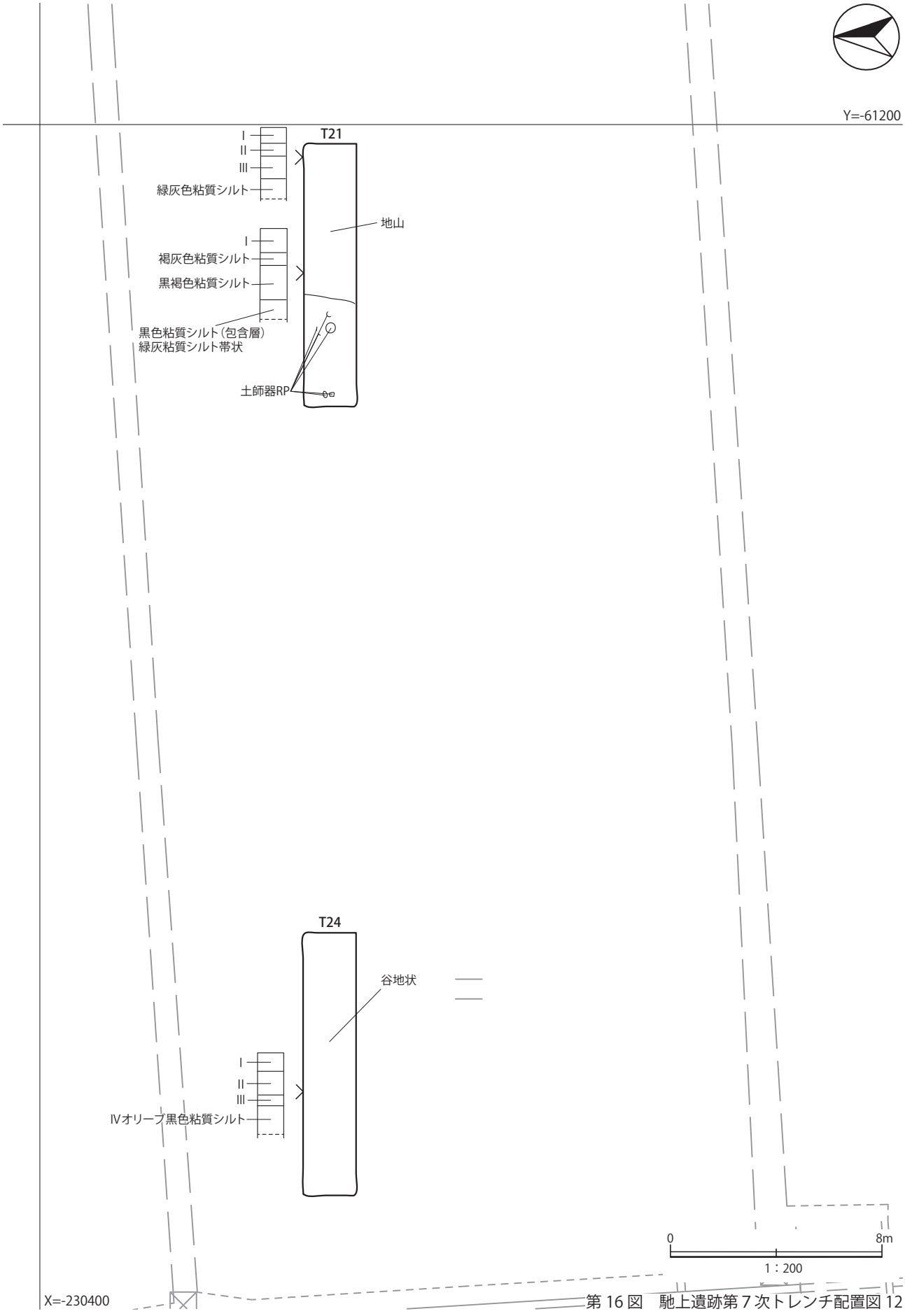
第 13 図　馳上遺跡第 7 次トレンチ配置図 9



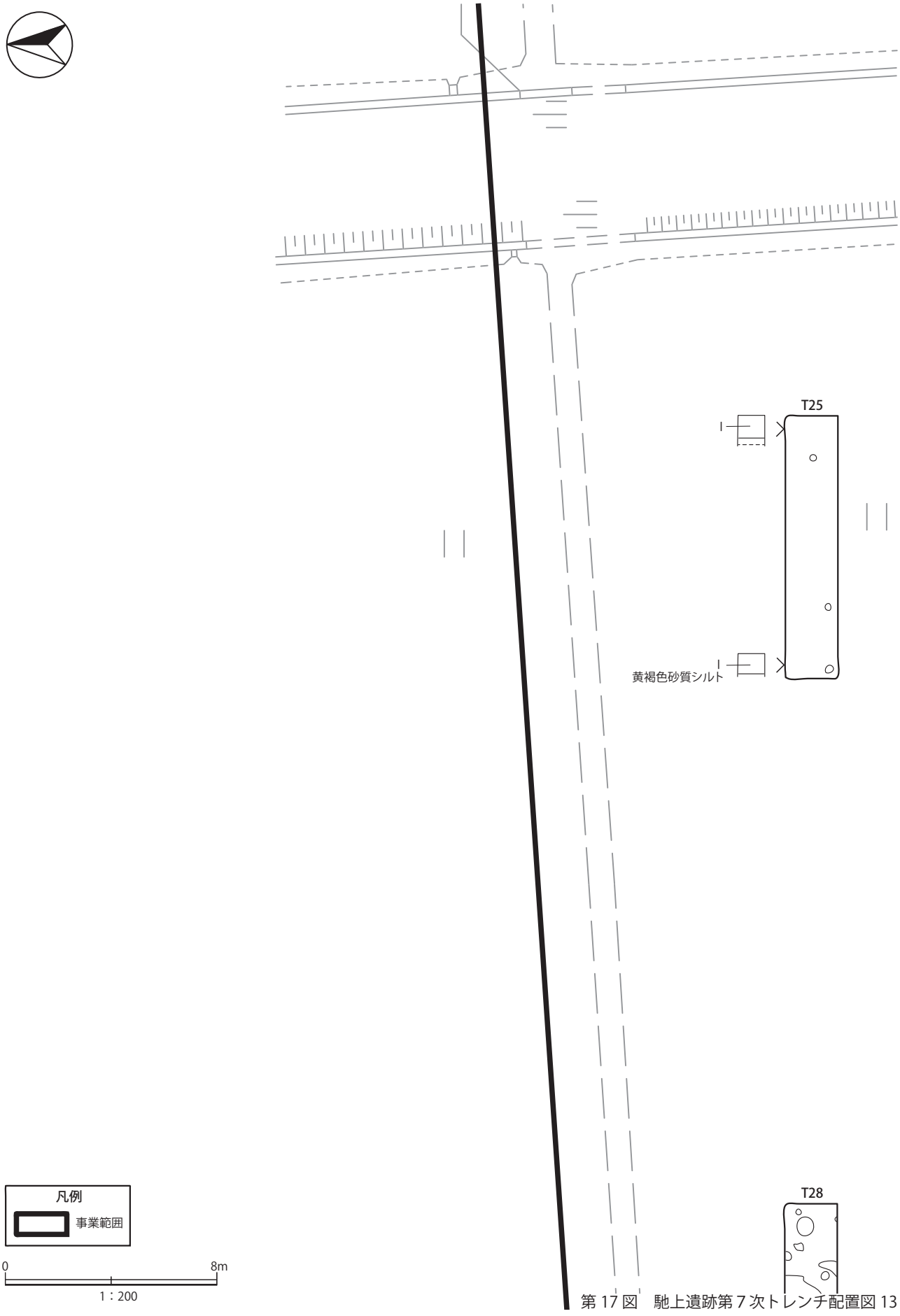
第 14 図　馳上遺跡第 7 次トレンチ配置図 10



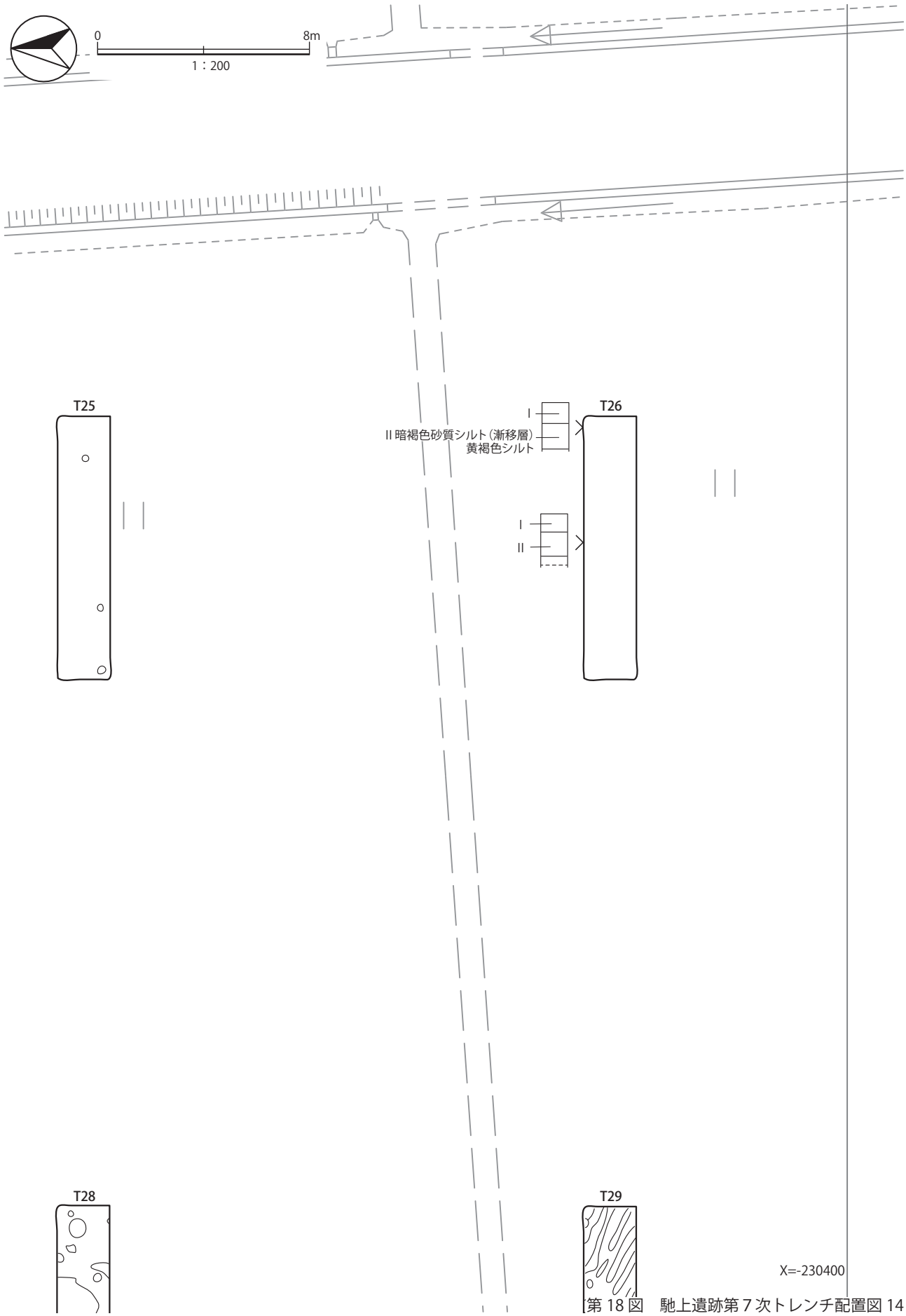
第 15 図　馳上遺跡第 7 次トレンチ配置図 11



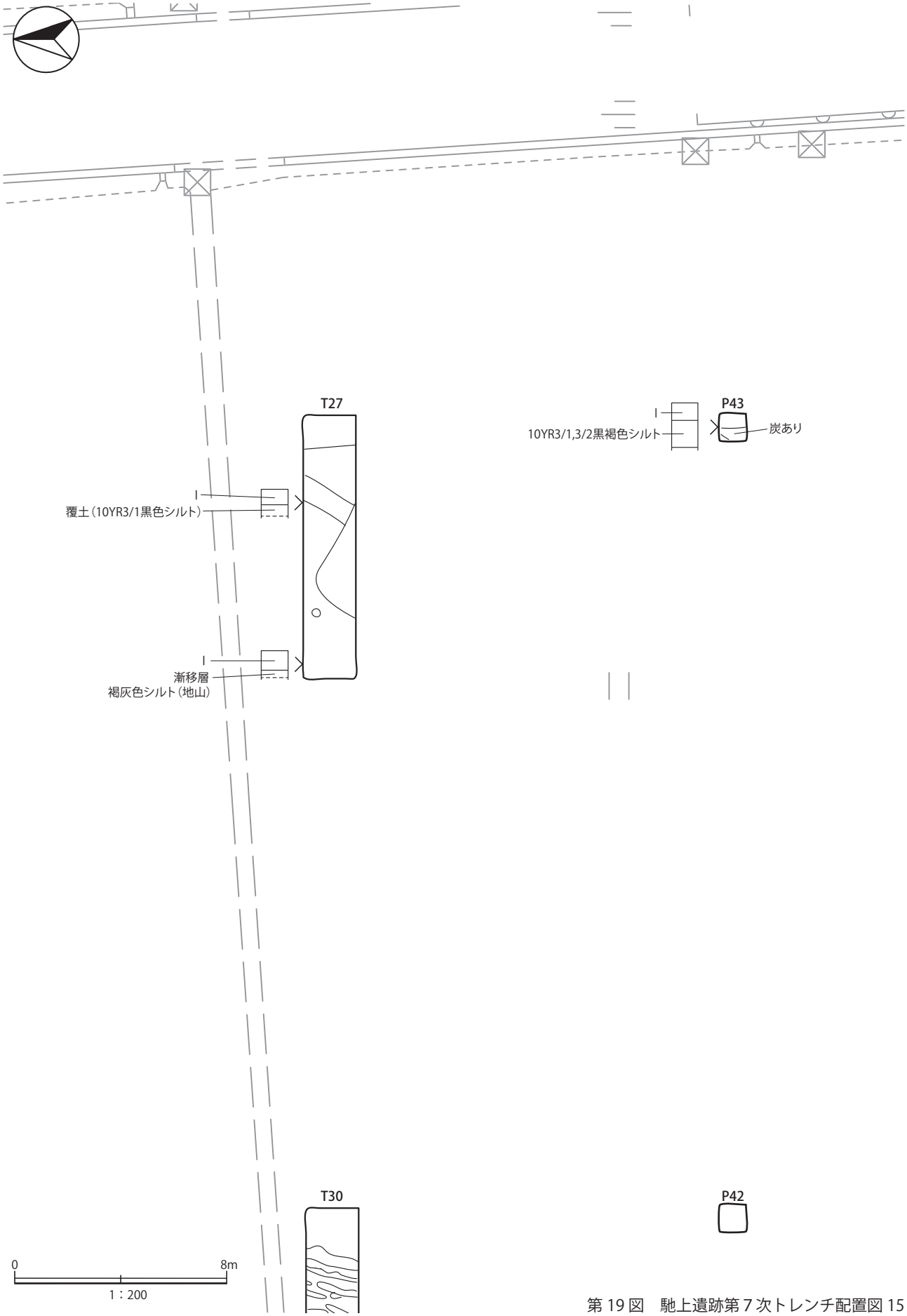
第 16 図　馳上遺跡第 7 次トレンチ配置図 12



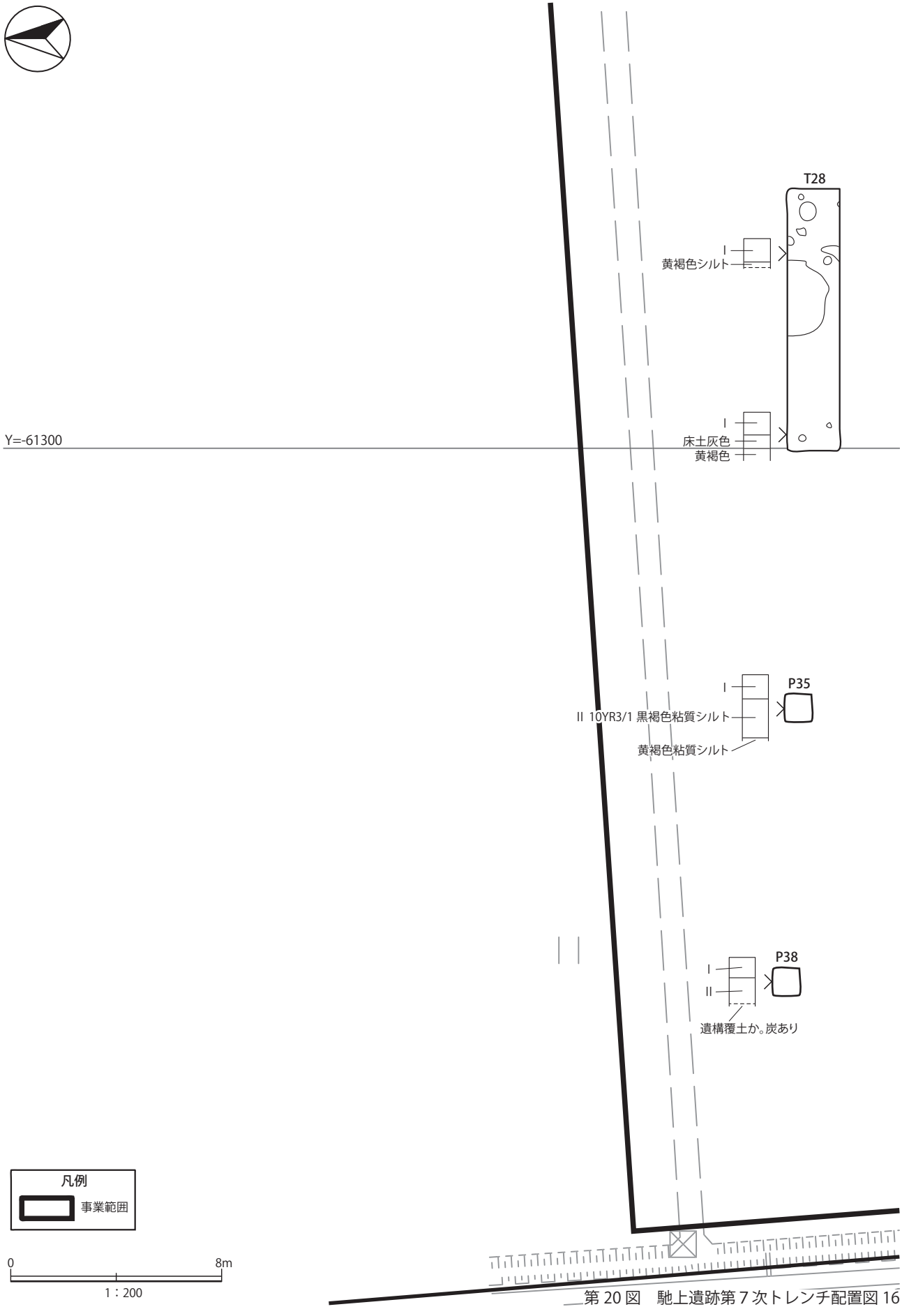
第 17 図　馳上遺跡第 7 次トレンチ配置図 13



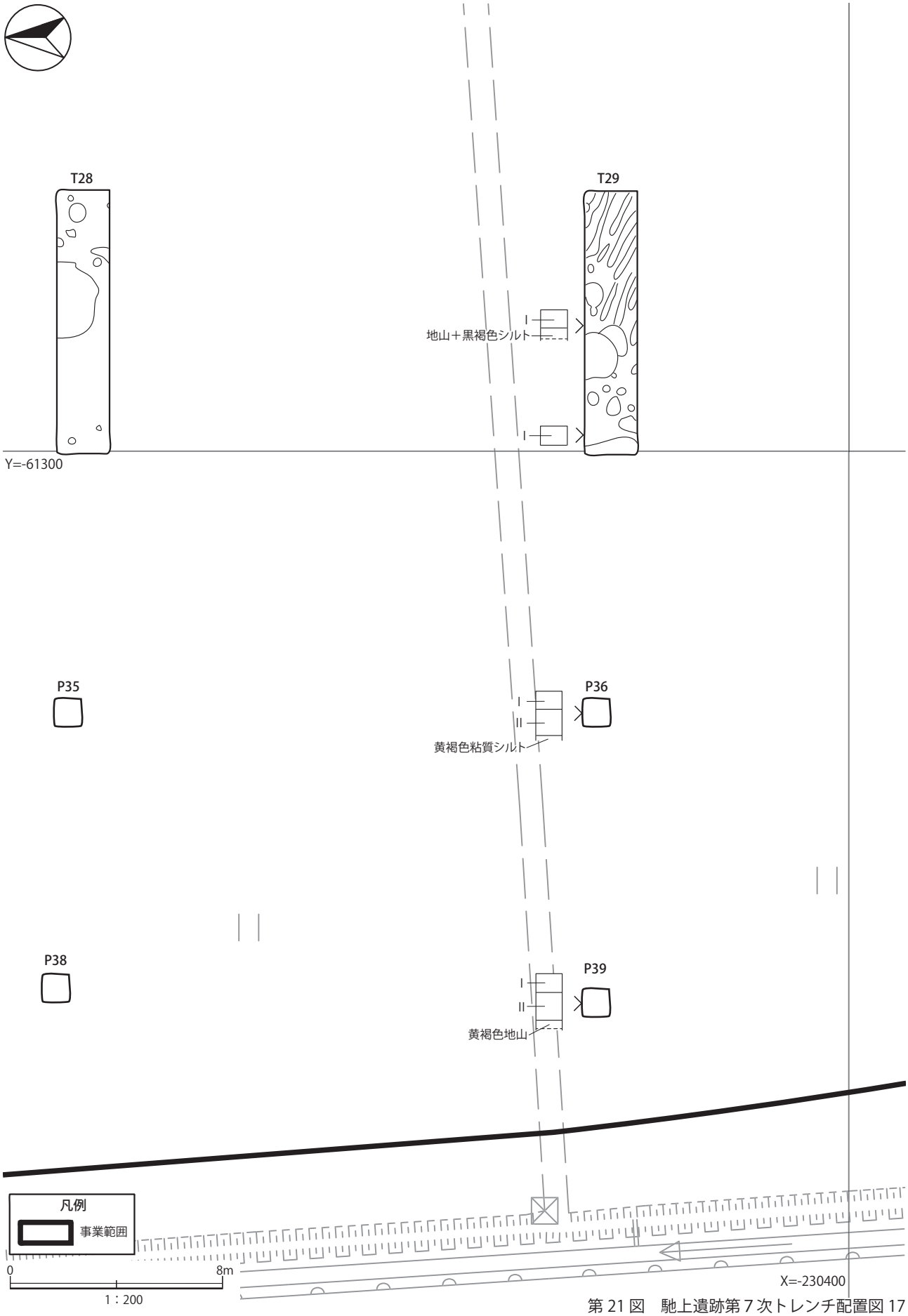
第 18 図　馳上遺跡第 7 次トレンチ配置図 14



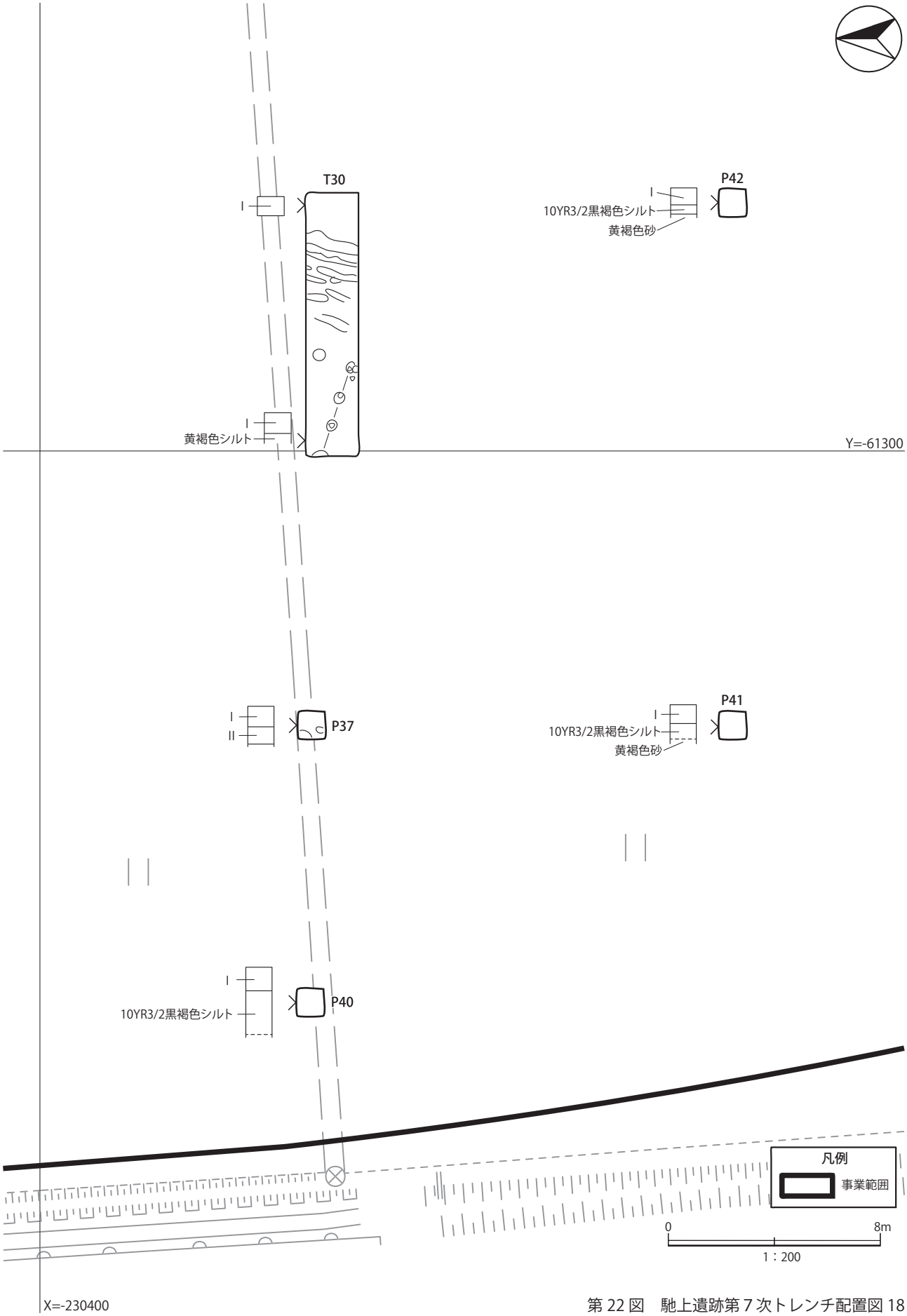
第 19 図　馳上遺跡第 7 次トレンチ配置図 15



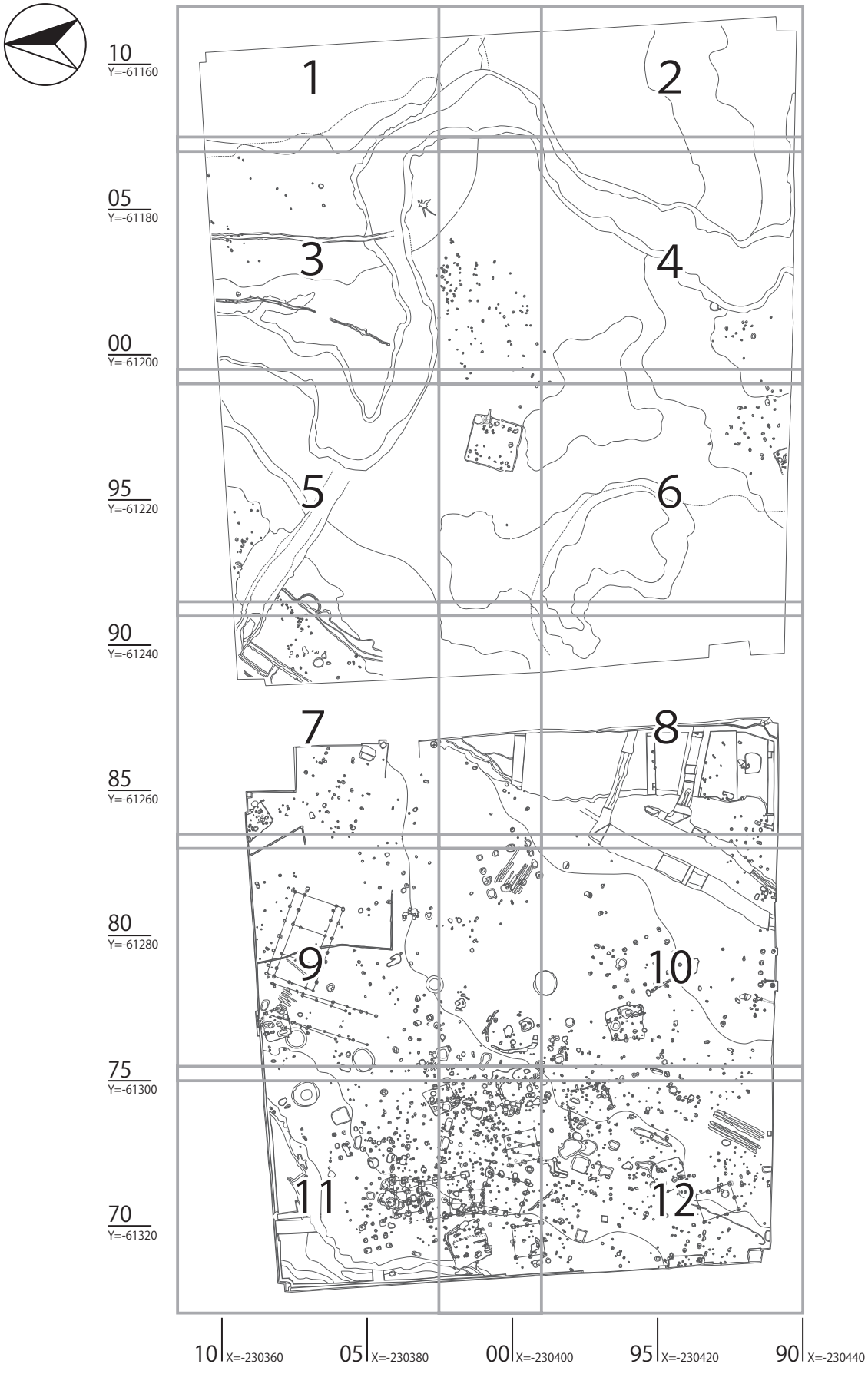
第 20 図　馳上遺跡第 7 次トレンチ配置図 16



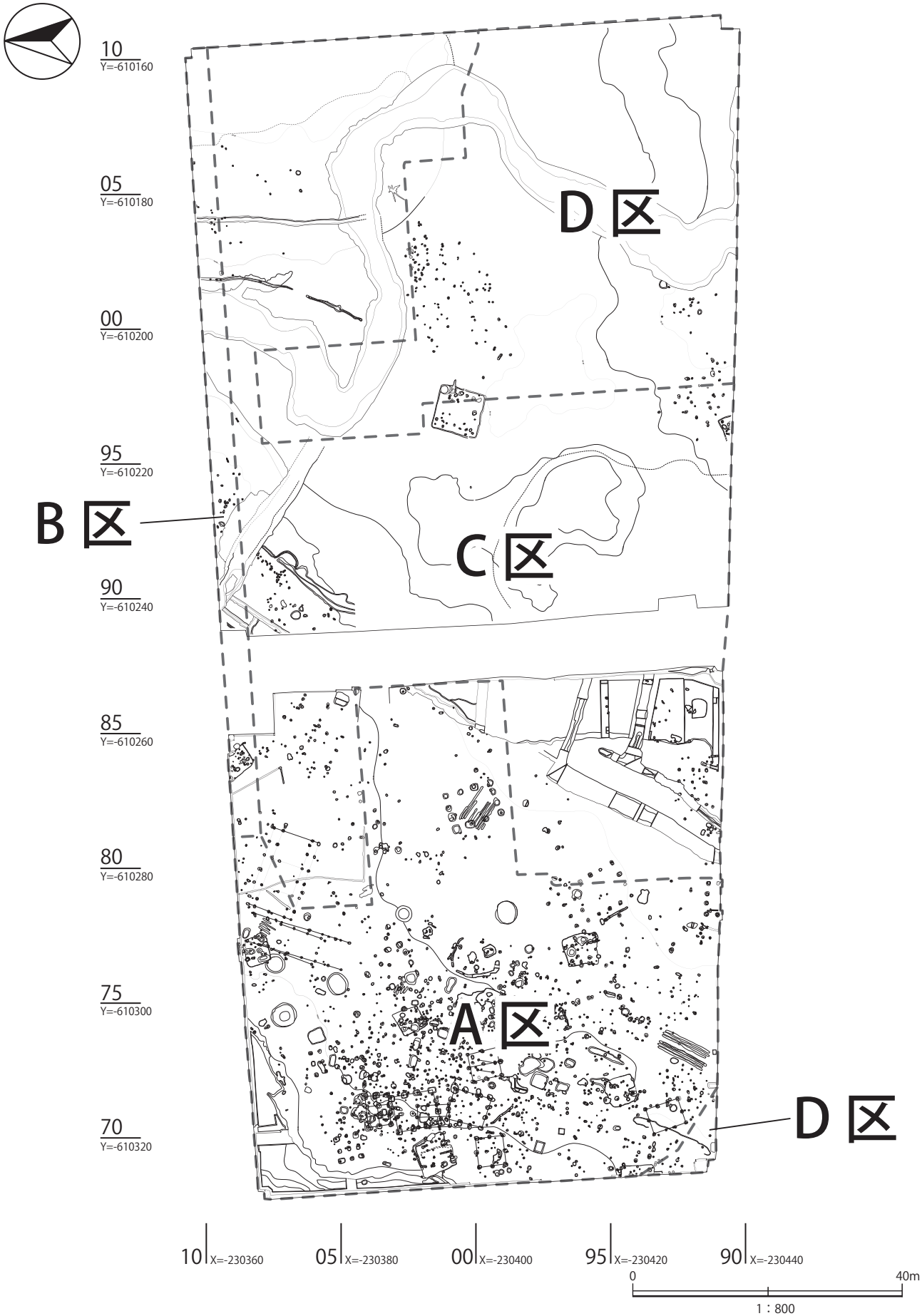
第 21 図　馳上遺跡第 7 次トレンチ配置図 17



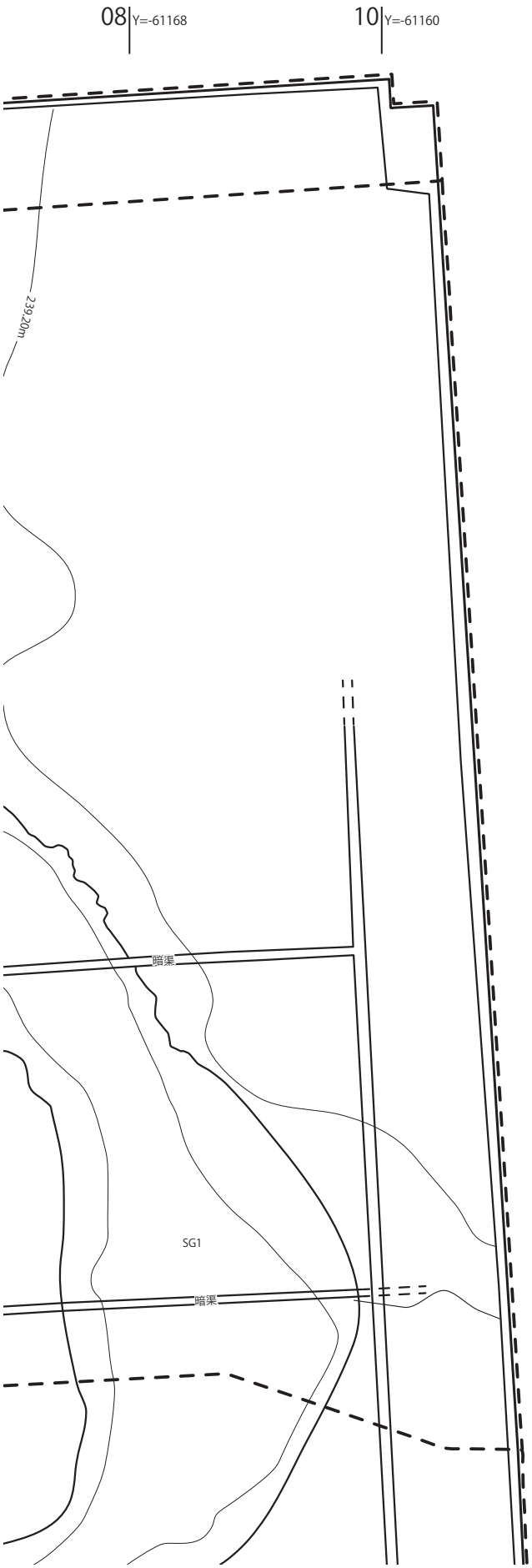
第 22 図　馳上遺跡第 7 次トレンチ配置図 18



第 23 図　馳上遺跡第 8 次遺構配置図の割付図


10
Y=-610160
05
Y=-610180
00
Y=-610200
95
Y=-610220
90
Y=-610240
85
Y=-610260
80
Y=-610280
75
Y=-610300
70
Y=-610320
D 区
B 区
C 区
A 区
D 区
10 X=-230360
05 X=-230380
00 X=-230400
95 X=-230420
90 X=-230440
0
40m
1：800

第 24 図　区割り図



10
X=-230360

08
X=-230368

06
X=-230376

04
X=-230384

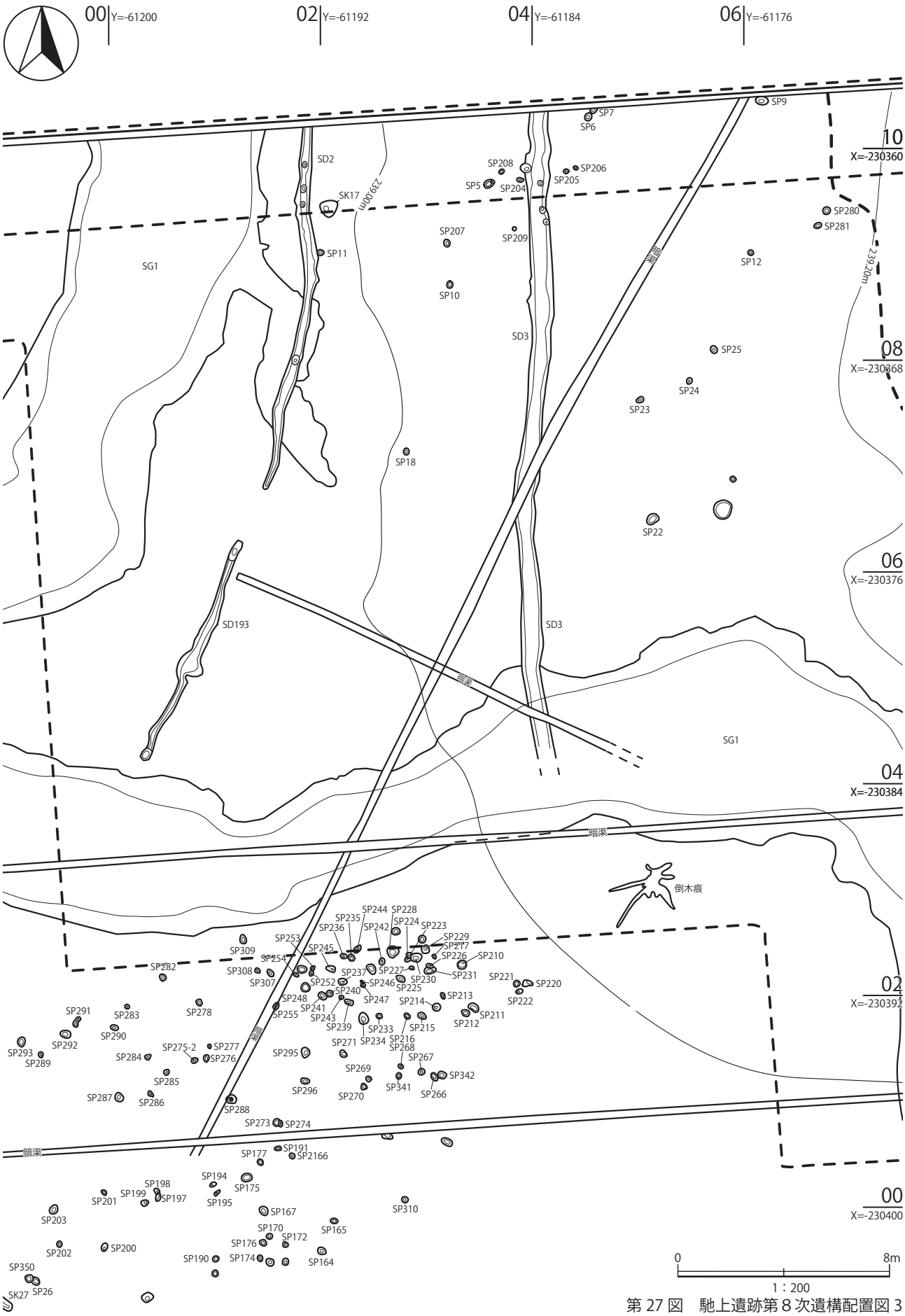
02
X=-230392

00
X=-230400

0　8m
1：200

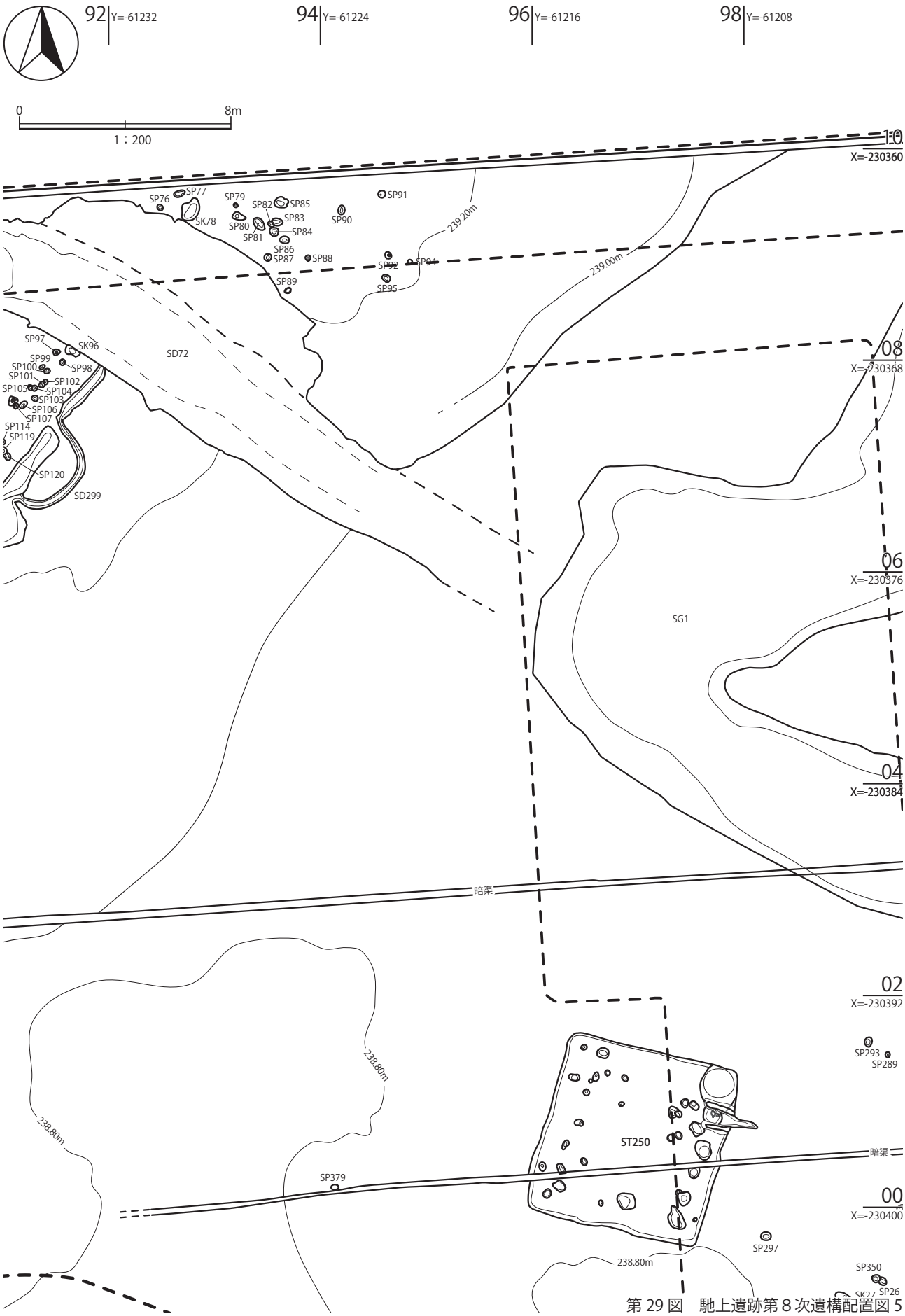
第 25 図　馳上遺跡第 8 次遺構配置図 1

第 26 図　馳上遺跡第 8 次遺構配置図 2

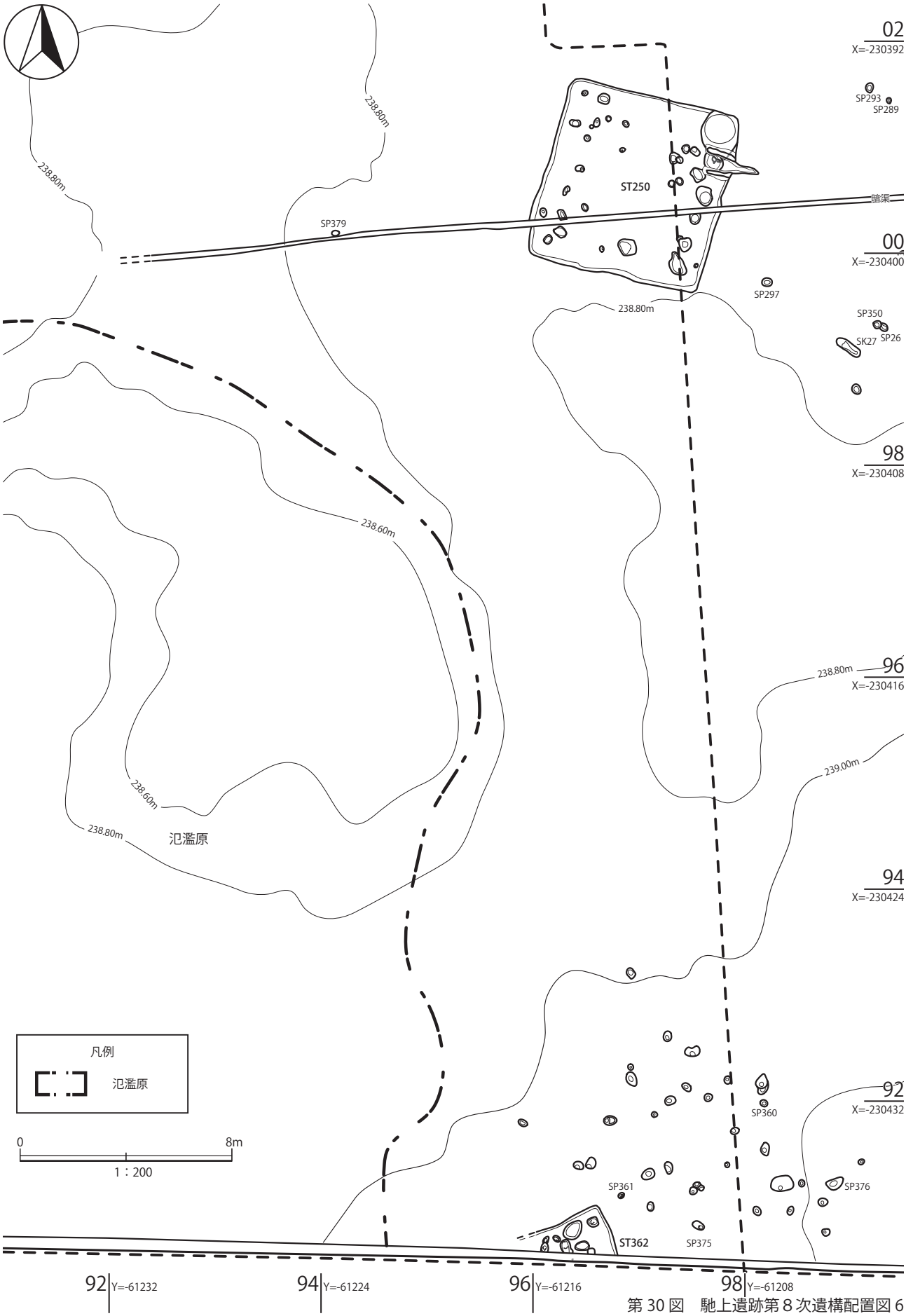


第 27 図　馳上遺跡第 8 次遺構配置図 3

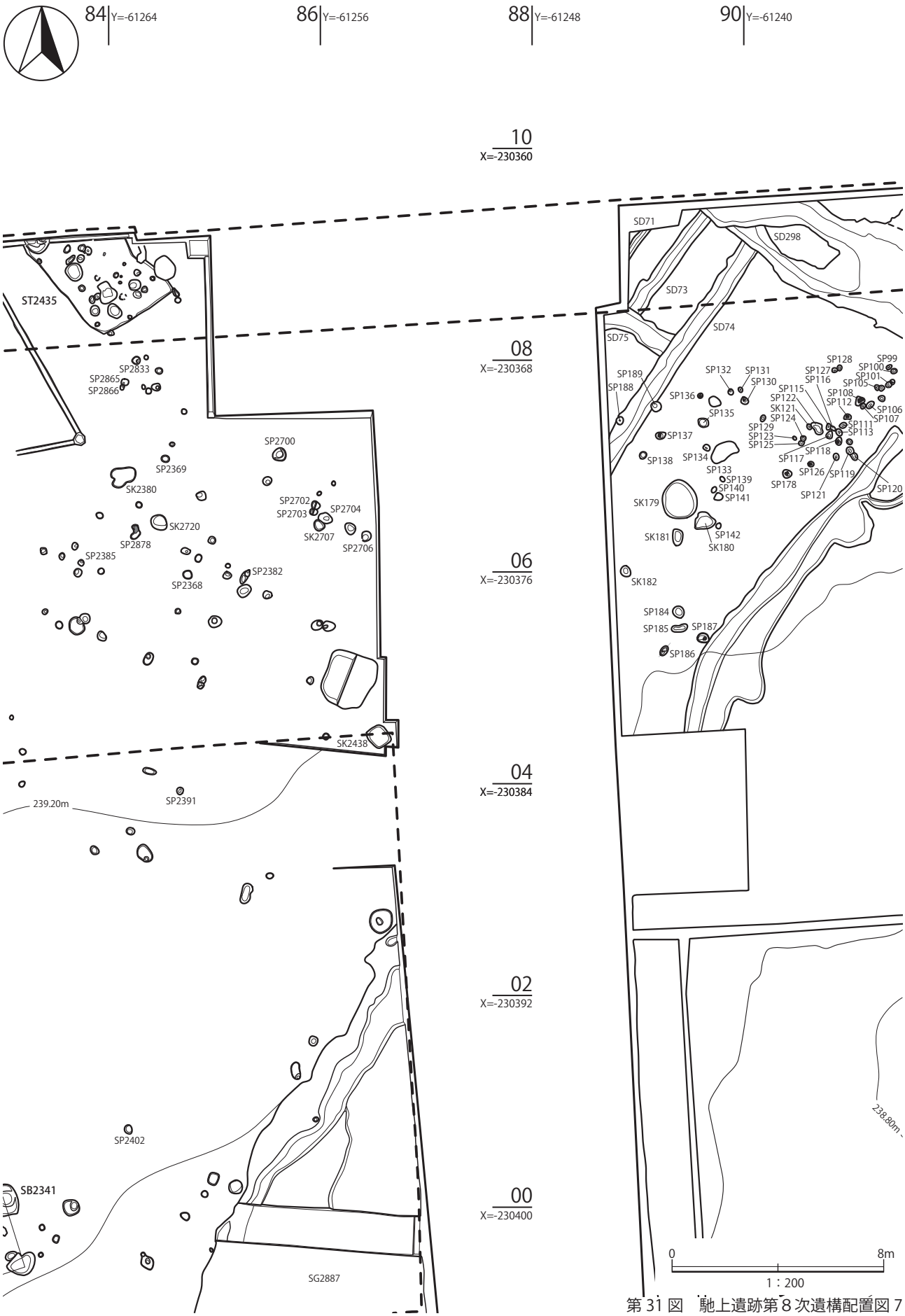
第 28 図　馳上遺跡第 8 次遺構配置図 4



第 29 図　馳上遺跡第 8 次遺構配置図 5

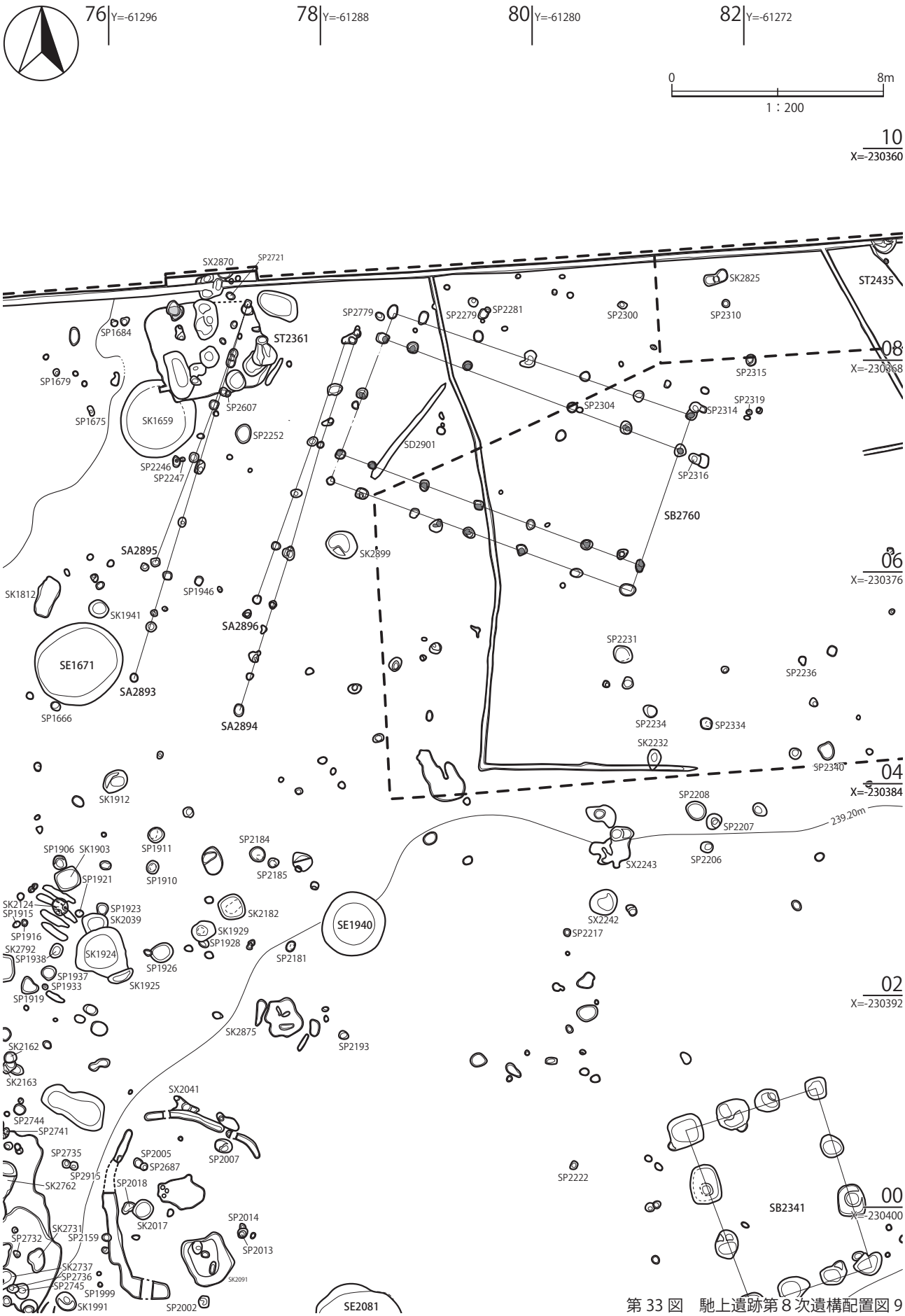


第 30 図　馳上遺跡第 8 次遺構配置図 6

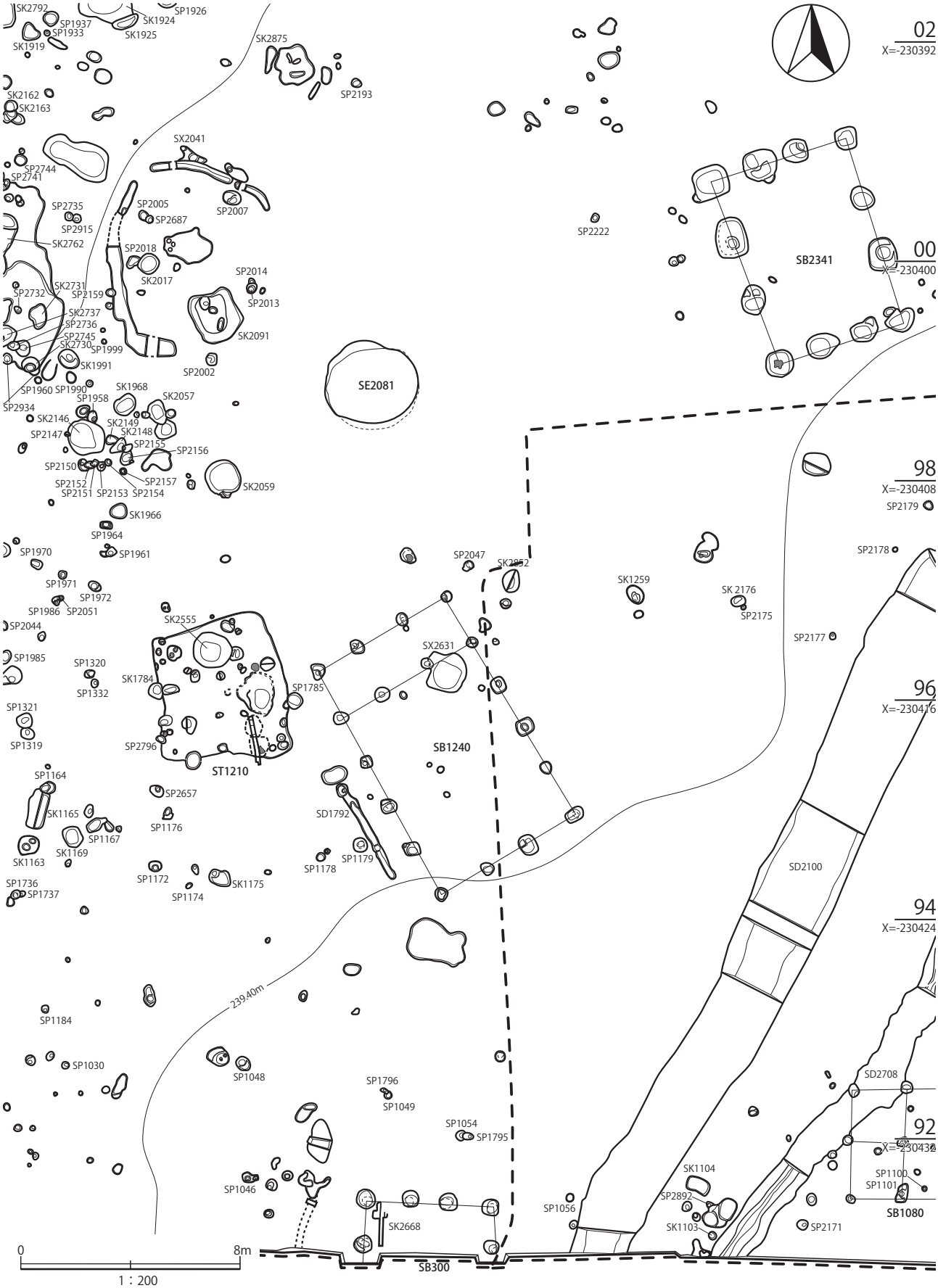


第 31 図　馳上遺跡第 8 次遺構配置図 7

第 32 図　馳上遺跡第 8 次遺構配置図 8



第 33 図　馳上遺跡第 8 次遺構配置図 9



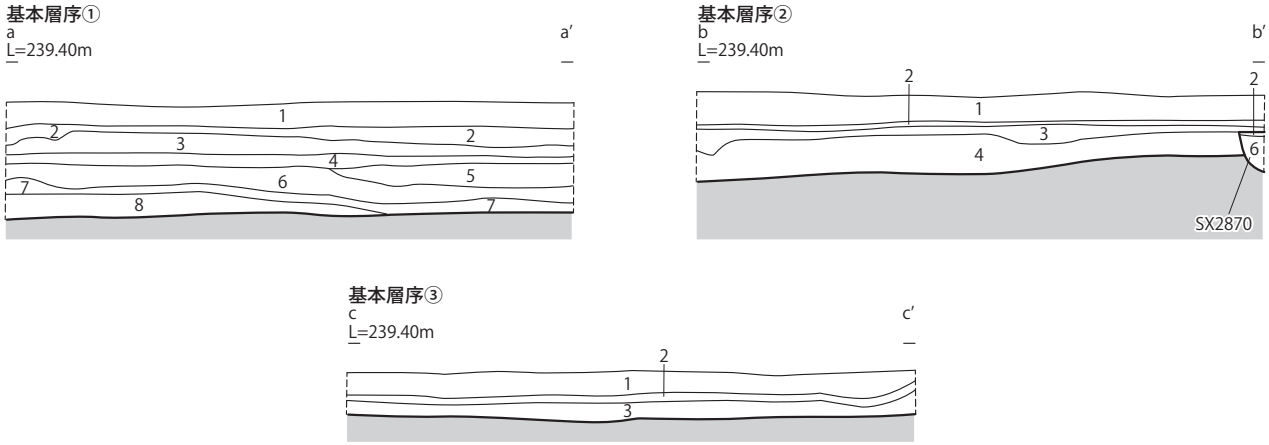
76 Y=-61296　78 Y=-61288　80 Y=-61280　82 Y=-61272

第 34 図　馳上遺跡第 8 次遺構配置図 10

第 35 図　馳上遺跡第 8 次遺構配置図 11

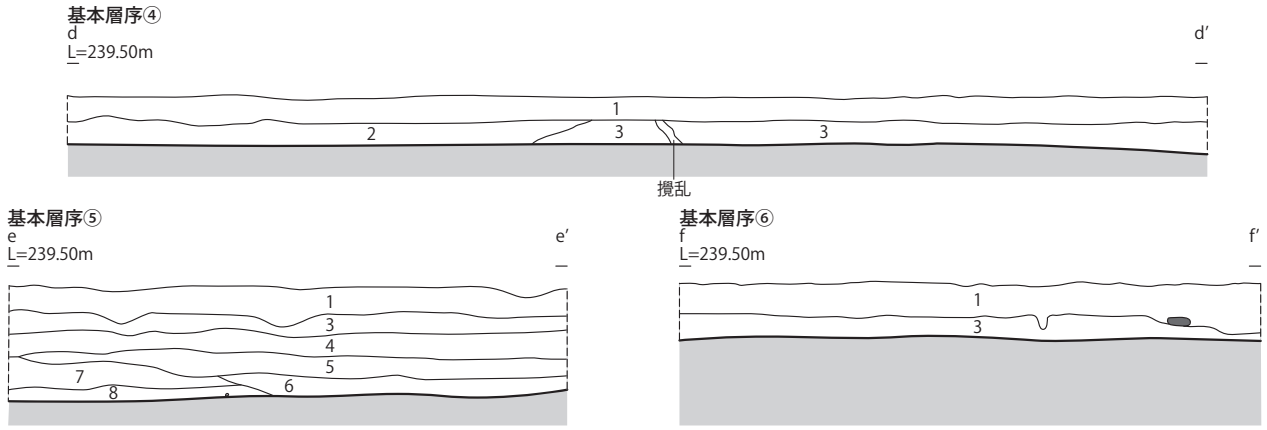
第 36 図　馳上遺跡第 8 次遺構配置図 12

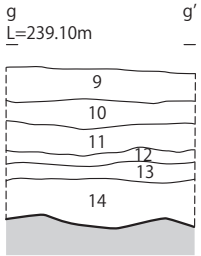
第 37 図　基本層序のセクションポイント配置図



基本層序①～③

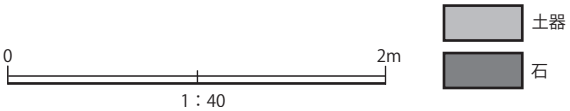
1. 10YR4/2灰黄褐色シルト	10YR5/2灰黄褐色シルトをわずかに含む　植物を含む　表土
2. 10YR4/3にぶい黄橙色シルト	7.5YR4/2灰褐色シルトを多量に含む　酸化鉄を含む
3. 10YR5/2灰黄褐色シルト	7.5YR4/2灰褐色シルトを多量に含む　植物を含む
4. 10YR6/3にぶい黄橙色シルト	10YR4/1褐灰色シルトを少量含む
5. 10YR4/2灰黄灰色シルト	10YR5/2灰黄褐色シルトを少量含む
6. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR4/2灰黄褐色シルトを少量含む
7. 7.5YR4/2灰褐色シルト	10YR5/1褐灰色シルトを斑状に含む
8. 10YR3/2黒褐色シルト	7.5YR4/3褐色シルトを少量含む
SX2870	
2. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR2/1黒色シルト及び10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
6. 10YR3/3暗褐色シルト	10YR3/2黒褐色シルト及び10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む



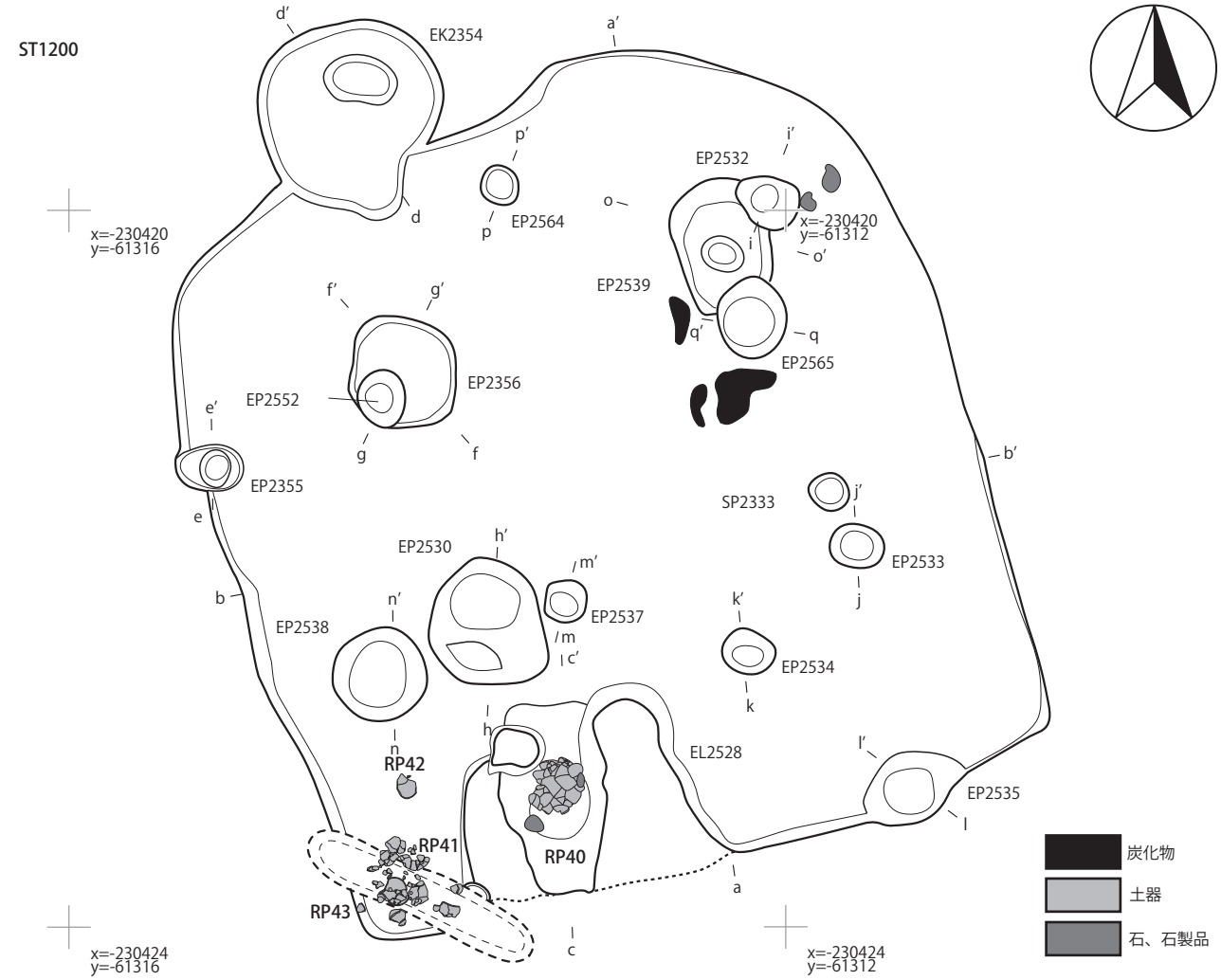


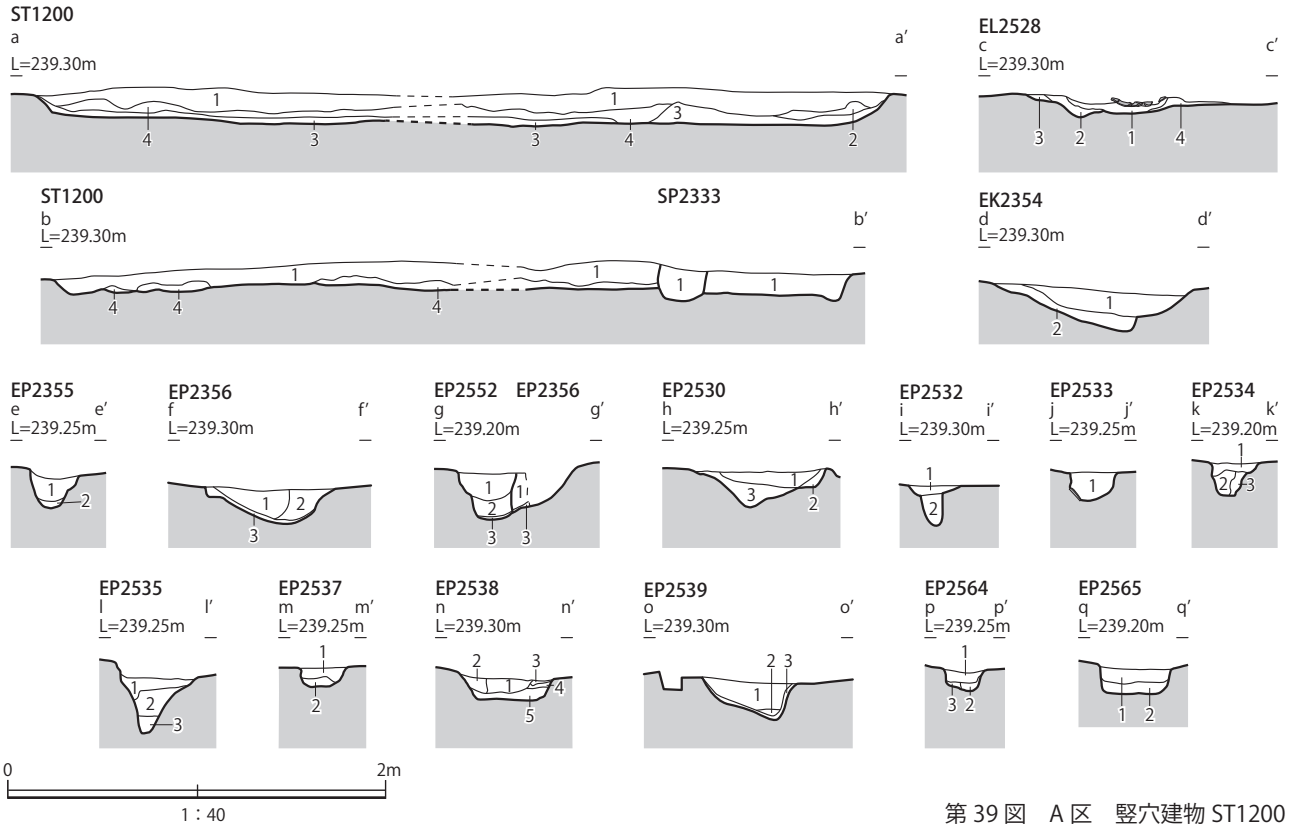
基本層序④～⑦

1. 10YR4/2灰黄褐色シルト	10YR5/2灰黄褐色シルトをわずかに含む　植物を含む　表土
2. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	粗砂を多量に含む　5～10mm程度の小礫を少量含む　粘性なし　かたくしまる
3. 10YR4/3にぶい黄橙色シルト	7.5YR4/2灰褐色シルトを多量に含む　酸化鉄を含む
4. 10YR6/3にぶい黄橙色シルト	10YR4/1褐灰色シルトを少量含む
5. 10YR3/2黒褐色粘質シルト	酸化鉄を含む
6. 10YR2/1黒色粘質シルト	2.5Y5/2暗灰黄色砂を層状に含む　炭化物及び木片、植物繊維を含む　粘性ややあり　しまりややあり
7. 10YR2/1黒色粘質シルト	2.5Y5/2暗灰黄色砂を層状に多量に含む　炭化物及び木片、植物繊維を含む　粘性ややあり　しまりややあり
8. 10YR2/1黒色粘質シルト	2.5Y5/2暗灰黄色砂を層状に少量含む　炭化物及び木片、植物繊維を含む　粘性ややあり　しまりややあり
9. 5Y2/1黒色粘質シルト	10YR5/8黄褐色有機物を多量に含む　しまりあり
10. 2.4Y4/1黄灰色粘質シルト	微細炭化物を全体に微量に含む　しまりあり
11. 2.5Y2/1黒色粘質シルト	2.5Y5/1黄灰色粘質シルトを斑状に少量含む　しまりなし
12. 5Y5/1灰色粘質シルト	有機物及び炭化物を微量に含む　しまりなし
13. 10Y6/1灰色粘質シルト	微細な炭化物を多量に含む　有機物を微量に含む　しまりなし
14. 10Y4/1灰色粘質シルト	微細炭化物を少量含む　有機物を少量含む　しまりなし



第 38 図　基本層序





第 39 図　A 区　竪穴建物 ST1200

ST1200
1. 10YR3/4暗褐色シルト　2.5Y5/6黄褐色シルトを粒状に多く含む　7.5YR6/8橙色焼土を粒状に微量含む　固くしまる
2. 10YR3/4暗褐色シルト　2.5Y5/6黄褐色シルトを斑状に多く含む　固くしまる
3. 2.5Y4/6オリーブ褐色シルト　2.5Y3/1黒褐色シルトを粒、斑状に多く含む　10YR5/8黄褐色の鉄分が帯状に混じる　しまる
4. 10YR2/3黒褐色シルト　2.5Y5/6黄褐色シルトを斑状に多く含む　10YR5/6黄褐色砂質シルトを粒状に微量含む　しまる
5. 10YR3/4暗褐色シルト　2.5Y8/4淡黄色砂質シルトをブック上に少し含む　2.5Y6/8明黄褐色シルトを粒状に少し含む　しまる

EL2528
1. 7.5YR4/4褐色焼土　10YR3/2黒褐色シルトを筋状にわずかに含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR4/4褐色シルトを小ブロックで含み、炭化物をわずかに含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR4/4褐色シルトを小ブロックで少し含む
4. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト　10YR2/2黒褐色シルトをわずかに含む

EK2354
1. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y6/6明黄褐色シルトを粒状に少し含む　炭化物を粒状に微量含む　固くしまる
2. 2.5Y3/3暗オリーブ色シルト　2.5Y6/6明黄褐色シルトを粒、斑状に多く含む　しまる

EP2355
1. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR4/4褐色シルトをブロックで少し含む
2. 10YR4/4褐色シルト　10YR2/2黒褐色シルトをわずかに含む

EP2356
1. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR4/4褐色シルト小ブロックを斑状に含む　炭化物を少量含む
2. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR4/4褐色シルトブロックを多量に含む
3. 炭化物層　10YR4/4褐色シルトをわずかに含む

EP2552
1. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR4/4褐色シルトを小ブロックで少し含み、炭化物と7.5YR5/6明褐色焼土をわずかに含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR4/4褐色シルトを小ブロックで斑状に含む
3. 炭化物層　10YR3/2黒褐色粘質土を斑状に含む

EP2530
1. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR4/4褐色シルトを小ブロックでわずかに含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR4/4褐色シルトを含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR4/4褐色シルトをブロックで含み、10YR2/2黒褐色シルトを少し含む

EP2532
1.10YR2/2黒褐色シルト　7.5YR5/6明褐色焼土を粒状にわずかに含む　炭化物を粒状にわずかに含む　かたくしまる
2. 2.5Y3/2黒褐色シルト　2.5Y7/6明黄褐色砂質シルトを粒状にわずかに含む　炭化物を粒状にわずかに含む　かたくしまる

EP2533
1. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR4/4褐色シルトを小ブロックでわずかに含む

EP2534
1. 10YR4/4褐色シルト　10YR3/2黒褐色シルトを斑状に含む
2. 10YR4/4褐色シルト　2.5Y4/3オリーブ褐色シルトを小ブロックでわずかに含み、10YR3/2黒褐色シルトを斑状に含む
3. 10YR4/4褐色シルト　10YR3/2黒褐色シルトを斑状に少し含む

EP2535
1. 10YR3/2黒褐色粘質シルト　10YR2/2黒褐色シルトと10YR4/4褐色シルトを小ブロックで少し含む
2. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR4/4褐色シルトを小ブロックで含み、炭化物を少し含む
3. 10YR3/2黒褐色粘質土　10YR4/4褐色シルトを含む

EP2537
1. 10YR3/2黒褐色シルト　2.5Y4/3オリーブ褐色シルトと10YR4/6褐色焼土を小ブロックで斑状に含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト　7.5YR5/6明褐色焼土をブロックで含み、炭化物をわずかに含む

EP2538
1. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR4/4褐色シルトを小ブロックでわずかに含む
2. 10YR4/4褐色シルト　10YR3/2黒褐色シルトを帯状に含み、7.5Y5/6明褐色焼土をブロックで含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR4/4褐色シルトを斑状に少し含む
4. 10YR4/4褐色シルト　10YR3/2黒褐色シルトを斑状に少し含む
5. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR4/4褐色シルトを7.5Y5/6明褐色シルトと炭化物を斑状に含む

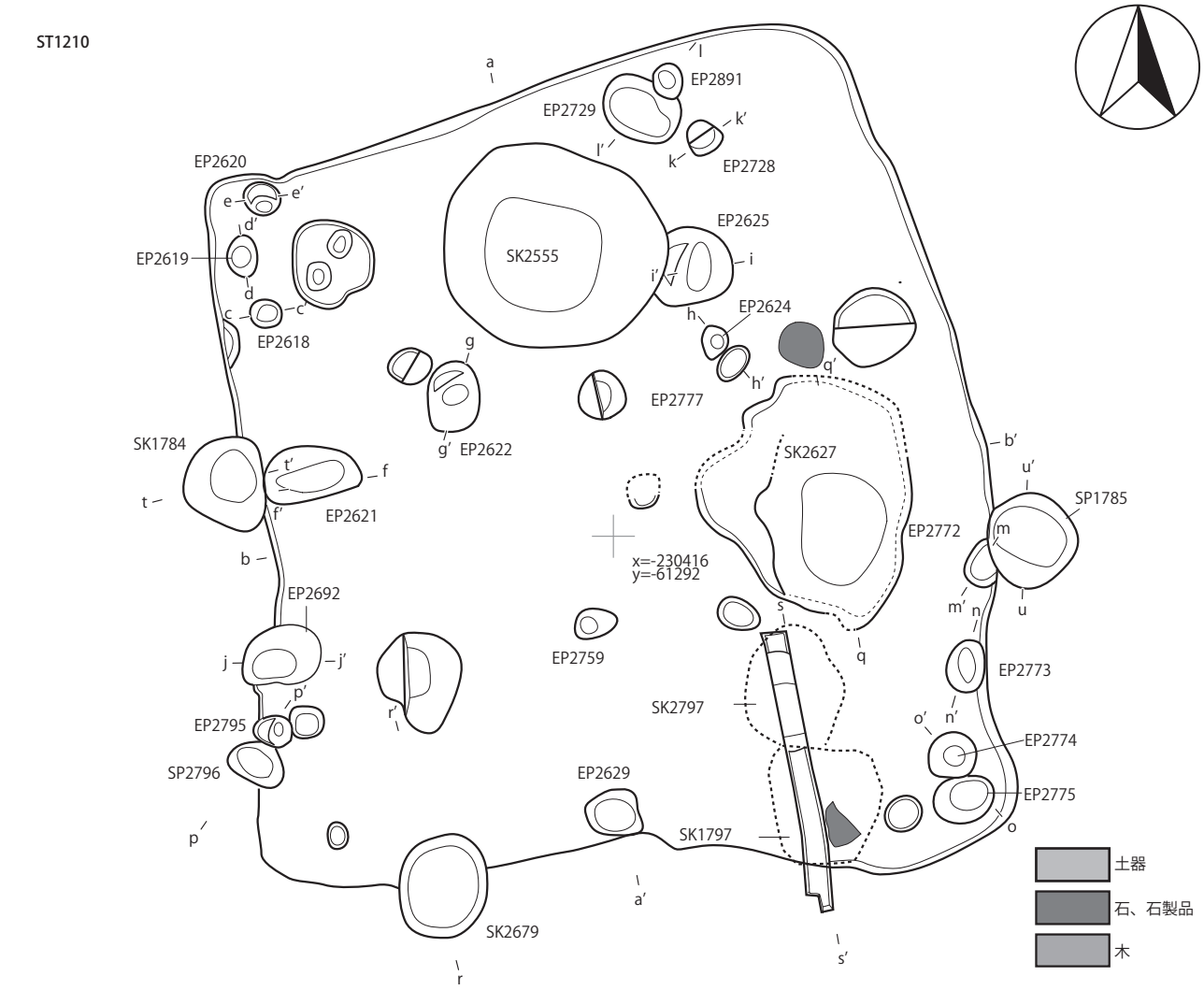
EP2539
1. 2.5Y3/2黒褐色シルト　2.5Y4/6オリーブ褐色砂質シルトを粒状及び斑状に多量に含む　炭化物を少量含む　しまりあり
2. 2.5Y3/2黒褐色シルト　ほぼ純層　しまりあり
3. 10YR1.7/1黒色炭層　10YR4/4褐色焼土を斑状に少量含む　しまりなし

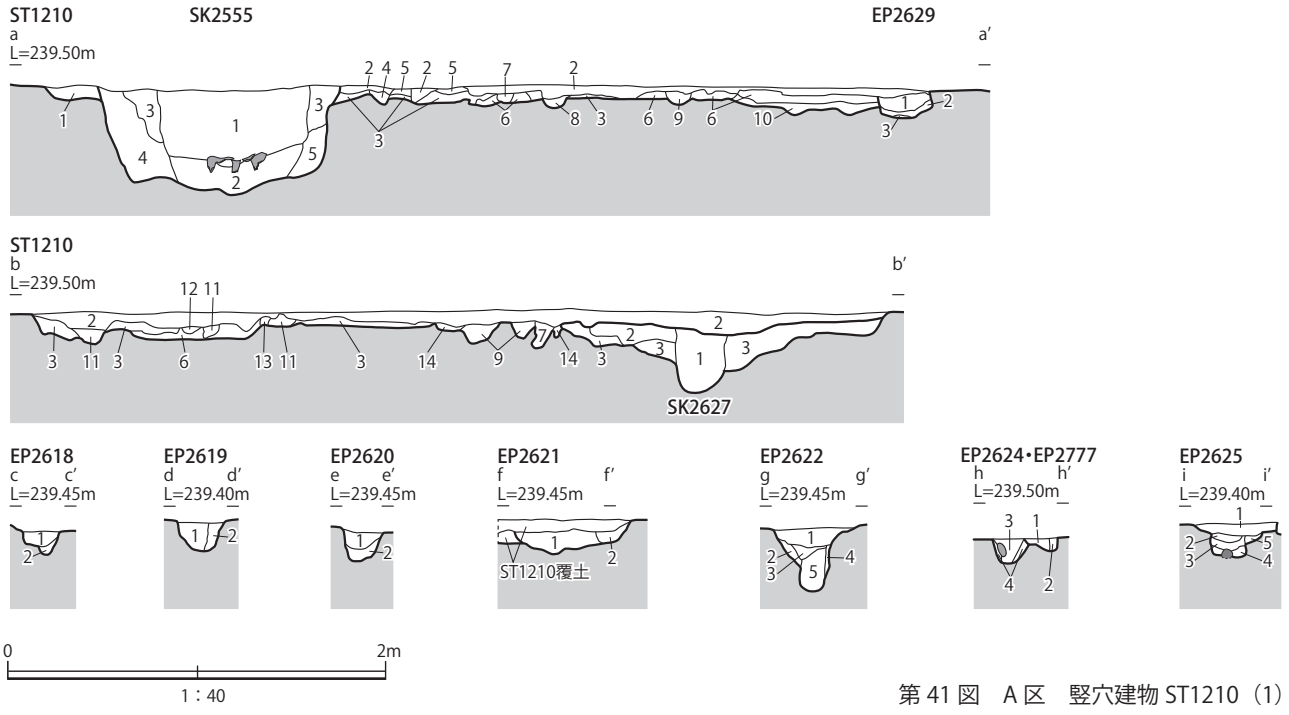
EP2564
1. 2.5Y3/2黒褐色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルト、炭化物を粒状に少し含む　固くしまる
2. 10YR6/6明黄褐色砂質シルト　10YR3/1黒褐色シルトを粒状に少し含む　しまる
3. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y5/6黄褐色砂質シルト、7.5YR5/8明褐色焼土を粒状にわずかに含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる

EP2565
1. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR8/4浅黄橙色砂質シルトをブロック状、粒状に少し含む　しまる
2. 10YR7/8黄橙色砂質シルト　2.5Y4/3オリーブ褐色シルトを斑状に多く含む　しまる

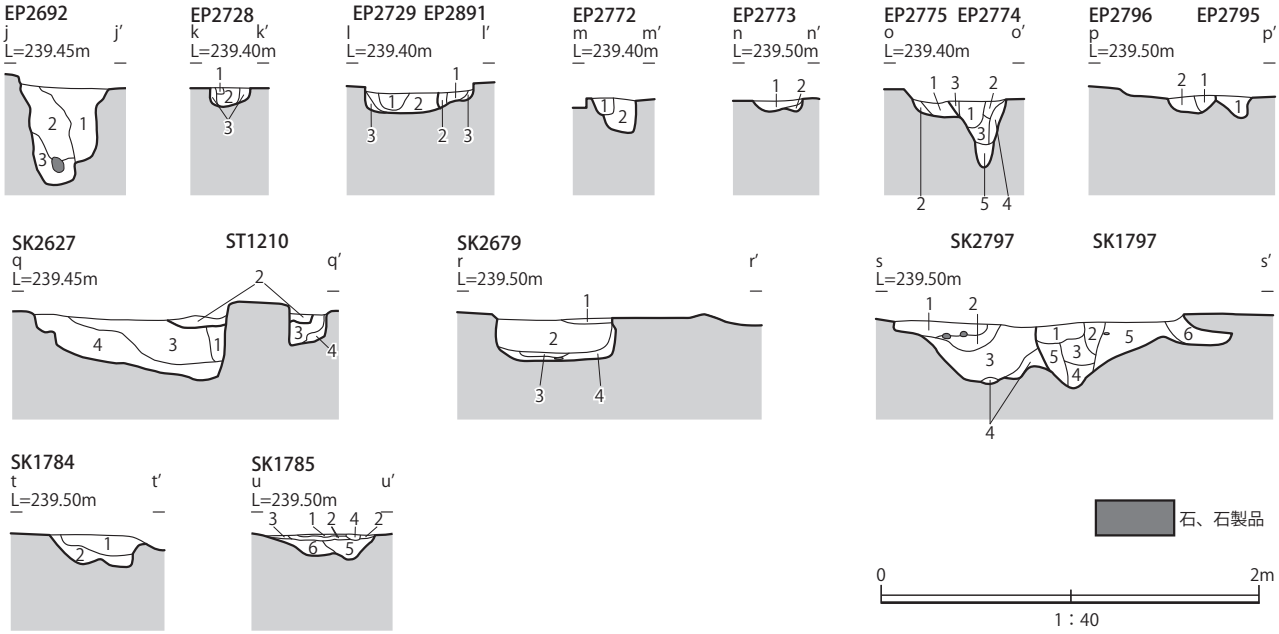
SP2333
1. 10YR3/4暗褐色シルト　2.5Y8/4淡黄色砂質シルトをブロック状に少し含む　2.5Y6/8明黄褐色シルトを粒状に少し含む　しまる

第 40 図　A 区　竪穴建物 ST1200 の注記





第 41 図　A 区　竪穴建物 ST1210（1）



ST1210

1. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y5/4黄褐色砂質シルトを粒状に少し含む　炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 2.5Y6/4にぶい黄色シルト	2.5Y4/6オリーブ褐色シルトを粒状に多く含む　2.5Y8/3淡黄色シルトを斑状に多く含む 炭化物を粒状に少し含む　固くしまる
3. 2.5Y3/2黒褐色シルト	2.5Y8/4淡黄色シルトを粒状に少し含む　2.5Y4/6オリーブ褐色粘土をブロック状にわずかに含む 炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
4. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y6/3にぶい黄色砂質シルトをブロック状にひとつ含む　炭化物を斑状にわずかに含む　しまる
5. 2.5Y6/2灰黄色シルト	10YR5/8黄褐色焼土を粒状にわずかに含む　2.5Y8/2灰白色粘土をブロック、粒状に少し含む 炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
6. 2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルト	2.5Y4/1黄灰色シルトを斑状に、2.5Y2/1黒色シルトを粒状に少し含む　固くしまる
7. 10YR3/2黒褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを粒状に少し含む　固くしまる
8. 2.5Y6/4にぶい黄色シルト	2.5Y5/6黄褐色砂を斑状に多く含む　固くしまる
9. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y5/6黄褐色砂を斑状に多く含む　炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
10. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y7/6明黄褐色砂質シルトを粒状に多く含む　炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
11. 10YR3/2黒褐色シルト	2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを粒状にわずかに含む　固くしまる
12. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト	2.5Y6/3にぶい黄色シルトを粒状に少し含む　固くしまる
13. 2.5Y6/6明黄褐色砂層	2.5Y2/1黒色シルトを斑状にわずかに含む　固くしまる
14. 10YR3/2黒褐色シルト	2.5Y8/3淡黄色砂質シルトを帯状に少し含む　土器片を粒状にわずかに含む　固くしまる

EP2618

1. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト	2.5Y4/4オリーブ褐色シルトを粒状にわずかに含む。炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
2. 2.5Y6/4にぶい黄色シルト	2.5Y3/2黒褐色シルトを斑状に多く含む　固くしまる

EP2619

1. 10YR3/3暗褐色シルト	2.5Y6/3にぶい黄色シルトを斑状に少し含む　固くしまる
2. 10YR3/3暗褐色シルト	2.5Y6/3にぶい黄色シルトを粒状にわずかに含む　固くしまる

EP2620

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y8/3淡黄色シルトを粒状に少し含む　固くしまる
2. 2.5Y8/3淡黄色シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを斑状に多く含む　固くしまる

EP2621

1. 2.5Y3/2黒褐色シルト	2.5Y5/3黄褐色シルトを斑状に多く含む　炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y5/3黄褐色シルトを粒状に少し含む　炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる

EP2622

1. 10YR3/2黒褐色シルト	2.5Y8/3淡黄色シルトを粒、斑状にわずかに含む　固くしまる
2. 2.5Y4/4オリーブ褐色シルト	2.5Y3/2黒褐色シルトを斑状に少し含む　固くしまる
3. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y6/6明黄褐色シルトを粒状にわずかに含む　土器片をわずかに含む　しまる
4. 2.5Y3/1黒褐色シルト	2.5Y7/6明黄褐色粘質シルトを斑状に多く含む　しまりなし
5. 10YR2/3黒褐色粘質シルト	2.5Y8/4淡黄色シルトを粒状にわずかに含む　しまりなし

EP2624

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR4/2灰黄褐色シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
2. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に30％含む

EP2625

1. 10YR3/2黒褐色シルト	2.5Y8/4淡黄色シルトを斑状に少し含む　固くしまる
2. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト	2.5Y5/4黄褐色シルトを斑状に少し含む　しまりなし
3. 2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを斑、ブロック状に多く含む　しまりなし
4. 2.5Y4/4オリーブ褐色シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを斑、ブロック状に多く含む　しまりなし
5. 2.5Y7/4浅黄色砂質シルト	2.5Y3/2黒褐色シルトを斑状に多く含む　しまる

EP2629

1. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルト、2.5Y4/4オリーブ褐色砂質シルトを粒状に多く含む 炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 10YR3/4暗褐色シルト	2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを粒状に少し含む　炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
3. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト	2.5Y7/6明黄褐色砂質シルトを斑状にわずかに含む　しまりなし

第 42 図　A 区　竪穴建物 ST1210（2）

EP2692
1. 10YR3/3暗褐色シルト　2.5Y7/3浅黄色シルトを粒状に少し含む　固くしまる
2. 2.5Y4/4オリーブ褐色シルト　2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状に少し含む　2.5Y7/3浅黄色粘土を柱状にわずかに含む　しまりなし
3. 2.5Y3/1黒褐色シルト　2.5Y5/4黄褐色粘質シルトを斑状に多く含む　しまりなし

EP2728
1. 10YR5/2灰黄褐色シルト　ほぼ純層
2. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで10％含む　5mm程度の炭化物を含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む

EP2729
1. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む　粘性ややあり
2. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に40％含む　粘性ややあり
3. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR2/1黒色シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む

EP2772
1. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
2. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に40％含む

EP2773
1. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR4/2灰黄褐色シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に20％含む

EP2774
1. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
2. 10RY2/2黒褐色シルト　ほぼ純層　粘性ややあり
3. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト及び10YR2/1黒色粘質シルトをブロック状に10％含む
4. 10YR3/2黒褐色シルト　ほぼ純層　粘性ややあり
5. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む　やや砂質シルト

EP2775
1. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
2. 10YR3/2黒褐色 シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む

EP2777
1. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む

EP2795
1. 10YR3/3暗褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む

EP2796
1. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む　粘性ややあり
2. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む　粘性ややあり
3. 10YR3/3暗褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む

EP2891
1. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
3. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト　10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に20％含む

SK1784
1. 2.5Y6/3にぶい黄色粘質シルト　10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に10％含む
2. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト　10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に20％含む

SK1785
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y8/4淡黄色砂質シルトを斑状に多く含む　固くしまる
2. 10YR1.7/1黒色シルト　2.5Y8/3淡黄色砂質シルトを粒状に少し含む　2.5Y8/1灰白色シルトを粒状にわずかに含む　固くしまる
3. 2.5Y3/2黒褐色シルト　2.5Y8/3淡黄色シルトを粒状に多く含む　固くしまる
4. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを粒状にごくわずかに含む　固くしまる
5. 2.5Y4/4オリーブ褐色砂質シルト　2.5Y3/1黒褐色シルト、2.5Y5/1黄灰色シルトを帯状に少し含む
6. 2.5Y4/4オリーブ褐色砂質シルト　2.5Y3/1黒褐色シルト、2.5Y5/1黄灰色シルトを柱状に少し含む　固くしまる

SK1797
1. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
4. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで3％含む
5. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト　10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に30％含む
6. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む

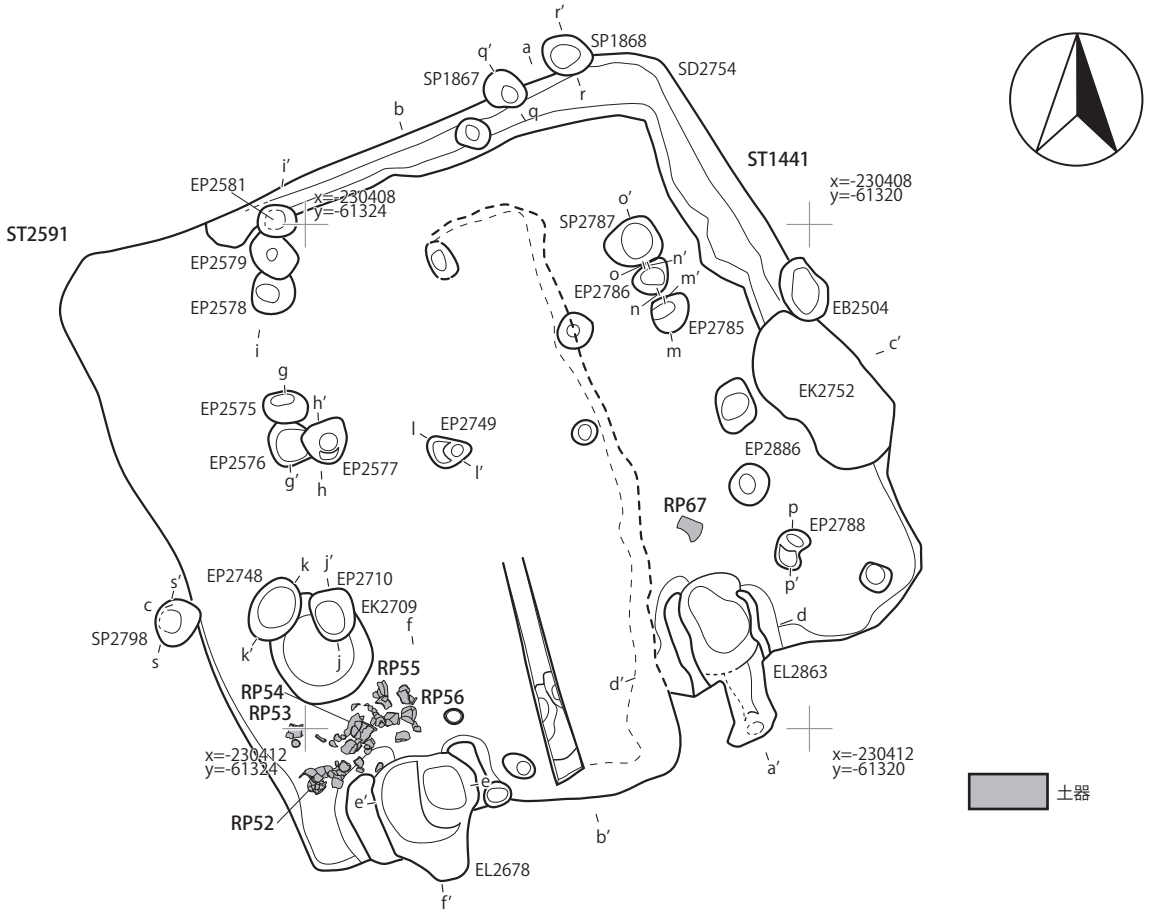
SK2555
1. 2.5Y3/2黒褐色シルト　2.5Y7/3浅黄色砂質シルトを斑状に少し含む　固くしまる
2. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト　2.5Y7/6明黄褐色砂質シルトを帯状にわずかに含む　固くしまる
3. 2.5Y3/2黒褐色シルト　2.5Y8/4淡黄色シルトを斑状にわずかに含む　木材を含む　固くしまる
4. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色粘土をブロック状に多く含む　1cm～5cm大の砂利を多く含む　しまる
5. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色粘土をブロック状に多く含む　しまる

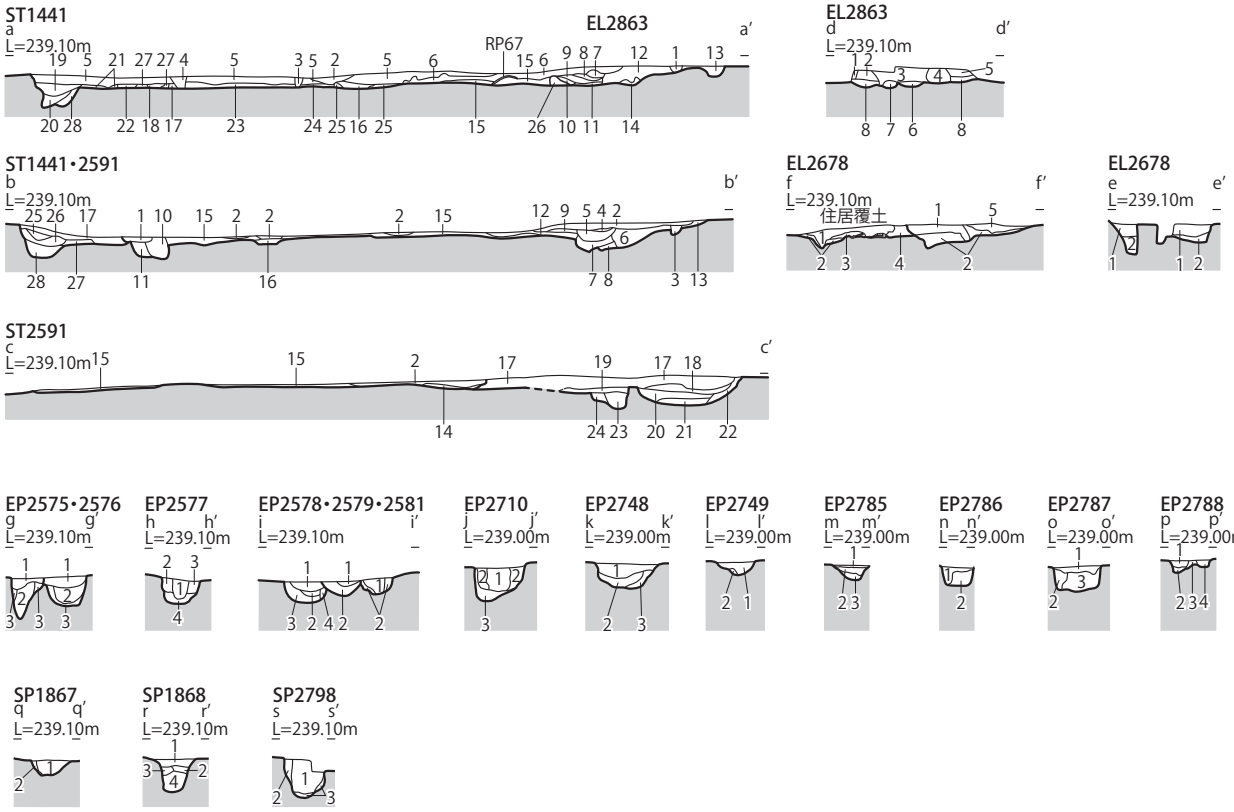
SK2627
1. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト　2.5Y8/2灰白色シルトを粒状に多く含む　2.5Y2/1黒色シルトを粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 2.5Y6/4にぶい黄色シルト　2.5Y4/2暗灰黄色シルトを斑状に多く含む　固くしまる
3. 2.5Y3/2黒褐色シルト　2.5Y8/4淡黄色シルトを粒状に多く含む　固くしまる
4. 2.5Y3/2黒褐色シルト　2.5Y8/4淡黄色シルトを斑状に多く含む　固くしまる

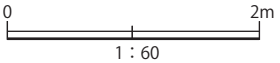
SK2679
1. 7.5YR3/2黒褐色シルト　7.5YR5/4にぶい褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
2. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む　炭化物をわずかに含む
3. 7.5YR3/1黒褐色シルト　ほぼ純層
4. 10YR4/2灰黄褐色シルト　7.5YR3/1黒褐色シルト及び10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む　粘性ややあり

SK2797
1. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に50％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR2/2黒褐色粘質シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR2/2黒褐色粘質シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に50％含む
4. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む　粘性ややあり
5. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト　10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に30％含む

第 43 図　A 区　竪穴建物 ST1210 の注記







第 44 図　A 区　竪穴建物 ST1441・2591

ST1441a-a′

1. 10YR3/2黒褐色シルト	炭化物及び7.5YR5/4にぶい褐色焼土を小ブロックで5％含む　粘性ややあり
2. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR6/3にぶい黄橙色シルト及び7.5YR6/6橙色焼土、10YR2/2黒褐色粘質シルトを ブロック状に20％含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトを小ブロックで3％含む
4. 10YR3/2黒褐色粘質シルト	10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトを小ブロックで5％含む
5. 10YR4/2灰黄褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む　粘性ややあり
6. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR6/33にぶい黄橙色砂質シルト及び10YR5/2灰黄褐色シルトをブロック状に20％含む 粘性ややあり
7. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	ほぼ純層
8. 7.5YR3/2黒褐色粘質シルト	被熱により一部7.5YR4/4褐色を呈する（EL2863）
9. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に10％含む（EL2863）
10. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に20％含む（EL2863）
11. 7.5YR褐色シルト	7.5YR5/6明褐色焼土ブロックを含む（EL2863）
12. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に20％含む　粘性ややあり
13. 10YR3/3暗褐色シルト	10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に30％含む　粘性ややあり
14. 7.5YR3/3暗褐色シルト	10YR3/2黒褐色シルト及び7.5YR5/4にぶい褐色焼土をブロック状に20％含む
15. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック及び帯状に30％含む
16. 10YR4/2灰黄褐色シルト	10YR5/3にぶい黄橙色砂質シルト及び10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に20％含む
17. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトを小ブロックで10％含む　粘性ややあり
18. 10YR4/2灰黄褐色シルト	10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に30％含む
19. 10YR4/2灰黄褐色シルト	10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に10％含む　粘性ややあり
20. 10YR4/2灰黄褐色シルト	10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に40％含む
21. 10YR5/2灰黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルトを小ブロックで3％含む
22. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルトを小ブロックで3％含む
23. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に20％含む
24. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR2/1黒色粘質シルト及び10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
25. 10YR5/2灰黄褐色砂質シルト	10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト及び10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に30％含む
26. 10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト	10YR4/2灰黄褐色シルトをブロック状に10％含む（EL2863袖）
27. 10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト	10YR5/2灰黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
28. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色粘質シルトをブロック状に10％含む
29. 10YR3/2黒褐色シルト	2.5Y4/2暗褐色砂質シルトを斑状に含む　10YR2/2黒褐色シルトをわずかに含む

ST1441・ST2591b-b′,c-c′

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR4/4褐色シルトを斑状に少量含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR4/4褐色シルトを斑状にわずかに含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR4/4褐色シルトを斑状に少量含む　炭化物をわずかに含む
4. 10YR6/6明褐色焼土	10YR4/2黒褐色シルトを上下に少量含む
5. 10YR3/2黒褐色シルト及び 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトの互層	炭化物を少量含む
6. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR4/4褐色シルトを斑状に少量含む　10YR6/6明褐色焼土及び炭化物を少量含む
7. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR4/4褐色シルトを斑状に含む　10YR2/2黒褐色シルト及び炭化粒をわずかに含む
8. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR4/4褐色シルトを少量含む
9. 10YR3/2黒褐色シルト及び 10YR6/6明褐色焼土の互層	0.5mm程度の層
10. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルトを小ブロックで斑状に多量に含む
11. 2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト	10YR2/2黒褐色シルトを斑状に少量含む
12. 10YR3/2黒褐色シルト	2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルトを筋状に含む
13. 2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルトを少量含む
14. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR6/6明褐色焼土をブロック状にわずかに含む　炭化物をわずかに含む
15. 2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルトを斑状に少量含む
16. 2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト	10YR2/2黒褐色シルトを斑状に少量含む
17. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR3/2黒褐色シルト及び10YR4/4褐色シルトを斑状に含む
18. 10YR2.2黒褐色シルト	10YR4/4褐色シルトを斑状に少量含む
19. 10YR3/2黒褐色シルト	2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルトの互層　0.5mm程度で重なる
20. 10YR3/2黒褐色シルト	2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルトを斑状に含む
21. 2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルトを斑状にわずかに含む
22. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR3/2黒褐色シルト及び2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト粒を斑状にわずかに含む
23. 10YR3/2黒褐色シルト	2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト及び10YR2/2黒褐色シルトをブロックで少量含む
24. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR2/2黒褐色シルトをブロックでわずかに含む
25. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR3/2黒褐色シルト及び10YR4/4褐色シルト粒を斑状に含む
26. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR4/4褐色シルトを斑状にわずかに含む
27. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y4/2暗褐色砂質シルトを小ブロックでわずかに含む
28. 10YR3/2黒褐色シルト	2.5Y4/2暗褐色砂質シルトを斑状に含む　10YR2/2黒褐色シルトをわずかに含む　周溝か

EL2678

1. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色シルトを粒状に多く含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
2. 2.5Y6/2灰黄色粘質シルト	2.5Y7/3浅黄色粘質シルトを斑状に多く含む　しまる
3. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状に少し含む　しまる
4. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y8/2灰白色粘質シルトを斑状に少し含む　7.5YR6/8橙色焼土を粒状に多く含む 炭化物を斑状にわずかに含む　しまる
5. 10YR3/3暗褐色シルト	10YR8/1灰白色粘質シルトを斑状に多く含む　10YR6/1褐灰色シルトを粒状に多く含む　固くしまる

EL2863

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR4/4褐色シルトを斑状に含む　10YR2/2黒褐色シルト及び炭化粒をわずかに含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト及び 10YR6/6明褐色焼土の互層	0.5mm程度の層
3. 10YR3/2黒褐色シルト 及び10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトの互層	炭化物を少量含む
4. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR4/4褐色シルトを斑状に少量含む　10YR6/6明褐色焼土及び炭化物を少量含む
5 . 10YR3/2黒褐色シルト	10YR4/4褐色シルトを斑状に少量含む　炭化物をわずかに含む
6. 10YR3/2黒褐色シルト	2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルトを筋状に含む
7. 2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルトを少量含む
8. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR4/4褐色シルトを少量含む

第 45 図　A 区　竪穴建物 ST1441・2591 の注記（1）

EK2752
1. 10YR5/2灰黄褐色砂質シルト　10YR3/2黒褐色シルトを小ブロックで3％含む
2. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト　10YR3/2黒褐色シルトを小ブロックで3％含む
3. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト　10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に20％含む

EP2575
1. 10YR3/2黒褐色シルト　2.5Y4/2オリーブ褐色砂質シルトを斑状に多く含む
2. 10YR3/1黒褐色シルト　2.5Y4/2オリーブ褐色砂質シルトを斑状にわずかに含む
3. 2.5Y4/2オリーブ褐色砂質シルト　10YR3/1黒褐色シルトを斑状に少し含む

EP2576
1. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR4/4褐色シルトと10YR3/1黒褐色シルトを斑状に少し含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR4/4褐色シルトを小ブロックで斑状に含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR4/4褐色シルトを斑状に含む

EP2577
1. 2.5Y7/1灰白色粘質シルト　2.5Y2/1黒色シルトを斑状に多く含む　しまる
2. 2.5Y2/1黒色シルト　2.5Y7/1灰白色粘質シルトを斑状に多く含む　しまる
3. 2.5Y2/1黒色シルト　2.5Y7/1灰白色粘質シルトを斑状に、2層よりわずかに少なく含む　しまる
4. 2.5Y2/1黒色シルト　10YR1.7/1黒色シルトを斑状に少し含む　しまる

EP2579
1. 10YR3/3暗褐色シルト　10YR6/3にぶい黄橙色粘質シルトを小ブロックで5％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR6/3にぶい黄橙色粘質シルトをブロック状に30％含む

EP2578
1. 10YR3/3暗褐色シルト　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に30％含む
2. 10YR3/3暗褐色シルト　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に40％含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に10％含む
4. 10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト　10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に10％含む

EP2581
1. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に20％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に10％含む

EP2710
1. 2.5Y3/2黒褐色シルト　2.5Y7/3浅黄色シルトを粒状に多く含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
2. 2.5Y3/1黒褐色シルト　2.5Y8/3淡黄色シルトを斑状に少し含む　しまる
3. 2.5Y3/1黒褐色シルト　2.5Y8/3淡黄色シルトを斑状に多く含む　しまる

EP2748
1. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト　2.5Y7/2灰黄色シルトを斑状に少し含む　2.5Y2/1黒色シルトを粒状にわずかに含む　しまる
2. 2.5Y3/2黒褐色シルト　2.5Y7/2灰黄色シルトを斑状にわずかに含む　しまる
3. 2.5Y3/2黒褐色シルト　2.5Y7/2灰黄色シルトを斑状に多く含む　2.5Y3/1黒褐色シルトを粒状にわずかに含む　しまる

EP2749
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y5/6黄褐色砂質シルトを斑状に多く含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
2. 2.5Y6/6明黄褐色砂質シルト　2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを帯状に少し含む　しまる

EP2785
1. 10YR3/2黒褐色シルト　2.5Y74浅黄色粘質シルトを粒状に少し含む　しまりなし
2. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト　2.5Y7/3浅黄色粘質シルトを斑状に多く含む　10YR1.7/1黒色シルトを粒状にわずかに含む　しまる
3. 2.5Y5/3黄褐色シルト　2.5Y2/1黒色シルトを粒状に少し含む　しまる

EP2786
1. 10YR3/2黒褐色シルト　2.5Y6/3にぶい黄色粘質シルトを粒、斑状に少し含む　しまりなし
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y7/3浅黄色粘質シルトを斑状に多く含む　10YR6/6明黄褐色焼土を斑状に多く含む　しまる

EP2787
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y8/3淡黄色シルトを粒状に多く含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
2. 2.5Y6/3にぶい黄色粘質シルト　2.5Y4/1黄灰色シルトを斑状に多く含む　7.5YR6/8橙色焼土を粒、ブロック状に多く含む
炭化物をブロック状に少し含む　しまる
3. 2.5Y5/3黄褐色粘質シルト　2.5Y2/1黒色シルトを粒、斑状にわずかに含む　しまる

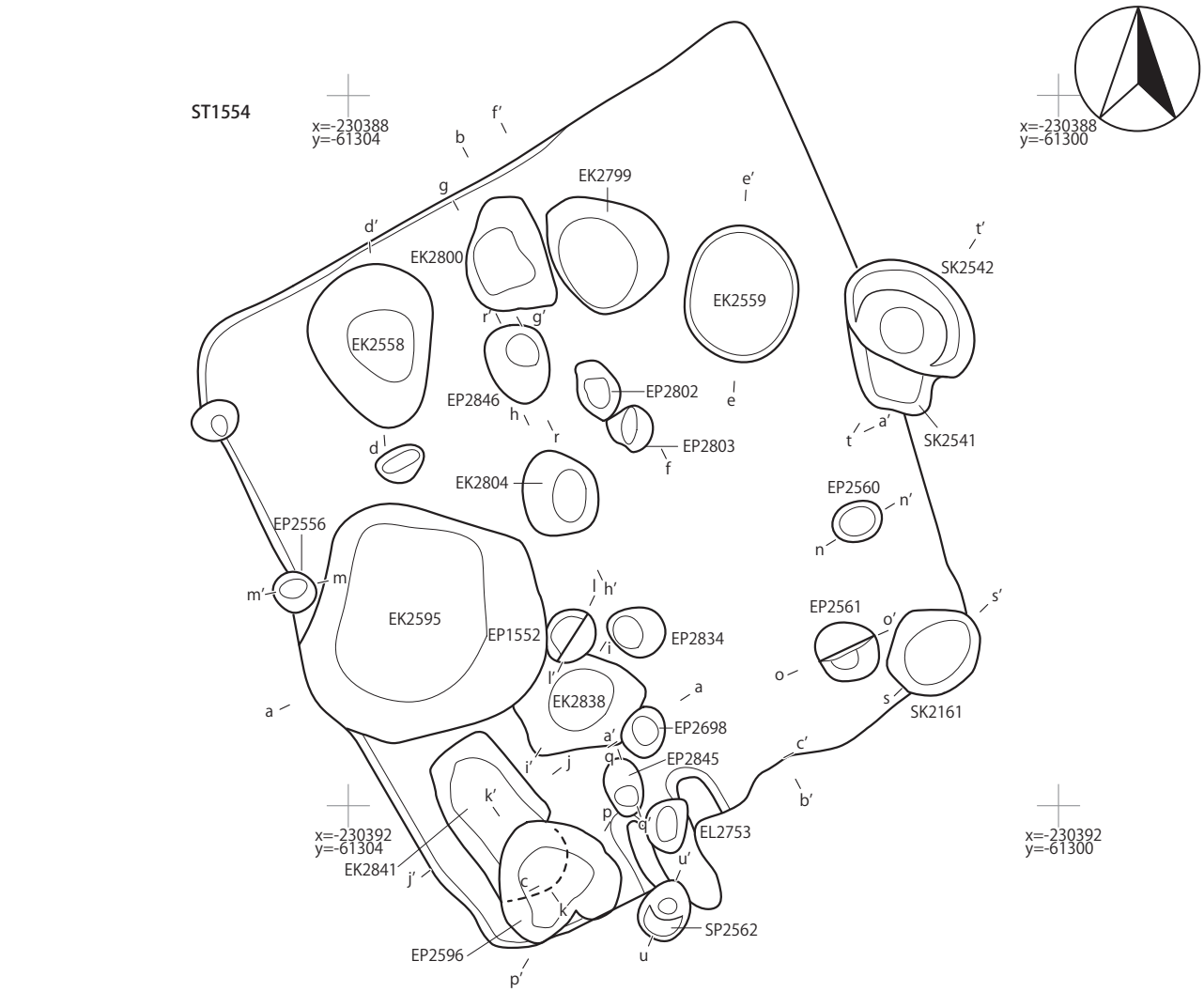
EP2788
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y8/3淡黄色粘質シルト、7.5YR5/6明褐色焼土を斑状に少し含む　しまる
2. 10YR2/3黒褐色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色粘質シルトを粒状に少し含む　2.5Y2/1黒色シルトを斑状に多く含む　しまる
3. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y7/4浅黄色粘質シルトを斑状に多く含む　しまる
4. 10YR3/1黒褐色シルト　2.5Y7/3浅黄色粘質シルトを粒状に少し含む　しまる

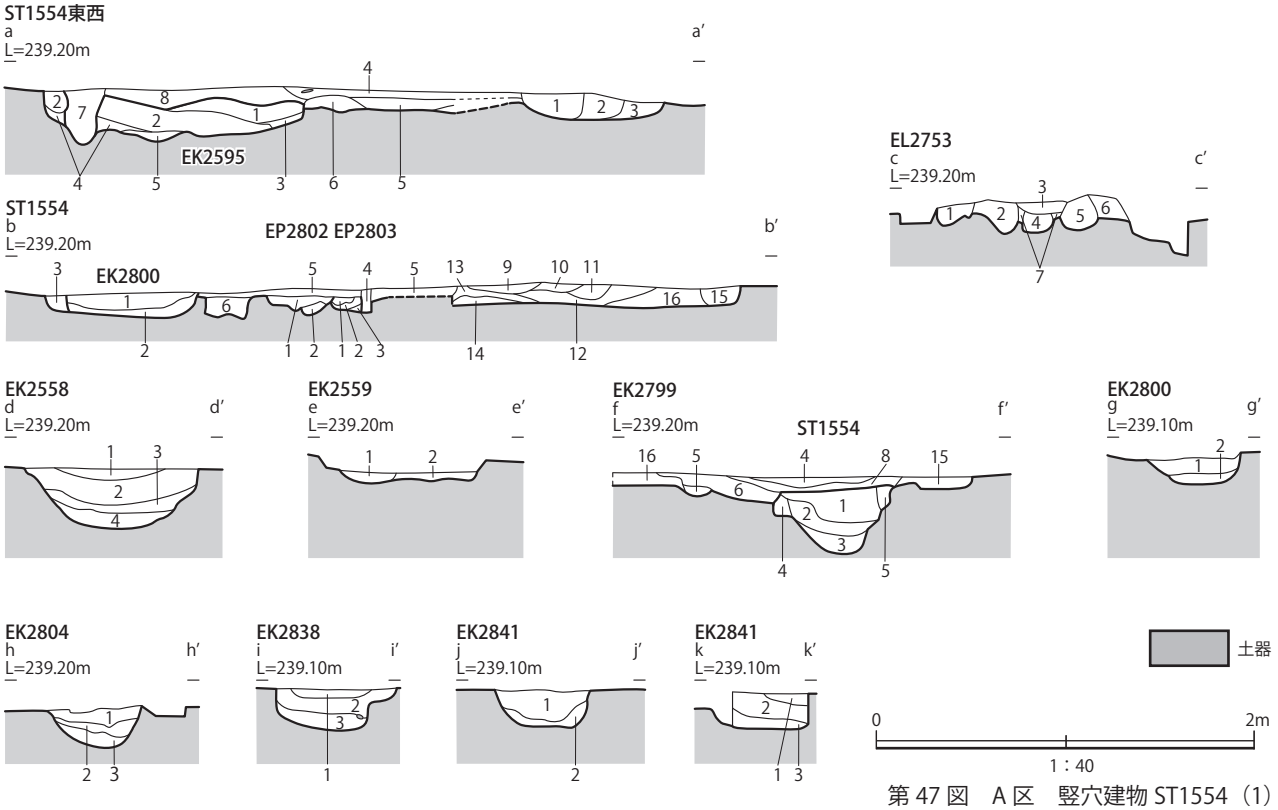
SP1867
1. 10YR4/4褐色シルト　10YR3/2黒褐色シルトを含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR4/4褐色シルトを粒で斑状に少し含む

SP1868
1. 10YR3/2黒褐色砂質シルト　10YR4/4褐色シルトを斑状に少し含む
2. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト　10YR3/2黒褐色シルトを斑状に含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR3/2黒褐色シルトを斑状にわずかに含む
4. 2.5Y3/1黒褐色シルト　2.5Y4/2オリーブ褐色シルトを斑状に含む

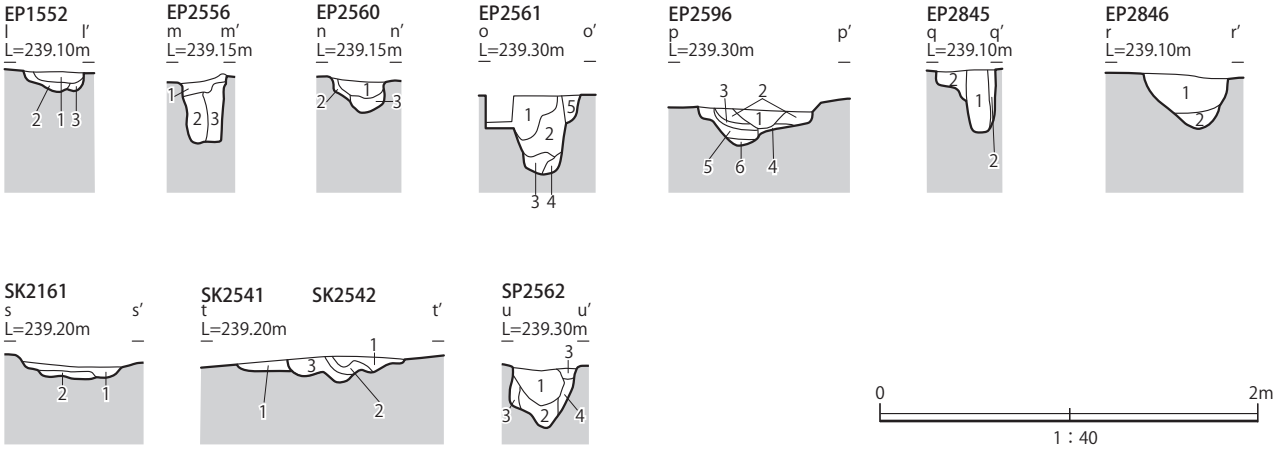
SP2798
1. 2.5Y3/2黒褐色シルト　2.5Y6/2灰黄色シルトを斑状に少し含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
2. 2.5Y3/2黒褐色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色シルトを斑状にわずかに含む　しまる
3. 2.5Y5/6黄褐色粘質シルト　2.5Y4/1黄灰色粘質シルトを斑状に多く含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる

第 46 図　A 区　竪穴建物 ST1441・2591 の注記（2）





第 47 図　A 区　竪穴建物 ST1554（1）



ST1554

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む 10YR2/1黒色粘質シルトを小ブロックで5％含む
2. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に30％含む　10YR2/1黒色粘質シルトを小ブロックで5％含む
3. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	ほぼ純層
4. 10YR3/2黒褐色シルト	3～5mm程度の炭化物を多量に含む　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
5. 10YR3/2黒褐色シルト	炭化物を少量含む　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む 10YR2/1黒色粘質シルトを小ブロックで3％含む
6. 10YR6/3にぶい黄橙色シルト	10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に10％含む　かたくしまる
7. 10YR3/2黒褐色シルト	炭化粒を含む　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
8. 10YR3/2黒褐色シルト	5～10mm程度の炭化物を含む　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
9. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
10. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
11. 7.5YR3/3暗褐色シルト	焼土を小ブロックで含む　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
12. 10YR3/2黒褐色シルト	炭化物及び焼土をわずかに含む　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
13. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
14. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒色シルトをブロック状に10％含む
15. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
16. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを斑状に50％含む

EL2753

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで10％含む
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に40％含む
3. 7.5YR4/3にぶい褐色シルト	5YR5/4にぶい赤褐色焼土を小ブロックで5％含む
4. 10YR2/1黒色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
5. 10YR3/3暗褐色砂質シルト	7.5YR5/4にぶい褐色焼土及び10YR2/2黒色シルトをブロック状に10％含む
6. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む　7.5YR5/4にぶい褐色焼土を小ブロックで3％含む
7. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR2/2黒褐色シルトをブロック状に20％含む

EK2558

1. 10YR22黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで10％含む　炭化物を少量含む
2. 10YR3/3暗褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト及び10YR2/2黒褐色シルトをブロック状に40％含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む　南側に5YR5/4にぶい赤褐色焼土ブロックを含む
4. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む　南側に5YR5/4にぶい赤褐色焼土ブロックを含む

EK2559

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む　7.5YR6/4にぶい橙色焼土の小ブロックを わずかに含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト	5mm程度の炭化物をわずかに含む　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む

EK2595

1. 10YR2/2黒褐色シルト	5～10mm程度の炭化物を含む　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む 5YR5/4にぶい赤褐色焼土の小ブロックを含む
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト	5～10mm程度の炭化物を多量に含む　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
4. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
5. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む

EK2799

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト及び10YR2/1黒色粘質シルトをブロック状に10％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む　10YR2/1黒色粘質シルトの小ブロックを5％含む
3. 10YR3/3暗褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
4. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に40％含む
5. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に10％含む

EK2800

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR2/1黒色粘質シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状30％含む
2. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に20％含む

EK2804

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む　粘性ややあり
2. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
3. 10YR5/3にぶい黄褐色シルト	10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に30％含む

第 48 図　A 区　竪穴建物 ST1554（2）

EK2838

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む 炭化物と7.5YR5/4にぶい褐色焼土を斑状に3％含む
2. 7.5YR3/3暗褐色シルト	10YR2/2黒褐色シルトと7.5YR5/4にぶい褐色焼土を小ブロックで10％含む
3. 7.5Y3/3暗褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む　炭化物及び7.5YR5/4にぶい黄褐色焼土を小ブロックで5％含む

EK2841

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む　炭化物を含む
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む

EP1552

1. 7.5YR2/2黒褐色シルト	炭化物と5YR5/4にぶい赤褐色焼土を小ブロックで10％含む
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで10％含む　炭化物を含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む

EP2556

1. 10YR3/4暗褐色シルト	2.5Y4/4オリーブ褐色シルトを斑状に少し含む　しまる
2. 10YR3/4暗褐色シルト	2.5Y4/4オリーブ褐色シルトを斑状にわずかに含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
3. 10YR3/4暗褐色シルト	2.5Y4/4オリーブ褐色シルトを粒、斑状に少し含む　土器片、炭化物を粒状にわずかに含む　しまる

EP2560

1. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y7/6明黄褐色シルトを粒状に少し含む　しまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y7/6明黄褐色シルトを斑状に多く含む　しまる
3. 2.5Y5/6黄褐色砂質シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト、2.5Y2/1黒色シルトを斑状に少し含む　しまる

EP2561

1. 10YR2/2黒褐色シルト	5mm程度の炭化物をわずかに含む　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
3. 10YR4/3にぶい黄褐色細砂	
4. 10YR3//3暗褐色細砂	
5. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR2/2黒褐色シルトをブロック状に30％含む

EP2596

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に40％含む　粘性ややあり
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10Y5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで3％含む　炭化粒をわずかに含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に50％含む
4. 10YR6/2灰黄褐色砂質シルト	10YR2/2黒褐色シルトをブロック状に10％含む
5. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む　3mm程度の炭化物を含む
6. 10YR6/2灰黄褐色砂質シルト	10YR2/2黒褐色シルトをブロック状に20％含む

EP2802

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト及び10YR2/1黒色粘質シルトをブロック状に20％含む
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に40％含む

EP2803

1. 10YR3/3暗褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
2. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/3暗褐色シルトをブロック状に20％含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト	ほぼ純層　粘性ややあり

EP2845

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む　粘性ややあり
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む　炭化物を少量含む　粘性ややあり

EP2846

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトをブロック状に10％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む

SK2161

1. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y6/6明黄褐色砂質シルトを斑状に多く含む　しまる
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質シルト	2.5Y2/1黒色シルトを斑状にわずかに含む　しまりなし

SK2541

1. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に10％含む

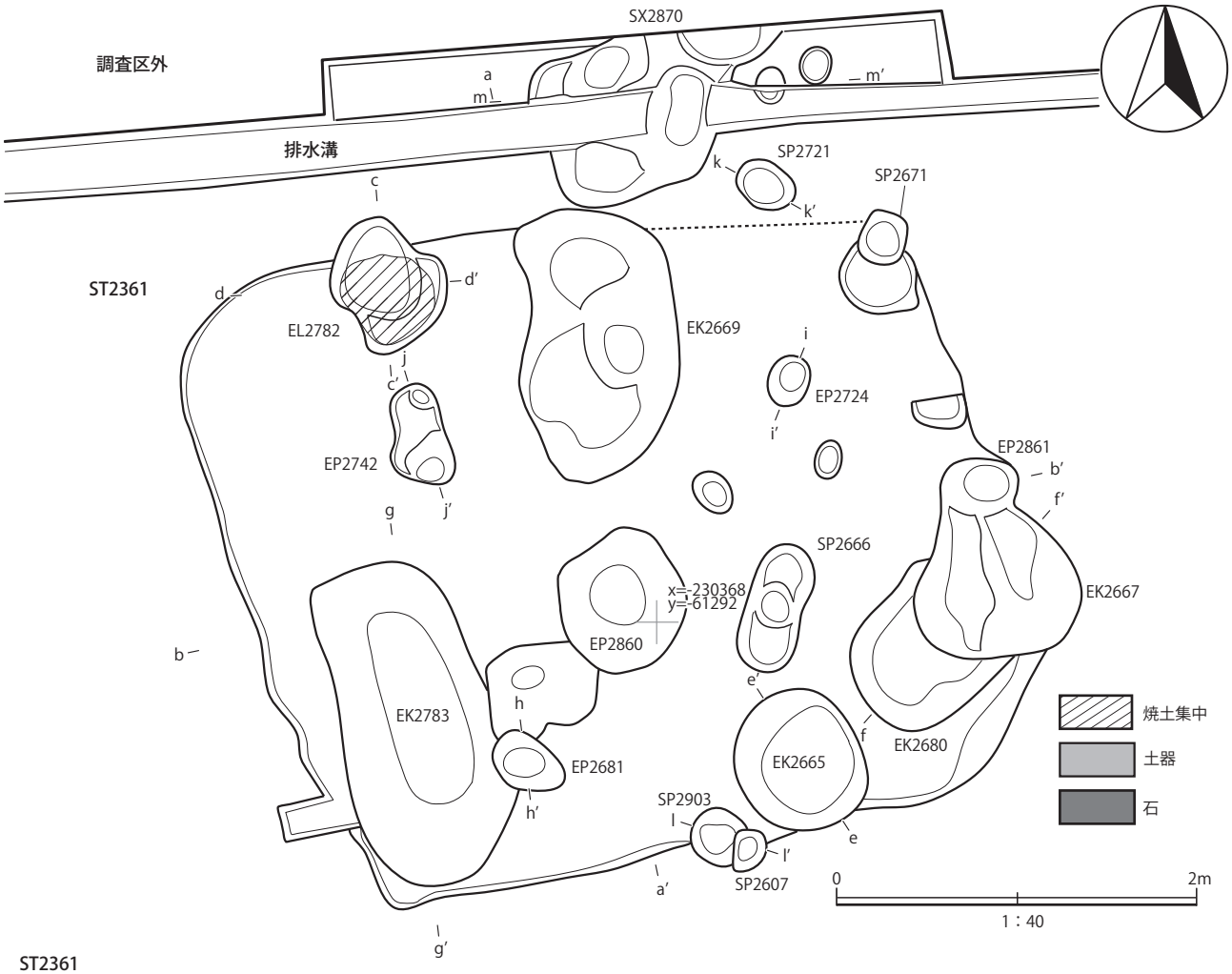
SK2542

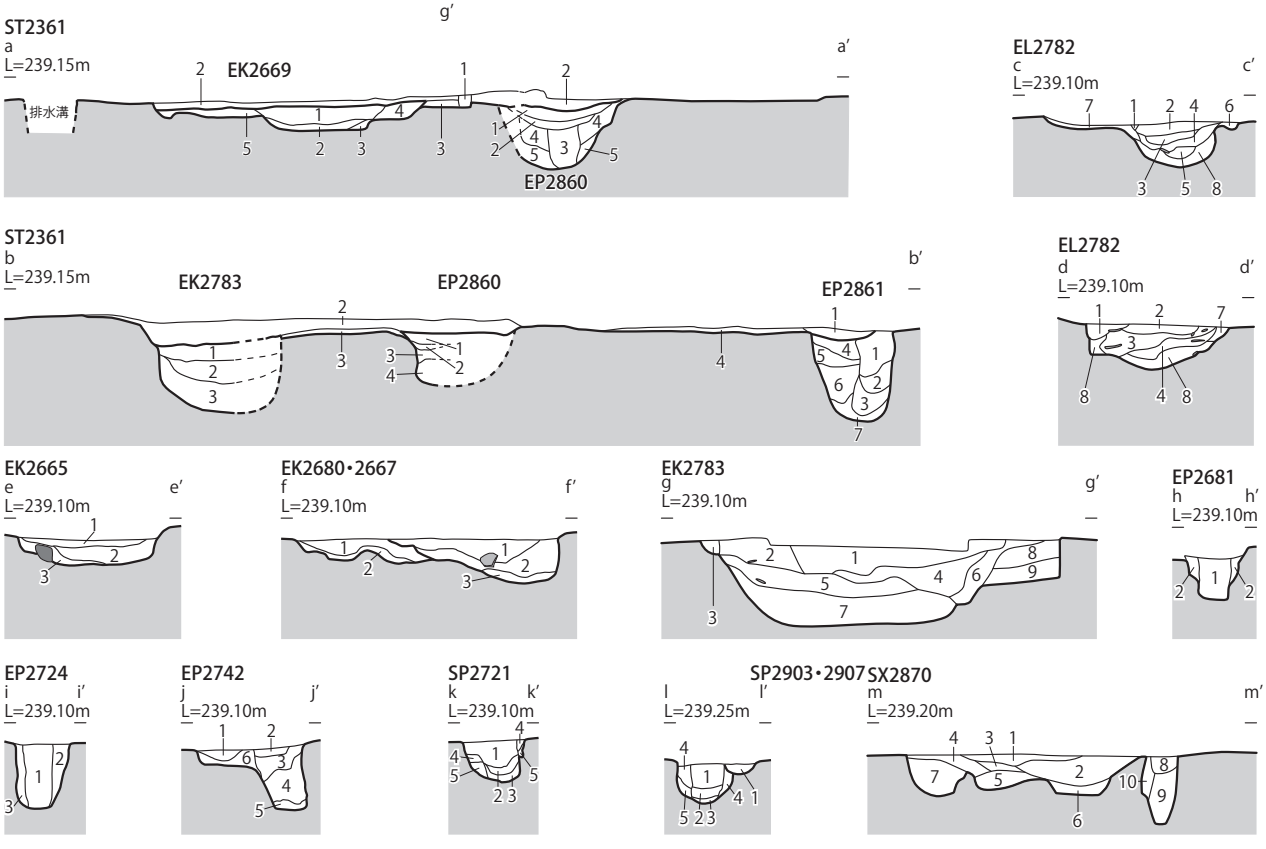
1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト及び10YR2/1黒色シルトをブロック状に20％含む
2. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に30％含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで10％含む

SP2562

1. 10YR1.7/1黒色シルト	2.5Y7/4浅黄橙色砂質シルトを粒状、斑状に少し含む　炭化物を粒状に少し含む　固くしまる
2. 2.5Y3/2黒褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを斑状に多く含む　しまる
3. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y6/6明黄褐色砂質シルトを粒状に少し含む　しまる
4. 2.5Y4/4オリーブ褐色砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状にわずかに含む　しまる

第 49 図　A 区　竪穴建物 ST1554 の注記





第 50 図　A 区　竪穴建物 ST2361

ST2361

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR4/3にぶい黄褐色シルトを斑状にわずかに含む　しまる
2. 10YR1.7/1黒色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色シルトを粒状に少し含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
3. 2.5Y6/4にぶい黄色粘質シルト	2.5Y3/2黒褐色シルトを斑状に多く含む　しまる
4. 2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト	2.5Y2/1黒色シルトを粒状に多く含む　しまる

EL2782

1.10YR2/2黒褐色シルト	10YR4/2灰黄褐色粘質シルトを小ブロックで10％含む　5Y5/4にぶい赤褐色焼土を小ブロックで5％含む
2. 7.5YR3/3暗褐色シルト	10YR2/2黒褐色シルト及び5YR5/6明赤褐色焼土をブロック状に20％含む
3. 7.5YR3/2黒褐色シルト	5YR5/6明赤褐色焼土をブロック状に20％含む　10YR2/2黒褐色シルトを小ブロックで5％含む
4. 10YR2/1黒色シルト	炭化物を多量に含む　5YR5/6明赤褐色及び7.5YR5/4にぶい褐色焼土をブロック状に30％含む
5. 10YR3/2黒褐色シルト	5mm程度の炭化物を多量に含む　5YR5/4にぶい赤褐色焼土を小ブロックで3％含む
6. 10YR4/2灰黄褐色シルト	10YR2/2黒褐色シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む 7.5YR5/4にぶい褐色焼土を小ブロックで3％含む
7. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト	10YR4/2灰黄褐色粘質シルト及び10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に20％含む
8. 10YR4/2灰黄褐色シルト	5YR5/6明赤褐色焼土をブロック状に20％含む　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む

EK2665

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR4/3にぶい黄褐色シルトを斑状に少し含む　2.5Y5/4黄褐色シルトを斑状に少し含む 10YR5/6黄褐色焼土、炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	2.5Y7/4浅黄色砂質シルト、10YR7/8黄橙色焼土、10YR4/6褐色焼土、炭化物を粒状に少し含む　しまる
3. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	2.5Y5/4黄褐色砂質シルトを斑状に多く含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
4. 2.5Y2/1黒色粘質シルト	2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを粒状に少し含む　しまる
5. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	2.5Y7/4浅黄色砂質シルト、10YR7/8黄橙色焼土、10YR4/6褐色焼土、炭化物を粒状に少し含む　しまる

EK2667

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粘土を粒、ブロック状にわずかに含む　土器片、炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粘土を粒状に少し含む　土器片、炭化物を粒状にわずかに含む 2.5Y6/6明黄褐色砂質シルトを帯状に少し含む　しまる
3. 2.5Y3/2黒褐色シルト	2.5Y8/3淡黄色砂質シルトを斑状に多く含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる

EK2669

1. 2.5Y4/3オリーブ褐色粘質シルト	2.5Y2/1黒色シルトを斑状に多く含む　しまる
2. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y5/4黄褐色粘質シルトを粒状に多く含む　しまる
3. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y4/3オリーブ褐色粘質シルトを粒状に多く含む　しまる

EK2680

1. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを粒、ブロック状に少し含む　10YR5/6黄褐色焼土を粒状にわずかに含む　しまる
2. 2.5Y5/6黄褐色砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを粒状に少し含む　しまる

EK2783

1. 10YR2/1黒色シルト	10R4/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む　7.5YR5/4にぶい褐色焼土の小ブロックを含む
2. 10YR2/1黒色シルト	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む　粘性ややあり
3. 10YR3/3暗褐色シルト	純層　やや砂質
4. 10YR2/1黒色シルト	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
5. 7.5YR3/2黒褐色シルト	7.5YR5/4にぶい褐色焼土を小ブロックで5％含む 10YR2/1黒色シルト及び10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
6. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
7. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR2/2黒褐色シルトをブロック状に30％含む
8. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む　粘性ややあり
9. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR2/1黒色シルト及び10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に40％含む

EP2681

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	土器片を粒状にわずかに含む　しまる
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y5/4褐色粘質シルトを斑状に多く含む　しまる

EP2724

1. 2.5Y3/1黒褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを粒状にわずかに含む　炭化物、土器片を粒状にわずかに含む　しまる
2. 2.5Y5/3黄褐色砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを帯状に少し含む　しまる
3. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y4/4オリーブ褐色砂質シルトを粒、斑状に少し含む　しまる

EP2742

1. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y5/4黄褐色シルトを斑状に多く含む　10YR5/6黄褐色焼土をブロック状にわずかに含む　しまる
2. 10YR2/3黒褐色シルト	2.5Y3/2黒褐色シルトを粒状にわずかに含む　しまる
3. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色シルト、炭化物、7.5Y5/8明褐色焼土を粒状に多く含む　しまる
4. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y7/3浅黄色シルトを粒状にわずかに含む　しまる
5. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色粘質シルトを斑状に多く含む　しまりなし
6. 2.5Y4/2暗灰黄色粘質シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを斑状に多く含む　しまる

第 51 図　A 区　竪穴建物 ST2361 の注記（1）

EP2860

1. 10YR1.7/1黒色シルト	2.5Y4/2暗灰黄色シルトを粒状に少し含む　しまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y6/3にぶい黄色シルトを斑状にわずかに含む　しまりなし
3. 10YR1.7/1黒色シルト	2.5Y5/3黄褐色シルトを粒、斑状に少し含む。炭化物を粒状にわずかに含む　しまりなし
4. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y7/3浅黄色シルトを粒状に少し含む　しまりなし
5. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y4/4オリーブ褐色シルトを粒状に少し含む　しまりなし

EP2861

1. 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを斑状に多く含む　10YR4/6褐色焼土を粒状にわずかに含む　しまる
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y4/3オリーブ褐色砂質シルトを斑状に少し含む　しまりなし
3. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを粒状に少し含む　しまりなし
4. 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルト、2.5Y5/4黄褐色粘質シルトを斑、粒状に多く含む　しまりなし
5. 2.5Y4/2暗灰黄色砂利層	2.5Y3/1黒褐色シルト、2.5Y5/4黄褐色粘質シルトを斑、粒状に多く含む　しまりなし
6. 2.5Y6/3にぶい黄色砂質シルト	2.5Y4/4オリーブ褐色シルト、2.5Y3/2黒褐色シルトを斑状に少し含む　しまりなし
7. 2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを粒状に少し含む　しまりなし

SP2721

1. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y7/4浅黄色砂質シルト、10YR4/4褐色焼土を粒状にわずかに含む　しまる
2. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを斑状に少し含む　しまる
3. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y4/2暗灰黄色シルトを粒、斑状にわずかに含む　しまる
4. 2.5Y4/4オリーブ褐色シルト	10YR5/8黄褐色焼土、炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
5. 2.5Y5/4黄褐色砂質シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを斑状に多く含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる

SP2903

1. 10YR1.7/1黒色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを斑状に少し含む　固くしまる
2. 10YR1.7/1黒色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを粒状に少し含む　固くしまる
3. 2.5Y4/4オリーブ褐色粘質シルト	2.5Y7/2灰黄色粘質シルトを帯状に少し含む　2.5Y3/1黒褐色シルトを粒状にわずかに含む　しまる
4. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを粒状に少し含む　固くしまる
5. 2.5Y6/6明黄褐色砂質シルト	2.5Y2/1黒色シルトを斑状にわずかに含む　しまりなし

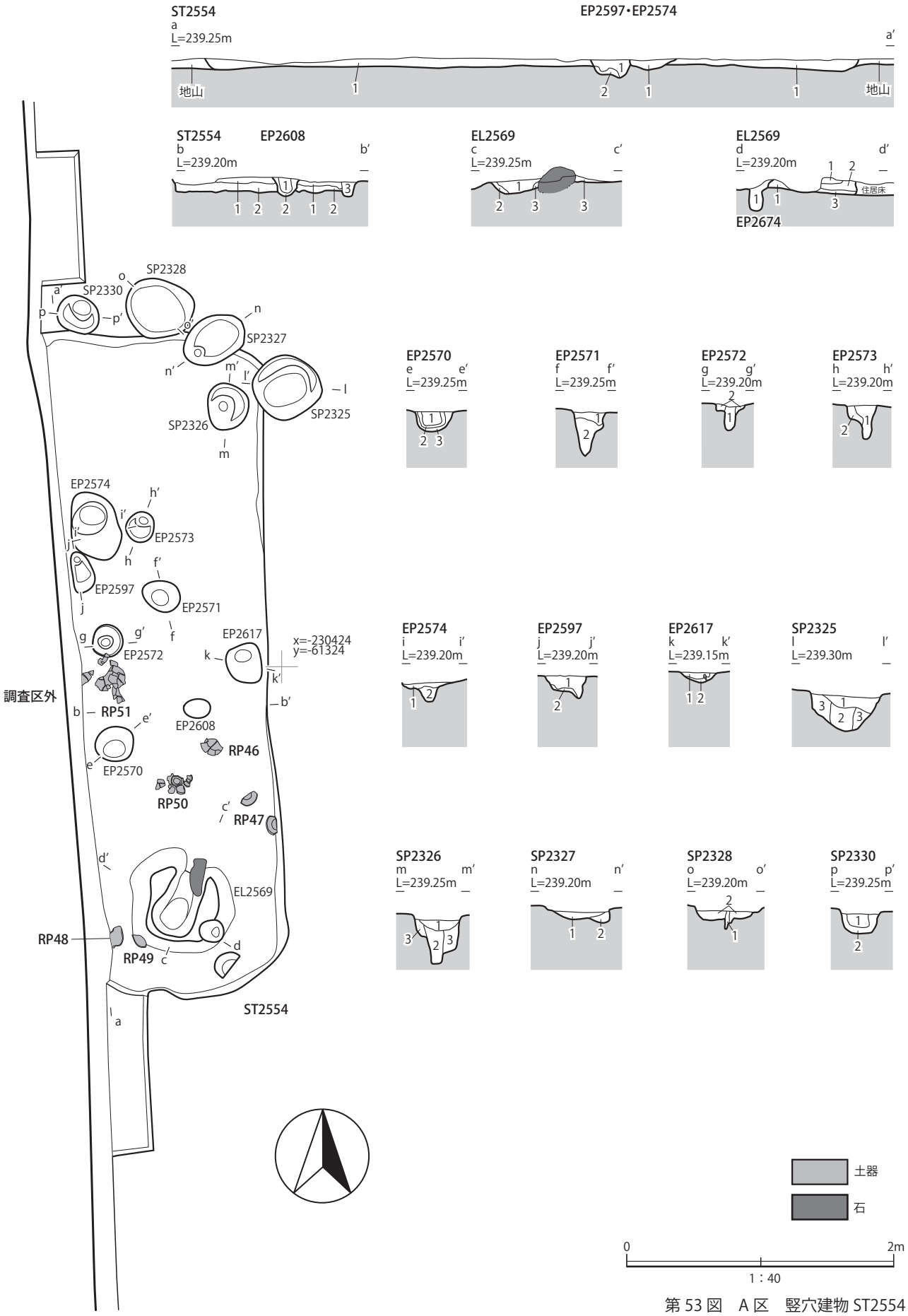
SP2907

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色シルトを斑状に少し含む　10YR3/3暗褐色シルトを帯状に少し含む　固くしまる

SX2870

1. 7.5YR3/2黒褐色シルト	10YR2/1黒色シルト及び7.5YR5/4にぶい褐色焼土をブロック状に30％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR2/1黒色シルト及び10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
4. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR2/1黒色シルト及び10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
5. 10YR2/1黒色シルト	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む　粘性ややあり
6. 7.5YR2/1黒色シルト	5YR5/6明赤褐色焼土をブロック状に30％含む　粘性ややあり
7. 10YR3/3暗褐色シルト	10YR3/2黒褐色シルト及び10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
8. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む　粘性ややあり
9. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む　粘性ややあり
10. 10YR3/3暗褐色シルト	10YR2/2黒褐色シルトを小ブロックで10％含む

第 52 図　A 区　竪穴建物 ST2361 の注記（2）



第 53 図　A 区　竪穴建物 ST2554

ST2554
1. 10YR3/4暗褐色シルト　10YR8/4浅黄橙色シルトを粒状に多く含む　炭化物、土器片も粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 10YR7/8黄橙色シルト　10YR3/1黒褐色砂質シルトを粒状に多く含む　固くしまる
3. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト　10YR7/4にぶい黄橙色シルトを斑状に多く含む　固くしまる

EL2569
1. 10YR3/4暗褐色焼土　7.5YR5/6明褐色焼土を粒状に多く含む　炭化物を粒状に少し含む　しまりなし
2. 10YR3/2黒褐色シルト　7.5YR5/6明褐色焼土を粒状にわずかに含む　固くしまる
3. 10YR3/3暗褐色シルト　7.5YR6/8橙色焼土を粒状にわずかに含む　炭化物を粒状に少し含む　しまる

EP2570
1. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR8/4浅黄橙色シルトを粒状に少し含む　しまりなし
2. 10YR2/1黒色粘質シルト　10YR8/4浅黄橙色シルトを斑状に多く含む　しまる
3. 10YR1.7/1黒色シルト　10YR4/2灰黄褐色シルトを斑状に多く含む　しまる

EP2571
1. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR8/3浅黄橙色シルトを粒状に少し含む　土器片をわずかに含む　しまる
2. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR8/6黄橙色シルトを粒状に少し含む　炭化物を粒状に少し含む　しまりなし

EP2572
1. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR8/4浅黄橙色シルトを粒状に少し含む　しまる
2. 10YR2/1黒色シルト　10YR8/4浅黄橙色シルトを粒状に少し含む　固くしまる

EP2573
1. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR8/4浅黄橙色シルトを粒状に少し含む　炭化物を粒、ブロック状に少し含む　しまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR8/4浅黄橙色砂質シルトを斑状に多く含む　炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる

EP2574
1. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR3/4暗褐色シルトを斑状に多く含む　固くしまる
2. 10YR2/1黒色シルト　10YR7/3にぶい黄橙色シルトを粒状に少し含む　炭化物をブロック状にひとつ含む　しまりなし

EP2597
1. 10YR2/1黒色シルト　10YR7/4にぶい黄橙色シルトを粒状に少し含む　固くしまる
2. 10YR8/4浅黄橙色シルト　10YR3/1黒褐色シルトを斑状に少し含む　しまりなし

EP2608
1. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR3/3暗褐色シルトを帯状に少し含む　固くしまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR7/8黄橙色シルトを斑状に多く含む　固くしまる

EP2617
1. 10YR3/3暗褐色シルト　10YR7/6明黄褐色シルトを粒状にわずかに含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
2. 10YR1.7/1黒色シルト　10YR3/1黒褐色砂質シルトを斑状に多く含む　しまる

EP2674
1. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを粒状に多く含む　固くしまる

SP2325
1. 2.5Y3/1黒褐色シルト　2.5Y7/6明黄褐色砂質シルトを斑状に多く含む　しまる
2. 2.5Y2/1黒色シルト　2.5Y7/4淡黄色砂質シルトを粒状に少し含む　しまりなし
3. 10YR1.7/1黒色シルト　10YR6/8明黄褐色砂質シルトを粒状に多く含む　しまる

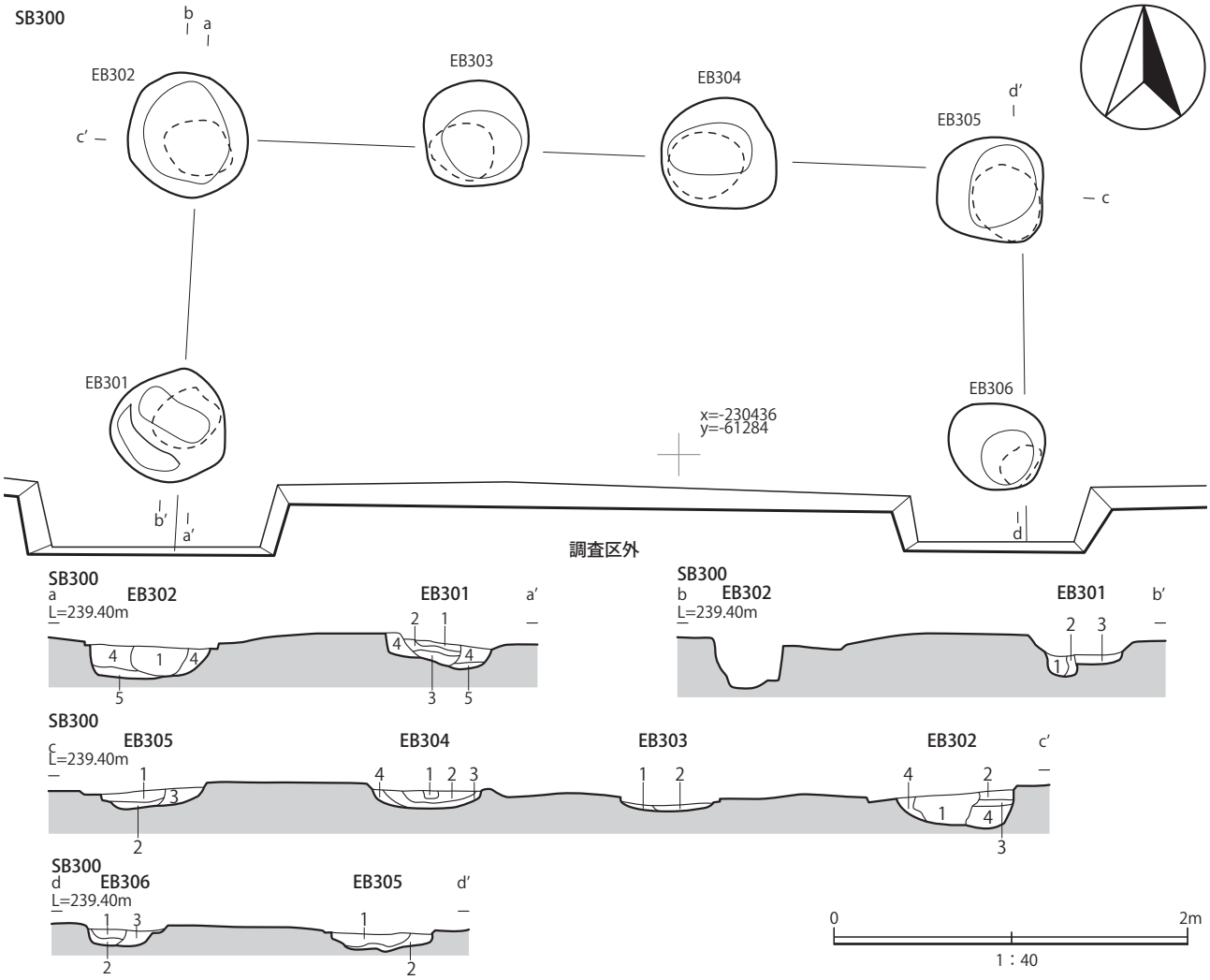
SP2326
1. 2.5Y3/2黒褐色シルト　2.5Y8/4淡黄色砂質シルトを粒状に少し含む　しまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを粒状に少し含む　しまりなし
3. 2.5Y8/4淡黄色砂質シルト　2.5Y3/1黒褐色シルトを粒、斑状に多く含む　しまる

SP2327
1. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト　2.5Y8/2灰白色砂質シルトを粒状に多く含む　炭化物を粒状に少し含む　しまる
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを斑状に多く含む　固くしまる

SP2328
1. 10YR2/3黒褐色シルト　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y7/4浅黄色シルトを斑状に多く含む　炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる

SP2330
1. 10YR3/4暗褐色シルト　10YR7/4にぶい黄橙色シルトを粒状に少し含む　炭化物を粒状にわずかに含む
2. 10YR3/4暗褐色シルト　10YR7/4にぶい黄橙色シルトを粒状に少し含む　炭化物の混ざりはなし

第 54 図　A 区　竪穴建物 ST2554 の注記



EB301 a-a′

1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトの小ブロックをわずかに含む　有機物(植物根)を少量含む
2. 10YR4/1褐灰色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトの小ブロックを1より多く含む　有機物を1より多く含む
3. 10YR4/1褐灰色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトの小ブロックを1より多く含む　2よりわずかにしまりあり
4. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトの小ブロックを少量含む　炭化物をわずかに含む　かたくしまる
5. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトの小ブロック(4より大きい)を少量含む 炭化物をわずかに含む　粘性4よりあり　かたくしまる

EB301 b-b′

1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色シルトを小ブロックでわずかに含む　植物遺体を少量含む　しまりなし
2. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	
3. 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト	10YR3/1黒褐色粘質シルトを斑状に少し含む

EB302

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5YR5/4黄褐色シルトを帯状に多量に含む　しまりなし
2. 2.5Y6/4にぶい黄色シルト	10YR5/6黄褐色シルトを斑状に少量含む　10YR2/1黒色シルトを斑状に少量含む　しまりなし
3. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR4/4褐色シルトを斑状に少量含む　しまりなし
4. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR3/4暗褐色シルトを斑状に多量に含む　2.5Y4/6オリーブ褐色シルトを斑状に多量に含む　しまりなし
5. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR4/4褐色シルトを斑状に少量含む　しまりなし

EB303

1. 2.5Y5/4黄褐色シルト	10Y5/6黄褐色砂粒を小ブロック状に少量含む　しまりなし
2. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y4/3オリーブ褐色シルトを斑状に多量に含む　しまりなし

EB304

1.　2.5Y2/1黒色シルト	有機物を少量含む　しまりなし
2. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト	2.5Y2/1黒色シルトを斑状に少量含む　しまりなし
3. 2.5Y5/4黄褐色シルト	2.5Y2/1黒色シルトを斑状に微量に含む　しまりなし
4. 2.5Y4/6オリーブ褐色シルト	2.5Y4/1黄灰色シルトを粒状に少量含む　しまりなし

EB305

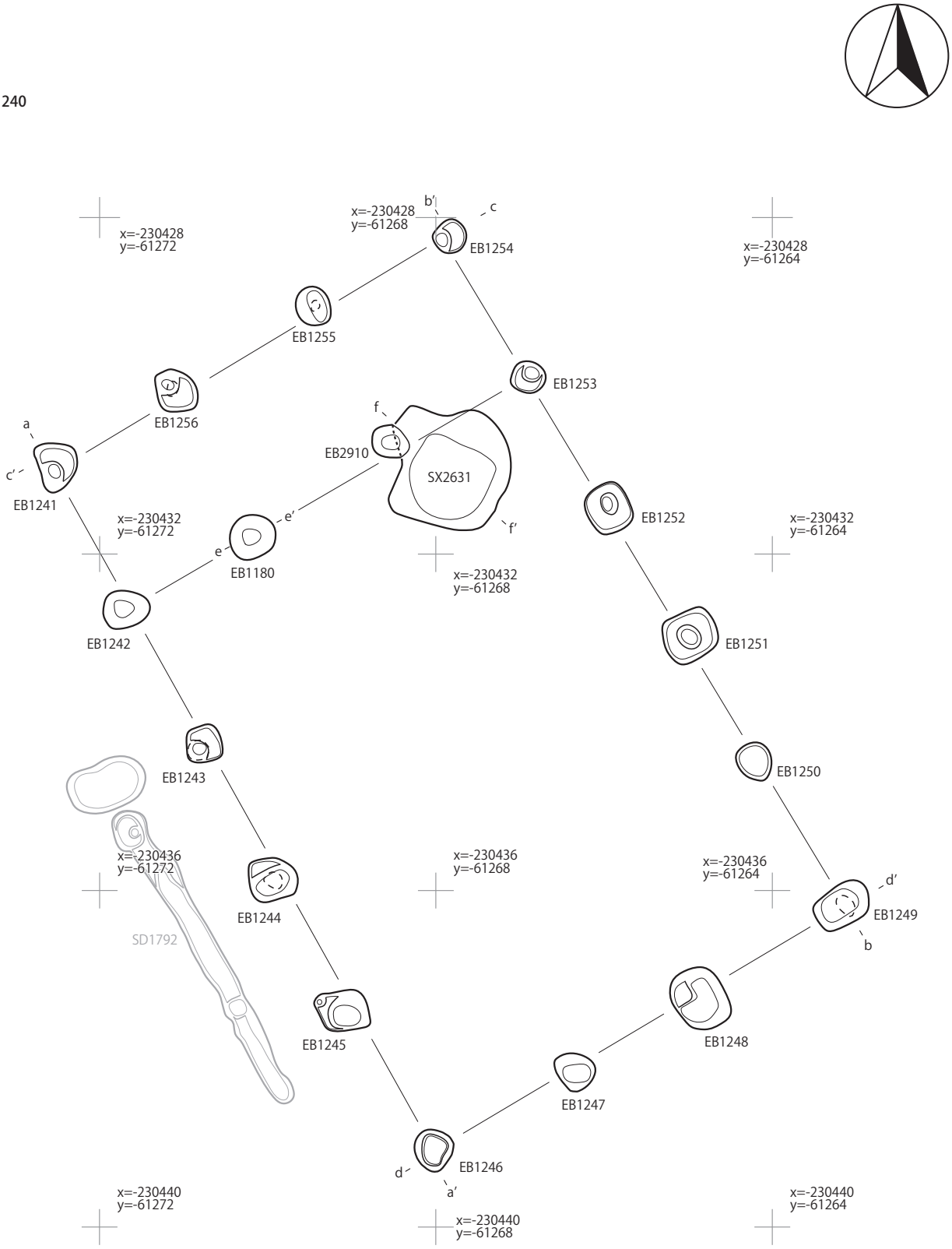
1. 2.5Y7/3浅黄色砂質シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを斑状に多量に含む　10YR2/3黒褐色有機物を多量に含む　しまりなし
2. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y7/3浅黄色砂質シルトを斑状に少量含む　10YR2/3黒褐色有機物を多量に含む　しまりなし
3. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y4/3オリーブ褐色シルトを粒状に多量に含む　しまりなし

EB306

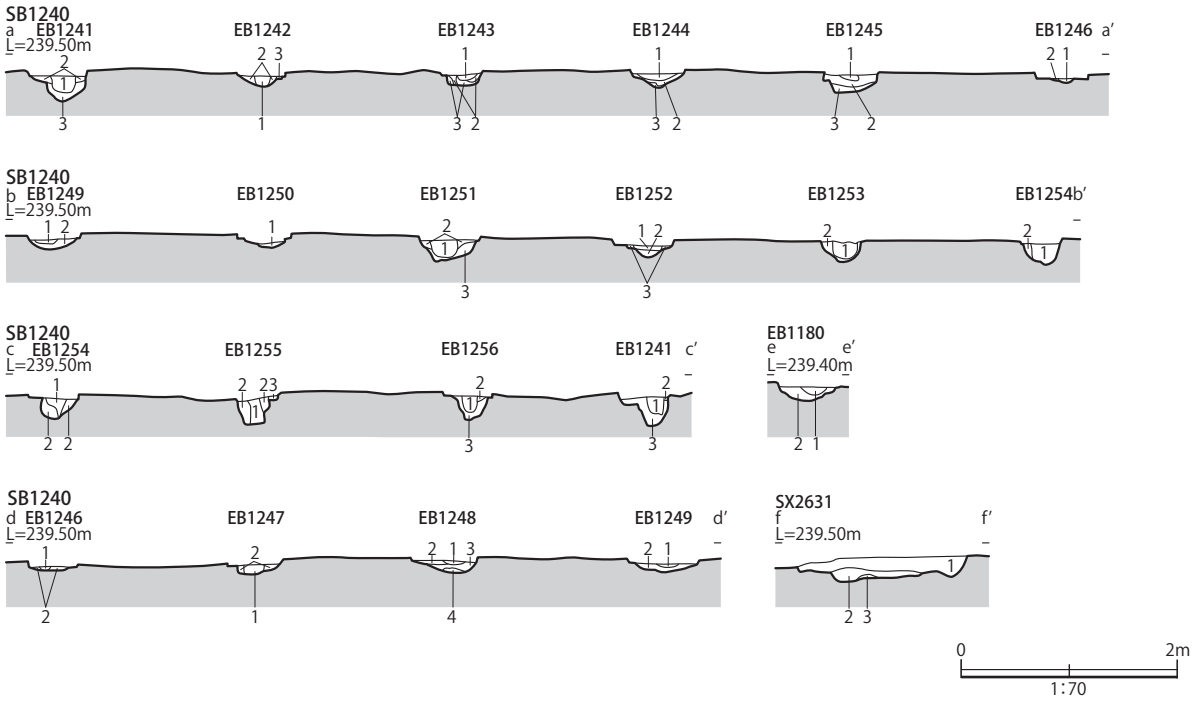
1. 10YR2/1黒色シルト	10YR2/3黒褐色有機物を多量に含む　しまりなし
2. 10YR3/1黒褐色シルト	10YR4/6褐色シルトを粒状に多量に含む　10YR6/4にぶい黄橙色シルトを粒状に少量含む　しまりなし
3. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR8/6黄橙色砂粒を小ブロック状に少量含む　しまりあり

第 55 図　A 区　掘立柱建物 SB300

SB1240



第 56 図　A 区　掘立柱建物 SB1240（1）



EB1180

1. 10YR2/1黒色シルト	10YR4/4褐色シルトを斑状に少し含む
2. 10YR2/1黒色シルト	10YR4/4褐色シルトを斑状に含む

EB1241

1. 10R2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを斑状に30％含む

EB1242

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に40％含む　炭化物をわずかに含む
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に50％含む
3. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで3％含む

EB1243

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
2. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR2/2黒褐色シルトをブロック状に5％含む
3. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む

EB1244

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト及び10YR2/1黒色粘質シルトを帯状に10％含む
2. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に5％含む
3. 10YR3/3暗褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルト及び10YR2/2黒褐色シルトをブロック状に20％含む　やや砂質シルト

EB1245

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで10％含む
3. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に40％含む

EB1246

1. 10YR3/3暗褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
2. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルトを小ブロック、10YR3/3暗褐色シルトをブロック状に20％含む

EB1247

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR2/1黒色粘質シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に40％含む

EB1248

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/1褐灰色粘質シルトの塊（稲杭跡?）を含む 10YR2/1黒褐色粘質シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
4. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルト及び10YR2/1黒色粘質シルトのブロックを含む

第 57 図　A 区　掘立柱建物 SB1240（2）

EB1249
1. 10YR4/4褐色シルト　10YR2/1黒色粘質シルトをブロック状に10％含む
2. 10YR4/4褐色シルト　10YR2/1黒色粘質シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを斑状に30％含む

EB1250
1. 10YR4/4褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む　やや砂質

EB1251
1. 10YR3/3暗褐色シルト　10YR2/1黒色シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
2. 10YR2/1黒色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト及び10YR3/3暗褐色シルトをブロック状に30％含む
3. 10YR3/3暗褐色シルト　10YR2/1黒色シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む　やや砂質

EB1252
1. 10YR2/1黒色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に40％含む
2. 10YR2/1黒色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
3. 10YR3/4褐色砂質シルト　10YR2/1黒色シルトをブロック状に5％含む

EB1253
1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
2. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む

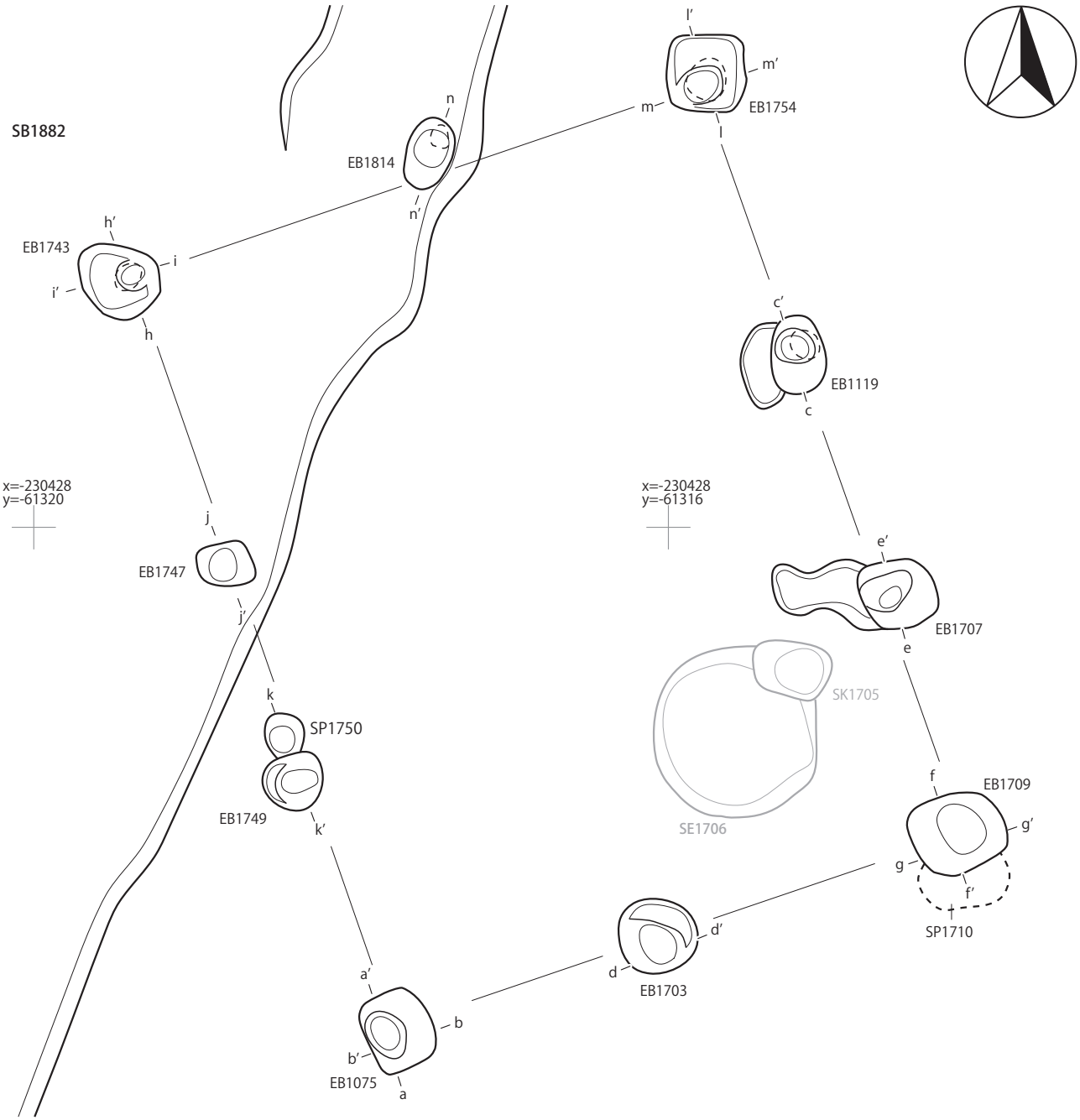
EB1254
1. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
2. 10YR2/2黒褐色シルト　炭化物を含む　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む　粘性ややあり

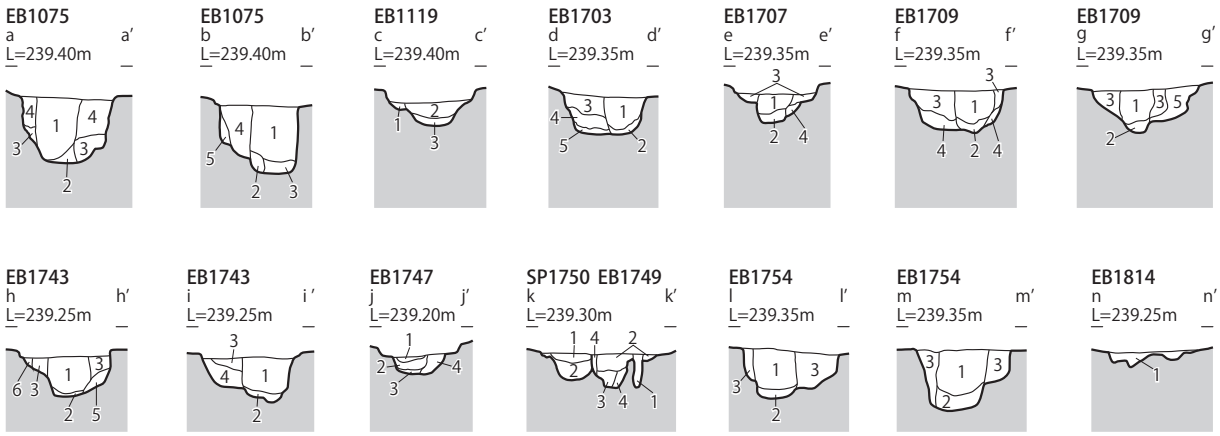
EB1255
1. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
2. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト及び10YR4/4褐色砂質シルト、10YR2/2黒褐色シルトを斑状に含む　人為堆積
3. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む　粘性ややあり

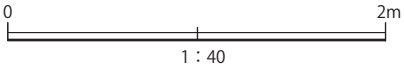
EB1256
1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで3％含む
2. 10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト　10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に5％含む
3. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む

SX2631
1. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR4/4褐色シルト及び10YR4/2灰黄褐色シルトを小ブロックで斑状に含む
2. 10YR4/2灰黄褐色シルト　10YR2/2黒褐色シルト及び10YR4/4褐色シルトを斑状に少量含む
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト　10YR4/4褐色シルトを少量含む

第 58 図　A 区　掘立柱建物 SB1240 の注記







第 59 図　A 区　掘立柱建物 SB1882

EB1075

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y7/6明黄褐色シルトを斑状に少し含む　しまる
2. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト	2.5Y2/1黒色シルトを斑状に少し含む　しまる
3. 2.5Y5/4黄褐色シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状に多く含む　しまる
4. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR7/6明黄褐色シルトを斑状に多く含む　炭化物を粒状に少し含む　しまる
5. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y6/6明黄褐色砂質シルトをブロック状に多く含む　しまる

EB1119

1. 10YR1.7/1黒色シルト	2.5Y7/6明黄褐色砂質シルトを粒状に多く含む　しまる
2. 10YR3/2黒褐色シルト	2.5Y8/4淡黄色砂質シルトを粒状、柱状に多く含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
3. 2.5Y7/4浅黄色砂質シルト	2.5Y4/1黄灰色シルトを斑状にわずかに含む　固くしまる

EB1703

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y7/6明黄褐色砂質シルトを粒状に多く含む　炭化物を粒状に微量含む　しまる
2. 2.5Y7/3浅黄色砂質シルト	2.5Y6/8明黄褐色砂質シルトを帯状に少し含む　固くしまる
3. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト	2.5Y4/6オリーブ褐色粘質シルトを斑状に多く含む　2.5Y2/1黒色粘質シルトを斑状に少し含む　しまる
4. 2.5Y4/4オリーブ褐色シルト	2.5Y2/1黒色シルトを斑状に少し含む　しまる
5. 2.5Y6/6明黄褐色砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状に少し含む　しまる

EB1707

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを帯、粒状に多く含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
2. 2.5Y6/3にぶい黄色砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを粒状にわずかに含む　固くしまる
3. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y7/6明黄褐色砂質シルトを粒状に多く含む　固くしまる
4. 2.5Y4/4オリーブ褐色砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを粒状にわずかに含む　固くしまる

EB1709

1. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y7/6明黄褐色砂質シルトを粒、斑状に多く含む　7.5YR6/8橙色焼土を粒状にわずかに含む　しまる
2. 2.5Y5/6黄褐色砂質シルト	2.5Y2/1黒色シルトを粒状に少し含む　固くしまる
3. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y5/4黄褐色砂質シルトを粒、斑状に多く含む　炭化物を粒状に少し含む　しまる
4. 2.5Y7/6明黄褐色砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状に含む　固くしまる
5. 2.5Y5/6黄褐色砂質シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを帯状、斑状に多く含む　固くしまる

EB1743

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘質シルト	2.5Y8/6黄色砂質シルトを粒状に少し含む　しまる
2. 2.5Y7/2灰黄色砂質シルト	混ざりなし　しまりなし
3. 5Y2/2オリーブ黒色シルト	2.5Y5/4黄褐色シルトを粒状に多く含む　しまる
4. 2.5Y2/1黒色粘質シルト	2.5Y7/6明黄褐色砂質シルトを粒、帯状に少し含む　しまる
5. 2.5Y5/4黄褐色砂質シルト	2.5Y2/1黒色シルトを斑状に多く含む　しまる
6. 2.5Y4/4オリーブ褐色砂質シルト	2.5Y2/1黒色シルトを粒状にわずかに含む　しまる

EB1747

1. 10YR2/1黒色シルト	10YR6/2灰黄褐色シルトを粒状に多く含む　しまりなし
2. 10YR6/2灰黄褐色シルト	10YR3/1黒褐色シルトを斑状に少し含む　しまる
3. 10YR5/6黄褐色シルト	上の土に同じだが、土中の鉄分による土色変化あり　しまる
4. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR1.7/1黒色シルトを粒状に少し含む　しまる

EB1749

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y5/4黄褐色砂質シルトを斑状に少し含む　炭化物を粒状に少し含む　固くしまる
2. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト	2.5Y7/4浅黄色シルトを斑状に少し含む　炭化物を粒状に微量含む　しまる
3. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト	2.5Y7/4浅黄色シルトを多く含む　2.5Y3/1黒褐色シルトを少し含む　固くしまる
4. 2.5Y7/3浅黄色砂質シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを斑状に多く含む　固くしまる

EB1754

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを粒状にわずかに含む　2.5Y5/6黄褐色砂質シルトをわずかに含む　固くしまる
2. 2.5Y8/3淡黄色砂質シルト	2.5Y4/1黄灰色シルトを粒状にわずかに含む　しまる
3. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y4/6オリーブ褐色砂質シルトを粒、まだら状に多く含む　2.5Y2/1黒色シルトを粒状に少し含む　固くしまる

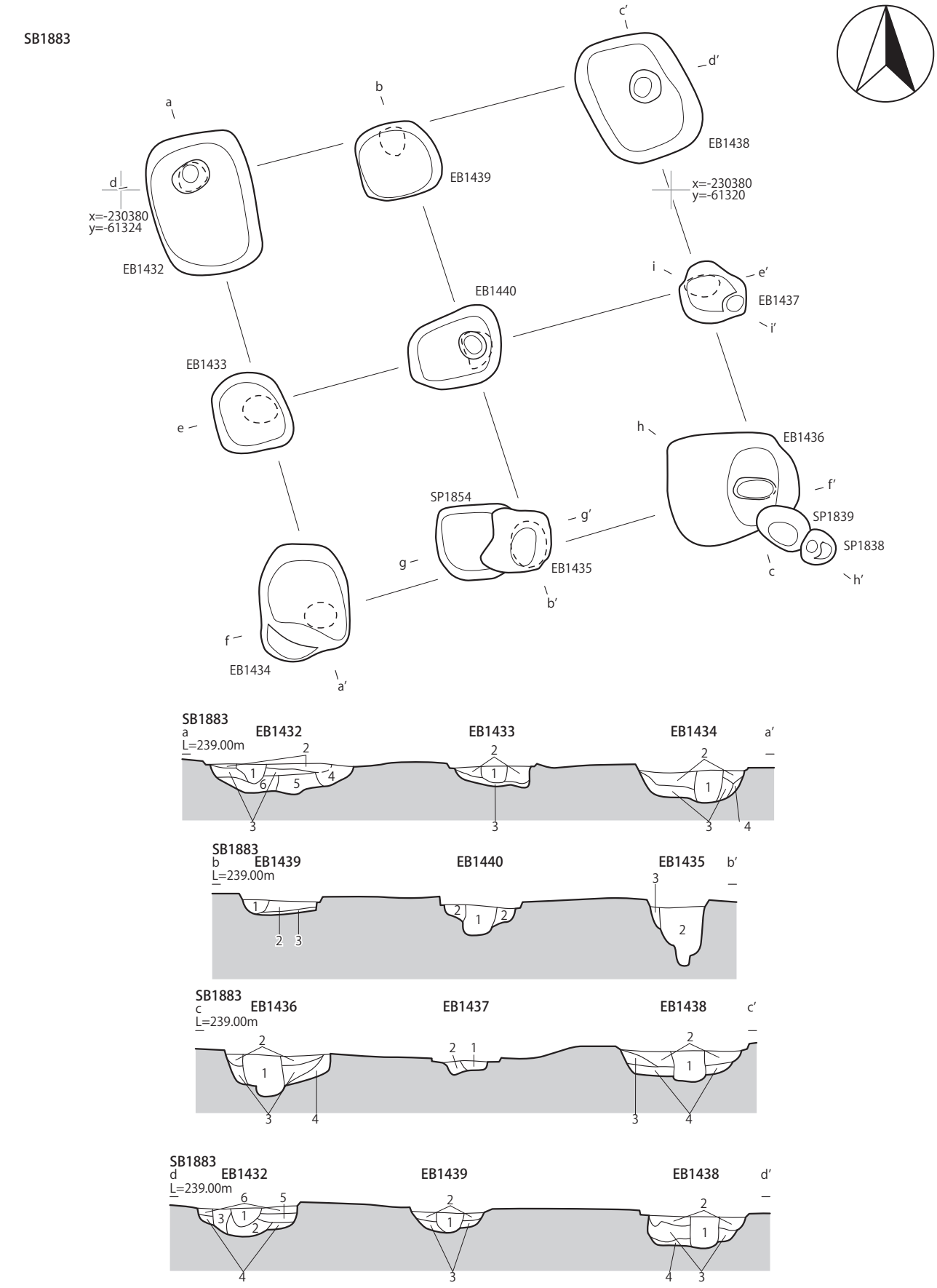
EB1814

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを粒状にわずかに含む　しまる

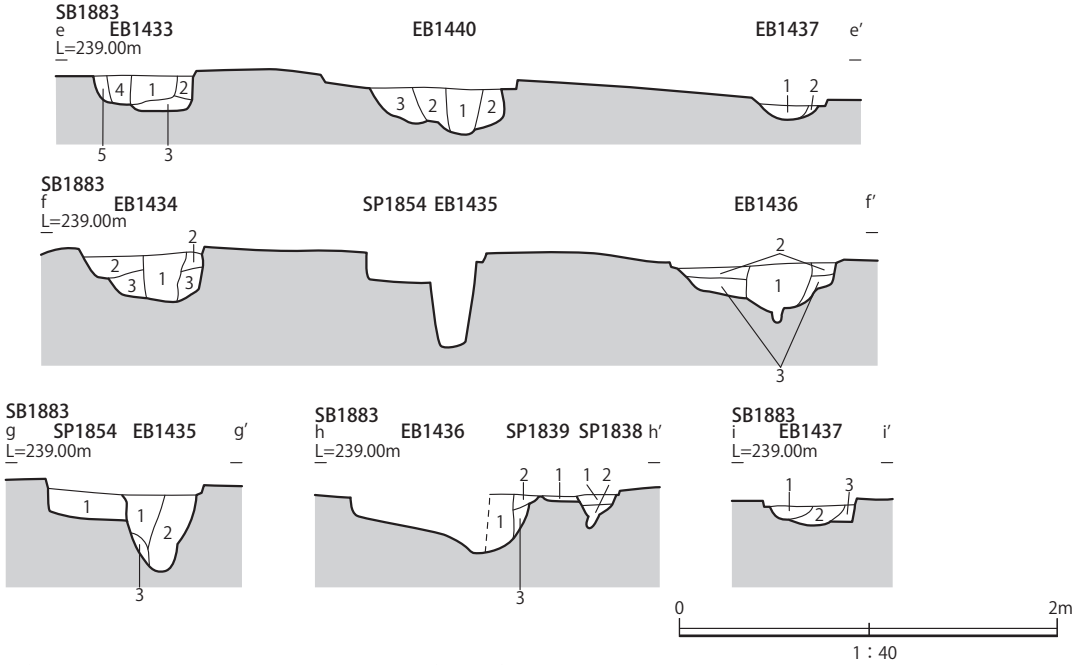
SP1750

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y7/3浅黄色砂質シルトを斑状に多く含む　炭化物を微量含む　固くしまる
2. 2.5Y7/3浅黄色砂質シルト	2.5Y3/3オリーブ褐色シルトを粒、斑状に微量含む　固くしまる

第 60 図　A 区　掘立柱建物 SB1882 の注記



第 61 図　A 区　掘立柱建物 SB1883（1）



EB1432

1. 10YR3/2黒褐色粘質シルト	10YR7/2にぶい黄橙色の小ブロックを含む
2. 10YR7/3にぶい黄橙色粘質シルト	10YR7/4にぶい黄橙色の小ブロックを含む
3. 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト	10YR7/3にぶい黄橙色粘質シルトを少量含む
4. 10YR3/2黒褐色粘質シルト	酸化鉄を少量含む
5. 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト	酸化鉄を少量含む
6. 10YR7/4にぶい黄橙色粘質シルト	酸化鉄を少量含む

EB1433

1. 10YR3/2黒褐色シルト	にぶい黄橙色シルトを少量含む
2. 10YR6/3にぶい黄橙色シルト	灰白色のブロックを含む　黒褐色シルトを少量含む
3. 10YR7/6明黄褐色シルト	
4・5. 不明	

EB1434

1. 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト	10YR8/2灰白色粘質シルトを少量含む　酸化鉄を少量含む
2. 10YR3/2黒褐色粘質シルト	10YR7/3にぶい黄橙色粘質シルトを少量含む
3. 10YR3/2黒褐色粘質シルト	10YR8/2灰白色粘質シルトを少量含む　酸化鉄を少量含む
4. 7.5YR8/6浅黄橙色粘質シルト	10YR3/2黒褐色粘質シルトを少量含む

EB1435

1. 10YR7/3にぶい黄橙色粘質シルト	10YR4/2灰黄褐色粘質シルトを少量含む
2. 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト	10YR8/2灰白色粘質シルトを少量含む　酸化鉄を少量含む
3. 10YR3/2黒褐色粘質シルト	10YR7/3にぶい黄橙色砂質シルトを少量含む

EB1436

1. 10YR3/2黒褐色粘質シルト	10YR7/2にぶい黄橙色粘質シルトを含む
2. 10YR3/3暗褐色粘質シルト	10YR7/2にぶい黄橙色粘質シルトを含む
3. 10YR3/2黒褐色粘質シルト	10YR8/2灰白色粘質シルトを含む
4. 10YR8/3灰白色粘質シルト	酸化鉄を含む

EB1437

1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR8/2灰白色粘質シルトを少量含む
2. 10YR3/2黒褐色粘質シルト	10YR8/2灰白色粘質シルトを含む
3. 10YR8/2灰白色粘質シルト	酸化鉄を少量含む

EB1438

1. 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト	にぶい黄褐色シルトを少量含む
2. 7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	灰白色シルトを少量含む
3. 10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト	黒褐色粘質シルトを少量含む
4. 10YR8/2灰褐色粘質シルト	ほぼ純層

EB1439

1. 10YR5/4にぶい黄褐色シルト	黒褐色シルトを少量含む
2. 10YR5/3にぶい黄褐色シルト	黒褐色シルトをわずかに含む
3. 7.5YR3/1黒褐色粘質シルト	にぶい黄橙色シルトをわずかに含む

EB1440

1. 10YR4/2灰黄褐色シルト	にぶい黄橙色シルトをわずかに含む
2. 10YR7/2にぶい黄橙色シルト	黒褐色シルトのブロックを含む
3. 10YR7/3にぶい黄橙色シルト	赤褐色砂を含む

SP1838

1. 10YR2/3黒褐色粘質シルト	10YR8/2灰白色粘質シルトを少量含む
2. 10YR3/2黒褐色粘質シルト	10YR3/1黒褐色粘質シルトブロックを含む

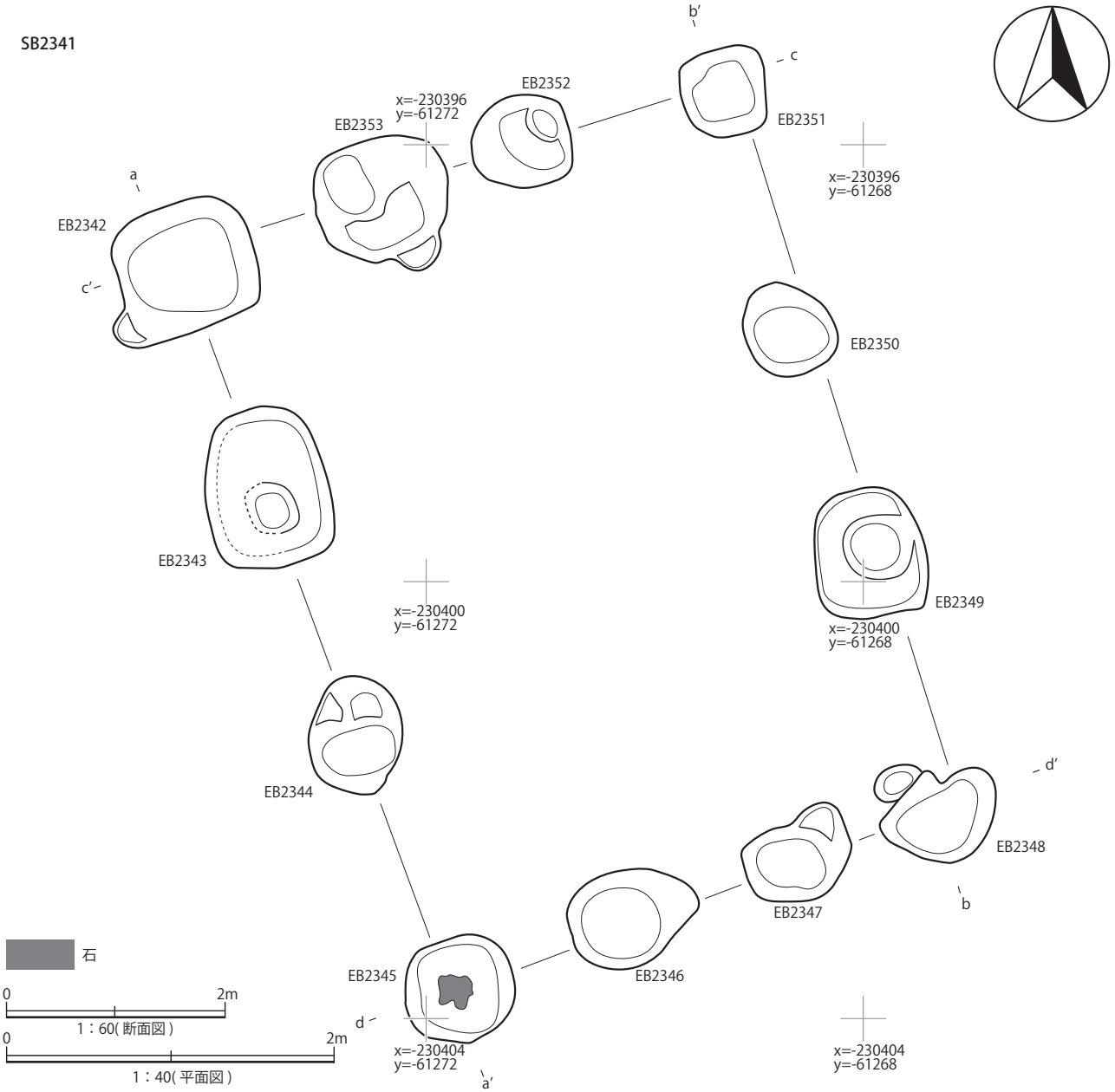
SP1839

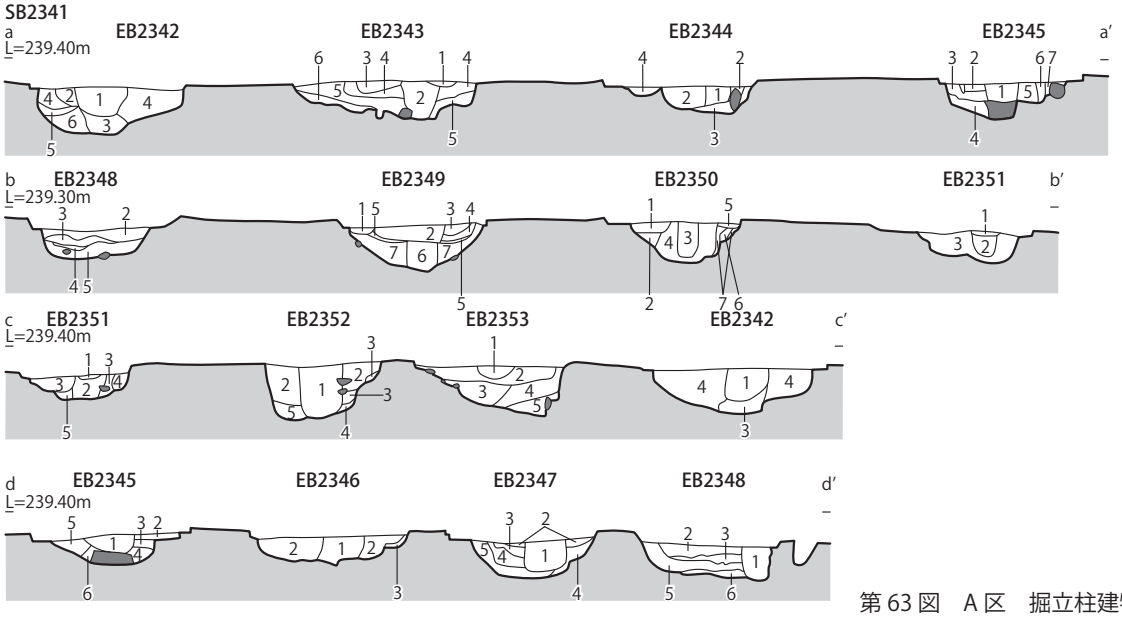
1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR7/3にぶい黄橙色粘質シルトを少量含む　炭化物を少量含む

SP1854

1. 10YR7/2にぶい黄橙色粘質シルト	10YR3/2黒褐色粘質シルトをブロック状に含む

第 62 図　A 区　掘立柱建物 SB1883（2）





第 63 図　A 区　掘立柱建物 SB2341

SB2341

EB2342
1. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト及び10YR2/1黒色粘質シルトをブロック状に10％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト及び10YR2/1黒色シルトをブロック状に20％含む　粘性ややあり
4. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト及び10YR2/1黒色粘質シルトをブロック状に30％含む
5. 10YR5/3にぶい黄褐色シルト　10YR3/2黒褐色シルト及び10YR2/1黒色粘質シルトをブロック状に40％含む
6. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む

EB2343
1. 10YR4/2灰黄褐色シルト　畝状遺構の覆土
2. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト及び10YR2/1黒色シルトをブロック状に10％含む
　他柱穴と異なり、砂礫を含まない
3. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
4. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト及び10YR2/1黒色シルトを小ブロックで10％含む
5. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト及び10YR2/1黒色シルトをブロック状に30％含む
6. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に40％含む　10YR2/1黒色粘質シルトの小ブロックを含む

EB2344
1. 10YR3/3暗褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト及び10YR2/2黒褐色シルトをブロック状に30％含む
2. 10YR3/3暗褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト及び10YR2/2黒褐色シルトをブロック状に10％含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト及び10YR2/1黒色粘質シルトをブロック状に10％含む
4. 10YR3/3暗褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に40％含む

EB2345
1. 10YR3/3暗褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで10％含む
2. 10YR3/3暗褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
3. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト　10YR3/3暗褐色シルトをブロック状に20％含む
4. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
5. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを斑状に20％含む
6. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
7. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト　地山塊

EB2346
1. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂状シルトと10YR2/1黒色シルトをブロック状に混在(10%)
2. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂状シルトと10YR2/1黒色シルトをブロック状に混在(30%)
3. 10YR5/3にぶい黄褐色砂状シルト　10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に混入(10%)

EB2347
1. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂状シルトと10YR2/1黒色シルトを小ブロックで混在(10%)
2. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂状シルトと10YR2/1黒色シルトをブロック状に混在(30%)
3. 10YR2/1黒色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂状シルトと10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に混在(20%)
4. 10YR5/3にぶい黄褐色砂状シルト　10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に混入(20%)
5. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/2にぶい黄褐色砂状シルトと10YR2/1黒色シルトをブロック状に混在(20%)

EB2348
1. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む　炭化物をわずかに含む
2. 10YR3/3暗褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に含む　10YR2/1黒色シルトを小ブロックで20％含む
3. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト　10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に5％含む
4. 10YR3/3暗褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト及び10YR2/2黒褐色粘質シルトをブロック状に20％含む
5. 10YR3/3暗褐色シルト　10YR4/3にぶい黄褐色細砂を含む　10YR2/2黒褐色粘質シルトを小ブロックで3％含む
6. 10YR4/3にぶい黄褐色細砂

EB2349
1. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト及び10YR2/1黒色シルトをブロック状に10％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト及び10YR2/1黒色シルトをブロック状に20％含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
4. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
5. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に40％含む
6. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む　粘性ややあり
7. 10YR3/2黒褐色シルト　5mm程度の炭化物を含む　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む

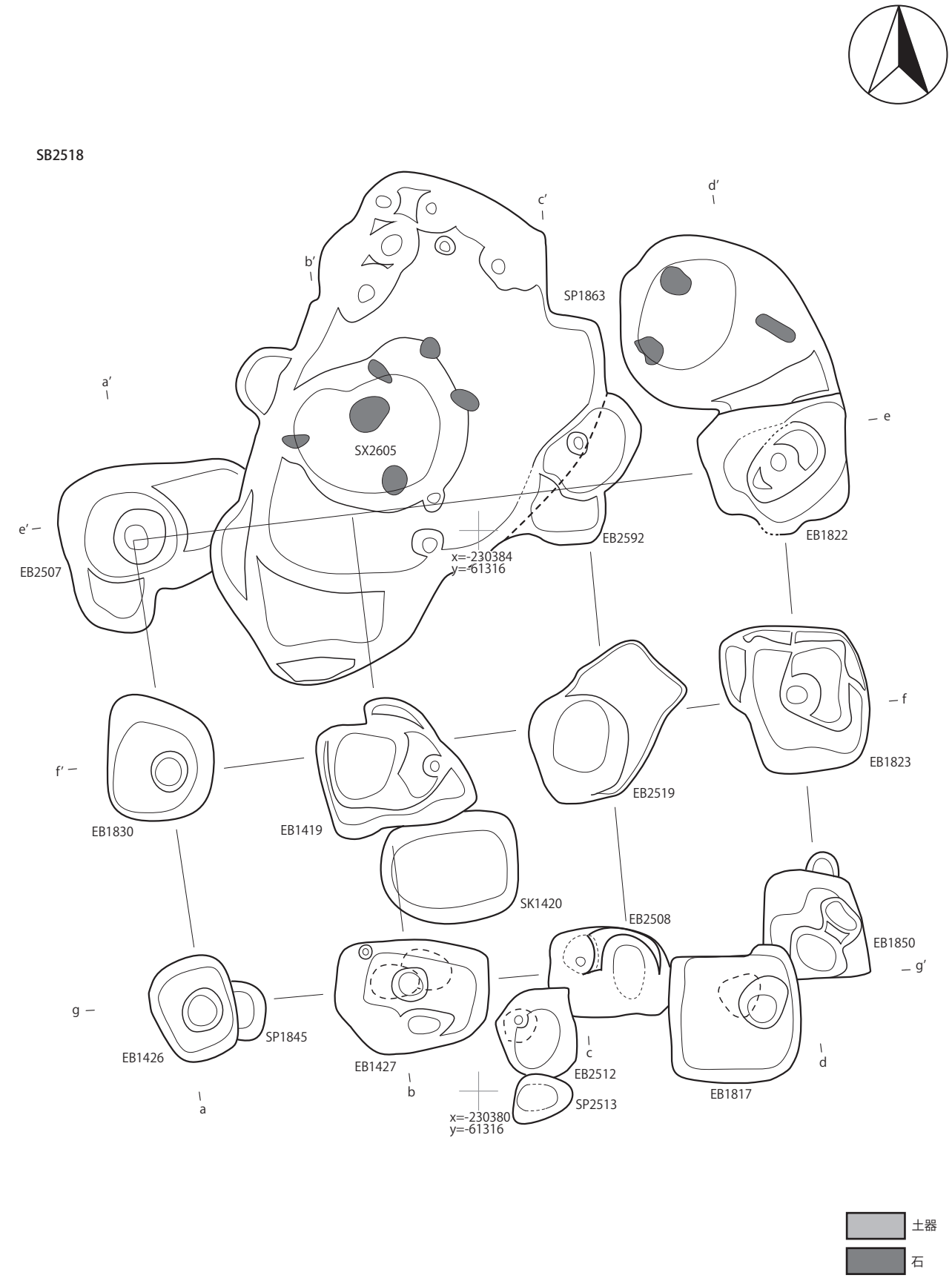
EB2350
1. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
2. 10YR2/2黒褐色シルト　5～50mm程度の礫を含む砂礫層
3. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
4. 10YR3/2黒褐色シルト　5mm程度の炭化物を含む　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に含む　粘性ややあり
5. 10YR3/3暗褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで10％含む
6. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
7. 10YR3/3暗褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む

EB2351
1. 10YR5/2灰黄褐色シルト　ほぼ純層
2. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
3. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
4. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に50％含む
5. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む　粘性ややあり

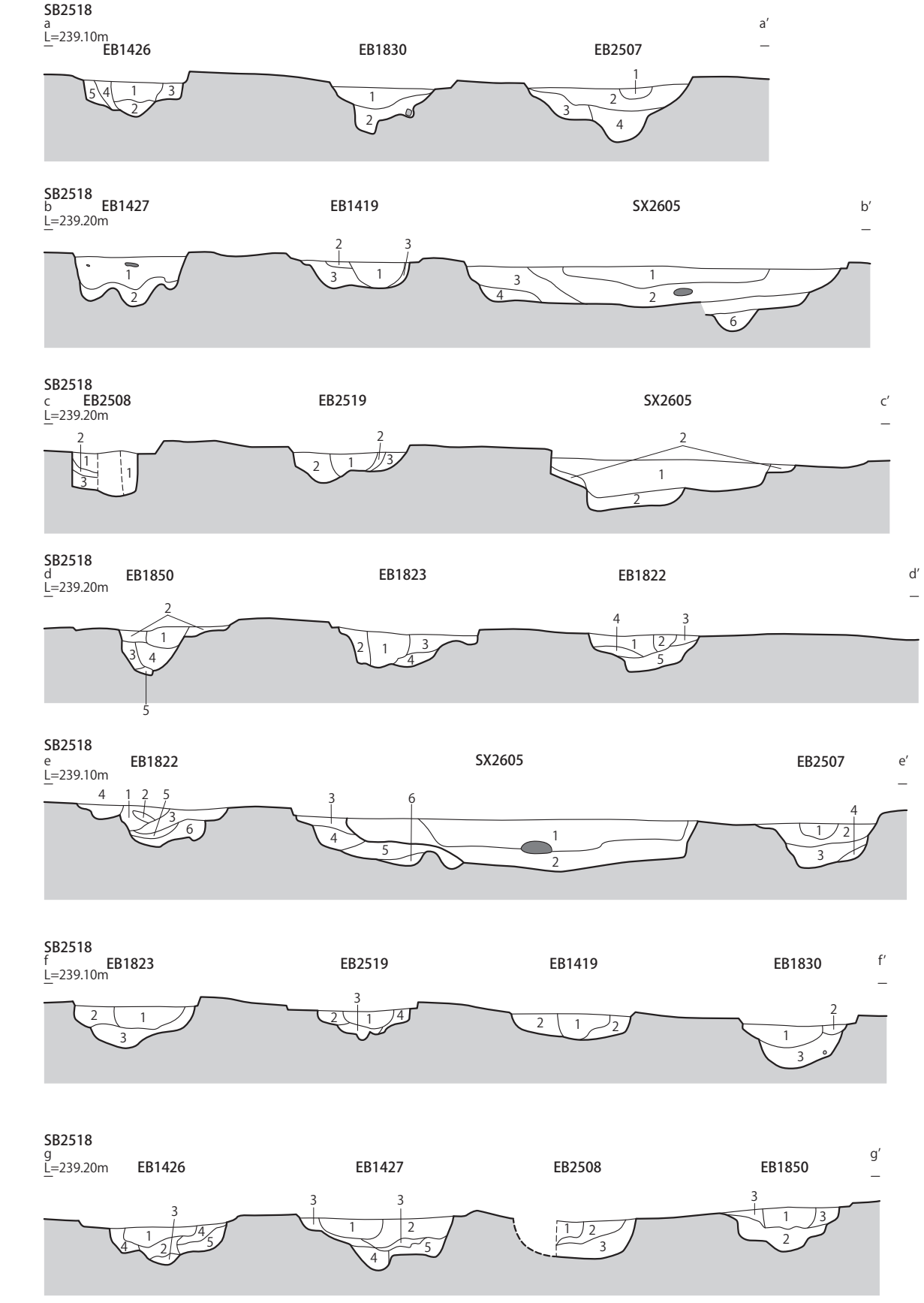
EB2352
1. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
3. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト　10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に20％含む
4. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR4/3にぶい黄褐色細砂を含む
5. 10YR3/2黒褐色シルト　5～50mm程度の礫を含む砂礫層

EB2353
1. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト及び10YR2/1黒色シルトをブロック状に20％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト及び10YR2/1黒色シルトをブロック状に10％含む　粘性ややあり
3. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト及び10YR2/1黒色シルトをブロック状に40％含む
4. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト及び10YR2/1黒色シルトをブロック状に20％含む　粘性ややあり
5. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR2/1黒色シルトのブロックを含む

第 64 図　A 区　掘立柱建物 SB2341 の注記



第 65 図　A 区　掘立柱建物 SB2518（1）



第 66 図　A 区　掘立柱建物 SB2518（2）

SB2518

EB1419

1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR7/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状にまばらに含む　10YR2/1黒色粘質シルトをわずかに含む　しまりあり
2. 100YR7/6明黄橙色粘質シルト	10YR3/2黒褐色粘質シルトを小ブロックでまばらに含む　しまりあり
3. 10YR3/2黒褐色粘質シルト	10YR7/3にぶい黄橙色砂質シルトを小ブロックでまばらに含む　しまりあり

EB1426

1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルトを小ブロックで斑に含む
2. 10YR3/2黒褐色粘質シルト	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを塊状に含む
3. 10YR3/2黒褐色粘質シルト	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
4. 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト	10YR2/2黒褐色粘質シルトをブロック状に20％含む
5. 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト	10YR3/2黒褐色粘質シルトを小ブロックで5％含む

EB1427

1. 10YR4/1褐灰色粘質シルト	10YR7/6明黄褐色砂質シルトを小ブロックでまばらに含む　しまりあり
2. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR7/4にぶい黄橙色粘質シルトを小ブロックで含む
3. 10YR7/4にぶい黄橙色砂質シルト	10YR6/6明黄褐色砂質シルトをまばらに含む
4. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	遺物包含層
5. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR4/1褐灰色粘質シルト及び10YR7/4にぶい黄橙色砂質シルトとの撹乱層

EB1822

1. 10YR3/2黒褐色粘質シルト	10YR3/4暗褐色粘質シルトをまばらに含む　しまりあり
2. 10YR4/1褐灰色粘質シルト	10YR6/2灰黄褐色粘質シルトをわずかに含む　しまりあり
3. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR8/1灰白色粘質シルトをわずかに含む
4. 10YR5/1褐灰色粘質シルト	10YR3/1黒褐色粘質シルトをわずかに含む　10YR7/6明黄褐色粘質シルトをわずかに含む
5. 10YR6/1褐灰色粘質シルト	10YR3/2黒褐色粘質シルトをわずかに含む　10YR6/8明黄褐色粘質シルトを含む

EB1823

1. 10YR4/1褐灰色粘質シルト	10YR2/1黒色粘質シルトをブロック状にまばらに含む　10YR7/2にぶい黄橙色粘質シルトをわずかに含む
2. 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト	10YR2/1黒色粘質シルト及び10YR8/3浅黄橙色粘質シルトをまばらに含む　しまりあり
3. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR7/2にぶい黄橙色粘質シルトをわずかに含む　しまりあり
4. 10YR7/4にぶい黄橙色粘質シルト	10YR3/1黒褐色粘質シルトをまばらに含む　しまりあり

EB1830

1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR6/4にぶい黄橙色シルトを小ブロックで多量に含む　しまりあり
2. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR4/2灰黄褐色粘質シルト及び10YR6/4にぶい黄橙色シルトをわずかに含む　しまりあり
3. 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト	10YR3/1黒褐色粘質シルトをブロックでまばらに含む　10YR5/1褐灰色粘質シルトをまばらに含む

EB1850

1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR8/3浅黄橙色粘質シルトを小ブロックでまばらに含む　しまりあり
2. 10YR3/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルトをブロック状にまばらに含む　しまりあり
3. 10YR6/3にぶい黄橙色粘質シルト	10YR3/1黒褐色粘質シルトをまばらに含む　しまりあり
4. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR8/6黄橙色砂質シルトをブロック状に含む　10YR7/1灰白色粘質シルトを小ブロックで含む　しまりあり
5. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR6/1褐灰色粘質シルトをまばらに含む

EB2507

1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR7/6明黄褐色シルトを小ブロックでまばらに含む　10YR2/1黒色シルトをブロックでわずかに含む
2. 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト	10YR7/4にぶい黄橙色シルトをまばらに含む　10YR7/1灰白色粘質シルトをブロックで含む　しまりあり
3. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR7/3にぶい黄橙色砂質シルトをまばらに含む　7.5YR6/6橙色シルトをわずかに含む　しまりあり
4. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR8/3浅黄橙色シルトをブロックで含む　しまりあり

EB2508

1. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR6/1褐灰色粘質シルトをまばらに含む　しまりあり
2. 10YR5/6黄褐色粘質シルト	10YR3/1黒褐色粘質シルトをわずかに含む　しまりあり
3. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR4/1褐灰色粘質シルトを小ブロックでまばらに含む　しまりあり

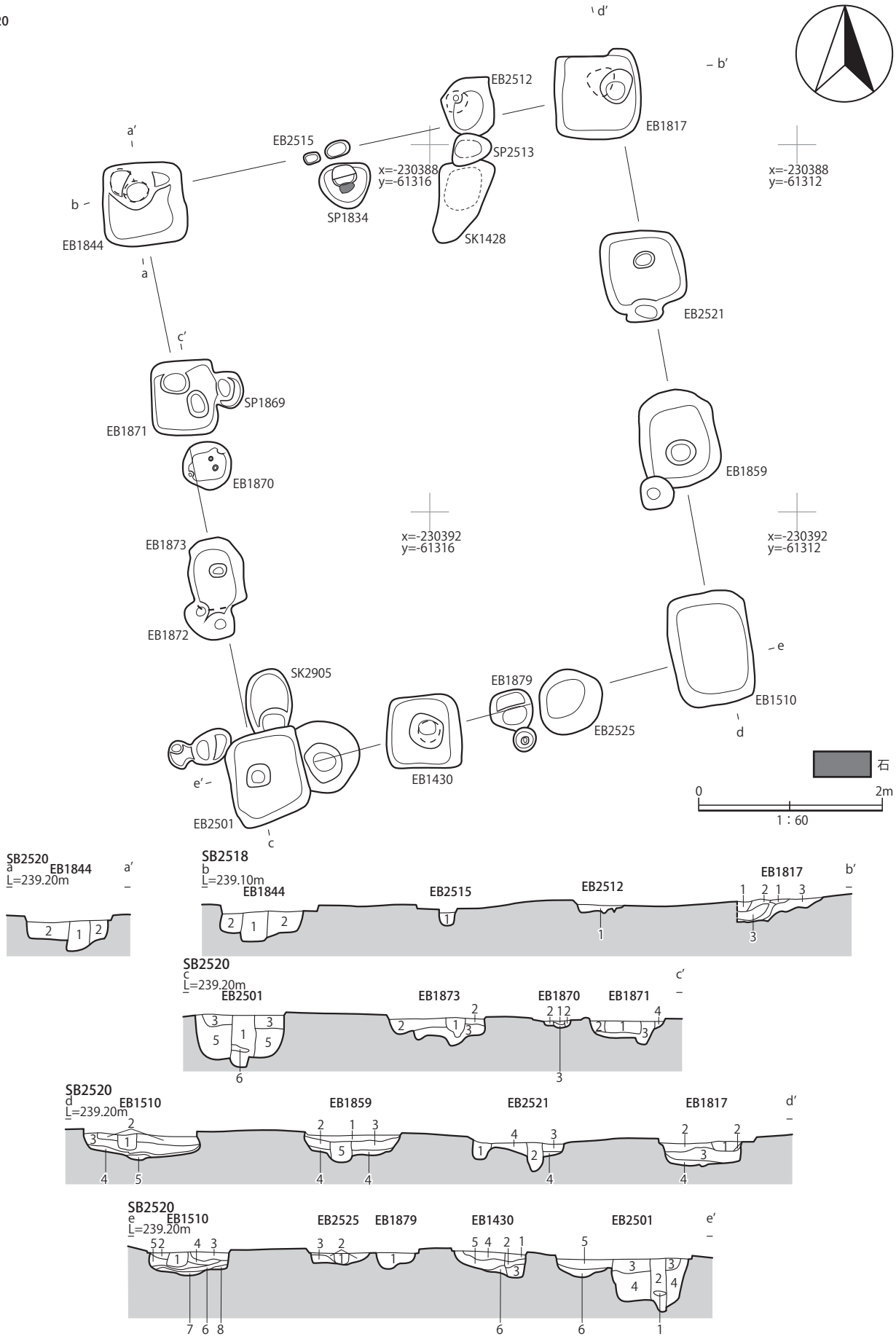
EB2519

1. 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト	10YR6/3にぶい黄褐色粘質シルトを小ブロックで含む　10YR6/1褐灰色粘質シルトをまばらに含む
2. 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト	10YR6/6にぶい黄褐色粘質シルトを小ブロックで含む　しまりあり
3. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR6/3にぶい黄褐色粘質シルトをまばらに含む　しまりあり
4. 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト	10YR6/3にぶい黄褐色粘質シルトを小ブロックで含む　10YR2/1黒色粘質シルトをわずかに含む

SX2605

1. 10YR4/1褐灰色粘質シルト	10YR7/3にぶい黄橙色砂質シルトを小ブロックでわずかに含む　しまりあり　酸化鉄を含む
2. 19YR5/1褐灰色粘質シルト	10YR8/2灰白色粘質シルトをブロック状にまばらに含む　しまりあり　酸化鉄を含む
3. 10YR4/2灰黄褐色砂質シルト	10YR7/4黄橙色砂質シルトをブロック状にまばらに含む　しまりあり
4. 10YR6/3にぶい黄橙色粘質シルト	しまりあり
5. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR7/1灰白色粘質シルトをブロック状にわずかに含む　しまりあり

第 67 図　A 区　掘立柱建物 SB2518 の注記



第 68 図　A 区　掘立柱建物 SB2520

SB2520

EB1430
1. 10YR3/2黒褐色粘質シルト　10YR6/2灰黄褐色粘質シルト及び10YR6/1褐灰色粘質シルトを含む　しまりあり
2. 10YR3/2黒褐色粘質シルト　10YR67/4にぶい黄橙色粘質シルトをまばらに含む　しまりあり
3. 10YR7/6明黄褐色粘質シルト　10YR5/1褐灰色粘質シルトをまばらに含む
4. 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト　10YR6/1褐灰色粘質シルトをわずかに含む　しまりあり
5. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR7/4にぶい黄橙色粘質シルトを小ブロックで含む
6. 10YR7/4にぶい黄橙色粘質シルト　10YR5/1褐灰色粘質シルトをまばらに含む

EB1510
1. 10YR7/6明黄褐色粘質シルト　10YR4/2灰黄褐色粘質シルトを斑状に含む　10YR8/6黄橙色粘質シルトをわずかに含む　しまりなし
2. 10YR7/4にぶい黄橙色粘質シルト　10YR2/2黒褐色粘質シルトブロックを含む　10YR8/1灰白色粘質シルトの小ブロックを含む　しまりなし
3. 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト　10YR7/4にぶい黄橙色粘質シルトを小ブロックで含む　しまりあり
4. 10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト　10YR7/4にぶい黄橙色粘質シルトをわずかに含む　しまりあり
5. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR6/4にぶい黄橙色粘質シルトを小ブロックで含む
10YR6/2灰黄褐色粘質シルトをわずかに含む　しまりあり
6. 10YR8/6黄橙色粘質シルト　10YR3/1黒褐色粘質シルトを小ブロックで含む　10YR6/1褐灰色粘質シルトをわずかに含む
7. 10YR2/1黒色粘質シルト　10YR8/6黄橙色粘質シルトをまばらに含む　10YR5/1褐灰色粘質シルトをわずかに含む
8. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR7/4にぶい黄橙色粘質シルトをわずかに含む　しまりあり

EB1817
1. 10YR6/1褐灰色粘質シルト　10YR7/6明黄褐色粘質シルトをわずかに含む　しまりあり
2. 10YR4/1褐灰色粘質シルト　10YR7/6明黄褐色粘質シルトをまばらに含む　10YR3/1黒褐色粘質シルトをわずかに含む　しまりあり
3. 10YR3/2黒褐色粘質シルト　10YR7/4にぶい黄橙色粘質シルトを小ブロックで含む　しまりあり
4. 10YR2/1黒色粘質シルト　10YR7/3にぶい黄橙色粘質シルトをわずかに含む　しまりあり

EB1844
1. 10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト　10YR3/2黒褐色粘質シルトを小ブロックでまばらに含む　10YR7/2にぶい黄褐色粘質シルトをわずかに含む
酸化鉄を含む　しまりなし
2. 10YR3/2黒褐色粘質シルト　酸化鉄を多量に含む　しまりなし

EB1859
1. 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト　10YR7/4にぶい黄橙色粘質シルトをまばらに含む　10YR8/4浅黄橙色粘質シルトをわずかに含む
2. 10YR7/6明黄褐色粘質シルト　10YR2/1黒色粘質シルトを小ブロックで含む　10YR6/1褐灰色粘質シルトを小ブロックで含む
3. 10YR4/1褐灰色粘質シルト　10YR7/6明黄褐色粘質シルトを小ブロックで含む　10YR3/1黒褐色粘質シルトをわずかに含む
4. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR6/4にぶい黄橙色粘質シルトをまばらに含む
5. 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト　10YR3/1黒褐色粘質シルトをまばらに含む　10YR7/3にぶい黄橙色粘質シルトをわずかに含む

EB1870
1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　ほぼ純層　しまりあり
2. 10YR7/4にぶい黄橙色粘質シルト　10YR3/1黒褐色粘質シルトをブロックで含む
3. 10YR6/2灰黄褐色粘質シルト　10YR7/8黄橙色粘質シルトをわずかに含む

EB1871
1. 10YR4/4褐色粘質シルト　10YR7/4にぶい黄橙色粘質シルトをまばらに含む　しまりあり
2. 10YR4/4褐色粘質シルト　10YR7/3にぶい黄橙色粘質シルトをまばらに含む　酸化鉄を少量含む　しまりあり
3. 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト　10YR7/2にぶい黄橙色粘質シルトをまばらに含む　しまりあり
4. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR8/1灰白色粘質シルトをわずかに含む　しまりあり

EB1873
1. 10YR7/6明黄褐色粘質シルト　10YR3/1暗褐色粘質シルトをわずかに含む　酸化鉄を含む　しまりあり
2. 10YR3/3暗褐色粘質シルト　10YR7/6明黄褐色粘質シルトを小ブロックで含む　10YR4/4褐色粘質シルトをまばらに含む
3. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR7/6明黄褐色粘質シルトをまばらに含む　10YR3/2黒褐色粘質シルトをわずかに含む

EB1879
1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR7/3にぶい黄橙色粘質シルトをまばらに含む　しまりあり

EB2501
1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルトをまばらに含む　しまりあり
2. 10YR3/2黒褐色粘質シルト　10YR7/4にぶい黄橙色粘質シルト及び10YR7/8黄橙色粘質シルトをまばらに含む　しまりあり
3. 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト　10YR7/4にぶい黄橙色粘質シルトをまばらに含む　10YR4/1褐灰色粘質シルトをわずかに含む
4. 10YR3/2黒褐色粘質シルト　10YR7/4にぶい黄橙色粘質シルトを小ブロックで含む　10YR2/1黒色粘質シルトをわずかに含む　しまりあり
5. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR7/6明黄褐色粘質シルトを小ブロックで多量に含む　しまりあり
6. 10YR7/4にぶい黄橙色粘質シルト　酸化鉄を含む

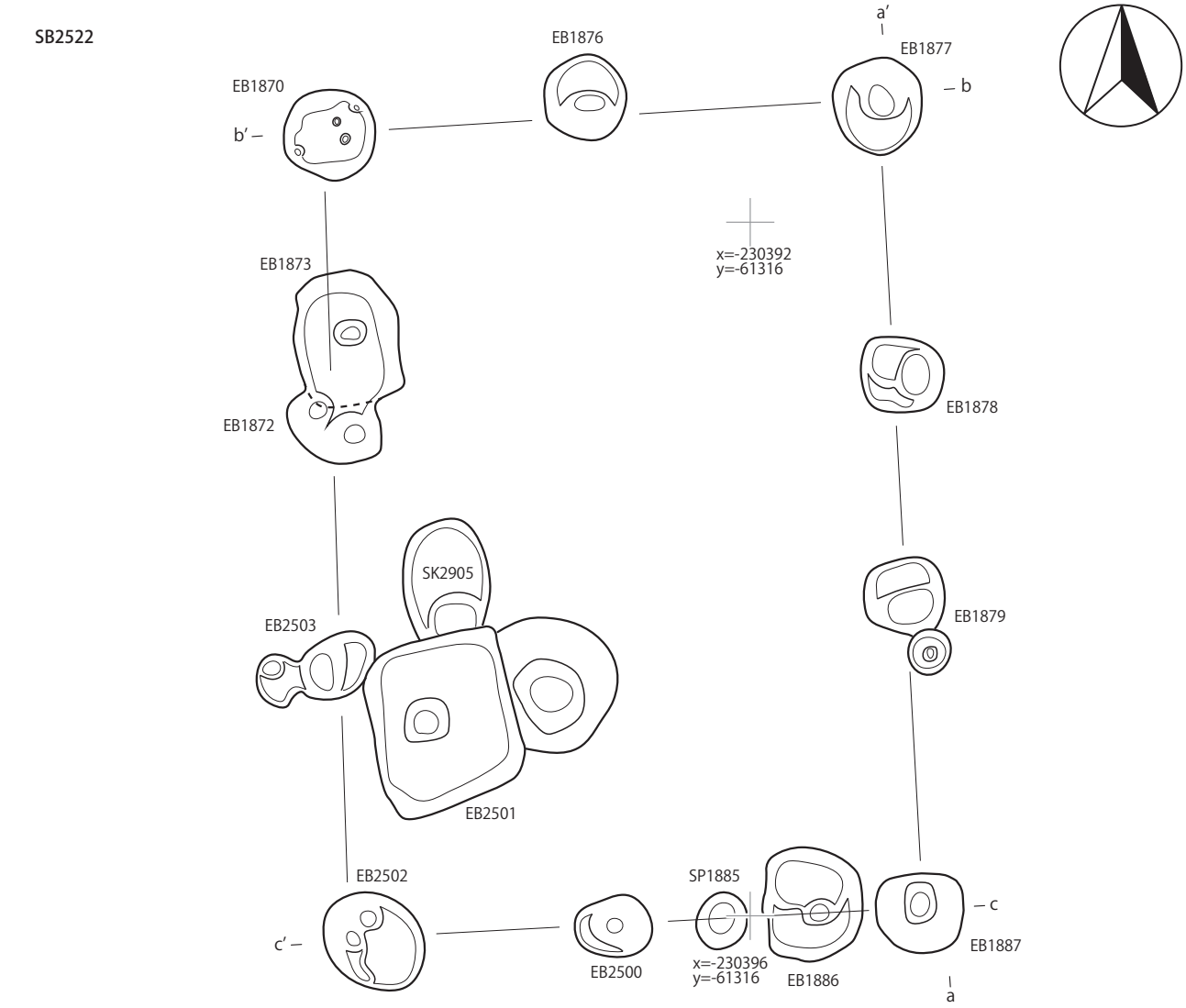
EB2512
1. 10YR3/2黒褐色粘質シルト　10YR6/3にぶい黄褐色砂質シルトを斑状に40％含む

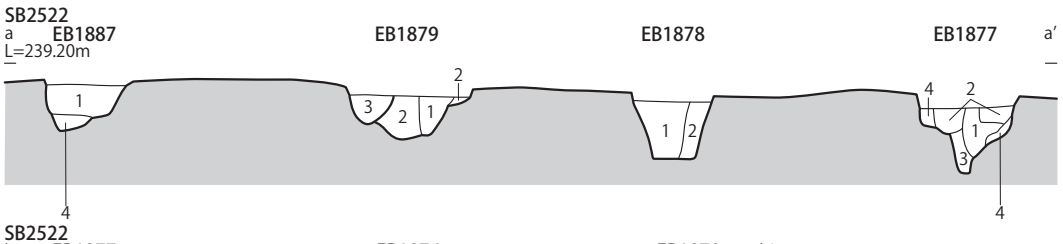
EB2515
1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで3％含む

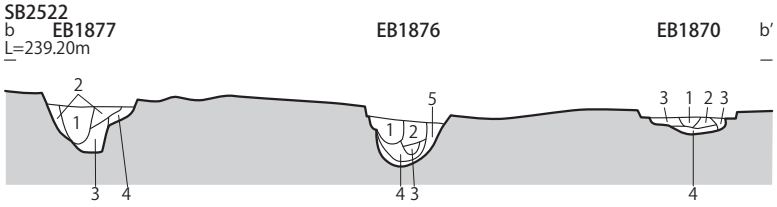
EB2521
1. 10YR4/1褐灰色粘質シルト　10YR7/4にぶい黄橙色粘質シルトをまばらに含む
2. 10YR7/4黄橙色粘質シルト　10YR4/1褐灰色粘質シルトを小ブロックで含む
3. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR7/4黄橙色粘質シルトをわずかに含む　しまりあり
4. 10YR4/1褐灰色粘質シルト　10YR7/3にぶい黄橙色粘質シルトをわずかに含む

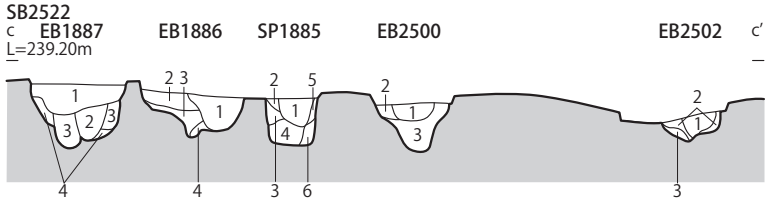
EB2525
1. 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト　10YR7/3にぶい黄橙色粘質シルト及び10YR4/1褐灰色シルトをわずかに含む　しまりなし
2. 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト　10YR7/3にぶい黄橙色粘質シルトをわずかに含む　しまりあり
3. 10YR7/3にぶい黄橙色粘質シルト　10YR4/1褐灰色粘質シルトをわずかに含む　しまりあり

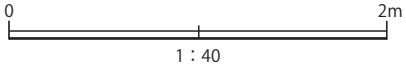
第 69 図　A 区　掘立柱建物 SB2520 の注記











第 70 図　A 区　掘立柱建物 SB2522

SB2522

EB1870

1. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを塊状に含む
2. 10YR2/1黒色粘質シルト	ほぼ純層
3. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
4. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む

EB1876

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト	炭化物を含む　粘性ややあり
3. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
4. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト	酸化鉄を多量に含む
5. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に10％含む

EB1877

1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に5％含む
2. 10YR3/2黒褐色粘質シルト	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
3. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に5％含む
4. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色粘質シルトをブロック状に10％含む

EB1878

1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
2. 10YR2/1黒色粘質シルト	100YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に5％含む

EB1879

1. 10YR3/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
2. 10YR3/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
3. 10YR2/1黒色粘質シルト	10RY5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む　しまりあり

EB1886

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
3. 10YR5/3にぶい黄褐色シルト	10YR3/2黒褐色シルトを塊状に含む　粘性ややあり
4. 10YR5/3にぶい黄褐色シルト	ほぼ純層　粘性ややあり

EB1887

1. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む　しまりあり
2. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトをまばらに30％含む
3. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
4. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR2/1黒色粘質シルトをブロック状に10％含む

EB2500

1. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをまばらに含む
2. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
3. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む

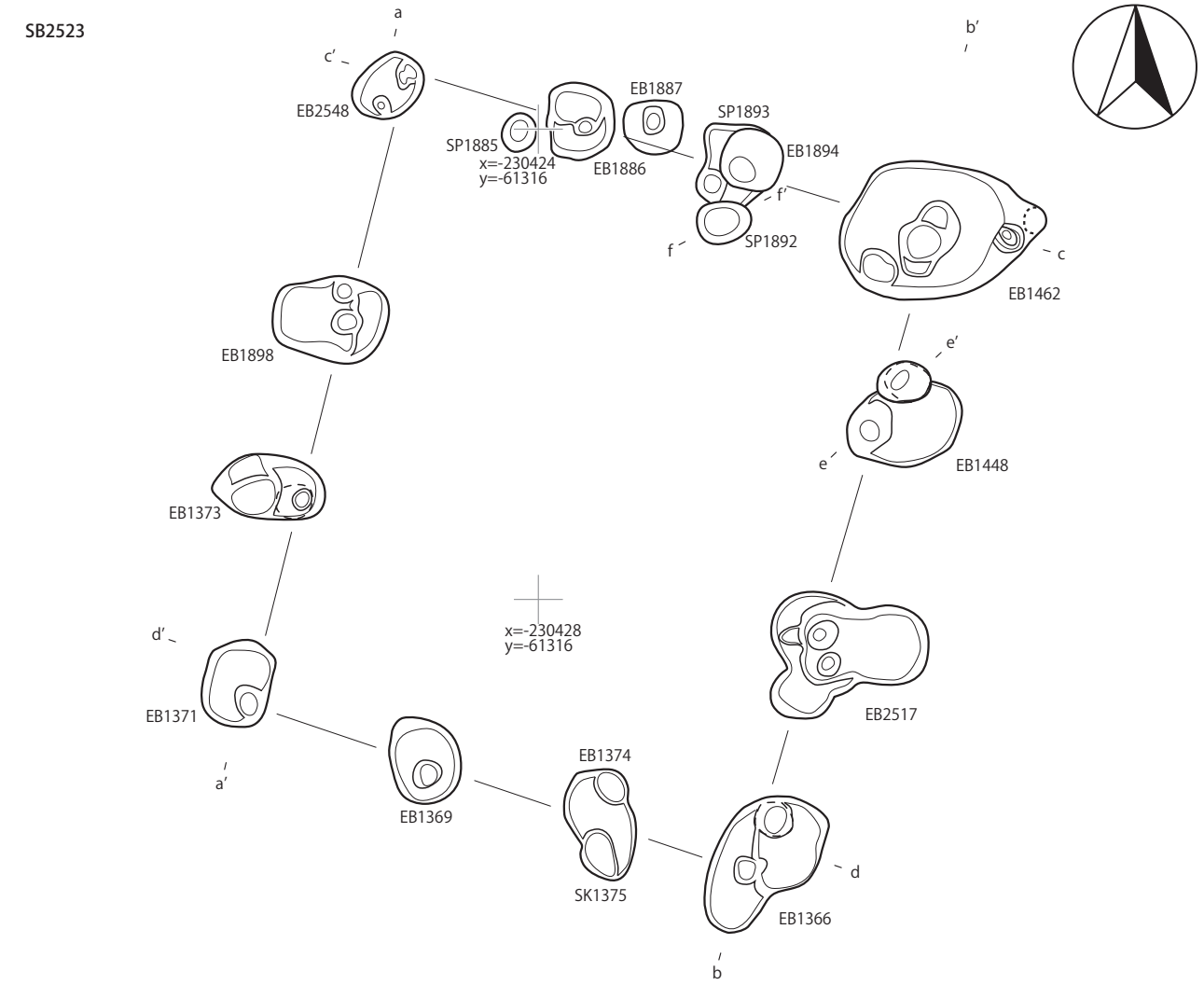
EB2502

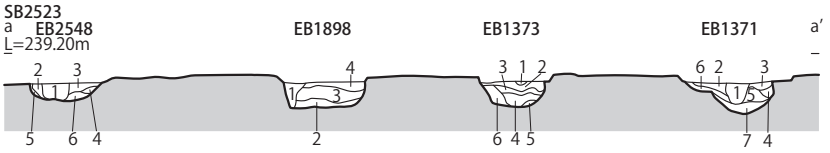
1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
2. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
3. 10YR5/3にぶい黄褐色シルト	10YR2/2黒褐色粘質シルトをブロック状に20％含む　粘性ややあり

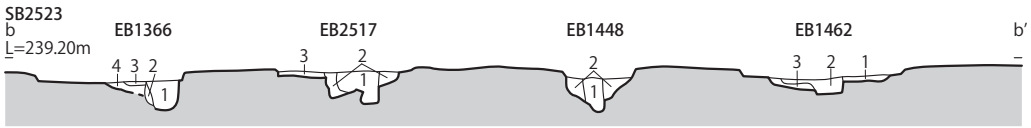
SP1885

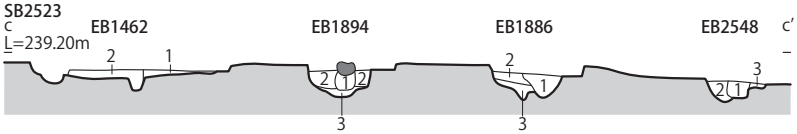
1. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
2. 10YR2/1黒色粘質シルト	ほぼ純層
3. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
4. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
5. 10YR5/3にぶい黄褐色シルト	10YR2/1黒色粘質シルトをブロック状に5％含む　粘性ややあり
6. 10YR3/3暗褐色シルト	ほぼ純層　粘性ややあり

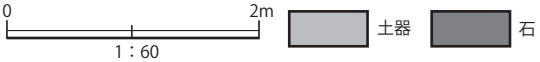
第 71 図　A 区　掘立柱建物 SB2522 の注記











第 72 図　A 区　掘立柱建物 SB2523

SB2523

EB1366
1. 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト　10YR8/2灰白色粘質シルトをまばらに含む　しまりなし
2. 10YR6/3にぶい黄橙色粘質シルト　10YR3/1黒褐色粘質シルトを小ブロックで含む　10YR8/3浅黄橙色粘質シルトをまだらに含む　しまりあり
3・4. 不明

EB1369
1. 10YR6/3にぶい黄橙色粘質シルト　10YR4/1褐灰色粘質シルトを微量に含む　しまりあり
2. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR8/4浅黄橙色粘質シルトをまだらに含む　しまりあり
3. 10YR8/6浅黄橙色粘質シルト　10YR3/1黒褐色粘質シルトをわずかに含む
4. 10YR7/6明黄褐色粘質シルト　10YR3/1黒褐色粘質シルトをブロックで含む　しまりあり
5. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　砂粒をわずかに含む　しまりあり

EB1371
1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR8/3浅黄橙色粘質シルトをブロックで含む
2. 10YR7/3にぶい黄橙色粘質シルト　10YR3/1黒褐色粘質シルトを含む
3. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR4/1褐灰色粘質シルトを少量含む
4. 10YR4/1褐灰色粘質シルト　10YR3/1黒褐色粘質シルトを少量含む
5. 10YR7/4にぶい黄橙色粘質シルト　10YR3/1黒褐色粘質シルトブロックを含む　しまりあり
6. 10YR6/4にぶい黄橙色粘質シルト　10YR4/1褐灰色粘質シルトを含む
7. 10YR2/1黒色粘質シルト　10YR7/3にぶい黄橙色粘質シルトを含む　しまりあり

EB1373
1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト
2. 10YR2/1黒色粘土　10YR7/2黄橙色粘土をわずかに含む
3. 10YR4/1褐灰色粘質シルト　10YR7/3にぶい黄橙色粘質シルトを含む
4. 10YR7/3にぶい黄橙色粘質シルト　10YR3/2黒褐色粘質シルトをブロックで含む
5. 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト　10YR7/3にぶい黄橙色粘質シルトを含む
6. 10YR7/4にぶい黄橙色粘質シルト　10YR2/1黒色粘質シルトを少量含む

EB1374
1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR8/1灰白色粘質シルトを小ブロックで含む
2. 10YR7/3にぶい黄橙色粘質シルト　10YR3/1黒褐色粘質シルトをわずかに含む　しまりあり

EB1448
1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む　炭化物をわずかに含む
2. 10YR3/2黒褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む

EB1462
1. 10YR3/2黒褐色粘質シルト　10YR7/4にぶい黄橙色粘質シルトをまばらに含む　しまりあり
2. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR7/4にぶい黄橙色粘質シルトをまばらに含む　しまりあり
3. 10YR4/1褐灰色粘質シルト　10YR7/2にぶい黄橙色粘質シルトをわずかに含む

EB1886
1.10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR7/6明黄褐色粘質シルトをまばらに含む　しまりあり
2. 10YR2/1黒色粘質シルト　10YR7/6明黄褐色粘質シルトをまばらに含む　しまりあり
3. 10YR7/6明黄褐色粘質シルト　10YR3/1黒褐色粘質シルトを小ブロックで含む　しまりあり

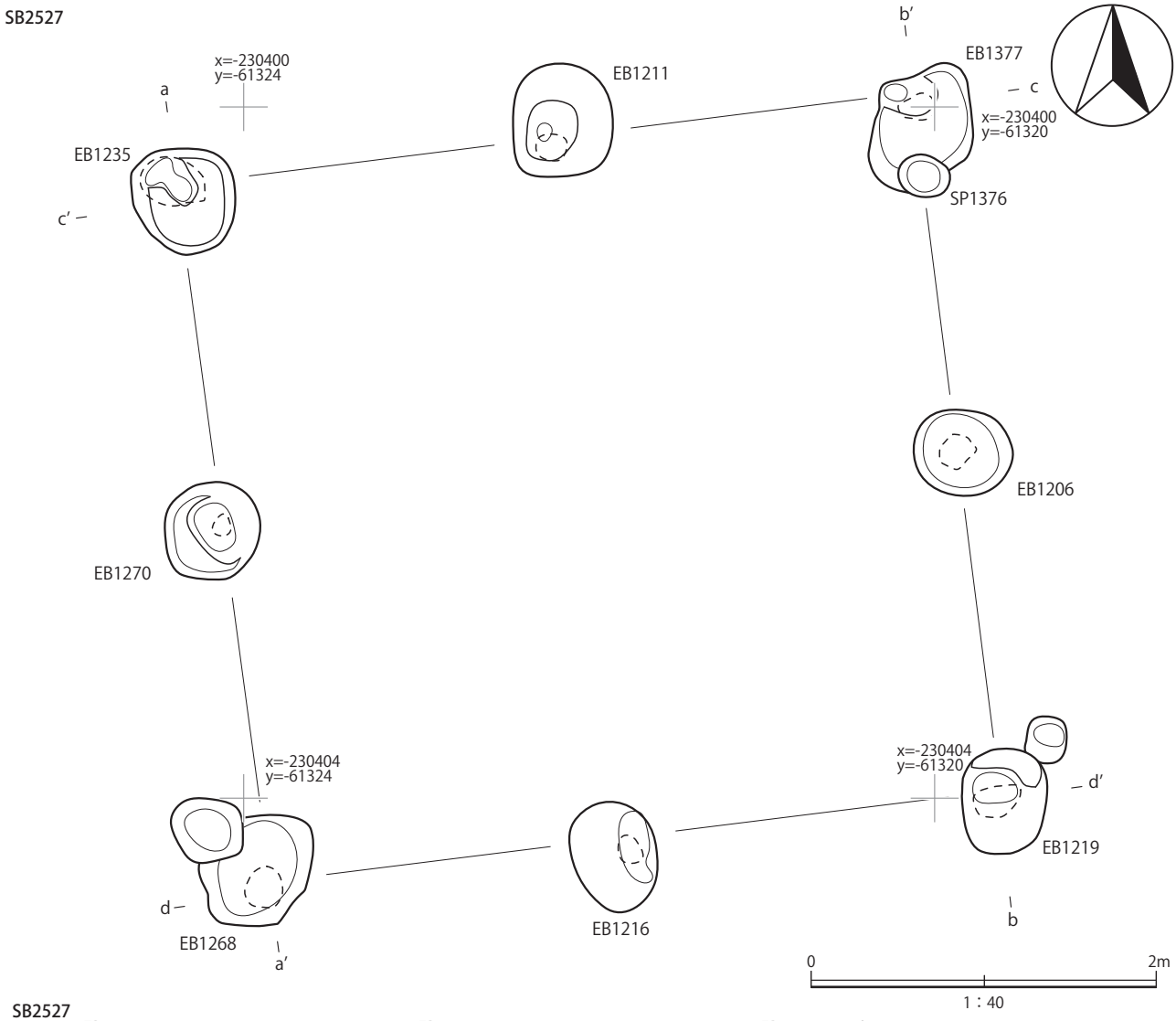
EB1898
1. 10YR4/1褐灰色粘質シルト　10YR6/1褐灰色粘質シルト及び10YR8/2灰白色粘質シルトを含む
2. 10YR3/2黒褐色粘質シルト　10YR8/2灰白色粘質シルトを小ブロックで含む
3. 10YR5/1褐灰色粘質シルト　10YR8/4浅黄橙色粘質シルトを小ブロックで含む　10YR3/1黒褐色粘質シルトをわずかに含む
4. 10YR2/1黒色粘質シルト　10YR5/1褐灰色粘質シルトをわずかに含む

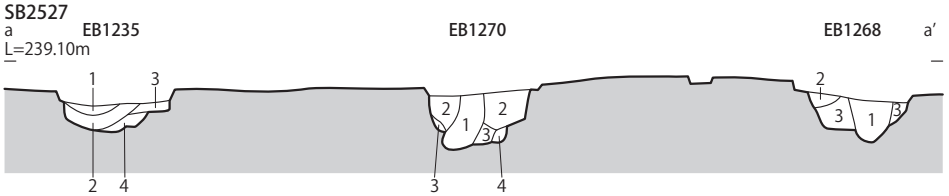
EB2517
1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR7/1灰白色粘質シルトをまばらに含む　しまりあり
2. 10YR4/1褐灰色粘質シルト　10YR7/1灰白色粘質シルトをまばらに含む　しまりあり
3. 10YR6/3にぶい黄橙色粘質シルト　10YR4/6灰黄褐色粘質シルトをまばらに含む　しまりあり

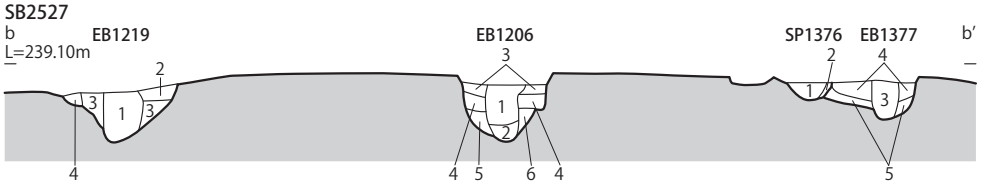
EB2548 a-a′
1. 10YR3/2黒褐色粘質シルト　10YR7/4にぶい黄橙色粘質シルトを少量含む　10YR2/1黒色粘質シルトをわずかに含む
2. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR7/2にぶい黄橙色粘質シルトを少量含む
3. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR2/1黒色粘質シルトを小ブロックで含む　10YR7/4にぶい黄橙色粘質シルトをわずかに含む　しまりなし
4. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR6/2灰黄褐色粘質シルトを小ブロックで含む
5. 10YR8/6黄橙色粘質シルト　10YR6/1褐灰色粘質シルトをブロックで含む
6. 10YR7/6明黄褐色粘質シルト　10YR3/1黒褐色粘質シルトをわずかに含む
c-c′は不明

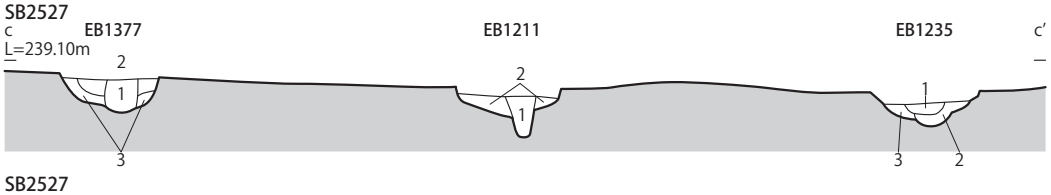
SP1892
1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色シルトをブロック状に20％含む
2. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色シルトをブロック状に10％含む

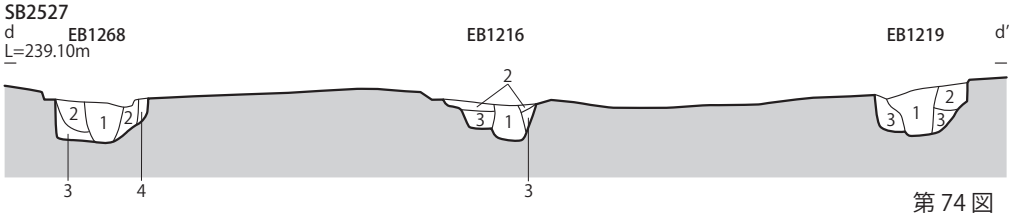
第 73 図　A 区　掘立柱建物 SB2523 の注記











第 74 図　A 区　掘立柱建物 SB2527

SB2527

EB1206

1. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト	2.5Y4/3オリーブ褐色砂質シルトを斑状にごくわずかに含む　しまりあり
2. 2.5Y4/2暗灰黄色粘土	2.5Y7/6明黄褐色砂質シルトを斑状に少量含む　かたくしまる
3. 2.5Y3/2黒褐色粘質シルト	2.5Y6/6明黄褐色砂質シルトを斑状に多量に含む　しまりあり
4. 10R1.7/1黒色粘質シルト	2.5Y6/4にぶい黄色粘質シルトを帯状に含む　しまりあり
5. 2.5Y4/4オリーブ褐色粘質シルト	2.5Y3/1黒褐色粘質シルトを斑状に少量含む　しまりあり
6. 10YR2/1黒色粘質シルト	2.5Y5/3黄褐色砂質シルトを粒状に少量含み、帯状に多量に含む　しまりあり

EB1211

1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR6/4にぶい黄橙色粘質シルトブロックをわずかに含む　粘性あり　しまりあり
2. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR6/4にぶい黄橙色粘質シルトをまだらに含む　炭化粒をわずかに含む　粘性あり　しまりあり

EB1216

1. 2.5Y2/1黒色粘質シルト	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを粒状にわずかに含む　しまりあり　柱痕
2. 2.5Y2/1黒色粘質シルト	2.5Y3/2黒褐色粘質シルトを斑状に多量に含む　しまりあり
3. 2.5Y5/4黄褐色粘質シルト	2.5Y2/1黒色粘質シルトを斑状に多量に含む　しまりあり

EB1219

1. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト	2.5Y5/4黄褐色砂質シルトを粒状に多量に含む　しまりあり　柱痕
2. 2.5Y5/6黄褐色粘質シルト	2.5Y3/1黒褐色粘質シルトを粒状及び斑状に少量含む　かたくしまる
3. 2.5Y2/1黒色粘質シルト	2.5Y4/4オリーブ褐色砂質シルトを帯状に多量に含むしまりあり
4. 2.5Y5/6黄褐色砂質シルト	2.5Y2/1黒色粘質シルトを斑状に多量に含む　しまりあり

EB1235

1. 10YR4/1褐灰色粘質シルト	ほぼ純層　粘性あり　しまりややあり
2. 2.5Y5/3黄褐色粘質シルト	2.5Y3/1黒褐色粘質シルトをまだらに含む　炭化粒をわずかに含む　粘性あり　しまりあり
3. 2.5Y5/2暗灰黄色粘質シルト	2.5Y4/1黄灰色粘質シルトを斑状にわずかに含む　粘性あり　しまりあり
4. 2.5Y5/2暗灰黄色粘土	2.5Y4/1黄灰色粘土を斑状に含む　炭化粒及び粗砂、植物遺体をわずかに含む　粘性あり　しまりあり

EB1268

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR3/1黒褐色シルトを小ブロックで斑状に少量含む　柱痕
2. 2.5Y7/4浅黄色砂質シルト	2.5Y2/1黒色シルトを斑状に少量含む　しまりあり
3. 2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルト	2.5Y2/1黒色シルトを粒状にわずかに含む　しまりあり
4. 2.5Y3/2黒褐色粘質シルト	2.5Y4/6オリーブ褐色砂質シルトを斑状に多量に含む　しまりあり

EB1270

1. 2.5Y3/2黒褐色粘質シルト	2.5Y3/1黒褐色粘質シルトを斑状に多量に含む　しまりあり
2. 2.5Y2/1黒色粘質シルト	2.5Y5/4黄褐色砂質シルトを斑状に多量に含む　しまりあり
3. 2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色粘質シルトを斑状に多量に含む　しまりあり
4. 2.5Y5/3黄褐色砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色粘質シルトを粒状にごくわずかに含む　しまりあり

EB1377

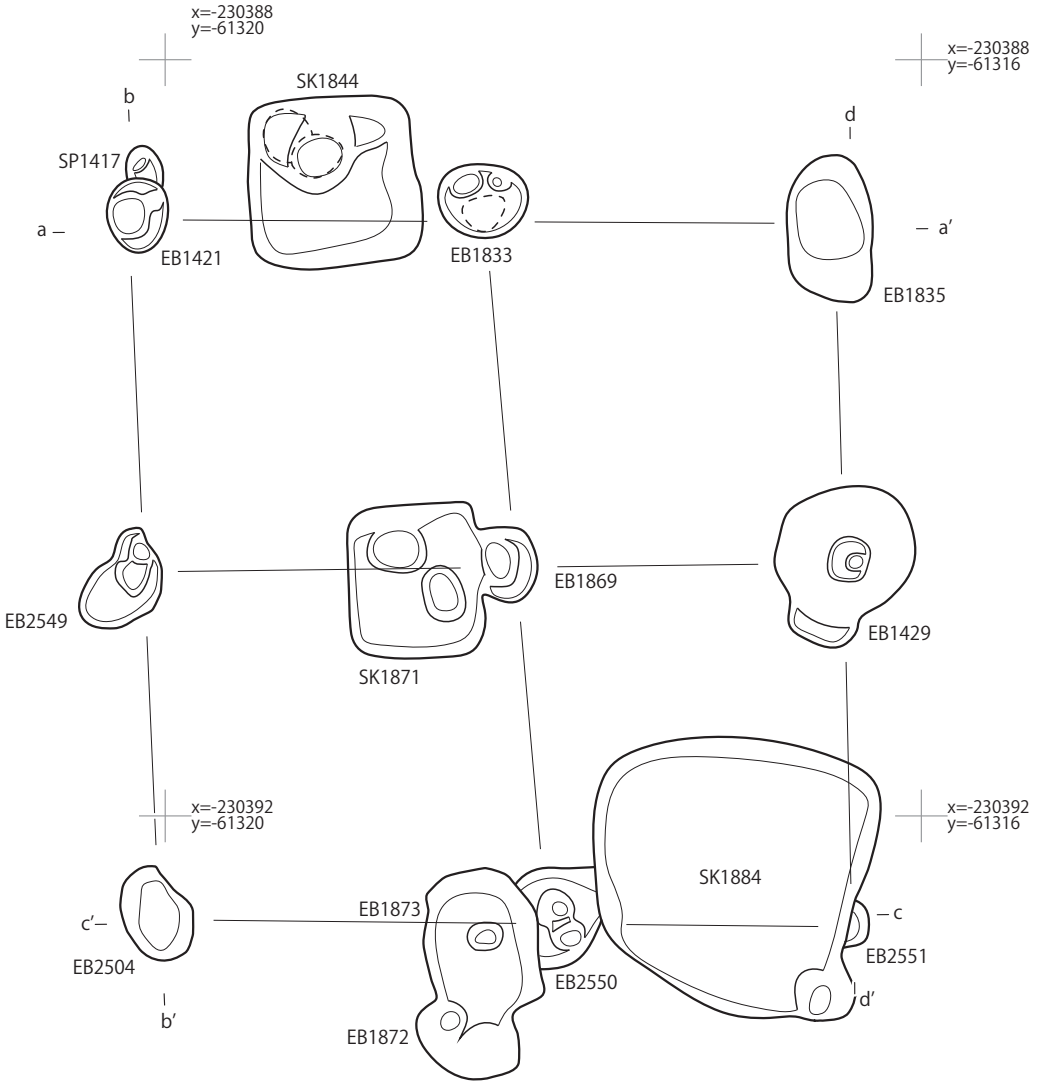
1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルトがブロック状に3％含む　柱痕跡　粘性あり　しまりややあり
2. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR4/4褐色粘質シルトをまだらに含む　粘性あり　しまりあり
3. 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト	10YR3/1黒褐色粘質シルトをまだらに含む　粘性あり　しまりややあり

SP1376

1.10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y5/6黄褐色砂質シルトを粒状に少量含む　炭化物をごくわずかに含む　しまりあり
2. 2.5Y3/2黒褐色シルト	2.5Y4/4オリーブ褐色砂質シルトを斑状に多量に含む　しまりあり

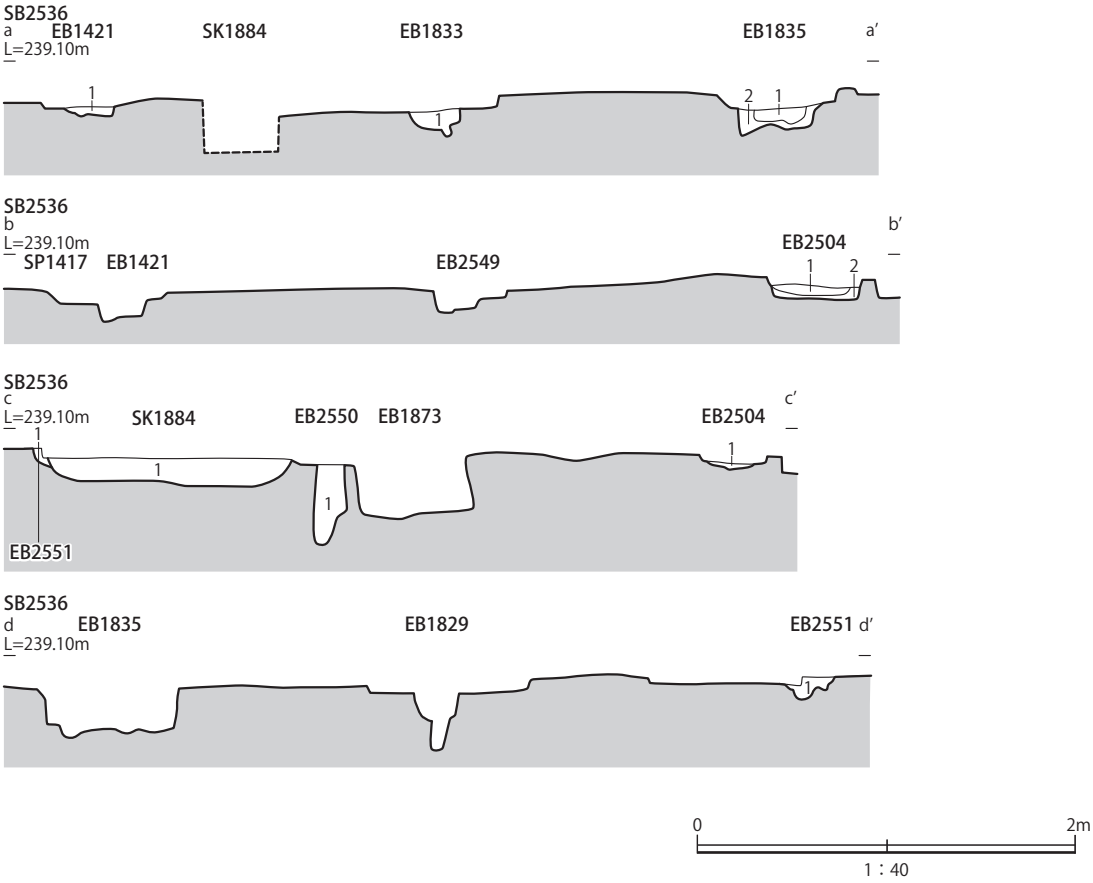
第 75 図　A 区　掘立柱建物 SB2527 の注記

SB2536



0　2m
1：40

第 76 図　A 区　掘立柱建物 SB2536（1）



EB1421
1. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む

EB1833
1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む

EB1835
1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
2. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む

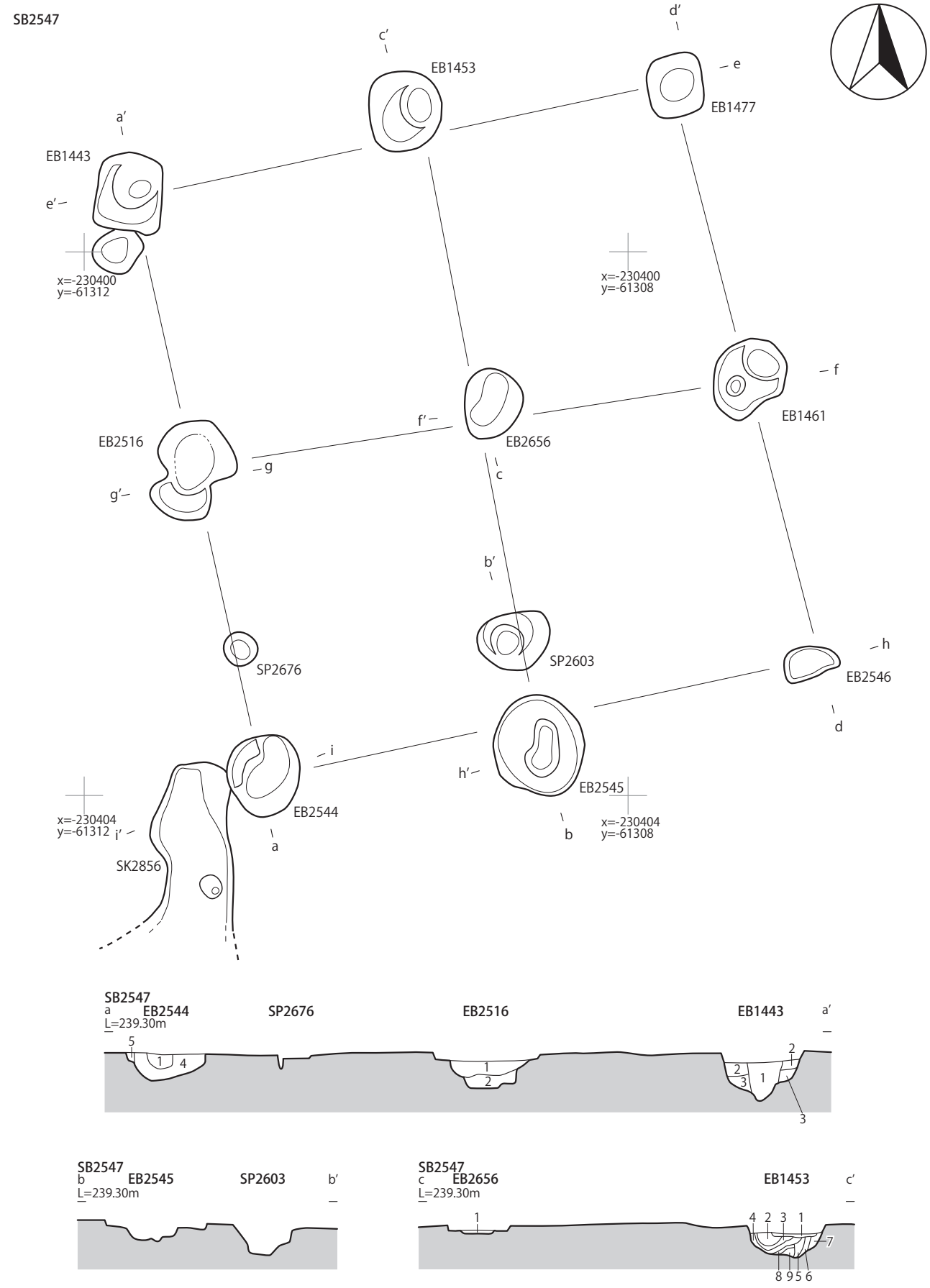
EB2504
1. 10YR3/1 黒褐色シルト　10YR5/4 にぶい黄褐色シルトブロックを多量に含む　粘性強い　しまりあり
2. 10YR7/4 にぶい黄橙色シルト　酸化鉄を微量に含む　粘性強い　かたくしまる

EB2550
1. 10YR3/2 黒褐色シルト　10YR4/3 にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む　粘性強い　かたくしまる

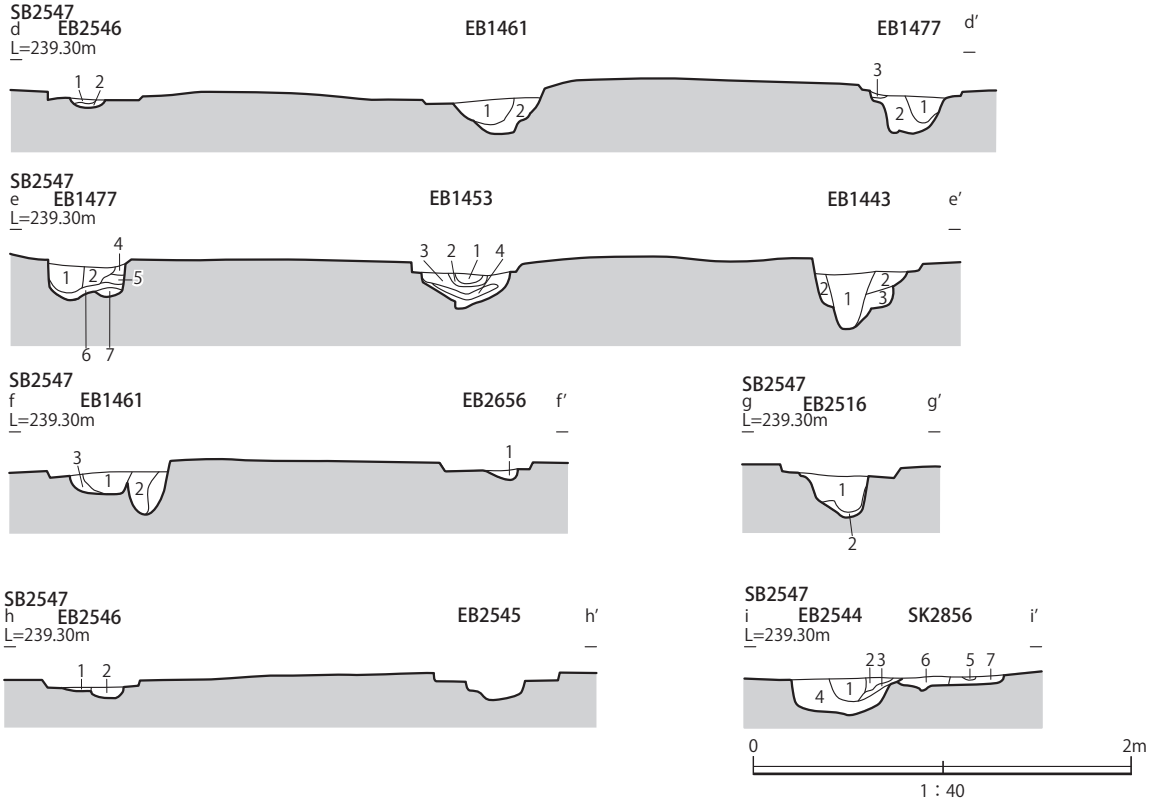
EB2551
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　酸化鉄を微量に含む　粘性ややあり　しまりややあり

SK1884
1. 10YR3/1 黒褐色シルト　酸化鉄をごくわずかに含む　粘性強い　しまりあり

第 77 図　A 区　掘立柱建物 SB2536（2）



第 78 図　A 区　掘立柱建物 SB2547（1）



EB1443

1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
2. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
3. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで10％含む

EB1453

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
2. 10YE3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む　炭化粒を含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に40％含む
4. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
5. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR2/1黒色粘質シルトをブロック状に10％含む
6. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
7. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR2/1黒色粘質シルトをブロック状に10％含む
8. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に50％含む
9. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む

EB1461

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
2. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
3. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む

EB1477

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで3％含む
2. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
3. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルトを小ブロックで3％含む
4. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR5/33にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
5. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
6. 10YR3/3暗褐色シルト	ほぼ純層
7. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む

EB2516

1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで10％含む
2. 10YR3/3暗褐色シルト	10YR2/2黒褐色粘質シルトをブロック状に10％含む　やや砂質シルト

EB2544・SK2856

1. 10YR3/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む（EB2544）
2. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	3～5mm程度の炭化物を含む　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む（EB2544）
3. 10YR3/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む（EB2544）
4. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む（EB2544）
6. 炭化物ブロック（SK2856）	
7. 10YR3/3暗褐色シルト	7.5YR5/4にぶい褐色焼土をブロック状に10％含む　5mm程度の炭化物を含む（SK2856）
8. 7.5YR3/2黒褐色粘質シルト	7.5YR5/4にぶい褐色焼土及び10YR5/2灰黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む 炭化物を含む（SK2856）

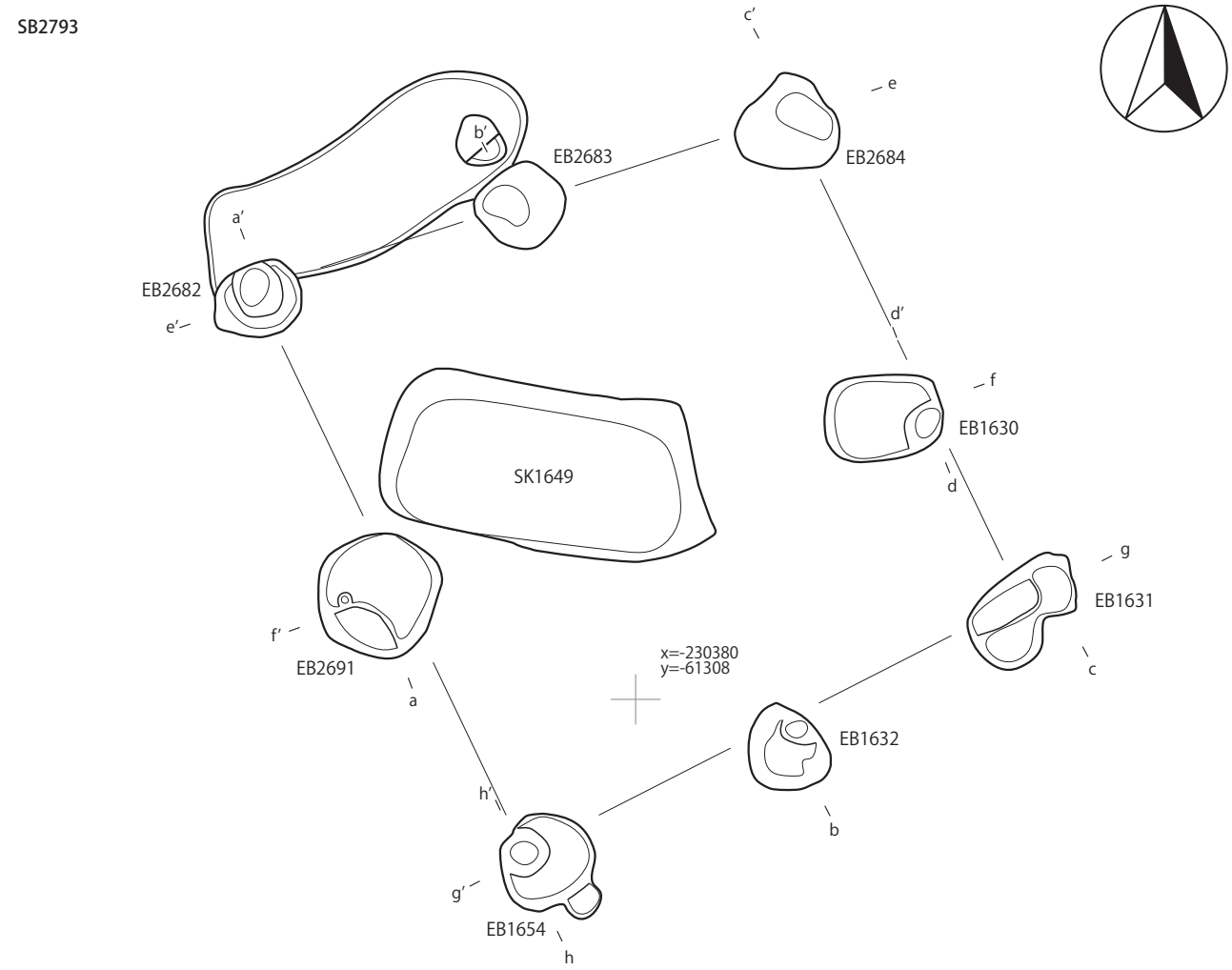
EB2546

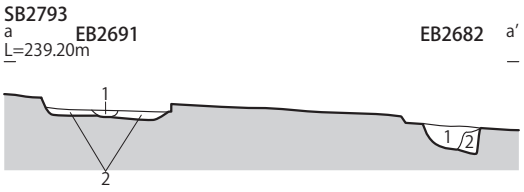
1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/2灰黄褐色シルトをブロック状に2-％含む
2. 10YR5/2灰黄褐色シルト	10YR2/2黒褐色粘質シルトをブロック状に10％含む

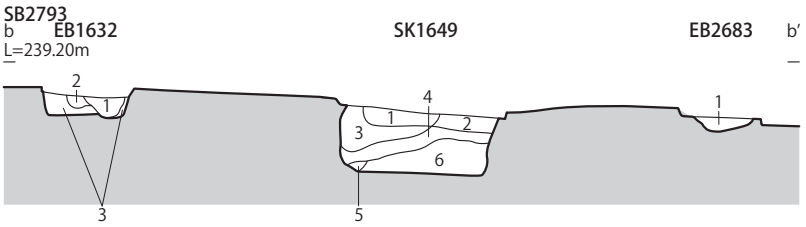
EB2656

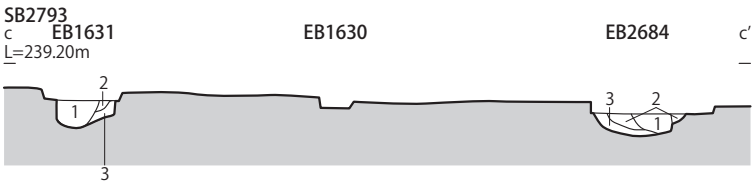
1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10RY5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む

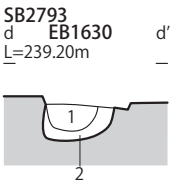
第 79 図　A 区　掘立柱建物 SB2547（2）

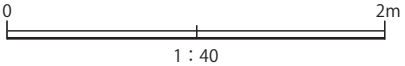




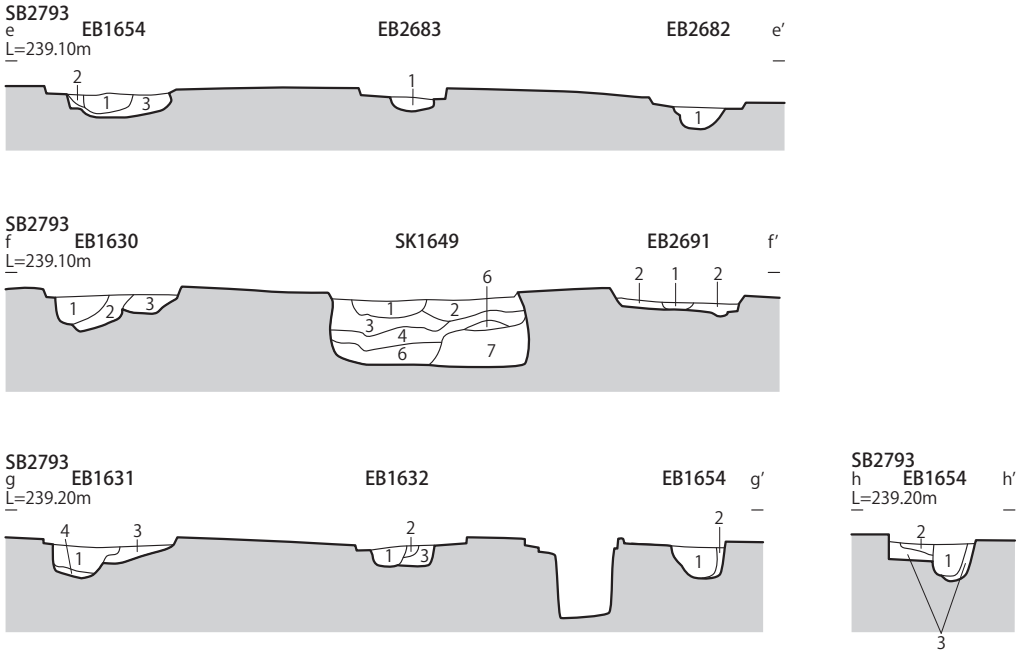








第 80 図　A 区　掘立柱建物 SB2793（1）



EB1630

1. 10YR2/1黒色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトを小ブロックで10％含む
2. 10YR2/1黒色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトをブロック状に40％含む
3. 10YR2/1黒色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトをブロック状に20％含む

EB1631

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトをブロック状に10％含む　かたくしまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトを斑状に30％含む
3. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトをブロック状に20％含む
4. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト	10YR2/2黒褐色シルトをブロック状に10％含む

EB1632

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR2/1黒色シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色シルトをブロック状に20％含む
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトをブロック状に40％含む

EB1654

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトをブロック状に10％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトをブロック状に30％含む

EB2682

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に20％含む

EB2683

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトをブロック状に20％含む

EB2684

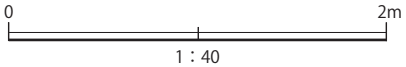
1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトを小ブロックで5％含む
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトをブロック状に20％含む
3. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトをブロック状に40％含む

EB2691

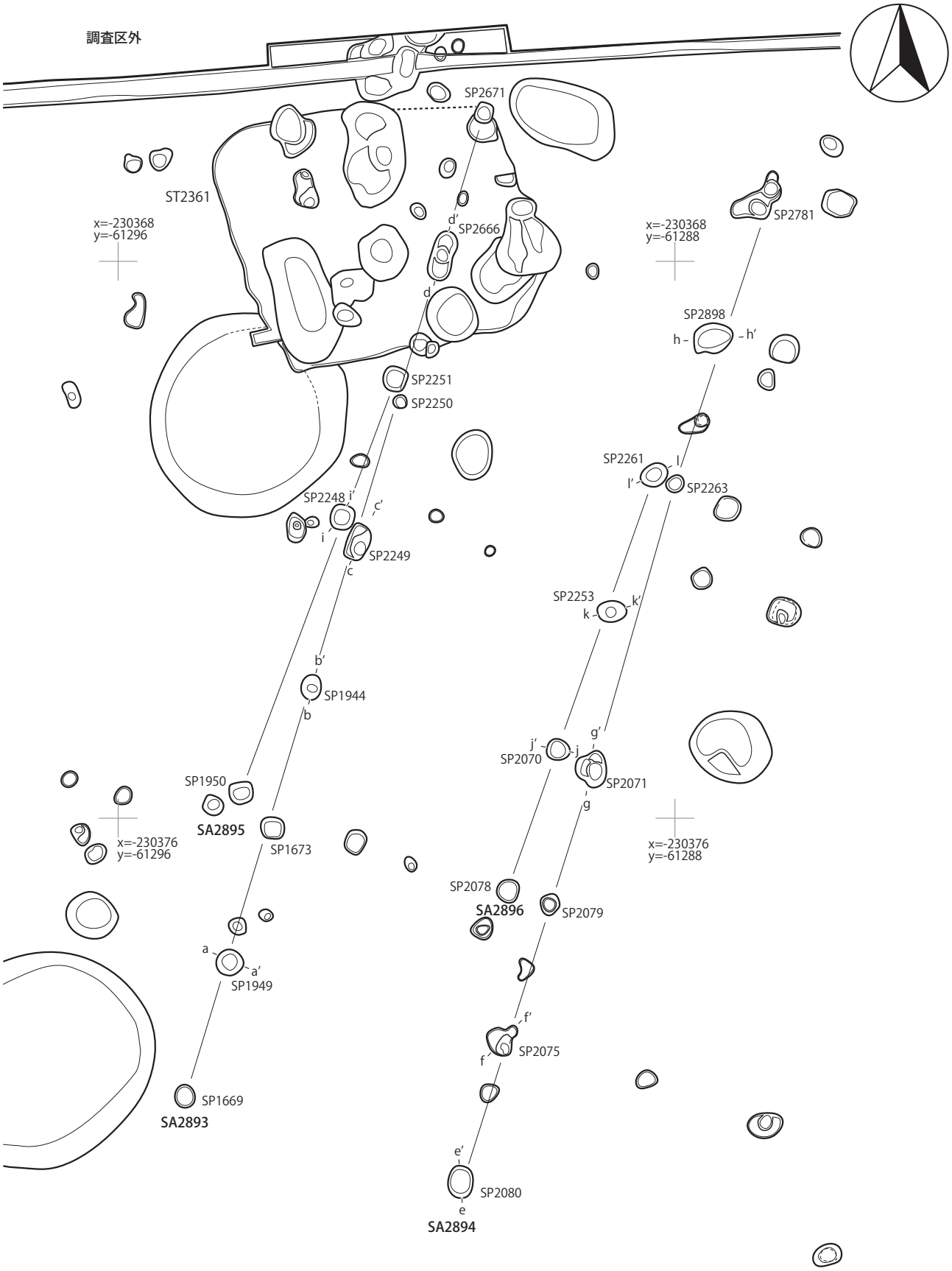
1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトをブロック状に30％含む
2. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト	10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に10％含む

SK1649

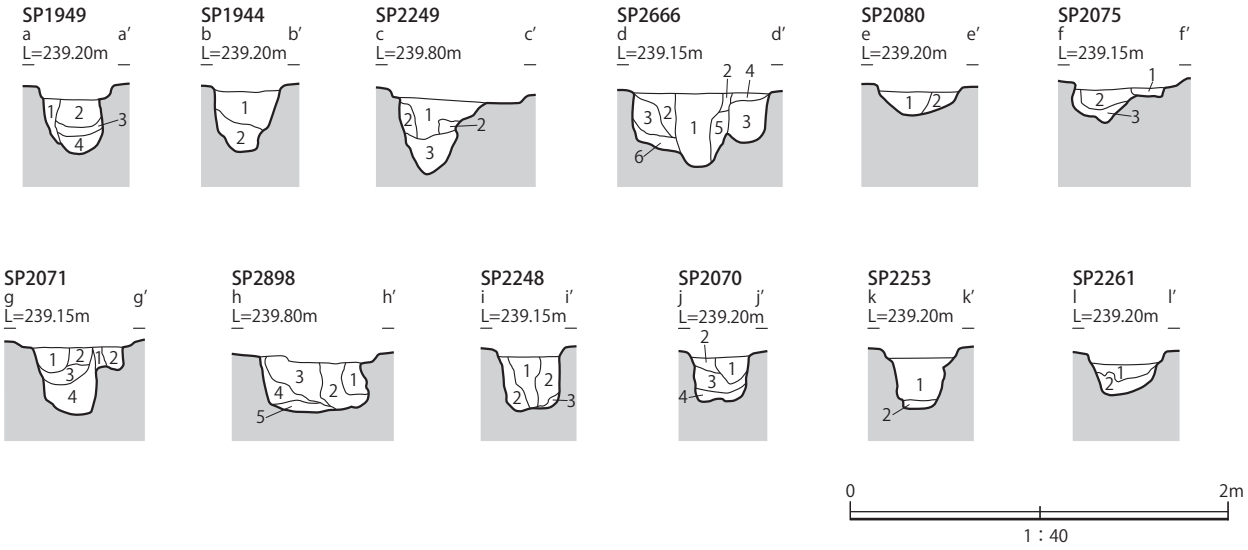
1. 10R2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
3. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
4. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
5. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR2/2黒褐色シルトをブロック状に10％含む
6. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に40％含む
7. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む



第 81 図　A 区　掘立柱建物 SB2793（2）



第 82 図　A 区　柵列 SA2893・2894・2895・2896（1）



SP1944

1. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y8/4淡黄色砂質シルトを粒、ブロック状に多く含む　炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y8/4淡黄色砂質シルトを斑状に少し含む　しまる

SP1949

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y5/6黄褐色砂質シルトを斑状に多く含む　しまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR3/2黒褐色シルトを斑状に多く含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
3. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y5/4黄褐色砂質シルトを帯状に多く含む　しまる
4. 2.5Y4/4オリーブ褐色粘質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状に少し含む　しまる

SP2070

1. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y4/4オリーブ褐色シルトを斑状に少し含む　土器片を粒状にわずかに含む　しまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y4/4オリーブ褐色シルトを斑状に多く含む　固くしまる
3. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色粘質シルトを粒、ブロック状に多く含む　しまる
4. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色粘質シルトを粒状に少し含む　しまる

SP2071

1. 2.5Y6/4にぶい黄色シルト	10YR2/3黒褐色シルトを斑状に少し含む　固くしまる
2. 10YR2/3黒褐色シルト	2.5Y6/4黄色シルトを粒状にわずかに含む　炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
3. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y8/4淡黄色砂質シルトを粒状に少し含む　しまる
4. 2.5Y5/6黄褐色砂質シルト	10YR2/3黒褐色シルトを斑状に多く含む　しまる

SP2075

1. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y8/3淡黄色砂質シルトを粒状にわずかに含む　炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルト	2.5Y3/2黒褐色シルトを斑状に少し含む　固くしまる
3. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色粘質シルトを斑状に多く含む　しまる

SP2080

1. 2.5Y3/2黒褐色シルト	2.5Y5/4黄褐色砂質シルトを斑状に、帯状に少し含む　しまる
2. 2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状に多く含む　固くしまる

SP2248

1. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを粒状にわずかに含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
2. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを斑状に少し含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
3. 2.5Y5/4黄褐色砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを粒状にわずかに含む　しまりなし

SP2249

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y5/4黄褐色砂質シルトを帯状、斑状に少し含む　しまる
2. 2.5Y5/6黄褐色砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを粒状に少し含む　しまる
3. 2.5Y3/1黒褐色シルト	2.5Y4/4オリーブ褐色シルトを粒状に少し含む　しまる

SP2253

1. 10YR1.7/1黒色シルト	2.5Y6/3にぶい黄色シルトを粒状にわずかに含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
2. 10YR1.7/1黒色シルト	2.5Y6/3にぶい黄色シルトをブロック状に多く含む　しまる

SP2254

1. 2.5Y4/4オリーブ褐色シルト	2.5Y2/1黒色シルトを斑状に少し含む　固くしまる

SP2261

1. 2.5Y3/2黒褐色シルト	2.5Y7/3浅黄色砂質シルトを粒状にわずかに含む　しまる
2. 2.5Y6/4にぶい黄色粘質シルト	2.5Y2/1黒色シルトを斑状に少し含む　しまる

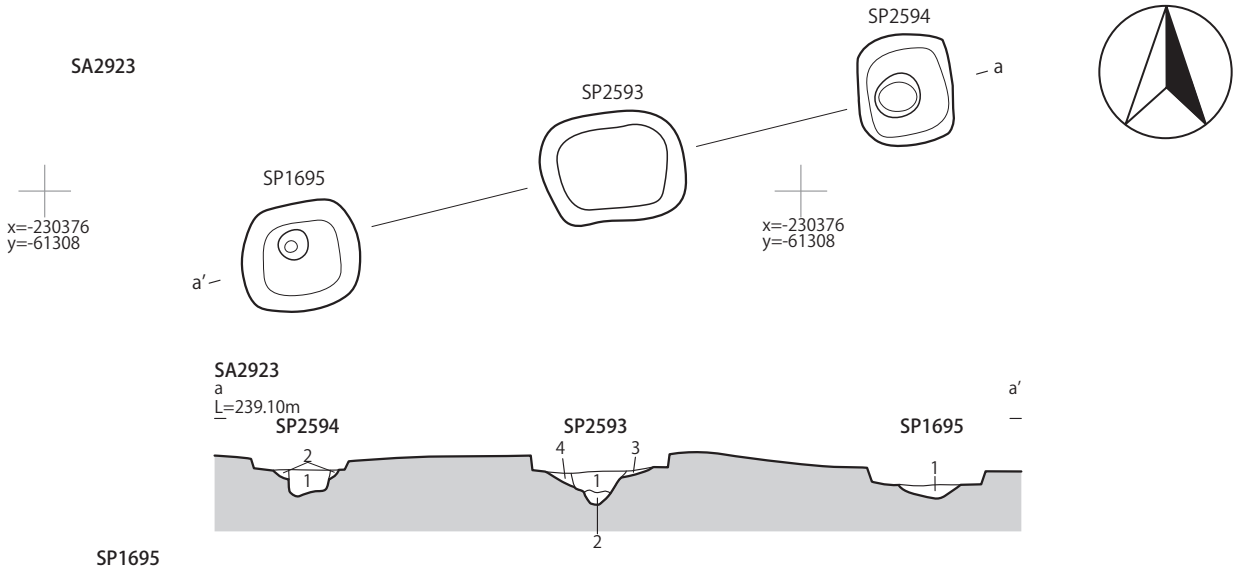
SP2666

1. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y8/4淡黄色砂質シルトを粒状にわずかに含む　しまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y8/3淡黄色砂質シルトを粒状に多く含む　土器片、炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
3. 5Y2/2オリーブ黒色シルト	2.5Y4/6オリーブ褐色砂質シルトを粒、斑状に少し含む　炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
4. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを粒状に少し含む　土器片を粒状にわずかに含む　しまる
5. 10YR1.7/1黒色シルト	10YR6/4にぶい黄色砂質シルトを斑状に少し含む　しまる
6. 2.5Y5/4黄褐色砂質シルト	2.5Y2/1黒色シルトを斑状に多く含む　しまる

SP2898

1. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y7/4浅黄色砂質シルト、炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y8/4淡黄色砂質シルトを斑状に多く含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
3. 2.5Y5/4黄褐色シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト、2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを斑状に多く含む　しまる
4. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y5/6黄褐色シルトを斑状に少し含む　しまる
5. 2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルト	2.5Y2/1黒色シルトを粒状にわずかに含む　しまりなし

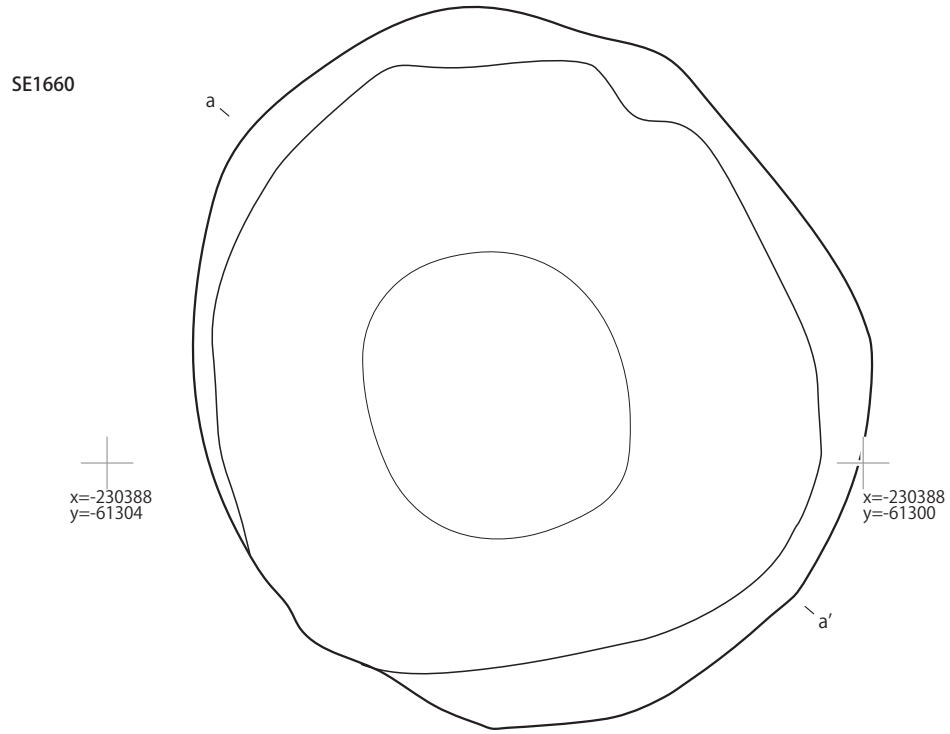
第 83 図　A 区　柵列 SA2893・2894・2895・2896（2）

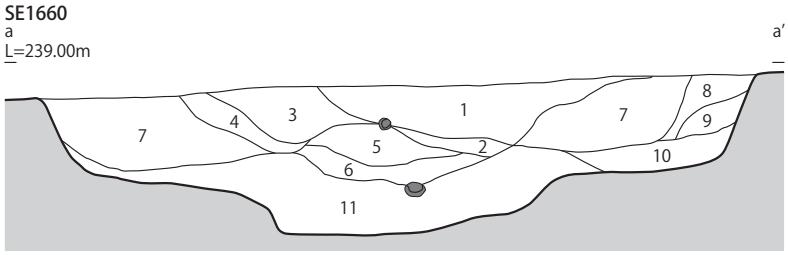


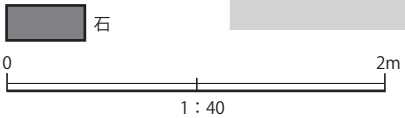
SP1695
1. 10YR2/1黒色粘質シルト　10YR3/1黒褐色粘質シルト及び10YR6/2灰黄褐色砂質シルトをブロック状に40％含む

SP2593
1. 10YR2/1黒色粘質シルト　10YR3/1黒褐色粘質シルト及び10YR6/2灰黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
2. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR6/2灰黄褐色砂質シルトをブロック状に50％含む
3. 10YR2/1黒色粘質シルト　10YR3/1黒褐色粘質シルト及び10YR6/2灰黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
4. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR6/2灰黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む

SP2594
1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR6/2灰黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
2. 10YR2/1黒色粘質シルト　10YR6/2灰黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む



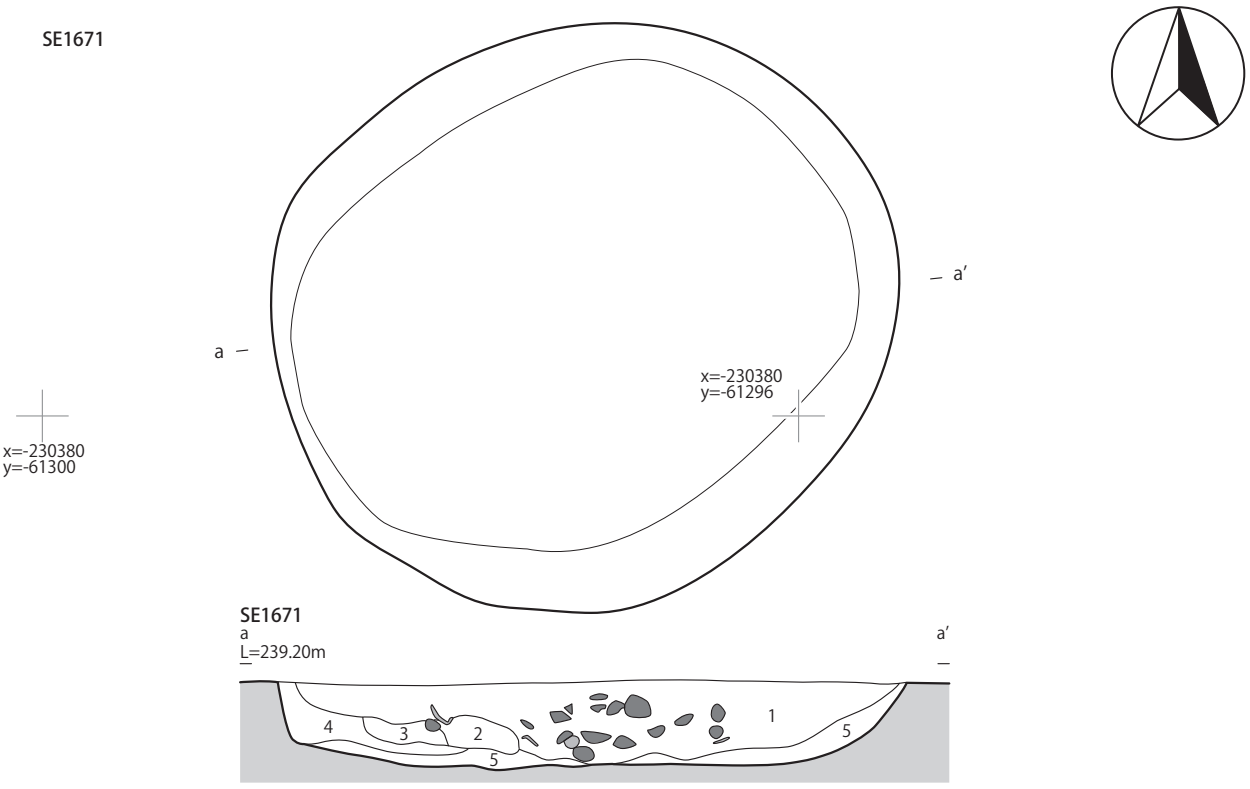




第 84 図　A 区　柵列 SA2923・井戸 SE1660

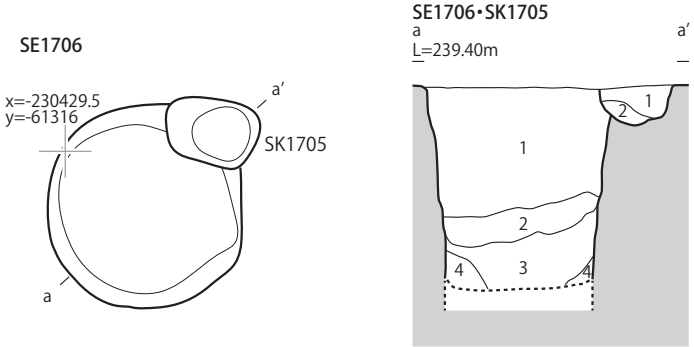
SE1660

1. 10YR4/1褐灰色粘土	粘性弱、しまり強土器出土あり　炭化粒を少し含む
2. 10YR3/1黒褐色粘土	粘性強、しまり弱　炭化粒をわずかに含む
3. 10YR3/1黒褐色粘土	粘性中、しまり中　10YR6/4にぶい黄橙色粘土を斑状に多く含む　炭化粒を少し含む
4. 10YR2/1黒色粘土	粘性中、しまり強　10YR6/4にぶい黄橙色粘土を多く含む　土器片出土あり
5. 5Y4/1灰色粘土	粘性強、しまり弱　2.5Y3/1黒褐色粘土を斑状に含む
6. 5Y4/1灰色粘土	粘性強、しまり弱　2.5Y3/1黒褐色粘土を斑状に5層より多く含む
7. 10YR3/1黒褐色粘土	粘性、しまりともに中　10YR6/4にぶい黄橙色粘土を斑状に含む　炭化粒をわずかに含む
8. 10YR3/1黒褐色粘土	粘性弱、しまり強　10YR5/3にぶい黄褐色粘土を粒状に含む
9. 10YR3/1黒褐色粘土	粘性中、しまり中　10YR5/3にぶい黄褐色粘土を粒状に5層より多く含む
10. 10YR3/1黒褐色粘土	粘性中、しまり弱　10YR5/3にぶい黄褐色粘土を粒状に、9層より多く含む
11. 2.5Y4/1黄灰色粘土	粘性強、しまり弱　土器片出土あり　5GY6/1オリーブ灰色粘土をブロック状にわずかに含む



SE1671

1. 10YR2/2黒褐色シルト	大小礫及びこぶし大の石、土器片を含む　炭化物をわずかに含む　しまりあり
2. 10YR2/2黒褐色シルト	大小礫を少し含む
3. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR4/4褐色シルトを小ブロックでわずかに含む
4. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR4/4褐色シルトを小ブロックで斑状に含む　10YR2/1黒色シルトを少量含む　（埋め土）
5. 10YR2/1黒色シルト	10YR4/4褐色シルトを小ブロックで斑状に少量含む　石をわずかに含む



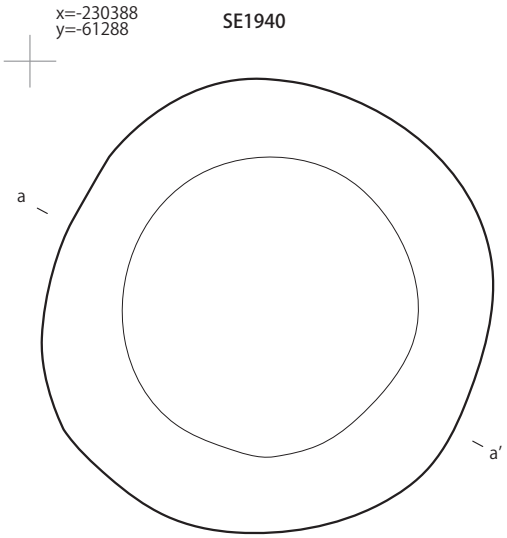
SE1706

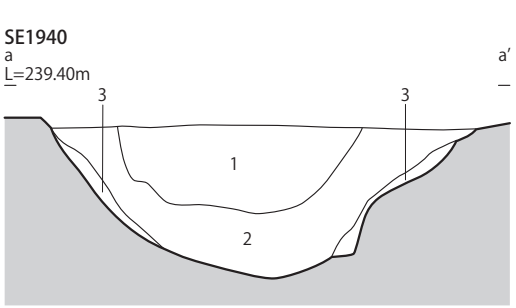
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y5/6黄褐色砂質シルトを斑、帯状にきわめて多く含む
2. 2.5Y2/1黒色粘質シルト	2.5Y5/6黄褐色砂質シルトを斑、帯状に少し含む　1mm大の砂利を少し含む　しまる
3. 2.5Y2/1黒色粘質シルト	混ざりなし　しまりなし
4. 2.5Y5/4黄褐色粘質シルト	2.5Y2/1黒色シルトを粒状に少し含む　1mm大の砂利を多く含む　しまりなし

SK1705

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y5/4黄褐色シルトを斑状に多く含む　固くしまる
2. 2.5Y6/4にぶい黄色シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを帯状に多く含む　炭化物を粒状に微量含む　固くしまる

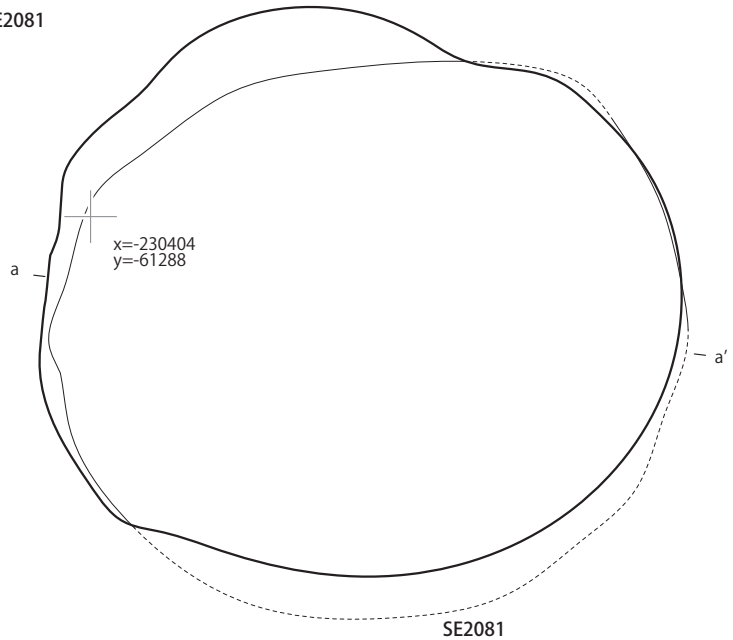
第 85 図　A 区　井戸 SE1660 注記・1671・1706・SK1705

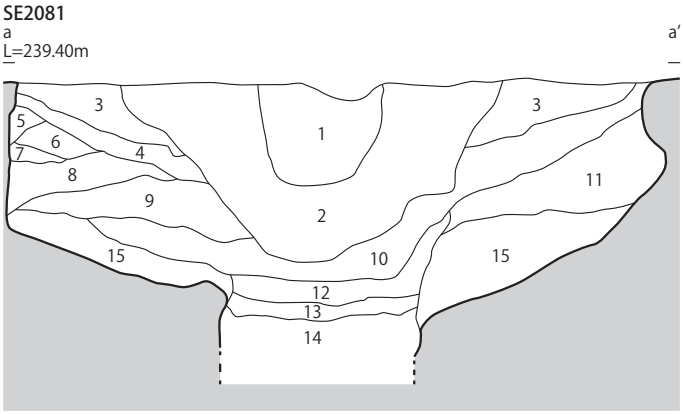




SE1940

1. 10YR3/1黒褐色粘土　礫(小)及び1~5cm程度の川原石、砂を多量に含む　炭化物をわずかに含む　粘性あり　しまりあり
2. 10YR3/2黒褐色粘土　砂及び1~5cm程度の川原石を少量含む　炭化物をわずかに含む　粘性あり　しまりあり
3. 10YR3/2黒褐色粘土　10YR5/3にぶい黄褐色粘土をブロック状に7％含む　砂を少量含む　炭化物をわずかに含む　粘性あり　しまりあり





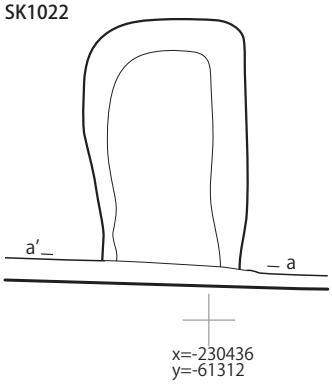
SE2081

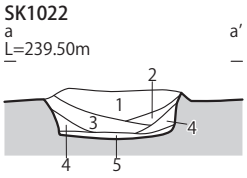
1. 10YR2/1黒色シルト　大小礫、土器を多く含む　しまる
2. 10YR3/1黒褐色シルト　小礫を多く含み、焼土を少し含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR4/4褐色シルトを斑状に含み小礫を多く含む　固くしまる
4. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR4/4褐色シルトを少し含む
5. 10YR2/1黒色シルト　10YR4/4褐色シルトを斑状に少し含む
6. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR3/3暗褐色シルトと10YR4/4褐色シルトを少し含む
7. 10YR2/1黒色シルト　10YR4/4褐色シルトを少し含む
8. 10YR3/3暗褐色粗砂　10YR4/4褐色シルトを斑状に少し含み小礫を含む
9. 10YR3/2黒褐色砂　10YR2/1黒色シルトをわずかに含み礫を少し含む
10. 10YR3/3暗褐色粗砂　10YR4/4褐色シルトと10YR2/1黒色シルトを含む
11. 10YR2/1黒色シルト　10YR4/4褐色シルトを小ブロックで少し含み、10YR3/3暗褐色砂をわずかに含む
12. 10YR2/2黒褐色粘質土　10YR4/4褐色シルトを含み、同色砂と小礫を多く含む
13. 10YR2/1黒色粘質土　礫を多く含む
14. 10YR2/1黒色粘質土　同色砂を含み、礫を含む
15. 10YR4/4褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色シルトを斑状にわずかに含む

0　2m
1：40

第 86 図　A 区　井戸 SE1940・2081

SK1022

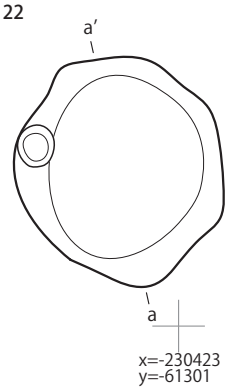


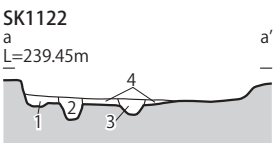


SK1022

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/6黄褐色シルトを斑状に少量含む しまりあり
2. 10YR5/6黄褐色シルト	10YR2/2黒褐色シルトを斑状に少量含む しまりあり
3. 10YR2/1黒色シルト	10YR5/6黄褐色シルトを粒状に少量含む しまりあり
4. 10YR5/6黄褐色シルト	10YR2/1黒色シルトを斑状に多量に含む しまりなし
5. 7.5YR1.7/1黒色シルト	微細炭化物を全体に多量に含む 壁際に被熱痕あり　しまりなし

SK1122

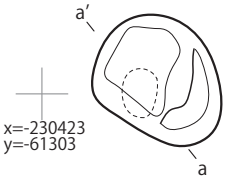


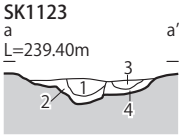


SK1122

1. 2.5Y3/2黒褐色シルト	2.5Y5/4黄褐色砂質シルトをブロック状にひとつ含む　固くしまる
2. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y3/2黒褐色シルト、2.5Y6/6明黄褐色砂質シルトを帯状に多く含む　固くしまる
3. 2.5Y3/2黒褐色シルト	10YR1.7/1黒色シルトを帯状に少し含む 固くしまる
4. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y8/6黄色砂質シルトを粒状に多く含む 炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる

SK1123

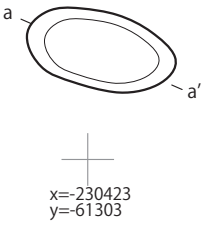


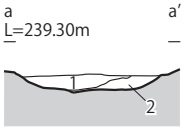


SK1123

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y2/1黒色シルトを帯状にわずかに含む 固くしまる
2. 2.5Y5/6黄褐色砂質シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを斑状に少し含む 土器片を粒状にわずかに含む　固くしまる
3. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを斑状に少し含む 炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
4. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y5/6黄褐色砂質シルトを粒状に少し含む 炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる

SK1157

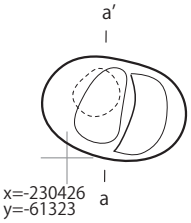


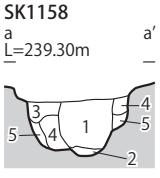


SK1157

1. 10YR3/3暗褐色シルト	10YR7/4黄橙色シルトを斑状に多く含む しまりなし
2. 10YR3/4暗褐色シルト	10YR5/6黄褐色粘質シルトを帯状に多く含む 10YR2/1黒色粘質シルトを柱状に多く含む　しまる

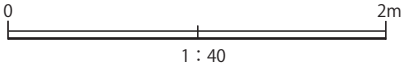
SK1158





SK1158

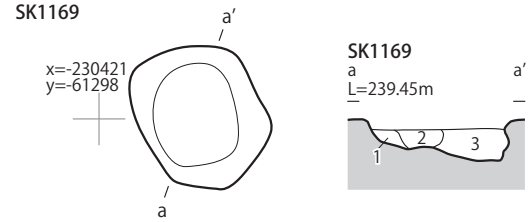
1. 10YR3/2黒褐色粘質シルト	10YR6/6明黄褐色粘質シルトを粒状に多く含む 10YR1.7/1黒色シルトを粒状に少し含む　しまる
2. 10YR5/6黄褐色砂質シルト	10YR4/1褐灰色シルトを柱状に微量含む　しまる
3. 10YR2/1黒色シルト	10YR4/2灰黄褐色砂質シルトをブロック状に微量含む 10YR8/8黄橙色粘質シルトを斑状に多く含む　しまる
4. 10YR4/2灰黄褐色砂質シルト	10YR2/1黒色シルトを斑状に少し含む　しまりなし
5. 10YR5/6黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルトを斑状に少し含む　しまる



第 87 図　A 区　土坑 SK1022・1122・1123・1157・1158

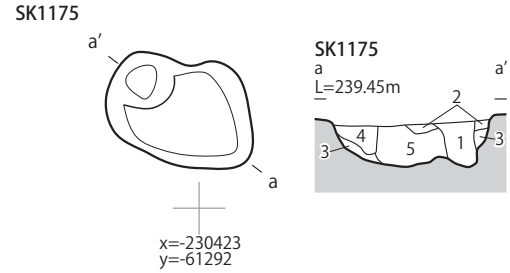
SK1168

1. 2.5Y5/4黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルトを斑状に少し含む 炭化物を粒状にわずかに含む　しまる



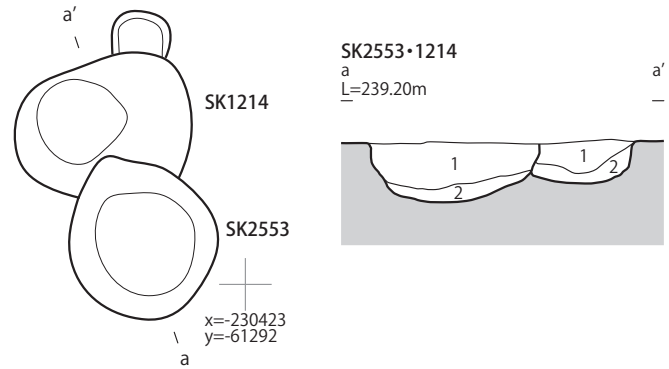
SK1169

1. 2.5Y7/4浅黄色砂質シルト	2.5Y2/1黒色シルトを斑状に少し含む　しまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y8/6黄色砂質シルトを斑状に多く含む　しまりなし
3.10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y8/6黄色砂質シルトを斑状にきわめて多く含む　しまる



SK1175

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR6/8明黄褐色シルトを斑状に少し含む　しまりなし
2.10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/8黄褐色シルトを粒状にわずかに含む　しまりなし
3. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト	2.5Y2/1黒色シルトを斑状に多く含む　しまりなし
4. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y6/3にぶい黄色シルトを粒状にわずかに含む しまりなし
5. 2.5Y4/4オリーブ褐色シルト	2.5Y2/1黒色シルト、2.5Y6/6明黄褐色シルトを斑状に 多く含む　しまる

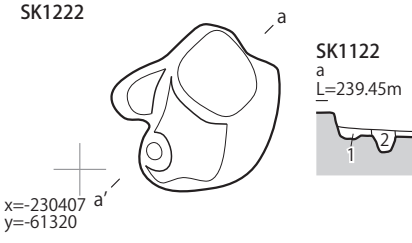


SK2553

1. 2.5Y3/1黒褐色シルト	2.5Y4/3オリーブ褐色シルトを 粒状にわずかに含み、炭化物を少し含む
2. 2.5Y3/1黒褐色シルト	2.5Y4/3オリーブ褐色シルトを斑状に 含み、炭化物をわずかに含む

SK1214

1. 2.5Y3/1黒褐色シルト	2.5Y4/3オリーブ褐色シルトを粒状に わずかに含む
2. 2.5Y4/3オリーブ褐色細砂	2.5Y3/1黒褐色シルトをわずかに含む



SK1122

1. 2.5Y3/2黒褐色シルト	2.5Y5/4黄褐色砂質シルトをブロック状に ひとつ含む　固くしまる
2. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y3/2黒褐色シルト、2.5Y6/6明黄褐色砂質 シルトを帯状に多く含む　固くしまる
3. 2.5Y3/2黒褐色シルト	10YR1.7/1黒色シルトを帯状に少し含む 固くしまる
4. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y8/6黄色砂質シルトを粒状に多く含む 炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる

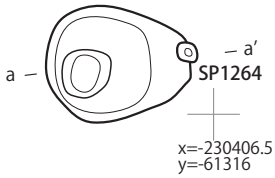
土器

0　　2m

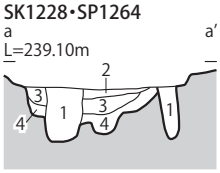
1：40

第 88 図　A 区　土坑 SK1168・1169・1175・1214・2553・1222

SK1228



SK1228・SP1264



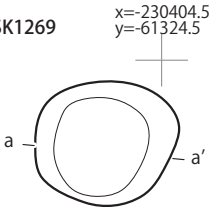
SK1228

1. 2.5Y3/2黒褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色シルトを斑状に多く含む　しまりなし
2. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y5/6黄褐色シルトを粒状にわずかに含む 炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
3. 2.5Y5/6黄褐色シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状に多く含む　しまりなし
4. 2.5Y3/1黒褐色シルト	2.5Y5/6黄褐色シルトを斑状に多く含む　しまりなし

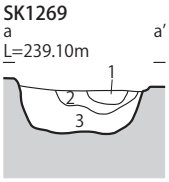
SP1264

1. 2.5Y3/2黒褐色シルト	2.5Y7/6明黄褐色シルトを斑状に多く含む　しまる

SK1269



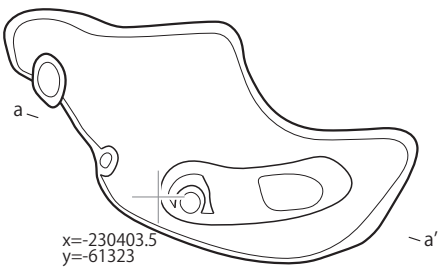
SK1269



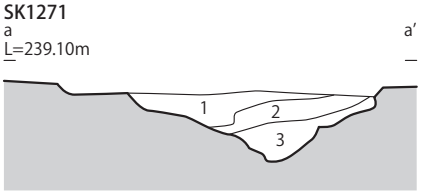
SK1269

1. 2.5Y4/1黄灰色シルト	2.5Y8/2灰白色シルトを粒状に多く含む　炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y8/2灰白色シルトを粒状、斑状に多く含む　固くしまる
3. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを斑状に多く含む　土器片 炭化物を粒状にごくわずかに含む　固くしまる

SK1271



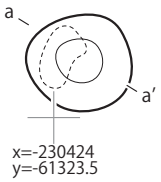
SK1271



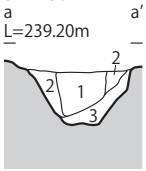
SK1271

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR6/4にぶい黄橙色シルトブロックを少量含む粘性ややあり　しまりあり
2. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR6/4にぶい黄橙色及び10YR5/8黄褐色シルト小ブロックを多量に含む　粘性なし　しまりあり
3. 10YR3/1黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトブロック(大)を少量含む　粘性ややあり　しまりややあり

SK1280



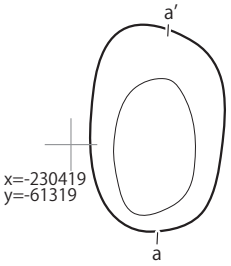
SK1280



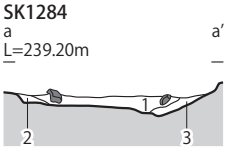
SK1280

1. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y5/3黄褐色砂質シルトを粒状に多く含む 2.5Y3/1黒褐色粘質シルトを斑状に少し含む　固くしまる
2. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを斑状に少し含む 炭化物を粒状に微量含む　しまる
3. 10YR1.7/1黒色粘質シルト	2.5Y6/6明黄褐色粘質シルトを斑状に多く含む　固くしまる

SK1284



SK1284

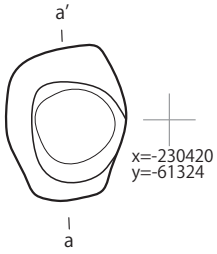


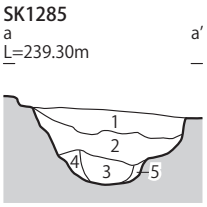
SK1284

1. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y4/4オリーブ褐色シルトを粒状に多く含む　しまる
2. 2.5Y4/6オリーブ褐色シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状に少し含む　しまる
3. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y6/6明黄褐色シルトを粒、斑状に多く含む　しまる

第 89 図　A 区　土坑 SK1228・1269・1271・1280・1284

SK1285

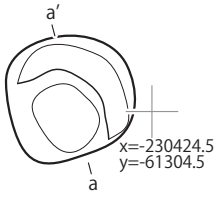


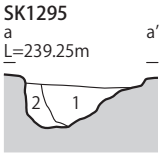


SK1285

1. 10YR1.7/1黒色シルト	2.5Y8/4淡黄色シルトを粒状に多く含む　しまる
2. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y7/4浅黄色シルトを斑状に多く含む　しまる
3. 2.5Y8/3淡黄色シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを帯状に少し含む　しまりなし
4. 2.5Y7/4浅黄色シルト	2.5Y2/1黒色シルトを斑状に多く含む　しまりなし
5. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y8/3淡黄色シルトを斑状にわずかに含む　しまりなし

SK1295

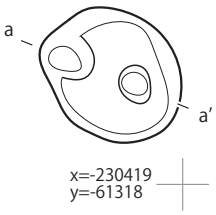


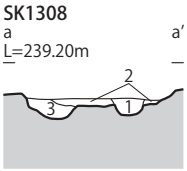


SK1295

1. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y5/4黄褐色砂質シルトを斑状に少し含む　2.5Y8/3淡黄色砂質シルトを斑状に少し含む土器片を粒状にわずかに含む　しまる
2. 10YR3/2黒褐色シルト	2.5Y5/4黄褐色砂質シルトを斑状に多く含む　しまりなし

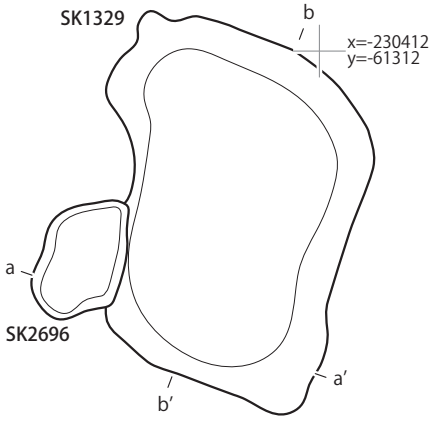
SK1308

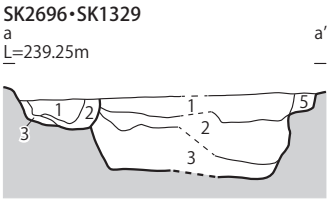


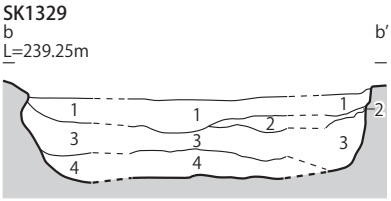


SK1308

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y6/6明黄褐色シルトを斑状に多く含む　固くしまる
2. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト	2.5Y5/6黄褐色シルトを粒状に少し含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
3. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y7/6明黄褐色シルトを斑状に少し含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる







SK1329

1. 10YR1.7/1黒色シルト	10YR8/1灰白色シルトを粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 10YR1.7/1黒色シルト	10YR8/1灰白色シルトを斑状に少し含む 土器片を粒状にわずかに含む　固くしまる
3. 10YR3/1黒褐色シルト	2.5Y7/6明黄褐色シルトを粒状に少し含む　しまる
4. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y5/3黄褐色粘質シルトを斑状に少し含む 炭化物を帯状に少し含む　土器片を粒状にわずかに含む　しまる
5. 10YR3/1黒褐色シルト	2.5Y8/1灰白色シルトを斑状に多く含む　しまる

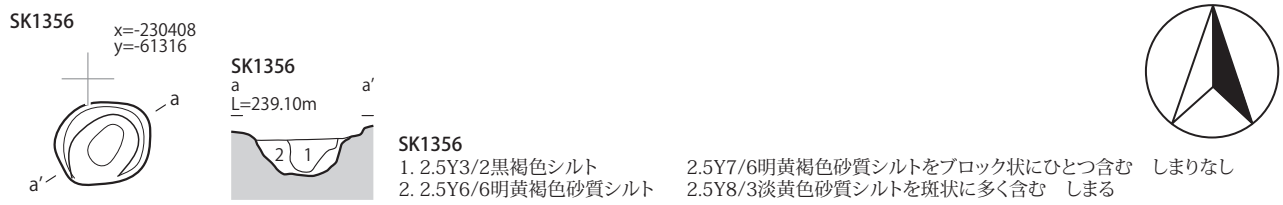
SK2696

1. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y6/8明黄褐色砂質シルトを粒状にわずかに含む 炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y6/8明黄褐色砂質シルトを粒状に多く含む 炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
3. 2.5Y3/8暗オリーブ褐色シルト	2.5Y4/6オリーブ褐色シルトを斑状に少し含む　固くしまる

0　2m

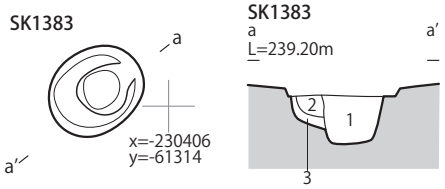
1：40

第 90 図　A 区　土坑 SK1285・1295・1308・1329・2696



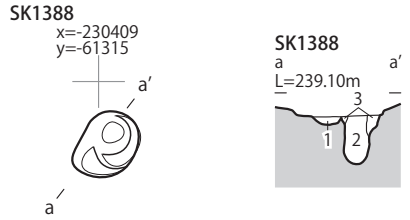
SK1356

1. 2.5Y3/2黒褐色シルト	2.5Y7/6明黄褐色砂質シルトをブロック状にひとつ含む　しまりなし
2. 2.5Y6/6明黄褐色砂質シルト	2.5Y8/3淡黄色砂質シルトを斑状に多く含む　しまる



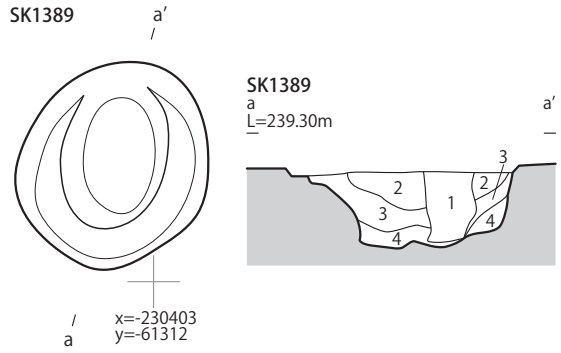
SK1383

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
2. 10YR2/2黒褐色シルト	ほぼ純層　しまりあり
3. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む



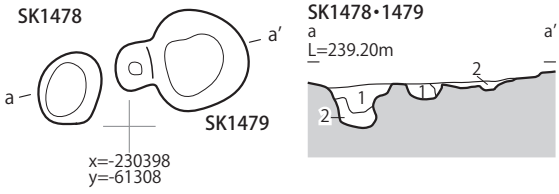
SK1388

1. 2.5Y3/2黒褐色シルト	2.5Y5/3黄褐色シルトを粒状に少し含む　しまりなし
2. 2.5Y3/2黒褐色シルト	2.5Y5/6黄褐色シルトを粒状に少し含む　しまりなし
3. 2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルト	混ざりなし　しまりなし



SK1389

1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に5％含む
2. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に5％含む
3. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む　10mm程度の炭化物を含む
4. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト	10YR5/2灰黄褐色シルトをまだらに20％含む

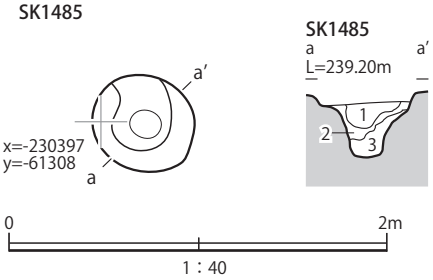


SK1478

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y8/4淡黄色シルトを粒状に多く含む　しまる
2. 2.5Y7/3浅黄色砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状に多く含む　しまりなし

SK1479

1. 2.5Y4/4オリーブ褐色砂質シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを斑状に多く含む　しまる
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを粒状にわずかに含む　しまる
3. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y2/1黒色シルトを粒状に少し含む 2.5Y6/4にぶい黄色シルトを斑状に多く含む 固くしまる

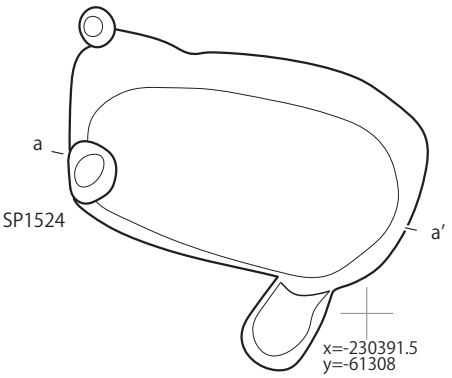


SK1485

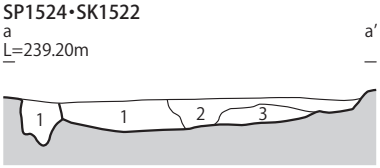
1. 10YR3/2黒褐色シルト	2.5Y7/6明黄褐色砂質シルトを斑状に多く含む 炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 2.5Y7/6明黄褐色砂質シルト	2.5Y2/1黒色シルトを粒状に多く含む 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを斑状に多く含む　しまる
3. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR4/3にぶい黄褐色シルトを斑状に多く含む 炭化物を粒状にわずかに含む　しまる

第 91 図　A 区　土坑 SK1356・1383・1388・1389・1478・1479・1485

SK1522



SP1524・SK1522



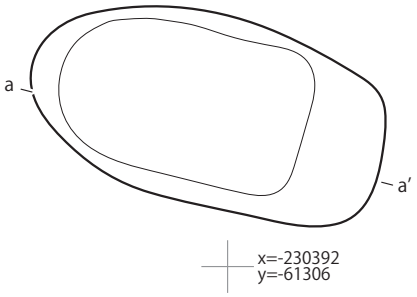
SK1522

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR4/4褐色シルトをブロックで少し含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR4/4褐色シルトを斑状に少し含む
3. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR4/4褐色シルトをブロックで斑状に含む

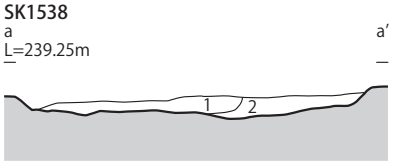
SP1524

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR4/4褐色シルトをブロックで斑状に多く含む

SK1538



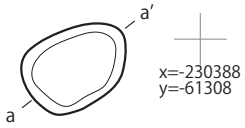
SK1538



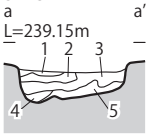
SK1538

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR4/4褐色シルトを斑状に含み、炭化物をわずかに含む
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR4/4褐色シルトを粒状に少し含む

SK1541



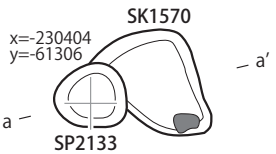
SK1541



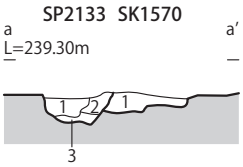
SK1541

1. 10YR1.7/1黒色シルト	2.5Y6/8明黄褐色シルトを斑状に多く含む　しまりなし
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	10YR1.7/1黒色シルトを粒状にわずかに含む　しまる
3. 10YR1.7/1黒色シルト	2.5Y7/4浅黄色シルトを斑状に少し含む　しまりなし
4. 2.5Y5/6黄褐色シルト	2.5Y2/1黒色シルトを斑状にわずかに含む　しまりなし
5. 2.5Y7/6明黄褐色シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを粒状に少し含む　しまる

SK1570



SP2133　SK1570



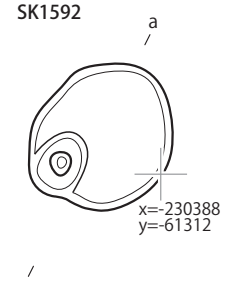
SK1570

1. 7.5YR3/3暗褐色シルト	5Y5/4にぶい赤褐色焼土及び7.5YR6/4にぶい橙色焼土をブロック状に10％含む　10YR4/3にぶい黄橙色細砂をブロック状に20％含む

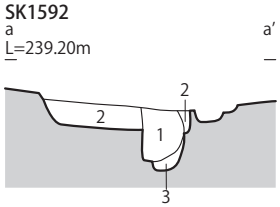
SP2133

1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	3mm程度の炭化物を含む　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に20％含む　7.5YR6/4にぶい橙色焼土の小ブロックを含む
2. 5YR5/4にぶい赤褐色シルト	焼土　10YR4/4褐色シルトをブロック状に20％含む　5mm程度の炭化物を含む
3. 10YR3/4暗褐色シルト	3mm程度の炭化物を含む　やや砂質

SK1592

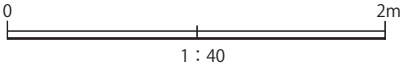


SK1592



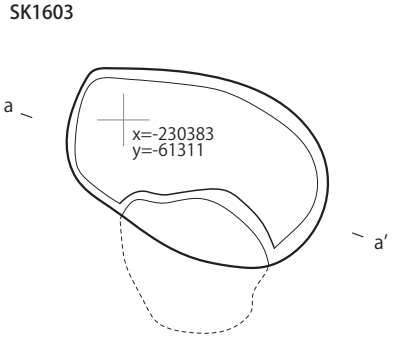
SK1592

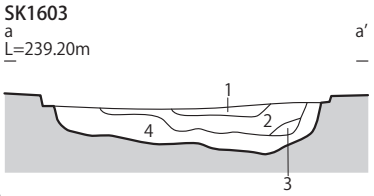
1. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
2. 10YR3/1黒褐色シルト	10YR2/1黒色粘質シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に40％含む
3. 10YR5/2灰黄褐色シルト	やや砂質シルト



石

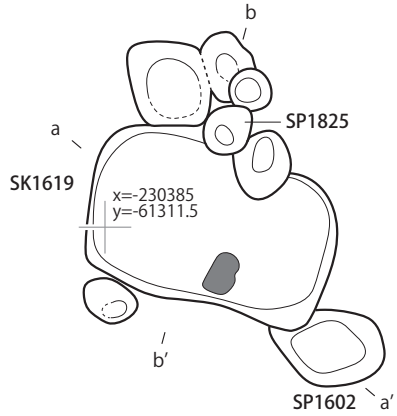
第 92 図　A 区　土坑 SK1522・1538・1541・1570・1592・ピット SP1524・2133

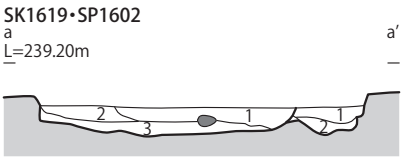


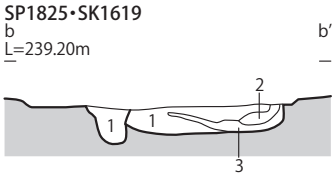


SK1603

1. 10YR2/2黒褐色シルト	ほぼ純層
2. 10YR2/2黒褐色シルト	5mm程度の炭化物を含む　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
3. 10YR2/2黒褐色シル	10YR2/2黒褐色粘質シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
4. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR2/2黒褐色土と10YR5/3にぶい黄褐色砂状シルトをブロック状に20%混在







SK1619

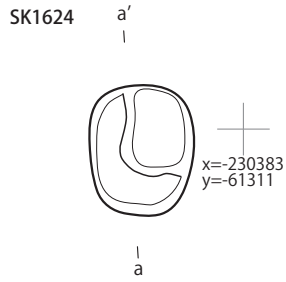
1. 7.5YR3/2黒褐色砂質シルト	10YR8/2灰白色砂質シルトを粒・ブロック状に少し含む　固くしまる
2. 7.5YR3/1黒褐色シルト	10YR8/2灰白色砂質シルトを斑状に少し含む　しまりなし
3. 7.5YR3/1黒褐色シルト	10YR8/2灰白色砂質シルトを斑状、ブロック状に多く含む　しまる

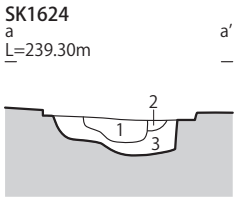
SP1602

1. 7.5YR4/2灰褐色シルト	10YR8/2灰白色砂質シルトをブロック状に含む　7.5YR2/1黒色シルトを斑状に少し含む　しまる
2. 7.5YR4/2灰褐色シルト	10YR8/2灰白色砂質シルトを斑状に多く含む　固くしまる

SP1825

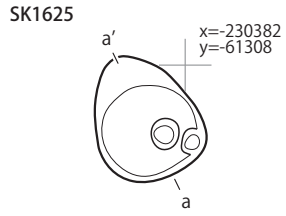
1. 7.5YR3/3暗褐色粘質シルト	10YR8/3浅黄橙色砂質シルトを粒状に少し含む　固くしまる

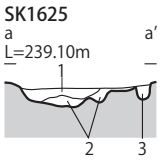




SK1624

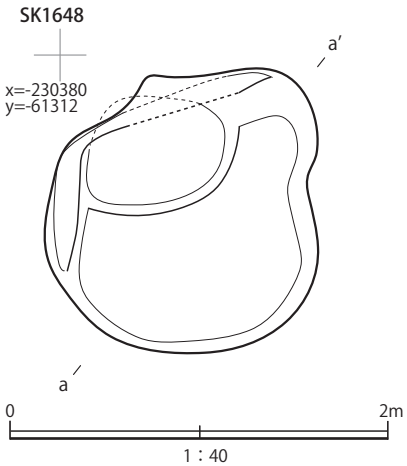
1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
2. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR2/1黒色粘質シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む

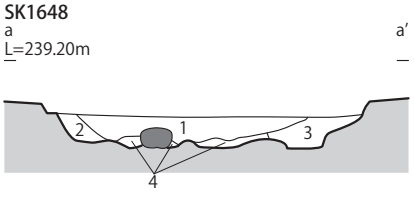




SK1625

1. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト、7.5Y5/8明黄褐色焼土を粒状に多く含む　しまる
2. 2.5Y3/2黒褐色シルト	2.5Y8/6黄色粘質シルトを斑状に多く含む　炭化物を帯状に少し含む　しまる
3. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y7/6明黄褐色砂質シルトを粒状に少し含む　しまる



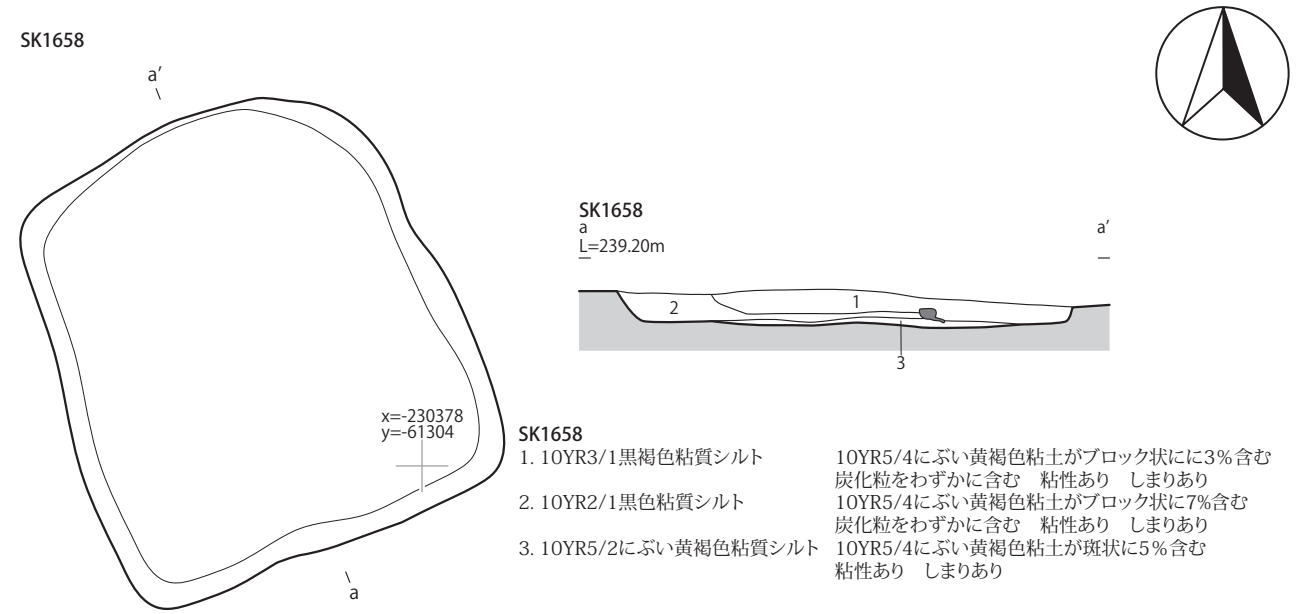


SK1648

1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR6/3にぶい黄橙色粘質シルトを小ブロックで5％含む
2. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10R6/3にぶい黄橙色粘質シルトをブロック状に10％含む
3. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR2/1黒色粘質シルト及び10YR6/3にぶい黄橙色粘質シルトをブロック状に20％含む
4. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR6/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む

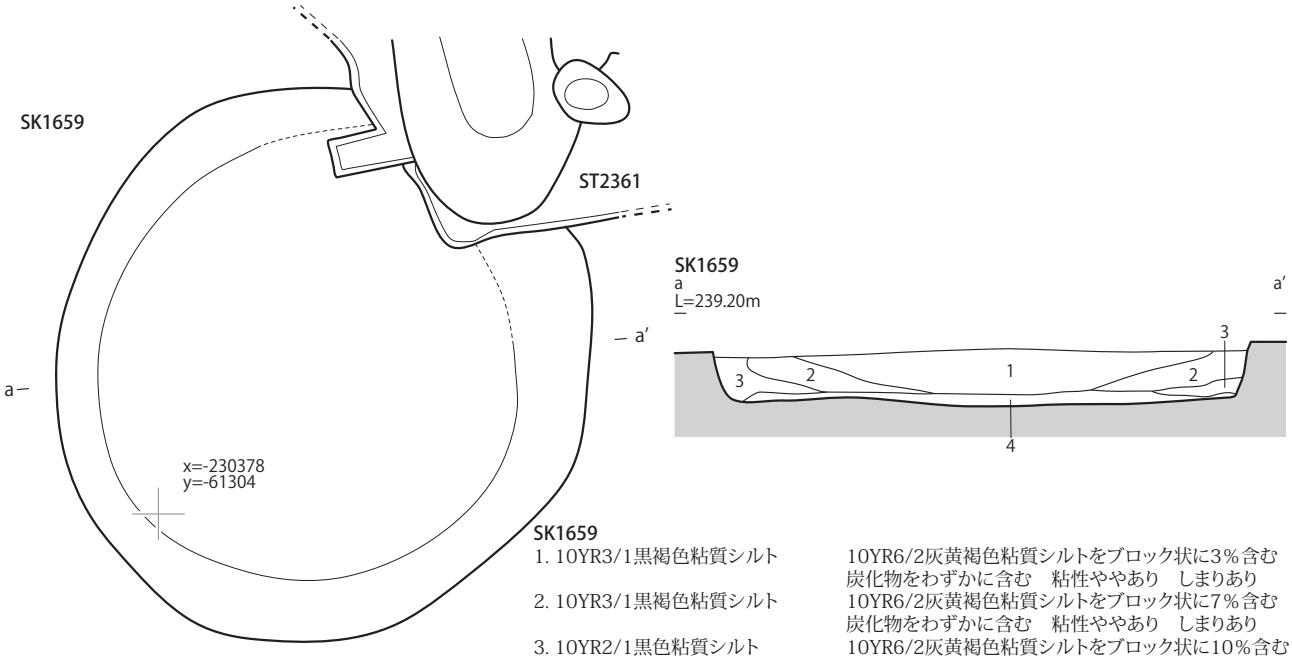
石

第 93 図　A 区　土坑 SK1603・1619・1624・1625・1648・ピット SP1602・1825



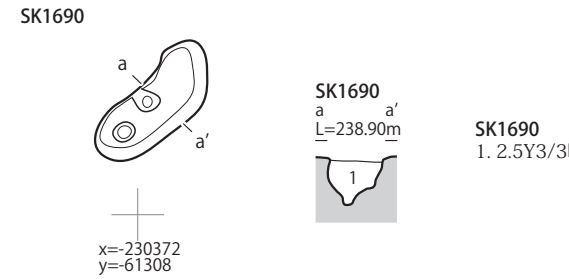
SK1658

1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色粘土がブロック状にに3％含む 炭化粒をわずかに含む　粘性あり　しまりあり
2. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色粘土がブロック状に7%含む 炭化粒をわずかに含む　粘性あり　しまりあり
3. 10YR5/2にぶい黄褐色粘質シルト	10YR5/4にぶい黄褐色粘土が斑状に5％含む 粘性あり　しまりあり



SK1659

1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR6/2灰黄褐色粘質シルトをブロック状に3％含む 炭化物をわずかに含む　粘性ややあり　しまりあり
2. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR6/2灰黄褐色粘質シルトをブロック状に7％含む 炭化物をわずかに含む　粘性ややあり　しまりあり
3. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR6/2灰黄褐色粘質シルトをブロック状に10％含む 粘性あり　しまりあり
4. 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト	10YR6/2灰黄褐色粘質シルトをブロック状に3％含む

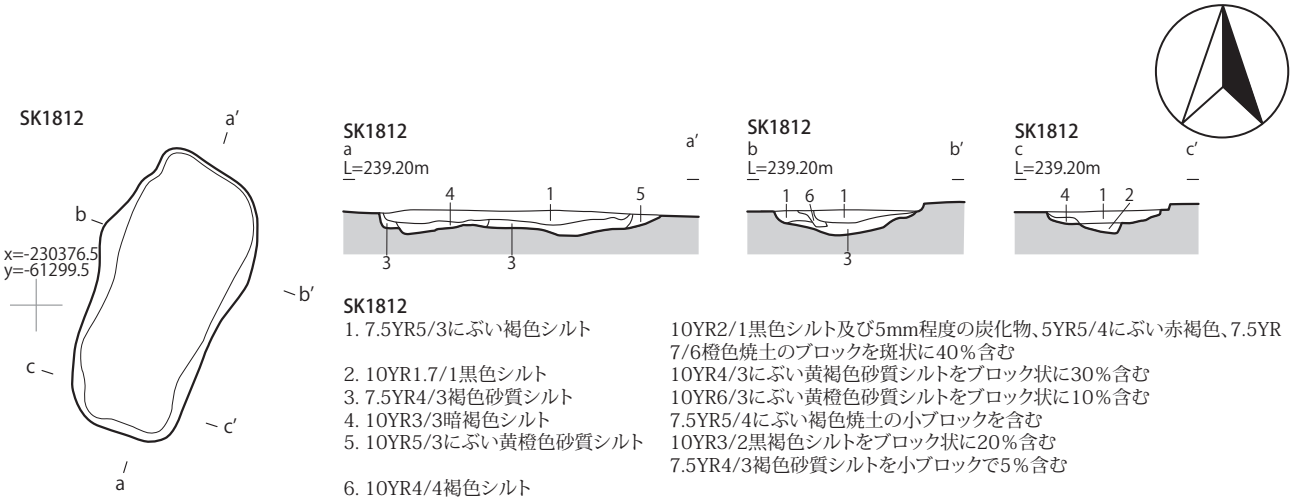


SK1690

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y7/3浅黄色砂質シルトを粒､斑状に多く含む 炭化物を粒状にわずかに含む　しまる

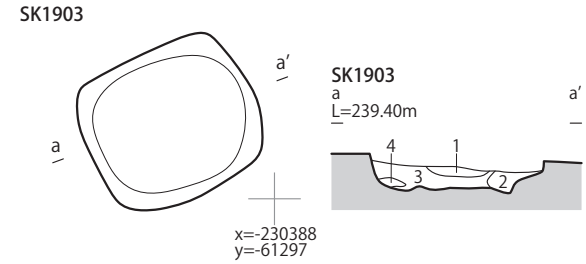
0　2m
1：40
石

第 94 図　A 区　土坑 SK1658・1659・1690



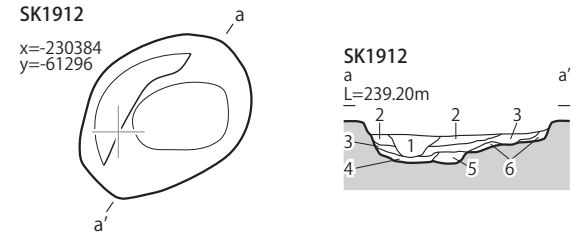
SK1812

1. 7.5YR5/3にぶい褐色シルト	10YR2/1黒色シルト及び5mm程度の炭化物、5YR5/4にぶい赤褐色、7.5YR 7/6橙色焼土のブロックを斑状に40％含む
2. 10YR1.7/1黒色シルト	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
3. 7.5YR4/3褐色砂質シルト	10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に10％含む
4. 10YR3/3暗褐色シルト	7.5YR5/4にぶい褐色焼土の小ブロックを含む
5. 10YR5/3にぶい黄橙色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に20％含む 7.5YR4/3褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
6. 10YR4/4褐色シルト	



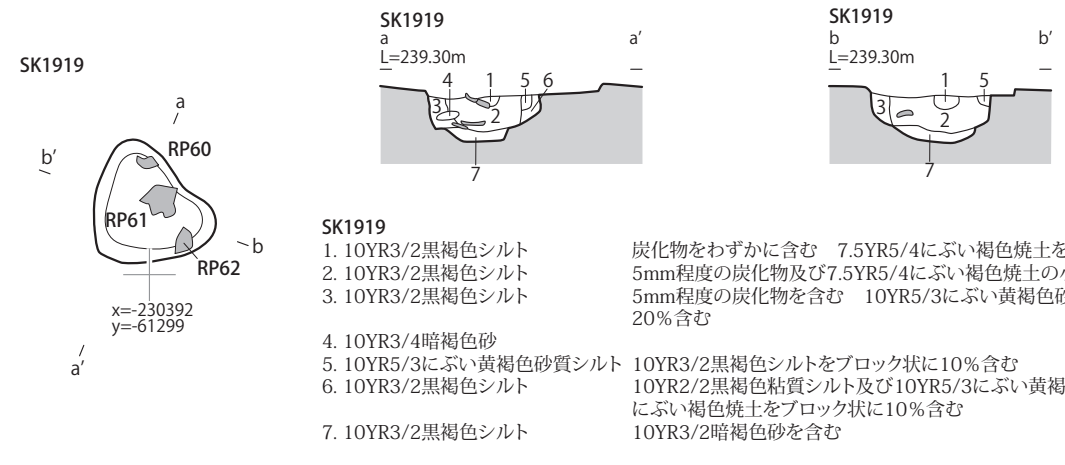
SK1903

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む　10YR2/1黒色粘質シルトブロックを含む
3. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
4. 10RY4/3にぶい黄褐色細砂	



SK1912

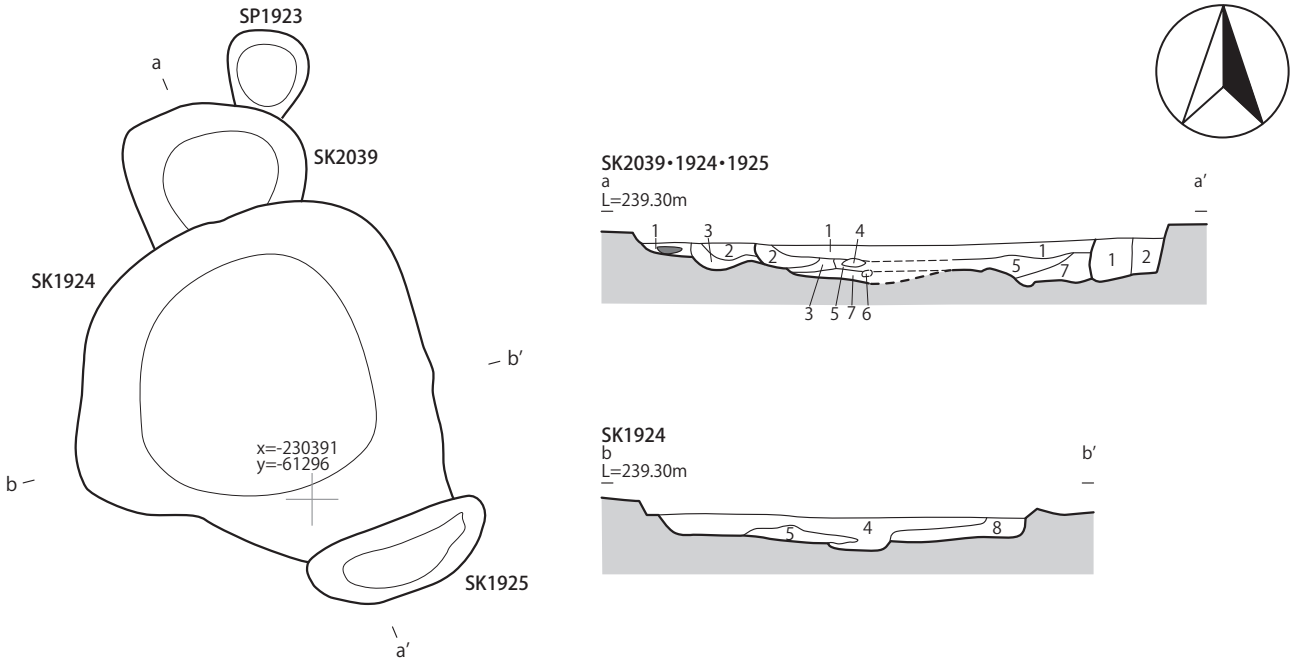
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色シルトを粒状にわずかに含む 炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
2. 2.5Y5/3黄褐色砂質シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト、2.5Y3/1黒褐色シルトを粒、斑状に多く含む　しまる
3. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y4/6オリーブ褐色シルトを粒状にわずかに含む　しまりなし
4. 10YR2/3黒褐色シルト	2.5Y6/2灰黄色シルト、炭化物を粒状にわずかに含む　しまりなし
5. 2.5Y3/3暗オリーブ砂質シルト	2.5Y2/1黒色シルト、2.5Y7/6明黄褐色砂質シルトを粒状に少し含む　しまりなし
6. 2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを粒状にわずかに含む しまる



SK1919

1. 10YR3/2黒褐色シルト	炭化物をわずかに含む　7.5YR5/4にぶい褐色焼土を小ブロックで3％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト	5mm程度の炭化物及び7.5YR5/4にぶい褐色焼土の小ブロックを10％含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト	5mm程度の炭化物を含む　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
4. 10YR3/4暗褐色砂	
5. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に10％含む
6. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR2/2黒褐色粘質シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト、7.5YR5/4にぶい褐色焼土をブロック状に10％含む
7. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR3/2暗褐色砂を含む

第 95 図　A 区　土坑 SK1812・1903・1912・1919



SK1924

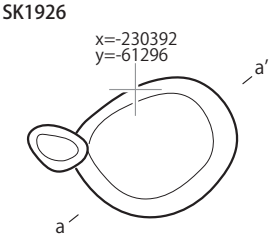
1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む　炭化粒をわずかに含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
4. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に40％含む
5. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト及び10YR2/1黒色粘質シルトをブロック状に10％含む
6. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	純層　塊状
7. 10YR4/3にぶい黄褐色砂	10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に20％含む

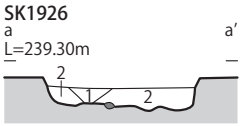
SK1925

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで3％含む
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含

SK2039

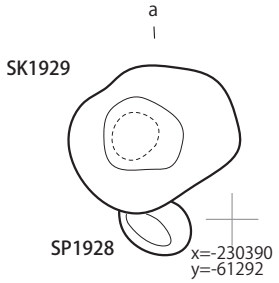
1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に50％含む　10YR2/1黒色粘質シルトの小ブロックを1％含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト及び10YR2/1黒色粘質シルトをブロック状に20％含む

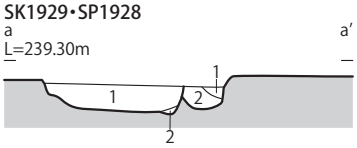




SK1926

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に40％含む 10YR2/1黒色粘質シルト及び3mm程度の炭化物を3％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に50％含む 10YR2/1黒色粘質シルト及び炭化物を含む5％含む





SK1929

1. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/3暗褐色シルト及び10YR2/1黒色粘質シルトをブロック状に40％含む
2. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に20％含む

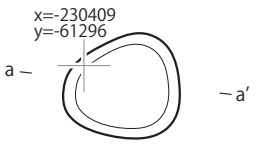
SP1928

1. 10YR2/1黒色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む　粘性ややあり
2. 10YR3/3暗褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む

0　2m
1：40
石

第 96 図　A 区　土坑 SK1924・1925・1926・1929・2039・ピット SP1928

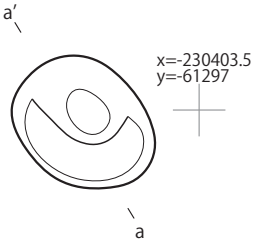
SK1966



SK1966

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで10％含む
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
3. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	地山ブロック
4. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR2/1黒褐色粘質シルトを帯状に含む 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む

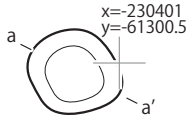
SK1991



SK1991

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR2/2黒褐色粘質シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを斑状に30％含む
2. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
3. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR2/2黒褐色粘質シルト及び10YR3/2黒褐色シルトを斑状に20％含む
4. 10YR3/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロック5％含む
5. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/1褐灰色細砂をブロック状に10％含む
6. 10YR5/1褐灰色細砂	10YR2/2黒褐色粘質シルトを帯状に10％含む
7. 10YR5/2灰黄褐色シルト	10YR2/2黒褐色粘質シルトを小ブロックで3％含む
8. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
9. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト	10YR2/2黒褐色粘質シルトをブロック状に20％含む
10. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
11. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色粘質シルトを小ブロックで10％含む

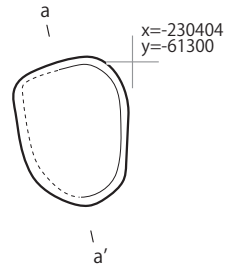
SK1995



SK1995

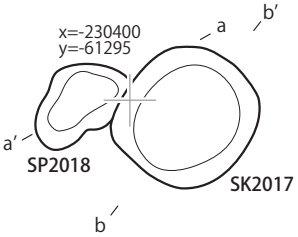
1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
2. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR2/2黒褐色粘質シルトをブロック状に20％含む

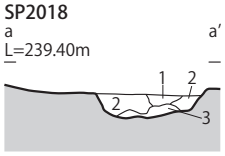
SK2016

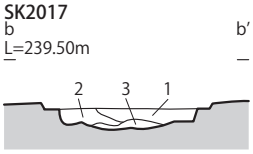


SK2016

1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	3～5mm程度の炭化物を含む　7.5YR5/4にぶい褐色焼土を小ブロックで3％含む
2. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	1に10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
3. 10YR3/2黒褐色粘質シルト	5～10mm程度の炭化物を含む　7.5YR5/4にぶい褐色焼土を小ブロックで5％含む　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む





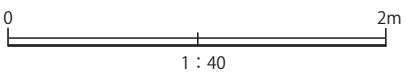


SP2018

1. 10YR3/3暗褐色シルト	2.5Y7/4浅黄色シルトを粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを斑状に多く含む　固くしまる
3. 2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを斑状に少し含む　固くしまる

SK2017

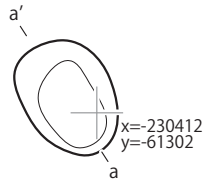
1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に10％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に10％含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトを斑状に20％含む

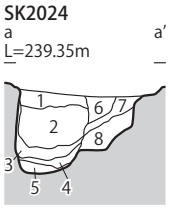


土器

第 97 図　A 区　土坑 SK1966・1991・1995・2016・2017・ピット SP2018

SK2024

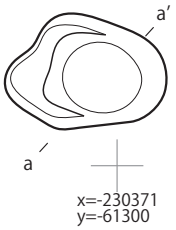


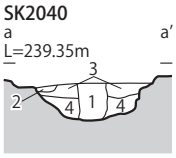


SK2024

1. 10YR2/1黒褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色粘土を斑状に多く含む　しまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト	2.56/4にぶい黄色粘土をブロック状に少し含む　しまる
3. 2.5Y5/4黄褐色粘土	2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状に少し含む　しまる
4. 2.5Y2/1黒色シルト	土器片を粒状にわずかに含む　しまりなし
5. 2.5Y5/4黄褐色砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状にわずかに含む　固くしまる
6. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを粒状にわずかに含む　固くしまる
7. 2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状に少し含む　固くしまる

SK2040

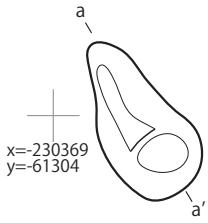


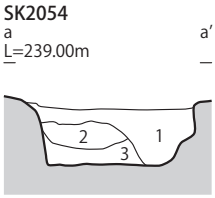


SK2040

1. 10YR3/4暗褐色シルト	10YR7/8黄橙色シルトを粒状に少し含む 炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR8/2灰白色シルトを粒状に少し含む　しまる
3. 10YR1.7/1黒色シルト	2.5Y7/6明黄褐色砂質シルトを斑状に多く含む 10YR3/4暗褐色シルトを斑状に少し含む　固くしまる
4. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y5/4黄褐色シルトを斑状に多く含む　しまる

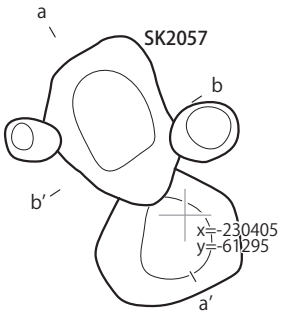
SK2054

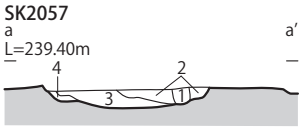


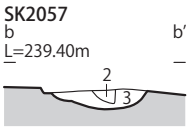


SK2054

1. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y8/3淡黄色粘質シルトを粒､斑状にわずかに含む　しまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y7/2灰黄色シルトを斑状に多く含む　しまる
3. 2.5Y7/2灰黄色シルト	2.5Y3/2黒褐色シルトを斑状に少し含む　しまる



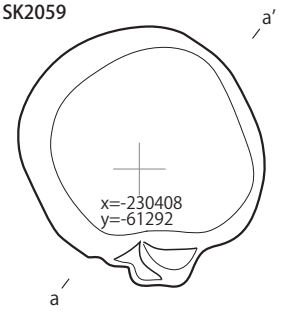


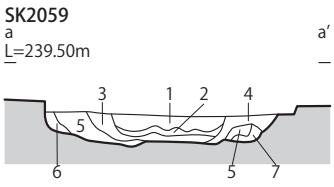


SK2057

1. 7.5YR2/2黒褐色粘質シルト	7.5YR5/4にぶい褐色焼土ブロック及び5mm程度の炭化物を多量に含む
2. 7.5YR黒褐色シルト	7.5YR5/4にぶい褐色焼土及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを ブロック状に20％含む　粘性ややあり
3. 7.5YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む 粘性ややあり
4. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	7.5YR3/2黒褐色シルトをブロック状に30％含む

SK2059



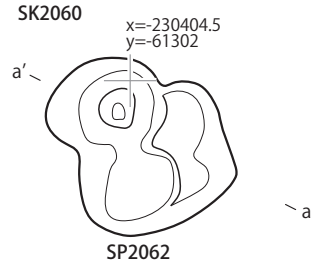


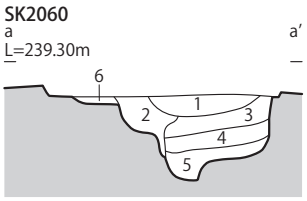
SK2059

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
2. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に10％含む
3. 10YR3/3暗褐色砂質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
4. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
5. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/3暗褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
6. 10YR3/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
7. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む

0　2m
1：40

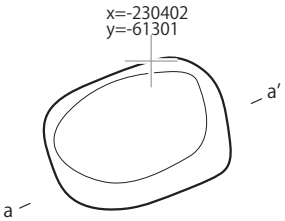
第 98 図　A 区　土坑 SK2024・2040・2054・2057・2059

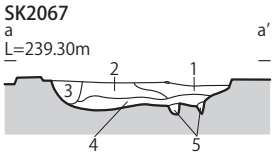




SK2060

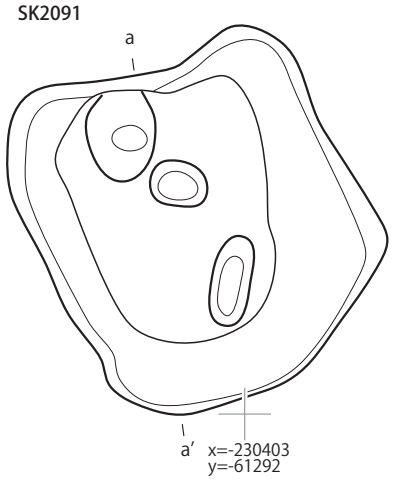
1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR2/2黒褐色粘質シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを斑状に20%含む　5Y5/4にぶい赤褐色焼土及び炭化物を5%含む
2　10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20%含む 炭化物を塊状に含む
3. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に20%含む 5YR5/4にぶい赤褐色焼土及び炭化物をわずかに含む
4. 10YR5/3にぶい赤褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に20%含む　炭化物をわずかに含む
5. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に10%含む
6. 10YR4/3にぶい黄褐色細砂	10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に5%含む

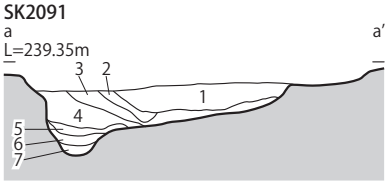




SK2067

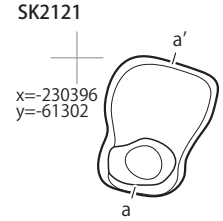
1. 7.5YR4/2褐灰色シルト	7.5YR2/2黒褐色シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30%含む　5YR5/4にぶい赤褐色焼土ブロック及び3mm程度の炭化物を含む
2. 7.5YR4/2褐灰色シルト	7.5YR2/2黒褐色シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20%含む　1より焼土ブロック及び炭化物を多量に含む
3. 7.5YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトを小ブロックで5%含む 炭化粒を含む
4. 10YR3/3暗褐色細砂	7.5YR4/2褐灰色シルトを小ブロックで5%含む
5. 7.5YR4/2灰褐色シルト	10YR3/3暗褐色細砂及び7.5YR6/4にぶい橙色焼土の小ブロックを10%含む

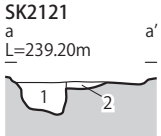




SK2091

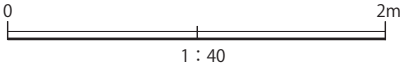
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y4/3オリーブ褐色シルトを粒状に少し含む　炭化物をわずかに含む 固くしまる
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y1/4淡黄色シルトを粒、ブロック状に少し含む 2mm～5mm大の砂利をわずかに含む　固くしまる
3. 2.5Y5/3黄褐色砂利層	微細砂粒をきわめて多く含む　2.5Y3/3オリーブ褐色シルトを斑状に少し含む
4. 2.5Y5/6黄褐色シルト	2.5Y4/3オリーブ褐色シルト、2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状に多く含む 0.5mm～1mm大の砂利を多く含む　固くしまる
5. 2.5Y3/1黒褐色シルト	2.5Y4/3オリーブ褐色シルトを帯状に少し含む　固くしまる
6. 2.5Y5/4黄褐色シルト	2.5Y4/2暗灰黄色シルトを斑状に多く含む　固くしまる
7. 2.5Y8/4淡黄色シルト	まざりなし　固くしまる



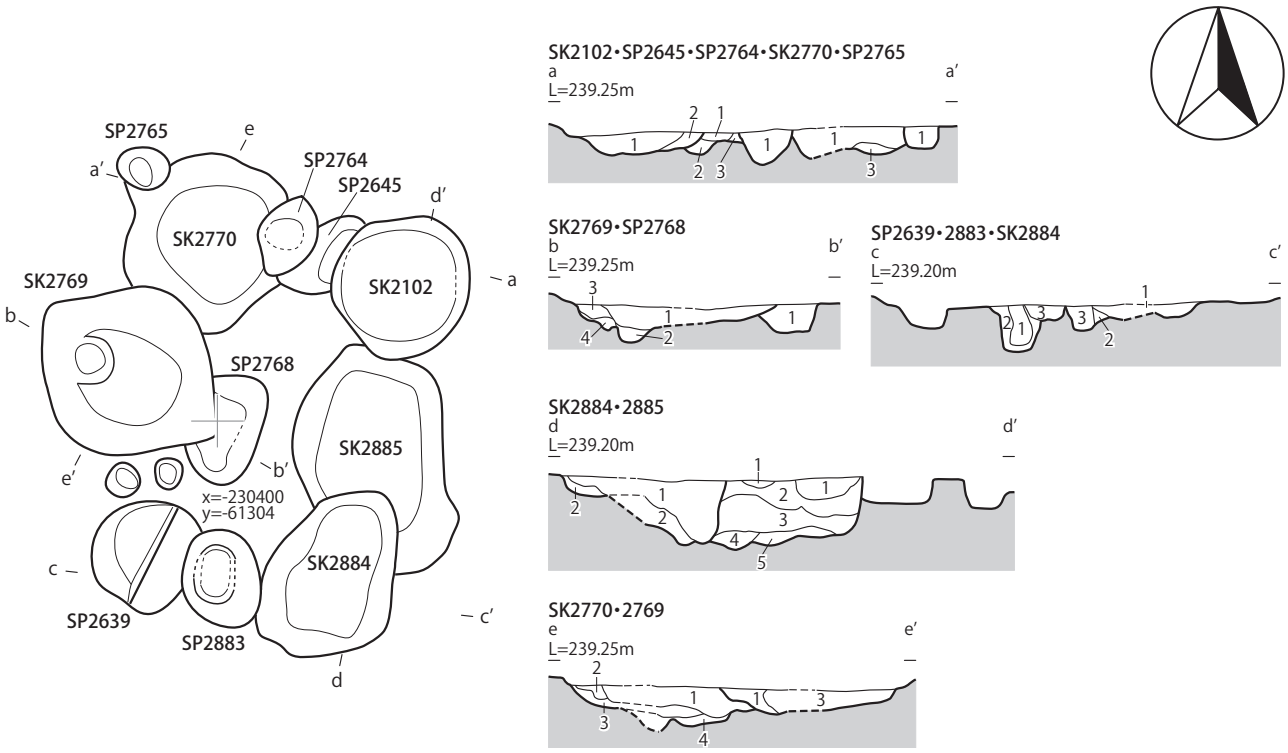


SK2121

1. 10YR1.7/1黒色シルト	2.5Y4/6オリーブ褐色シルトを粒、斑状に少し含む 10YR5/6黄褐色焼土を粒状にわずかに含む　しまる
2. 10YR1.7/1黒色シルト	10YR4/2灰黄褐色シルトを帯状に少し含む 2.5Y4/4オリーブ褐色シルトを粒状にわずかに含む　しまる



第 99 図　A 区　土坑 SK2060・2067・2091・2121



SK2102

1. 10YR2/3黒褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色シルトを斑状に少し含む　7.5YR6/8橙色焼土を粒状に少し含む 炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
2. 10YR3/2黒褐色シルト	2.5Y7/4浅黄色シルトを斑状に少し含む　炭化物を斑状にわずかに含む　しまる

SK2769

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y5/4黄褐色シルトを粒状に少し含む　10YR2/1黒色シルトを粒状に少し含む　しまる
2. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y7/6明黄褐色シルトを粒状に多く含む　しまる
3. 10YR3/3暗褐色シルト	2.5Y7/4浅黄色シルトを斑状に多く含む　しまりなし
4. 10YR3/3暗褐色シルト	2.5Y7/4浅黄色シルトを斑状に多く含む　10YR1.7/1黒色シルトを斑状に多く含む　しまる

SK2770

1. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y4/4オリーブ褐色シルトを粒状に多く含む　しまる
2. 2.5Y4/4オリーブ褐色シルト	10YR2/1黒色シルトを斑状に少し含む　しまる
3. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y4/3オリーブ褐色シルトを粒状に少し含む　しまる
4. 2.5Y5/4黄褐色粘質シルト	10YR2/2黒褐色シルトを斑状に多く含む　しまる

SK2884

1. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y5/3黄褐色シルトを斑状に多く含む　しまる
2. 2.5Y5/4黄褐色粘質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状に少し含む　しまる
3. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト	2.5Y7/4浅黄色粘質シルトを、斑状に多く含む　しまる

SK2885

1. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y5/3黄褐色シルトを粒状に少し含む　しまる
2. 2.5Y5/4黄褐色シルト	2.5Y2/1黒色シルトを斑状に少し含む　しまる
3. 2.5Y5/4黄褐色シルト	2.5Y2/1黒色シルトを帯、斑状に多く含む　しまる
4. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを斑状にわずかに含む　しまる
5. 2.5Y7/3浅黄色砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを粒状にわずかに含む　しまる

SP2645

1. 2.5Y3/2黒褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色シルトを粒状に多く含む　しまりなし
2. 2.5Y4/4オリーブ褐色粘質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを粒、斑状に多く含む　しまる
3. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y7/6明黄褐色シルトを粒状にわずかに含む　しまる

SP2764

1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	2.5Y4/3オリーブ褐色シルトを粒状にわずかに含む　7.5Y5/6明褐色焼土を粒状にごくわずかに含む　しまる

SP2765

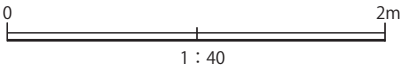
1. 10YR2/1黒褐色粘質シルト	2.5Y5/4黄褐色シルト、炭化物を粒状に少し含む　しまる

SP2768

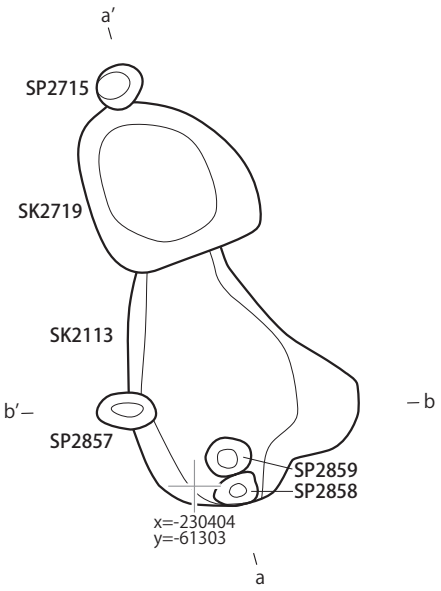
1. 10YR3/4暗褐色シルト	10YR2/2黒褐色シルトを斑、帯状に多く含む　しまる

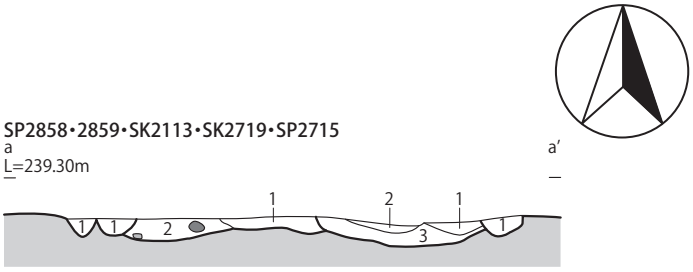
SP2883

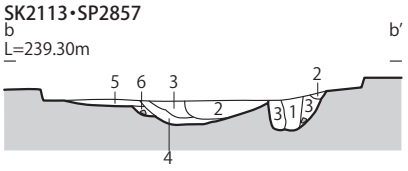
1. 10YR3/2黒褐色シルト	2.5Y7/4浅黄色シルトを粒状に少し含む　しまる
2. 10YR3/2黒褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色シルトを斑状に多く含む　しまる
3. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色シルトを粒状に多く含む　しまる



第 100 図　A 区　土坑 SK2102・2769・2770・2884・2885・ピット SP2645・2764・2765・2768・2883







SK2113

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む　7.5YR5/4にぶい褐色焼土を小ブロックで5％含む 炭化物をわずかに含む
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト及び7.5YR5/4にぶい褐色焼土をブロック状に20％含む 3mm程度の炭化物を含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR2/1黒色粘質シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
4. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト及び7.5YR5/4にぶい褐色焼土を小ブロックで5％含む
5. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR2/2黒褐色粘質シルトを小ブロックで10％含む
6. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで3％含む

SK2719

1. 10YR2/1黒色粘質シルト	ほぼ純層
2. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR2/1黒色粘質シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR2/1黒色粘質シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む 7.5YR5/4にぶい褐色焼土ブロックを3％含む

SP2715

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR2/1黒色粘質シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む

SP2857

1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
2. 10YR3/3暗褐色シルト	純層　やや砂質シルト
3. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR2/1黒色粘質シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む 7.5YR5/4にぶい褐色焼土をブロック状に10％含む

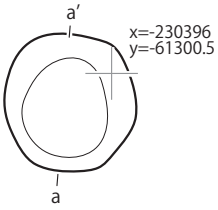
SP2858

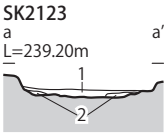
1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む

SP2859

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む

SK2123

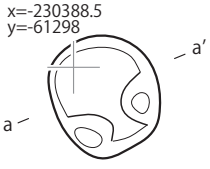


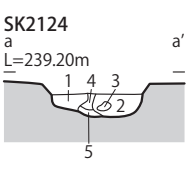


SK2123

1. 2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを斑状に少し含む 2.5Y8/8黄色粘土をブロック状に少し含む　固くしまる
2. 2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを斑状にわずかに含む　しまる

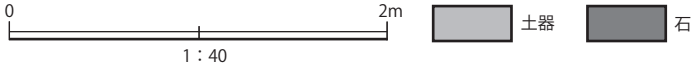
SK2124



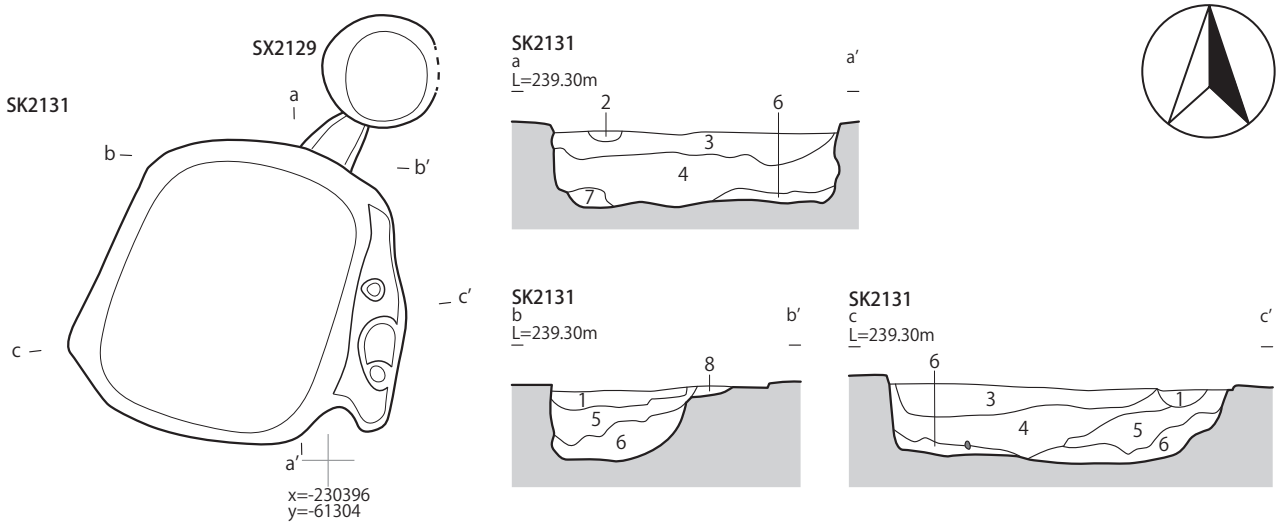


SK2124

1. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルトとの撹乱層
2. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
3. 10YR5/2灰黄褐色砂ブロック	
4. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト及び10YR2/1黒色シルトを ブロック状に30％含む
5. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト及び10YR2/1黒色シルトを ブロック状に20％含む

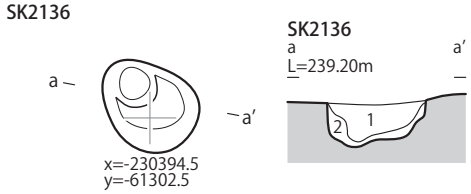


第 101 図　A 区　土坑 SK2113・2719・2123・2124・ピット SP2715・2857・2858・2859



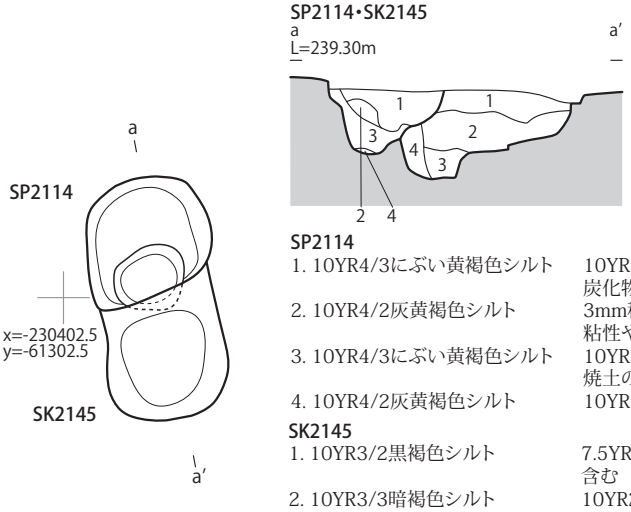
SK2131

1. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む　粘性ややあり
2. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR5/1褐灰色シルトをブロック状に10％含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む　炭化物を多量に含む　粘性ややあり
4. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む　粘性ややあり
5. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む　10YR2/1黒色粘土のブロックを含む　粘性ややあり
6. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR2/1黒色粘質シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
7. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
8. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR2/1黒色粘質シルトブロック(大)を少量含む　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで10％含む



SK2136

1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR2/1黒色粘質シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
2. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト　10YR2/2黒褐色粘質シルトをブロック状に20％含む

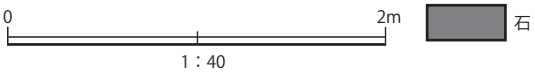


SP2114

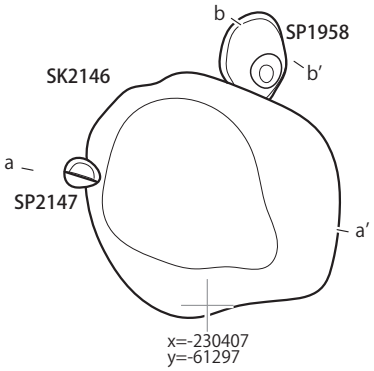
1. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト　10YR3/2黒褐色粘質シルト及び5YR5/6明黄褐色焼土をブロック状に20％含む　炭化物を多量に含む
2. 10YR4/2灰黄褐色シルト　3mm程度の炭化物を含む　5YR5/6明赤褐色焼土を小ブロックで5％含む　粘性ややあり
3. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト　10YR3/2黒褐色粘質シルト及び10YR4/2灰黄褐色シルトをブロック状に30％含む　焼土の小ブロック及び炭化物をわずかに含む
4. 10YR4/2灰黄褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む　粘性ややあり

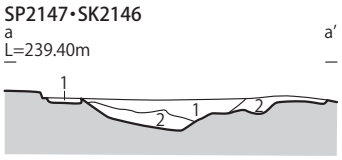
SK2145

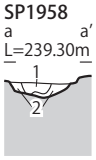
1. 10YR3/2黒褐色シルト　7.5YR5/4にぶい褐色焼土及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで20％含む　炭化物を多量に含む
2. 10YR3/3暗褐色シルト　10YR2/1黒褐色粘質シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
3. 10YR5/2灰黄褐色シルト　10YR2/1黒色粘質シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
4. 10YR5/3灰黄褐色シルト　10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に20％含む



第 102 図　A 区　土坑 SK2131・2136・2114・2145







SK2146

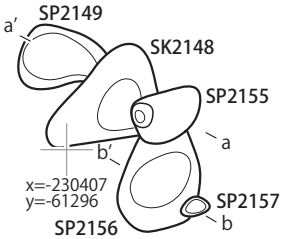
1. 10YR2/2黒褐色シルト	5～10mm程度の炭化物を多量に含む　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む

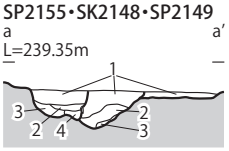
SP1958

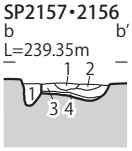
1. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y5/6黄褐色シルトを粒状にわずかに含む　しまる
2. 2.5Y4/6オリーブ褐色砂質シルト	10YR2/2黒褐色シルトを斑状に少し含む　しまる

SP2147

1. 10YR3/3暗褐色シルト	10YR2/2黒褐色粘質シルトブロックを含む







SK2148

1. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色シルトを粒状に多く含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
2. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色シルトを粒状に少し含む　炭化物、土器片を粒状にわずかに含む　しまる
3. 2.5Y5/4黄褐色粘質シルト	混ざりなし　しまる

SP2149

1. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト	2.5Y5/6黄褐色シルト、2.5Y2/1黒色シルトを斑状に多く含む　しまる

SP2155

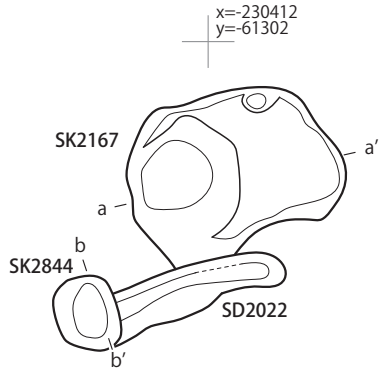
1. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色シルトを斑状に多く含む　10YR4/6褐色粘土を粒状にわずかに含む　しまる
2. 10YR3/3暗褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色シルトを斑状に多く含む　固くしまる
3. 10YR3/3暗褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色シルトを斑状に少し含む　固くしまる
4. 2.5Y5/6黄褐色粘質シルト	10YR2/2黒褐色シルトを斑状にわずかに含む　しまる

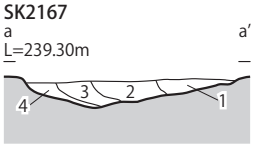
SP2156

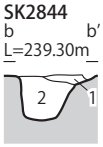
1. 10YR3/3暗褐色シルト	2.5Y7/4浅黄色シルトを粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 10YR3/4暗褐色シルト	2.5Y7/6明黄褐色シルトを粒状に少し含む　10YR4/6褐色焼土、炭化物を粒状に少し含む　固くしまる
3. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト	7.5YR5/8明褐色焼土、炭化物を粒状に多く含む　固くしまる
4. 10YR2/1黒色シルト	10YR5/6黄褐色焼土、炭化物を粒状にわずかに含む　しまりなし

SP2157

1. 10YR3/3暗褐色シルト	2.5Y7/4浅黄色シルトを粒状にわずかに含む　固くしまる







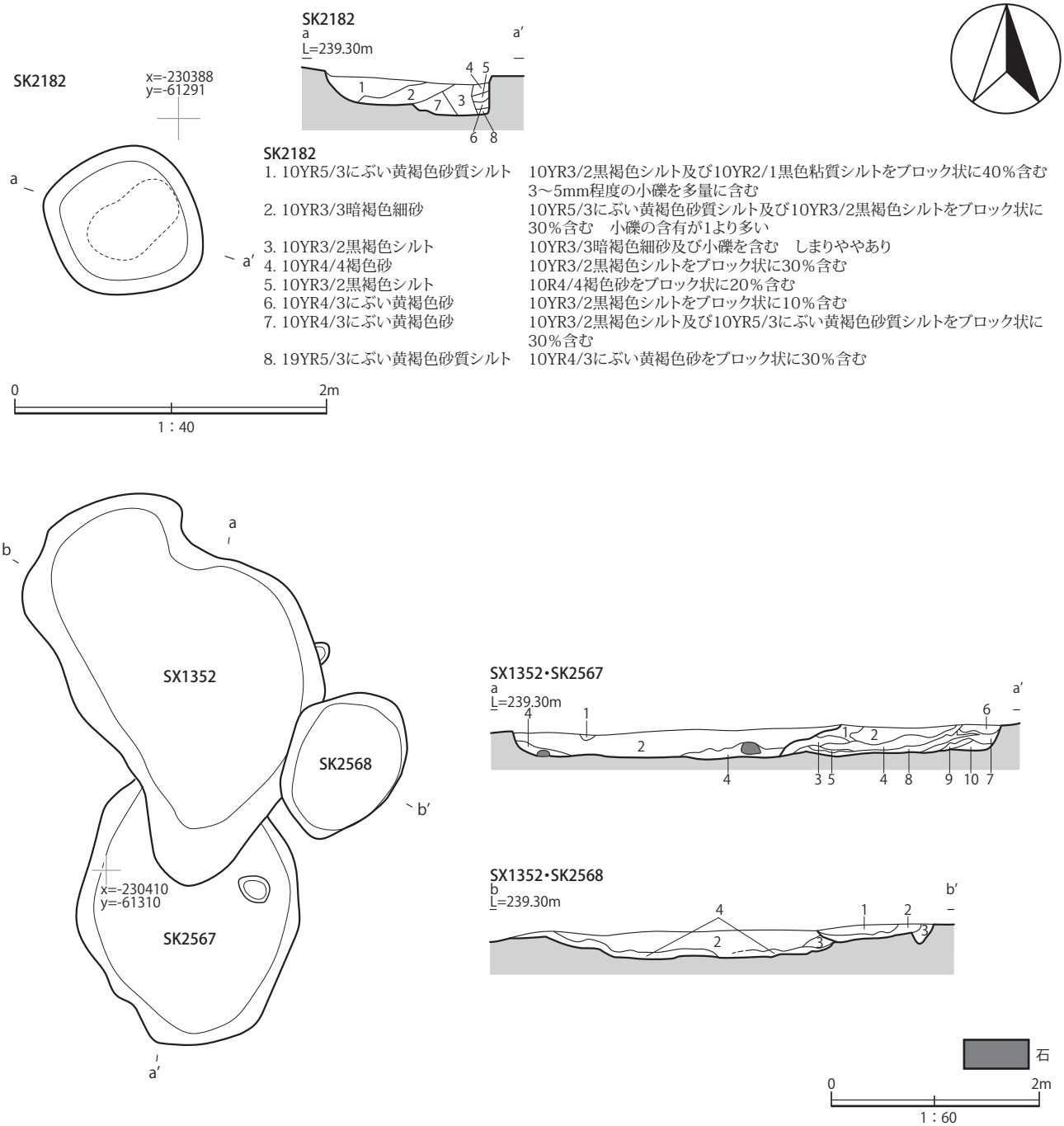
SK2167

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを粒状に少し含む 10YR5/8黄褐色焼土を粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 10YR5/6黄褐色シルト	10YR3/2黒褐色シルトを斑状に多く含む 7.5YR4/6褐色焼土を粒状にわずかに含む　しまる
3. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを斑状に多く含む　しまる
4. 10YR1.7/1黒色シルト	2.5Y5/6黄褐色シルトを斑状に多く含む　しまる

SK2844

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y7/6明黄褐色砂質シルトを斑状に多く含む　しまる
2. 2.5Y3/2黒褐色シルト	2.5Y6/6明黄褐色砂質シルトを粒、斑状に少し含む　しまる

第 103 図　A 区　土坑 SK2146・2148・2167・2844・ピット SP1958・2147・2149・2155・2156・2157



SK2182

1. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト　10YR3/2黒褐色シルト及び10YR2/1黒色粘質シルトをブロック状に40％含む 3～5mm程度の小礫を多量に含む
2. 10YR3/3暗褐色細砂　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト及び10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に30％含む　小礫の含有が1より多い
3. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR3/3暗褐色細砂及び小礫を含む　しまりややあり
4. 10YR4/4褐色砂　10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に30％含む
5. 10YR3/2黒褐色シルト　10R4/4褐色砂をブロック状に20％含む
6. 10YR4/3にぶい黄褐色砂　10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に10％含む
7. 10YR4/3にぶい黄褐色砂　10YR3/2黒褐色シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
8. 19YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト　10YR4/3にぶい黄褐色砂をブロック状に30％含む

SK2567

1. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に40％含む　粘性ややあり
2. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトを小ブロックで5％含む
4. 10YR3/2黒褐色シルト　ほぼ純層　やや砂質
5. 10YR2/1黒色シルト　炭化粒をわずかに含む　粘性ややあり
6. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
7. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト　10YR2/2黒褐色シルトを小ブロックで3％含む
8. 10YR4/1褐灰色シルト　10YR6/3黄橙色砂質シルトをブロック状に10％含む
9. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
10. 10YR3/3暗褐色細砂

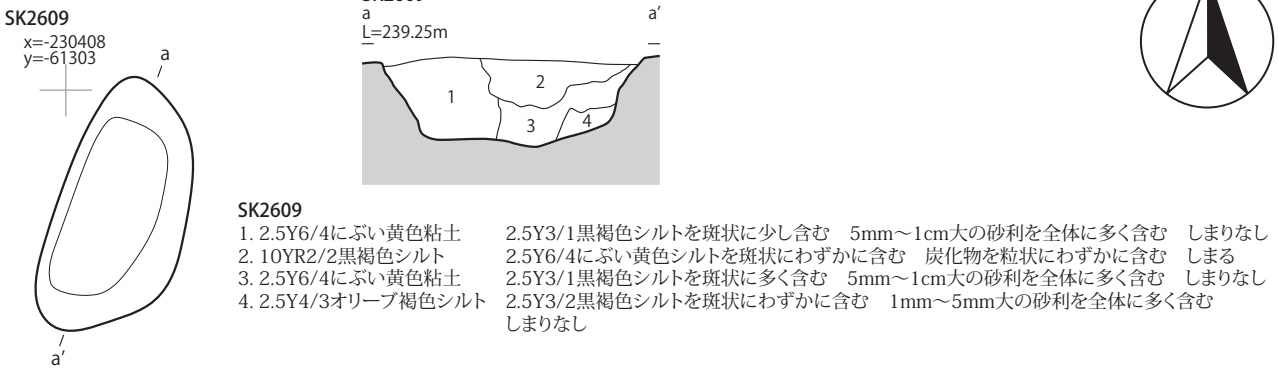
SK2568

1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に5％含む　5mm程度の炭化物を多量に含む
2. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に10％含む
3. 10YR3/2黒褐色粘質シルト　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に10％含む

SX1352

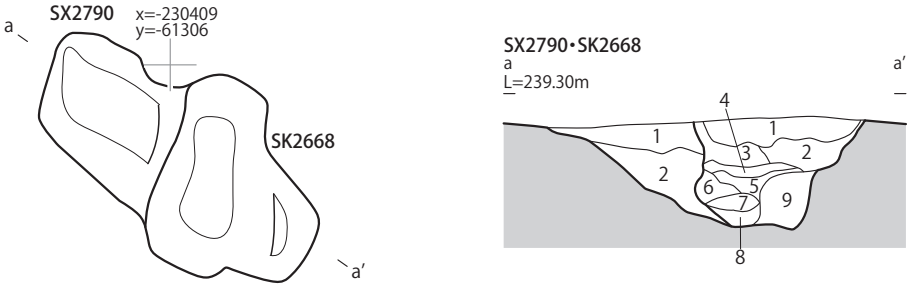
1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトを斑状に5％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に10％含む　5mm程度の炭化物を多量に含む
3. 10YR3/2黒褐色粘質シルト　10YR2/2黒褐色粘質シルトをブロック状に含む　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトを小ブロックで5％含む
4. 10YR3/2黒褐色粘質シルト　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に3％含む　下部に酸化鉄を含む

第 104 図　A 区　土坑 SK2182・2567・2568・性格不明遺構 SX1352



SK2609

1. 2.5Y6/4にぶい黄色粘土	2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状に少し含む　5mm～1cm大の砂利を全体に多く含む　しまりなし
2. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色シルトを斑状にわずかに含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
3. 2.5Y6/4にぶい黄色粘土	2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状に多く含む　5mm～1cm大の砂利を全体に多く含む　しまりなし
4. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト	2.5Y3/2黒褐色シルトを斑状にわずかに含む　1mm～5mm大の砂利を全体に多く含む　しまりなし



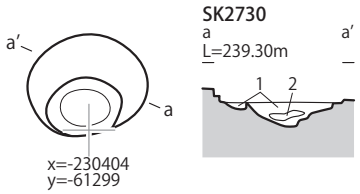
SK2668

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む　3mm程度の炭化物をわずかに含む
2. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に20％含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に50％含む
4. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む　粘性ややあり
5. 10YR3/3暗褐色シルト	10YR2/2黒褐色シルトをブロック状に10％含む
6. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR2/2黒褐色シルトをブロック状に10％含む
7. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む　粘性ややあり
8. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
9. 10YR3/3暗褐色シルト	10YR2/2黒褐色シルトをブロック状に10％含む

SX2790

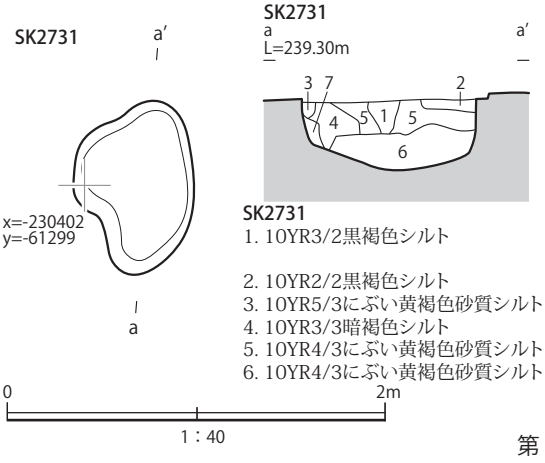
1. 10YR3/3暗褐色シルト	10YR3/2黒褐色シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に40％含む
2. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR2/2黒褐色シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む

SK2730



SK2730

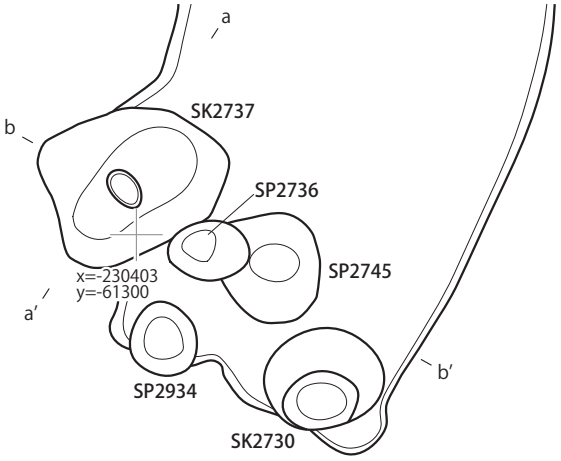
1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト及び10YR2/1黒色粘質シルトをブロック状に10％含む　炭化物を含む

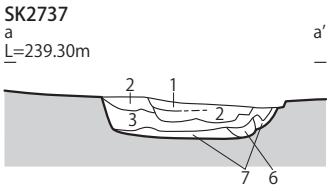


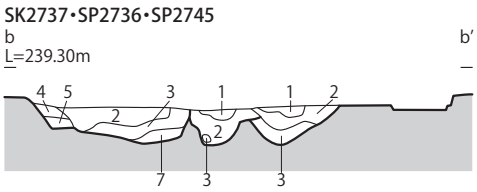
SK2731

1. 10YR3/2黒褐色シルト	7.5YR5/4にぶい褐色焼土の小ブロックを含む　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む　粘性ややあり
3. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に10％含む
4. 10YR3/3暗褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
5. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR2/2黒褐色シルト及び10YR3/3暗褐色シルトをブロック状に20％含む
6. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む

第 105 図　A 区　土坑 SK2609・2668・2730・2731・性格不明遺構 SX2790







SK2737

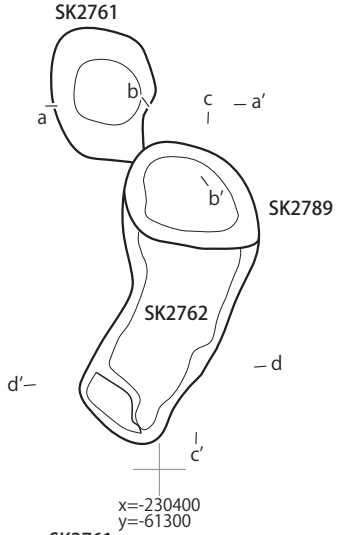
1. 10YR2/2黒褐色シルト　7.5YR5/6明褐色焼土のブロックを含む　10YR7/3にぶい黄橙色シルトを小ブロックで5％含む
2. 7.5YR3/2黒褐色シルト　7.5YR5/4にぶい褐色焼土及び10YR7/3にぶい黄橙色シルトをブロック状に10％含む　炭化物を少量含む
3. 7.5YR3/2黒褐色シルト　5YR5/4にぶい赤褐色焼土及び10YR6/6明黄褐色シルトをブロック状に20％含む　10mm程度の炭化物を含む
4. 7.5YR3/2黒褐色シルト　7.5YR5/4にぶい褐色焼土をブロック状に20％含む
5. 10YR3/2黒褐色シルト　7.5YR5/4にぶい褐色焼土及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む　粘性ややあり
6. 10YR3/3暗褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む　焼土の小ブロックを含む
7. 10YR3/3暗褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む

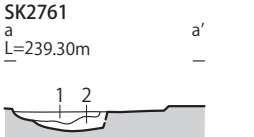
SP2736

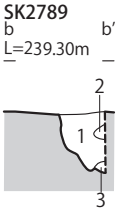
1. 10YR3/3暗褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む　焼土の小ブロック及び炭化物を含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト　焼土の小ブロック及び3～5mm程度の炭化物を多量に含む　2.5YR8/2灰白色粘質シルトのブロックを含む
3. 2.5Y7/6明黄褐色粘質シルトブロック

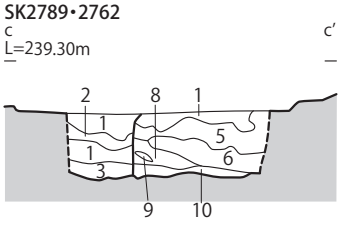
SP2745

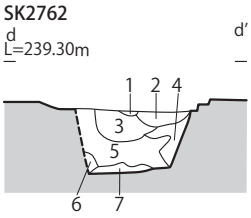
1. 10YR3/2黒褐色シルト　5YR5/6明赤褐色焼土を斑状に3％含む　炭化物を含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む　2.5YR8/2灰白色粘質シルト及び焼土の小ブロックを含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に40％含む　炭化物を少量含む











SK2761

1. 10YR3/2黒褐色シルト　5mm程度の炭化物を少量含む　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に40％含む

SK2762

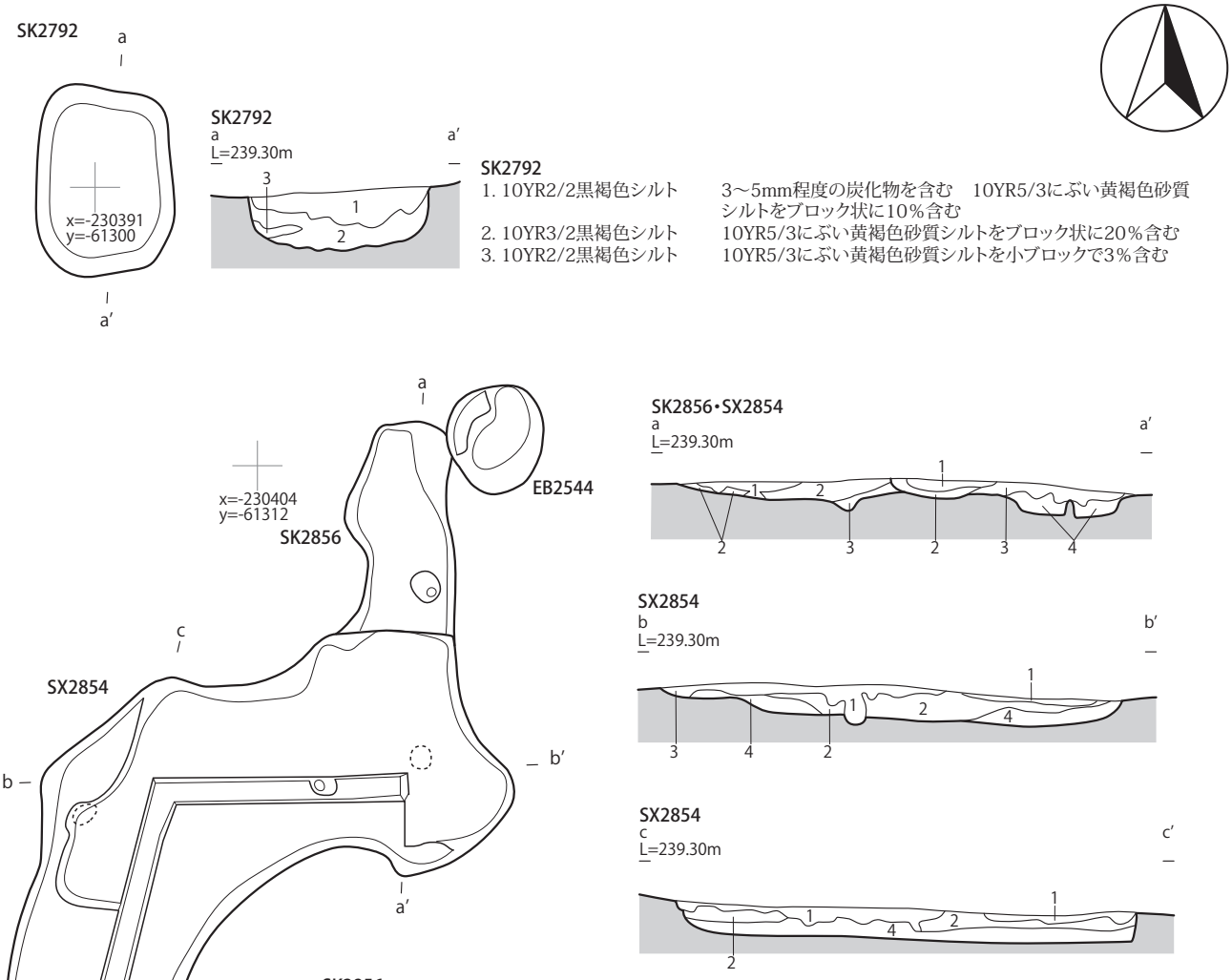
1. 10YR3/3暗褐色砂質シルト　10YR2/2黒褐色粘質シルト及び10YR6/3にぶい黄橙色シルトをブロック状に20％含む
2. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
3. 10YR3/3暗褐色砂質シルト　10YR2/2黒褐色粘質シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に40％含む
4. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト　10YR3/2黒褐色シルト及び10YR6/3にぶい黄橙色シルトを小ブロックで5％含む
5. 10YR3/3暗褐色砂質シルト　10YR2/2黒褐色粘質シルト及び10YR6/3にぶい黄褐色シルトをブロック状に10％含む
6. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR2/2黒褐色粘質シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
7. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　ほぼ純層
8. 10YR3/3暗褐色砂質シルト　10YR3/2黒褐色シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色シルトをブロック状に20％含む
9. 10YR5/1褐灰色砂質シルト　10YR2/2黒褐色粘質シルト及び10YR6/3にぶい黄橙色シルトを小ブロックで5％含む
10. 10YR3/3暗褐色砂質シルト　10YR2/2黒褐色粘質シルト及び10YR6/3にぶい黄橙色シルトをブロック状に30％含む

SK2789

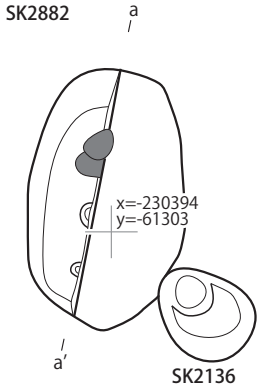
1. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
2. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト　10YR3/2黒褐色シルト及び10YR6/3にぶい黄橙色シルトをブロック状に20％含む
3. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト　10YR2/2黒褐色粘質シルト及び10YR6/3にぶい黄橙色シルトをブロック状に10％含む

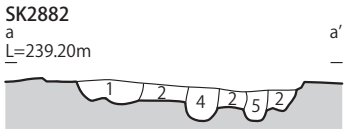
0　2m
1：40

第 106 図　A 区　土坑 SK2737・2761・2762・2789・ピット SP2736・2745



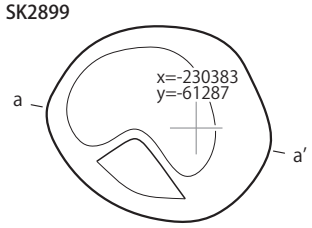
第 107 図　A 区　土坑 SK2792・2856・2879・ピット SP2648・2649・2650・性格不明遺構 SX2854

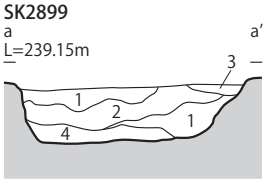




SK2882

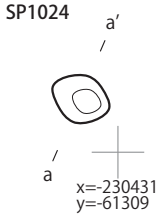
1. 10YR3/3暗褐色シルト	10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に10％含む　かたくしまる
2. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト	10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に10％含む
3. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	地山
4. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトをブロック状に10％含む 炭化物をわずかに含む　粘性ややあり
5. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む

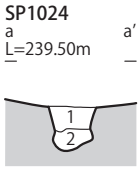




SK2899

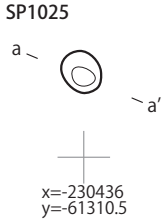
1. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト	2.5Y2/1黒色シルトを斑状に多く含む 固くしまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y4/4オリーブ褐色シルトを斑状に少し含む　固くしまる
3. 2.5Y4/1黄灰色シルト	2.5Y5/6黄褐色シルトを斑状に少し含む 土器片を粒状にわずかに含む　固くしまる
4. 2.5Y4/6オリーブ褐色粘質シルト	10YR1.7/1黒色シルトを斑状に少し含む 固くしまる

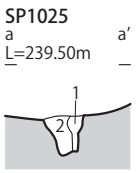




SP1024

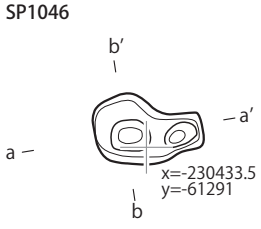
1. 10YR3/3暗褐色シルト	10YR7/8黄橙色砂質シルトを斑状に多量に含む　炭化物を微量に含む しまりあり
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/6黄褐色シルトを粒状に少量含む　炭化物を少量含む　しまりあり

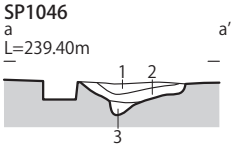


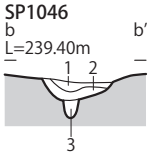


SP1025

1. 10YR7/4にぶい黄橙色粘質シルト	10YR4/2灰黄褐色粘土を斑状に5％含む　粘性あり　しまりあり
2. 10YR2/3黒褐色粘質シルト	10YR7/4にぶい黄橙色粘質シルトを斑状に10％含む　粘性あり しまりあり

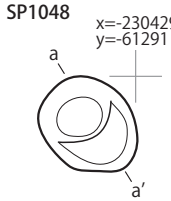


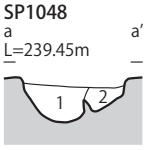




SP1046

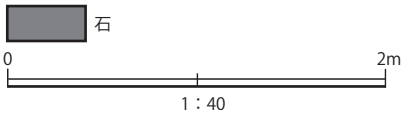
1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで斑状に10％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト	10TR4/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む



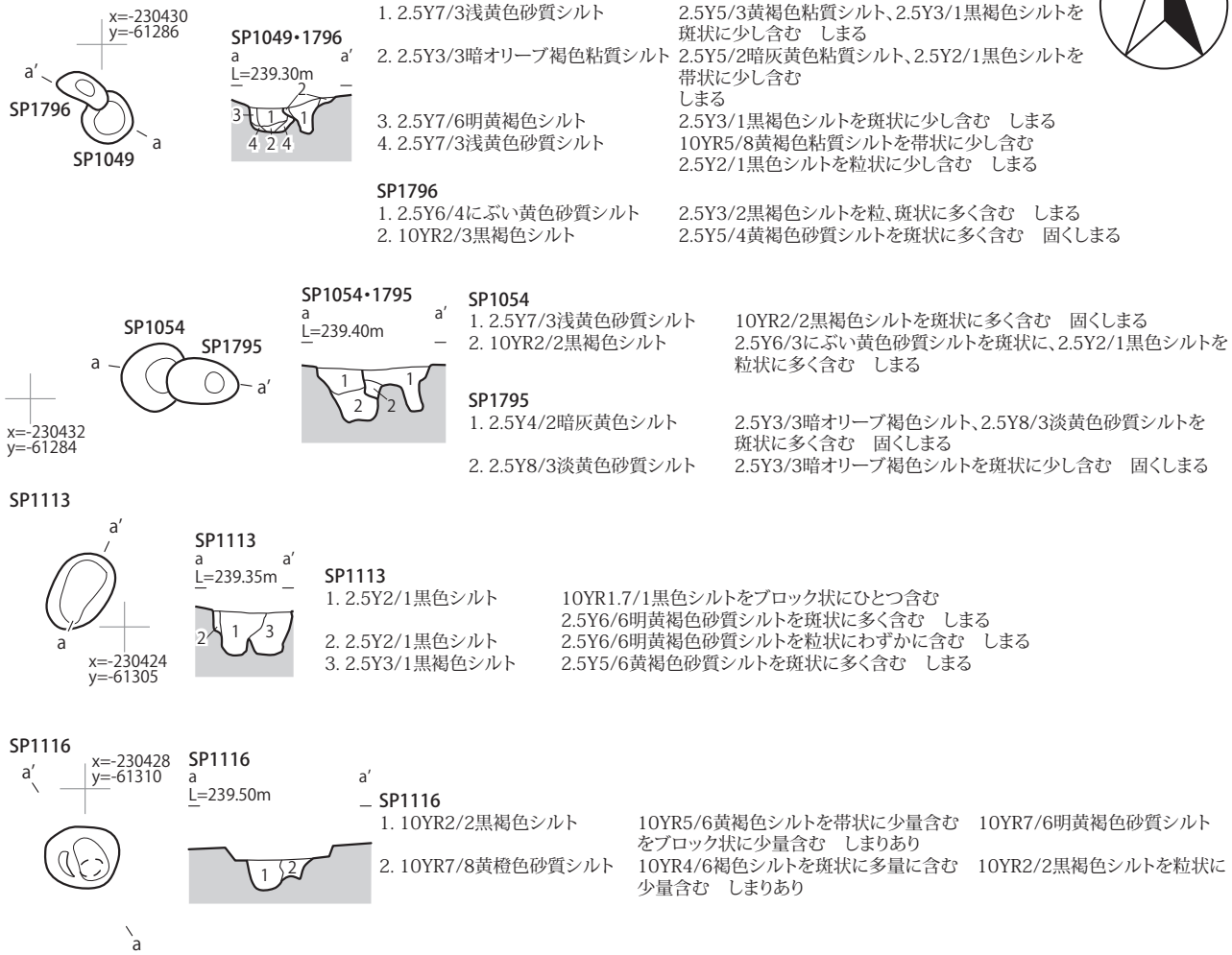


SP1048

1. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y5/4黄褐色砂質シルトを粒状に少し含む　固くしまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y5/4黄褐色砂質シルトを斑状に多く含む　固くしまる



第 108 図　A 区　土坑 SK2882・2899・ピット SP1024・1025・1046・1048



SP1049

1. 2.5Y7/3浅黄色砂質シルト	2.5Y5/3黄褐色粘質シルト、2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状に少し含む　しまる
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘質シルト	2.5Y5/2暗灰黄色粘質シルト、2.5Y2/1黒色シルトを帯状に少し含む　しまる
3. 2.5Y7/6明黄褐色シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状に少し含む　しまる
4. 2.5Y7/3浅黄色砂質シルト	10YR5/8黄褐色粘質シルトを帯状に少し含む　2.5Y2/1黒色シルトを粒状に少し含む　しまる

SP1796

1. 2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルト	2.5Y3/2黒褐色シルトを粒、斑状に多く含む　しまる
2. 10YR2/3黒褐色シルト	2.5Y5/4黄褐色砂質シルトを斑状に多く含む　固くしまる

SP1054

1. 2.5Y7/3浅黄色砂質シルト	10YR2/2黒褐色シルトを斑状に多く含む　固くしまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y6/3にぶい黄色砂質シルトを斑状に、2.5Y2/1黒色シルトを粒状に多く含む　しまる

SP1795

1. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト、2.5Y8/3淡黄色砂質シルトを斑状に多く含む　固くしまる
2. 2.5Y8/3淡黄色砂質シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを斑状に少し含む　固くしまる

SP1113

1. 2.5Y2/1黒色シルト	10YR1.7/1黒色シルトをブロック状にひとつ含む　2.5Y6/6明黄褐色砂質シルトを斑状に多く含む　しまる
2. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y6/6明黄褐色砂質シルトを粒状にわずかに含む　しまる
3. 2.5Y3/1黒褐色シルト	2.5Y5/6黄褐色砂質シルトを斑状に多く含む　しまる

SP1116

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/6黄褐色シルトを帯状に少量含む　10YR7/6明黄褐色砂質シルトをブロック状に少量含む　しまりあり
2. 10YR7/8黄橙色砂質シルト	10YR4/6褐色シルトを斑状に多量に含む　10YR2/2黒褐色シルトを粒状に少量含む　しまりあり

SP1120

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y2/1黒色シルトを斑状に少し含む　しまりなし
2. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y5/4黄褐色シルトを斑状に多く含む　炭化物を粒状に少し含む　しまりなし
3. 2.5Y5/4黄褐色シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状にわずかに含む　しまりなし
4. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト	2.5Y2/1黒色シルトを粒状にわずかに含む　10YR4/3にぶい黄褐色シルトを斑状に多く含む　しまる
5. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y6/6明黄褐色シルトを粒状に少し含む　しまりなし

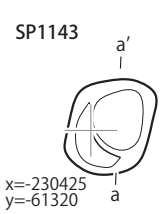
SP1121

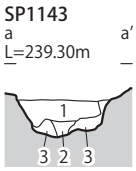
1. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y7/6明黄褐色シルトを斑状に少し含む　炭化物をブロック状にわずかに含む　しまる
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y6/6明黄褐色シルトを斑状に多く含む　しまる

SP1125

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y5/4黄褐色砂質シルトを粒状に少し含む　固くしまる
2. 10YR3/2黒褐色シルト	2.5Y8/6黄色砂質シルトを粒状に多く含む　炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる

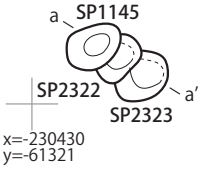
第 109 図　A 区　ピット SP1049・1054・1113・1116・1120・1121・1125・1795・1796

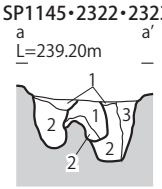




SP1143

1. 2.5Y3/2黒褐色シルト	2.5Y6/6明黄褐色粘質シルトを粒、ブロック状に多く含む 炭化物を粒状に多く含む　しまる
2. 2.5Y3/2黒褐色シルト	2.5Y6/6明黄褐色粘質シルトを粒状に多く含む　しまる
3. 2.5Y5/6黄褐色砂質シルト	2.5Y4/1黄灰色シルトを斑、柱状に少し含む　固くしまる





SP1145

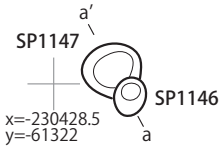
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y4/6オリーブ褐色シルトを斑状に少し含む　しまる
2. 2.5Y3/2黒褐色シルト	2.5Y6/6明黄褐色シルトを粒状に少し含む 炭化物を粒状に少し含む　しまる

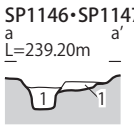
SP2322

1. 2.5Y3/2黒褐色シルト	2.5Y7/6明黄褐色シルトを粒、斑状に多く含む 炭化物を粒状に少し含む　しまる
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y8/6黄色シルトを粒状に少し含む　炭化物を粒状に少し含む　しまる

SP2323

1. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y4/6オリーブ褐色シルトを斑状に多く含む　しまりなし
2. 2.5Y5/4黄褐色シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状に多く含む　しまる
3. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y7/6明黄褐色シルトを斑状に多く含む 細かい土器片を微量に含む　しまる



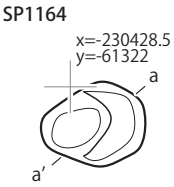


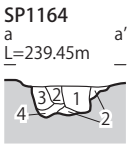
SP1146

1. 10YR3/3暗褐色シルト	10YR8/8黄橙色砂質シルトを粒状に多く含む 7.5YR4/6褐色焼土を粒状に微量含む　しまる

SP1147

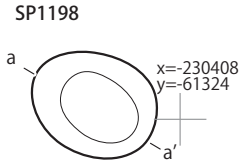
1. 10YR6/6明黄褐色シルト	10YR1.7/1黒色粘質シルトを斑状に多く含む　しまる

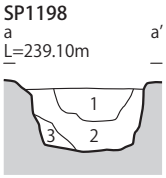




SP1164

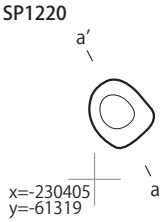
1. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを粒状に、2.5Y5/2暗灰黄色砂質シルトを 斑状に多く含む　固くしまる
2. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを粒状に多く含む　固くしまる
3. 2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを粒状にわずかに含む　固くしまる
4. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを粒状に少し含む　しまる

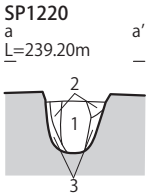




SP1198

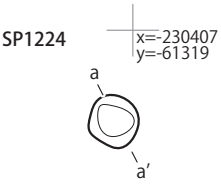
1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR1.7/1黒色シルト、2.5Y8/4淡黄色シルトを粒状に多く含む 固くしまる
2. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y7/4浅黄色シルトを斑状に多く含む　しまる
3. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y7/4浅黄色シルトを斑状にきわめて多く含む　しまる

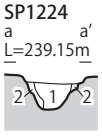




SP1220

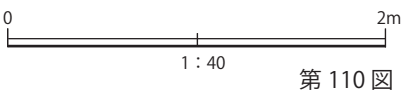
1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
2. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
3. 10YR5/3にぶい黄褐色シルト	10YR3/1黒褐色粘質シルトをブロック状に20％含む





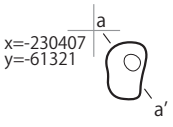
SP1224

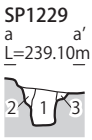
1. 2.5Y3/3暗オリーブ砂質シルト	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを粒状に多く含む　しまる
2. 2.5Y4/6オリーブ褐色シルト	2.5Y8/6黄色砂質シルトを斑状に多く含む　固くしまる



第 110 図　A 区　ピット SP1143・1145・1146・1147・1164・1198・1220・1224・2322・2323

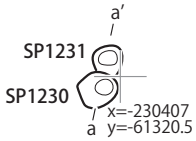
SP1229

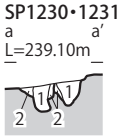




SP1229

1. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y6/6明黄褐色シルトを粒状に少し含む　炭化物をブロック状にひとつ含む　しまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y6/6明黄褐色シルトを斑状に少し含む　しまる
3. 2.5Y6/6明黄褐色シルト　2.5Y3/1黒褐色シルトを粒状にわずかに含む　しまる



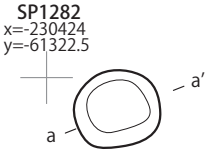


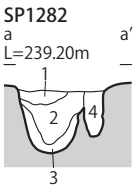
SP1230

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y6/6明黄褐色シルトを斑状に少し含む　しまる
2. 2.5Y7/6明黄褐色シルト　2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを斑状に多く含む　しまる

SP1231

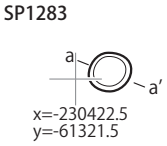
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y6/6明黄褐色シルトを斑状に少し含む　しまる
2. 2.5Y7/6明黄褐色シルト　2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを粒状に少し含む　しまる

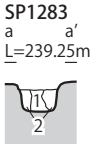




SP1282

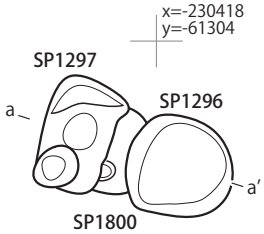
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y4/4オリーブ褐色シルトを斑状に多く含む　炭化物を微量含む　しまりなし
2. 2.5Y5/6黄褐色シルト　2.5Y4/1黄灰色シルトを斑状に少し含む　しまる
3. 2.5Y6/6明黄褐色粘質シルト　2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを斑状に少し含む　しまる
4. 2.5Y3/2黒褐色シルト　2.5Y6/6明黄褐色砂質シルトを粒状に多く含む　しまりなし





SP1283

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを粒状に少し含む　炭化物を粒状に少し含む　しまる
2. 2.5Y4/4オリーブ褐色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色シルトを斑状に多く含む　炭化物を粒状に少し含む　固くしまる

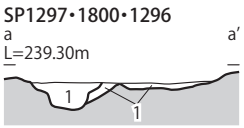


SP1296

1. 2.5Y4/6オリーブ褐色シルト　2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを粒状に多く含む　固くしまる

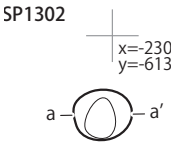
SP1297

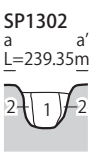
1. 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質シルト　2.5Y3/2黒褐色シルトを斑状に多く含む　固くしまる



SP1800

1. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR8/3浅黄橙色シルトを粒状に少し含む　7.5YR6/8橙色焼土を粒状にわずかに含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる

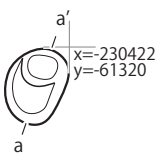


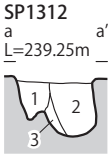


SP1302

1. 2.5Y2/1黒色シルト　2.5Y8/6黄色砂質シルトを粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 10YR3/2黒褐色シルト　2.5Y7/6明黄褐色砂質シルトを斑状に多く含む　固くしまる

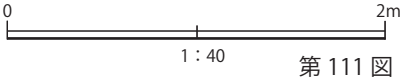
SP1312



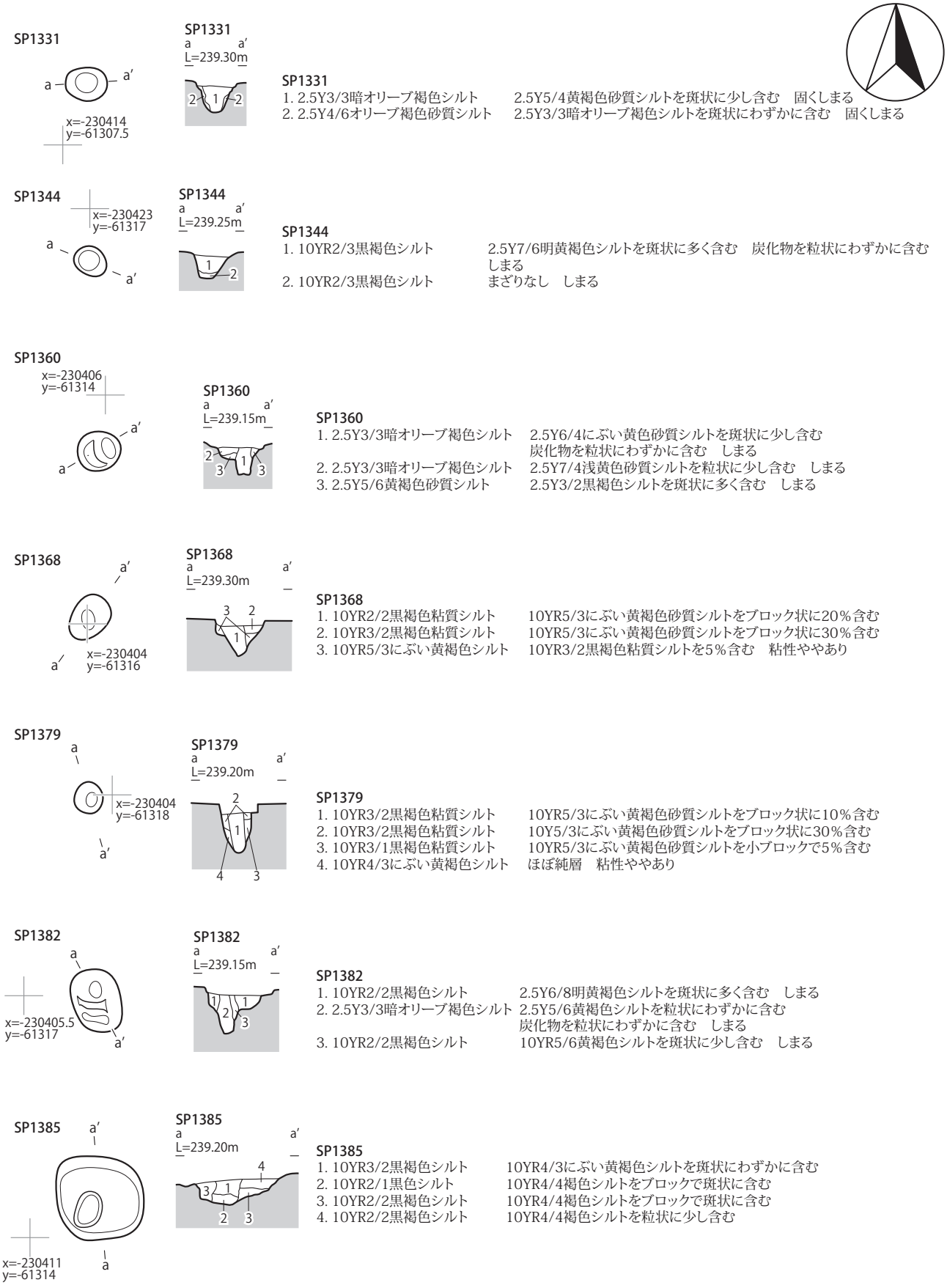


SP1312

1. 10YR2/1黒色シルト　2.5Y5/4黄褐色シルトを粒状に多く含む　しまる
2. 2.5Y3/2黒褐色シルト　2.5Y5/4黄褐色シルトを斑状に多く含む　炭化物を粒状に少し含む　しまる
3. 2.5Y3/1黒褐色シルト　2.5Y5/4黄褐色シルトを粒状に多く含む　炭化物を粒状に少し含む　しまる



第 111 図　A 区　ピット SP1229・1230・1231・1282・1283・1296・1297・1302・1312・1800



SP1331

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y5/4黄褐色砂質シルトを斑状に少し含む　固くしまる
2. 2.5Y4/6オリーブ褐色砂質シルト　2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを斑状にわずかに含む　固くしまる

SP1344

1. 10YR2/3黒褐色シルト　2.5Y7/6明黄褐色シルトを斑状に多く含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
2. 10YR2/3黒褐色シルト　まざりなし　しまる

SP1360

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを斑状に少し含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを粒状に少し含む　しまる
3. 2.5Y5/6黄褐色砂質シルト　2.5Y3/2黒褐色シルトを斑状に多く含む　しまる

SP1368

1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
2. 10YR3/2黒褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
3. 10YR5/3にぶい黄褐色シルト　10YR3/2黒褐色粘質シルトを5％含む　粘性ややあり

SP1379

1. 10YR3/2黒褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
2. 10YR3/2黒褐色粘質シルト　10Y5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
3. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
4. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト　ほぼ純層　粘性ややあり

SP1382

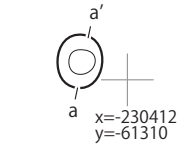
1. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y6/8明黄褐色シルトを斑状に多く含む　しまる
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y5/6黄褐色シルトを粒状にわずかに含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
3. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR5/6黄褐色シルトを斑状に少し含む　しまる

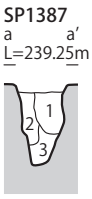
SP1385

1. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR4/3にぶい黄褐色シルトを斑状にわずかに含む
2. 10YR2/1黒色シルト　10YR4/4褐色シルトをブロックで斑状に含む
3. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR4/4褐色シルトをブロックで斑状に含む
4. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR4/4褐色シルトを粒状に少し含む

第 112 図　A 区　ピット SP1331・1344・1360・1368・1379・1382・1385

SP1387

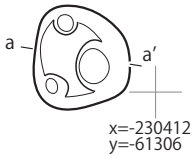


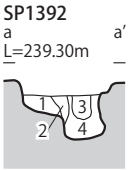


SP1387

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを粒状にわずかに含む 炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトをブロック状に多く含む 炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
3. 2.5Y5/3黄褐色砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状にわずかに含む　しまりなし

SP1392

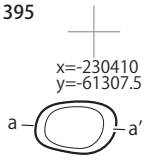




SP1392

1. 2.5Y7/4浅黄色砂質シルト	2.5Y3/3暗オリーブ砂質シルトを斑状に多く含む　固くしまる
2. 2.5Y7/4浅黄色砂質シルト	2.5Y3/3暗オリーブ砂質シルトを斑状に少し含む　固くしまる
3. 10YR3/3暗褐色シルト	2.5Y5/4黄褐色砂質シルトを斑状に多く含む　固くしまる
4. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y7/6明黄褐色砂質シルトを粒状にわずかに含む　固くしまる

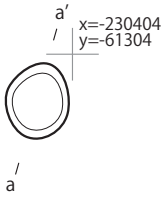
SP1395

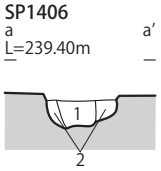


SP1395

1. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを斑状に多く含む　固くしまる

SP1406

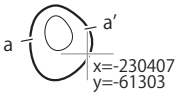


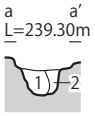


SP1406

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に40％含む

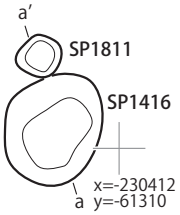
SP1407

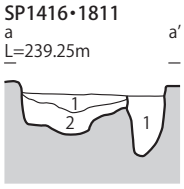




SP1407

1. 10YR1.7/1黒色シルト	2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを斑状に多く含む　しまる
2. 2.5Y6/6明黄褐色シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを斑状に多く含む　しまる





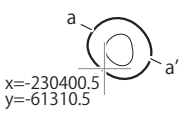
SP1416

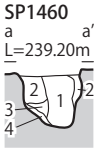
1. 2.5Y5/4黄褐色シルト	2.5Y4/4オリーブ褐色シルトを斑状に多く含む 炭化物を粒状にわずかに含む　しまりなし
2. 2.5Y5/4黄褐色シルト	2.5Y4/4オリーブ褐色シルトを斑状に少し含む 炭化物を粒状にわずかに含む　しまりなし

SP1811

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色シルトを粒状に少し含む 炭化物を粒状にわずかに含む　しまりなし

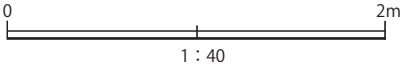
SP1460



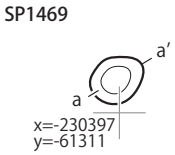


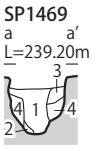
SP1460

1. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y8/6黄色シルトを粒状にわずかに含む　しまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y8/6黄色シルトを粒、斑状に多く含む　しまる
3. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y7/6明黄褐色シルトを粒状にごくわずかに含む　しまる
4. 2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状にわずかに含む　しまる



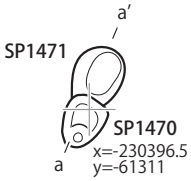
第 113 図　A 区　ピット SP1387・1392・1395・1406・1407・1416・1460・1811

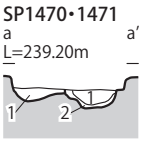




SP1469

1. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y6/6明黄褐色砂質シルトを粒、ブロック状にわずかに含む　しまる
2. 2.5Y6/3にぶい黄色砂質シルト	まざりなし　しまる
3. 2.5Y4/4オリーブ褐色シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを帯状に少し含む 2.5Y3/1黒褐色シルトを帯状にわずかに含むしまる
4. 2.5Y4/4オリーブ褐色粘質シルト	2.5Y2/1黒色シルトを斑状にわずかに含む　しまる



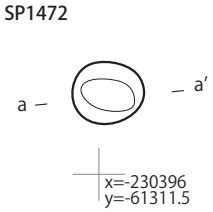


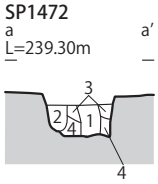
SP1470

1. 2.5Y5/6黄褐色粘質シルト	2.5Y7/6明黄褐色粘質シルト、2.5Y3/2黒褐色シルトを斑状に少し含む　しまる

SP1471

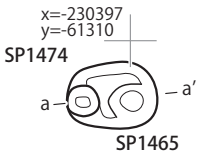
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色シルトを粒状にわずかに含む　しまる
2. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを粒状にわずかに含む　しまる

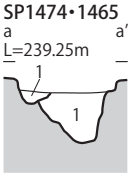




SP1472

1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで3％含む
2. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
4. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む



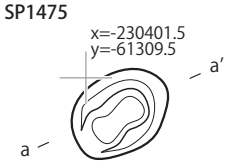


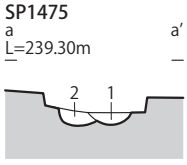
SP1465

1. 10YR1.7/1黒色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色シルトを斑状に少し含む。炭化物を粒状にわずかに含む　しまる

SP1474

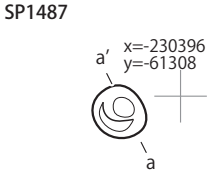
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y7/4浅黄色シルト、2.5Y2/1黒色シルトを粒状に少し含む　しまる

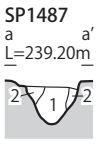




SP1475

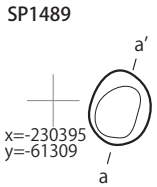
1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを帯状に20％含む
2. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む

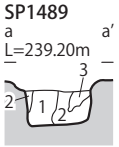




SP1487

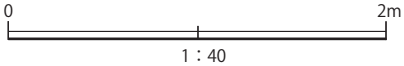
1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR3/4暗褐色シルトを斑状に多く含む　2.5Y8/4淡黄色シルトを斑状にわずかに含む　炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 10YR3/4暗褐色シルト	2.5Y4/3オリーブ褐色シルトを斑状に多く含む　固くしまる



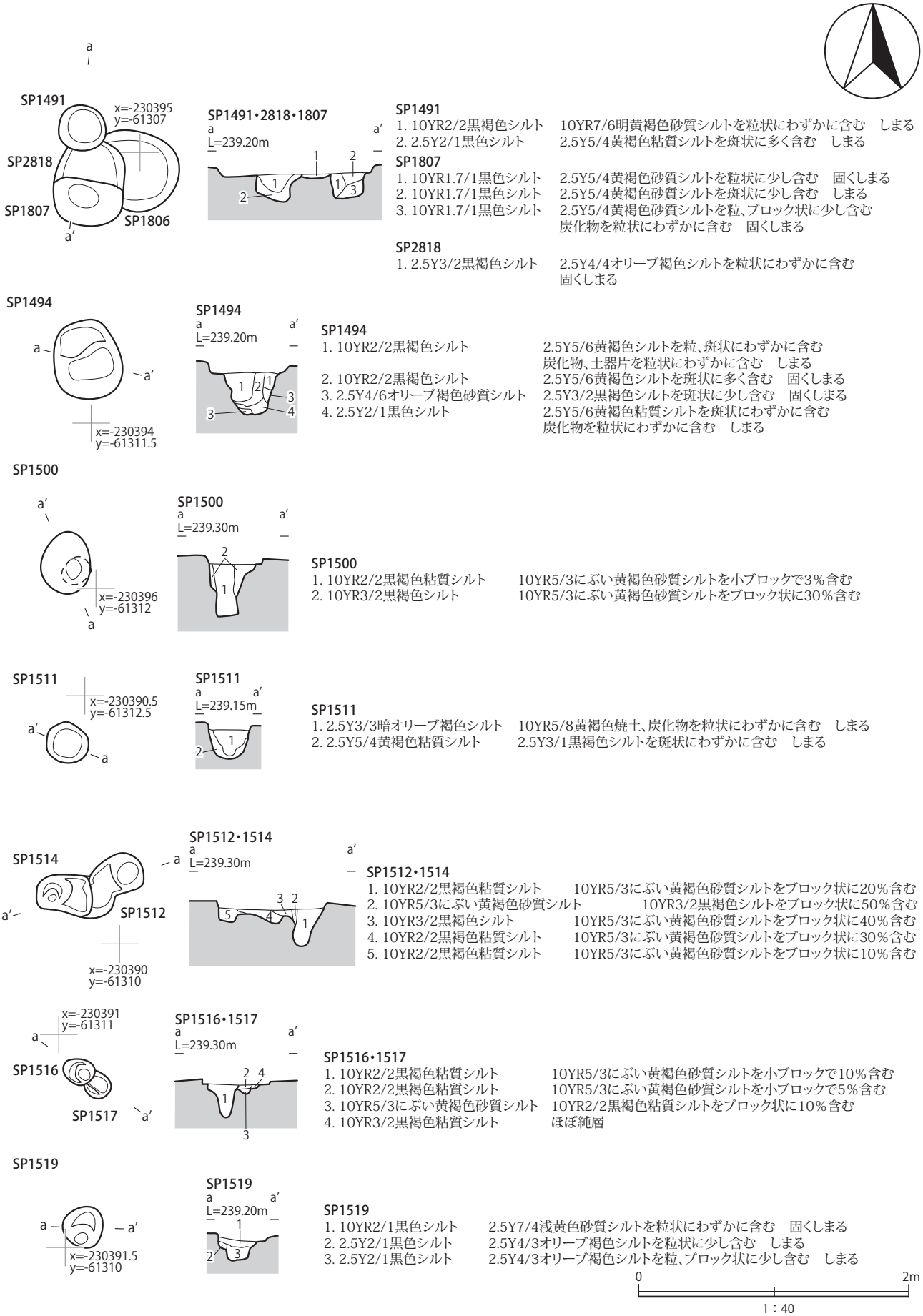


SP1489

1. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y6/6明黄褐色シルトを斑状に多く含む　固くしまる
2. 2.5Y6/4にぶい黄色シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状に多く含む　しまりなし
3. 10YR3/3暗褐色シルト	炭化物を粒状にわずかに含む　しまる



第 114 図　A 区　ピット SP1469・1470・1471・1472・1465・1474・1475・1487・1489



SP1491
1. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR7/6明黄褐色砂質シルトを粒状にわずかに含む　しまる
2. 2.5Y2/1黒色シルト　2.5Y5/4黄褐色粘質シルトを斑状に多く含む　しまる

SP1807
1. 10YR1.7/1黒色シルト　2.5Y5/4黄褐色砂質シルトを粒状に少し含む　固くしまる
2. 10YR1.7/1黒色シルト　2.5Y5/4黄褐色砂質シルトを斑状に少し含む　しまる
3. 10YR1.7/1黒色シルト　2.5Y5/4黄褐色砂質シルトを粒、ブロック状に少し含む　炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる

SP2818
1. 2.5Y3/2黒褐色シルト　2.5Y4/4オリーブ褐色シルトを粒状にわずかに含む　固くしまる

SP1494
1. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y5/6黄褐色シルトを粒、斑状にわずかに含む　炭化物、土器片を粒状にわずかに含む　しまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y5/6黄褐色シルトを斑状に多く含む　固くしまる
3. 2.5Y4/6オリーブ褐色砂質シルト　2.5Y3/2黒褐色シルトを斑状に少し含む　固くしまる
4. 2.5Y2/1黒色シルト　2.5Y5/6黄褐色粘質シルトを斑状にわずかに含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる

SP1500
1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで3％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む

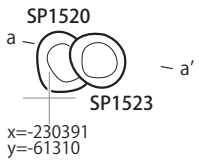
SP1511
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　10YR5/8黄褐色焼土、炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
2. 2.5Y5/4黄褐色粘質シルト　2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状にわずかに含む　しまる

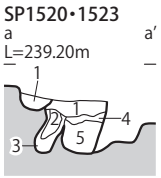
SP1512・1514
1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
2. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト　10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に50％含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に40％含む
4. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
5. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む

SP1516・1517
1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで10％含む
2. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
3. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト　10YR2/2黒褐色粘質シルトをブロック状に10％含む
4. 10YR3/2黒褐色粘質シルト　ほぼ純層

SP1519
1. 10YR2/1黒色シルト　2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 2.5Y2/1黒色シルト　2.5Y4/3オリーブ褐色シルトを粒状に少し含む　しまる
3. 2.5Y2/1黒色シルト　2.5Y4/3オリーブ褐色シルトを粒、ブロック状に少し含む　しまる

第 115 図　A 区　ピット SP1491・1494・1500・1511・1512・1514・1516・1517・1519・1807・2818



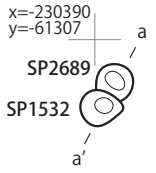


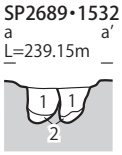
SP1520

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを粒状に少し含む　固くしまる

SP1523

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質シルトを斑状にわずかに含む　炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 2.5Y4/6オリーブ褐色粘質シルト	2.5Y3/2黒褐色シルトを斑状に少し含む　しまる
3. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y5/6黄褐色粘質シルトを斑状にわずかに含む　しまる
4. 2.5Y6/6明黄褐色粘質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状にわずかに含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
5. 2.5Y4/3オリーブ褐色粘質シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを斑状に少し含む　固くしまる



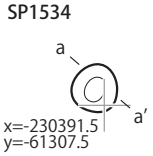


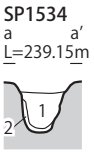
SP2689

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR3/4暗褐色シルトを斑状にわずかに含む　2.5Y6/4にぶい黄色シルトを斑状に少し含む　しまる
2. 2.5Y3/1黒褐色シルト	2.5Y6/6明黄褐色シルトを斑状に多く含む　しまりなし

SP1532

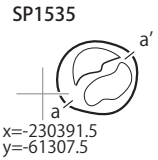
1. 10YR1.7/1黒色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを斑状に少し含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
2. 10YR1.7/1黒色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを斑状にわずかに含む　しまる

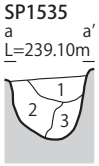




SP1534

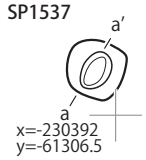
1. 2.5Y4/6オリーブ褐色シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状に多く含む　しまる
2. 2.5Y5/6黄褐色砂質シルト	2.5Y4/1黄灰色シルトを斑状にわずかに含む　しまる

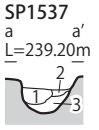




SP1535

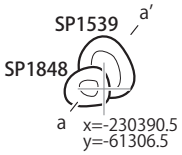
1. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y5/4黄褐色砂質シルトを粒状にわずかに含む　炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質シルト	10YR2/2黒褐色シルトを大ブロックでひとつ含む　2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを粒状にわずかに含む　しまりなし
3. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y5/4黄褐色砂質シルトを粒状にわずかに含む　2.5Y4/6オリーブ褐色砂質シルトを柱状に多く含む　しまりなし

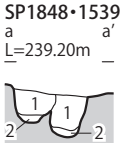




SP1537

1. 10YR2/1黒色シルト	10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルトを斑状に多く含む　固くしまる
2. 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト	10YR3/1黒褐色シルトを粒状に少し含む　固くしまる
3. 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状にわずかに含む　しまる



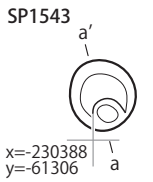


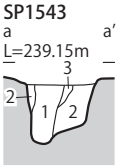
SP1539

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y6/6明黄褐色シルトを斑状に少し含む　しまる
2. 2.5Y4/6オリーブ褐色シルト	2.5Y2/1黒色シルトを粒状にわずかに含む　しまりなし

SP1848

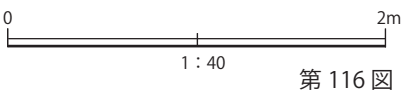
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y6/6明黄褐色シルトを粒、斑状に少し含む　しまる
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y6/6明黄褐色シルトを粒状にわずかに含む　しまる
3. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y6/6明黄褐色シルトを斑状に少し含む　しまる
4. 2.5Y4/6オリーブ褐色シルト	2.5Y2/1黒色シルトを粒状にわずかに含む　しまりなし



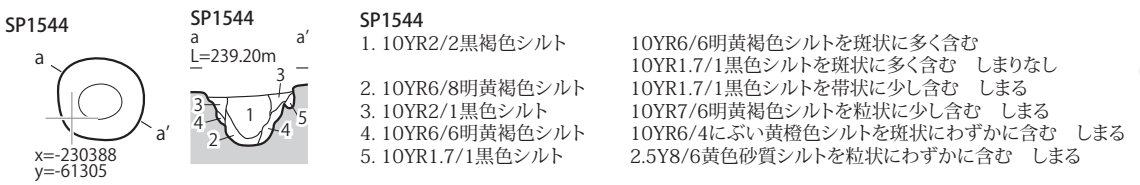


SP1543

1. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y5/4黄褐色シルトを粒状に多く含む　しまる
2. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y5/4黄褐色シルトを粒状に少し含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
3. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y5/4黄褐色シルトを斑状に多く含む　しまる

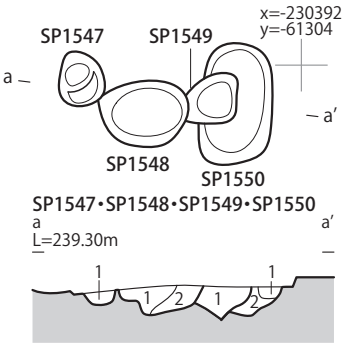


第 116 図　A 区　ピット SP1520・1523・1532・1534・1535・1537・1539・1543・1848・2689



SP1544

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR6/6明黄褐色シルトを斑状に多く含む 10YR1.7/1黒色シルトを斑状に多く含む　しまりなし
2. 10YR6/8明黄褐色シルト	10YR1.7/1黒色シルトを帯状に少し含む　しまる
3. 10YR2/1黒色シルト	10YR7/6明黄褐色シルトを粒状に少し含む　しまる
4. 10YR6/6明黄褐色シルト	10YR6/4にぶい黄橙色シルトを斑状にわずかに含む　しまる
5. 10YR1.7/1黒色シルト	2.5Y8/6黄色砂質シルトを粒状にわずかに含む　しまる



SP1547

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む

SP1548

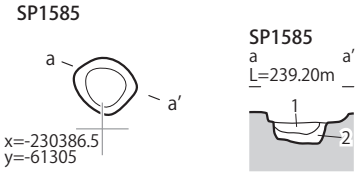
1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む

SP1549

1. 10YR2/2黒褐色シルト	5～10mm程度の炭化物を含む　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む

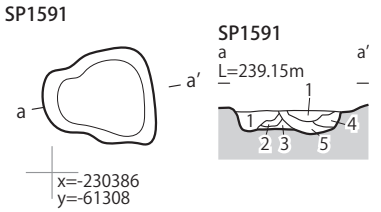
SP1550

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に50％含む



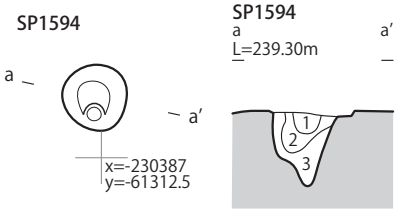
SP1585

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR7/6明黄褐色シルトを粒状に少し含む　しまる
2. 2.5Y4/2暗灰黄色粘土	10YR5/6黄褐色粘土を斑状に多く含む　しまる



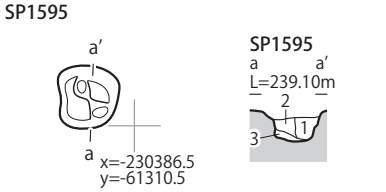
SP1591

1. 10YR1.7/1黒色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色粘土を粒、ブロック状に少し含む　しまる
2. 2.5Y4/4オリーブ褐色シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを斑状に多く含む　しまる
3. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを粒状にわずかに含む　しまりなし
4. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y6/3にぶい黄色シルトを斑状に多く含む　しまる
5. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y6/3にぶい黄色シルトを斑状に多く含む 2.5Y4/4オリーブ褐色シルトを帯状に少し含む　固くしまる



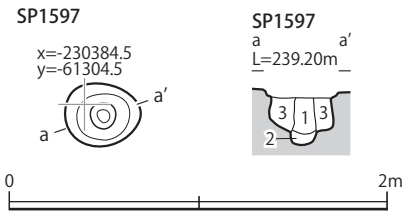
SP1594

1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む 10YR2/1黒色粘質シルトをブロック状に5％含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む 10YR2/1黒色粘質シルトをブロック状に5％含む



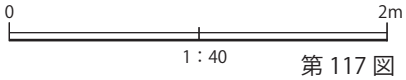
SP1595

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを粒状に少し含む　しまりなし
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを斑状に多く含む 2.5Y2/1黒色シルトを斑状にわずかに含む　しまる
3. 2.5Y7/6明黄褐色砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色粘質シルトを粒状にわずかに含む　しまる

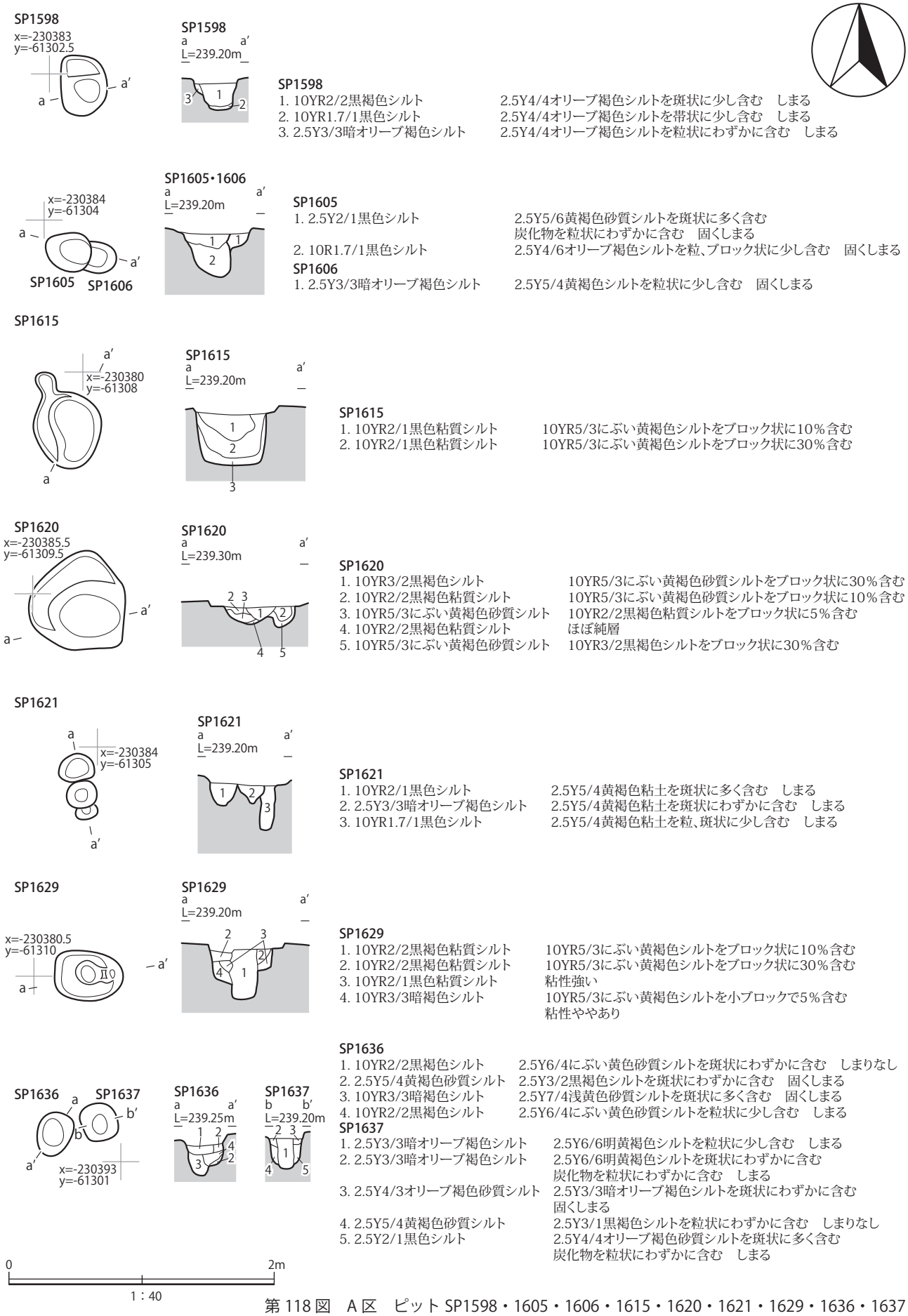


SP1597

1. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y4/4オリーブ褐色シルトを斑状に少し含む　しまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y4/4オリーブ褐色シルトを粒状にわずかに含む　固くしまる
3. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y4/3オリーブ褐色シルトを斑状に少し含む　しまる



第 117 図　A 区　ピット SP1544・1547・1548・1549・1550・1585・1591・1594・1595・1597



SP1598

1. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y4/4オリーブ褐色シルトを斑状に少し含む　しまる
2. 10YR1.7/1黒色シルト	2.5Y4/4オリーブ褐色シルトを帯状に少し含む　しまる
3. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y4/4オリーブ褐色シルトを粒状にわずかに含む　しまる

SP1605

1. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y5/6黄褐色砂質シルトを斑状に多く含む 炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 10R1.7/1黒色シルト	2.5Y4/6オリーブ褐色シルトを粒、ブロック状に少し含む　固くしまる

SP1606

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y5/4黄褐色シルトを粒状に少し含む　固くしまる

SP1615

1. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトをブロック状に10％含む
2. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトをブロック状に30％含む

SP1620

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
2. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
3. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR2/2黒褐色粘質シルトをブロック状に5％含む
4. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	ほぼ純層
5. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に30％含む

SP1621

1. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y5/4黄褐色粘土を斑状に多く含む　しまる
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y5/4黄褐色粘土を斑状にわずかに含む　しまる
3. 10YR1.7/1黒色シルト	2.5Y5/4黄褐色粘土を粒、斑状に少し含む　しまる

SP1629

1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトをブロック状に10％含む
2. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトをブロック状に30％含む
3. 10YR2/1黒色粘質シルト	粘性強い
4. 10YR3/3暗褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトを小ブロックで5％含む 粘性ややあり

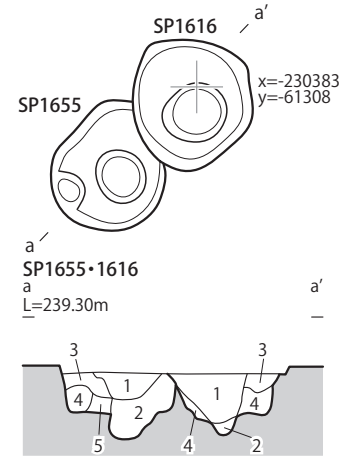
SP1636

1. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを斑状にわずかに含む　しまりなし
2. 2.5Y5/4黄褐色砂質シルト	2.5Y3/2黒褐色シルトを斑状にわずかに含む　固くしまる
3. 10YR3/3暗褐色シルト	2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを斑状に多く含む　固くしまる
4. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを粒状に少し含む　しまる

SP1637

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y6/6明黄褐色シルトを粒状に少し含む　しまる
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y6/6明黄褐色シルトを斑状にわずかに含む 炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
3. 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを斑状にわずかに含む 固くしまる
4. 2.5Y5/4黄褐色砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを粒状にわずかに含む　しまりなし
5. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y4/4オリーブ褐色砂質シルトを斑状に多く含む 炭化物を粒状にわずかに含む　しまる

第 118 図　A 区　ピット SP1598・1605・1606・1615・1620・1621・1629・1636・1637



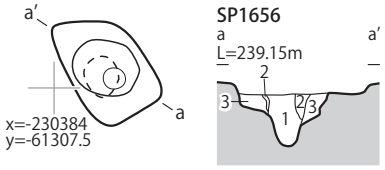
SP1616

1. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
2. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
3. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR3/3暗褐色シルトを斑状に20％含む
4. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に40％含む

SP1655

1. 10YR3/2黒褐色粘質シルト	10YR2/1黒色粘質シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
2. 10R2/1黒色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
3. 10YR3/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に40％含む
4. 10YR3/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
5. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色粘質シルトをブロック状に20％含む

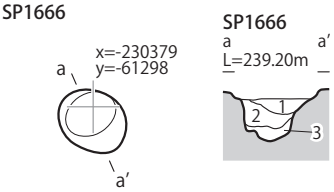
SP1656



SP1656

1. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y7/6明黄褐色砂質シルトを粒、ブロック状に多く含む 土器片を粒状にわずかに含む　しまる
2. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y7/6明黄褐色砂質シルトを斑状に少し含む　しまる
3. 2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状に少し含む　しまる

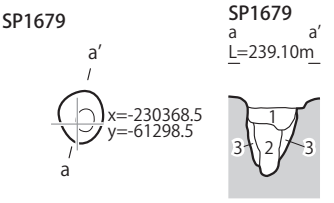
SP1666



SP1666

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y7/4浅黄色粘質シルトを斑状に多く含む 炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y7/4浅黄色粘質シルトを斑状にわずかに含む　固くしまる
3. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y5/4黄褐色粘質シルトを斑状に少し含む 1mm～2cm大の砂利をわずかに含む　しまる

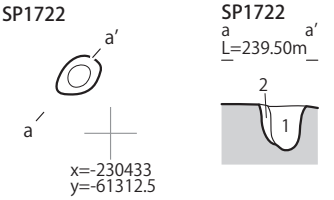
SP1679



SP1679

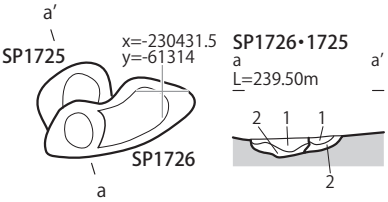
1. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y8/4淡黄色砂質シルト、2.5Y6/4にぶい黄色粘質シルトを斑状にわずかに含む　しまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y8/4淡黄色砂質シルトを粒状にわずかに含む　しまる
3. 2.5Y6/4にぶい黄色粘質シルト	2.5Y6/2灰黄色粘土を斑状にわずかに含む　しまりなし

SP1722



SP1722

1. 10YR3/2黒褐色粘質シルト	10YR6/4にぶい黄橙色粘土をブロック状に5％含む 炭化粒をわずかに含む　粘性あり　かたくしまる
2. 10YR6/4にぶい黄橙色粘質シルト	10YR3/2黒褐色粘土ブロックをわずかに含む 粘性あり　しまりあり

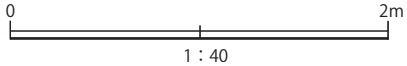


SP1725

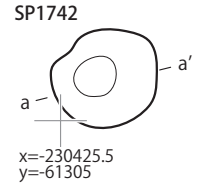
1. 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト	10YR7/2にぶい黄橙色粘土ブロックを3％含む 遺物片及び炭化粒、粗砂をわずかに含む
2. 10YR7/2にぶい黄橙色粘質シルト	10YR4/2灰黄褐色粘土をブロック状に3％含む　粘性ややあり しまりあり

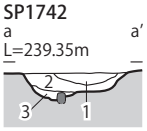
SP1726

1. 10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト	10YR7/2にぶい黄橙色粘土を斑状に含む　粘性ややあり しまりあり
2. 10YR7/2にぶい黄橙色粘質シルト	10YR4/2灰黄褐色粘土をブロック状に1％含む　粘性ややあり しまりあり



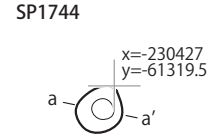
第 119 図　A 区　ピット SP1616・1655・1656・1666・1679・1722・1725・1726

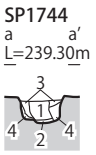




SP1742

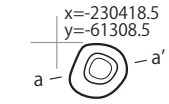
1. 10YR3/4暗褐色シルト	10YR8/2灰白色シルトを粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 10YR1.7/1黒色シルト	10YR5/6黄褐色シルトを斑状に少し含む 10YR8/4浅黄橙色シルトをブロック状に少し含む固くしまる 土器片を粒状にわずかに含む
3. 10YR2/1黒色シルト	10YR8/3浅黄橙色シルトを斑状に少し含む　固くしまる

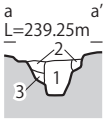




SP1744

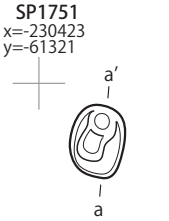
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y4/3オリーブ褐色シルトをブロック状に多く含む 炭化物を粒状に少し含む
2. 2.5Y5/4黄褐色砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状に多く含む　固くしまる
3. 10YR3/1黒褐色シルト	2.5Y7/6明黄褐色砂質シルトを粒状に多く含む　しまる
4. 2.5Y6/6明黄褐色砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状に多く含む　固くしまる

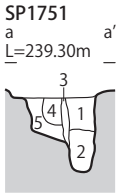




SP1746

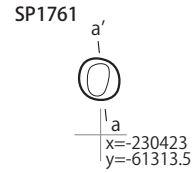
1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR6/6明黄褐色砂質シルトを斑状に少し含む　しまる
2. 10YR3/4暗褐色シルト	10YR6/8明黄褐色砂質シルトを斑状に多く含む　固くしまる
3. 2.5Y7/6明黄褐色砂質シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質シルトを粒状に少し含む　しまる

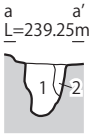




SP1751

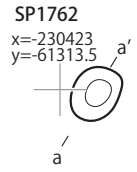
1. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト	10YR5/6黄褐色シルトを粒状に多く含む　炭化物を少し含む　しまる
2. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト	10YR5/6黄褐色シルトを粒状に少し含む　しまる
3. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y7/4浅黄色シルトを斑状に少し含む　しまる
4. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y7/4浅黄色シルトを帯状に多く含む　炭化物を少し含む　固くしまる
5. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y7/4浅黄色シルトを粒状に少し含む　しまる

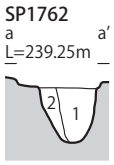




SP1761

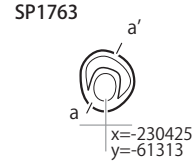
1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR6/6明黄褐色シルトを粒状に少し含む 炭化物を粒状にわずかに含む固くしまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR6/6明黄褐色シルトを粒状に多く含む　固くしまる

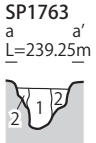




SP1762

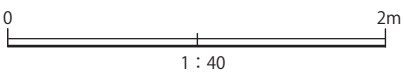
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y8/4淡黄色シルトを粒状に少し含む　固くしまる
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y8/4淡黄色シルトを粒状に多く含む　固くしまる





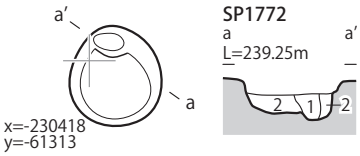
SP1763

1. 2.5Y3/2黒褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色シルトを斑状に多く含む　炭化物を粒状にわずかに含む 固くしまる
2. 2.5Y5/6黄褐色シルト	2.5Y4/1黄灰色シルトを斑状に多く含む　土器片、炭化物を粒状にわずかに含む 固くしまる

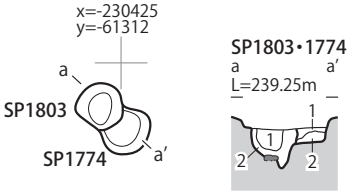


第 120 図　A 区　ピット SP1742・1744・1746・1751・1761・1762・1763

SP1772



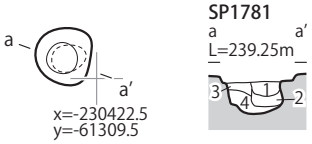
SP1772
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y8/6黄色シルトを粒状に少し含む　固くしまる
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y8/6黄色シルトを帯状に多く含む　固くしまる
3. 2.5Y6/6明黄褐色シルト　10YR2/2黒褐色シルトを斑状に多く含む　固くしまる



SP1774
1. 10YR2/3黒褐色シルト　10YR4/4褐色シルトを斑状に少し含む　固くしまる
2. 10YR5/2黒褐色シルト　10YR4/4褐色シルトを斑状に多く含む　固くしまる

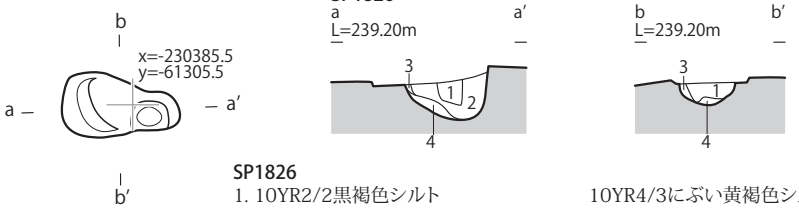
SP1803
1. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR7/8黄橙色シルトをブロック状に少し含む
炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR7/8黄橙色シルトを斑状に多く含む　炭化物を粒状にわずかに含む
固くしまる

SP1781



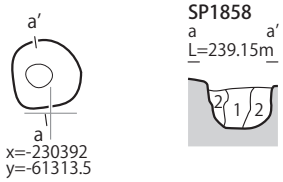
SP1781
1. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを粒状に少し含む　しまる
2. 2.5Y5/4黄褐色シルト　2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを斑状に多く含む　しまりなし
3. 2.5Y5/6黄褐色シルト　2.5Y4/3オリーブ褐色シルトを斑状に少し含む　しまる
4. 2.5Y3/1黒褐色シルト　2.5Y5/4黄褐色シルトを斑状に多く含む　しまりなし

SP1826



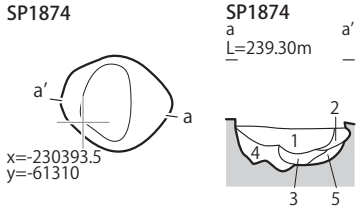
SP1826
1. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR4/3にぶい黄褐色シルトを小ブロックで5％含む　粘性ややあり　かたくしまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR4/3にぶい黄褐色シルトをブロック状に20％含む　粘性ややあり　火中
3. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト　10YR2/2黒褐色シルト及び10YR6/3にぶい黄橙シルトを小ブロックで10％含む
4. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト　10YR2/2黒褐色シルトをブロック状に20％含む

SP1858



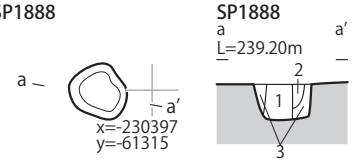
SP1858
1. 10YR2/3黒褐色シルト　2.5Y4/3オリーブ褐色砂質シルトを斑状に少し含む
炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
2. 10YR2/3黒褐色シルト　2.5Y4/3オリーブ褐色砂質シルトを斑状に多く含む
炭化物を粒状にわずかに含む　しまる

SP1874

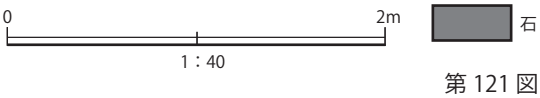


SP1874
1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR2/1黒色粘質シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを
ブロック状に10％含む
2. 10YR3/2黒褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
3. 10YR5/2灰黄褐色シルト　10YR2/1黒色粘質シルト及び10YR3/2黒褐色粘質シルトをブロック状に
20％含む　やや砂質
4. 10YR5/2灰黄褐色シルト　10YR2/1黒色粘質シルト及び10YR3/2黒褐色粘質シルト
10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
5. 10YR5/2灰黄褐色シルト　10YR3/2黒褐色粘質シルトをブロック状に10％含む

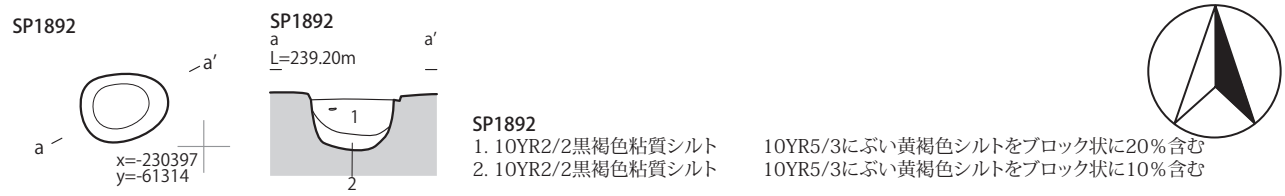
SP1888



SP1888
1. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む　粘性ややあり
2. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで10％含む

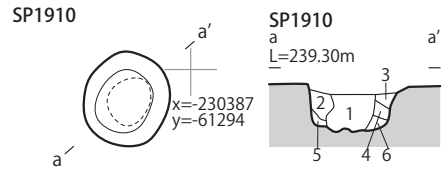


第 121 図　A 区　ピット SP1772・1774・1781・1803・1826・1858・1874・1888



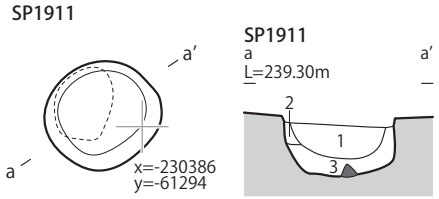
SP1892

1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトをブロック状に20％含む
2. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色シルトをブロック状に10％含む



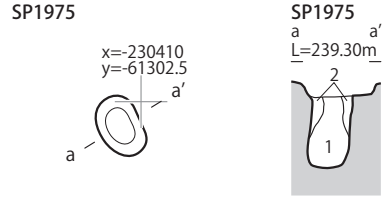
SP1910

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで斑状に3％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
3. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルト及び10YR7/2にぶい黄橙色粘質シルトをブロック状に10％含む
4. 10YR3/3暗褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト及び10YR7/2にぶい黄橙色粘質シルトをブロック状に20％含む
5. 10YR3/3暗褐色細砂	10YR3/2黒褐色シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
6. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR3/3暗褐色細砂及び礫を含む



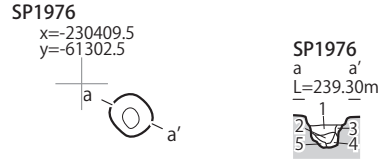
SP1911

1. 10YR3/2黒褐色シルト	3～5mm程度の炭化物を少量含む　小礫を含み、固くしまる
2. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを塊状に20％含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR3/3暗褐色細砂及び礫を含む



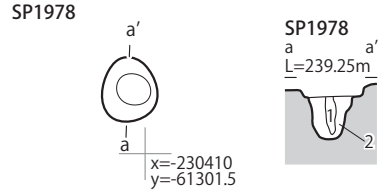
SP1975

1. 2.5Y3/2黒褐色粘土	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを斑状にわずかに含む 炭化物をブロック状にわずかに含む　しまりなし
2 .2.5Y3/1黒褐色シルト	2.5Y4/3オリーブ褐色シルトを斑状に少し含む　しまりなし



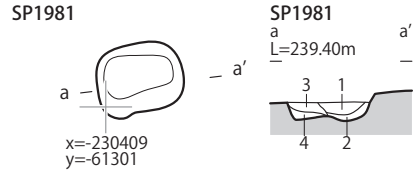
SP1976

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを粒状にわずかに含む 炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを斑状に多く含む　固くしまる
3. 2.5Y5/4黄褐色シルト	2.5Y2/1黒色シルトを斑状に少し含む　固くしまる
4. 2.5Y5/4黄褐色シルト	2.5Y2/1黒色シルトを粒状にわずかに含む　固くしまる
5. 2.5Y5/4黄褐色シルト	2.5Y2/1黒色シルトを粒状にごくわずかに含む　固くしまる



SP1978

1. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y6/3にぶい黄色砂質シルトを粒状にわずかに含む 固くしまる
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを斑状に多く含む 炭化物をわずかに含む　固くしまる



SP1981

1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
2. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト及び10YR6/3褐灰色砂質シルトをブロック状に30％含む
3. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
4. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に10％含む

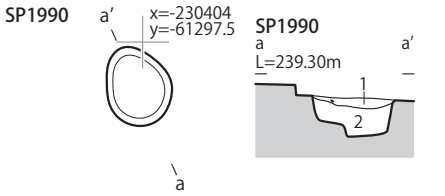
石

土器

0　2m

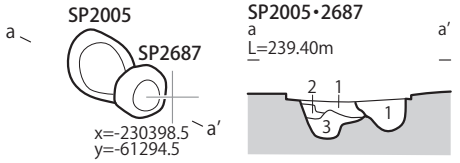
1：40

第 122 図　A 区　ピット SP1892・1910・1911・1975・1976・1978・1981



SP1990

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む　炭化物をわずかに含む
2. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR2/2黒褐色シルトをブロック状に20％含む

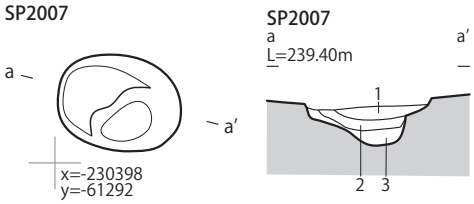


SP2005

1. 10YR3/3暗褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含むやや砂質シルト
2. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト	ほぼ純層
3. 10YR3/3暗褐色シルト	10YR2/2黒褐色シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む

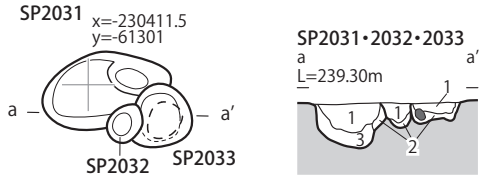
SP2687

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10mm程度の炭化物を含む　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む



SP2007

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む　10YR2/1黒色粘質シルトを小ブロックで5％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む　粘性ややあり



SP2031

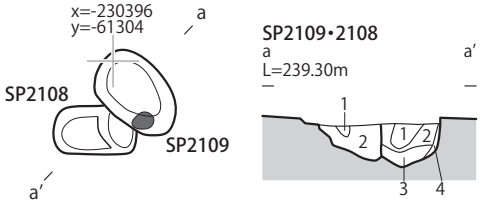
1. 10YR2/3黒褐色シルト	2.5Y6/6明黄褐色シルトを粒状にわずかに含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
2. 10YR2/3黒褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを斑状に多く含む　固くしまる
3. 2.5Y6/4にぶい黄色砂層	2.5Y3/1黒褐色シルトを粒状に少し含む　しまる

SP2032

1. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y7/6明黄褐色砂質シルトを粒状に少し含む　固くしまる
2. 2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルト	10YR2/2黒褐色シルトを斑状に少し含む　固くしまる

SP2033

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y5/6黄褐色砂質シルトを斑状に少し含む　炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 2.5Y6/4にぶい黄色砂層	2.5Y3/1黒褐色シルトを粒状に少し含む　しまる

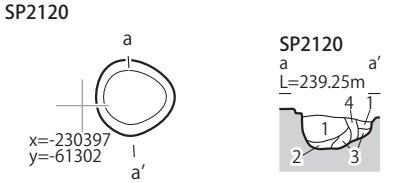


SP2108

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで10％含む　炭化物を少量含む　粘性ややあり
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む　粘性ややあり
3. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む　粘性ややあり
4. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR2/2黒褐色シルトをブロック状に30％含む

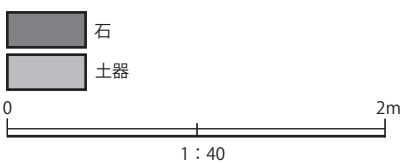
SP2109

1. 10YR2/1黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロックで30％含む　炭化物を少量含む　粘性ややあり
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に40％含む　粘性ややあり

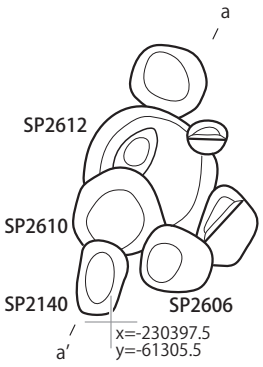


SP2120

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色シルトを斑状に多く含む　固くしまる
2. 2.5Y6/6明黄褐色シルト	2.5Y2/1黒色シルトを斑状に多く含む　しまる
3. 2.5Y6/6明黄褐色シルト	2.5Y2/1黒色シルトを斑状に少し含む　しまる
4. 2.5Y5/4黄褐色シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状にわずかに含む　しまる



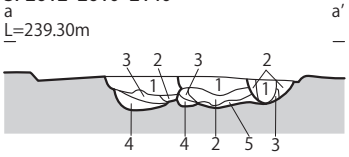
第 123 図　A 区　ピット SP1990・2005・2007・2031・2032・2033・2108・2109・2120・2687



SP2140
1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
2. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
3. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト　10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に10％含む

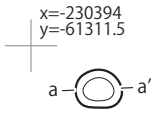
SP2610
1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　5mm程度の炭化物を多量に含む　5YR5/4にぶい赤褐色焼土の小ブロックを含む
2. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　7.5YR6/4にぶい橙色焼土の小ブロックを含む　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで10％含む
3. 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト　ほぼ純層
4. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで10％含む
5. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト　10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に10％含む

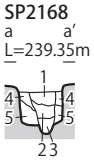
SP2612・2610・2140



SP2612
1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで10％含む　5YR5/4にぶい赤褐色焼土及び7.5YR6/4にぶい橙色焼土の小ブロックを含む
2. 10YR4/4褐色シルト　10YR2/2黒褐色粘質シルトをブロック状に10％含む
3. 10YR4/4褐色シルト　10YR2/2黒褐色粘質シルトを小ブロックで5％含む　やや砂質
4. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト　10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に10％含む

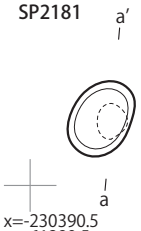
SP2168

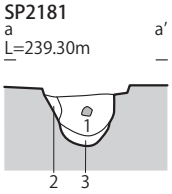




SP2168
1. 10YR3/3暗褐色シルト　2.5Y8/3淡黄色砂質シルト、炭化物を粒状に少し含む　固くしまる
2. 2.5Y8/3淡黄色砂質シルト　2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを斑状に少し含む　しまる
3. 2.5Y8/3淡黄色砂質シルト　2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを粒状にわずかに含む　しまる
4. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを斑状に多く含む　固くしまる
5. 2.5Y4/6オリーブ褐色シルト　2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状にわずかに含む　しまる

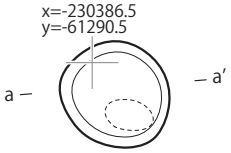
SP2181

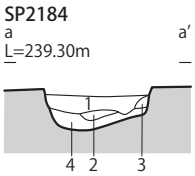




SP2181
1. 10YR3/2黒褐色シルト　3mm程度の炭化物を含む　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む　粘性ややあり
2. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む　粘性ややあり
3. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR3/3暗褐色砂を含む　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む

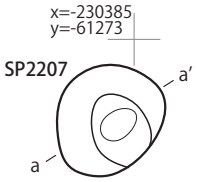
SP2184

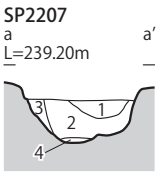




SP2184
1. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR2/1黒色粘質シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで10％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
3. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト　10YR3/3暗褐色砂を含む　10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に20％含む
4. 10YR3/3暗褐色砂　10YR3/2黒褐色シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む

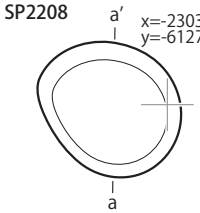
SP2207

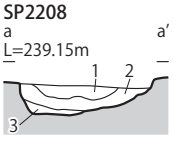




SP2207
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質シルト　2.5Y6/6明黄褐色砂質シルトを斑状に多く含む　固くしまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを粒状に少し含む　炭化物を粒状に少し含む　しまる
3. 2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルト　2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを斑状に多く含む　しまる
4. 10YR1.7/1黒色シルト　2.5Y6/6明黄褐色砂質シルトを粒状に少し含む　しまる

SP2208



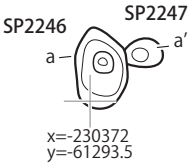


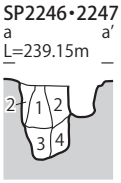
SP2208
1. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y7/2灰黄色シルトを斑状に少し含む　固くしまる
2. 10YR1.7/1黒色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを粒、斑状に少し含む　固くしまる
3. 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質シルト　10YR2/2黒褐色シルトを斑状に少し含む　しまる

0　2m
1：40

土器

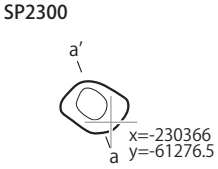
第 124 図　A 区　ピット SP2140・2168・2181・2184・2207・2208・2610・2612





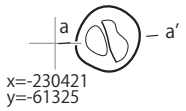
SP2246

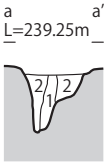
1. 10YR1.7/1黒色シルト	2.5Y7/3浅黄色砂質シルトを粒状にわずかに含む 炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y7/3浅黄色砂質シルトを斑状に多く含む　固くしまる
3. 10YR2/1黒色シルト	10YR4/4オリーブ褐色シルトを斑状に少し含む　しまる
4. 10YR2/1黒色シルト	10YR4/4オリーブ褐色シルトを斑状にわずかに含む　しまる



SP2300

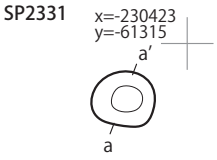
1. 10YR2/2黒褐色シルト	まざりなし　しまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y4/3オリーブ褐色粘質シルトを斑状に多く含む 炭化物を粒状にわずかに含む　しまる

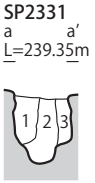




SP2329

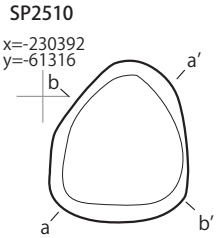
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y7/6明黄褐色シルトを粒状に少し含む 炭化物を粒状に少し含む　しまる
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y7/6明黄褐色シルトを斑状に多く含む　しまる

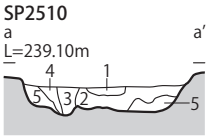


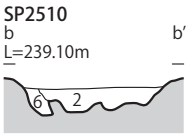


SP2331

1. 10YR3/3暗褐色シルト	10YR8/4浅黄橙色シルトを粒状に少し含む　固くしまる
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y6/8明黄褐色シルトを粒状にわずかに含む　炭化物を少し含む
3. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y6/8明黄褐色シルトを粒状に少し含む　しまる

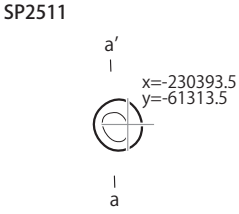


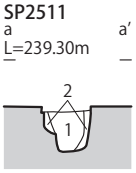




SP2510

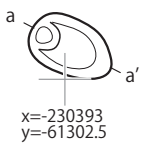
1. 10YR6/6明黄褐色粘質シルト	10YR3/1黒褐色シルトを粒状にわずかに含む　しまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y4/4オリーブ褐色シルトを粒状に多く含む　しまる
3. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y4/4オリーブ褐色シルトを粒状に少し含む　しまる
4. 10YR3/3暗褐色シルト	10YR2/1黒色シルト、2.5Y4/3オリーブ褐色シルトを斑状に多く含む　しまりなし
5. 10YR4/4褐色粘質シルト	10YR2/1黒色シルトを斑状にわずかに含む　しまる
6. 10YR2/1黒色シルト	10YR4/3にぶい黄褐色シルトを粒、斑状に多く含む しまる

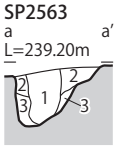




SP2511

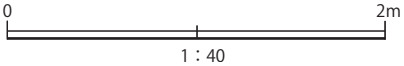
1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
2. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む



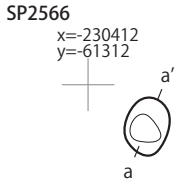


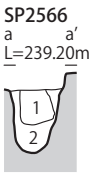
SP2563

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y6/6明黄褐色砂質シルトを粒状に少し含む 炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを粒状に少し含む 炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
3. 2.5Y6/6明黄褐色砂質シルト	2.5Y3/2黒褐色シルトを斑状に少し含む 器片を粒状にわずかに含む　しまる



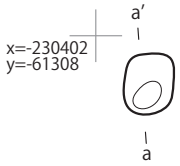
第 125 図　A 区　ピット SP2246・2300・2329・2331・2510・2511・2563

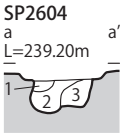




SP2566

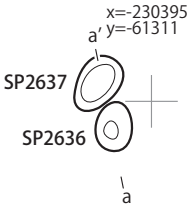
1. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y4/6オリーブ褐色砂質シルトを粒、斑状に少し含む　しまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y4/6オリーブ褐色砂質シルトを、斑状に多く含む
炭化物をわずかに含む　しまる

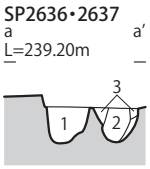




SP2604

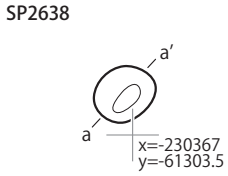
1. 2.5Y2/1黒色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 2.5Y2/1黒色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを粒状に多く含む
炭化物、土器片を粒状にわずかに含む　固くしまる
3. 2.5Y5/4黄褐色砂質シルト　2.5Y3/1黒褐色シルトを柱状に少し含む　固くしまる

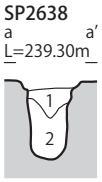




SP2636・2637

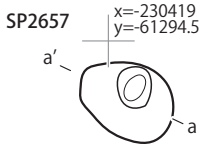
1. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
2. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に40％含む

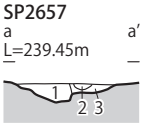




SP2638

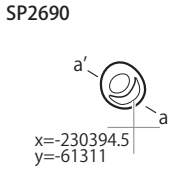
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y5/4黄褐色シルトを粒、ブロック状に多く含む　しまる
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y5/4黄褐色シルトを粒状に少し含む　しまる

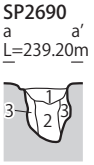




SP2657

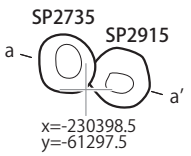
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを斑状にわずかに含む土器片を粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状に少し含む　7.5YR6/8橙色焼土を粒状に少し含む　固くしまる
3. 10YR1.7/1黒色シルト　10YR8/3浅黄橙色シルトを粒状に少し含む　しまる

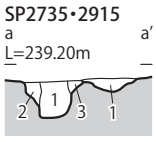




SP2690

1. 2.5Y3/2黒褐色シルト　2.5Y5/6黄褐色砂質シルトを斑状にわずかに含む
炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 2.5Y3/2黒褐色シルト　2.5Y5/6黄褐色砂質シルトを粒状にわずかに含む　しまる
3. 2.5Y6/6明黄褐色砂質シルト　2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを粒、斑状に多く含む　固くしまる



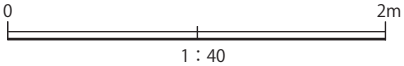


SP2735

1. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを斑状に多く含む
炭化物、土器片を粒状にわずかに含む　しまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを柱状にわずかに含む
炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
3. 10YR3/3暗褐色シルト　2.5Y6/6明黄褐色砂質シルトを斑状に多く含む　固くしまる
4. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y8/3淡黄色シルトを粒、斑状に少し含む
2.5Y2/1黒色シルトを斑状に少し含む　固くしまる

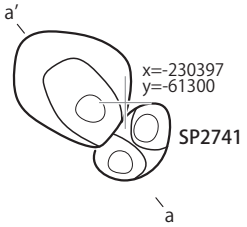
SP2915

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y8/3淡黄色シルトを粒、斑状に少し含む
2.5Y2/1黒色シルトを斑状に少し含む　固くしまる

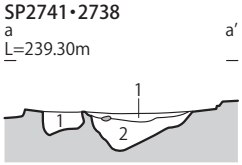


第 126 図　A 区　ピット SP2566・2604・2636・2637・2638・2657・2690・2735・2915

SP2738



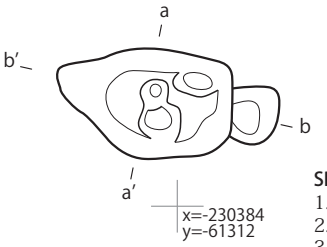
SP2741・2738



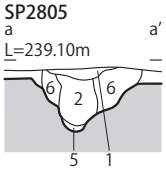
SP2741
1. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む

SP2738
1. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む　粘性ややあり
2. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト　10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に20％含む

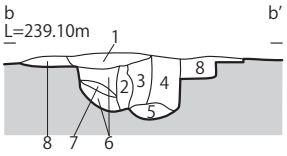
SP2805



SP2805



SP2805

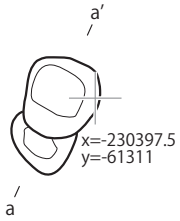


SP2805

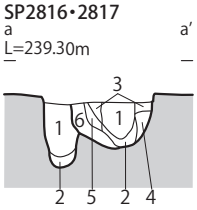
1. 10YR3/2黒褐色シルト	炭化粒をわずかに含む
2. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで3％含む
3. 10YR3/2黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
4. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に5％含む　粘性ややあり
5. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR3/2黒褐色シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトとの撹乱層
6. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色粘質シルトをブロック状に30％含む
7. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
8. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルト及び10YR2/1黒色粘質シルトをブロック状に30％含む

SP2816

SP2817



SP2816・2817



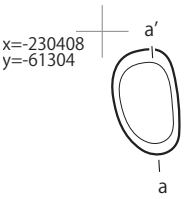
SP2816

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む　粘性ややあり
2. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む　粘性ややあり
3. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む
4. 10YR3/3暗褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む　粘性ややあり
5. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト	10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に10％含む
6. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト	10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に20％含む

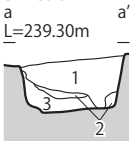
SP2817

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む　粘性ややあり
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む

SP2890



SP2890



SP2890

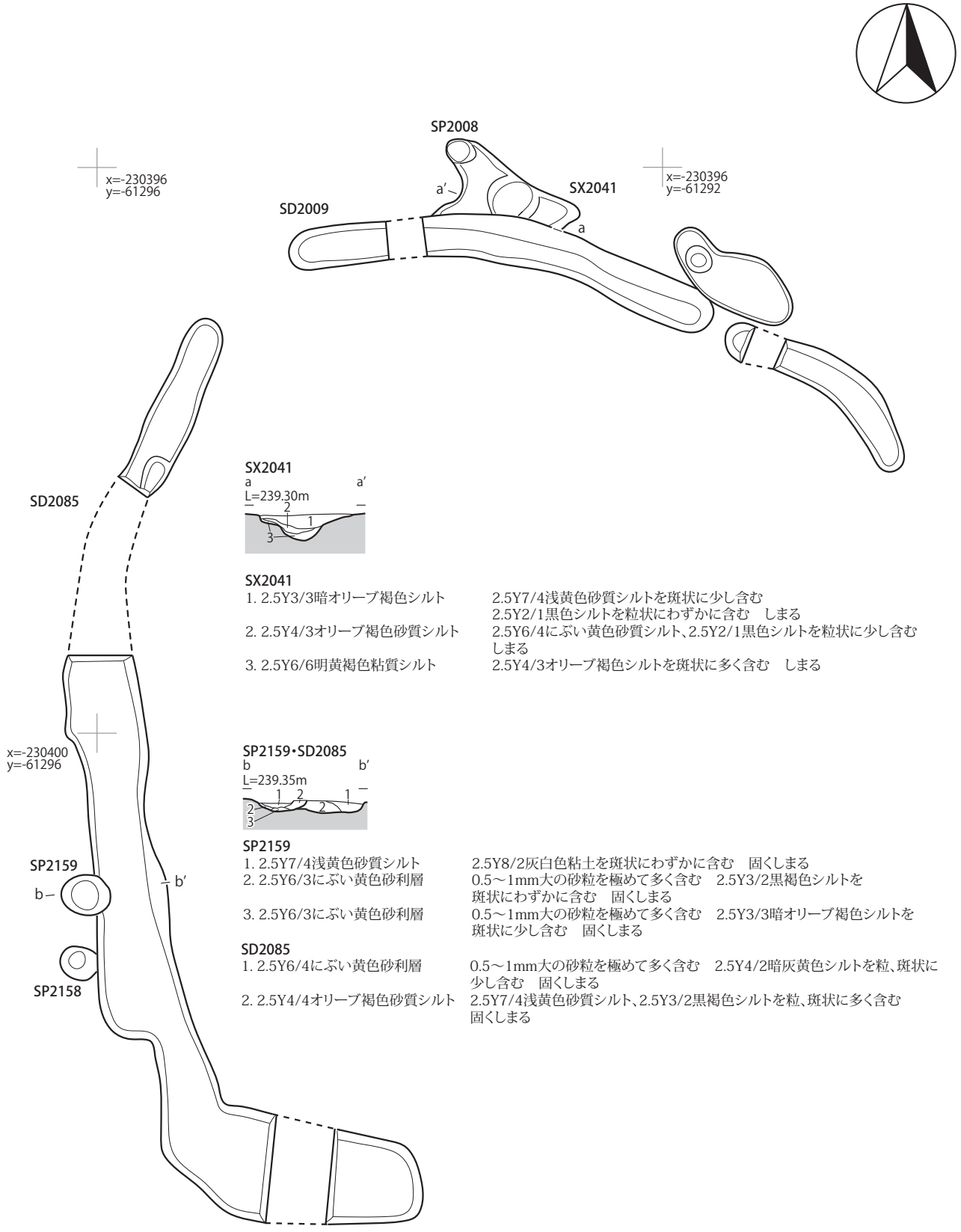
1. 2.5Y5/4黄褐色砂質シルト	10YR2/2黒褐色シルトを斑状に多く含む　固くしまる
2. 10YR6/4にぶい黄色シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを粒、斑状にわずかに含む　しまりなし
3. 10YR6/4にぶい黄色シルト	10YR1.7/1黒色シルトを斑状に多く含む　しまる

土器

0　2m

1：40

第127図　A区　ピット SP2741・2738・2805・2816・2817・2890



SX2041

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを斑状に少し含む 2.5Y2/1黒色シルトを粒状にわずかに含む　しまる
2. 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質シルト	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルト、2.5Y2/1黒色シルトを粒状に少し含む しまる
3. 2.5Y6/6明黄褐色粘質シルト	2.5Y4/3オリーブ褐色シルトを斑状に多く含む　しまる

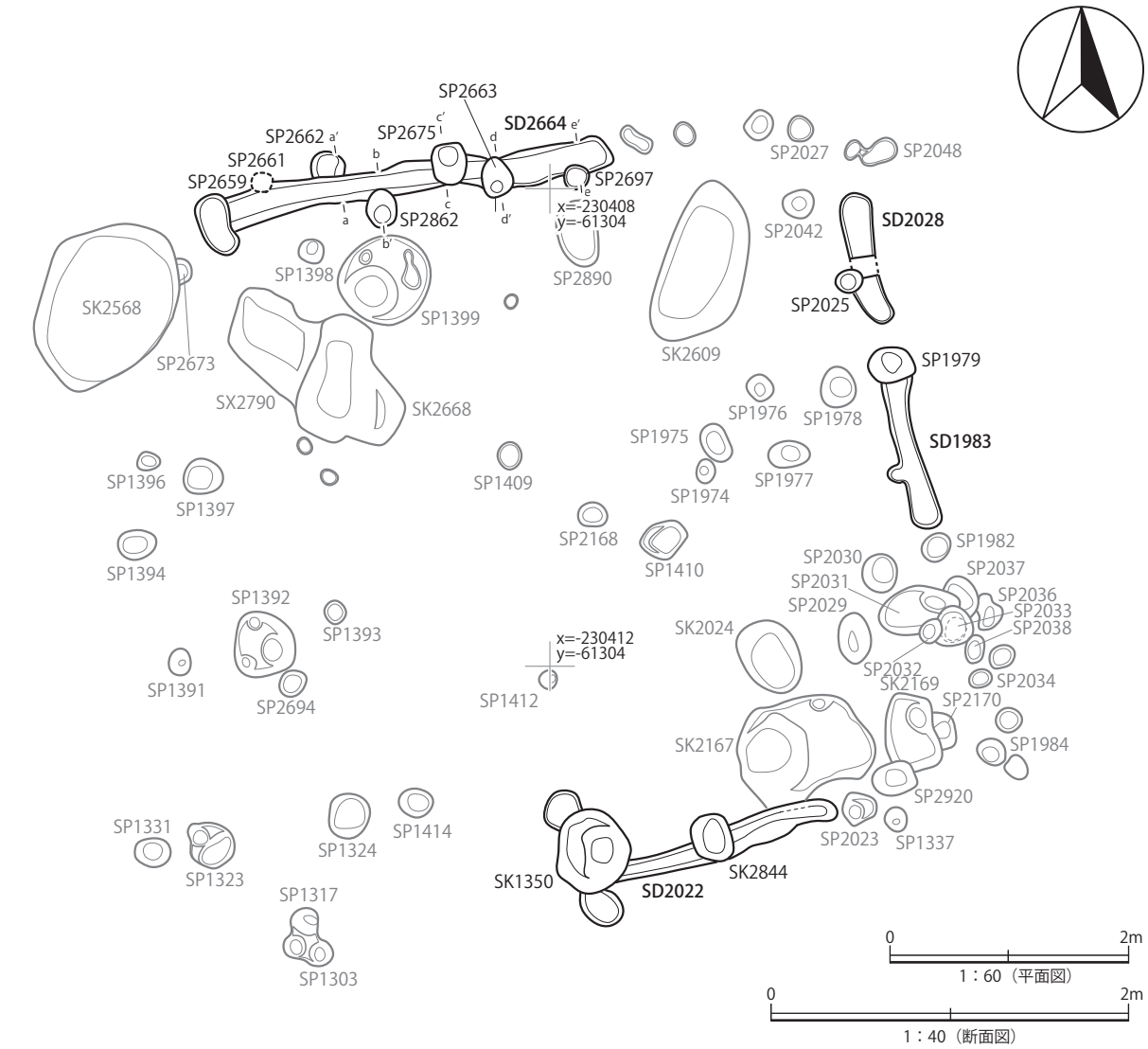
SP2159

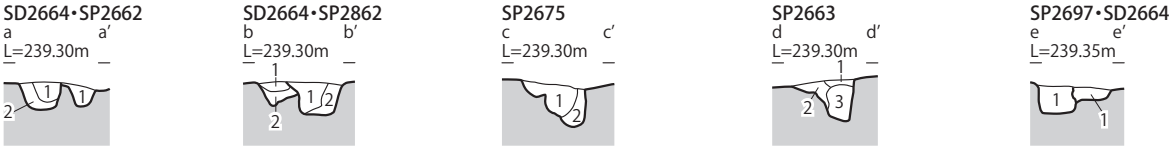
1. 2.5Y7/4浅黄色砂質シルト	2.5Y8/2灰白色粘土を斑状にわずかに含む　固くしまる
2. 2.5Y6/3にぶい黄色砂利層	0.5～1mm大の砂粒を極めて多く含む　2.5Y3/2黒褐色シルトを 斑状にわずかに含む　固くしまる
3. 2.5Y6/3にぶい黄色砂利層	0.5～1mm大の砂粒を極めて多く含む　2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを 斑状に少し含む　固くしまる

SD2085

1. 2.5Y6/4にぶい黄色砂利層	0.5～1mm大の砂粒を極めて多く含む　2.5Y4/2暗灰黄色シルトを粒、斑状に 少し含む　固くしまる
2. 2.5Y4/4オリーブ褐色砂質シルト	2.5Y7/4浅黄色砂質シルト、2.5Y3/2黒褐色シルトを粒、斑状に多く含む 固くしまる

第 128 図　A 区　溝跡 SD2085・ピット SP2159・性格不明遺構 SX2041





SD2664

1. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを粒状に多く含む　しまる
2. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを斑状に多く含む　しまる

SP2662

1. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを斑状に少し含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる

SP2663

1. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y4/4オリーブ褐色シルトを粒状にわずかに含む　しまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y4/4オリーブ褐色シルトを粒状に多く含む　しまる
3. 10YR3/2黒褐色シルト	2.5Y5/3黄褐色シルトを粒状に少し含む　しまる

SP2675

1. 10YR1.7/1黒色シルト	2.5Y6/6明黄褐色砂質シルトを粒、斑状に多く含む　しまりなし
2. 2.5Y4/4オリーブ褐色シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを斑状に多く含む　しまりなし

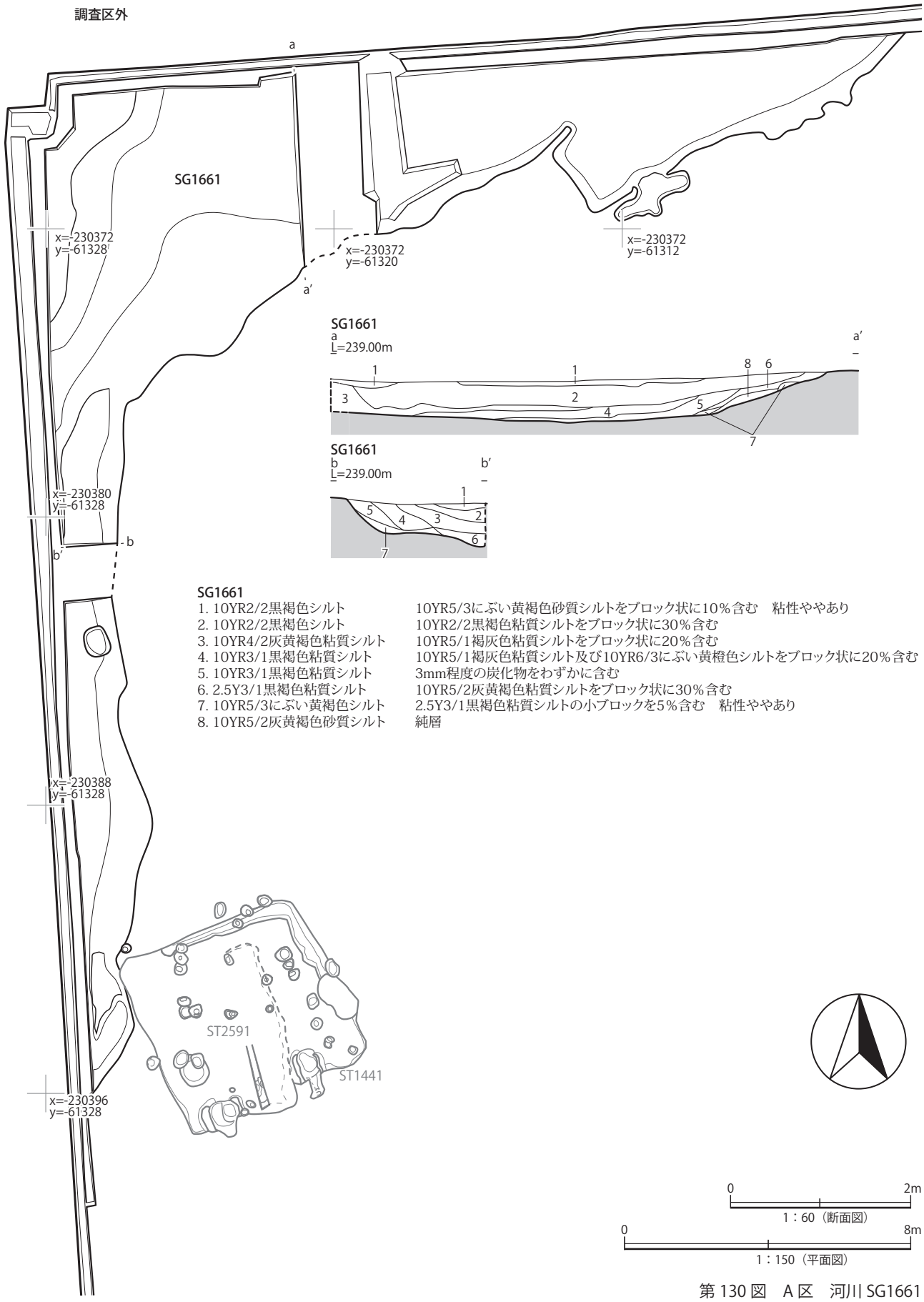
SP2697

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y6/3にぶい黄色砂質シルトを粒状に多く含む　炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状に多く含む　固くしまる

SP2862

1. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y4/4オリーブ褐色シルトを粒状に少し含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまりなし
2. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y4/4オリーブ褐色シルトを粒状に少し含む　2.5Y6/4にぶい黄色シルトを斑状に少し含む　しまる

第 129 図　A 区　溝跡 SD2664・ピット SP2662・2663・2675・2697・2862

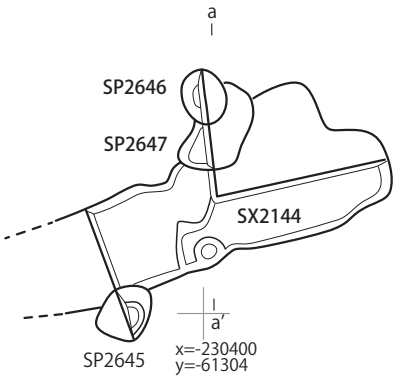


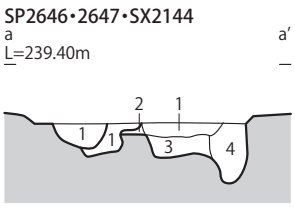
SG1661

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む　粘性ややあり
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR2/2黒褐色粘質シルトをブロック状に30％含む
3. 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト	10YR5/1褐灰色粘質シルトをブロック状に20％含む
4. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR5/1褐灰色粘質シルト及び10YR6/3にぶい黄橙色シルトをブロック状に20％含む
5. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	3mm程度の炭化物をわずかに含む
6. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト	10YR5/2灰黄褐色粘質シルトをブロック状に30％含む
7. 10YR5/3にぶい黄褐色シルト	2.5Y3/1黒褐色粘質シルトの小ブロックを5％含む　粘性ややあり
8. 10YR5/2灰黄褐色砂質シルト	純層

0　2m
1：60（断面図）
0　8m
1：150（平面図）

第 130 図　A 区　河川 SG1661





SP2646

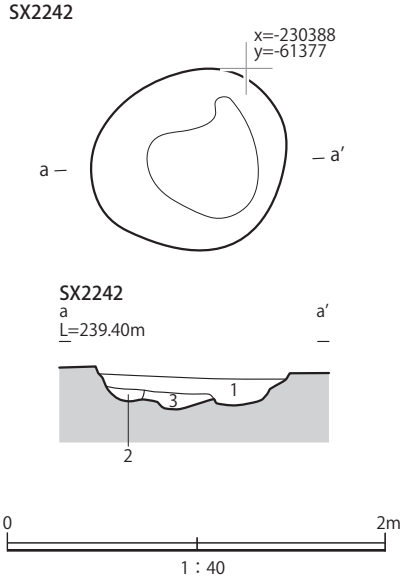
1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む　粘性ややあり

SP2647

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に30％含む

SX2144

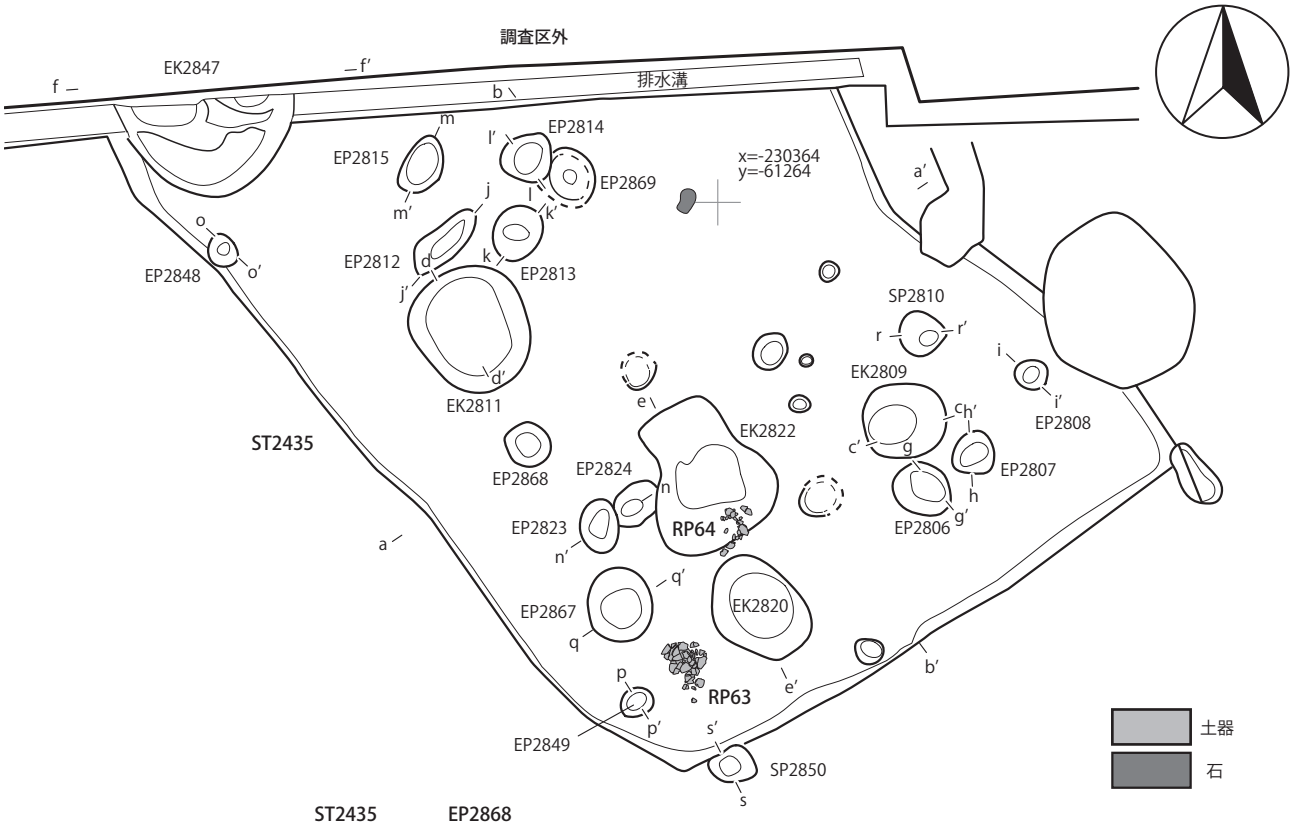
1. 10YR2/2黒褐色シルト	炭化粒をわずかに含む　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む　粘性ややあり
2. 7.5YR4/2褐灰色シルト	5YR5/4にぶい赤褐色焼土を小ブロックで3％含む　3mm程度の炭化物を多量に含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR2/1黒色粘質シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
4. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む

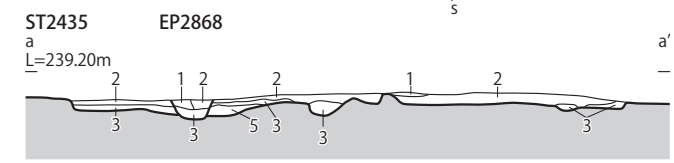


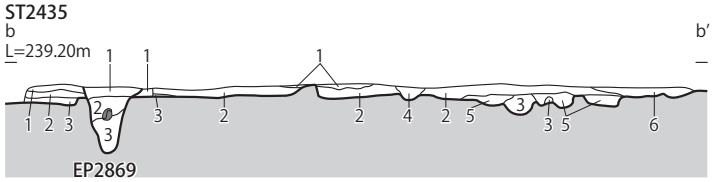
SX2242

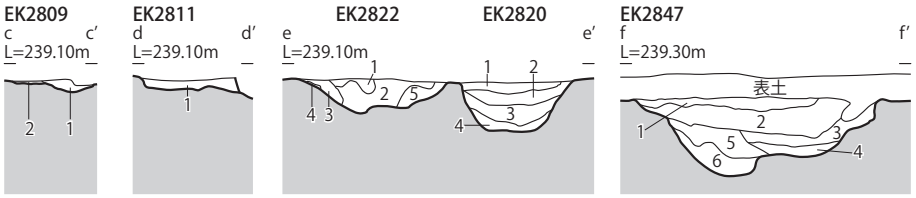
1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR3/3暗褐色粘質シルトをブロック状に20％含む　粘性ややあり
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む　粘性ややあり
3. 10YR3/3暗褐色粘質シルト	10YR2/2黒褐色シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む

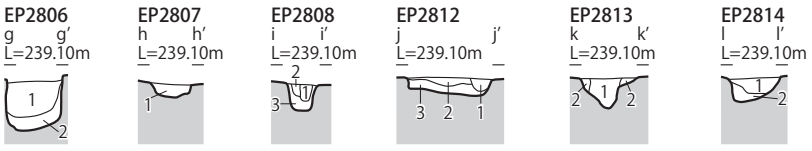
第 131 図　A 区　性格不明遺構 SX2144・2242・ピット SP2646・2647

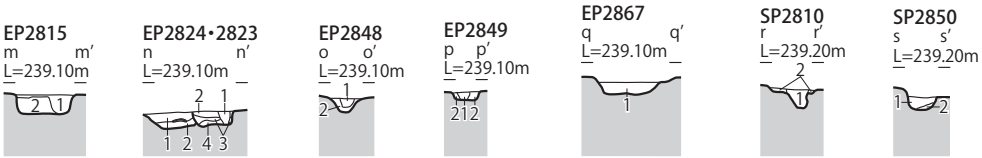


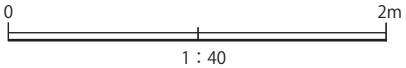












第 132 図　B 区　竪穴建物 ST2435

ST2435
1. 2.5Y3/2黒褐色シルト　10YR1.7/1黒色シルトを粒状に少し含む　固くしまる
2. 10YR2/1黒色シルト　10YR3/3暗褐色シルトを粒、斑状に少し含む　固くしまる
3. 10YR3/4暗褐色シルト　2.5Y3/2黒褐色シルト、2.5Y2/1黒色シルトを斑状に多く含む　しまる
4. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色シルトを斑状に多く含む　固くしまる
5. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色シルトを粒状に多く含む　炭化物を粒状に少し含む　しまる
6. 2.5Y4/6オリーブ褐色シルト　10YR2/2黒褐色シルトを斑状に多く含む　10YR1.7/1黒色シルトを粒状に少し含む
7.5YR4/6褐色焼土を粒状にわずかに含む　しまる

EK2809
1. 2.5Y3/2黒褐色シルト　2.5Y6/3にぶい黄色砂質シルトを斑状に少し含む　しまる
2. 2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルト　2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを斑状に多く含む　しまりなし

EK2811
1. 2.5Y7/3浅黄色シルト　2.5Y4/1黄灰色シルトを斑状に多く含む　しまりなし

EK2820
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y8/3淡黄色シルトを粒状に少し含む　しまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色シルトを粒状に少し含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
3. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを斑状に多く含む　炭化物を粒状に少し含む　しまりなし
4. 10YR2/1黒色シルト　2.5Y7/3浅黄色シルトを斑状に少し含む　しまる

EK2822
1. 10YR2/3黒褐色シルト　2.5Y5/3黄褐色シルトを粒、斑状に少し含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
2. 2.5Y3/2黒褐色シルト　2.5Y5/3黄褐色シルトを粒、斑状に少し含む　2.5Y2/1黒色シルトを斑状に多く含む　しまる
3. 10YR3/3暗褐色シルト　2.5Y7/2灰黄色シルトを粒状に少し含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
4. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y6/6明黄褐色シルトを粒状に少し含む　しまる
5. 2.5Y6/3にぶい黄色シルト　2.5Y3/1黒褐色シルトをブロック、斑状に多く含む　しまる

EK2847
1. 10YR2/1黒色シルト　2.5Y8/3淡黄色粘質シルトを斑状に少し含む　しまる
2. 10YR2/1黒色シルト　2.5Y8/3淡黄色粘質シルトを斑状に多く含む　2.5Y7/3浅黄色シルトを斑状に多く含む　しまる
3. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y8/3淡黄色粘質シルトを斑、ブロック状に多く含む　しまる
4. 2.5Y8/3淡黄色粘質シルト　10YR2/2黒褐色シルトを粒、斑状に少し含む　しまる
5. 10YR1.7/1黒色シルト　2.5Y8/3淡黄色粘質シルトを斑状に少し含む　炭化物を粒状に少し含む　しまる
6. 10YR1.7/1黒色シルト　2.5Y8/3淡黄色粘質シルトを斑状に多く含む　炭化物を粒状に少し含む　しまる

EP2806
1. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色シルト、炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
2. 10YR1.7/1黒色シルト　2.5Y4/4オリーブ褐色シルトを粒状に少し含む　炭化物を帯状に少し含む　しまる

EP2807
1. 10YR3/2黒褐色シルト　2.5Y7/4浅黄色砂質シルト、2.5Y2/1黒色シルトを斑状に多く含む　しまる

EP2808
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを粒状にわずかに含む　炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを斑状に少し含む　固くしまる
3. 2.5Y2/1黒色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを粒状に少し含む　しまる

EP2812
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色シルトを粒状に少し含む　しまる
2. 2.5Y2/1黒色シルト　2.5Y4/2暗灰黄色シルトを斑状に多く含む　しまる
3. 2.5Y5/4黄褐色砂質シルト　2.5Y2/1黒色シルトを粒状に少し含む　しまる

EP2813
1. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色シルトを斑状に少し含む　しまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色シルトを粒状にわずかに含む　7.5YR6/8橙色焼土を粒状にわずかに含む　しまる
3. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト　2.5Y2/1黒色シルトを粒状に少し含む　しまる

EP2814
1. 10YR2/1黒色シルト　2.5Y7/2灰黄色シルトを粒状に少し含む　しまる
2. 2.5Y6/4にぶい黄色シルト　2.5Y2/1黒色シルトを斑状に多く含む　しまる

EP2815
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y8/3淡黄色シルトを斑状に多く含む　しまる
2. 2.5Y5/4黄褐色粘質シルト　2.5Y2/1黒色シルトを粒、斑状に少し含む　しまる

EP2824
1. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR4/3にぶい黄褐色シルトを斑状にわずかに含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR4/3にぶい黄褐色シルトを斑状にわずかに含む　2.5Y7/3浅黄色シルトを粒状にごくわずかに含む　しまる

EP2823
1. 2.5Y3/2黒褐色シルト　混ざりなし　しまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y5/4黄褐色砂質シルトを粒状にわずかに含む　固くしまる
3. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y5/4黄褐色砂質シルトを粒状にわずかに含む　10YR4/3にぶい黄褐色焼土を粒状にわずかに含む
炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
4. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト　10YR2/2黒褐色シルトを粒状に少し含む　しまる

EP2848
1. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y5/4黄褐色シルトを粒状にわずかに含む　しまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y5/4黄褐色シルトを斑状に多く含む　しまる

EP2849
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 2.5Y5/4黄褐色シルト　2.5Y3/1黒褐色シルトを粒状にわずかに含む　固くしまる

EP2867
1. 2.5Y5/4黄褐色シルト　2.5Y3/2黒褐色シルトを斑状に多く含む　固くしまる

EP2868
1. 10YR2/3黒褐色シルト　2.5Y7/6明黄褐色砂質シルトを粒、ブロック状に多く含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
2. 10YR2/3黒褐色シルト　2.5Y7/6明黄褐色砂質シルトを粒、ブロック状に多く含む2.5Y6/1黄灰色粘質シルトをブロック状に含む　しまる
3. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y8/4淡黄色粘質シルトを粒状に少し含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる

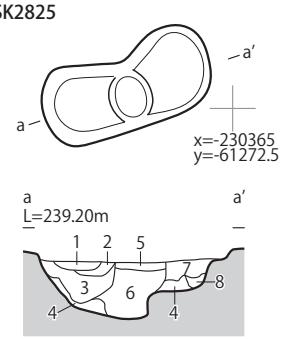
EP2869
1. 10YR1.7/1黒色シルト　2.5Y6/3にぶい黄色シルトを斑状に多く含む　固くしまる
2. 10YR1.7/1黒色シルト　2.5Y6/3にぶい黄色シルトを柱状に多く含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
3. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y5/3黄褐色砂質シルトを斑状に多く含む　しまりなし

SP2810
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y4/3オリーブ褐色砂質シルトを粒、ブロック状に多く含む　炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y8/4淡黄色砂質シルト、2.5Y5/8明褐色焼土、炭化物を粒状にわずかに含む　しまる

SP2850
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y4/1黄灰色シルトを粒状にわずかに含む　しまる
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y7/3浅黄色シルトを帯状に少し含む　固くしまる

第 133 図　B 区　竪穴建物 ST2435 の注記

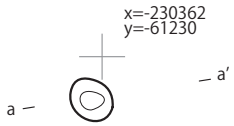
SK2825

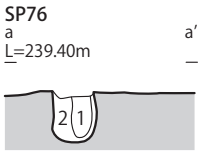


SK2825

1. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y5/4黄褐色シルトを粒状に多く含む　しまる
2. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色シルトを粒状に少し含む　しまる
3. 10YR1.7/1黒色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色粘質シルトを粒状にわずかに含む 炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
4. 2.5Y5/4黄褐色粘質シルト	10YR1.7/1黒色シルトを斑状に少し含む　しまる
5. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y7/6明黄褐色シルトを斑状にわずかに含む　しまる
6. 10YR3/1黒褐色シルト	2.5Y6/6明黄褐色粘質シルトを粒、斑状に多く含む　2.5Y8/3淡黄色粘質シルトを帯状に少し含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
7. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	2.5Y6/4にぶい黄色シルトを粒状にわずかに含む　しまる
8. 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト	10YR2/1黒色シルト、2.5Y8/3淡黄色シルトを斑状に多く含む　しまる

SP76

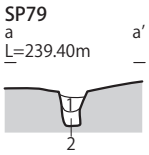




SP76

1. 10YR4/2灰黄褐色シルト	有機物を少量含む　しまりあり
2. 10YR2/3黒褐色シルト	10YR8/4浅黄橙色シルトを粒状に少量含む　しまりあり

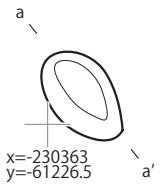
SP79

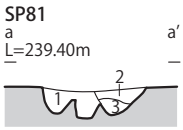


SP79

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR7/6明黄褐色砂質シルトを粒状に少量含む しまりあり
2. 10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルト	10YR5/6黄褐色砂質シルトを斑状に多量に含む しまりあり

SP81

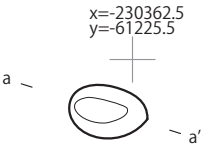


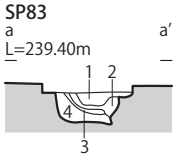


SP81

1. 10YR6/4にぶい黄橙色砂質シルト	10YR4/3にぶい黄褐色シルトを帯状に多量に含む しまりあり
2. 10YR3/1黒褐色シルト	10YR3/3暗褐色シルト及び10YR8/4浅黄橙色シルトをマーブル状に多量に含む　かたくしまる
3. 10YR7/4にぶい黄橙色シルト	10YR3/3暗褐色シルトを斑状に多量に含む　しまりあり

SP83

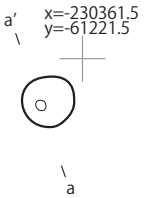


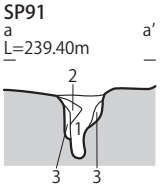


SP83

1. 10YR2/1黒色シルト	10YR8/3浅黄橙色砂質シルトを斑状に少量含む 10YR1.7/1黒色粘質シルトを帯状に少量含む かたくしまる
2. 10YR6/4にぶい黄橙色砂質シルト	10YR8/4浅黄橙色砂質シルトを帯状に少量含む しまりあり
3. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR2/2黒褐色シルトを斑状に多量に含む かたくしまる
4. 10YR2/3黒褐色シルト	10YR8/6黄橙色砂質シルトをブロック状に少量含む かたくしまる

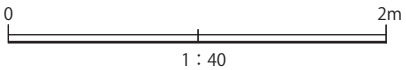
SP91





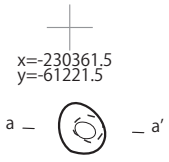
SP91

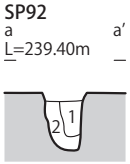
1. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y5/4黄褐色砂質シルトを粒状に少量含む　炭化物をブロック状に微量に含む　しまりあり
2. 2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルト	2.5Y4/1黄灰色シルトを帯状に微量に含む　しまりあり
3. 2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルト	2.5Y4/1黄灰色シルトを斑状に少量含む　しまりあり



第 134 図　B 区　土坑 SK2825・ピット SP76・79・81・83・91

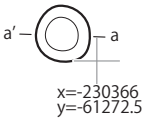
SP92

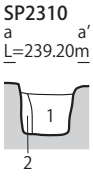




SP92
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y8/4淡黄色砂質シルトを粒状に少量含む　しまりあり
2. 2.5Y5/4黄褐色砂質シルト　10YR3/2黒褐色シルトを斑状に多量に含む　しまりあり

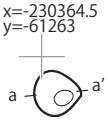
SP2310

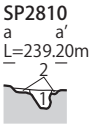




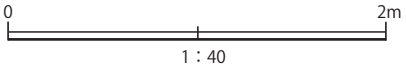
SP2310
1. 10YR1.7/1黒色シルト　2.5Y4/4オリーブ褐色粘質シルトを粒、ブロック状に多く含む　炭化物を層状に少し含む　しまる
2. 2.5Y3/2黒褐色粘質シルト　2.5Y3/1黒褐色シルトを粒状にわずかに含む　しまる

SP2810

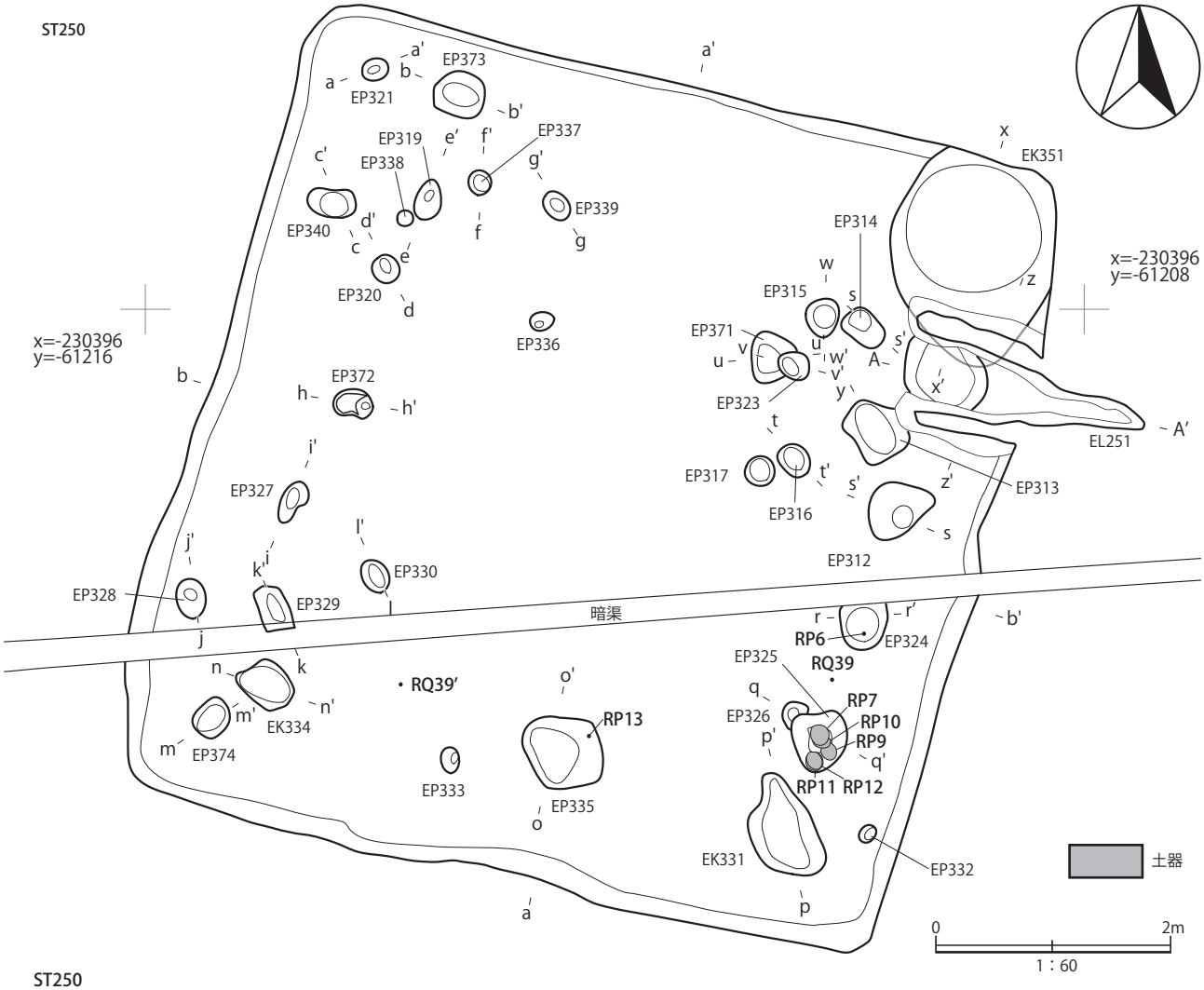


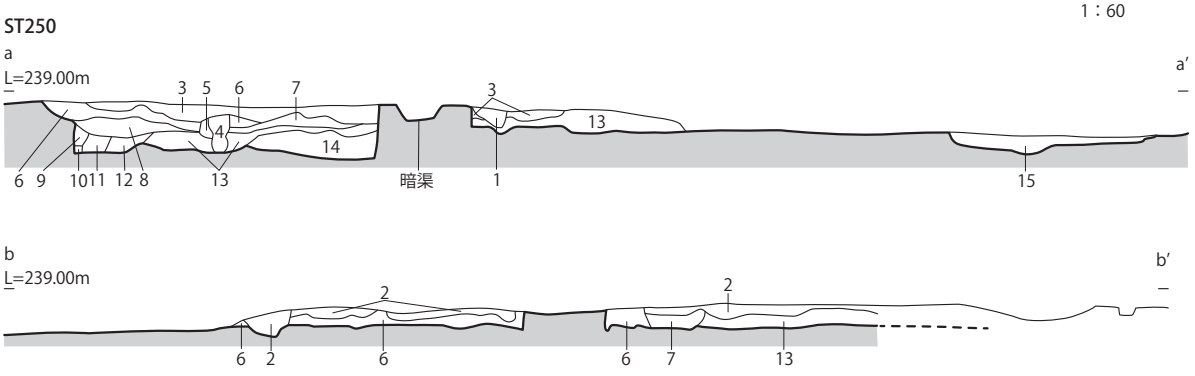


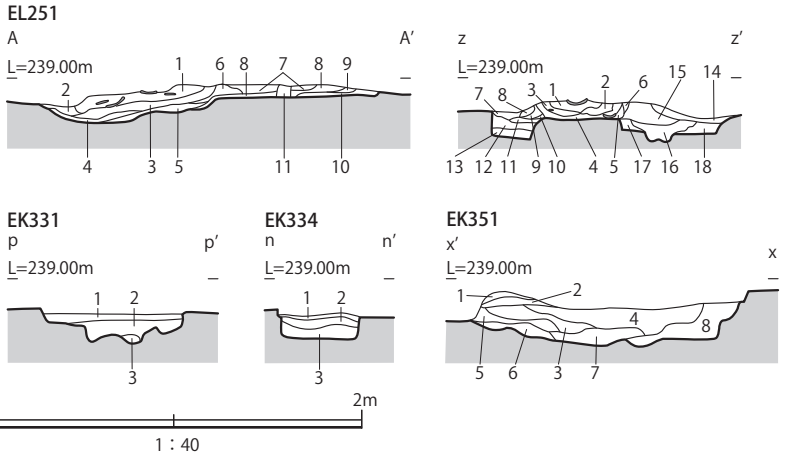
SP2810
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y4/3オリーブ褐色砂質シルトを粒、ブロック状に多く含む　炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y8/4淡黄色砂質シルト、2.5Y5/8明褐色焼土、炭化物を粒状にわずかに含む　しまる

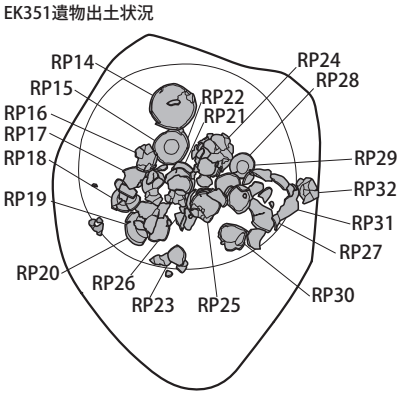


第 135 図　B 区　ピット SP92・2310・2810

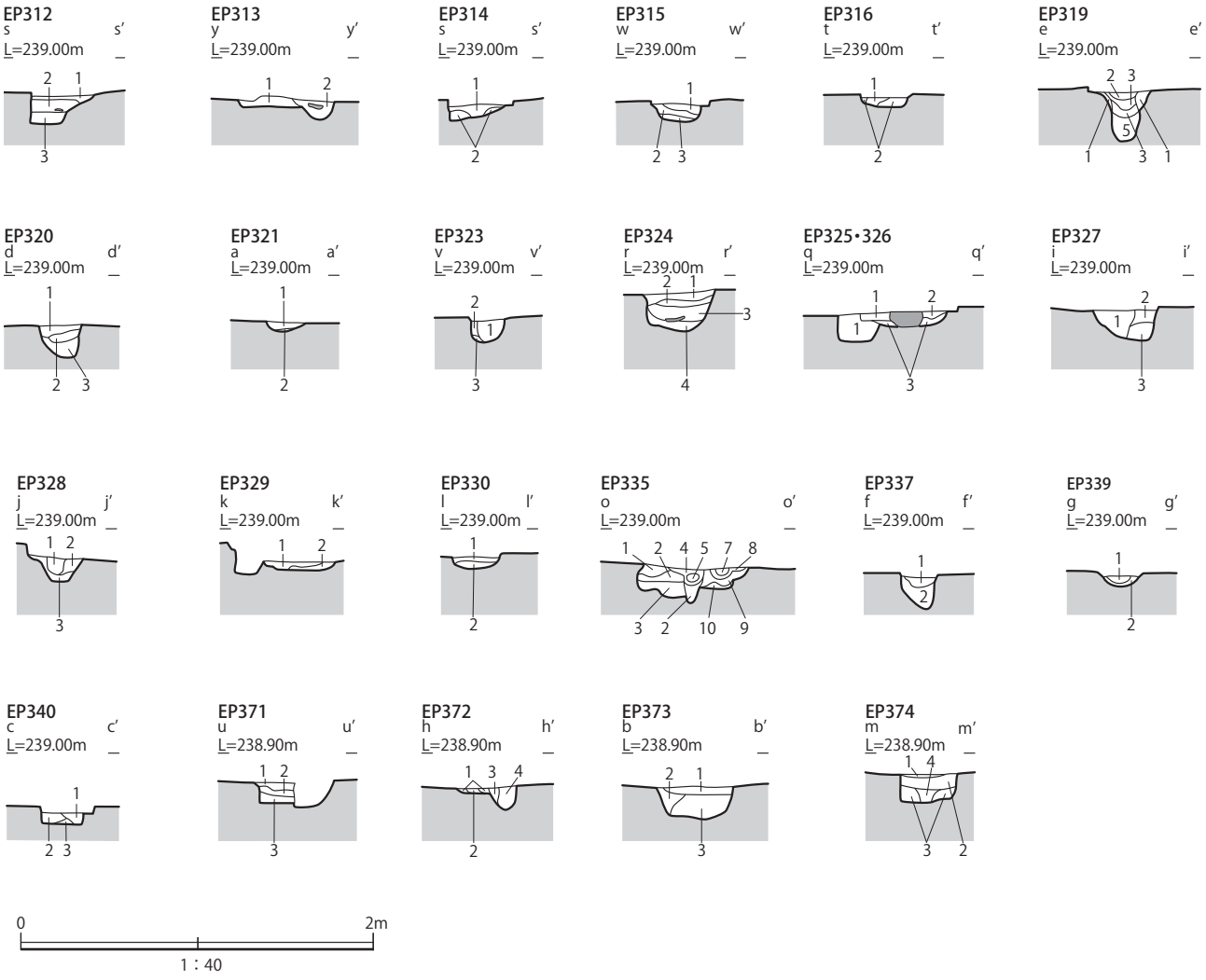








第 136 図　C 区　竪穴建物 ST250（1）



第 137 図　C 区　竪穴建物 ST250（2）

ST250

1 2.5Y4/1黄灰色シルト	有機物を多量に含む　10YR1.7/1黒色粘質シルトを斑状に多量に含む　しまりあり
2. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y6/3にぶい黄色シルトを斑状に少量含む　5Y8/2灰白色粘土を斑状に少量含む　しまりあり
3. 2.5Y4/1黄灰色シルト	有機物を多量に含む　かたくしまる
4. 2.5Y2/1黒色シルト	10YR1.7/1黒色シルトを斑状に多量に含む　2.5Y6/3にぶい黄色シルトを帯状に少量含む　しまりあり
5. 5Y2/1黒色シルト	5Y4/2灰オリーブ色粘質シルトを斑状に多量に含む　しまりあり
6. 2.5Y4/1黄灰色シルト	有機物を多量に含む　10YR1.7/1黒色粘質シルトを斑状に多量に含む　しまりあり
7. 10YR1.7/1黒色シルト	2.5Y6/6明黄褐焼土を帯・粒状に多量に含む　炭化物を帯・粒状に少量含む　しまりあり
8. 5Y4/1灰色シルト	有機物を多量に含む　炭化物を粒状に少量含む　5Y8/1灰白色砂粒を多量に含む　しまりあり
9. 10YR4/1灰色砂質シルト	2.5Y5/4オリーブ色粘質シルトをブロック状に多量に含む　有機物を少量含む　しまりあり
10. 7.5Y4/1灰色砂質シルト	5Y4/3暗オリーブ色粘質シルトを斑状に含む　しまりなし
11. 10YR6/1灰色粘質シルト	有機物を多量に含む　しまりなし
12. 10YR4/1灰色砂質シルト	2.5Y5/4オリーブ色粘質シルトをブロック状に多量に含む　有機物を少量含む　しまりあり
13. 7.5Y2/1黒色粘質シルト	5Y4/2灰オリーブ色粘質シルトをブロック状に少量含む　しまりあり
14. 10YR4/1灰色砂質シルト	2.5Y5/4オリーブ色粘質シルトをブロック状に多量に含む　有機物を少量含む　しまりあり
15. 2.5Y4/3オリーブ褐色粘質シルト	2.5Y2/1黒色シルトを斑状に多量に含む　2.5Y6/6明黄褐色砂質シルトを斑状に多量に含む　しまりあり

EL251A-A′

1. 10YR3/2黒褐色シルト	2.5Y6/6明黄褐色焼土小粒及び炭片、炭小粒を多量に含む　しまりあり
2. 2.5Y6/6明黄褐色シルト	焼土及び炭化物小粒を含む　しまりなし
3. 10YR5/6黄褐色シルト	焼土及び2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘質シルトを少量含む　しまりあり
4. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘質シルト	しまりややあり
5. 2.5Y3/2黒褐色粘質シルト	2.5Y5/6黄褐色焼土を多量に含む　しまりあり
6. 2.5Y3/2黒褐色粘質シルト	2.5Y5/6黄褐色焼土及び10YR2/1黒色粘質シルトを斑状に含む　しまりあり
7. 10YR3/2黒褐色粘質シルト	2.5Y5/6黄褐色焼土小粒を含む　炭化物小粒を少量含む　しまりあり
8. 10YR3/2黒褐色粘質シルト	2.5Y5/6黄褐色焼土小粒を含む　炭化物小粒を多量に含む　しまりあり
9. 10YR3/2黒褐色粘質シルト	2.5Y5/6黄褐色焼土小粒をブロック状に含む　炭化物小粒を少量含む　しまりあり
10. 2.5Y3/2黒褐色粘質シルト	10YR4/1褐灰色砂質シルトを含む　しまりあり
11. 10YR2/1黒色粘質シルト	しまりあり　撹乱か

EL251z-z′

1. 10YR3/21黒褐色シルト	2.5Y6/6明黄褐色焼土小粒及び炭片、炭小粒を多量に含む　しまりあり
2. 10YR5/6黄褐色焼土	10YR3/2黒褐色シルトを粒状に少量含む　しまりあり
3. 10YR5/6黄褐色シル	焼土及び2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘質シルトを少量含む　しまりあり
4. 2.5Y3/2黒褐色粘質シルト	2.5Y5/6黄褐色焼土を多量に含む　しまりあり
5. 10YR4/4褐色焼土	
6. 2.5Y4/1黄灰色シルト	10YR4/4褐色焼土を含む　しまりあり
7. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト	炭化物極小粒を含む　しまりあり
8. 2.5Y4/1黄灰色粘質シルト	10YR4/1褐灰色粘質シルトを含む　しまりあり
9. 2.5Y4/1黄灰色粘質シルト	10YR5/6黄褐色焼土粒を多く含む　しまりあり
10. 2.5Y4/1黄灰色粘質シルト	10YR4/1褐灰色粘質シルトを含む　しまりあり
11. 2.5Y4/1黄灰色粘質シルト	炭化物極小粒を少量含む　しまりあり
12. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト	炭化物小粒を含む　しまりややあり
13. 2.5Y4/2暗灰黄色粘質シルト	2.5Y3/1黒褐色粘質シルトを斑状に含む　しまりなし
14. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR4/3にぶい黄褐色砂を多量に含む　炭小粒、焼土小粒を含む　しまりややあり
15. 2.5Y4/1黄灰色粘質シルト	10YR4/1黄灰色粘質シルトを含む　しまりあり
16. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト	10YR4/1褐灰色粘質シルトを含む　炭化物小粒を多量に含む　しまりなし
17. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト	10YR4/1褐灰色粘質シルトを斑状に含む　しまりややあり
18. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト	10YR4/1褐灰色粘質シルトをブロック状に含む　しまりややあり

EK331

1. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR3/1黒褐色粘質シルト及び10YR4/1褐灰色砂質シルトを小ブロック状に含む 炭片及び10YR4/6褐色焼土を含む　しまりなし
2. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR4/1褐灰色砂質シルトを小ブロック状に含む 10YR1.7/1黒色粘質シルト(炭化物を含む)を斑状に少量含む　しまりなし
3. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR4/1褐灰色砂質シルトを少量含む　しまりなし

EK334

1. 10YR1.7/1黒色粘質シルト	純層　しまりあり
2. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	純層　しまりあり
3. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR4/2灰黄褐色粘土ブロックを斑に含む　10YR1.7/1黒色粘質シルトを少量含む　しまりあり

EK351

1. 10YR2/1黒色粘質シルト	有機物を少量含む　かたくしまる
2. 10YR3/1黒褐色砂質シルト	10YR4/1褐灰色シルトを斑状に多量に含む　かたくしまる
3. 10YR1.7/1黒色粘質シルト	2.5Y7/1灰白色粘質シルトを斑状、ブロック状に多量に含む　しまりあり
4. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト	2.5Y2/1黒色粘質シルトを斑状に多量に含む　2.5Y8/2灰白色粘質シルトを斑状に多量に含む　かたくしまる
5. 5Y4/1灰色粘質シルト	2.5Y2/1黒色粘質シルトを帯状、斑状に多量に含む　しまりあり
6. 5Y3/1オリーブ黒色粘質シルト	5Y5/1灰色粘質シルトをブロック状、斑状に多量に含む　しまりあり
7. 7.5Y5/1灰色粘質シルト	7.5Y6/1灰色粘質シルトを斑状、ブロック状に多量に含む　かたくしまる
8. 10Y4/1灰色粘質シルト	10Y2/1黒色粘質シルトを斑状、帯状に多量に含む　しまりあり

EK335

1. 2.5Y3/2黒褐色シルト	炭化物を少量含む　しまりあり
2. 2.5Y3/1黒褐色砂質シルト	2.5Y2/1黒色シルトを帯状に少量含む　しまりあり
3. 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト	2.5Y2/1黒色シルトをブロック状に少量含む　しまりあり
4. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y5/4黄褐色焼土を粒状に少量含む　しまりあり
5. 2.5Y2/1黒色シルト	純層　しまりなし
6. 2.5Y3/1黒褐色シルト	有機物を少量含む　しまりなし
7. 2.5Y4/1黄灰色シルト	炭化物を粒及び斑状に少量含む　しまりあり
8. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト	2.5Y6/6明黄褐色シルトを粒状に多量に含む　しまりあり
9. 2.5Y5.1黄灰色砂質シルト	5Y2/1黒色砂質シルトを斑状に少量含む　かたくしまる

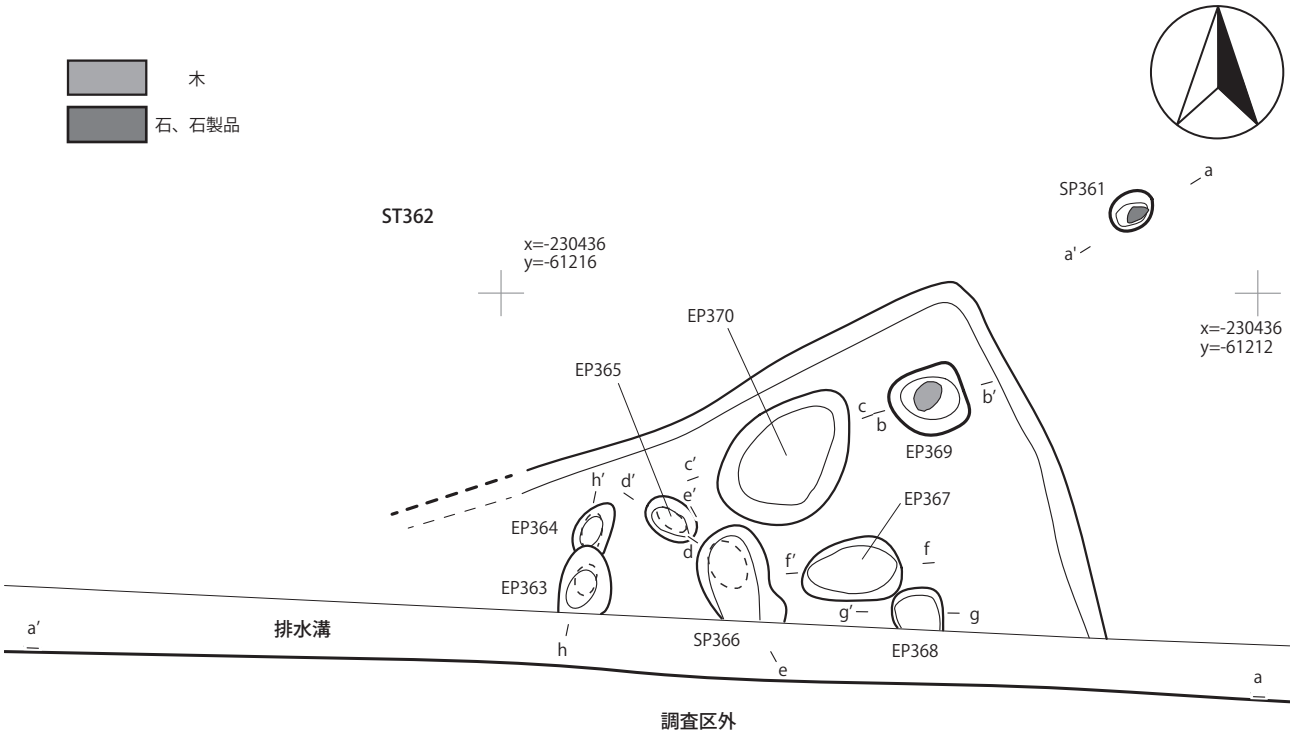
EP312

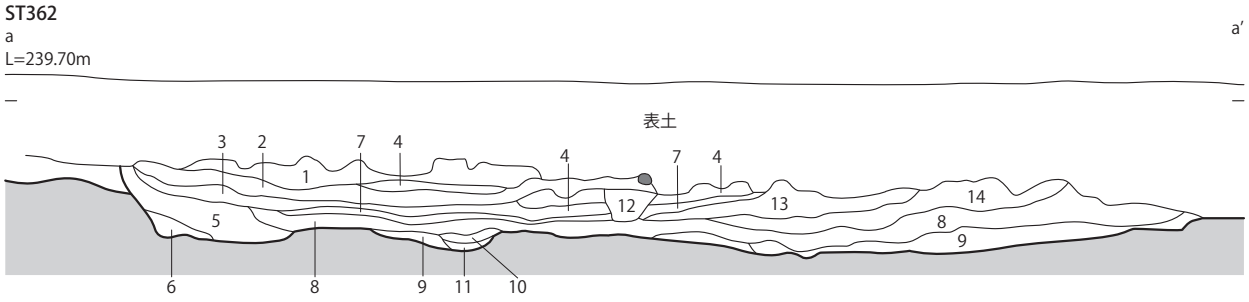
1. 5Y2/1黒色粘質シルト	有機物を少量含む　しまりなし
2. 10YR1.7/1黒色粘質シルト	純層　しまりなし
3. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR6/6明黄褐色焼土を斑状に少量含む　しまりあり

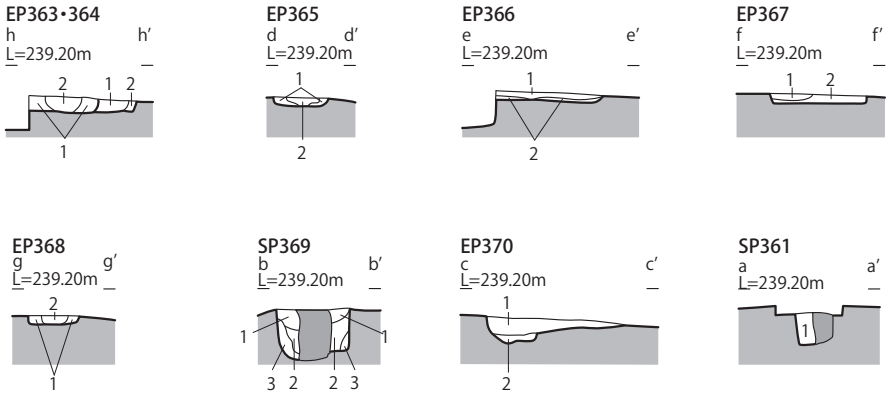
第 138 図　C 区　竪穴建物 ST250 の注記 (1)

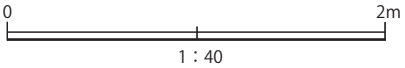
EP313
1. 5Y3/1オリーブ黒色粘質シルト　有機物を多量に含む　しまりあり
2. 5Y2/2オリーブ黒色粘質シルト　5Y6/3オリーブ黄色砂質シルトを斑状に少量含む　しまりあり
EP314
1. 10YR2/1黒色粘質シルト　炭化物小粒及び10YR5/6黄褐色焼土小粒を多量に含む　しまりややあり
2. 10YR2/1黒色粘質シルト　炭化物小粒及び10YR4/1褐灰色粘土ブロックを含む
EP315
1. 10YR2/1黒色粘質シルト　10YR4/6褐色～10YR6/6明黄褐色焼土ををブロック状に多量に含む　炭化物を含む　しまりあり
2. 10YR2/1黒色粘質シルト　焼土及び炭化物を粒状に含む　しまりややあり
3. 10YR2/1黒色粘質シルト　焼土及び炭化物を粒状に多量に含む　しまりややあり
EP316
1. 10YR1.7/1黒色粘質シルト　10YR4/3にぶい黄褐色砂を粒状に少量含む　しまりややあり
2. 10YR2/1黒色粘質シルト　10YR1.7/1黒色粘質シルトを含む　しまりあり
EP319
1. 7.5Y4/1灰色粘質シルト　10Y7/1灰色粘土をブロック状に少量含む　しまりあり
2. 10Y2/1黒色粘質シルト　10Y6/1灰色粘質シルトを斑状に少量含む　しまりあり
3. 10Y2/1黒色粘質シルト　10Y5/1灰色粘質シルトを帯状に多量に含む　しまりあり
4. 10YR2/1黒色粘質シルト　純層　しまりあり
5. 5Y2/1黒色粘質シルト　5Y5/6オリーブ色砂粒をブロック状に微量に含む　しまりなし
EP320
1. 10YR2/1黒色粘質シルト　10YR1.7/1黒色粘質シルトを含む　しまりややあり
2. 10YR1.7/1黒色粘質シルト　炭化物細片を多量に含む　しまりなし
3. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　純層　しまりなし
EP321
1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR2/1黒色粘質シルトを多量に含む　しまりややあり
2. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　純層　しまりなし
EP323
1. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR1.7/1黒色粘質シルト及び炭片を斑状に含む　10YR4/6褐色焼土を粒状に少量含む　しまりあり
2. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR1.7/1黒色粘質シルトを斑状に含む　しまりあり
3. 10YR2/2黒褐色シルト　焼土小粒を多量に含む　しまりややあり
EK324
1. 10YR3/1黒褐色シルト　10YR8/8灰白色砂粒を少量含む　有機物を少量含む　かたくしまる
2. 5Y2/1黒色粘質シルト　10Y5/1灰色粘質シルトを斑状に少量含む　しまりあり
3. 2.5Y2/1黒色粘質シルト　5Y7/6黄色砂粒をブロック状に少量含む　しまりあり
4. 7.5Y2/1黒色粘質シルト　有機物を少量含む　しまりなし
EP325
1. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR6/6暗黄褐色焼土を斑状に多量に含む　炭化物を少量含む　しまりあり
2. 5Y2/1黒色粘質シルト　5Y6/1灰色粘質シルトを粒状に多量に含む　有機物を多量に含む　しまりあり
3. 10YR7/8黄橙色焼土　10YR2/1黒色シルトを帯状に少量含む　しまりあり
EK326
1. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト　2.5Y5/2暗灰黄色粘質シルトを斑に少量含む　10YR6/6明黄褐色焼土を粒状に微量に含む　しまりあり
EP327
1. 10YR1.7/1黒色粘質シルト　10YR2/2黒褐色粘質シルトを斑に含む　しまりあり
2. 10YR3/2黒褐色粘質シルト　10YR1.7/1黒色粘質シルトを多量に含む　中位に10YR5/6黄褐色焼土を含む　しまりあり
3. 10YR3/2黒褐色粘質シルト　10YR1.7/1黒色粘質シルトを含む　しまりあり
EP328
1. 10YR2/1黒色粘質シルト　純層　しまりあり
2. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR2/1黒色粘質シルトを少量含む　しまりあり
3. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR3/2黒褐色シルトを少量含む　しまりややあり
EP329
1. 10YR1.7/1黒色粘質シルト　炭片を含む　しまりあり
2. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR1.7/1黒色粘質シルトを少量含む　しまりあり
EP330
1. 10YR2/1黒色粘質シルト　炭の小片及び10YR5/6黄褐色焼土の小ブロックを含む　しまりあり
EP337
1. 10YR1.7/1黒色粘質シルト　純層　しまりあり
2. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR4/2灰黄褐色シルトを少量含む　しまりあり
EP339
1. 10YR1.7/1黒色粘質シルト　純層　しまりあり
2. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR3/2黒褐色シルトを粒状に含む　しまりあり
EP340
1. 10YR2/1黒色粘質シルト　純層　しまりあり
2. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR1.7/1黒色粘質シルトを斑状に含む　しまりあり
3. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　純層　しまりややあり
EP371
1. 7.5YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR8/6黄橙色焼土を斑状に少量含む　しまりあり
2. 10YR1.7/1黒色シルト　炭化物を極めて多量に含む　しまりなし
3. 2.5Y6/4にぶい黄色シルト　10YR5/6黄褐色焼土を粒状、斑状に多量に含む　しまりあり
EP372
1. 2.5Y3/1黒褐色砂質シルト　有機物を多量に含む　しまりあり
2. 2.5Y3/1黒褐色砂質シルト　2.5Y2/1黒色シルトを斑状に多量に含む　しまりあり
3. 2.5Y3/1黒褐色シルト　2.5Y2/1黒色シルトを斑状に少量含む　しまりあり
4. 2.5Y2/1黒色粘質シルト　2.5Y3/1黒褐色粘質シルトをブロック状に多量に含む　しまりあり
EP373
1. 2.5Y6/6明黄褐色砂質シルト　2.5Y5/2暗灰黄色砂質シルトを斑状に多量に含む　しまりあり
2. 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト　2.5Y2/1黒色粘質シルトを粒状に微量に含む　しまりあり
3. 2.5Y3/1黒褐色砂質シルト　1と2の土を斑状に多量に含む　しまりあり
EP374
1. 10YR7/8黄橙色焼土　純層　しまりなし
2. 10YR2/1黒色シルト　2.5Y5/2暗灰黄色シルトを斑状に多量に含む　しまりあり
3. 2.5Y4/1黄灰色シルト　有機物を多量に含む　しまりあり
4. 2.5Y3/1黒褐色砂質シルト　純層　しまりなし

第 139 図　C 区　竪穴建物 ST250 の注記 (2)









第 140 図　C 区　竪穴建物 ST362

ST362

1. 10YR1.7/1黒色シルト	有機物を少量含む　しまりあり
2. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y6/3にぶい黄色砂質シルトを粒状・斑状に少量含む　有機物を多量に含む　しまりあり
3. 2.5Y2/1黒色粘質シルト	2.5Y8/3淡黄色粘質シルトを粒状に多量に含む　炭化物を斑状に多量に含む　しまりなし
4. 10YR1.7/1黒色粘質シルト	2.5Y8/4淡黄色粘質シルトを斑状に微量に含む　しまりなし
5. 10YR5/1灰色粘質シルト	有機物を少量含む　しまりなし
6. 10YR5/1灰色粘質シルト	10Y7/1灰白色粘質シルトをブロック状に多量に含む　しまりなし
7. 7.5Y2/1黒色粘質シルト	7.5Y6/2灰オリーブ色粘質シルトを斑・帯状に多量に含む　炭化物を粒状に多量に含む　しまりなし
8. N1.5/黒色シルト	細かい炭、有機物を多量に含む　7.5Y7/2灰白色粘質シルトを粒状に少量含む　しまりあり
9. 5Y2/1黒色粘質シルト	7.5Y6/2灰オリーブ色砂質シルトを帯状に少量含む　しまりあり
10. 10Y7/2灰白色粘質シルト	10Y2/1黒色粘質シルトを斑状に少量含む　有機物を多量に含む　しまりあり
11. 10Y2/1黒色粘質シルト	10Y7/2灰白色粘質シルトを斑状に少量含む　しまりあり
12. 7.5Y2/1黒色粘質シルト	有機物を多量に含む　しまりあり
13. 10Y3/1オリーブ黒色粘質シルト	10Y6/2オリーブ灰色粘質シルトを帯状に少量含む　有機物を多量に含む　しまりあり
14. 10Y3/1オリーブ黒色粘質シルト	粒状の炭化物を帯状に多量に含む　10Y6/2オリーブ灰色粘質シルトを斑状に少量含む　しまりあり

EP363

1. 10Y2/1黒色粘質シルト	有機物を少量含む　しまりなし
2. 10Y2/1黒色粘質シルト	7.5Y7/1灰白色粘質シルトを斑状に少量含む　しまりなし

EP364

1. 7.5Y2/1黒色粘質シルト	有機物を少量含む　しまりなし
2. 7.5Y2/1黒色粘質シルト	10Y7/1灰白色粘質シルトを斑状に少量含む　しまりなし

EP365

1. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト	2.5Y7/1灰白色シルトを斑状に少量含む　しまりなし
2. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト	有機物及び炭化物を少量含む　しまりなし

EP366

1. 10Y2/1黒色粘質シルト	7.5Y7/1灰白色粘質シルトを斑状に多量に含む　しまりなし
2. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト	純層　しまりなし

EP367

1. 10Y2/1黒色粘質シルト	2.5Y3/1黒褐色粘質シルトを斑状に少量含む　2.5Y8/2灰白色粘質シルトを斑状に少量含む　しまりなし
2. 2.5Y6/3にぶい黄色粘質シルト	10Y2/1黒色粘質シルトをブロック状に少量含む　しまりなし

EP368

1. 10Y2/1黒色粘質シルト	5Y6/3オリーブ黄色砂質シルトを帯状に少量含む　しまりなし
2. 10Y2/1黒色粘質シルト	炭化物を粒状に多量に含む　しまりあり

EP369

1. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト	2.5Y7/2灰黄色砂質シルトを斑状に多量に含む　有機物を含む　しまりあり
2. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト	2.5Y7/2灰黄色砂質シルトをブロック状に少量含む　しまりあり
3. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト	2.5Y7/2灰黄色砂質シルトを斑状に多量に含む　しまりあり

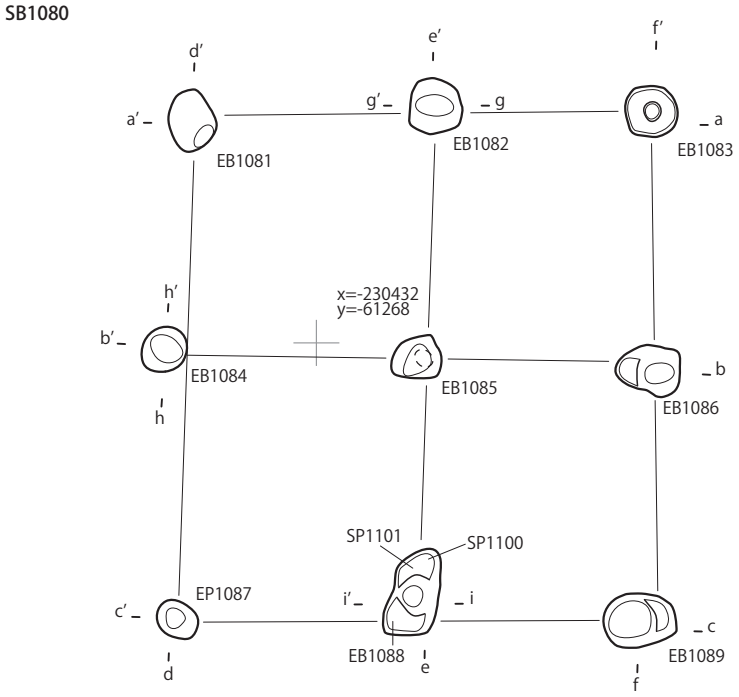
EP370

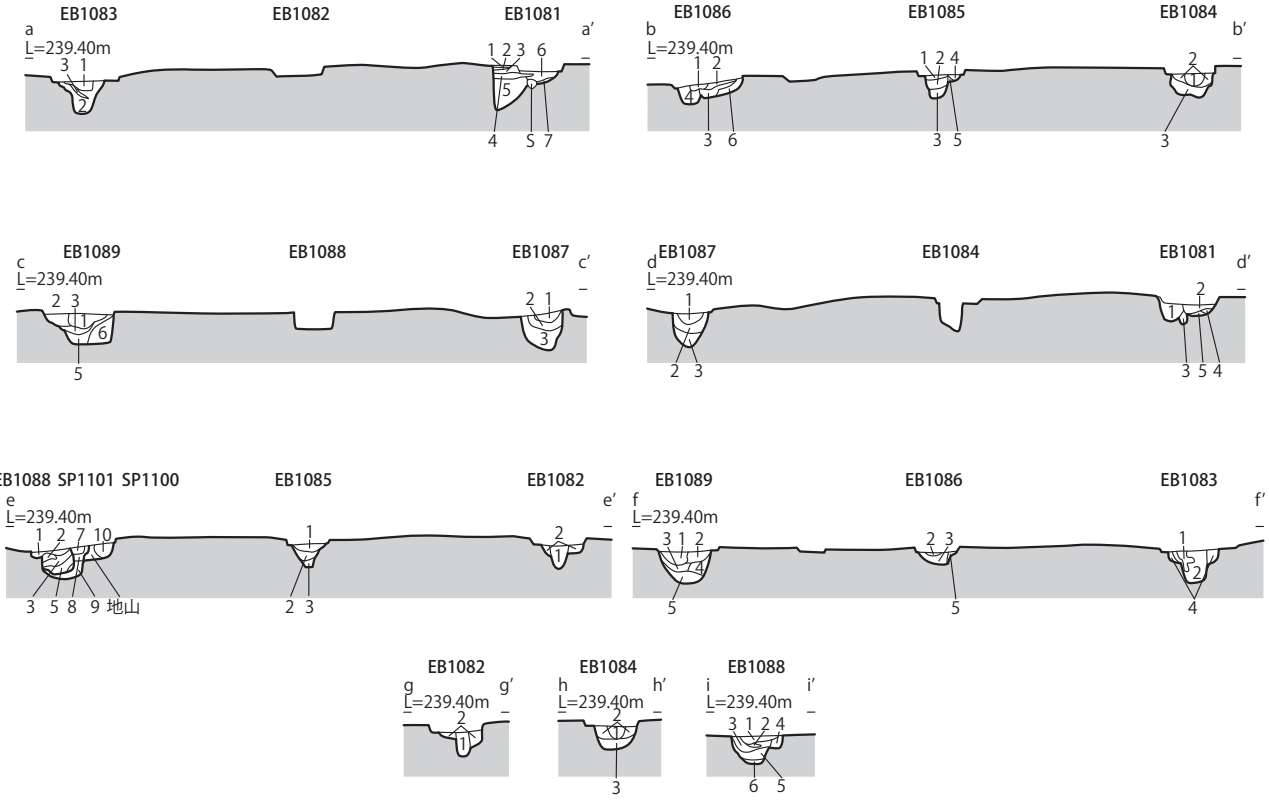
1. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト	2.5Y7/3浅黄色粘質シルトを帯状に少量含む　炭化物及び有機物を少量含む　しまりなし
2. 2.5Y6/2灰黄色粘質シルト	2.5Y3/1黒褐色粘質シルトを斑状に多量に含む　しまりなし

SP361

1. 5Y2/1黒色粘質シルト	10Y7/1灰白色粘質シルトを斑状に少量含む　しまりあり

第 141 図　C 区　竪穴建物 ST362 の注記





0　2m
1：60

第 142 図　C 区　掘立柱建物 SB1080

SB1080

EB1081

1. 10YR3/1黒褐色シルト	10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に10％含む　粘性ややあり
2. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に20％含む
3. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に10％含む
4. 10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト	ほぼ純層
5. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR2/1黒色粘質シルト及び10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に20％含む
6. 10YR6/3にぶい黄橙色シルト	10YR2/2黒褐色シルトをブロック状に10％含む
7. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR6/3にぶい黄橙色シルトをブロック状に20％含む。粘性ややあり

EB1082

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR2/1黒色シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで10％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR2/1黒色シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む

EB1083

1. 10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト	10YR2/2黒褐色シルトをブロック状に20％含む
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR3/1黒褐色粘質シルト及び10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に10％含む
3. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	純層
4. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトを斑状に40％含む

EB1084

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に10％含む　粘性ややあり
2. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトを小ブロックで5％含む　粘性ややあり
3. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に30％含む

EB1085

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR2/1黒色シルト及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む　粘性ややあり
3. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトを小ブロックで5％含む
4. 10YR3/3暗褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む
5. 10YR3/3暗褐色シルト	10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に40％含む

EB1086

1. 10YR6/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルトを小ブロックで含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR2/1黒色シルト及び10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に10％含む
3. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR2/1黒色シルト及び10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に30％含む
4. 10YR3/1黒褐色シルト	10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に20％含む
6. 10YR6/3にぶい黄褐色砂質シルト	10YR3/1黒褐色粘質シルトをブロック状に20％含む

EB1087

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に20％含む
2. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR6/3にぶい黄褐色砂質シルト及び10YR4/2灰黄褐色粘質シルトをブロック状に30％含む
3. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR6/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む

EB1088

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトを小ブロックで10％含む　粘性ややあり
2. 10YR5/1褐灰色シルト	ほぼ純層
3. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に10％含む　粘性ややあり
4. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に30％含む
5. 10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト	10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に20％含む
6. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	ほぼ純層

EB1089

1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR2/1黒色シルトを小ブロックで5％含む
2. 10YR2/1黒色シルト	10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に20％含む
3. 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト	10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に10％含む
5. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に10％含む
6. 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト	10YR3/1黒褐色シルト及び10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトを斑状に40％含む

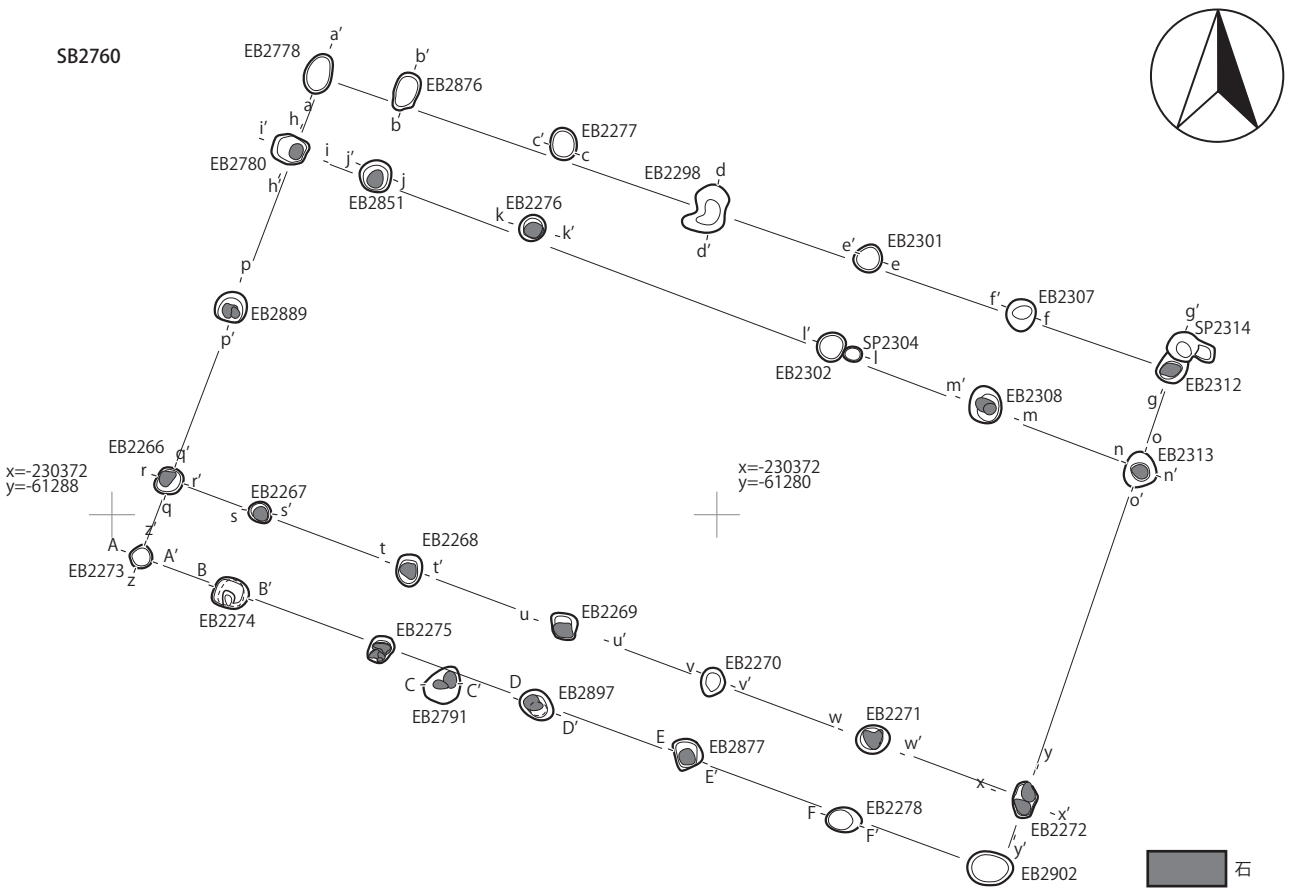
SP1100

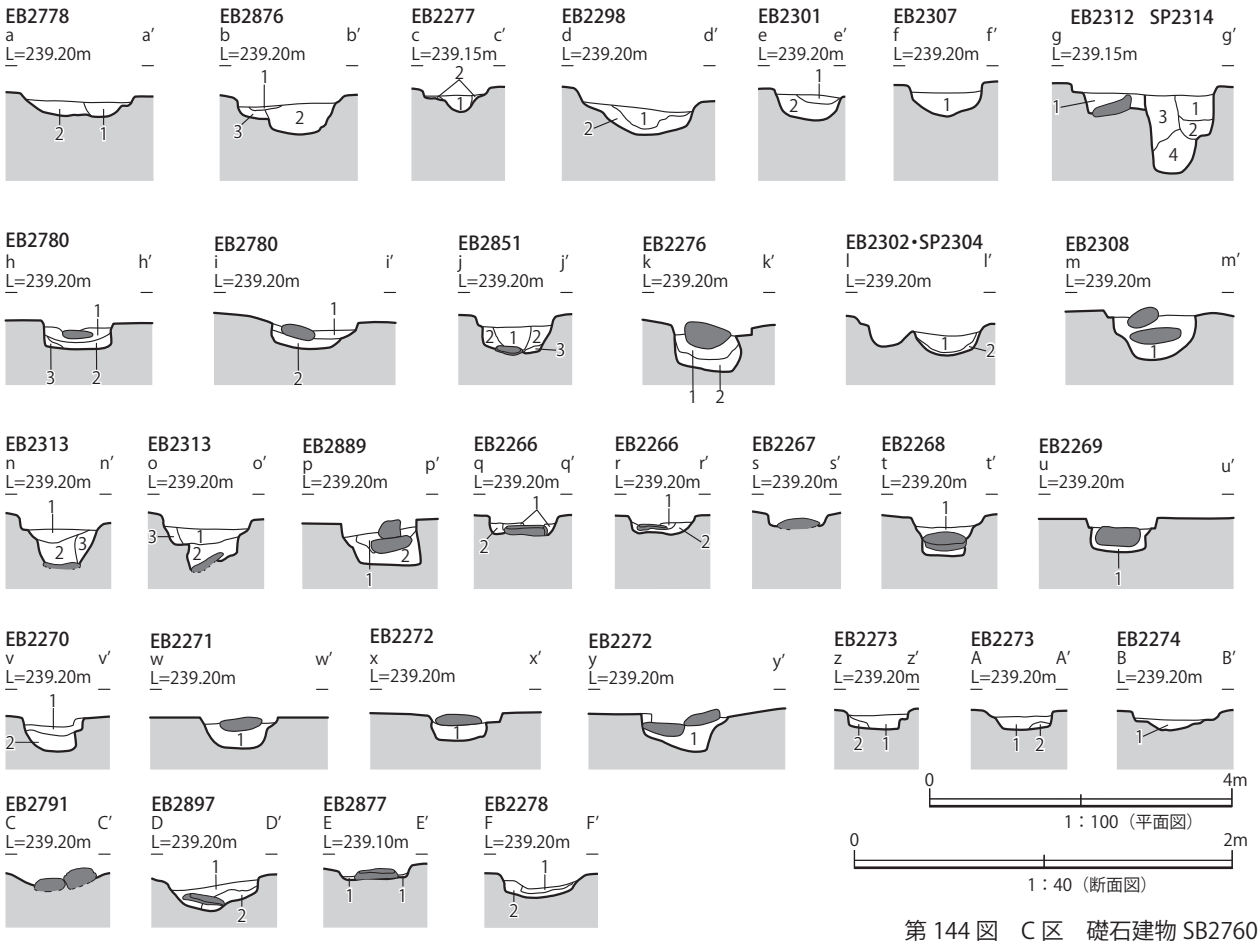
1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトを小ブロックで10％含む

SP1101

1. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR3/1黒褐色粘質シルト及び10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルトを小ブロックで5％含む
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR3/1黒褐色粘質シルト及び10YR6/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
3. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR6/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に40％含む

第 143 図　C 区　掘立柱建物 SB1080 の注記





第 144 図　C 区　礎石建物 SB2760

SB2760

EB2266
1. 2.5Y3/暗オリーブ褐色シルト　2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを粒状に多く含む　しまりなし
2. 2.5Y6/6明黄褐色砂質シルト　2.5Y3/1黒褐色シルトを粒状にわずかに含む　しまる

EB2268
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを粒状にわずかに含む　固くしまる

EB2269
1. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む　炭化物をわずかに含む

EB2270
1. 2.5Y5/4黄褐色粘質シルト　2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状に少し含む　固くしまる
2. 2.5Y5/4黄褐色粘質シルト　10YR2/2黒褐色シルトを帯状に多く含む　しまる

EB2271
1. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む　炭化物をわずかに含む　粘性ややあり

EB2272
1. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む　粘性ややあり

EB2273
1. 10YR1.7/1黒色粘質シルト　2.5Y5/4黄褐色砂質シルトを斑状に少し含む　しまる
2. 10YR4/6褐色砂質シルト　10YR3/2黒褐色シルトを粒状にわずかに含む　しまる

EB2274
1. 2.5Y5/4黄褐色シルト　2.5Y2/1黒色シルトを帯状に多く含む　固くしまる

EB2276
1. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む　粘性ややあり
2. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック及び帯状に30％含む　粘性ややあり

EB2277
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y8/4淡黄色砂質シルトを粒状に少し含む　しまる
2. 2.5Y7/4浅黄色砂質シルト　2.5Y2/1黒色シルトを斑状にわずかに含む　しまりなし

EB2278
1. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y4/3オリーブ褐色シルトを粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y6/6明黄褐色砂質シルトを斑状に多く含む　固くしまる

EB2298
1. 10YR3/2黒褐色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを粒状に少し含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
2. 2.5Y5/4黄褐色粘質シルト　2.5Y2/1黒色シルトを斑状に多く含む　しまる

EB2301
1. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y7/4浅黄色シルト、炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y7/4浅黄色シルトを斑状に少し含む　しまる

EB2302
1. 2.5Y5/6黄褐色粘質シルト　2.5Y2/1黒色シルトを帯、斑状に少し含む　しまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y5/6黄褐色砂質シルトを粒状にわずかに含む　しまる

EB2307
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを粒状に多く含む　固くしまる

EB2308
1. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む　礫付近に炭化物を含む　粘性ややあり

EB2312
1. 10YR2/1黒色シルト　2.5Y5/6黄褐色砂質シルトを粒状にわずかに含む　炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる

EB2313
1. 10YR3/2黒褐色シルト　土器片、炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
2. 10YR3/2黒褐色シルト　2.5Y7/6明黄褐色砂質シルトを斑状に多く含む　しまる
3. 10YR2/3黒褐色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色粘質シルトを斑状に多く含む　固くしまる

EB2778
1. 10YR2/1黒色シルト　2.5Y7/4浅黄色シルトを粒状にわずかに含む　しまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを粒状にわずかに含む　固くしまる

EB2780
1. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む　粘性ややあり
2. 10R3/2黒褐色シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に10％含む
3. 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト　10YR3/2黒褐色シルトをブロック状に20％含む

EB2851
1. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y8/4淡黄色シルトを粒状に少し含む　しまる
2. 2.5Y6/4にぶい黄色粘質シルト　2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを帯、斑状に多く含む　しまる
3. 2.5Y6/4にぶい黄色粘質シルト　2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを斑状に少し含む　しまる

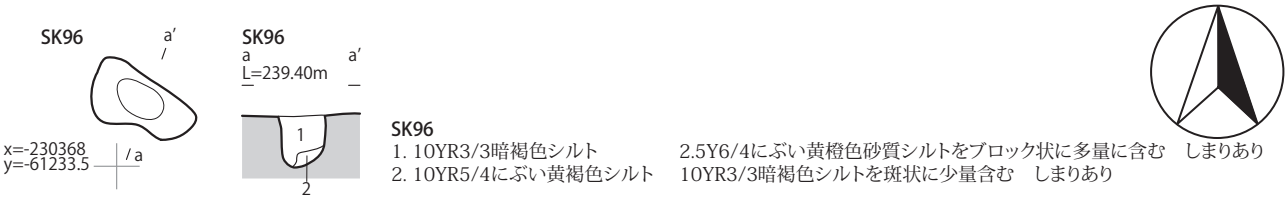
EB2876
1. 10YR2/1黒色シルト　10YR4/3にぶい黄褐色シルトをブロック状にひとつ含む　同じ土を粒状にわずかに含む　しまりなし
2. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y4/3オリーブ褐色シルトを粒、帯状にわずかに含む　固くしまる
3. 2.5Y4/6オリーブ褐色砂質シルト　2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状にわずかに含む　しまる

EB2877
1. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色粘質シルトを斑状に多く含む　しまる

EB2897
1. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y7/4浅黄色シルトを粒状に少し含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
2. 2.5Y6/6明黄褐色砂質シルト　10YR4/3にぶい黄褐色シルトを粒、ブロック状に少し含む　しまる

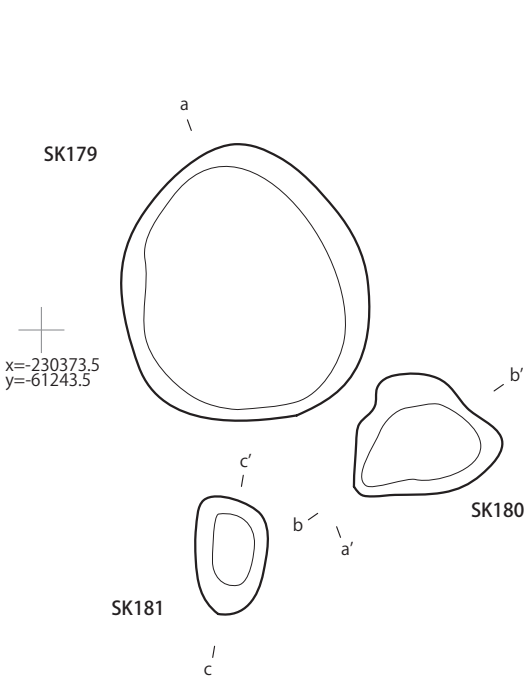
SP2314
1. 10YR1.7/1黒色シルト　10YR5/4にぶい黄褐色シルトを斑状に少し含む　2.5Y6/4にぶい黄色粘質シルトを斑状に少し含む　しまる
2. 10YR1.7/1黒色シルト　2.5Y5/6黄褐色砂質シルトを粒状にわずかに含む　しまる
3. 10YR2/1黒色シルト　10YR5/8黄褐色焼土を粒状にごくわずかに含む　2.5Y5/4黄褐色砂質シルトを粒状にわずかに含む　しまる
4. 10YR2/1黒色シルト　10YR3/2黒褐色シルトを斑状に多く含む　しまる

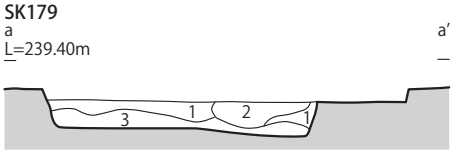
第 145 図　C 区　礎石建物 SB2760 の注記



SK96

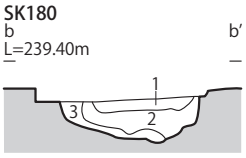
1. 10YR3/3暗褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状に多量に含む　しまりあり
2. 10YR5/4にぶい黄褐色シルト	10YR3/3暗褐色シルトを斑状に少量含む　しまりあり





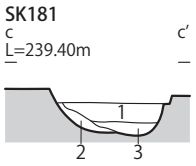
SK179

1. 10YR7/4にぶい黄橙色シルト	10YR3/2黒褐色シルトを斑状に少量含む　しまりあり
2. 10YR7/4にぶい黄橙色シルト	10YR3/2黒褐色シルトを斑状に多量に含む　しまりあり
3. 2.5Y7/4浅黄色シルト	かたくしまる



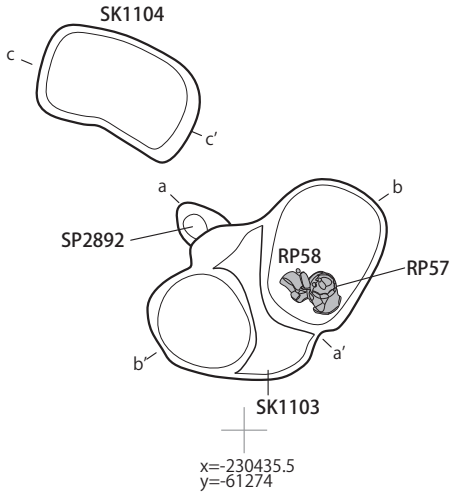
SK180

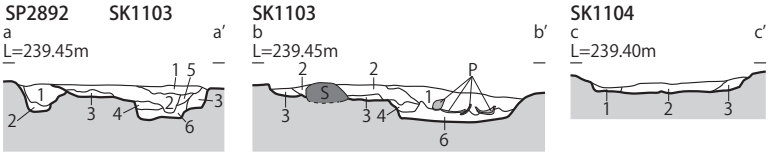
1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR8/3浅黄色シルトをブロック状に多量に含む　しまりあり
2. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR7/3にぶい黄橙色シルトを粒状に少量含む　炭化物を微量に含む　しまりあり
3. 10YR2/2黒褐色シルト	10YR7/3にぶい黄橙色シルトを斑状に多量に含む　しまりあり



SK181

1. 2.5Y6/4にぶい黄色シルト	2.5Y4/1黄灰色シルトを斑状に少量含む　しまりあり
2. 2.5Y6/3にぶい黄色シルト	2.5Y4/1黄灰色シルトを粒状に微量に含む　しまりあり
3. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y6/3にぶい黄色シルトをブロック状に多量に含む　しまりあり





SK1103

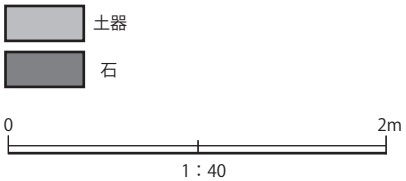
1. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y7/4浅黄色シルトを粒状に少し含む　炭化物を帯状に少し含む　しまる
2. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト	2.5Y6/2灰黄色シルト、2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状に多く含む　土器片、炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
3. 2.5Y6/2灰黄色シルト	2.5Y3/2黒褐色シルトを斑状に少し含む　しまりなし
4. 5Y6/2灰オリーブ色粘質シルト	まざりなし　しまりなし
5. 2.5Y5/3黄褐色シルト	2.5Y4/1黄灰色シルトを粒状にごくわずかに含む　しまりなし
6. 5Y5/2灰オリーブ色砂質シルト	2.5Y4/3オリーブ褐色シルトを斑状にわずかに含む　しまる

SP2892

1. 2.5Y3/2黒褐色シルト	2.5Y8/2灰黄色シルトを斑状に多く含む　土器片を含む　しまる
2. 2.5Y5/2暗灰黄色砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを粒状にわずかに含む　しまる

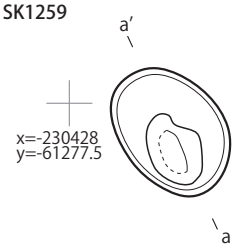
SK1104

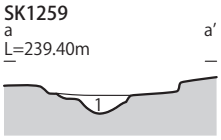
1. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト	2.5Y4/3オリーブ褐色シルトを粒状にわずかに含む　土器片を粒状にわずかに含む　しまりなし
2. 2.5Y6/3にぶい黄色シルト	10YR7/4にぶい黄橙色焼土を粒状に少し含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまりなし
3. 2.5Y6/2灰黄色シルト	2.5Y5/2暗灰黄色シルト、2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状に少し含む　固くしまる



第 146 図　C 区　土坑 SK96・179・180・181・1103・1104・ピット SP2892

SK1259

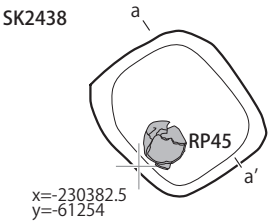


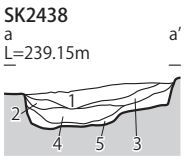


SK1259

1.7.5YR3/3暗褐色シルト	5～10mm程度の炭化物を多量に含む　7.5Y5/4にぶい褐色焼土及び10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルトをブロック状に20％含む　10YR7/4黄橙色粘土塊を含む

SK2438

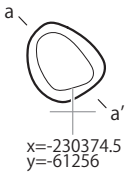


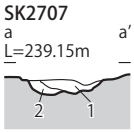


SK2438

1. 10YR1.7/1黒色シルト	2.5Y5/4黄褐色シルトを斑状に多く含む　固くしまる
2. 2.5Y3/2黒褐色シルト	2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを斑状にわずかに含む　しまる
3. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを全体に薄く含む　しまる
4. 2.5Y6/3にぶい黄色砂質シルト	2.5Y2/1黒色シルトを粒状にわずかに含む　しまりなし
5. 2.5Y6/3にぶい黄色砂質シルト	まざりなし　しまりなし

SK2707

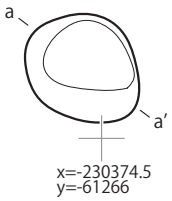


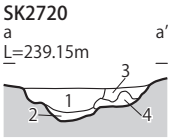


SK2707

1. 2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト	2.5Y7/3浅黄色砂質シルト、2.5Y4/3オリーブ褐色シルトを斑状に少し含む　しまる
2. 2.5Y5/4黄褐色砂質シルト	2.5Y4/4褐色砂質シルトを斑状にわずかに含む　しまる

SK2720

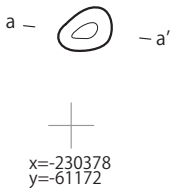


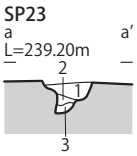


SK2720

1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト	2.5Y5/4黄褐色粘質シルトをブロック、粒、斑状に多く含む　しまる
2. 2.5Y4/4オリーブ褐色シルト	2.5Y5/4黄褐色粘質シルトを粒状に少し含む　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
3. 2.5Y7/4浅黄色粘質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状に少し含む　固くしまる
4. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y7/4浅黄色粘質シルトを粒状にわずかに含む　しまる

SP23

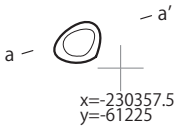


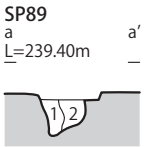


SP23

1. 5Y3/1オリーブ黒色シルト	5Y6/2灰オリーブ色砂質シルトを粒状に多量に含む　しまりあり
2. 5YR3/2オリーブ黒色粘質シルト	5Y5/1灰色砂質シルトを斑状に多量に含む　しまりなし
3. 5Y4/1灰色粘質シルト	炭化物を粒状に微量に含む　しまりなし

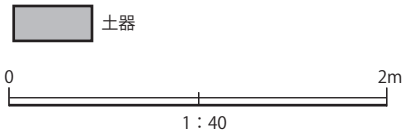
SP89





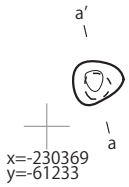
SP89

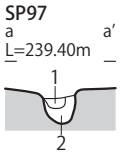
1. 2.5Y5/3黄褐色シルト	2.5Y2/1黒色シルトを斑状に多量に含む　しまりあり
2. 10YR3/2黒褐色シルト	2.5Y5/3黄褐色シルトを斑状に多量に含む　しまりあり



第 147 図　C 区　土坑 SK1259・2438・2707・2720・ピット SP23・89

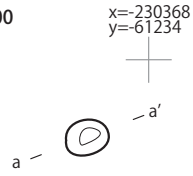
SP97

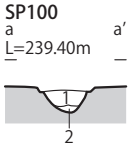




SP97
1. 10YR7/3にぶい黄橙色砂質シルト　10YR3/2黒褐色シルトを斑状に多量に含む　しまりあり
2. 2.5Y3/1黒褐色シルト　10YR7/3にぶい黄橙色砂質シルトを斑状に多量に含む　しまりあり

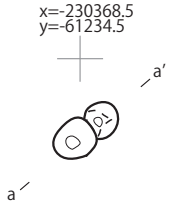
SP100

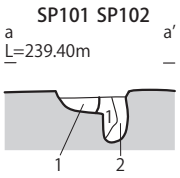




SP100
1. 10YR3/2黒褐色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを粒状に微量に含む　しまりあり
2. 10YR3/2黒褐色シルト　2.5Y5/3黄褐色シルトをブロック状に多量に含む　しまりあり

SP101・102

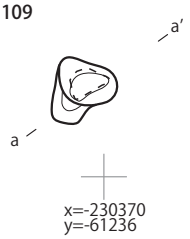


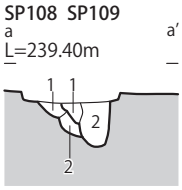


SP101
1. 10YR3/2黒褐色シルト　2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを斑状に微量含む　しまりなし

SP102
1. 10YR3/2黒褐色シルト　2.5Y7/4浅黄色砂質シルトをブロック状に少量含む　しまりあり
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘質シルト　2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを斑状に少量含む　しまりあり

SP108・109

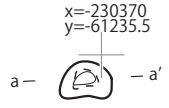


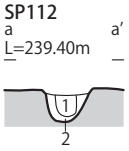


SP108
1. 2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルト　2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状に少量含む　しまりあり
2. 2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルト　2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状に微量に含む　しまりあり

SP109
1. 2.5Y3/2黒褐色シルト　2.5Y8/4淡黄色砂質シルトを斑状に多量に含む　しまりあり
2. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y8/4淡黄色砂質シルトを斑状に少量含む　しまりあり

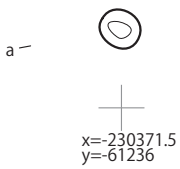
SP112

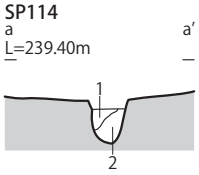




SP112
1. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y6/3にぶい黄色砂質シルトをブロック状に含む　しまりあり
2. 10YR3/1黒褐色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを粒状に少量含む　しまりあり

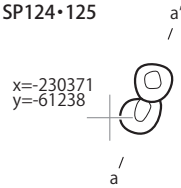
SP114

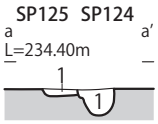




SP114
1. 2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルト　10YR3/1黒褐色シルトを斑状に多量に含む　しまりあり
2. 2.5Y5/4黄褐色砂質シルト　10YR3/1黒色シルトを斑状に微量に含む　しまりなし

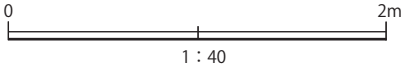
SP124・125





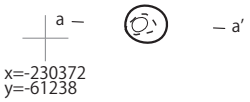
SP124
1. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR7/3にぶい黄橙色砂質シルトを粒状に多量に含む　しまりあり

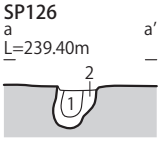
SP125
1. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを多量に含む　かたくしまる



第 148 図　C 区　ピット SP97・100・101・102・108・109・112・114・124・125

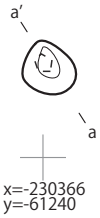
SP126

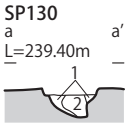




SP126
1. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR8/4浅黄橙色砂質シルトを粒状に多量に含む　しまりあり
2. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR8/4浅黄橙色砂質シルトを斑状に多量に含む　かたくしまる

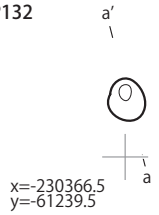
SP130

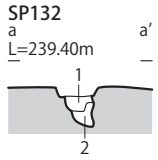




SP130
1. 10YR7/6明黄褐色砂質シルト　10YR2/1黒色シルトを斑状に少量含む　しまりあり
2. 10YR2/1黒褐色シルト　10YR3/2黒褐色シルトを斑状に多量に含む
10YR7/6明黄褐色砂質シルトを斑状に含む　かたくしまる

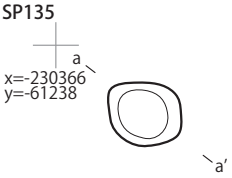
SP132

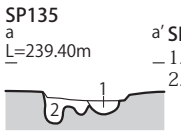




SP132
1. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR6/8明黄褐色砂粒を斑状に多量に含む　しまりあり
2. 10YR3/1黒褐色シルト　10YR7/4にぶい黄橙色砂質シルトを帯状に多量に含む　しまりあり

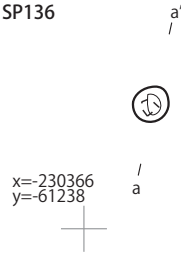
SP135

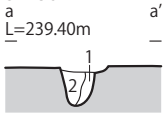




SP135
1. 10YR3/2黒褐色砂質シルト　10YR7/3にぶい黄橙色砂質シルトを斑状に多量に含む　しまりあり
2. 10YR2/3黒褐色砂質シルト　10YR2/2黒褐色砂質シルトを粒状に多量に含む
10YR7/4にぶい黄橙色砂質シルトを斑状に多量に含む　かたくしまる

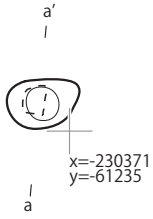
SP136

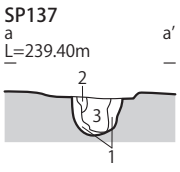




SP136
1. 10YR4/2灰黄褐色砂質シルト　10R3/2黒褐色砂質シルトを粒状に多量に含む　しまりあり
2. 10YR3/3暗褐色砂質シルト　10YR8/8黄橙色砂質シルトを斑状に少量含む
炭化物を粒状に少量含む　しまりあり

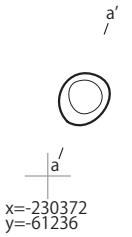
SP137

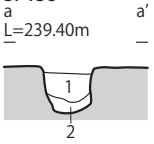




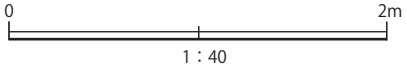
SP137
1. 10YR4/4褐色砂質シルト　10YR8/4浅黄橙色砂質シルトを斑状に多量に含む　しまりあり
2. 10YR6/6明黄褐色砂質シルト　10YR4/4褐色砂質シルトを斑状に多量に含む　かたくしまる
3. 10YR3/4暗褐色砂質シルト　10YR8/6黄橙色砂質シルトをブロック状に少量含む　かたくしまる

SP138

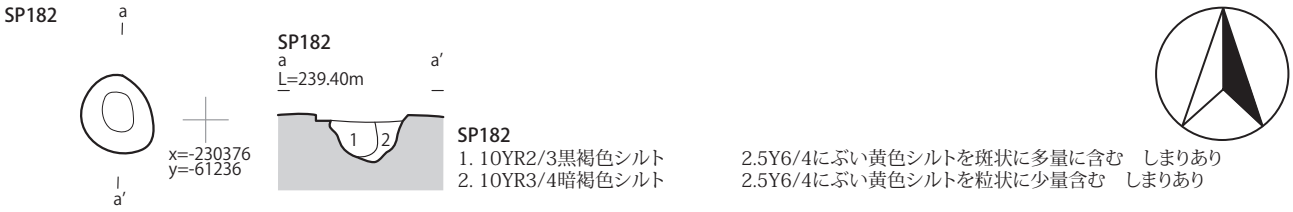




SP138
1. 10YR2/2黒褐色砂質シルト　10YR7/6明黄褐色砂質シルトを粒状に少量含む　しまりあり
2. 10YR7/6明黄褐色砂質シルト　10YR5/6黄褐色砂質シルトを斑状に多量に含む　しまりあり

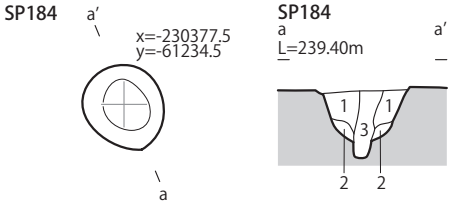


第 149 図　C 区　ピット SP126・130・132・135・136・137・138



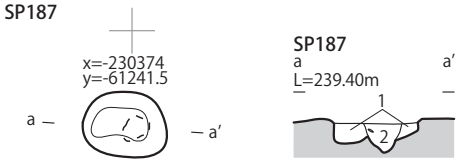
SP182

1. 10YR2/3黒褐色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色シルトを斑状に多量に含む　しまりあり
2. 10YR3/4暗褐色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色シルトを粒状に少量含む　しまりあり



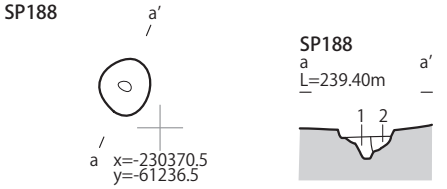
SP184

1. 10YR3/2黒褐色シルト　2.5Y7/4浅黄色シルトを斑状に多量に含む　しまりあり
2. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト　2.5Y3/2黒褐色シルトを粒状に少量含む　しまりあり
3. 10YR3/3暗褐色シルト　2.5Y8/6黄色シルトを斑状に多量に含む　しまりなし



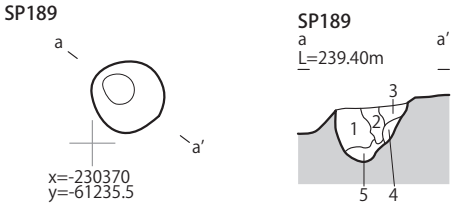
SP187

1. 2.5Y7/3浅黄色砂質シルト　10YR3/2黒褐色シルトを斑状に多量に含む　しまりあり
2. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y7/3浅黄色砂質シルトを粒状に多量に含む　しまりあり



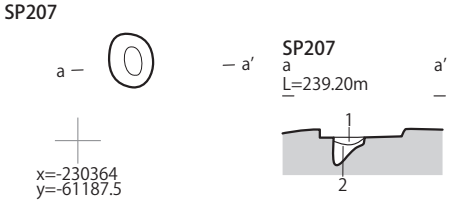
SP188

1. 10YR3/4暗褐色シルト　10YR1.7/1黒色シルト及び10YR6/8明黄褐色シルトを粒及び帯状に多量に含む　しまりあり
2. 10YR3/3暗褐色シルト　10YR4/4褐色シルト及び10YR1.7/1黒色シルトを斑状に多量に含む　しまりあり



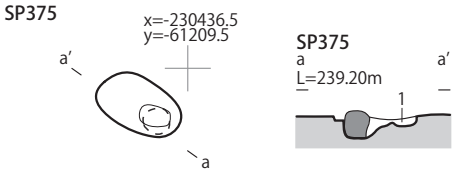
SP189

1. 10YR3/2黒褐色シルト　2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを粒状に多量に含む　炭化物をブロック状に少量含む　しまりあり
2. 10YR3/2黒褐色シルト　2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを粒状に少量含む　しまりあり
3. 10YR3/4暗褐色シルト　2.5Y5/4黄褐色砂質シルトを粒及び帯状に少量含む　しまりあり
4. 2.5Y4/4オリーブ褐色砂質シルト　2.5Y4/1黄灰色シルトを斑状に微量に含む　しまりなし
5. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを帯状に少量含む　しまりあり



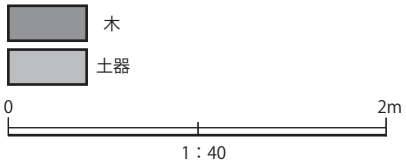
SP207

1. 10YR5/1灰色粘質シルト　有機物を多量に含む　10YR2/1黒色シルトを斑状に少量含む　しまりあり
2. 10YR4/1灰色粘質シルト　有機物を少量含む　しまりなし



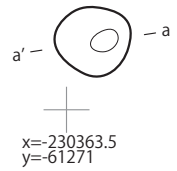
SP375

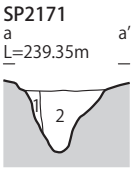
1. 2.5Y2/1黒色粘質シルト　2.5Y5/1黄灰色砂質シルトを粒・ブロック状に多量に含む　しまりなし



第 150 図　C 区　ピット SP182・184・187・188・189・207・375

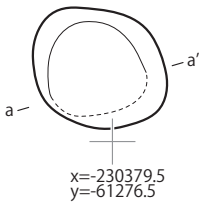
SP2171

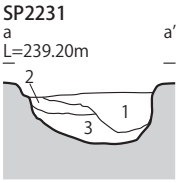




SP2171
1. 10YR2/1黒色シルト 2.5Y2/4淡黄色砂質シルトを粒状に多く含む　しまる
2. 2.5Y2/1黒色シルト　2.5Y8/2灰白色砂質シルトを粒、ブロック状にわずかに含む　しまる

SP2231

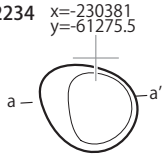


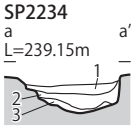


SP2231

1. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色シルトを粒、斑状に多く含む 炭化物、土器片を粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを斑状に少し含む 2.5Y2/1黒色シルトを斑状にわずかに含む　しまる
3. 2.5Y4/2暗灰黄色粘質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルト、2.5Y5/4黄褐色シルトを斑状に多く含む しまる

SP2234　x=-230381
y=-61275.5

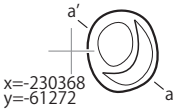


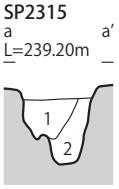


SP2234

1. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト	2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト、2.5Y6/6明黄褐色砂質シルトを 粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y5/6黄褐色砂質シルトを斑状に少し含む　しまる
3. 2.5Y5/4黄褐色砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状にわずかに含む　しまる

SP2315

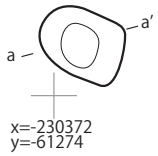


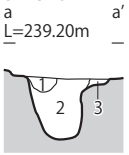


SP2315

1. 10YR1.7/1黒色シルト	2.5Y3/2黒褐色粘質シルトをブロック状にひとつ含む 2.5Y6/4にぶい黄色粘質シルトを斑状に少し含む　しまる
2. 10YR1.7/1黒色シルト	2.5Y8/4淡黄色シルトを粒状に少し含む　しまる

SP2316

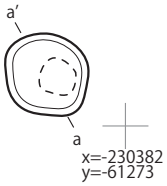


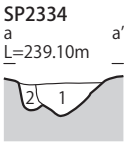


SP2316

1. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y5/6黄褐色粘質シルトを斑状に多く含む　しまる
2. 7.5Y1.7/1黒色シルト	2.5Y4/3オリーブ褐色砂質シルトを粒状にわずかに含む　しまる
3. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y5/6黄褐色砂質シルトを粒状に少し含む　しまる

SP2334

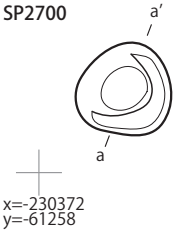


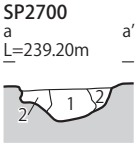


SP2334

1. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y6/4にぶい黄色シルトを斑状に少し含む　しまる
2. 2.5Y5/4黄褐色砂質シルト	2.5Y2/1黒色シルトを斑状にわずかに含む　しまりなし

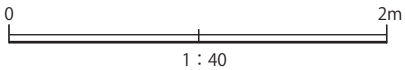
SP2700



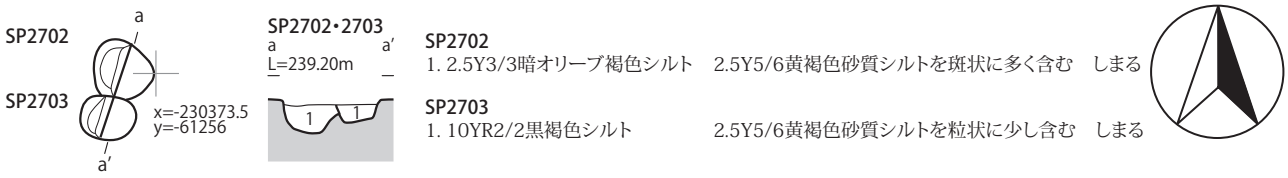


SP2700

1. 10YR2/2黒褐色シルト	2.5Y6/6明黄褐色シルト、10YR1.7/1黒色シルトを粒状に少し含む 固くしまる
2. 10YR1.7/1黒色シルト	2.5Y6/6明黄褐色シルト、2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを斑状に多く含む 炭化物を粒状にわずかに含む　しまる



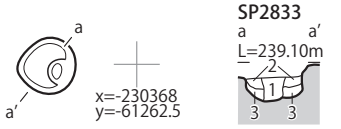
第 151 図　C 区　ピット SP2171・2331・2234・2315・2316・2334・2700



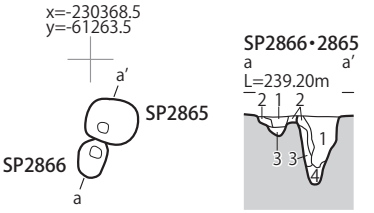
SP2702
1. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y5/6黄褐色砂質シルトを斑状に多く含む　しまる

SP2703
1. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y5/6黄褐色砂質シルトを粒状に少し含む　しまる

SP2833



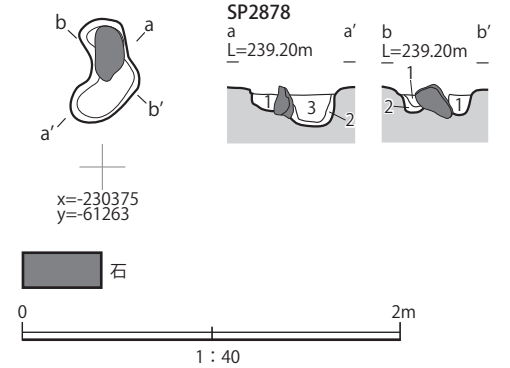
SP2833
1. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y7/6明黄褐色砂質シルトを斑状にわずかに含む　しまる
2. 2.5Y8/6黄色砂質シルト　2.5Y3/2黒褐色シルトを斑状に少し含む　しまる
3. 2.5Y5/4黄褐色砂質シルト　2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルトを斑状に少し含む　しまりなし



SP2865
1. 10YR2/1黒色シルト　2.5Y5/3黄褐色シルトを粒、ブロック状に少し含む　しまる
2. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y5/3黄褐色シルトを斑状に多く含む　しまる
3. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト　2.5Y2/1黒色シルトを斑状に多く含む　固くしまる
4. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを斑状に多く含む　しまりなし

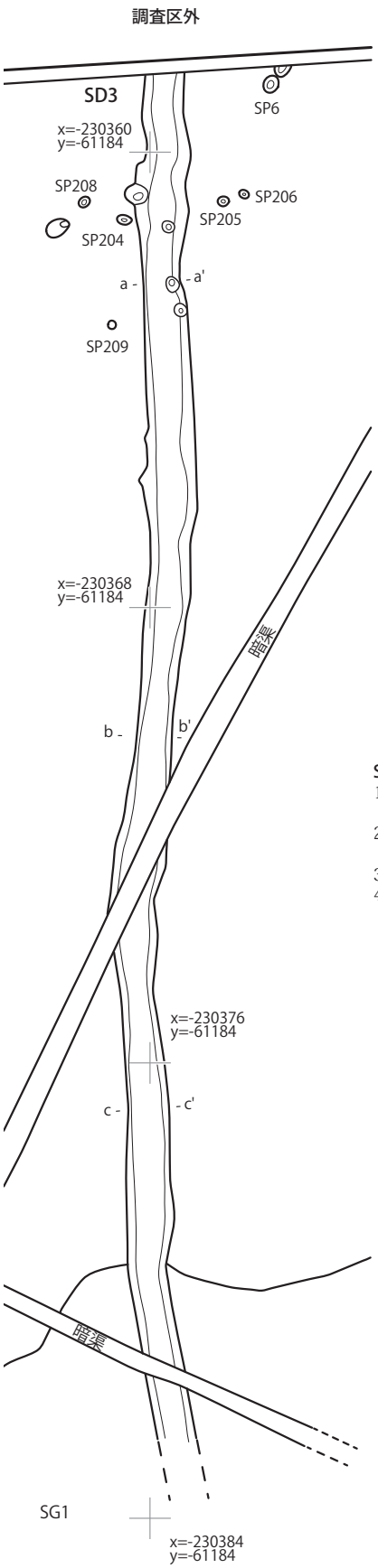
SP2866
1. 10YR3/3暗褐色シルト　2.5Y5/4黄褐色シルトを粒状に少し含む
2.5Y2/1黒色シルトを帯状に多く含む　しまる
2. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト　2.5Y2/1黒色シルトを斑状に多く含む　固くしまる
3. 2.5Y4/4オリーブ褐色シルト　2.5Y2/1黒色シルトを粒状に少し含む　固くしまる

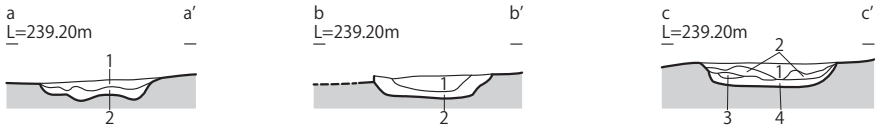
SP2878



SP2878
1. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを粒状にわずかに含む　しまる
2. 2.5Y5/4黄褐色粘質シルト　2.5Y3/2黒褐色シルトを斑状に少し含む　固くしまる
3. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y5/3黄褐色粘質シルトを斑状に多く含む
2.5Y7/4浅黄色砂質シルトを斑状に少し含む　固くしまる

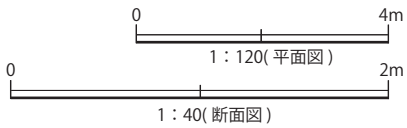
第 152 図　C 区　ピット SP2702・2703・2833・2865・2866・2878



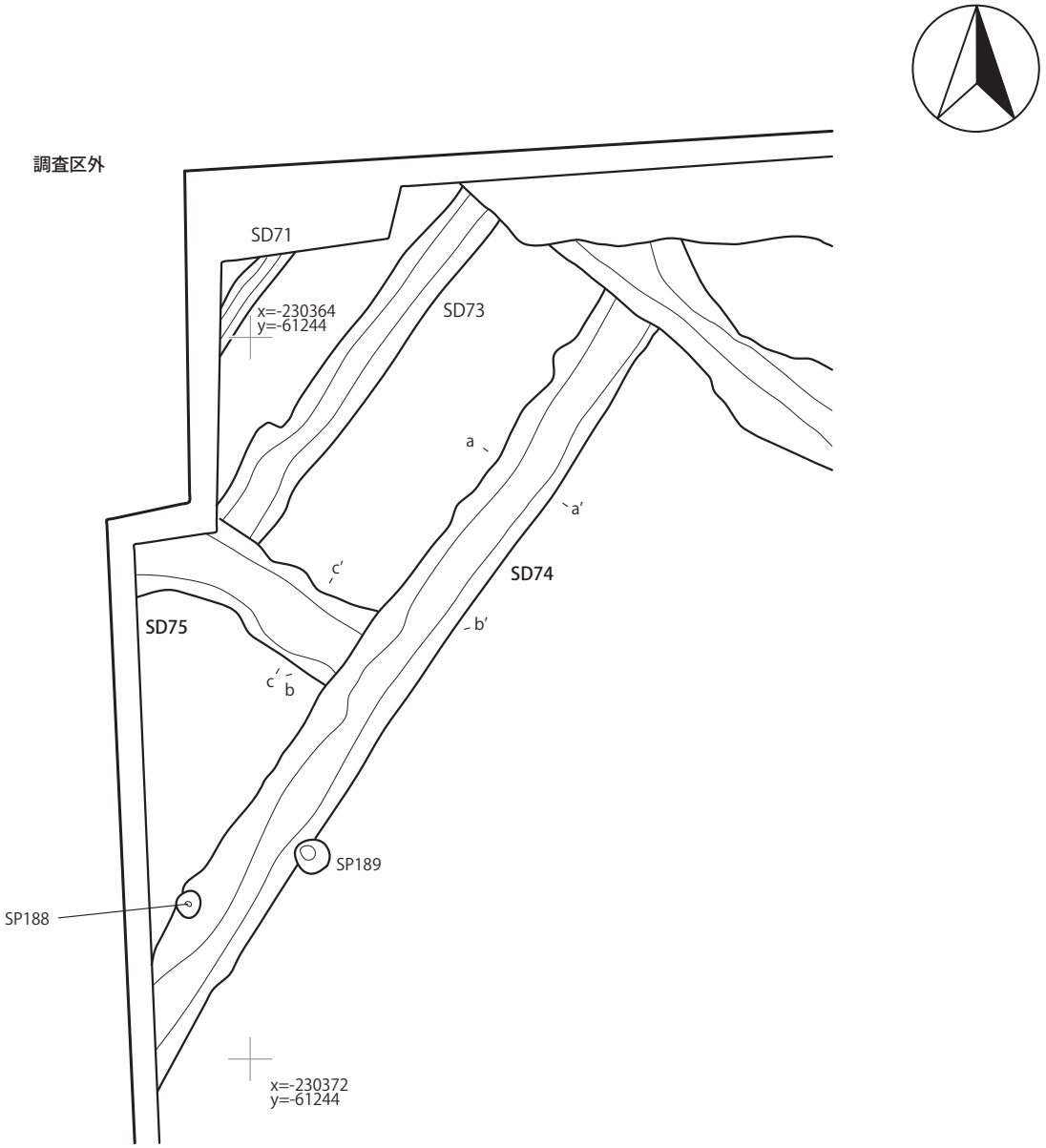


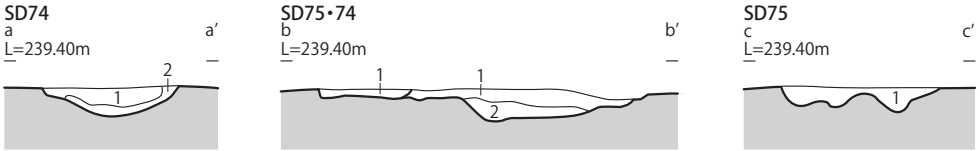
SD3

1. 10YR2/1黒色粘性シルト　10YR5/1褐灰色シルト小ブロックを少量含む　粘性ややあり　しまりあり
2. 10YR2/3黒褐色シルト　腐食した植物繊維を含む　炭化物小粒を少量含む　粘性ややあり　しまりややあり
3. 10YR5/1褐灰色粘質シルト　10YR2/1黒色粘質シルトを斑状に含む　粘性なし　しまりあり
4. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR5/3にぶい黄褐色砂を少量含む　粘性あり　しまりなし



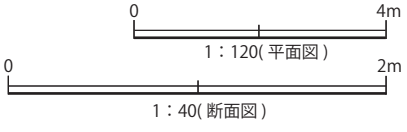
第 153 図　C 区　溝跡 SD3



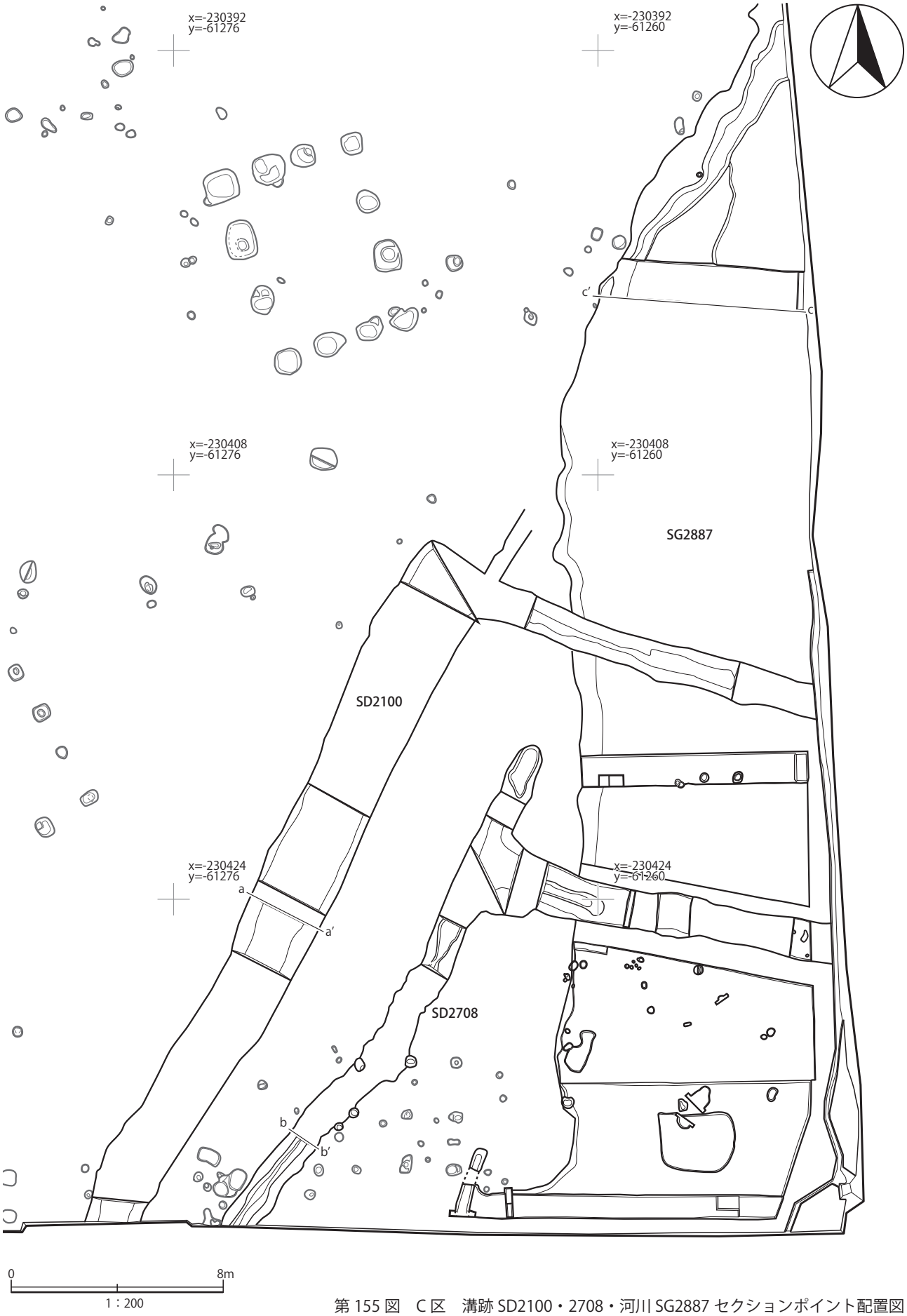


SD74
1. 10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルト　微細炭化物を多量に含む
2. 10YR4/6褐色砂質シルト　10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルトを斑状に少量含む　しまりあり

SD75
1. 10YR4/4褐色砂質シルト　10YR6/6明黄褐色砂質シルトをブロック状に少量含む　しまりあり

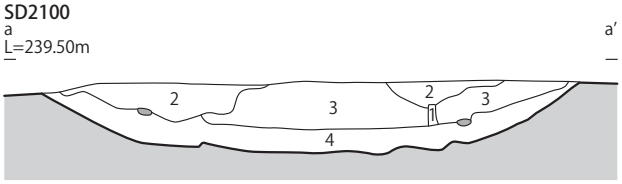


第 154 図　C 区　溝跡 SD74・75



第 155 図　C 区　溝跡 SD2100・2708・河川 SG2887 セクションポイント配置図

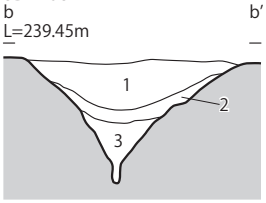
SD2100



SD2100

1. 10YR4/2灰黄褐色シルト　2.5Y5/3黄褐色砂質シルトをわずかに含む　しまりあり　撹乱
2. 10YR4/2灰黄褐色シルト　2.5Y5/3黄褐色砂質シルトを斑に含む　しまりあり
3. 2.5Y5/3黄褐色砂質シルト　10YR4/2灰黄褐色シルトをブロック状に斑に少量含む　しまりあり
4. 10YR3/1黒褐色シルト　10YR4/2灰黄褐色シルトを薄く層状に東西に含む　炭化物をごくわずかに含む　しまりあり

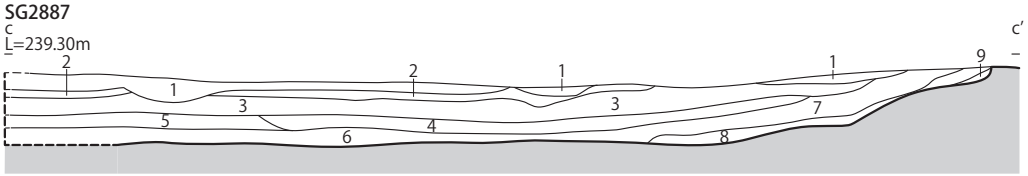
SD2708



SD2708

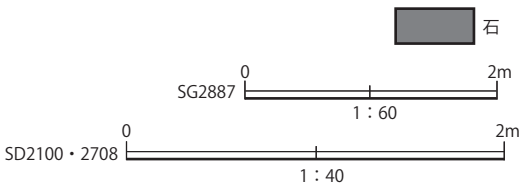
1. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト　5Y7/2灰白色シルト、2.5Y3/1黒褐色シルトを粒、斑状に多く含む　炭化物を粒状にわずかに含む　固くしまる
2. 2.5Y3/2黒褐色シルト　炭化物を粒状にわずかに含む　しまる
3. 2.5Y3/2黒過食シルト　2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルトをブロック状に少し含む　しまる

SG2887

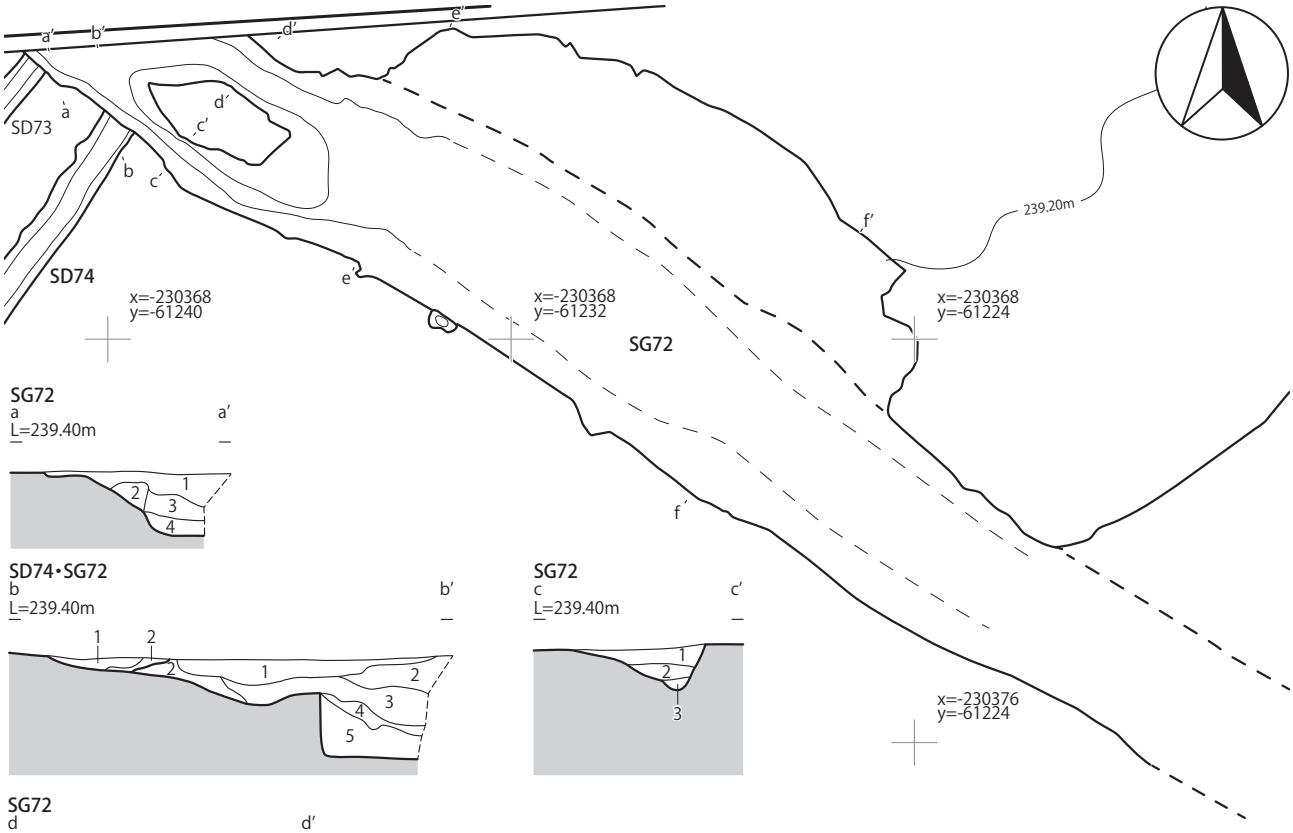


SG2887

1. 10YR2/2 黒褐色シルト　10YR4/1 褐灰色粘質シルトをブロック状に 10%含む　粘性ややあり
2. 10YR4/1 褐灰色粘質シルト　10YR2/2 黒褐色シルトをブロック状に 20%含む
3. 10YR3/1 黒褐色粘質シルト　10YR5/1 褐灰色粘質シルトをブロック状に 20%含む
4. 10YR5/1 褐灰色粘質シルト　10YR3/1 黒褐色粘質シルトをブロック状に 10%含む　しまりややあり
5. 10YR4/1 褐灰色粘質シルト　10YR3/1 黒褐色粘質シルトをブロック状に 5%含む
6. 10YR4/1 褐灰色粘質シルト　10YR6/2 灰黄褐色シルトをブロック状に 20%含む
7. 10YR3/1 黒褐色粘質シルト　炭化物を粒子状に少量含む
8. 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト　10YR3/1 黒褐色粘質シルトを小ブロックで 3%含む
9. 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト　酸化鉄を含む

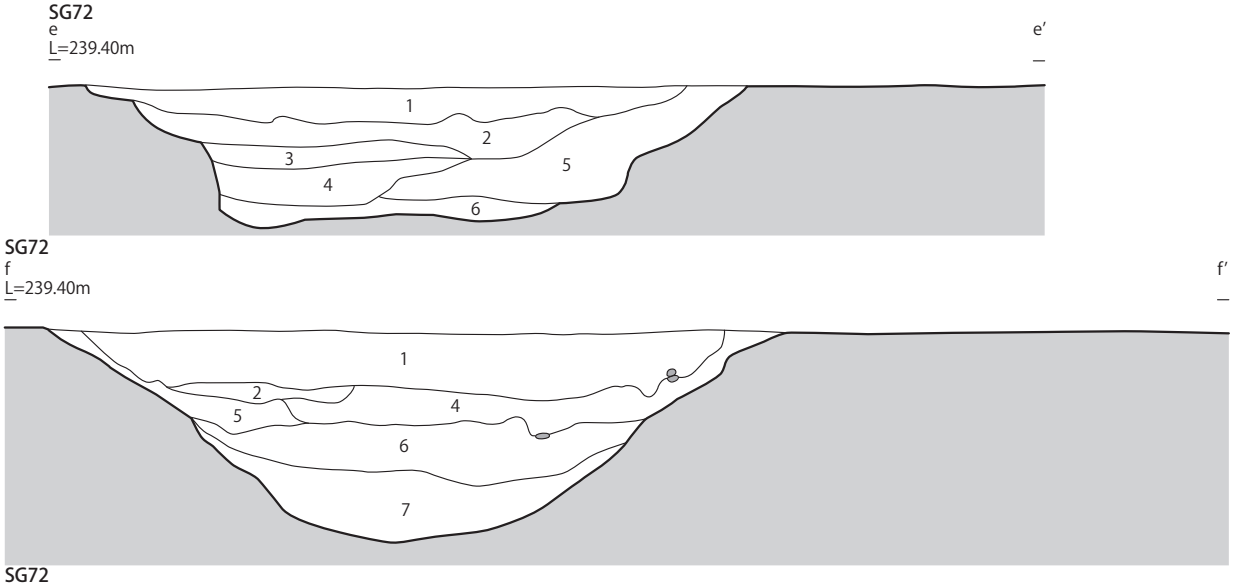


第 156 図　C 区　溝跡 SD2100・2708・河川 SG2887



SD74

1. 10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルト　　微細炭化物を多量に含む
2. 10YR4/6褐色砂質シルト　　10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルトを斑状に少量含む　しまりあり



SG72

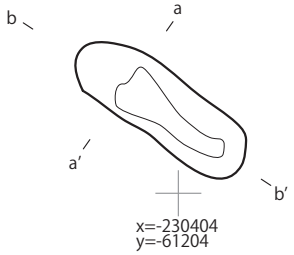
1. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト　　粗砂を多量に含む　5～10mm程度の小礫を少量含む　粘性なし　かたくしまる
2. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト　　5～10mm程度の小礫を少量含む　10YR3/2黒褐色粘質シルトを斑に含む　粘性なし　しまりあり
3. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト　　粗砂及び5～10mm程度の小礫を多量に含む　粘性なし　しまりあり
4. 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト　　5～10mm程度の小礫を多量に含む　10YR3/2黒褐色粘質シルトをブロック状に含む　粘性なし　しまりややあり
5. 10YR3/2黒褐色粘質シルト　　粗礫及び5～10mm程度の小礫を多量に含む　粘性あり　しまりややあり
6. 5Y3/1オリーブ黒色粘質シルト　　粗砂及び5～10mm程度の小礫を含む　粘性あり　しまりなし
7. 5Y3/1オリーブ黒色粘土　　粘性強　しまりややあり

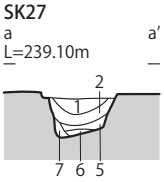
石

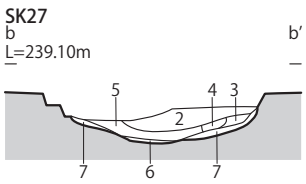
0　2m
1：40（断面図）
0　8m
1：150（平面図）

第 157 図　C 区　溝跡 SD74・河川 SG72

SK27



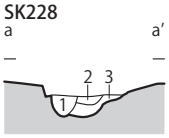




SK27

1. 10YR4/1褐灰色粘質シルト	10YR3/1黒褐色粘質シルトを含む　粘性あり　しまりややあり
2. 10YR4/1褐灰色粘質シルト	炭化物を小粒状に少量含む　粘性あり　しまりなし
3. 10YR4/1褐灰色粘質シルト	炭化物を小粒状にやや多量に含む　粘性あり　しまりややあり
4. 5Y6/1～5/1	白色化した木か　粘性なし　しまりなし
5. 木炭(粒・ブロック状)及び10YR4/3にぶい黄褐色焼土粒の混合土	10YR4/1褐灰色砂を少量含む　粘性ややあり　しまりなし
6. 5Y3/1オリーブ黒色粘質シルト	10YR4/3にぶい黄褐色焼土を粒状に多量に含む　粘性あり　しまりなし
7. 木炭(ブロック状)？	10YR4/3にぶい黄褐色焼土を粒状に含む　下位に5YR3/1黒褐色粘質シルトを含む粘性あり　しまりなし

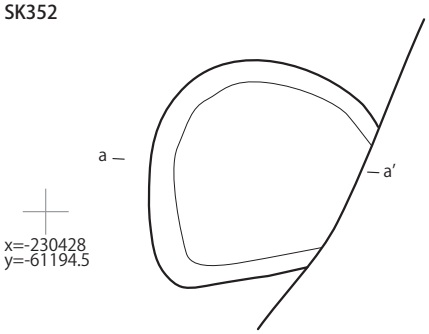
SK228

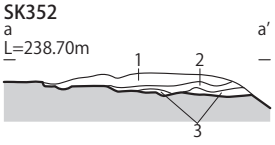


SP228

1. 10YR2/1黒色粘質シルト	ほぼ純層　粘性あり　しまりあり
2. 10YR4/2灰黄褐色シルト	ほぼ純層　粘性なし　しまりあり
3. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR4/2灰黄褐色シルト小粒を多量に含む　粘性ややあり　しまりあり

SK352

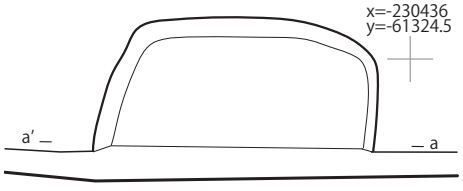


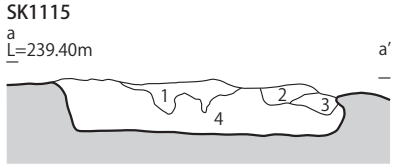


SK352

1. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト	2.5Y2/1黒色炭化物を帯状に多量に含む　2.5Y5/6黄褐色焼土を帯状に少量含む　しまりあり
2. 10YR2/2黒褐色シルト	5Y6/8橙色焼土を粒状に多量に含む　10YR6/8明黄褐色焼土を帯状に多量に含む　2.5Y2/1黒色炭化物を帯状に多量に含む
3. 2.5Y6/2灰黄色砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを斑状に少量含む　しまりあり

SK1115

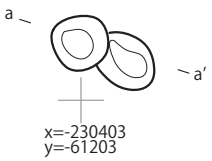


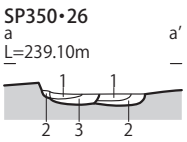


SK1115

1. 10YR3/4暗褐色粘質シルト	10YR4/4褐色シルトを粒状に多く含む　10YR6/4にぶい黄橙色シルトを粒状に少量含む　しまる
2. 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト	10YR3/1黒褐色粘質シルトを斑状に少し含む　固くしまる
3. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR7/8黄橙色粘質シルトを粒状に多く含む　10YR6/8橙色焼土を極微量含む　固くしまる
4. 10YR2/3黒褐色粘質シルト	10YR7/6明黄褐色シルトを斑状に多く含む　10YR2/1黒色粘質シルトを斑状に多く含む　しまる

SP350・26





SP26

1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR4.1褐灰色粘質シルト小粒を少量含む　腐食した木片を含む　粘性あり　しまりややあり
2. 10YE4/1褐灰色粘質シルト	10YR3/1黒褐色粘質シルトを多量に含む　粘性あり　しまりあり

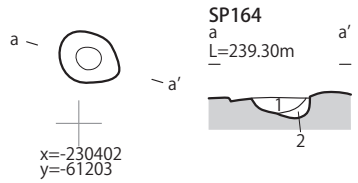
SP350

1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR4.1褐灰色粘質シルト小粒を少量含む　腐食した木片を含む　粘性あり　しまりややあり
2. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	純層　粘性あり　しまりややあり
3. 10YR4/1褐灰色粘質シルト	10YR3/1黒褐色粘質シルトを含む　粘性あり　しまりあり

0　2m
1：40

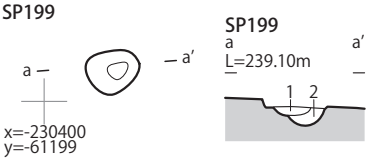
第 158 図　D 区　土坑 SK27・228・352・1115・ピット SP26・350

SP164



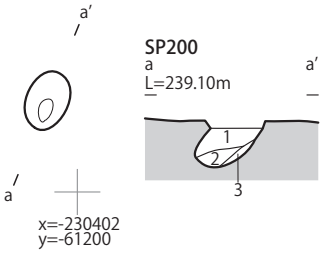
SP164
1. 2.5Y2/1黒色粘質シルト　ほぼ純層　粘性あり　しまりあり
2. 2.5Y2/1黒色粘質シルト　10YR4/1褐灰色シルトを含む　粘性あり　しまりあり

SP199



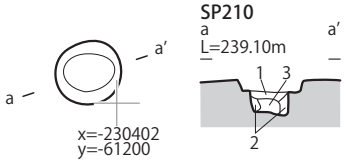
SP199
1. 10YR2/1黒褐色粘質シルト　10YR4/1褐灰色粘質シルトをブロック状に含む　粘性あり　しまりあり
2. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR4/1褐灰色粘質シルトを粒状に多量に含む　粘性あり　しまりあり

SP200



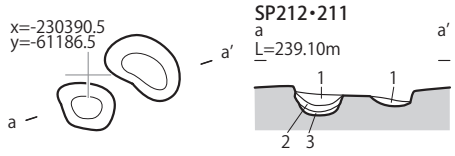
SP200
1. 2.5Y2/1黒色粘質シルト　10YR4/1褐灰色粘質シルトを含む　粘性ややあり　しまりあり
2. 10YR4/1褐灰色粘質シルト　純層　粘性ややあり　しまりなし
3. 10YR4/1褐灰色粘質シルト　2.5Y2/1黒色粘質シルトを少量含む　粘性ややあり　しまりなし

SP210



SP210
1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR4/2灰黄褐色シルトを含む　粘性あり　しまりあり
2. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR4/2灰黄褐色シルトを多量に含む　粘性なし　しまりあり

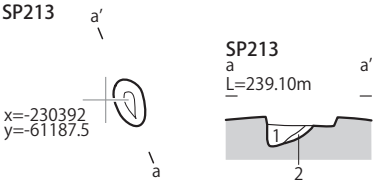
SP212・211



SP211
1. 10YR4/1褐灰色粘質シルト　10YR3/1黒褐色シルトを少量含む　粘性ややあり　しまりあり

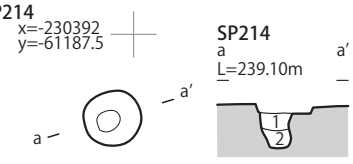
SP212
1. 10YR3/1黒褐色シルト　10YR4/2灰黄褐色シルト小粒を少量含む　粘性なし　しまりあり
2. 10YR3/1黒褐色シルト　10YR4/2灰黄褐色シルト小粒を含む　粘性なし　しまりあり
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト　10YR3/1黒褐色シルトを少量含む　粘性なし　しまりあり

SP213

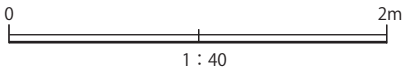


SP213
1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR4/2灰黄褐色シルトブロックを多量に含む
粘性ややあり　しまりあり
2. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR4/2灰黄褐色シルト小粒を含む　粘性ややあり　しまりあり

SP214

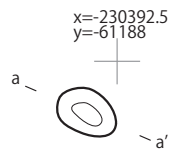


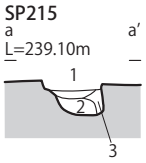
SP214
1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR4/2灰黄褐色シルト小粒を多量に含む　粘性ややあり　しまりあり
2. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR4/2灰黄褐色シルトを含む　粘性ややあり　しまりややあり



第 159 図　D 区　ピット SP164・199・200・210・211・212・213・214

SP215

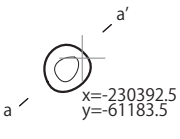


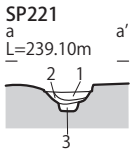


SP215

1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR4/2灰黄褐色シルト小粒及び小ブロックを多量に含む　粘性ややあり　しまりあり
2. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR4/2灰黄褐色シルトを少量含む　粘性ややあり　しまりあり
3. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR4/2灰黄褐色シルト小粒を少量含む　粘性ややあり　しまりあり

SP221

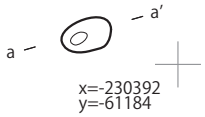


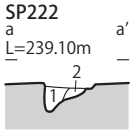


SP221

1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR4/1褐灰色シルトを少量含む　粘性ややあり　しまりあり
2. 10YR4/1褐灰色シルト　10YR3/1黒褐色粘質シルト小粒を少量含む　粘性ややあり　しまりあり
3. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR4/1褐灰色シルトを少量含む　粘性ややあり　しまりあり

SP222

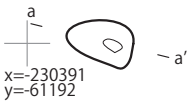


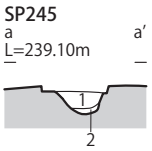


SP222

1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR4/1褐灰色シルトブロックを含む　粘性ややあり　しまりあり
2. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR4/1褐灰色シルト小粒を含む　粘性ややあり　しまりあり

SP245

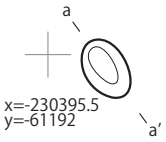


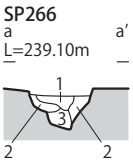


SP245

1. 10YR2/1黒色粘質シルト　10YR4/1褐灰色粘質シルトを層状に含む　10YR4/2灰黄褐色シルトブロックを含む　粘性あり　しまりあり
2. 10YR4/1褐灰色粘質シルト　10YR4/2灰黄褐色シルトを少量含む　粘性あり　しまりややあり

SP266

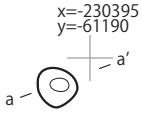


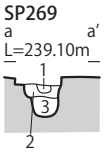


SP266

1. 10YR2/1黒色粘質シルト　10YR4/2灰黄褐色シルト小ブロックを少量含む　粘性ややあり　しまりあり
2. 10YR4/2灰黄褐色シルト　10YR2/1黒色粘質シルトを含む　粘性なし　しまりあり
3. 10YR2/1黒色粘質シルト　10YR4/2灰黄褐色シルトブロックを多量に含む　粘性なし　しまりややあり

SP269

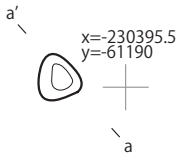


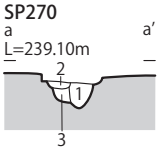


SP269

1. 10YR4/1褐灰色粘質シルト　ほぼ純層　粘性あり　しまりあり
2. 10YR2/1黒色粘質シルト　10YR4/1褐灰色シルト小粒を少量含む　粘性ややあり　しまりあり
3. 10YR2/1黒色粘質シルト　10YR4/1褐灰色粘質シルト粒を多量に含む　粘性ややあり　しまりあり

SP270

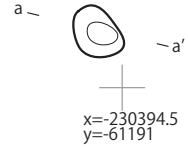


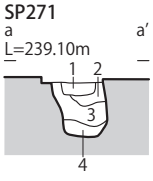


SP270

1. 10YR2/1黒色粘質シルト　10YR4/2灰黄褐色シルトを小ブロックで含む　粘性ややあり　しまりあり
2. 10YR2/1黒色粘質シルト　10YR4/2灰黄褐色シルトを含む　粘性ややあり　しまりあり
3. 10YR4/2灰黄褐色シルト　10YR2/1黒色粘質シルトを少量含む　粘性なし　しまりあり

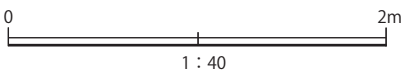
SP271





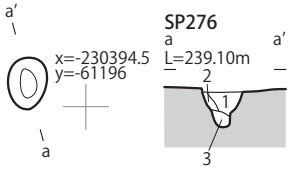
SP271

1. 10YR3/1黒色粘質シルト　ほぼ純層　粘性あり　しまりあり
2. 10YR4/1褐灰色粘質シルト　10YR3/1黒色粘質シルトを少量含む　粘性あり　しまりあり
3. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR4/1褐灰色粘質シルトを含む　粘性ややあり　しまりややあり
4. 10YR4/1褐灰色粘質シルト　砂粒を含む　粘性ややあり　しまりややあり



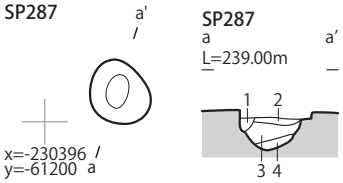
第 160 図　D 区　ピット SP215・221・222・245・266・269・270・271

SP276



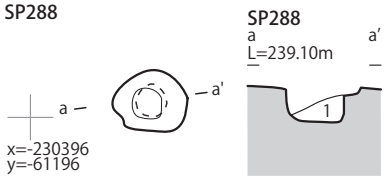
SP276
1. 2.5Y2/1黒色粘質シルト　10YR4/2灰黄褐色シルト小粒を含む　粘性ややあり　しまりややあり
2. 10YR4/2灰黄褐色シルト　2.5Y2/1黒色粘質シルトを少量含む　粘性なし　しまりあり
3. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　砂粒を含む　粘性あり　しまりなし

SP287



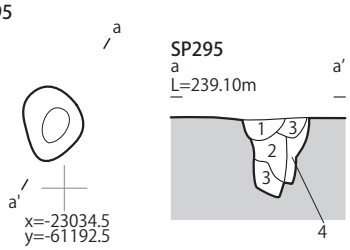
SP287
1. 10YR4/1褐灰色粘質シルト　粘性ややあり
2. 10YR4/1褐灰色粘質シルト　10YR2/1黒色粘質シルト小粒を多量に含む　粘性あり　しまりややあり
3. 10YR2/1黒色粘質シルト　10YR4/1褐灰色粘質シルト粒をやや多量に含む　粘性あり　しまりややあり
4. 10YR4/1褐灰色粘質シルト　10YR2/1黒色粘質シルト小粒を少量含む　砂を多量に含む
粘性ややあり　しまりややあり

SP288



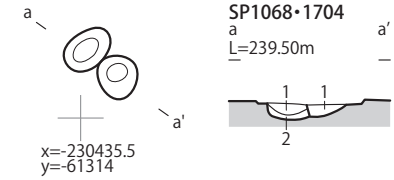
SP288
1. 10YR2/1黒色粘質シルト　10YR4/1褐灰色粘質シルトを多量に含む　粘性あり　しまりあり

SP295



SP295
1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR4/2灰黄褐色粘質シルトを層状に少量含む　粘性あり　しまりあり
2. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR4/2灰黄褐色粘質シルト小粒を少量含む　粘性あり　しまりあり
3. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR4/2灰黄褐色粘質シルトをブロック状に多量に含む
粘性ややあり　しまりややあり
4. 10YR3/1黒褐色粘質シルト　10YR4/2灰黄褐色粘質シルトを小ブロックで含む
粘性ややあり　しまりややあり

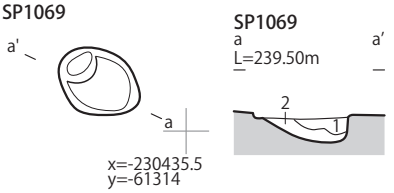
SP1068・1704



SP1068
1. 10YR3/2黒褐色シルト　10YR6/6明黄褐色シルトを斑状に多量に含む　かたくしまる
2. 10YR8/6黄橙色砂質シルト　10YR3/2黒褐色シルトを斑状に極少量含む　しまりあり

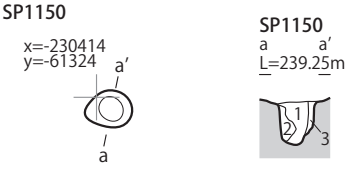
SP1704
1. 10YR8/6黄橙色砂質シルト　10YR3/1黒褐色シルトを斑状に少量含む　しまりあり

SP1069

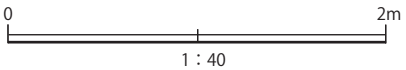


SP1069
1. 10YR2/2黒褐色シルト　10YR6/6明黄褐色砂質シルトを斑状に多量に含む　しまりあり
2. 10YR6/6明黄褐色砂質シルト　10YR2/2黒褐色シルトを斑状に少量含む　しまりあり

SP1150

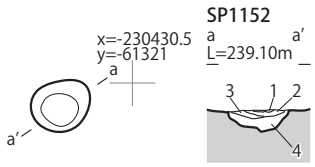


SP1150
1. 10YR2/2黒褐色シルト　2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトを粒状に多く含む　しまる
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト　2.5Y5/4黄褐色シルトを斑状に多く含む　しまる
3. 2.5Y2/1黒色シルト　2.5Y7/4浅黄色シルトを粒状に少し含む　しまる



第 161 図　D 区　ピット SP276・287・288・295・1068・1069・1150・1704

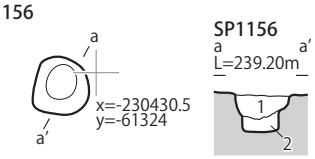
SP1152



SP1152

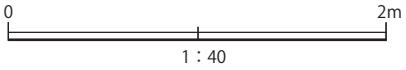
1. 10Y4/3にぶい黄褐色粘質シルト	10YR3/2黒褐色シルトを粒状に多く含む	しまる
2. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR5/6黄褐色シルトを粒状に少量含む	しまる
3. 10YR6/4にぶい黄橙色粘質シルト	10YR8/4浅黄色粘質シルトを斑状に多く含む	しまりなし
4. 2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルト	2.5Y3/1黒褐色粘質シルトを斑、帯状に少量含む	しまる

SP1156

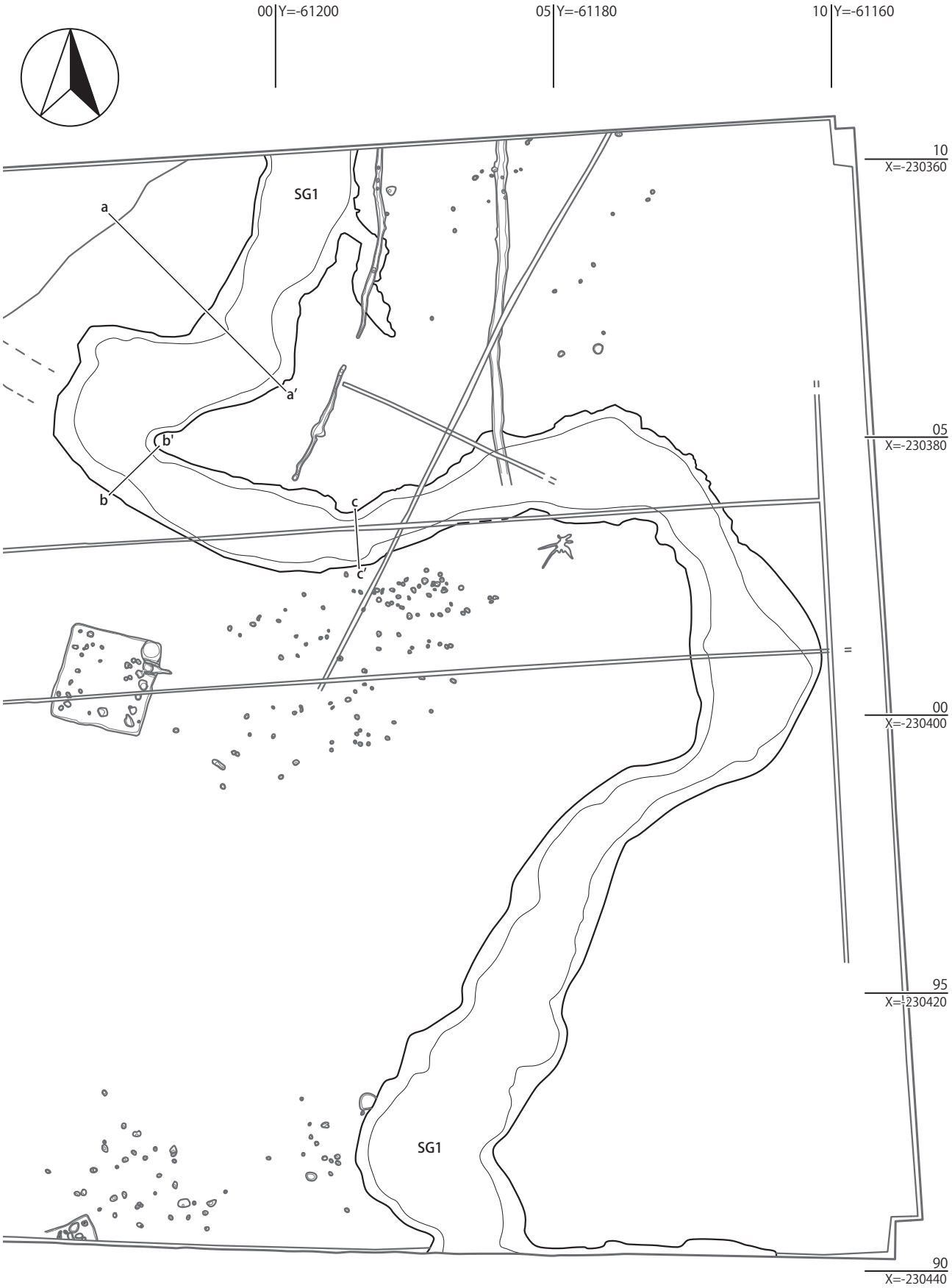


SP1156

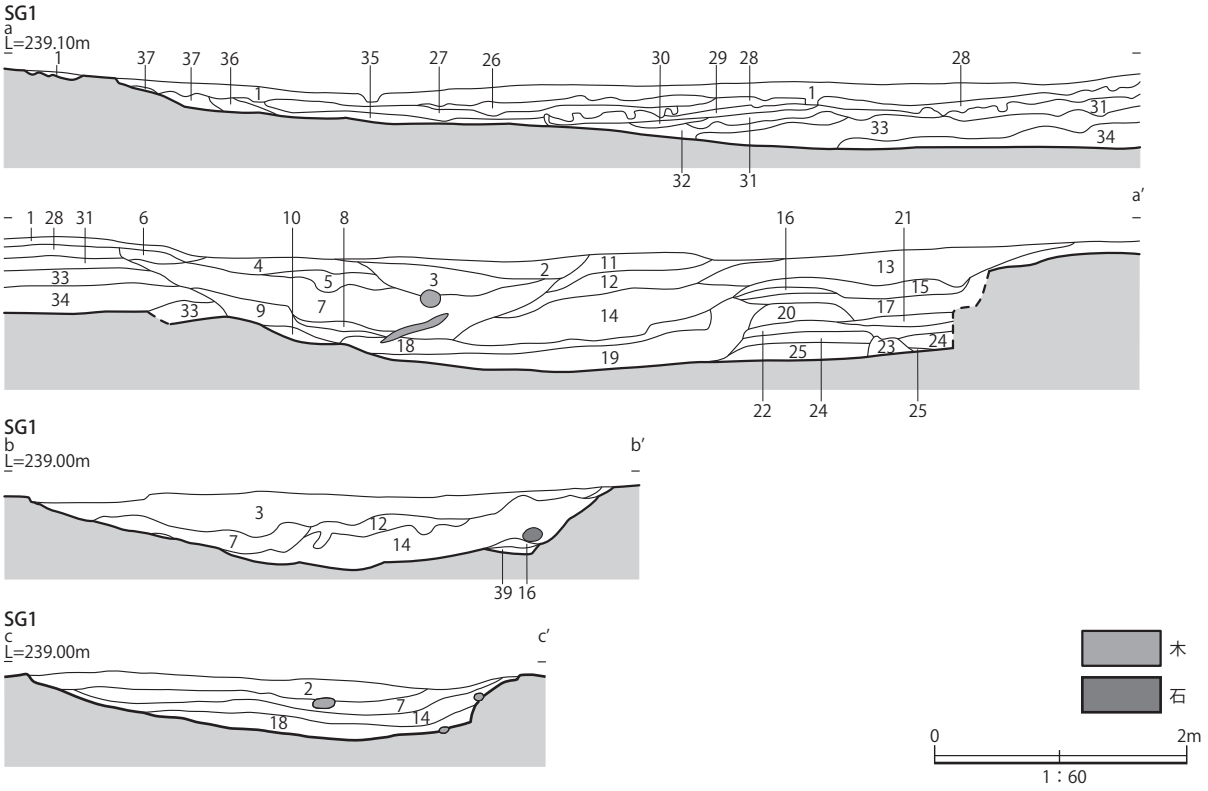
1. 10YR3/2黒褐色シルト	10YR5/8黄褐色砂質シルトを粒状に少量含む	炭化物を微量含む　しまる
2. 10YR2/2黒褐色粘質シルト	10YR8/6黄橙色粘質シルトを粒状に少量含む	しまる



第 162 図　D 区　ピット SP1152・1156



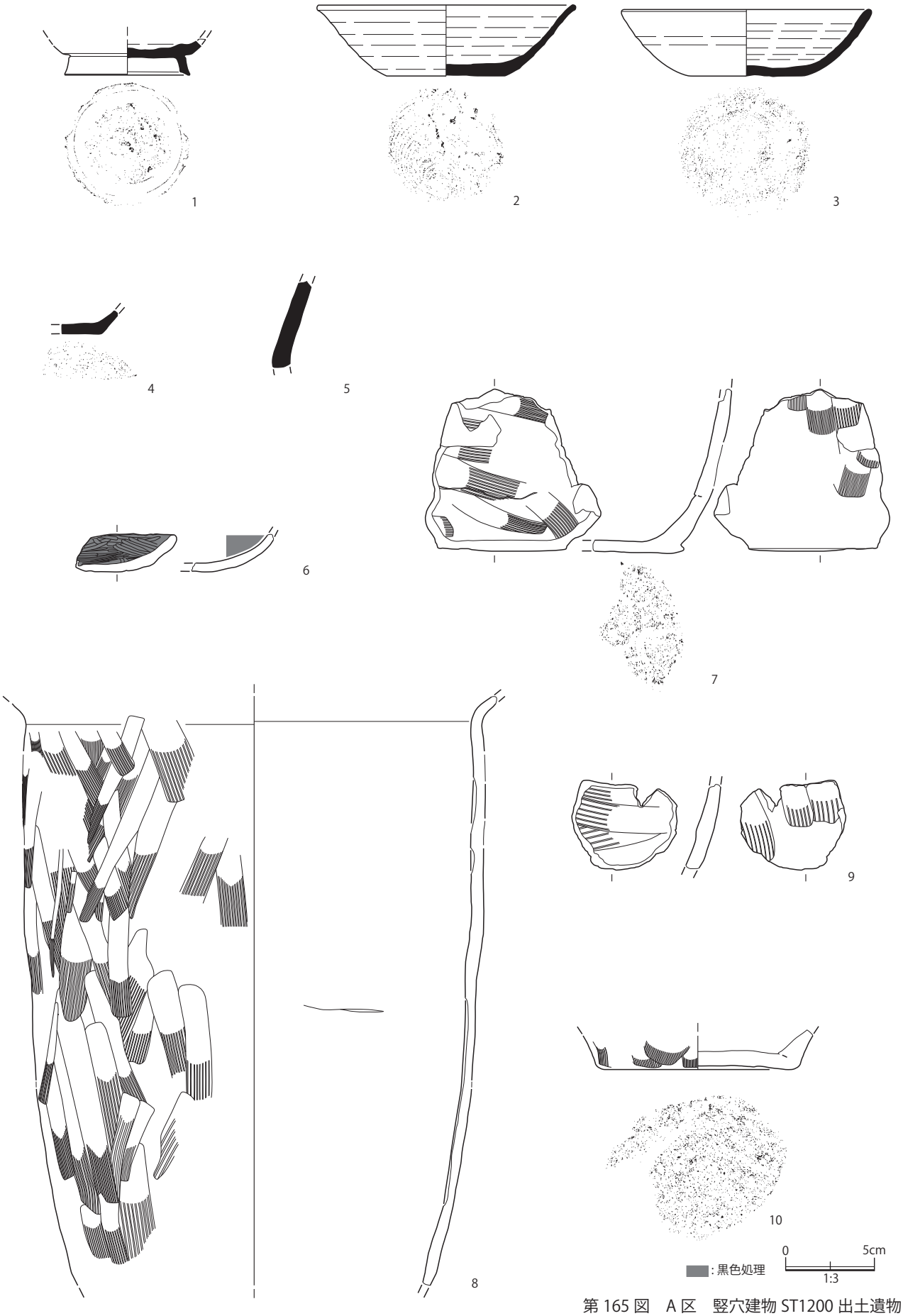
第 163 図　D 区　河川 SG 1 （1）



SG1

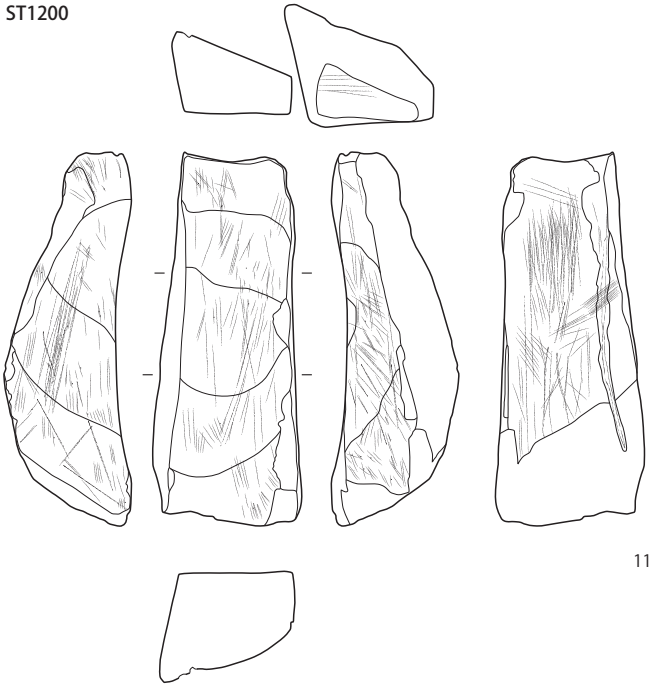
1. 10YR4/1褐灰色シルト　炭化物粒及び土器小片を多量に含む　粘性なし　かたくしまる
2. 10YR2/2黒褐色粘質シルト　10YR4/2灰黄褐色粘質シルト及び炭化物を含む　木片及び植物繊維を多量に含む　粘性あり　しまりなし
3. 10YR2/1黒色粘質シルト　2.5Y5/2暗灰黄色砂を層状に含む　炭化物及び木片、植物繊維を含む　粘性ややあり　しまりややあり
4. 10YR2/1黒色粘質シルト　2.5Y5/2暗灰黄色砂を層状に多量に含む　炭化物及び木片、植物繊維を含む　粘性ややあり　しまりややあり
5. 10YR2/1黒色粘質シルト　2.5Y5/2暗灰黄色砂を層状に少量含む　炭化物及び木片、植物繊維を含む　粘性ややあり　しまりややあり
6. 2.5Y5/1黄灰色シルト　2.5Y3/1黒褐色粘質シルトを含む　炭化物を少量含む　粘性ややあり　しまりあり
7. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト　2.5Y5/2暗灰黄色細砂を斑状に含む　炭化物を含む　木片及び植物繊維を多量に含む　粘性あり　しまりややあり
8. 7.5Y4/1灰色砂　1～5mm程度の粗砂を多量に含む　炭化物を少量含む　粘性なし　しまりややあり
9. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト　2.5Y5/2暗灰黄色細砂を層状に多量に含む　炭化物を少量含む　木片及び植物繊維を含む　粘性あり　しまりややあり
10. 7.5Y4/1灰色粗砂　下位に2.5Y3/1黒褐色粘質シルト及び植物繊維の混合土を層状に含む　粘性ややあり　しまりややあり
11. 2.5Y4/1黄灰色粘質シルト　粘性あり　しまりあり
12. 2.5Y4/1黄灰色粘質シルト　2.5Y5/2暗灰黄色細砂を層状に多量に含む
13. 2.5Y4/1黄灰色粘質シルト　粘性あり　しまりあり
14. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト　2.5Y5/2暗灰黄色細砂を層状に含む　炭化物を多量に含む　木片を多量に含む　植物繊維を層状に多量に含む　粘性あり　しまりややあり
15. 2.5Y4/1黄灰色粘質シルト　2.5Y5/2暗灰黄色細砂を層状に多量に含む
16. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト　炭化物を少量含む　粘性あり　しまりややあり
17. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト　2.5Y5/2暗灰黄色細砂を層状に少量含む　炭化物を少量含む　粘性あり　しまりややあり
18. 2.5Y3/1黒灰色粘質シルト　2.5Y5/2暗灰黄色細砂を層状に多量に含む　炭化物を少量含む　粘性あり　しまりややあり
19. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト　2.5Y5/2暗灰黄色細砂を斑状に多量に含む　下位に粗砂及び木片、植物繊維、炭化物を多量に含む　粘性あり　しまりややあり
20. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト　2.5Y5/2暗灰黄色細砂を斑状に含む　炭化物を少量含む　粘性あり　しまりややあり
21. 7.5Y4/1灰色粘質シルト　2.5Y5/2暗灰黄色細砂を含む　粘性あり　しまりあり
22. 2.5Y5/2暗灰黄色細砂　7.5Y4/1灰色粘質シルトを少量含む　粘性ややあり　しまりややあり
23. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト　木片及び植物繊維を多量に含む(木の腐植土)　粘性あり　しまりややあり
24. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト　2.5Y5/2暗灰黄色細砂を層状に少量含み、植物繊維を多量に含む　粘性あり　しまりややあり
25. 7.5Y4/1灰色粗砂　下位に2.5Y3/1黒褐色粘質シルト及び植物繊維の混合土を層状に含む　粘性ややあり　しまりややあり
26. 10YR4/1褐灰色シルト　5Y2/1黒色粘質シルトを少量含む　炭化物粒及び土器小片を多量に含む　粘性ややあり　しまりあり
27. 5Y2/1黒色粘質シルト　2.5Y5/1黄灰色シルトを斑状に少量含む　炭化物粒を含む　粘性ややあり　しまりあり
28. 2.5Y5/1黄灰色シルト　5Y2/1黒色粘質シルトを斑状に含む　炭化物粒及び土器小片を含む
29. 5Y4/1灰色粘質シルト　5Y4/1灰色細砂を層状に含む　粘性あり　しまりあり
30. 5Y4/1灰色粘質シルト　5Y2/1黒色粘質シルト層状に多量に含む　粘性あり　しまりなし
31. 5Y2/1黒色粘質シルト　5Y4/1灰色粘質シルトを少量含む。 粘性あり　しまりなし
32. 5Y4/1灰色粘質シルト　5Y2/1黒色粘質シルトを多量に含む　粘性あり　しまりなし
33. 5Y4/1灰色粘質シルト　粘性強　しまりなし.
34. 5Y5/2灰オリーブ色細砂　5Y4/1灰色粘質シルト及び5Y2/1黒色粘質シルトを含む　粘性ややあり　しまりややあり
35. 5Y4/1灰色粘質シルト　5Y2/1黒色粘質シルト層状に多量に含む　粘性あり　しまりなし
36. 5Y2/1黒色粘質シルト　2.5Y5/1黄灰色シルトを斑状に少量含む　炭化物粒を含む　粘性ややあり　しまりあり
37. 2.5Y5/2暗灰黄色粘質シルト　粘性あり　しまりあり
38. 5Y2/1黒色粘質シルト　粘性強　しまりなし
39. 7.5Y4/1灰色砂　1～5mm程度の粗砂を多量に含む　炭化物を少量含む　粘性なし　しまりややあり

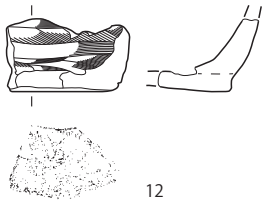
第 164 図　D 区　河川 SG 1 （2）

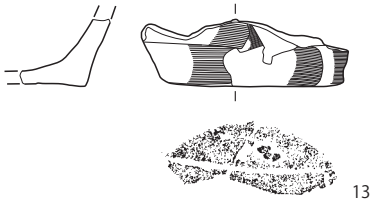


第 165 図　A 区　竪穴建物 ST1200 出土遺物

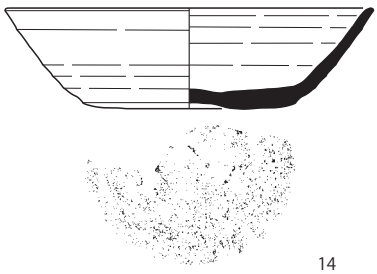
ST1200

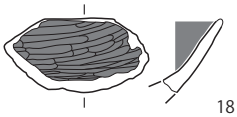


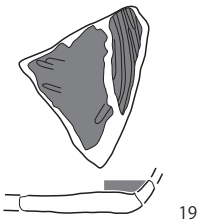


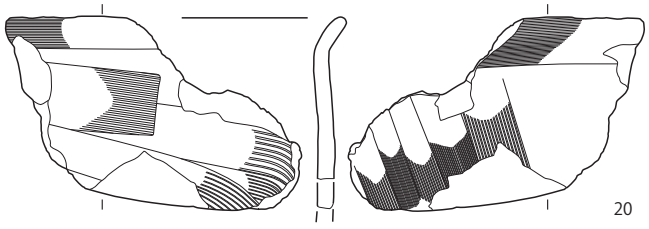


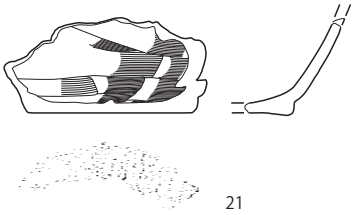
ST1210



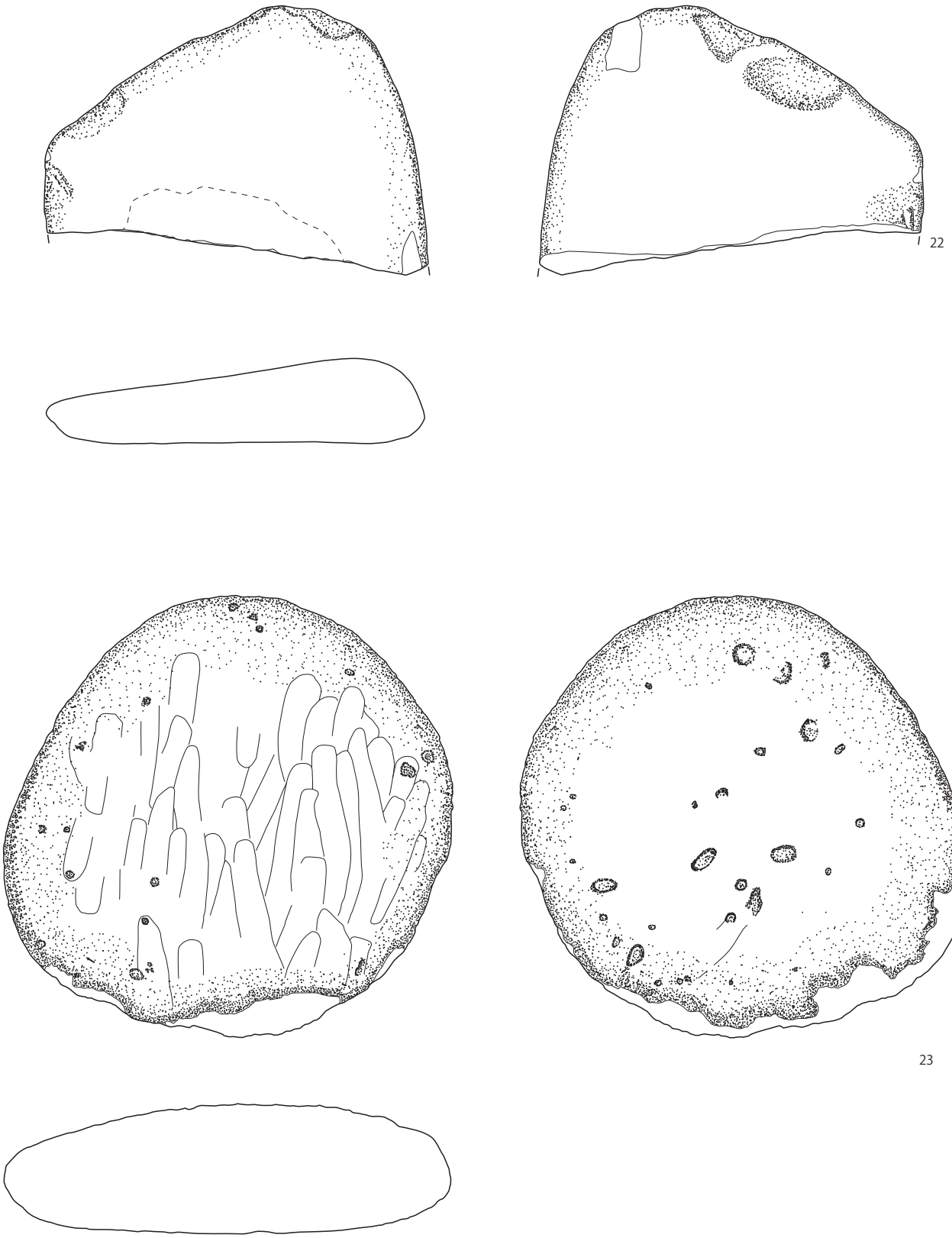






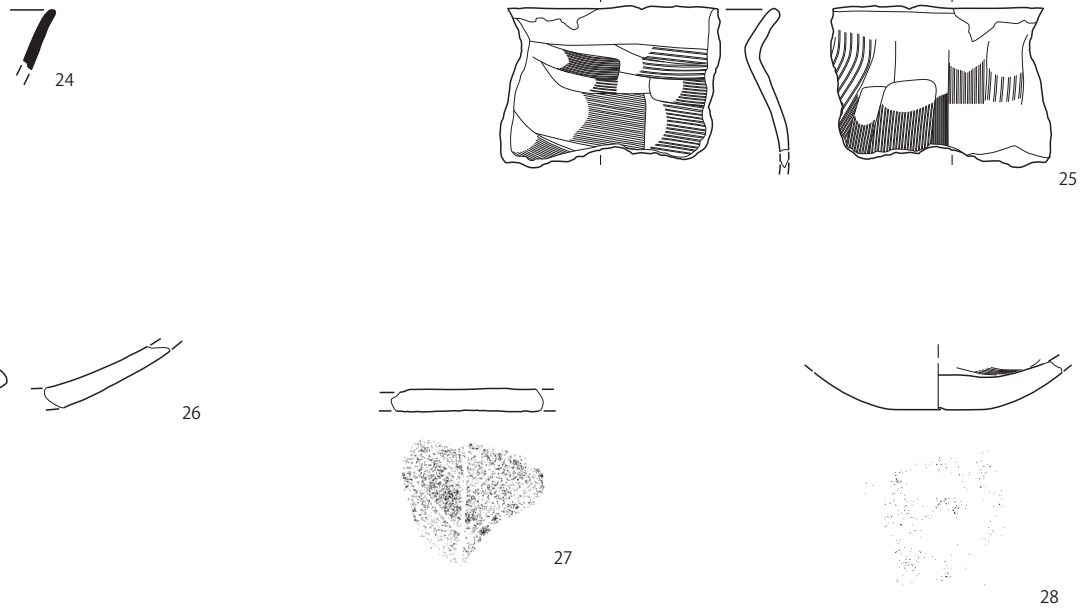


第 166 図　A 区　ST1200・1210 出土遺物

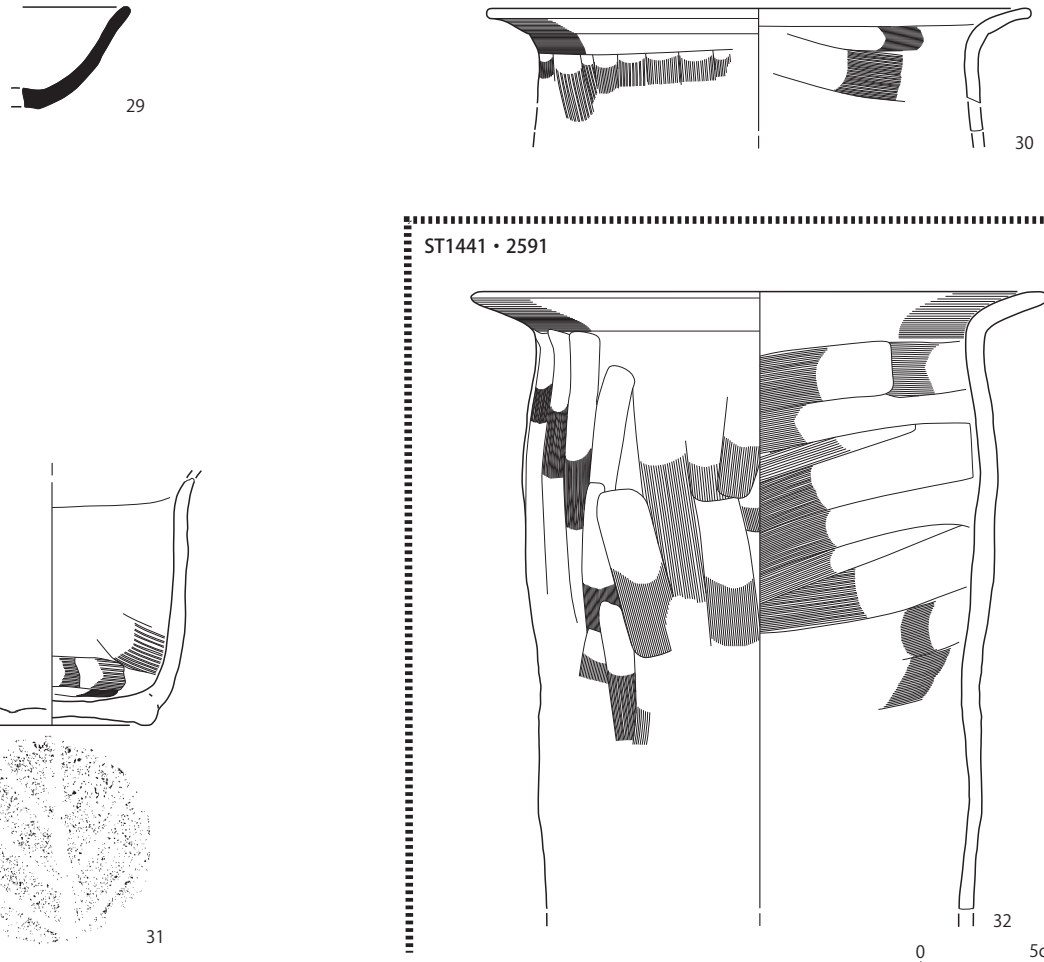


第 167 図　A 区　ST1210 出土遺物

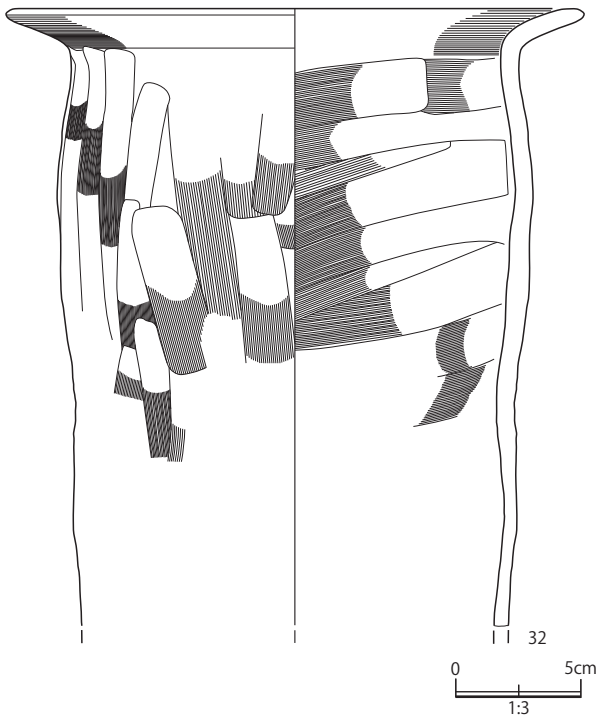
ST1210



ST1441

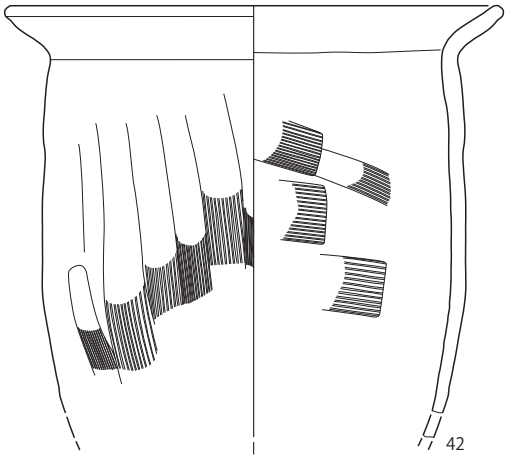


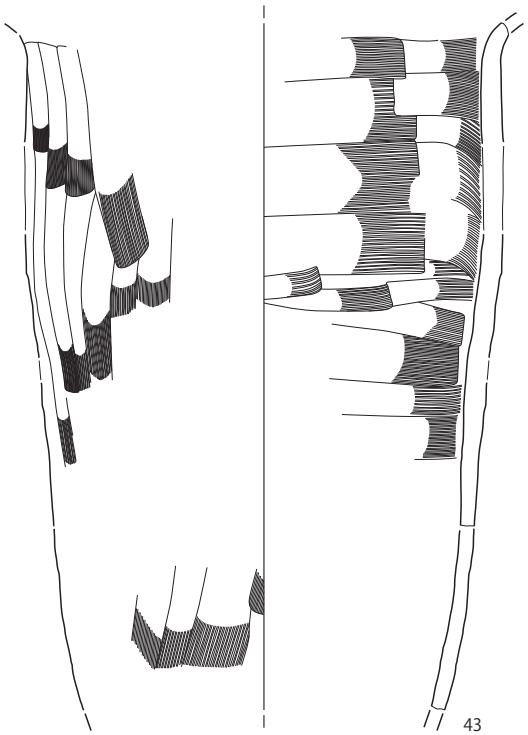
ST1441・2591

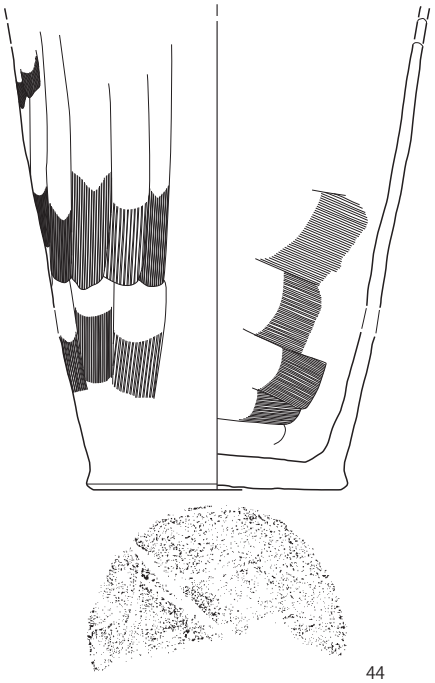


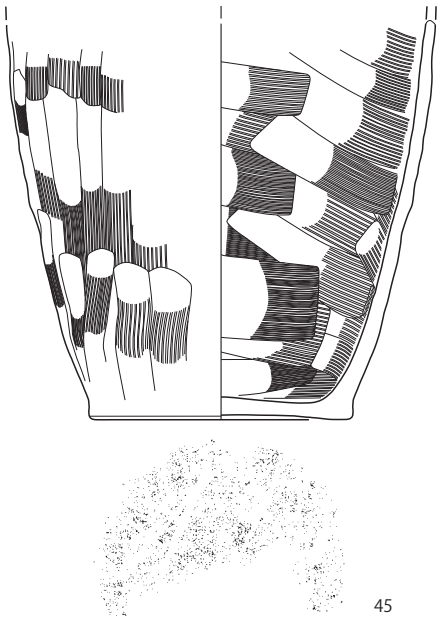
第 168 図　A 区　竪穴建物 ST1210・ST1441・2591 出土遺物

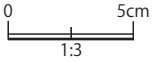
第 169 図　A 区　竪穴建物 ST1441・1554・ST2591 出土遺物





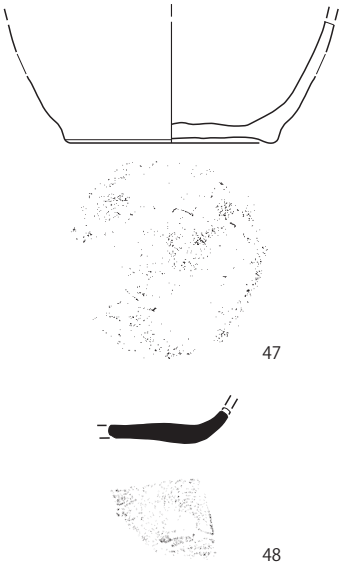




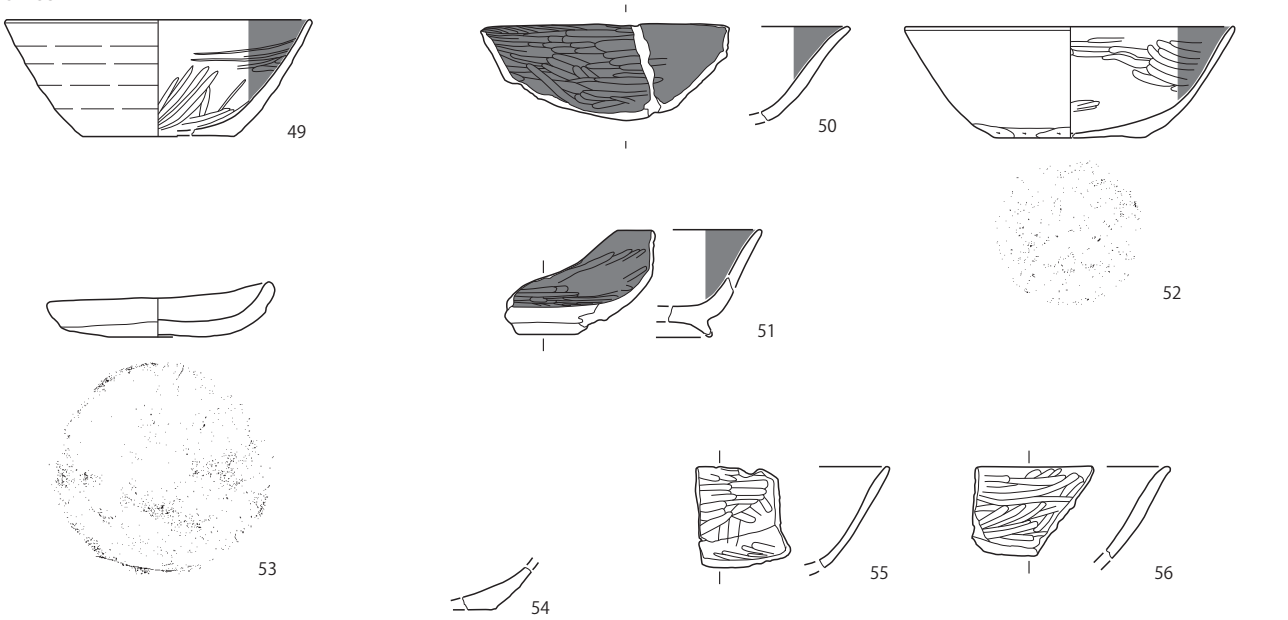


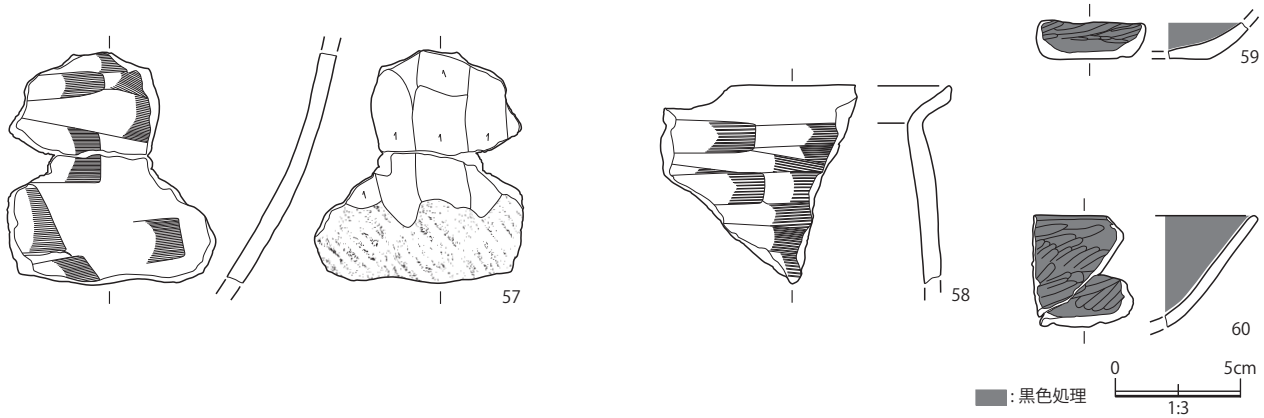
第 170 図　A 区　竪穴建物 ST2591 出土遺物

ST2591



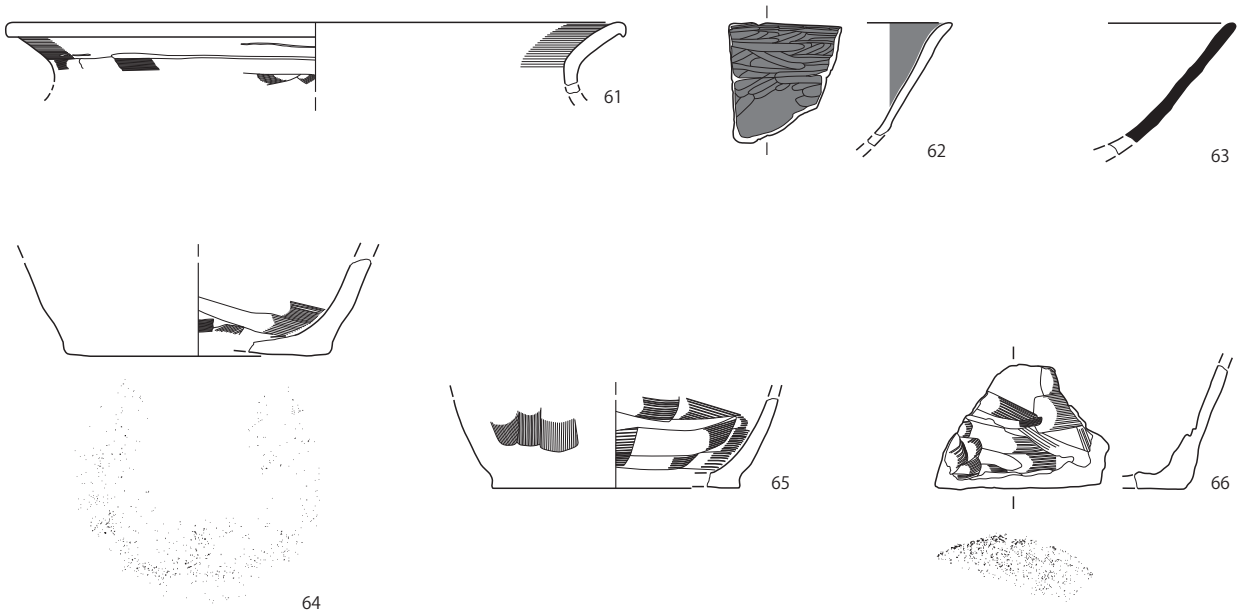
ST1554



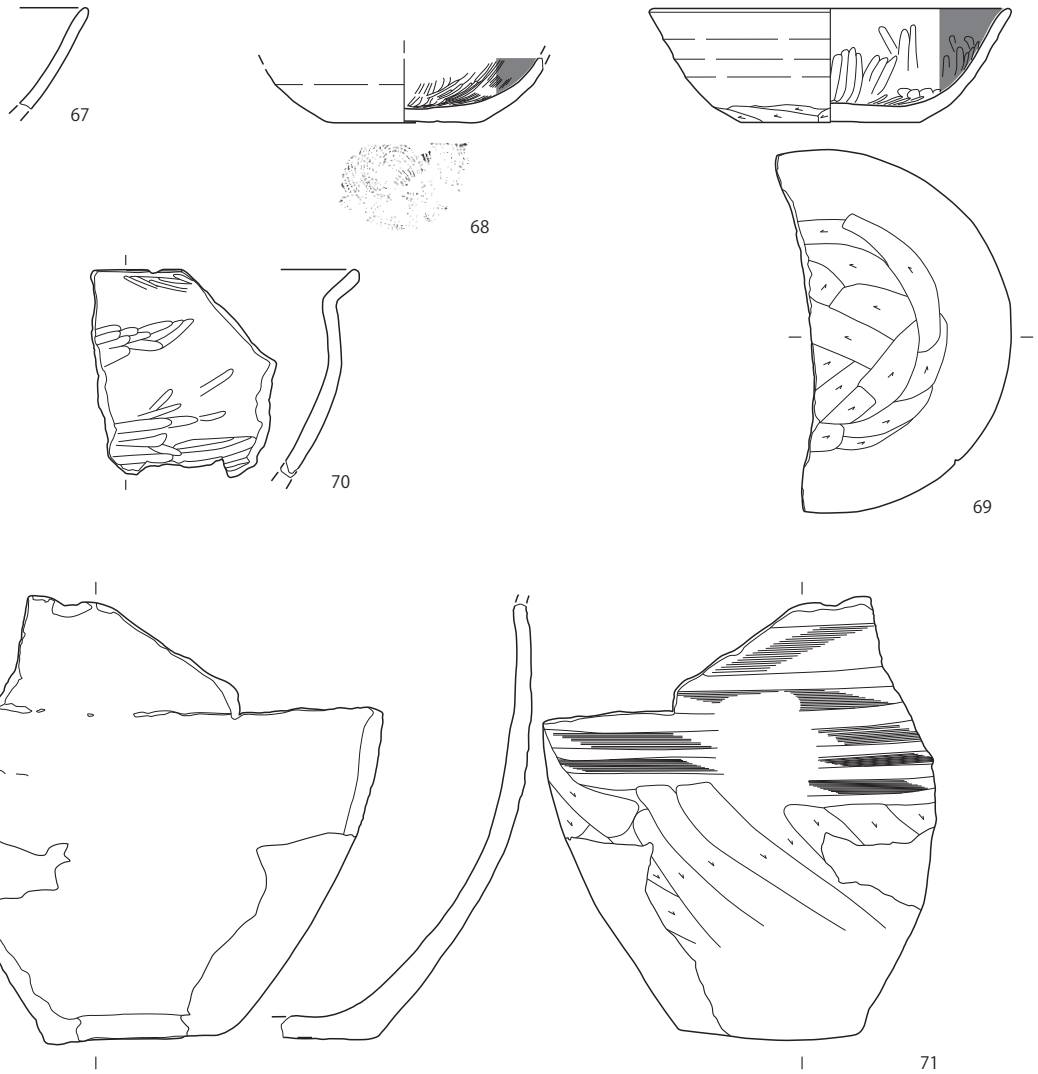


第 171 図　A 区　竪穴建物 ST2591・1554 出土遺物

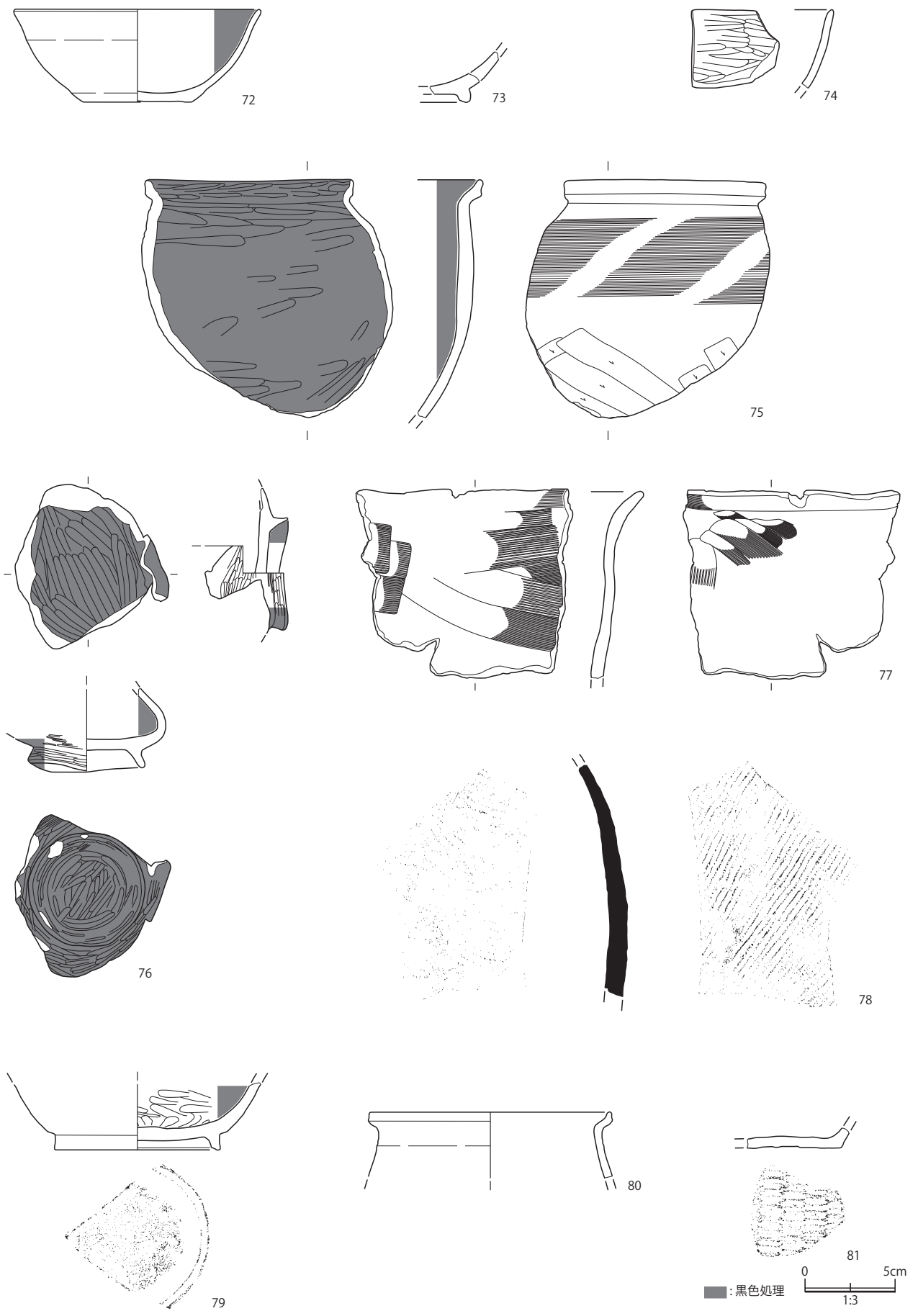
ST1554



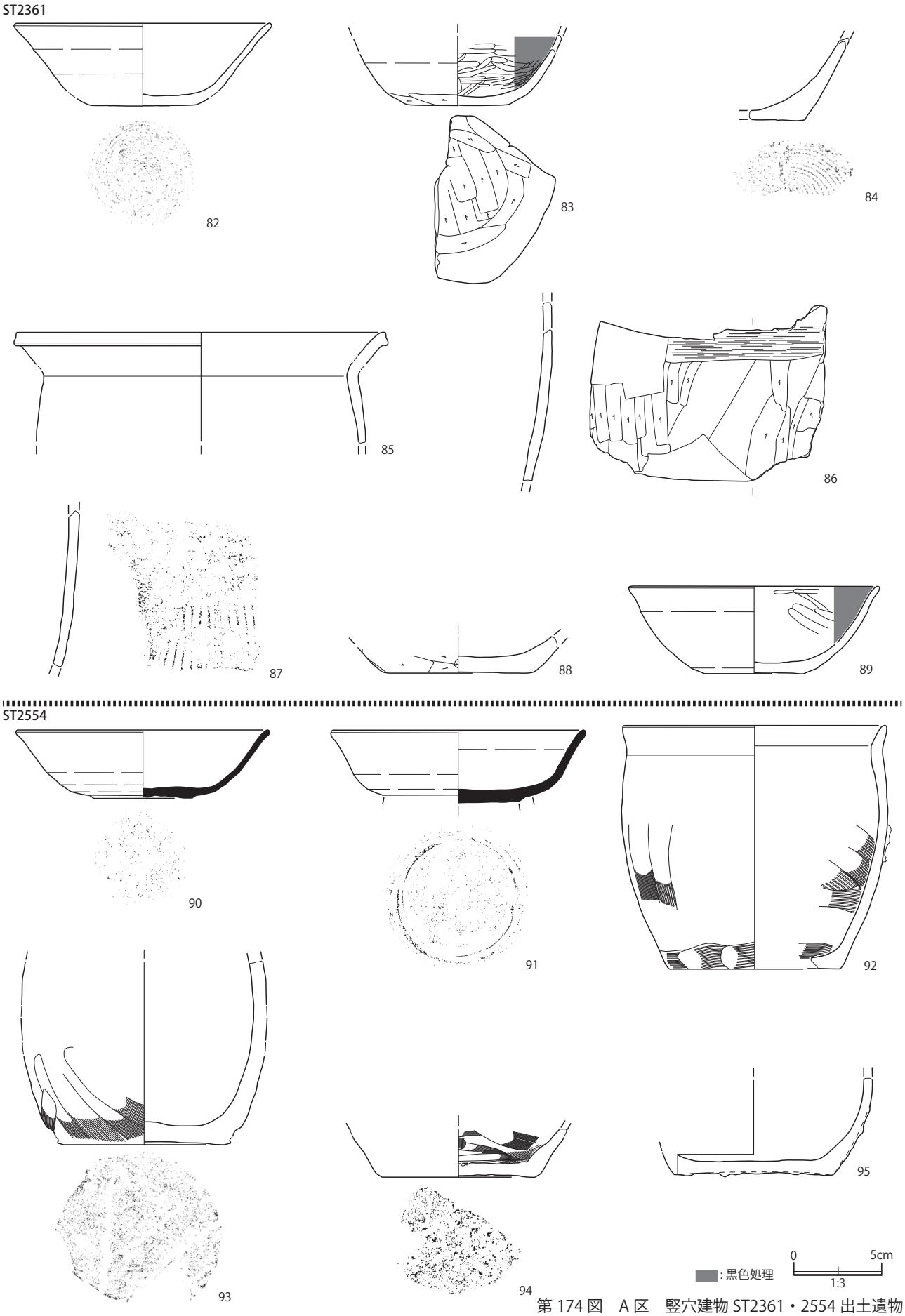
ST2361



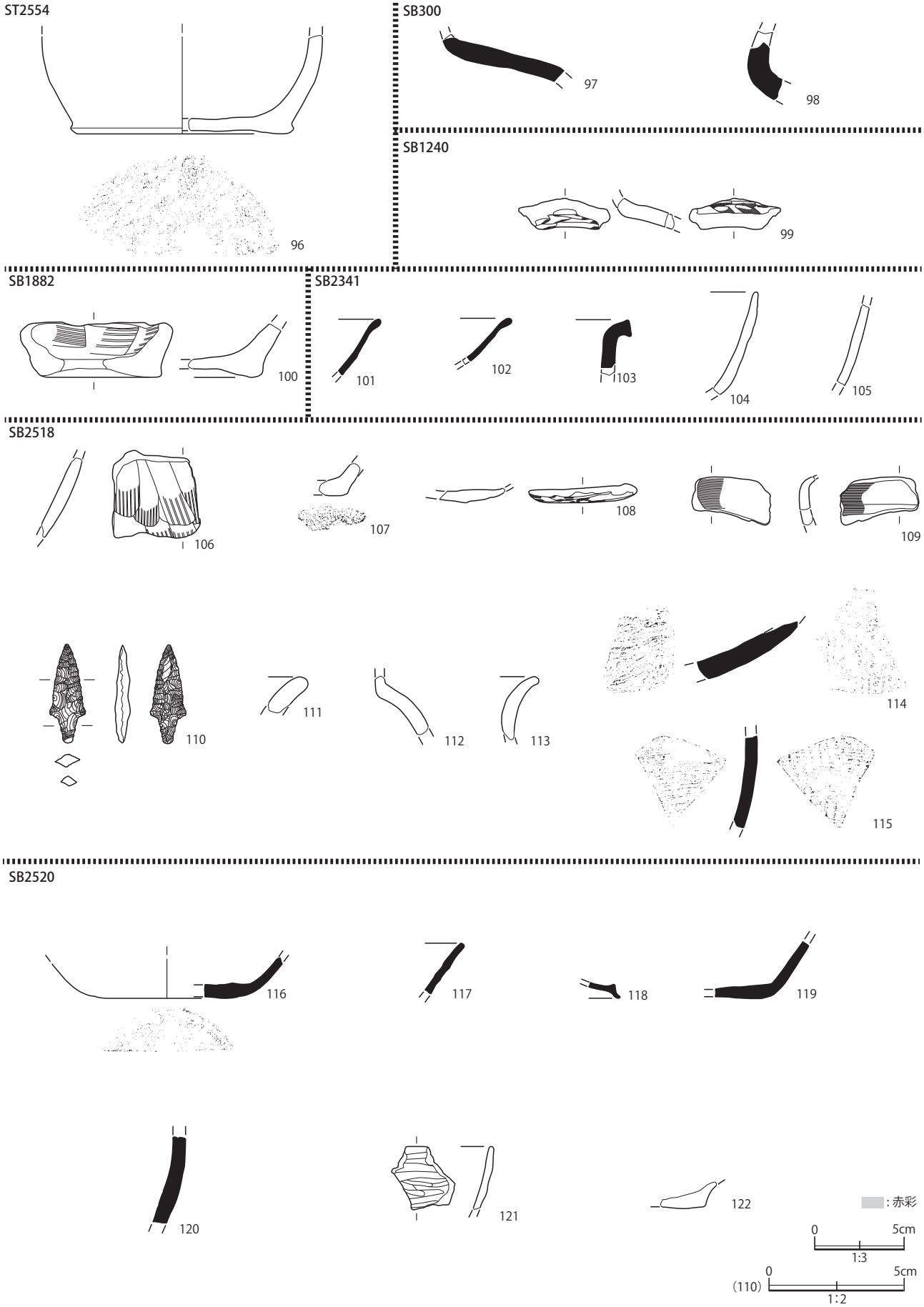
第 172 図　A 区　竪穴建物 ST1554・2361 出土遺物



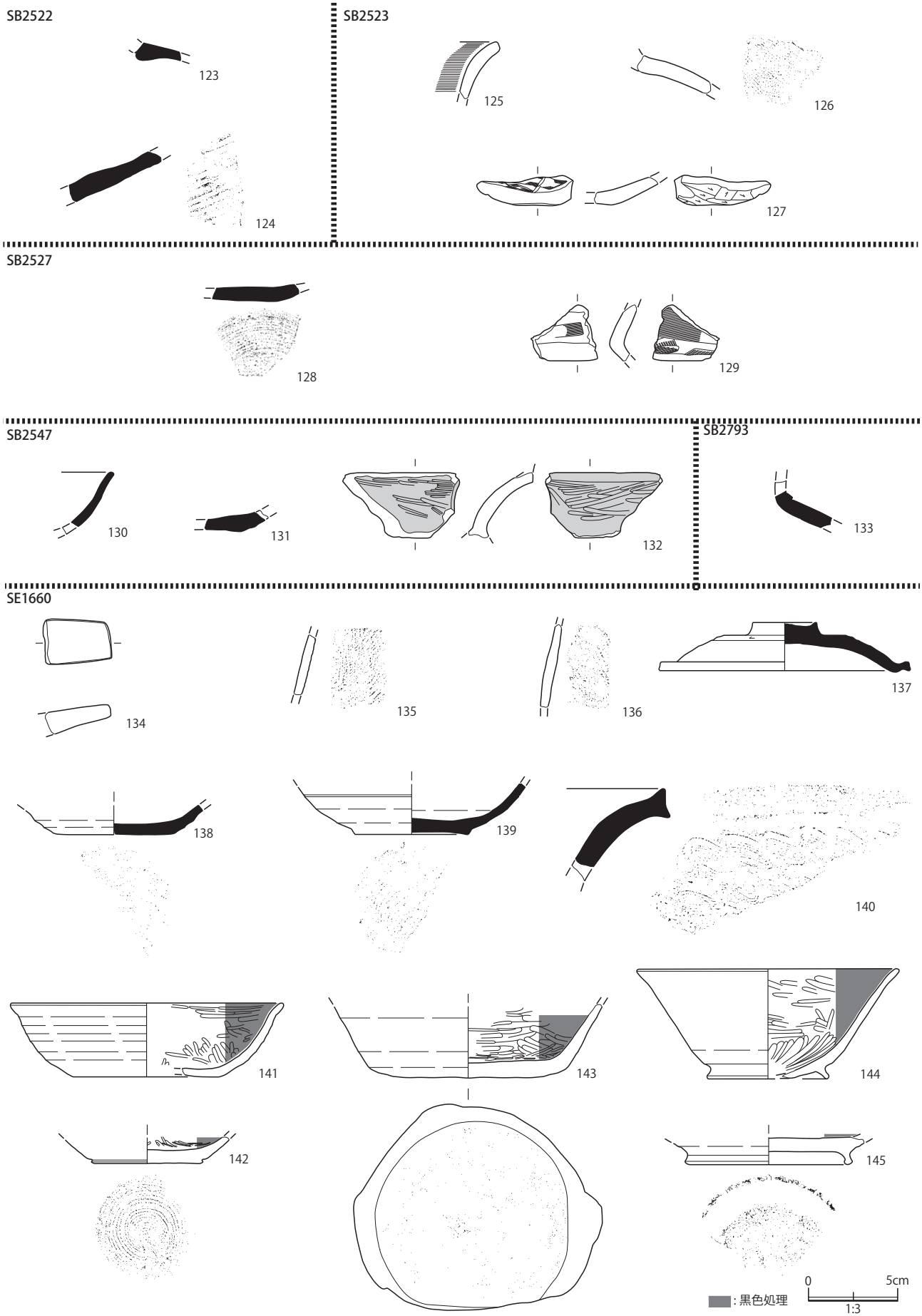
第 173 図　A 区　竪穴建物 ST2361 出土遺物



第 174 図　A 区　竪穴建物 ST2361・2554 出土遺物

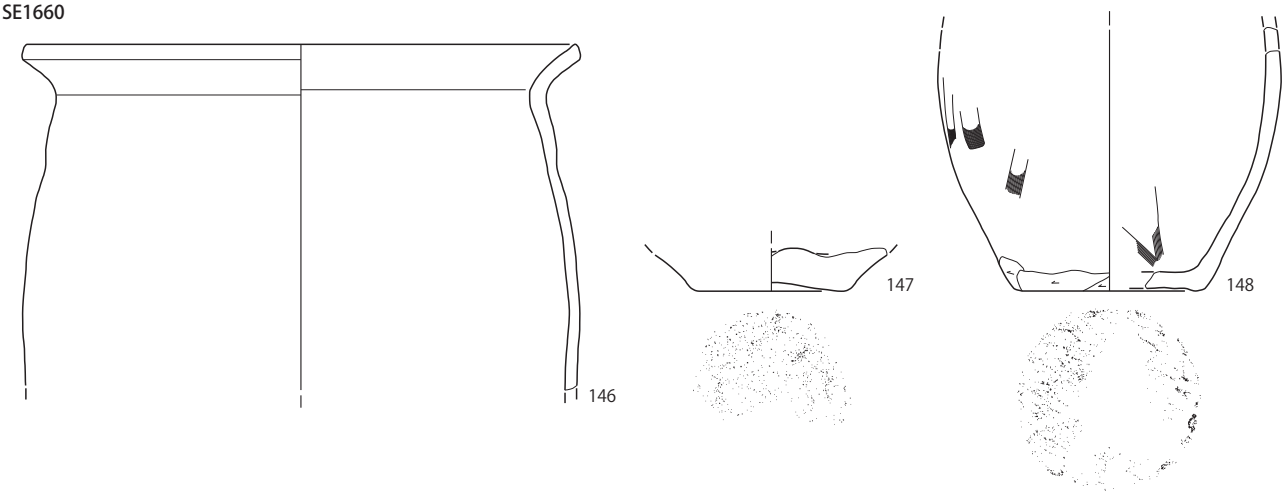


第 175 図　A 区　竪穴建物 ST2554・掘立柱建物 SB300・1240・1882・1883・2341・2518 出土遺物

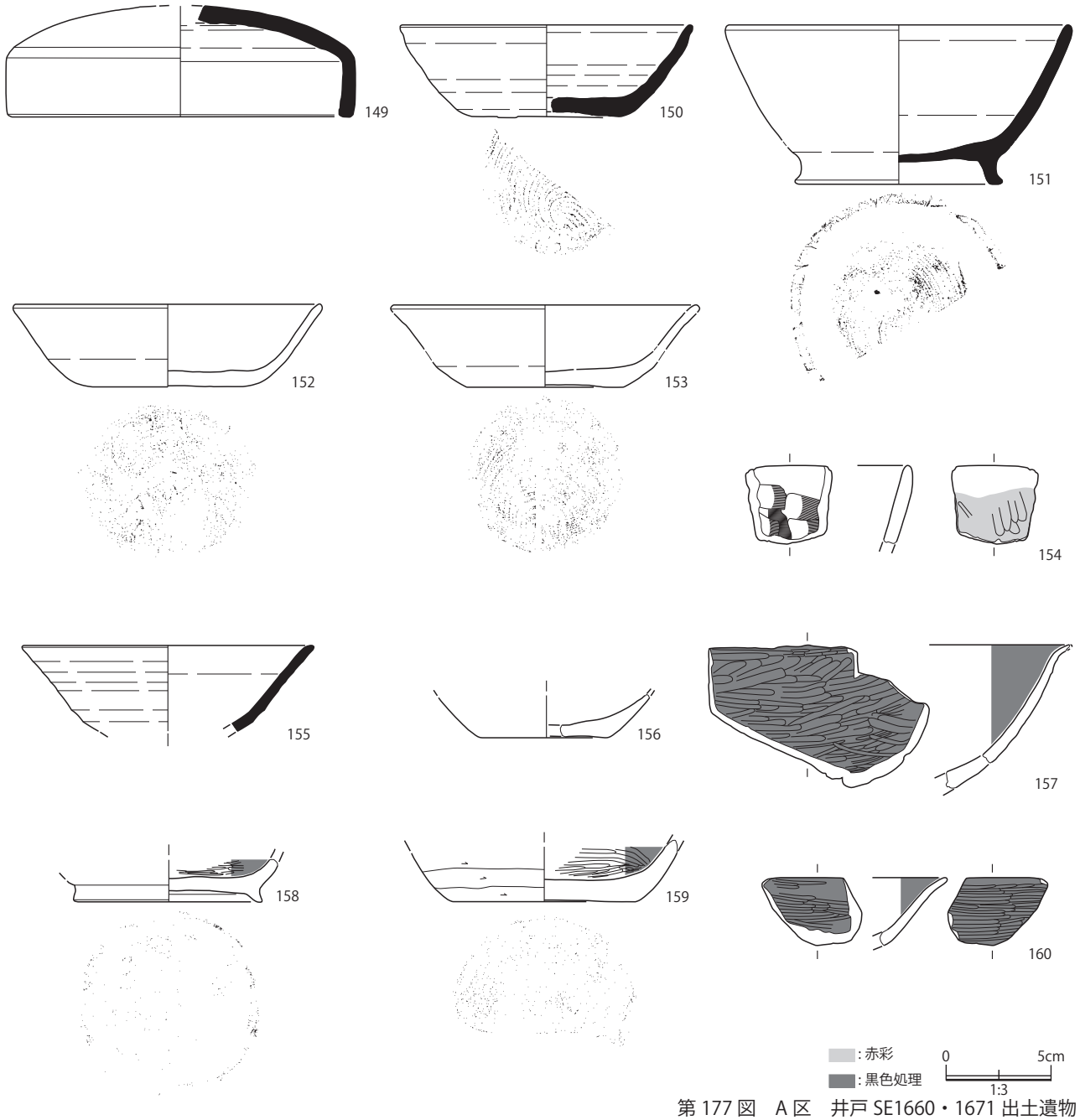


第 176 図　A 区　掘立柱建物 SB2520・2523・2527・2547・2793・井戸 SE1660 出土遺物

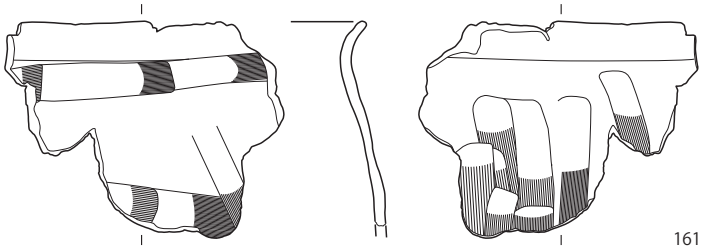
SE1660

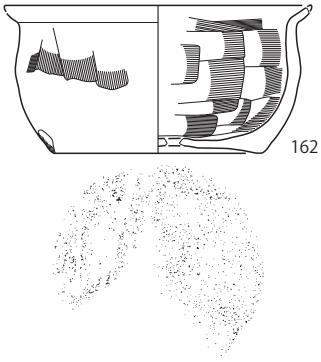


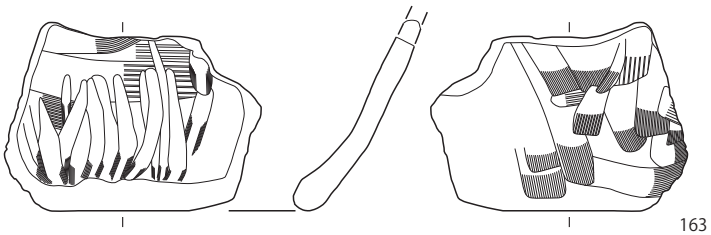
SE1671

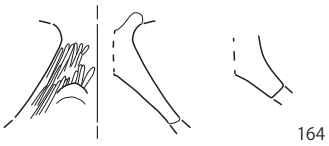


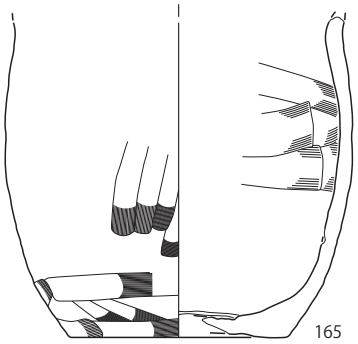
第 177 図　A 区　井戸 SE1660・1671 出土遺物

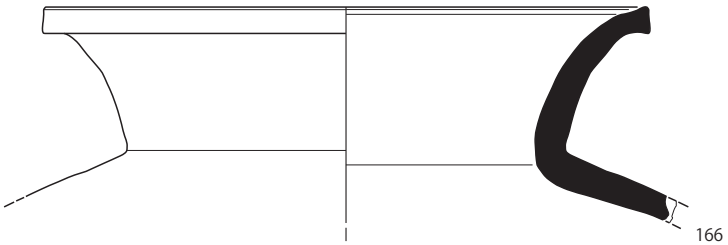

161


162

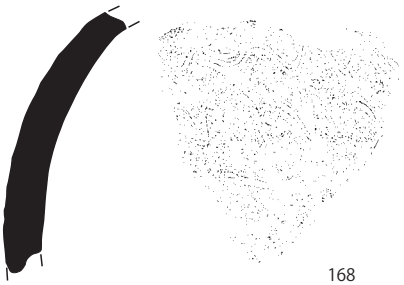

163

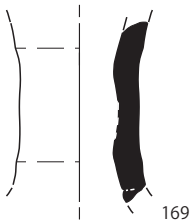

164


165


166

167

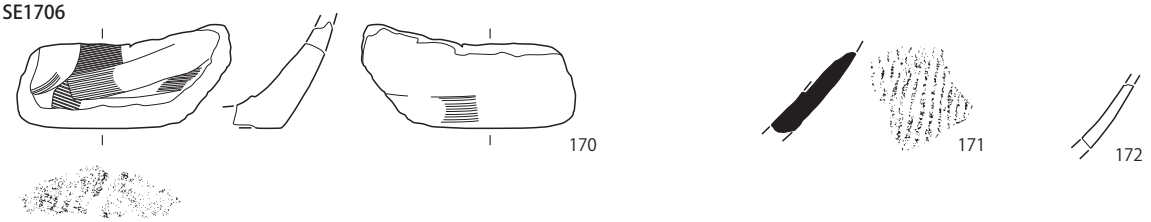

168


169

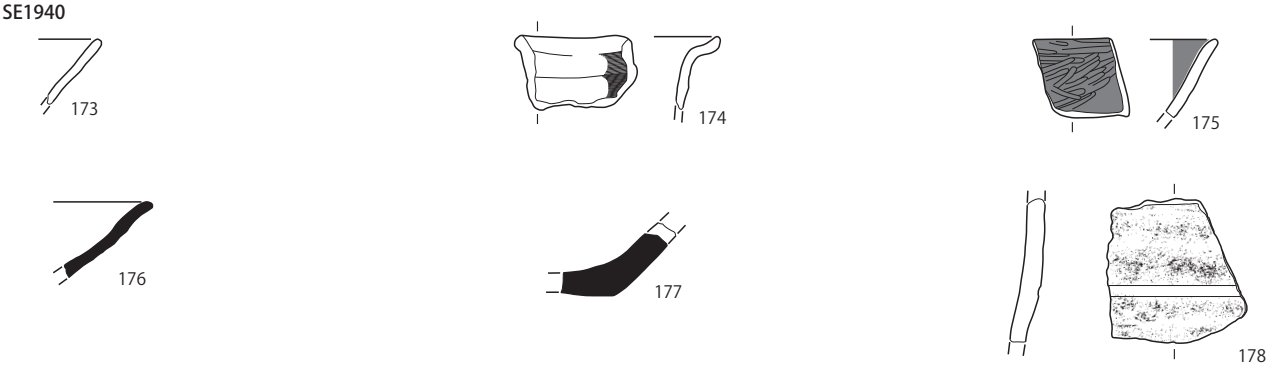
0　5cm
1:3

第 178 図　A 区　井戸 SE1671 出土遺物

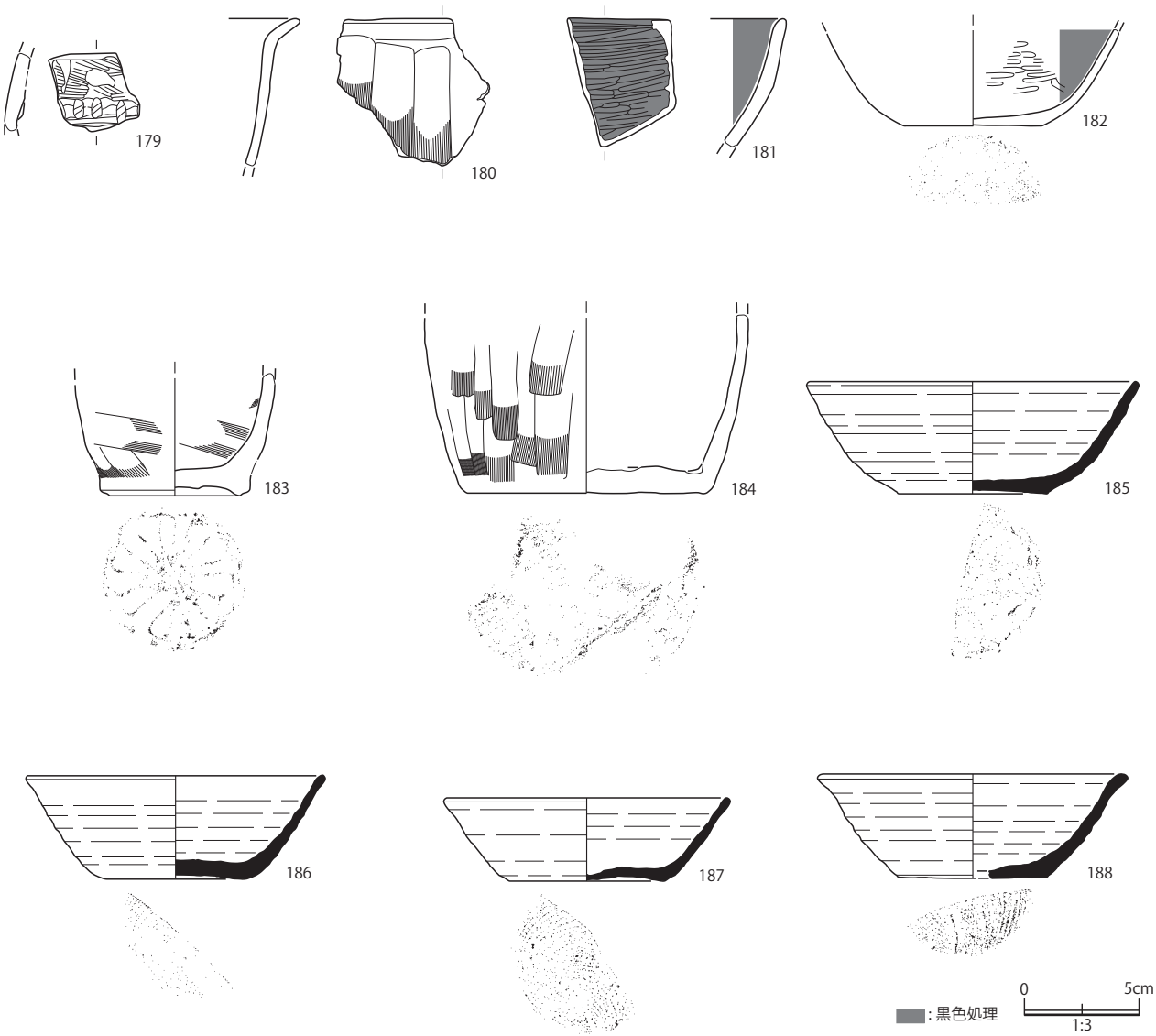
SE1706



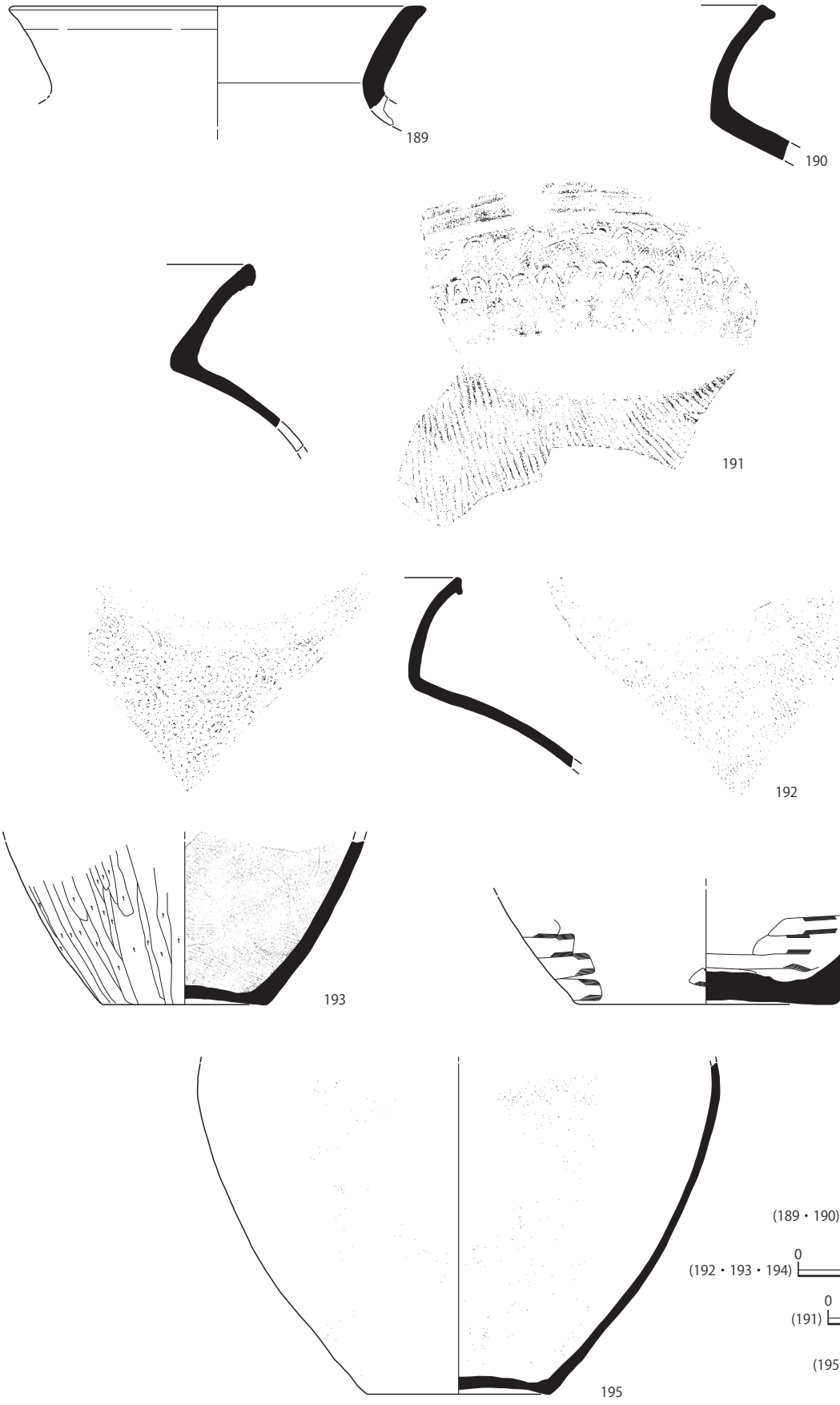
SE1940



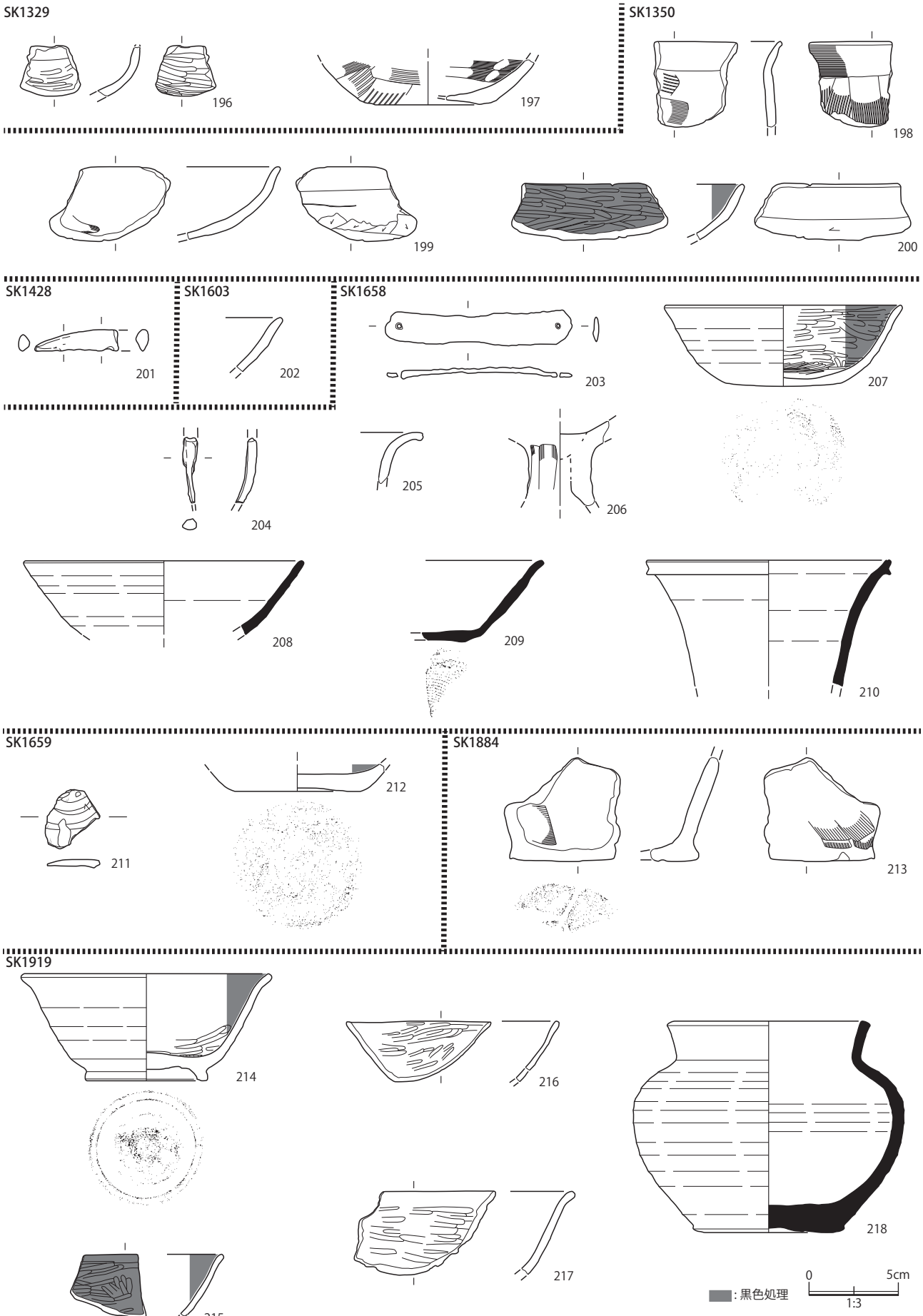
SE2081



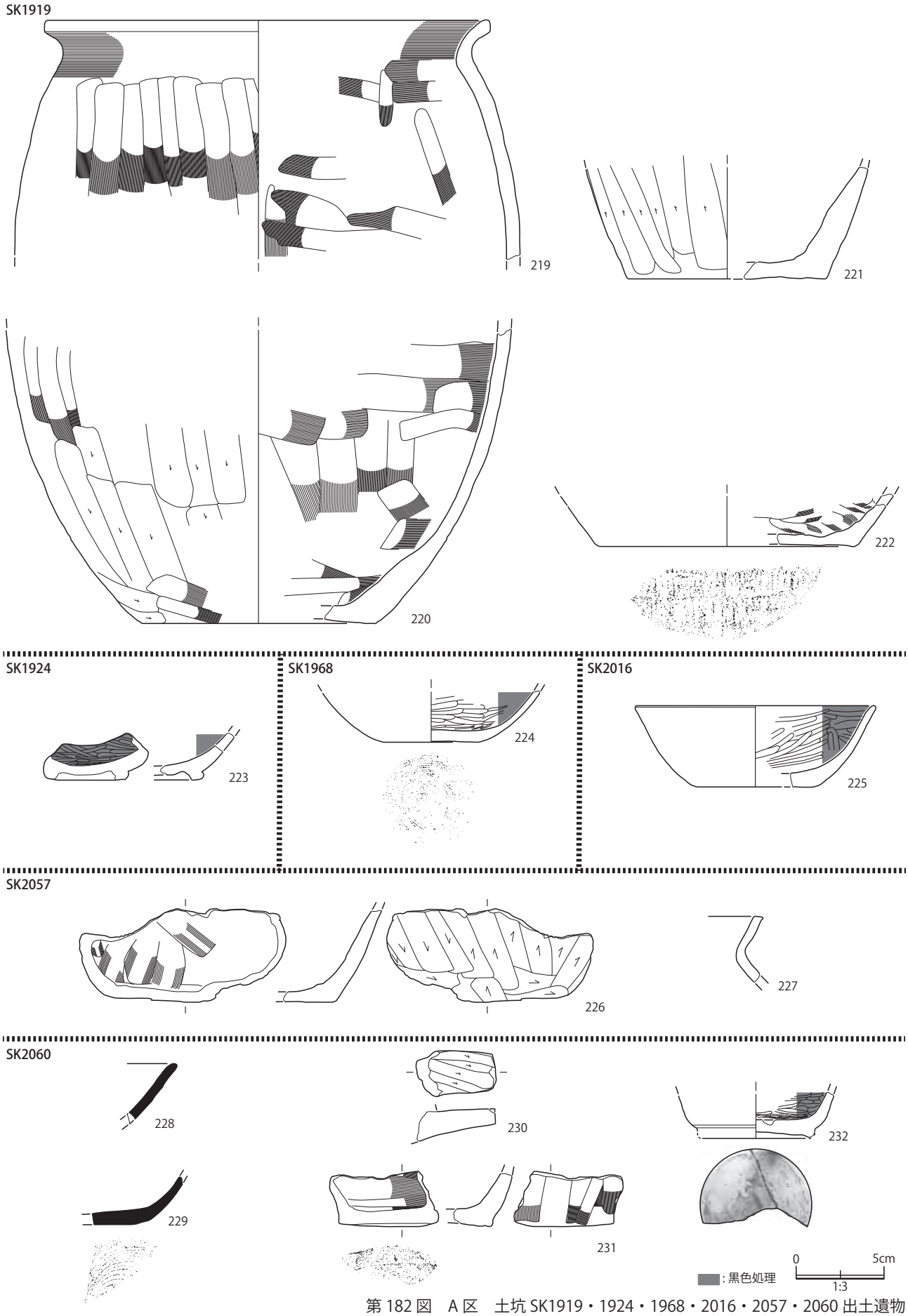
第 179 図　A 区　井戸 SE1706・1940・2081 出土遺物



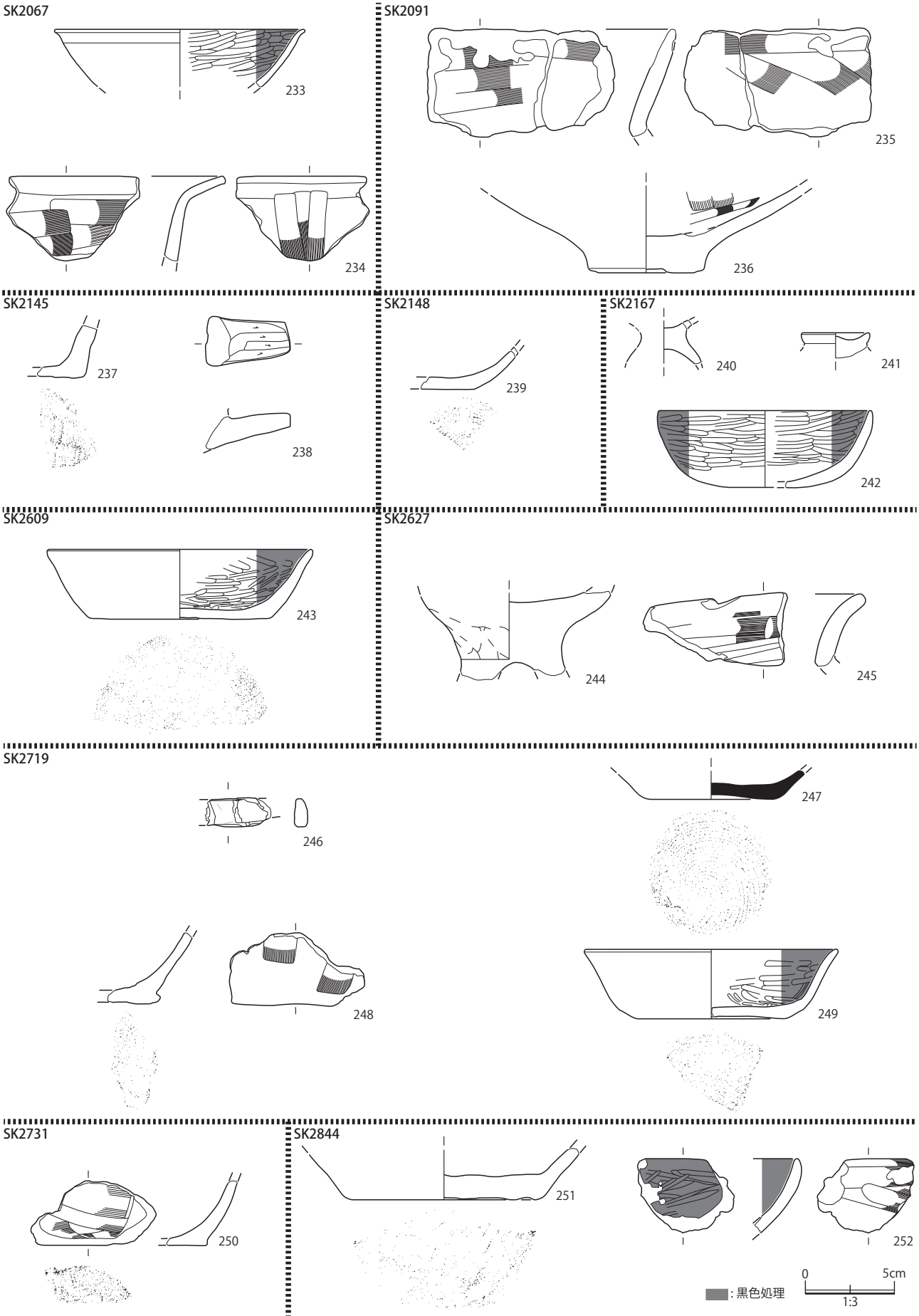
第 180 図　A 区　井戸 SE2081 出土遺物



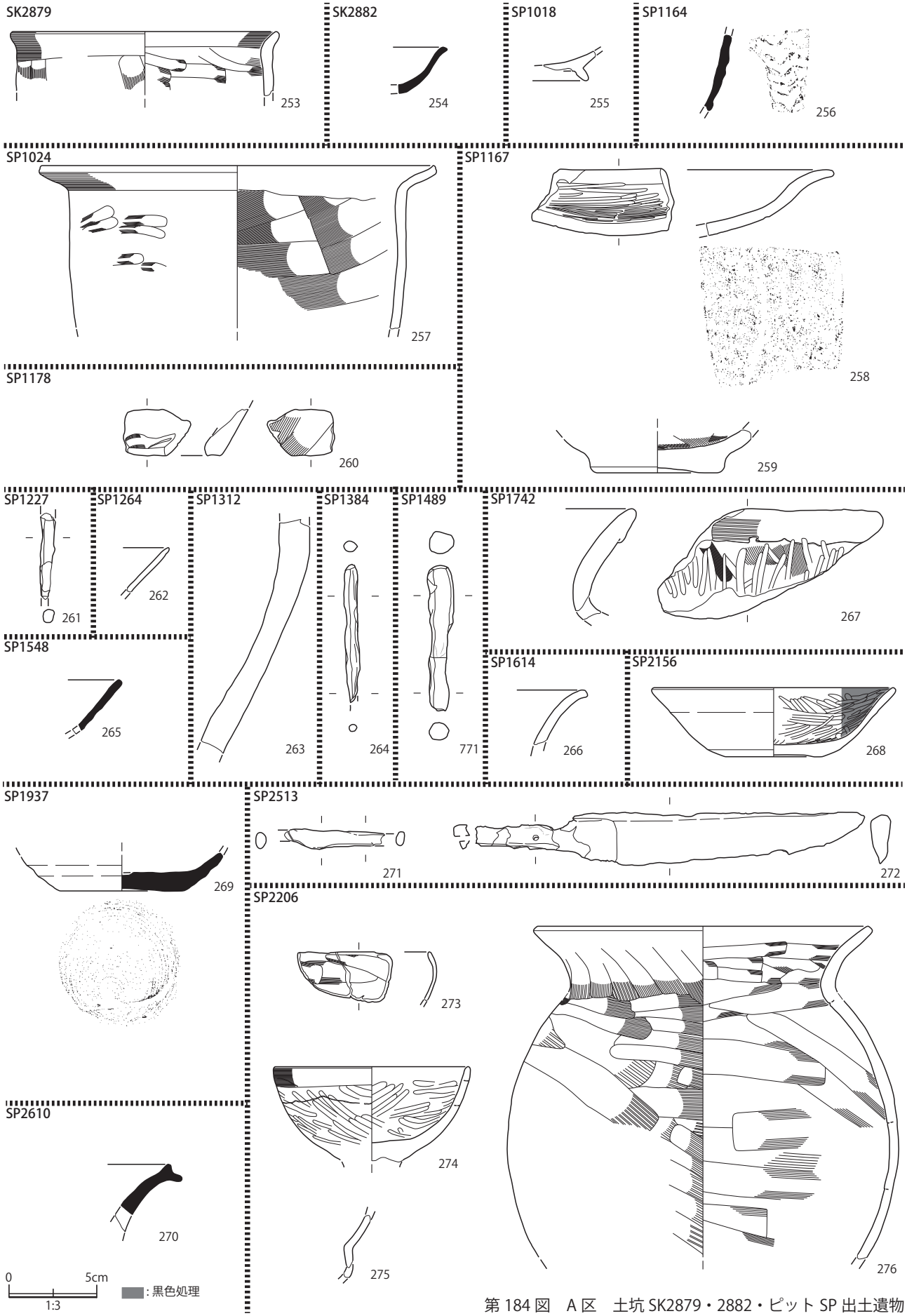
第 181 図　A 区　土坑 SK1329・1350・1428・1603・1658・1659・1884・1919 出土遺物



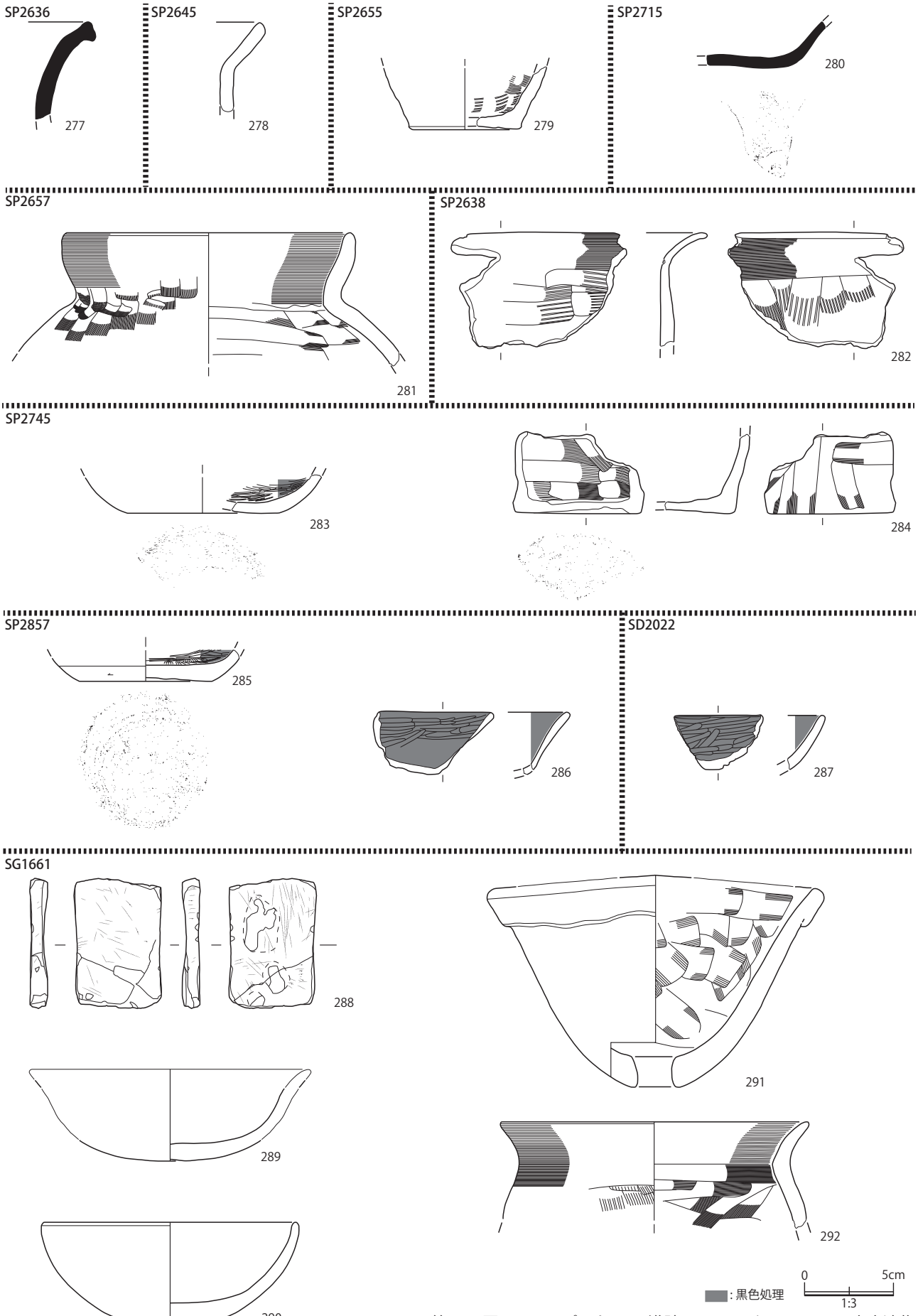
第 182 図　A 区　土坑 SK1919・1924・1968・2016・2057・2060 出土遺物



第 183 図　A 区　土坑 SK2067・2091・2145・2148・2167・2609・2627・2719・2731・2844 出土遺物

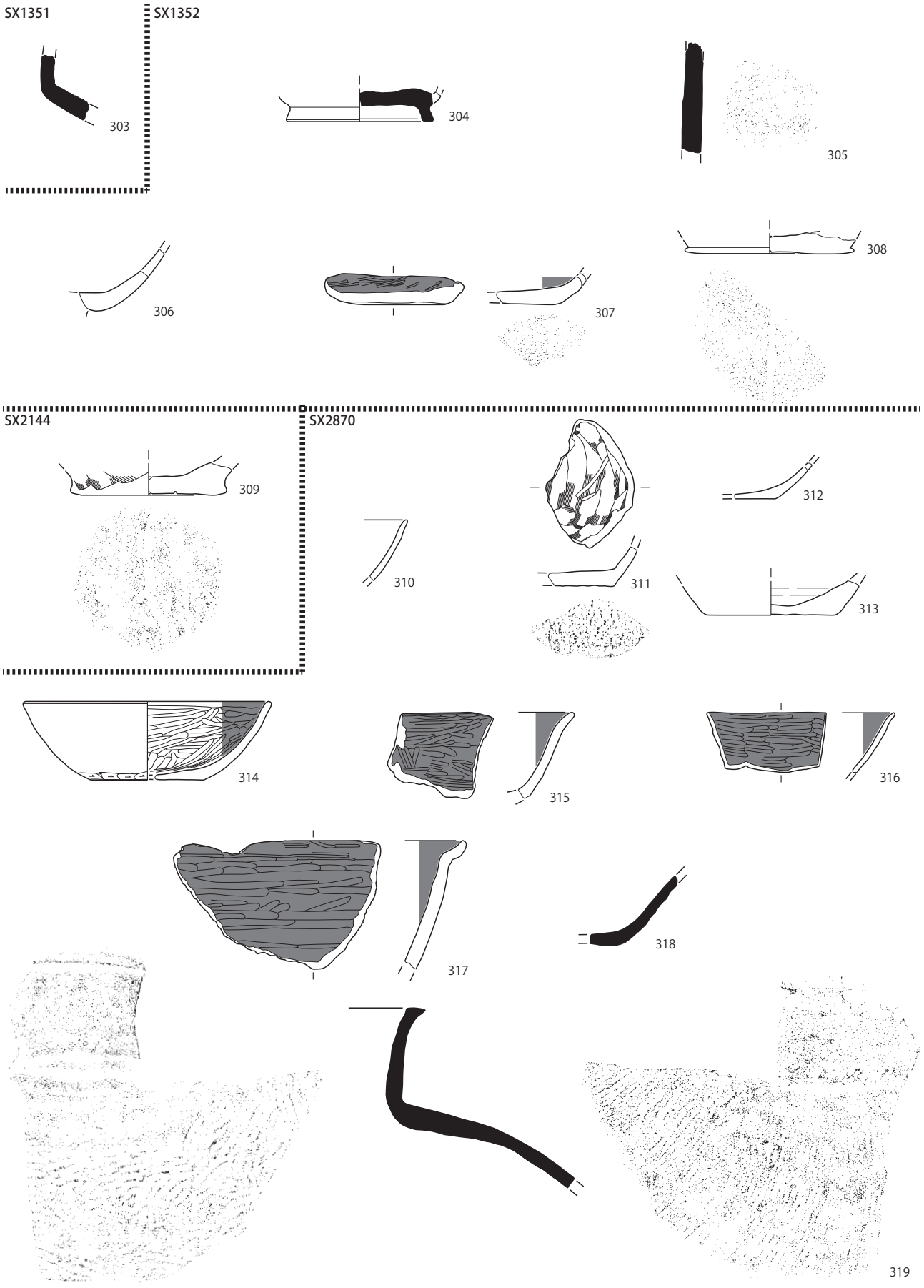


第 184 図　A 区　土坑 SK2879・2882・ピット SP 出土遺物



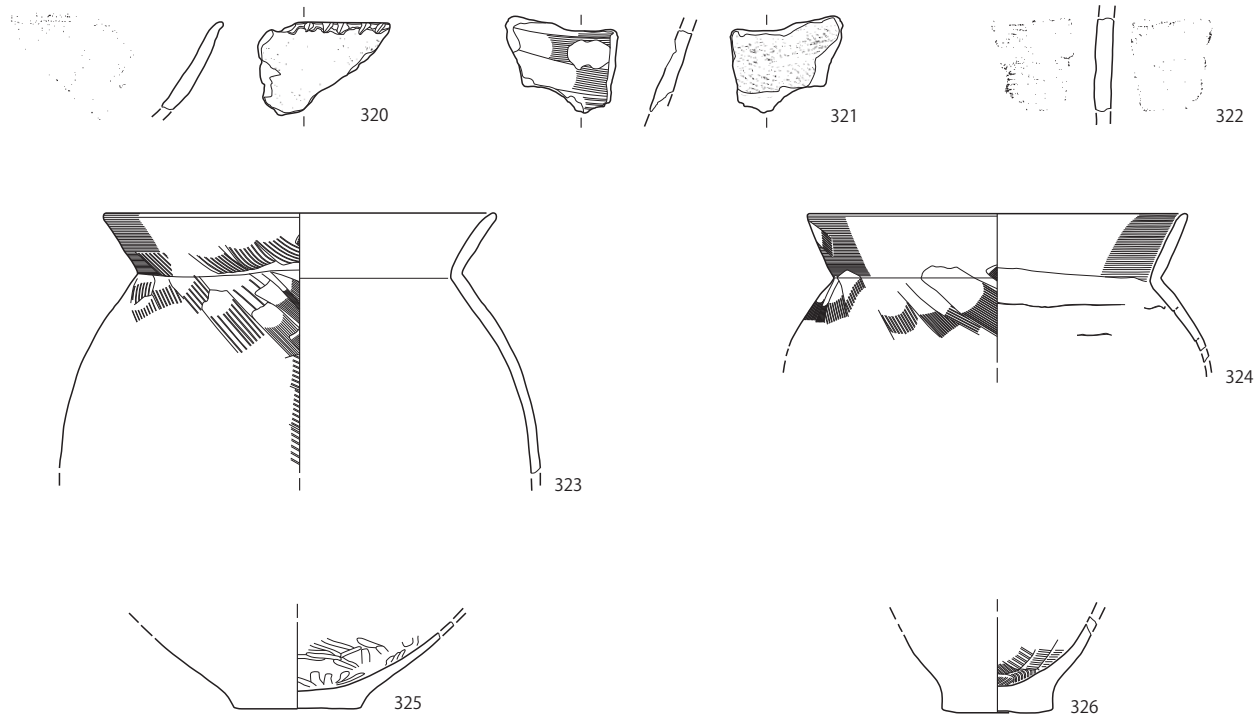
第 185 図　A 区　ピット SP・溝跡 SD2022・河川 SG1661 出土遺物

第 186 図　A 区　河川 SG1661 出土遺物

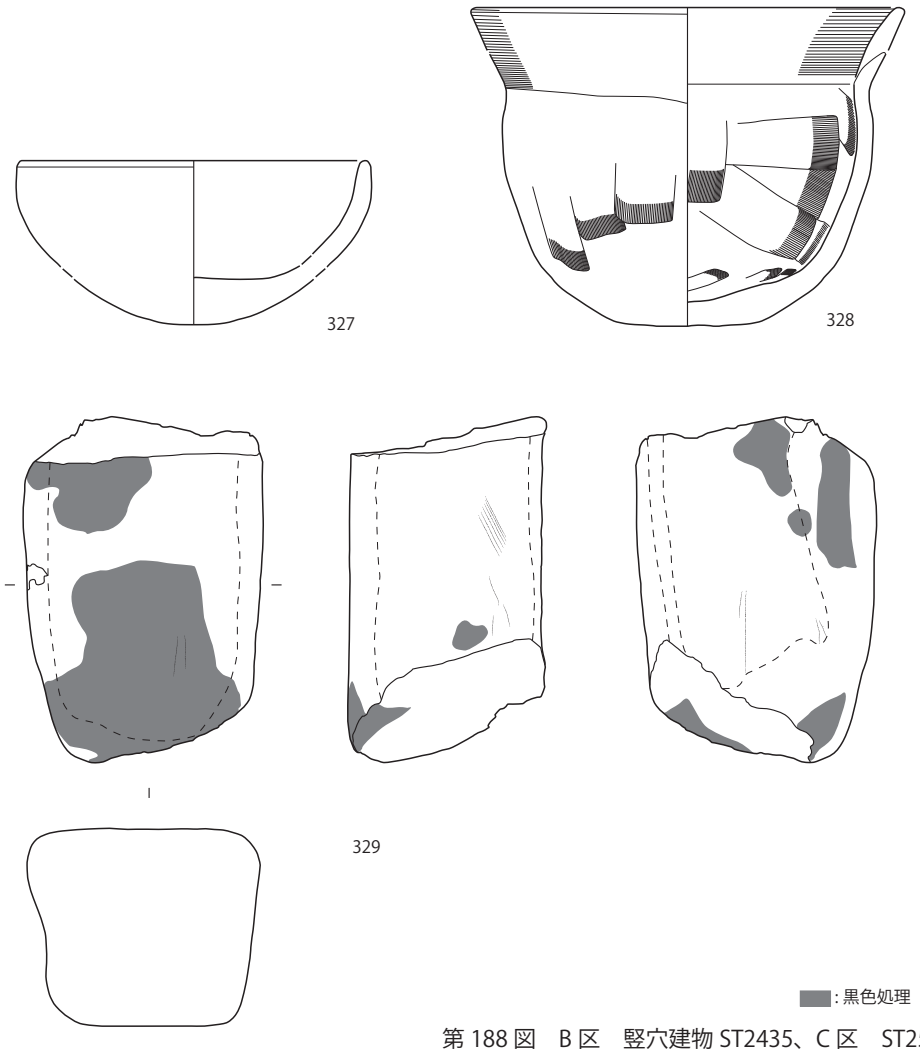


第 187 図　A 区　性格不明遺構 SX1351・1352・2144・2870 出土遺物

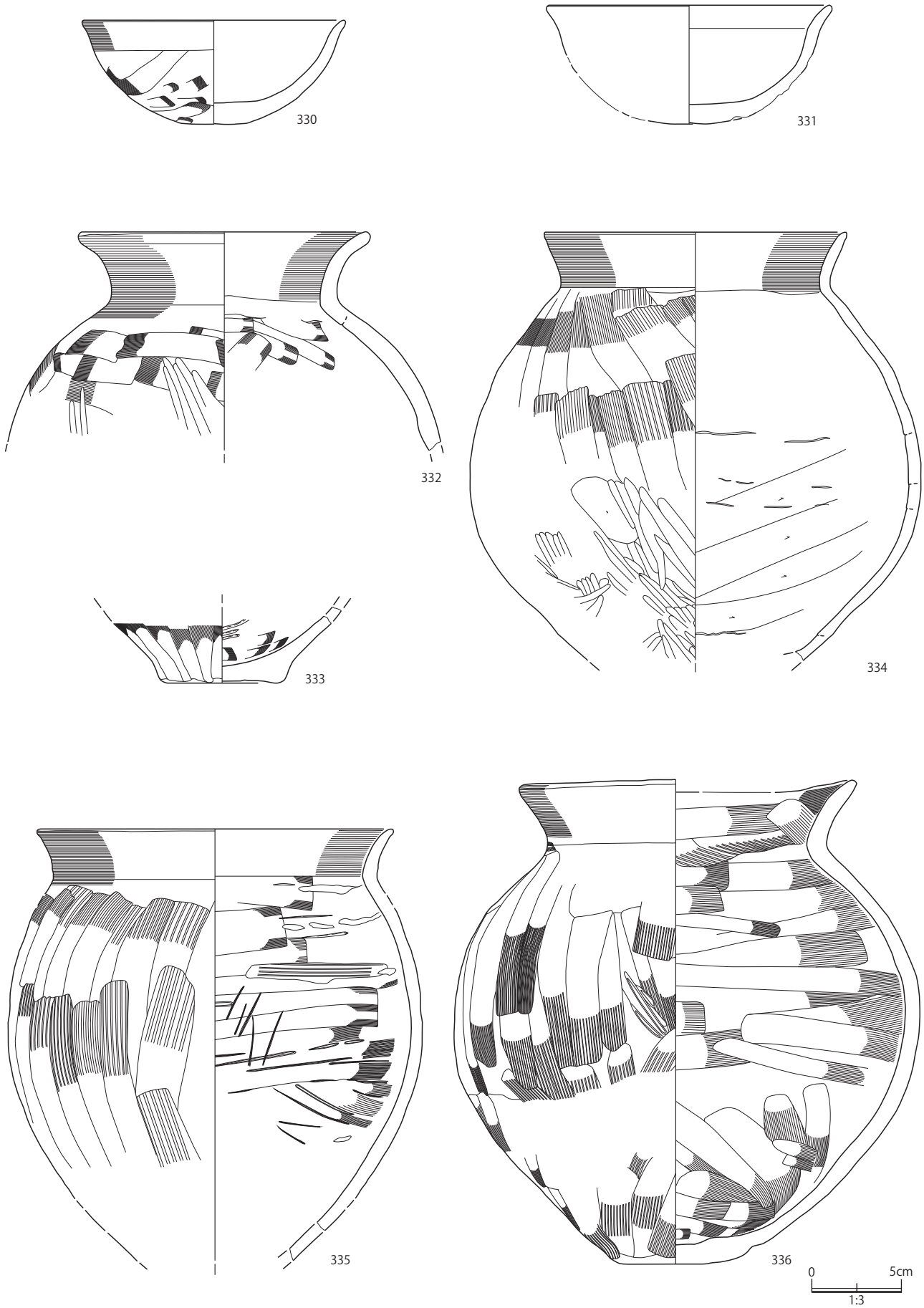
ST2435



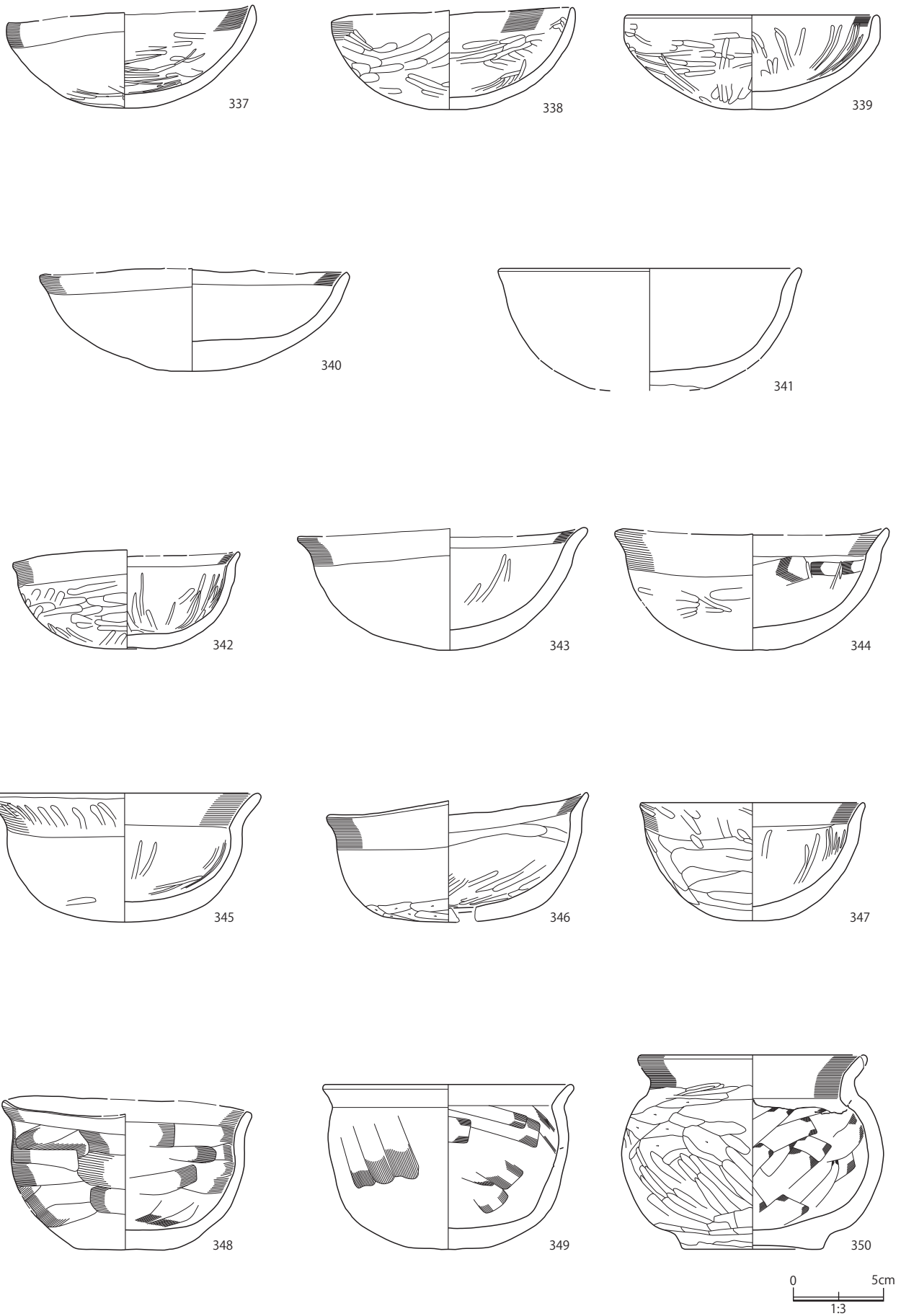
ST250



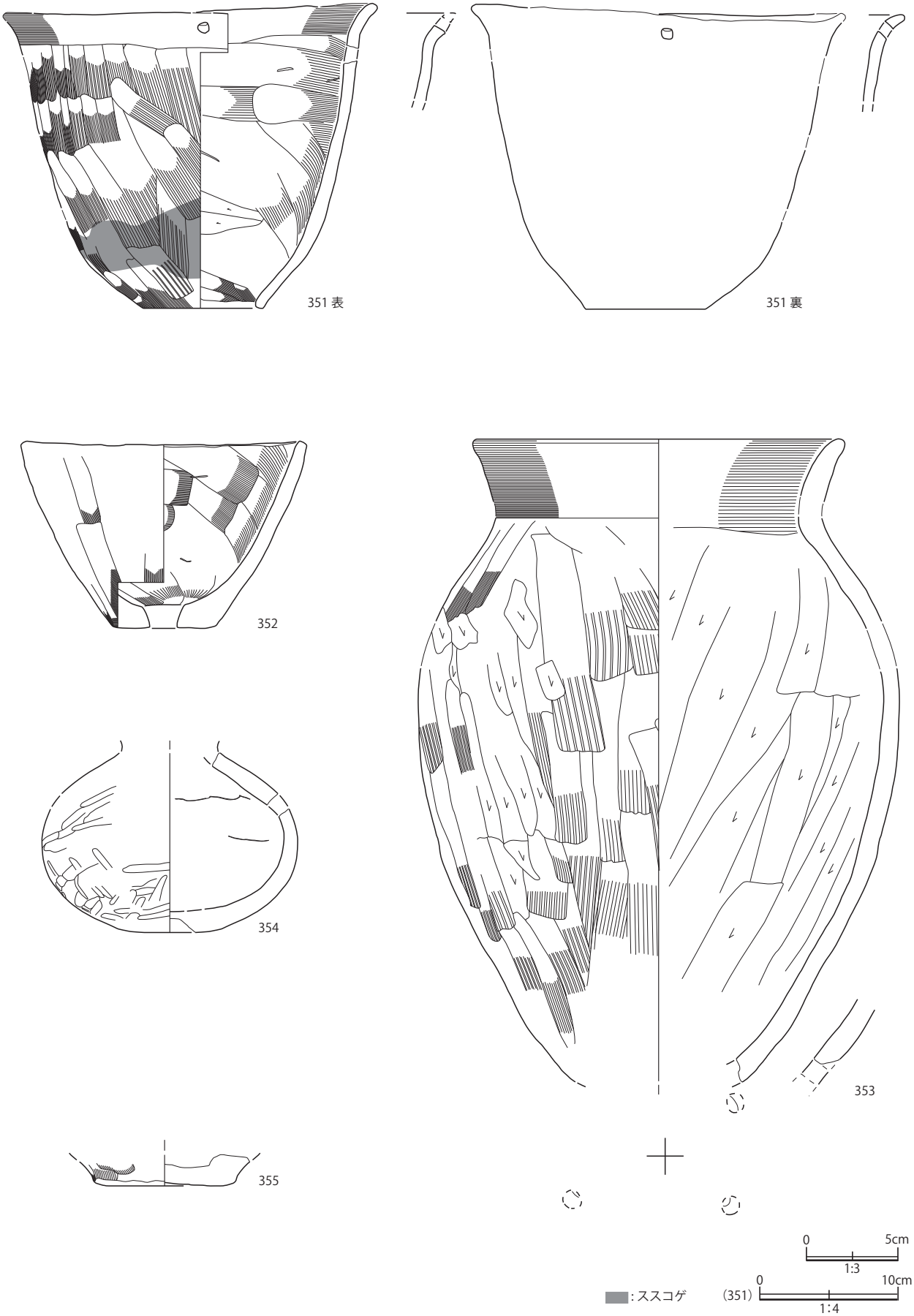
第 188 図　B 区　竪穴建物 ST2435、C 区　ST250 出土遺物（1）



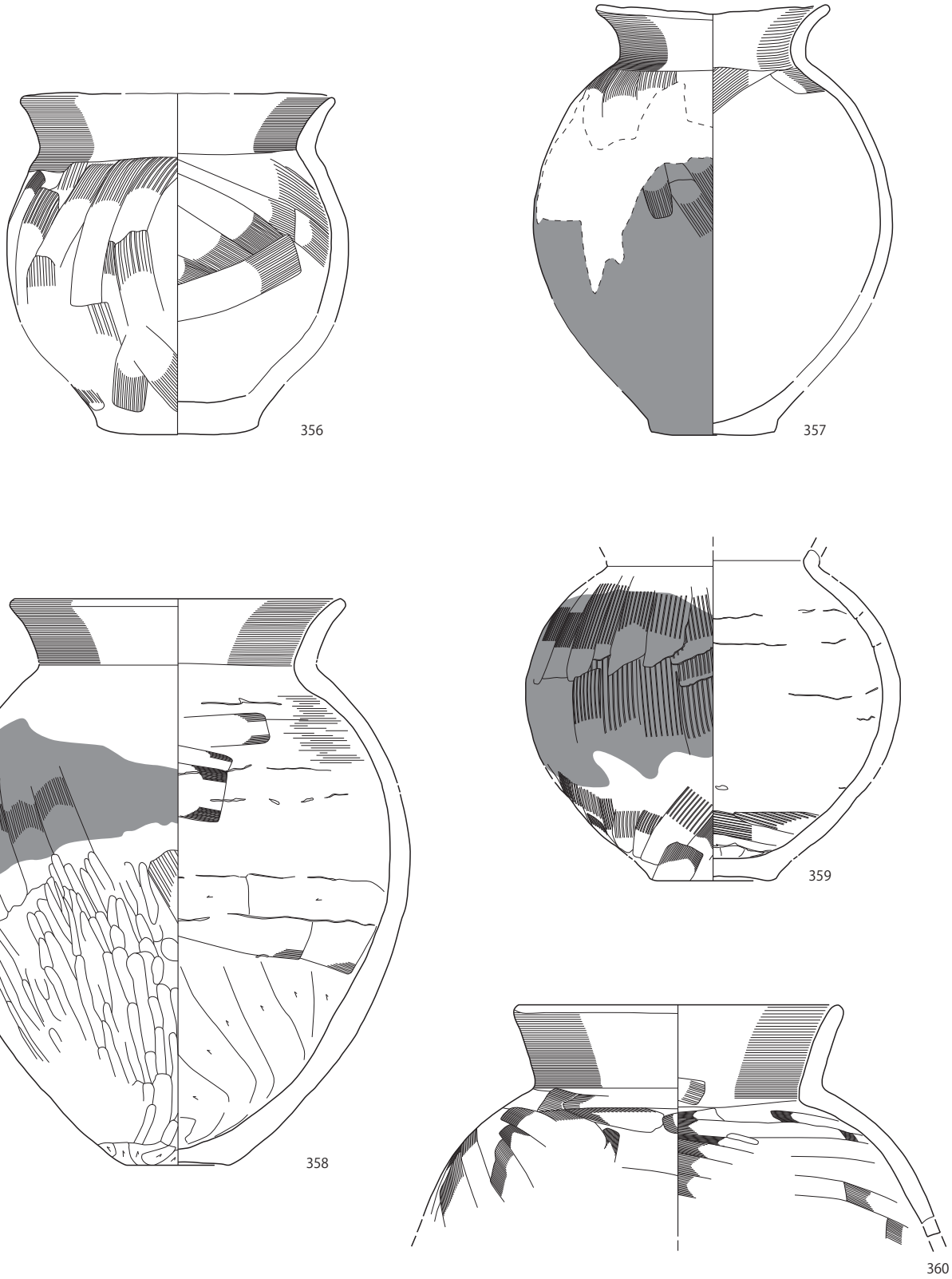
第 189 図　C 区　竪穴建物 ST250 出土遺物（2）



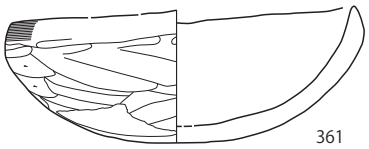
第 190 図　C 区　竪穴建物 ST250 出土遺物（3）

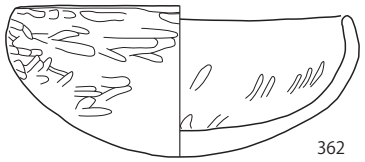


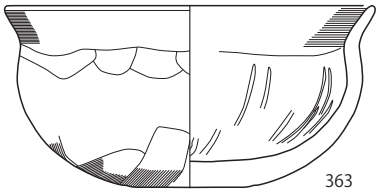
第 191 図　C 区　竪穴建物 ST250 出土遺物（4）

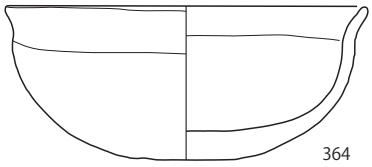


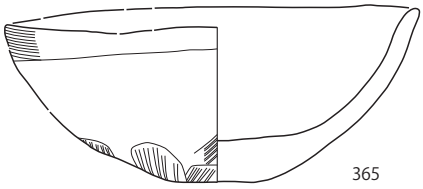
第 192 図　C 区　竪穴建物 ST250 出土遺物（5）

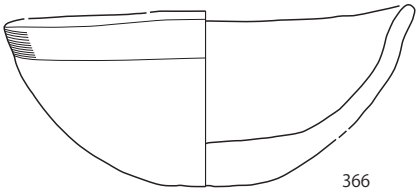


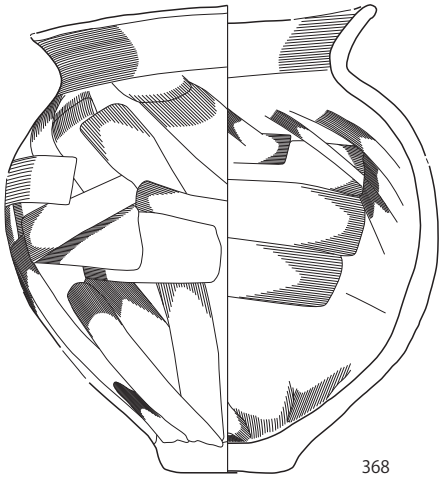


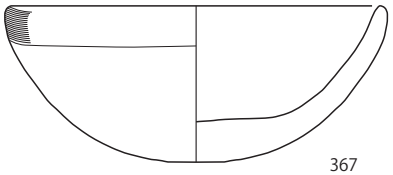


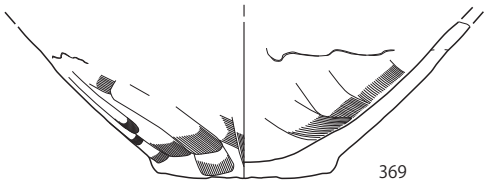


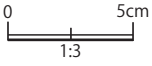




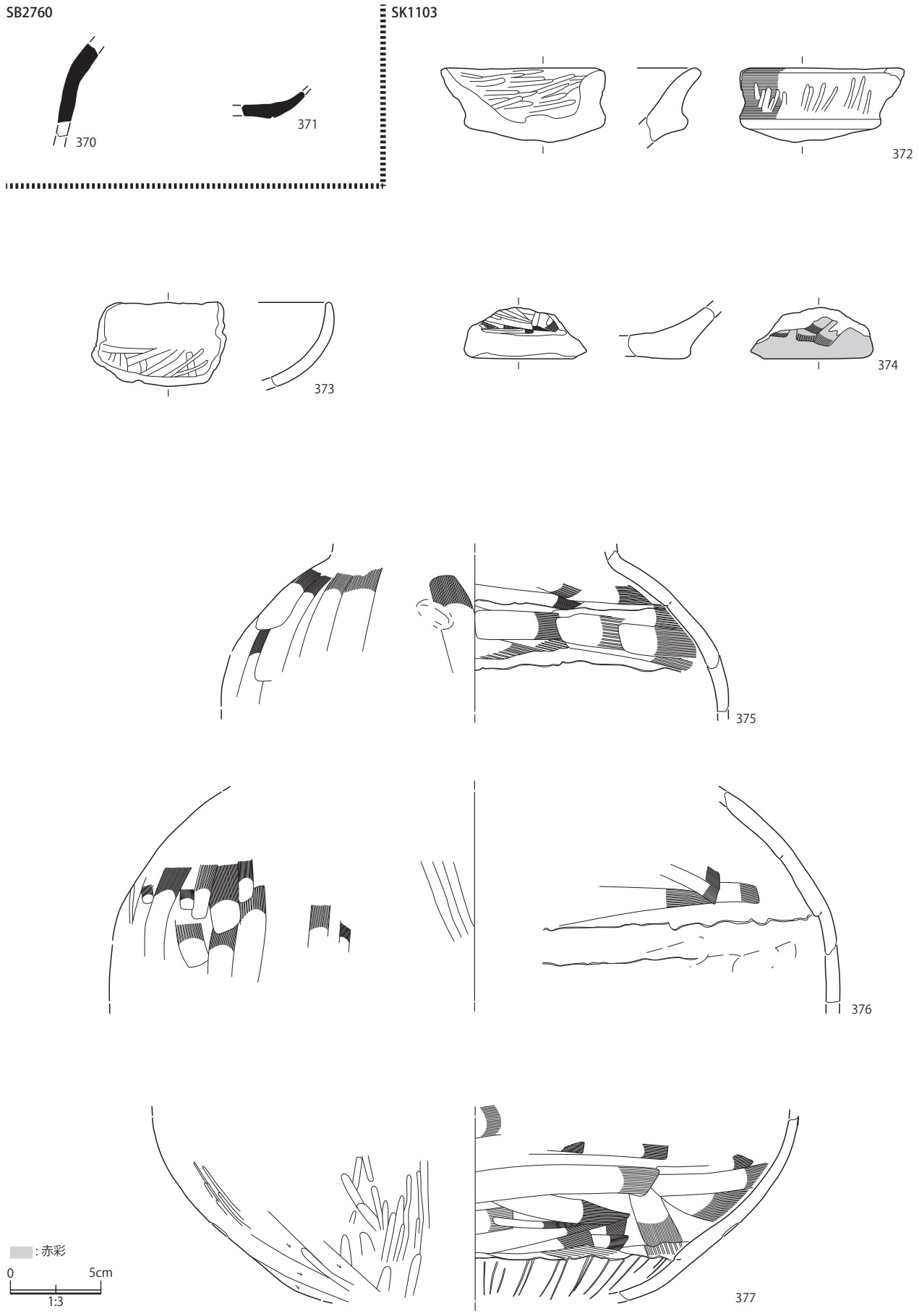






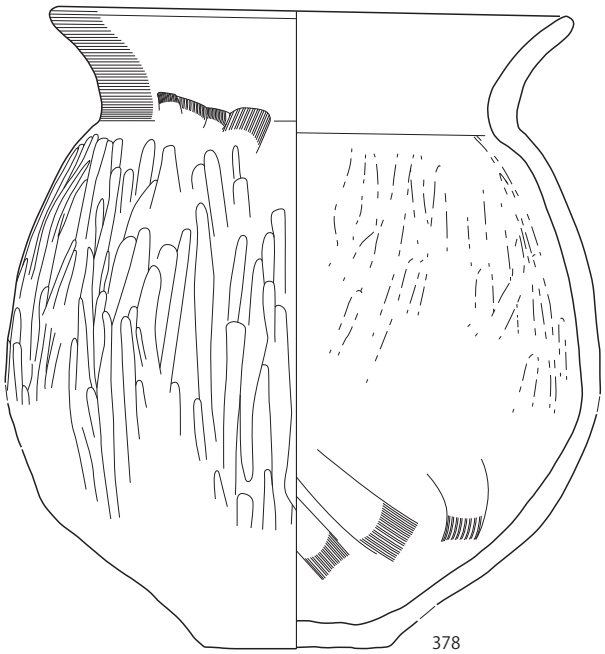


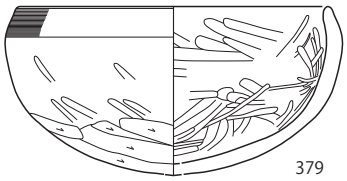
第 193 図　C 区　竪穴建物 ST250 出土遺物（6）

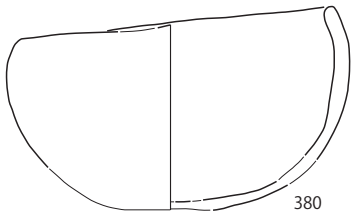


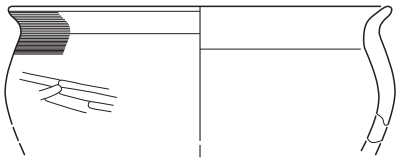
第 194 図　C 区　掘立柱建物 SB2760・土坑 SK1103 出土遺物

SK1103

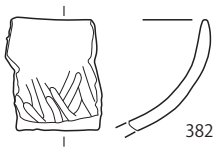


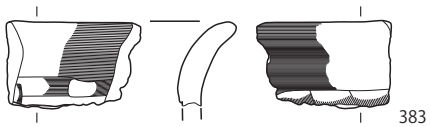




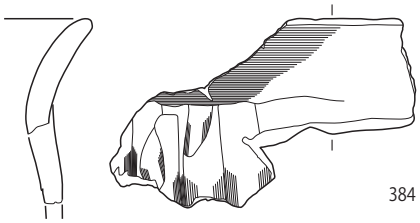


SK1104

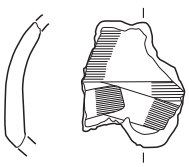




SK1259



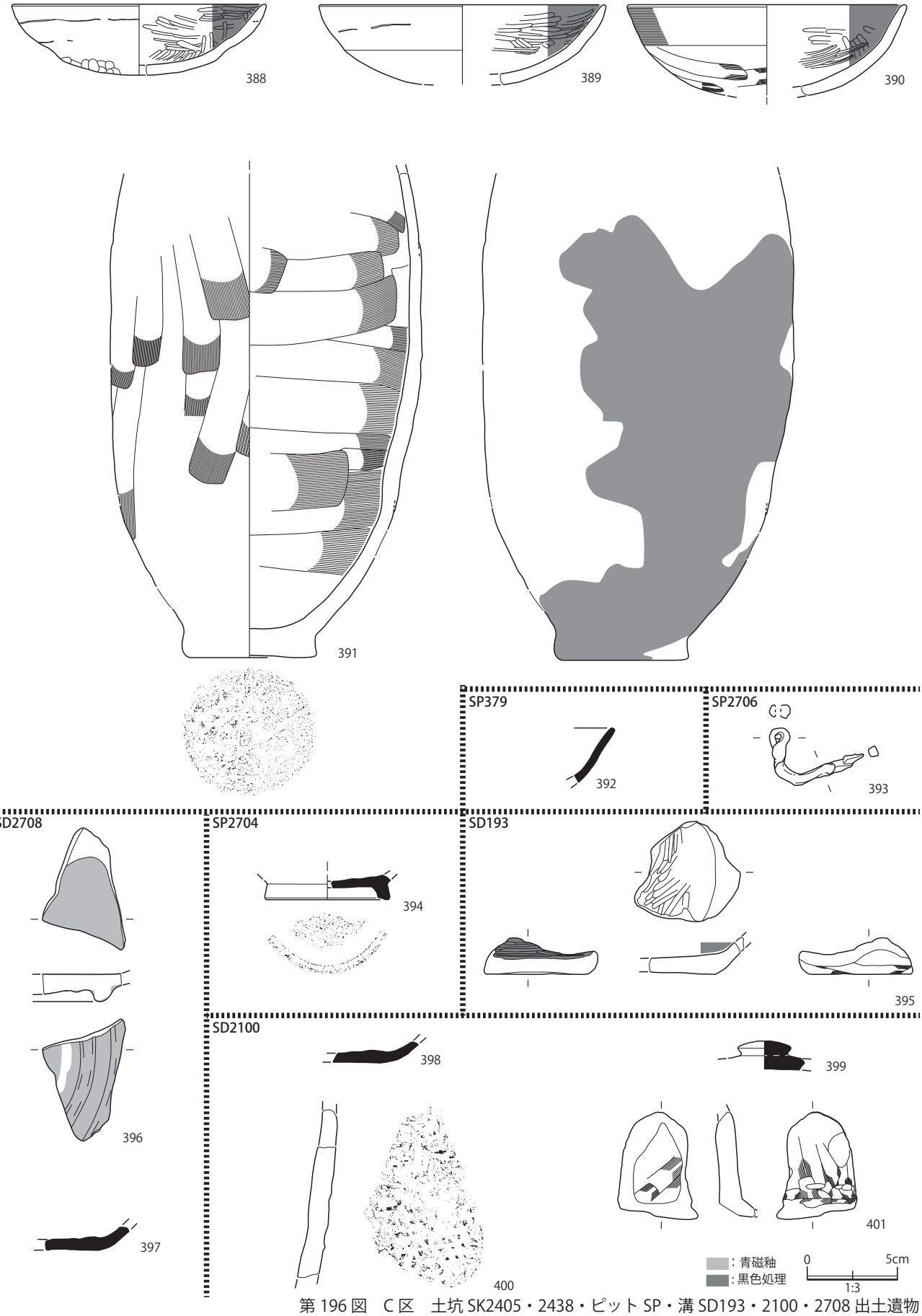
SK2380



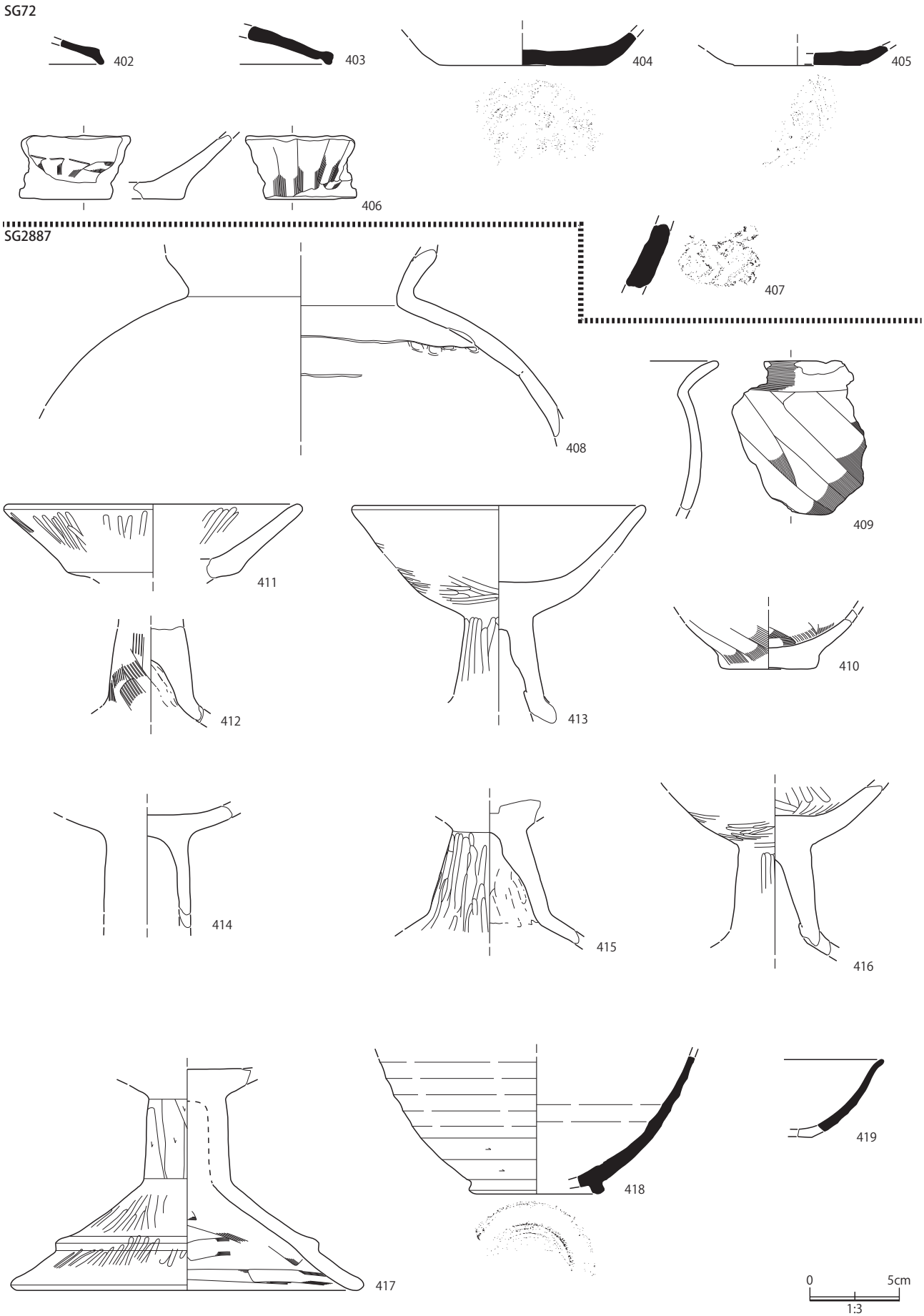
■: 黒色処理
0　5cm
1:3

第 195 図　C 区　土坑 SK1103・1104・1259・2380 出土遺物

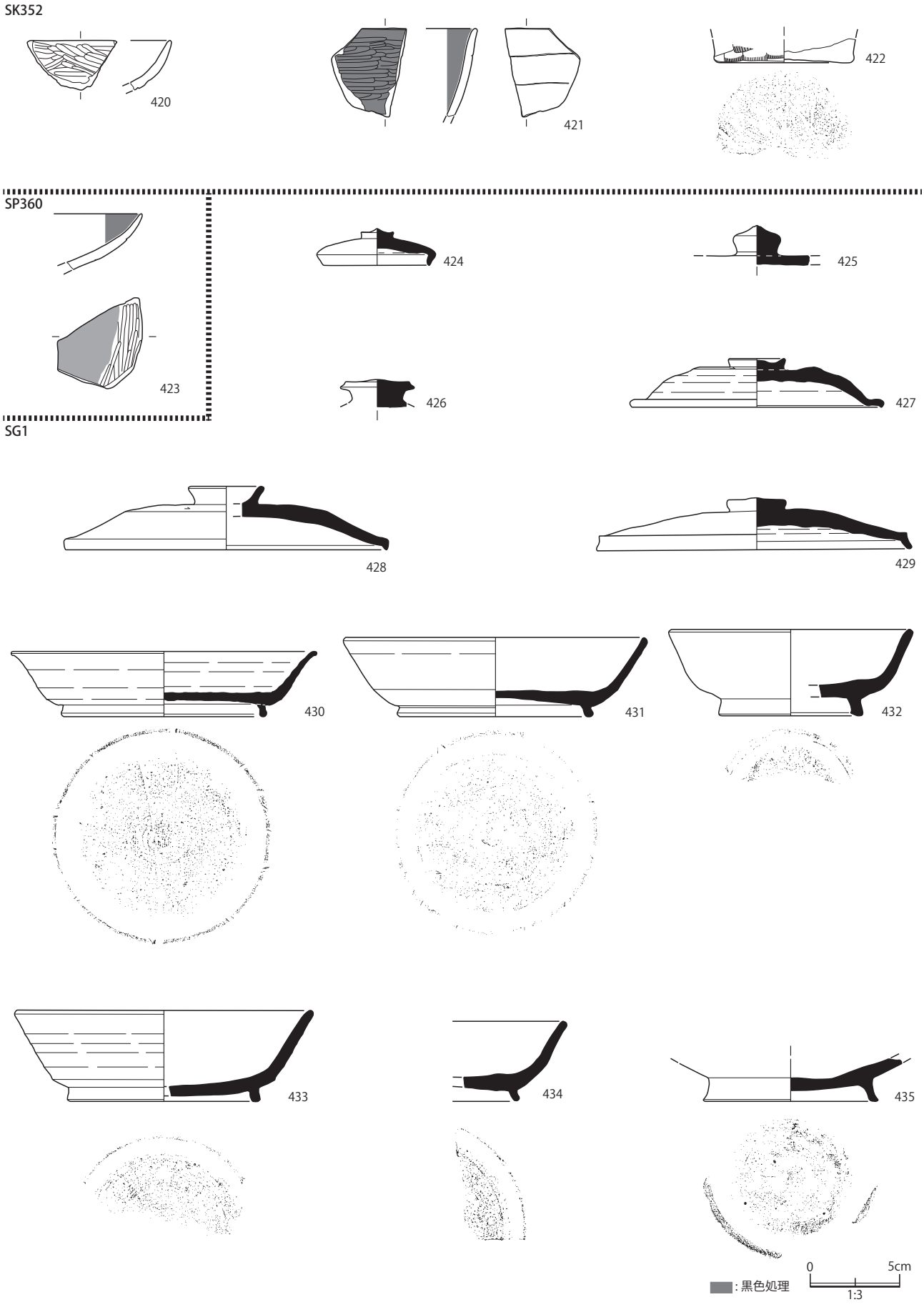
SK2405・2438



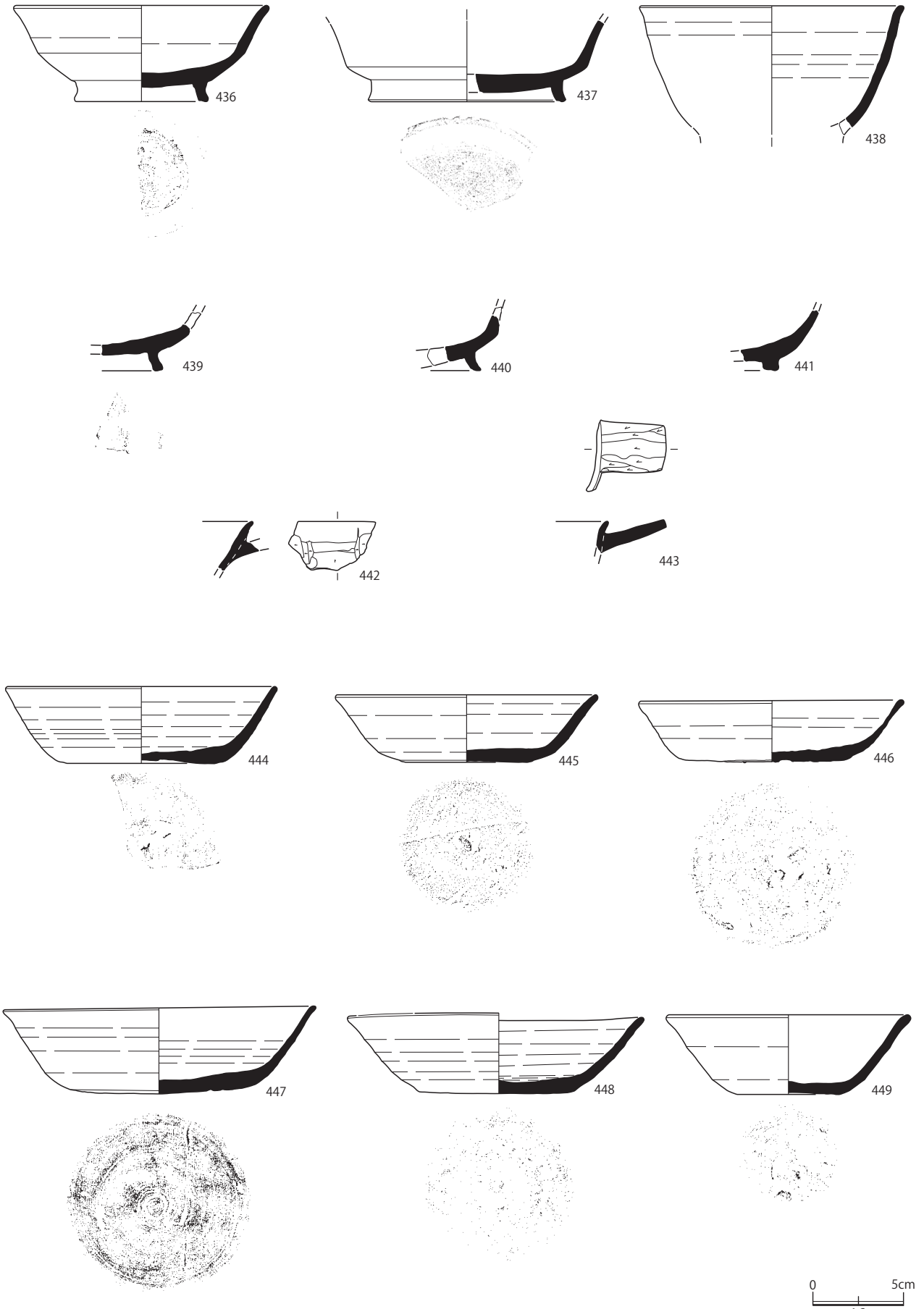
第 196 図　C 区　土坑 SK2405・2438・ピット SP・溝 SD193・2100・2708 出土遺物



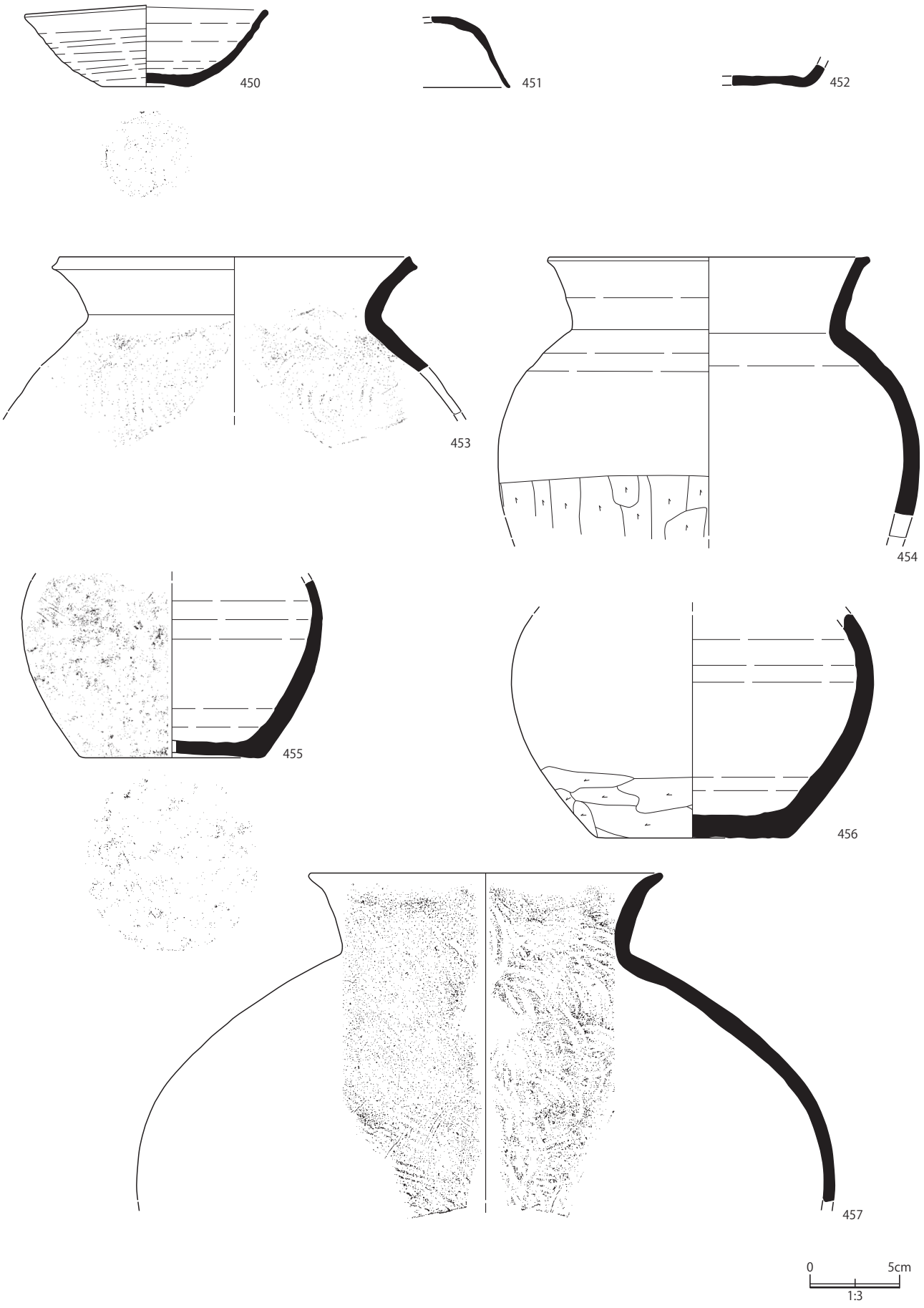
第 197 図　C 区　河川 SG72・2887 出土遺物



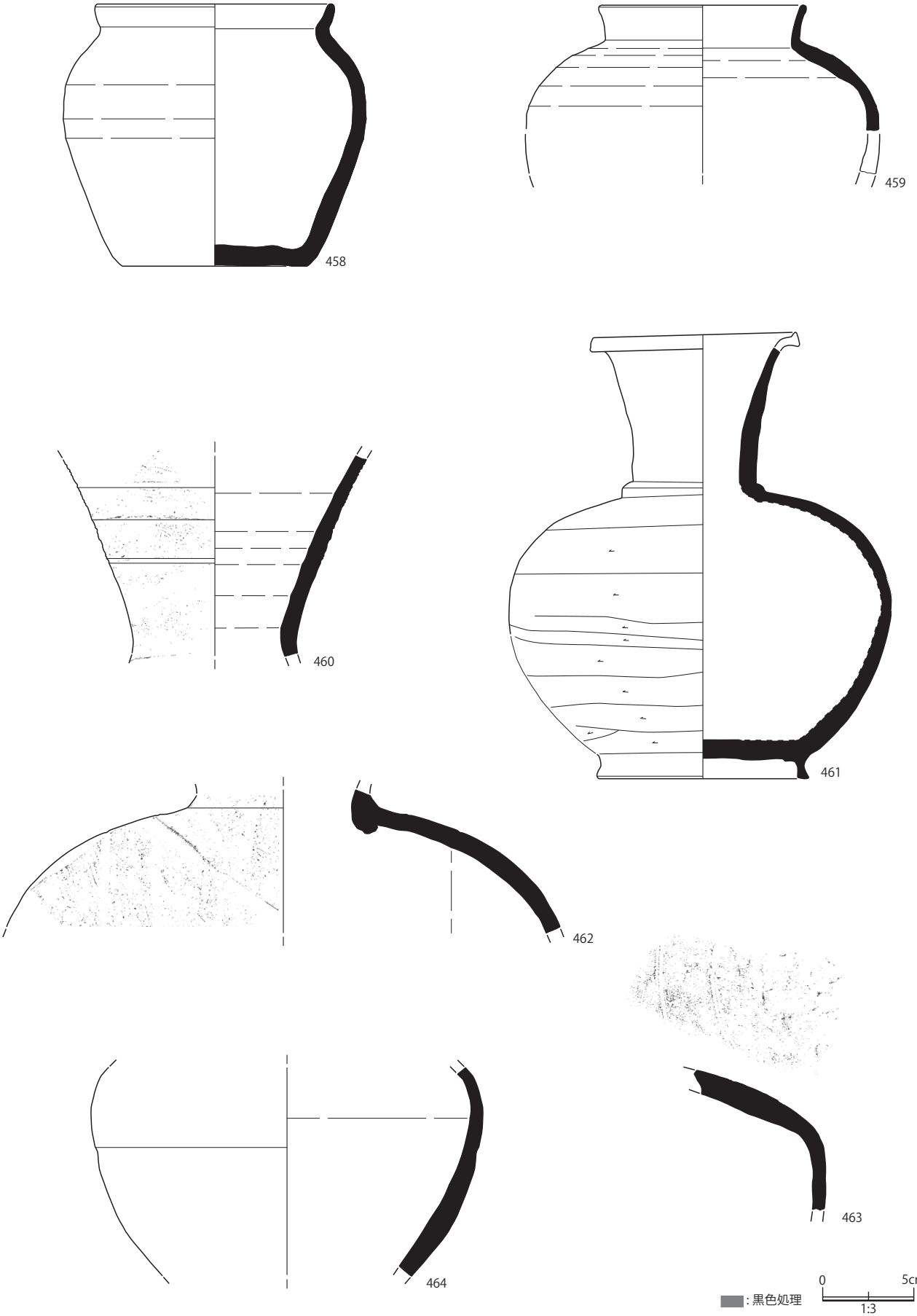
第 198 図　D 区　土坑 SK352・ピット SP・河川 SG1（1）出土遺物



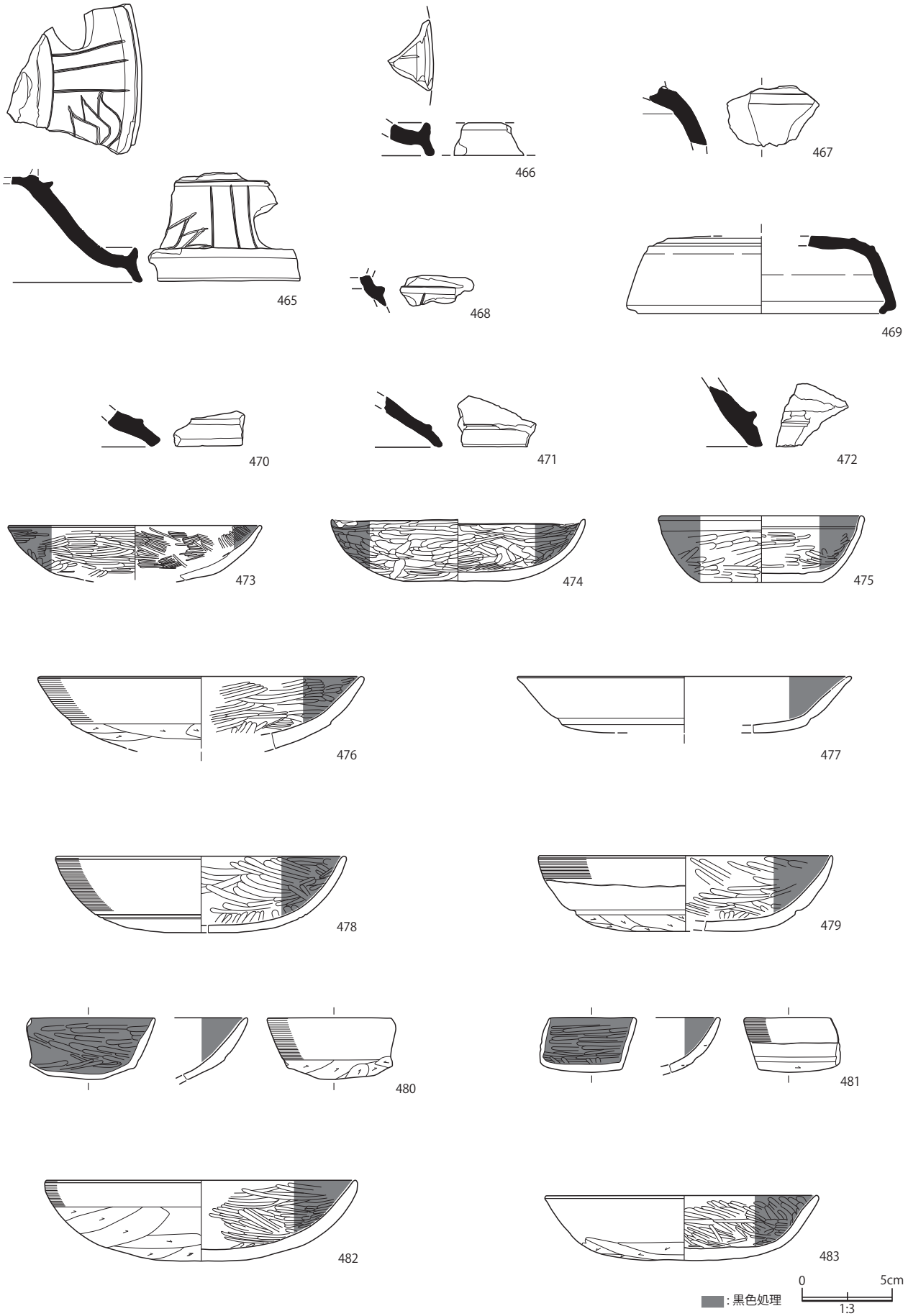
第 199 図　D 区　河川 SG1（2）出土遺物



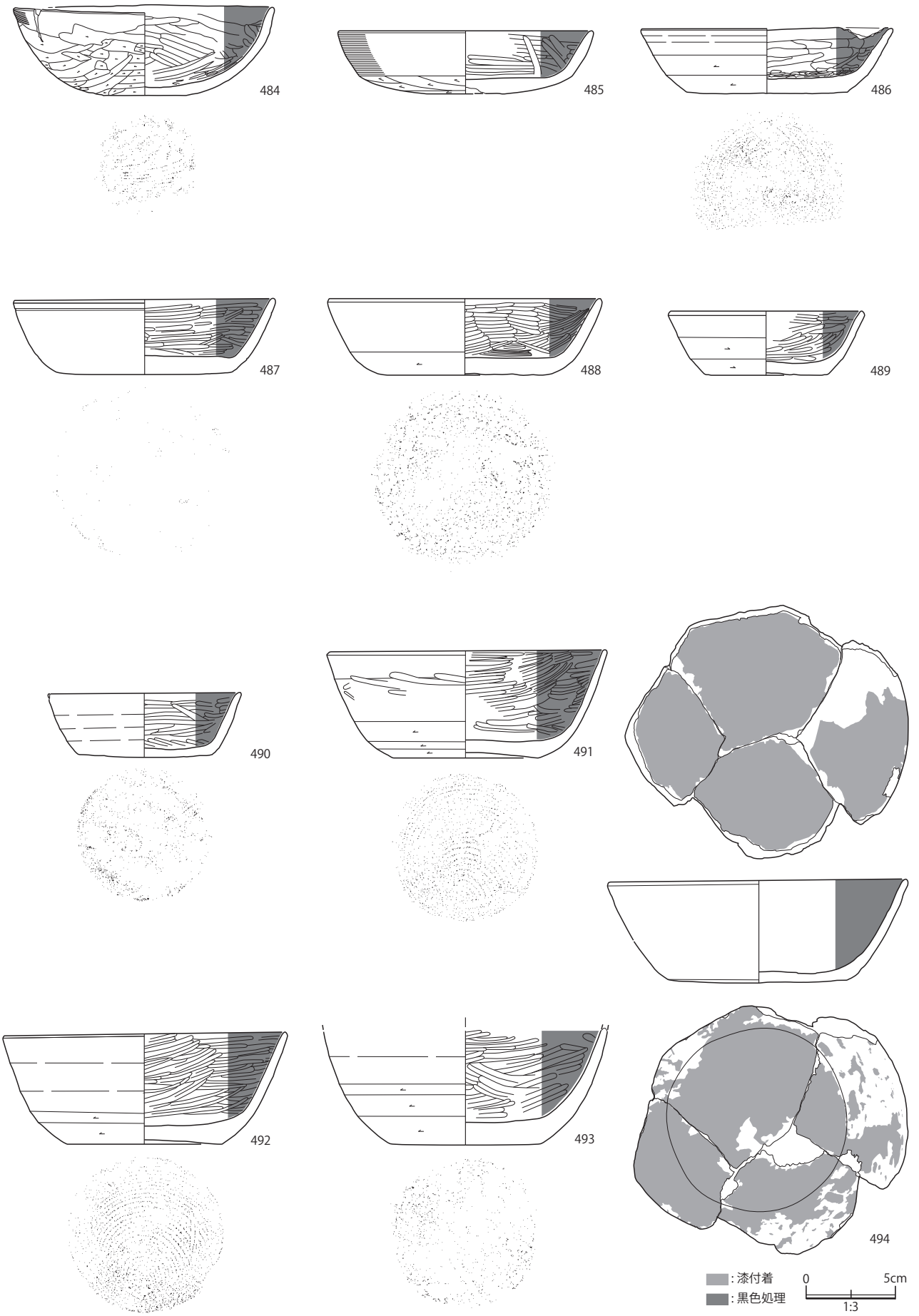
第 200 図　D 区　河川 SG1（3）出土遺物



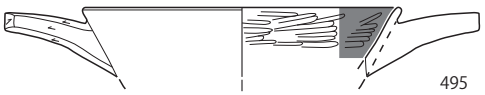
第 201 図　D 区　河川 SG1（4）出土遺物

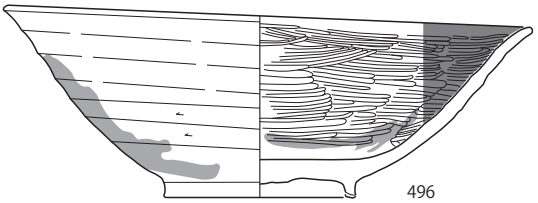


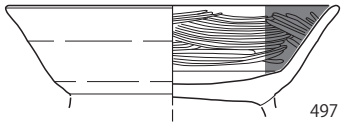
第 202 図　D 区　河川 SG1（5）出土遺物

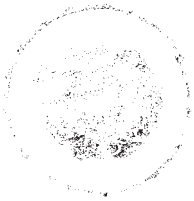


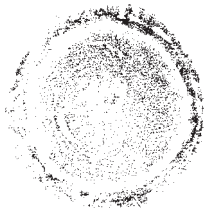
第 203 図　D 区　河川 SG1（6）出土遺物

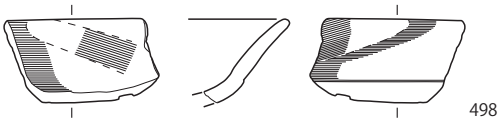

495

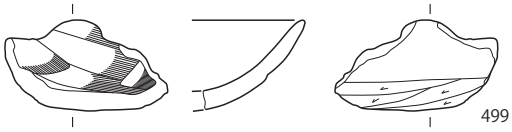

496

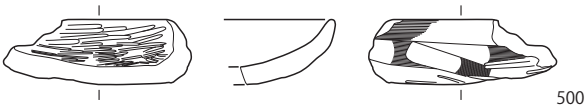

497

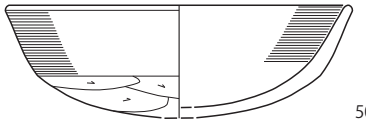


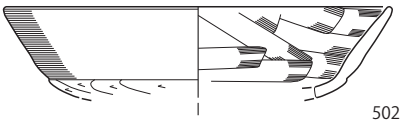


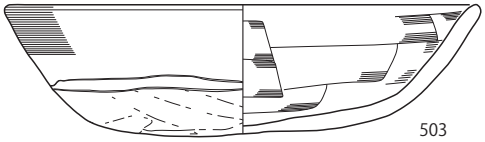

498

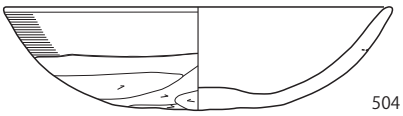

499

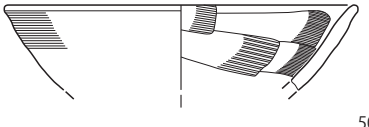

500

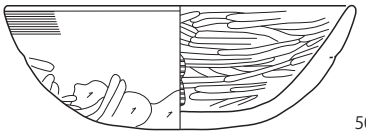

501

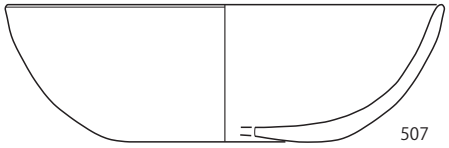

502

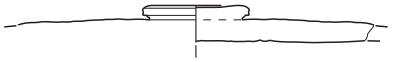

503


504


505

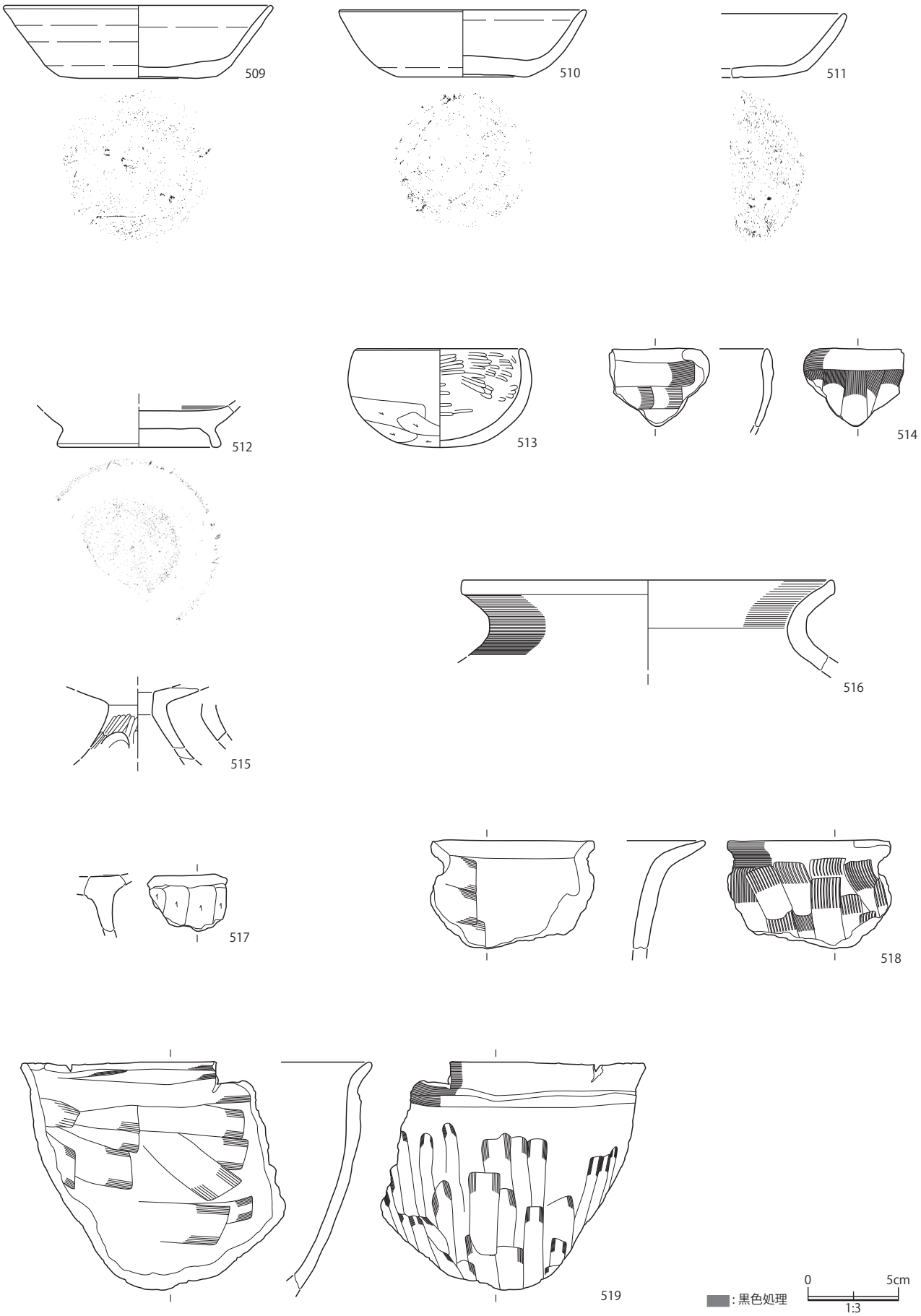

506


507

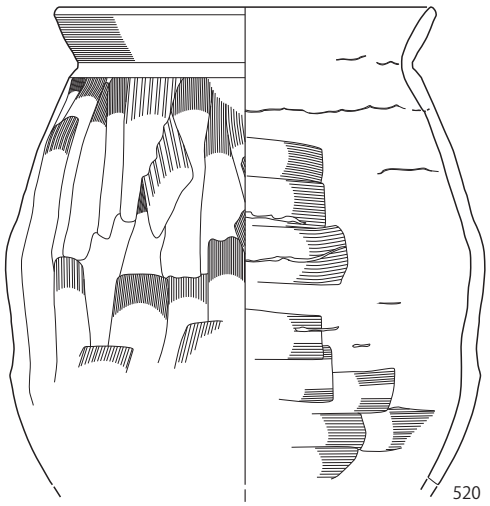

508

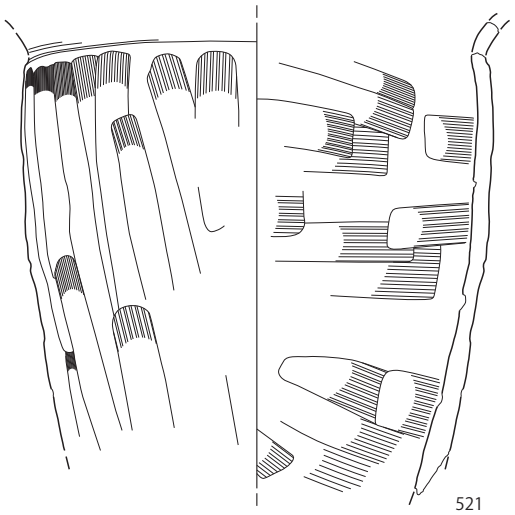
: 漆付着
: 黒色処理
0　5cm
1:3

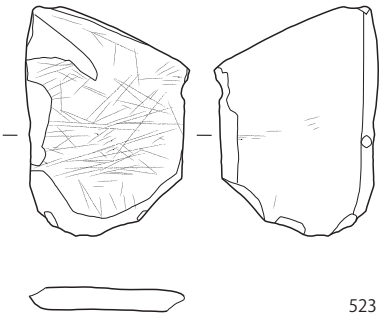
第 204 図　D 区　河川 SG1（7）出土遺物

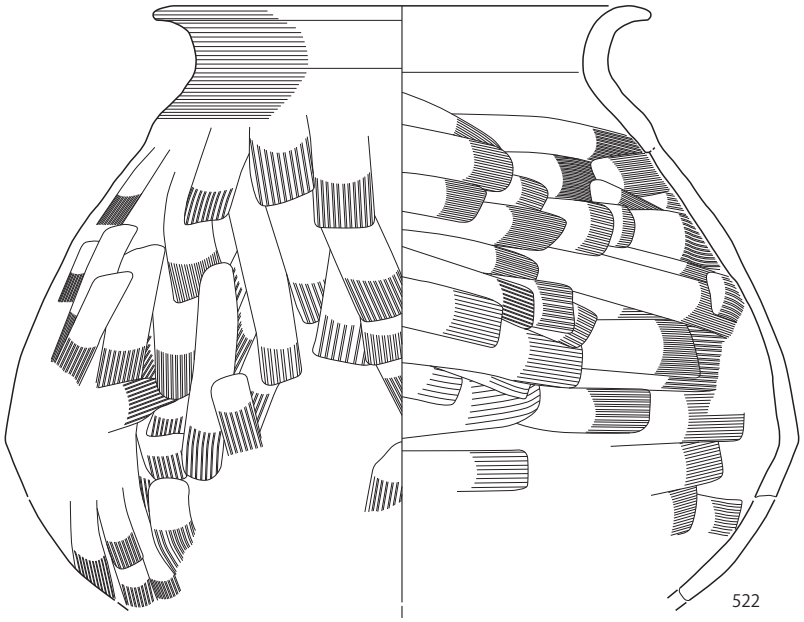


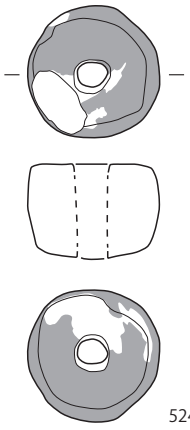
第 205 図　D 区　河川 SG1（8）出土遺物

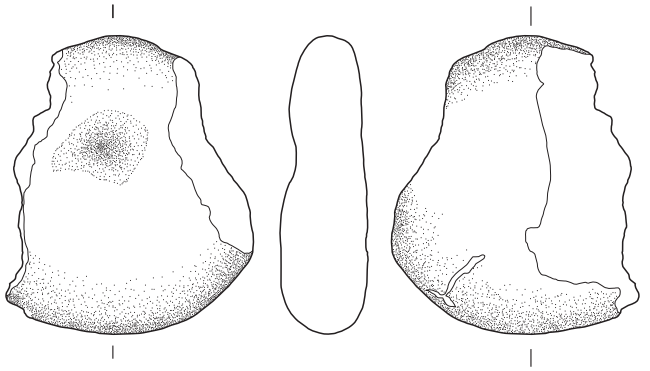


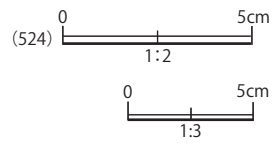




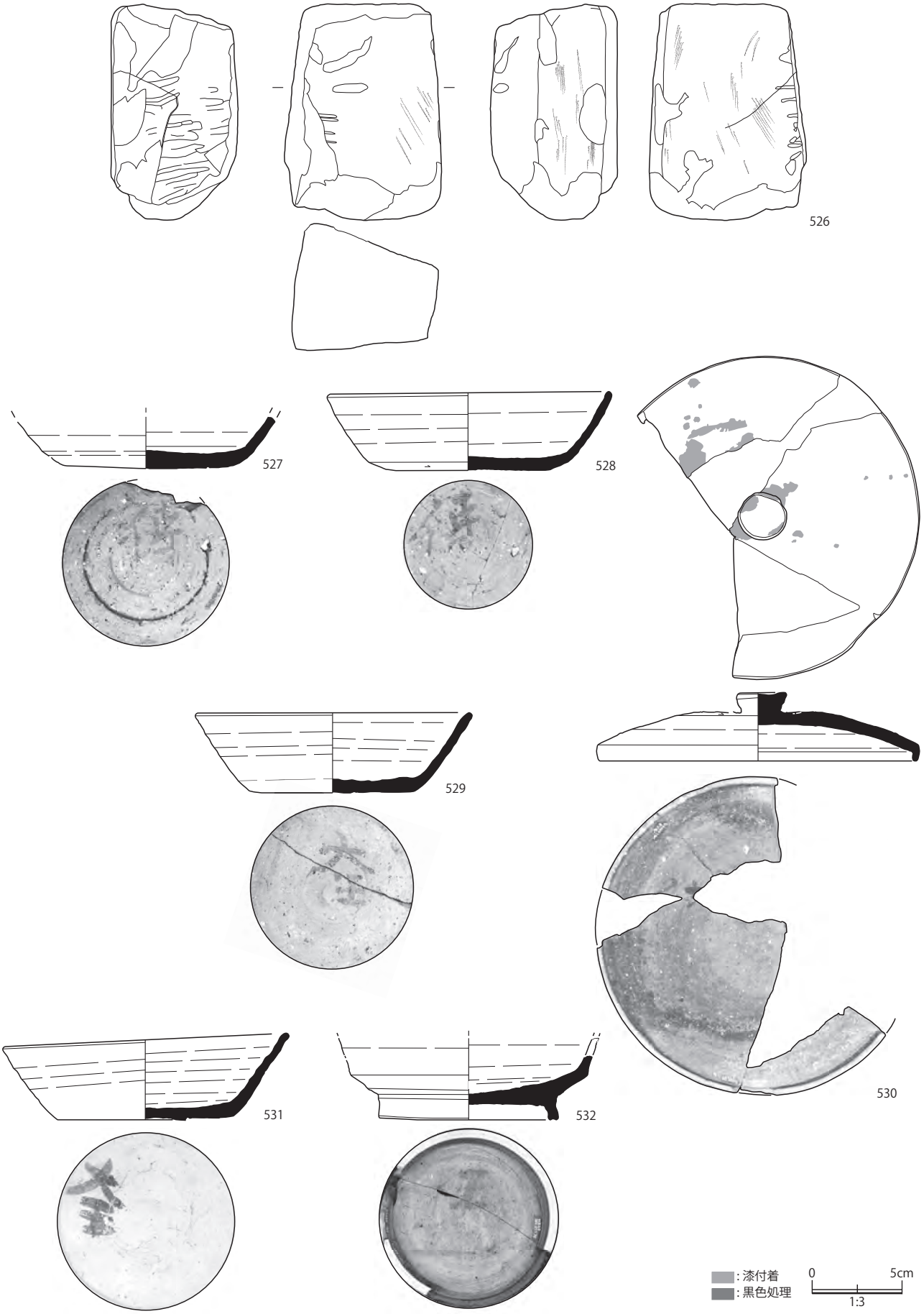




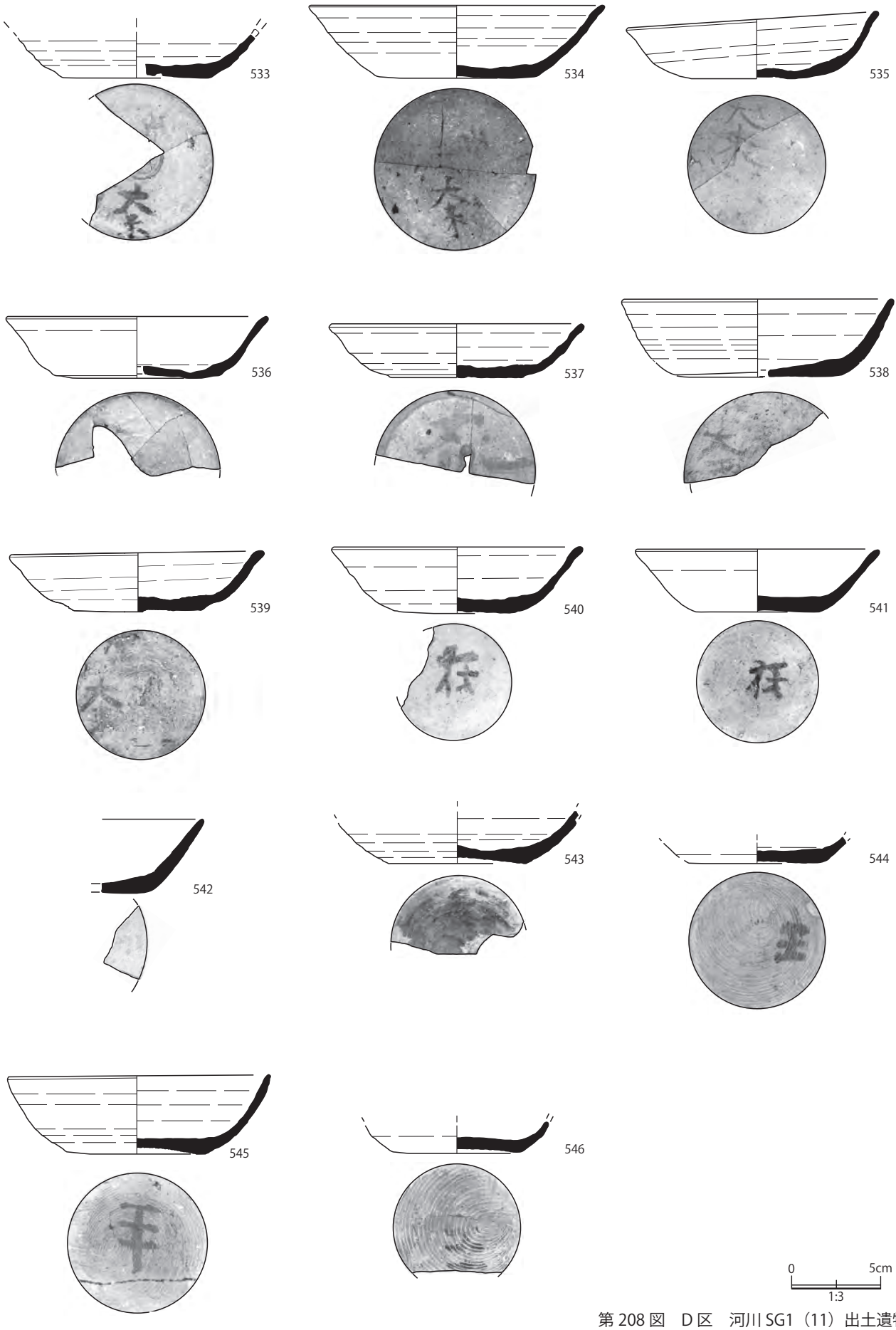




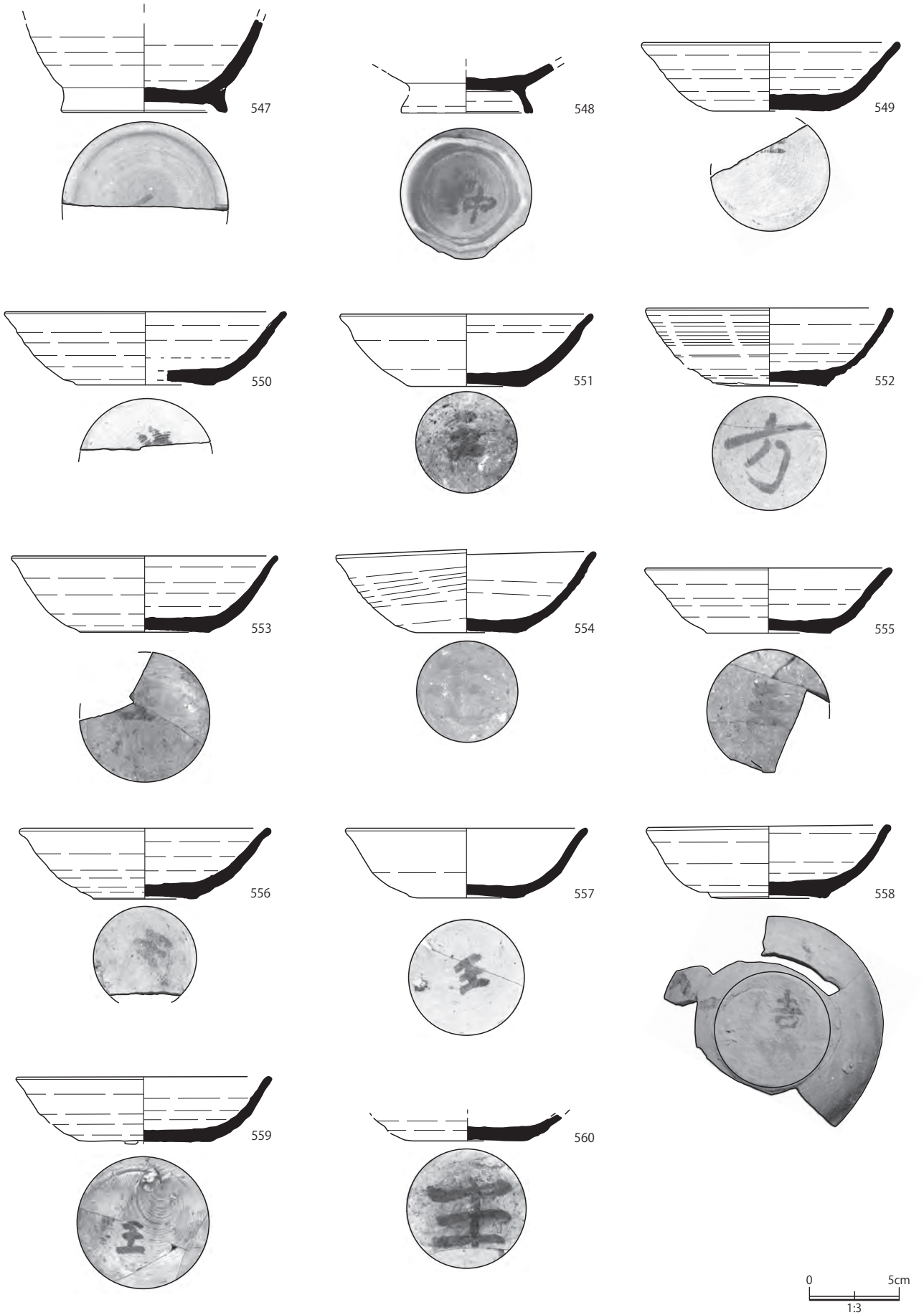
第 206 図　D 区　河川 SG1（9）出土遺物



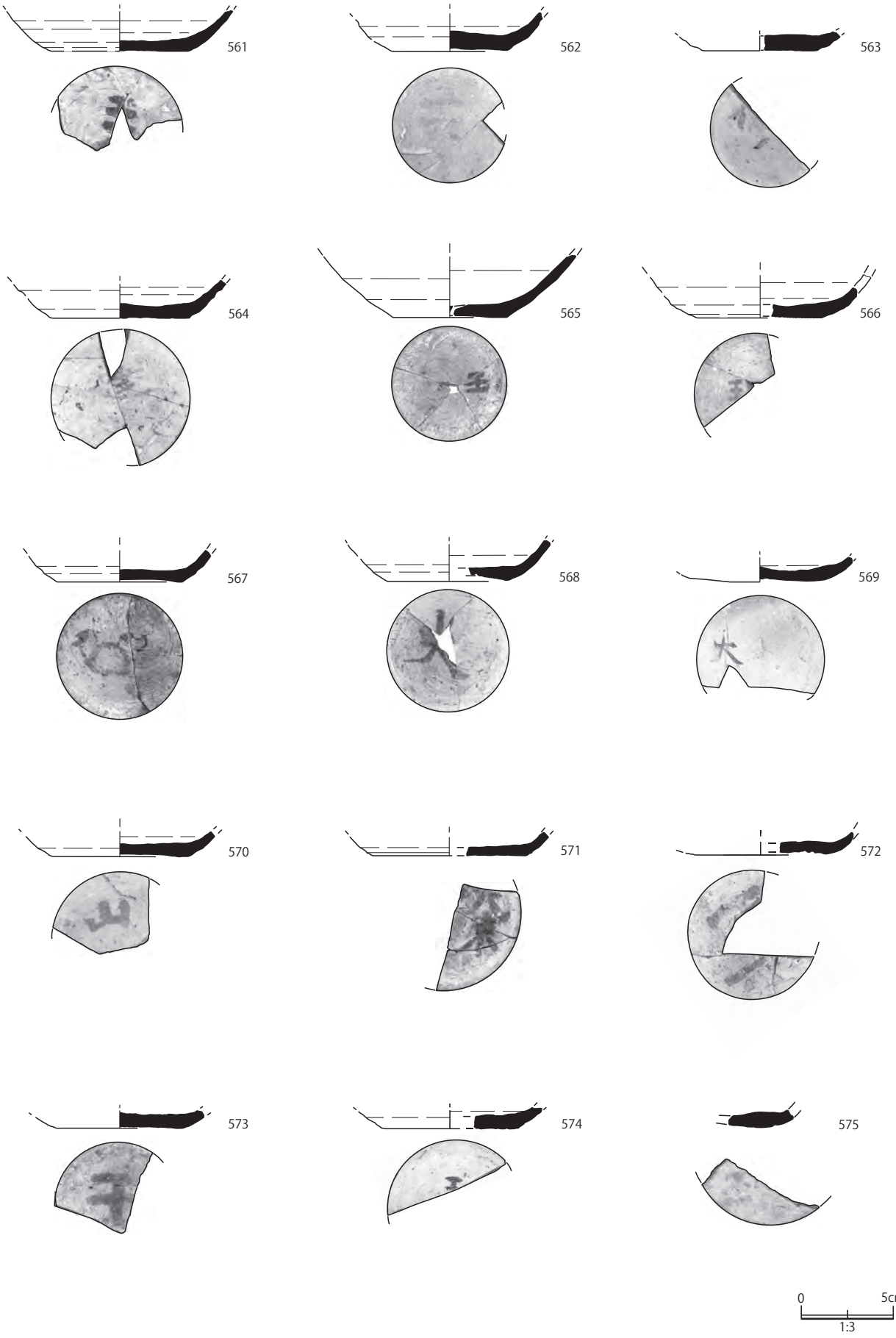
第 207 図　D 区　河川 SG1（10）出土遺物



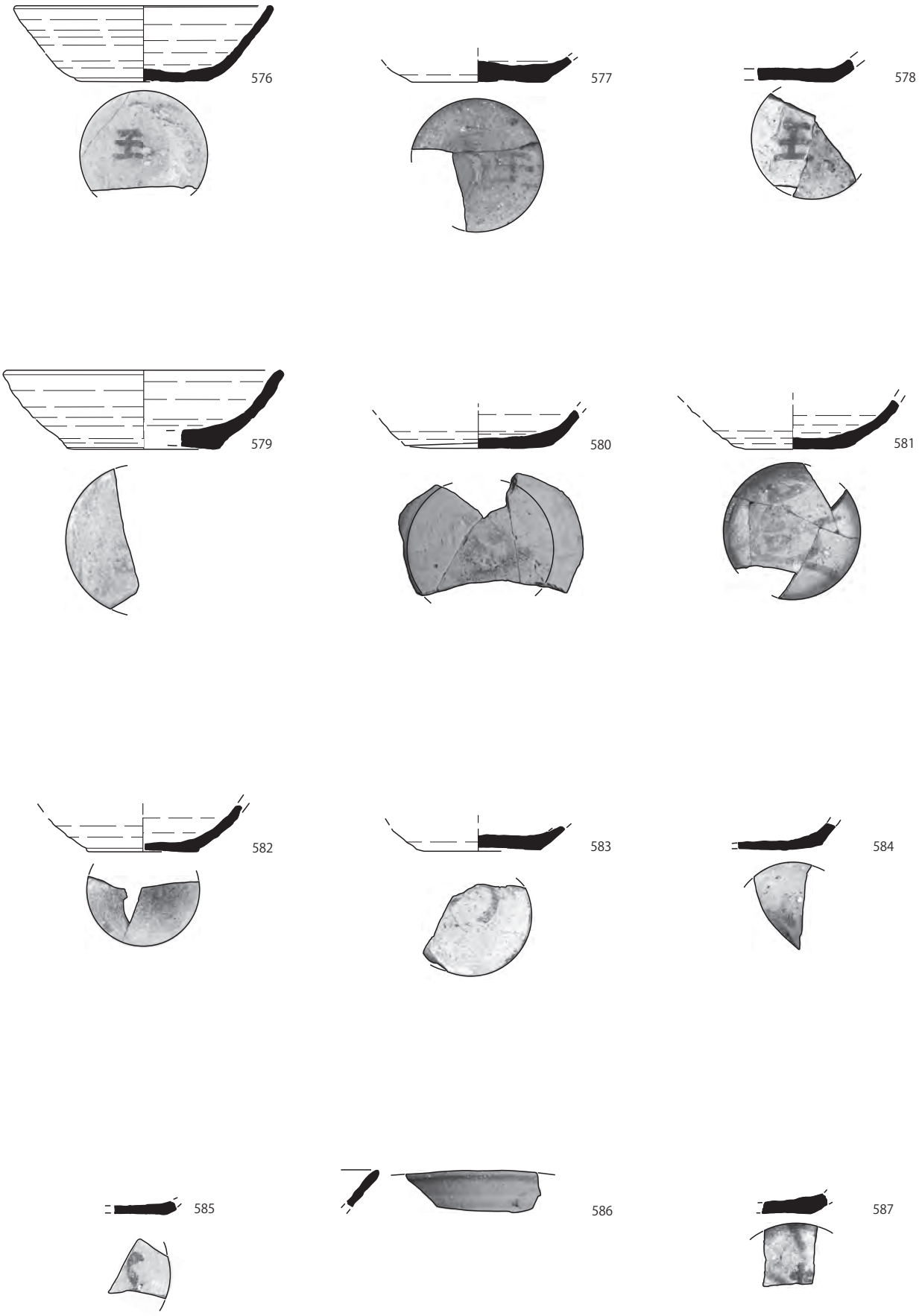
第 208 図　D 区　河川 SG1（11）出土遺物



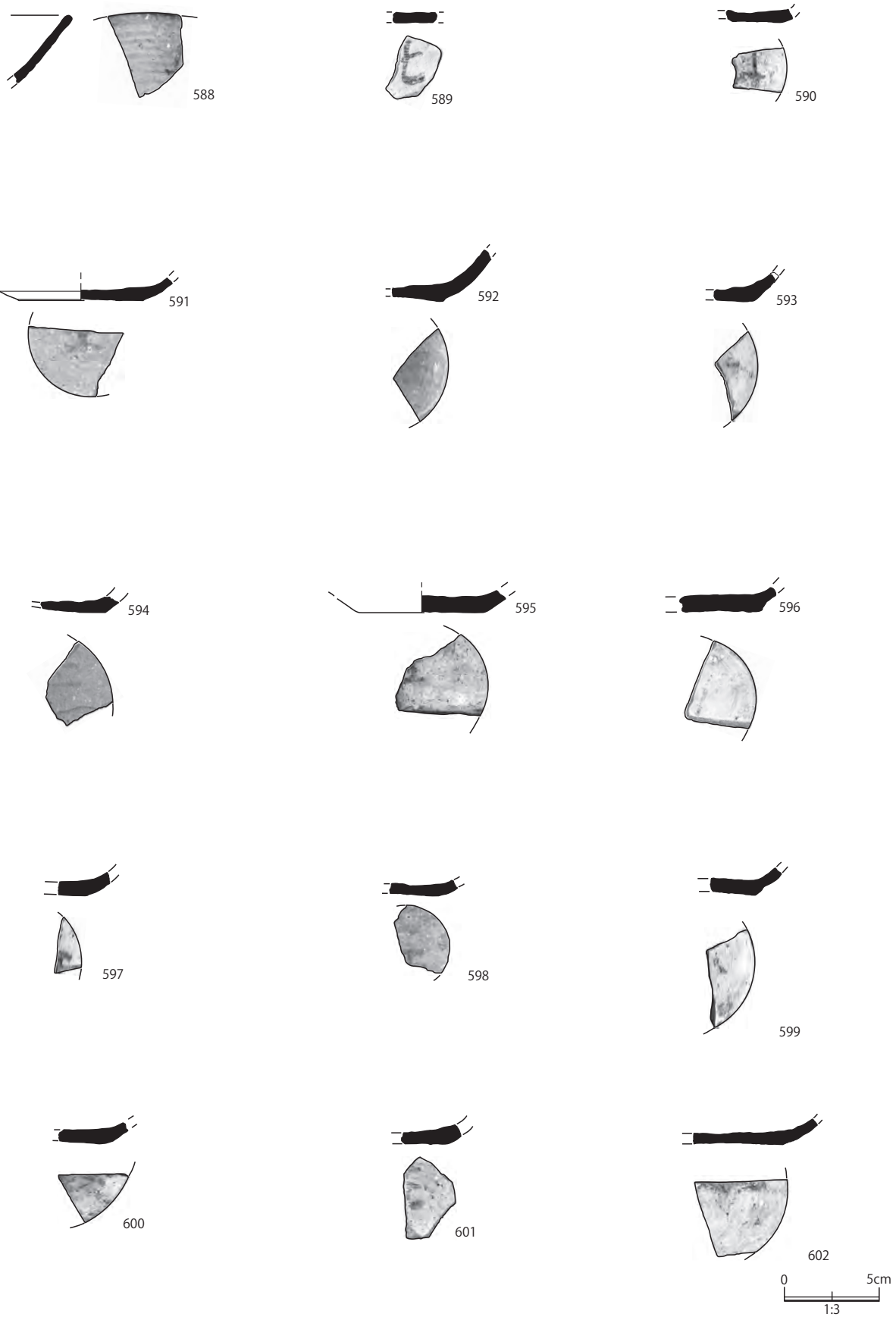
第 209 図　D 区　河川 SG1（12）出土遺物



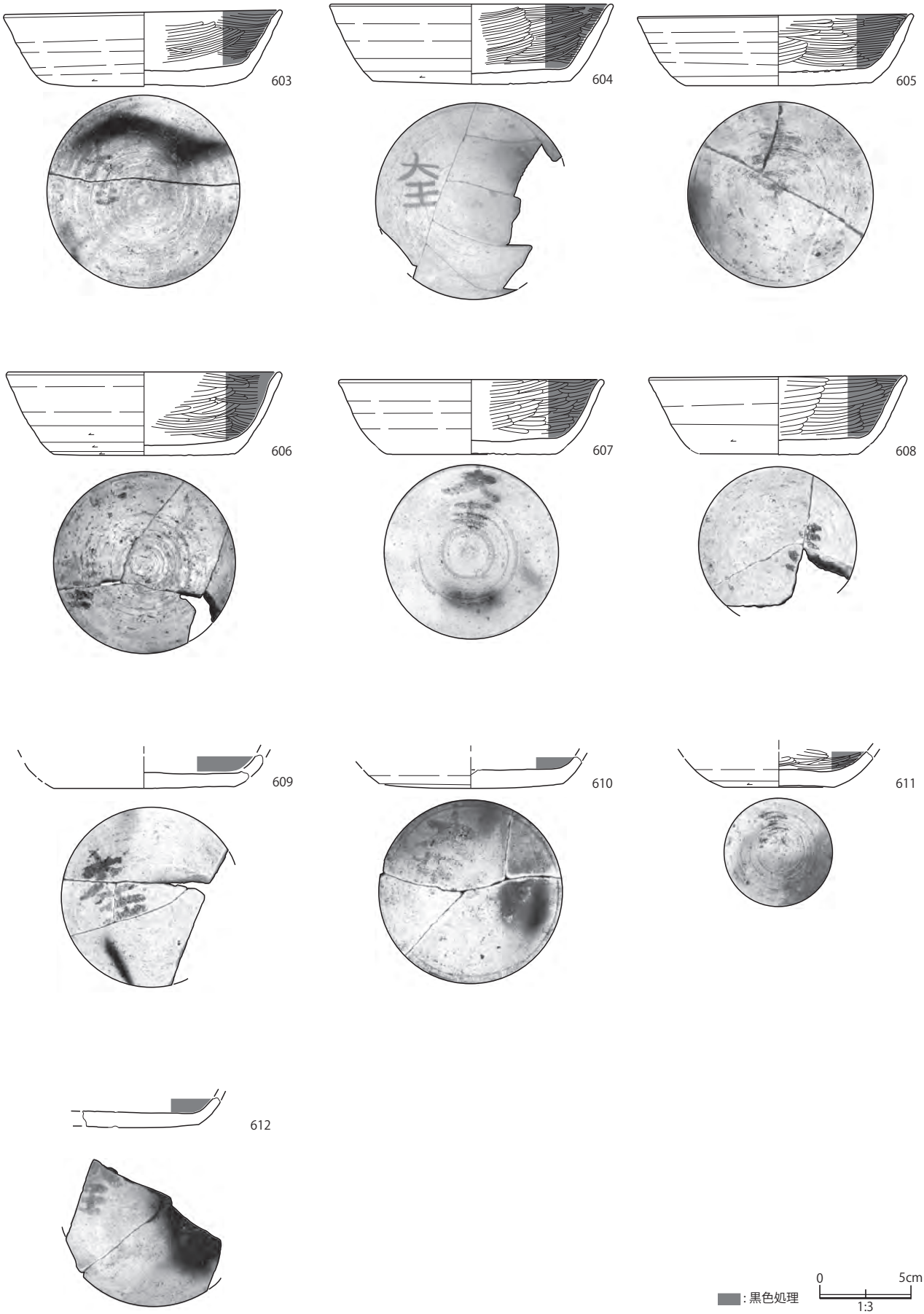
第 210 図　D 区　河川 SG1（13）出土遺物



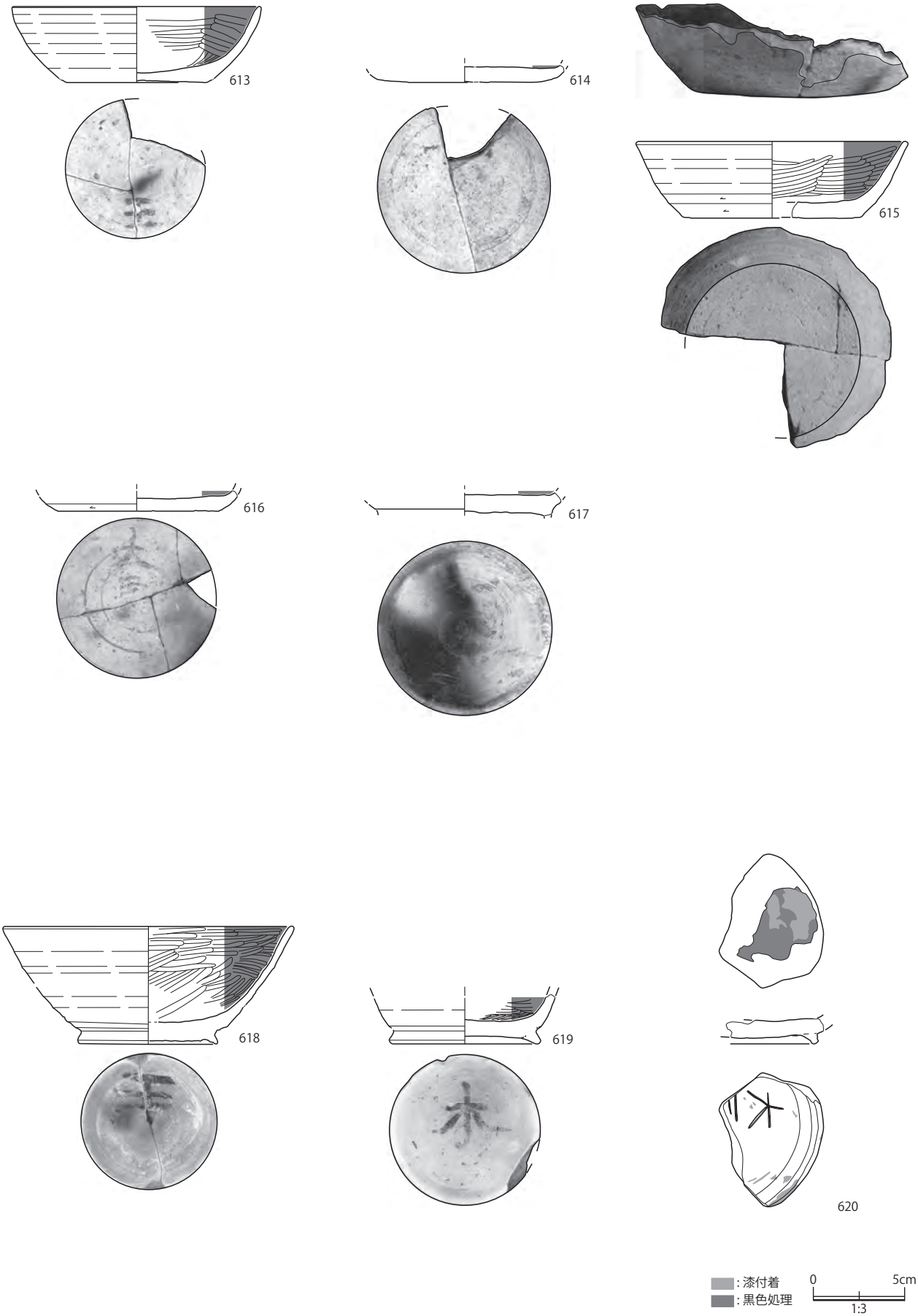
第 211 図　D 区　河川 SG1（14）出土遺物



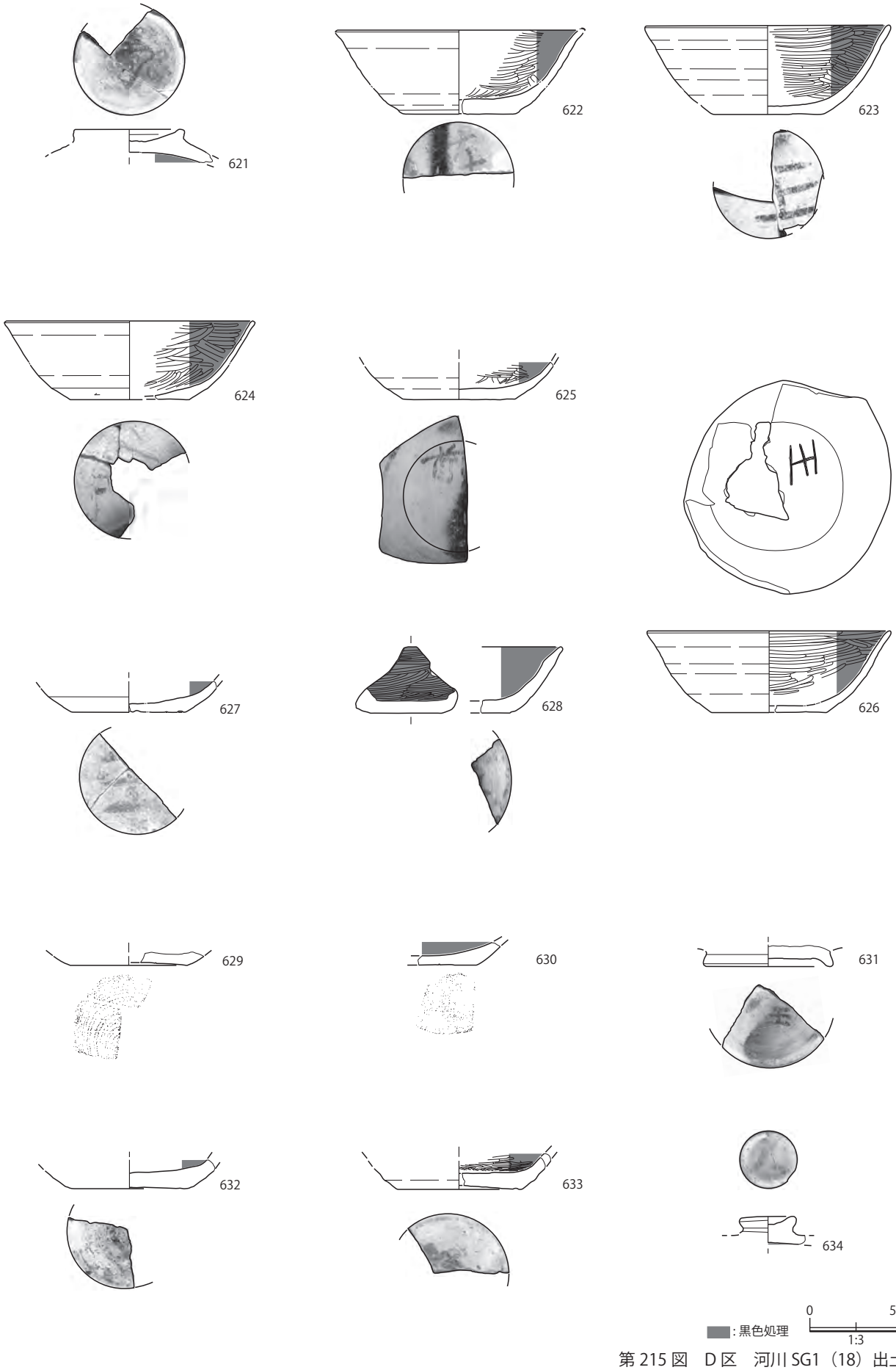
第 212 図　D 区　河川 SG1（15）出土遺物



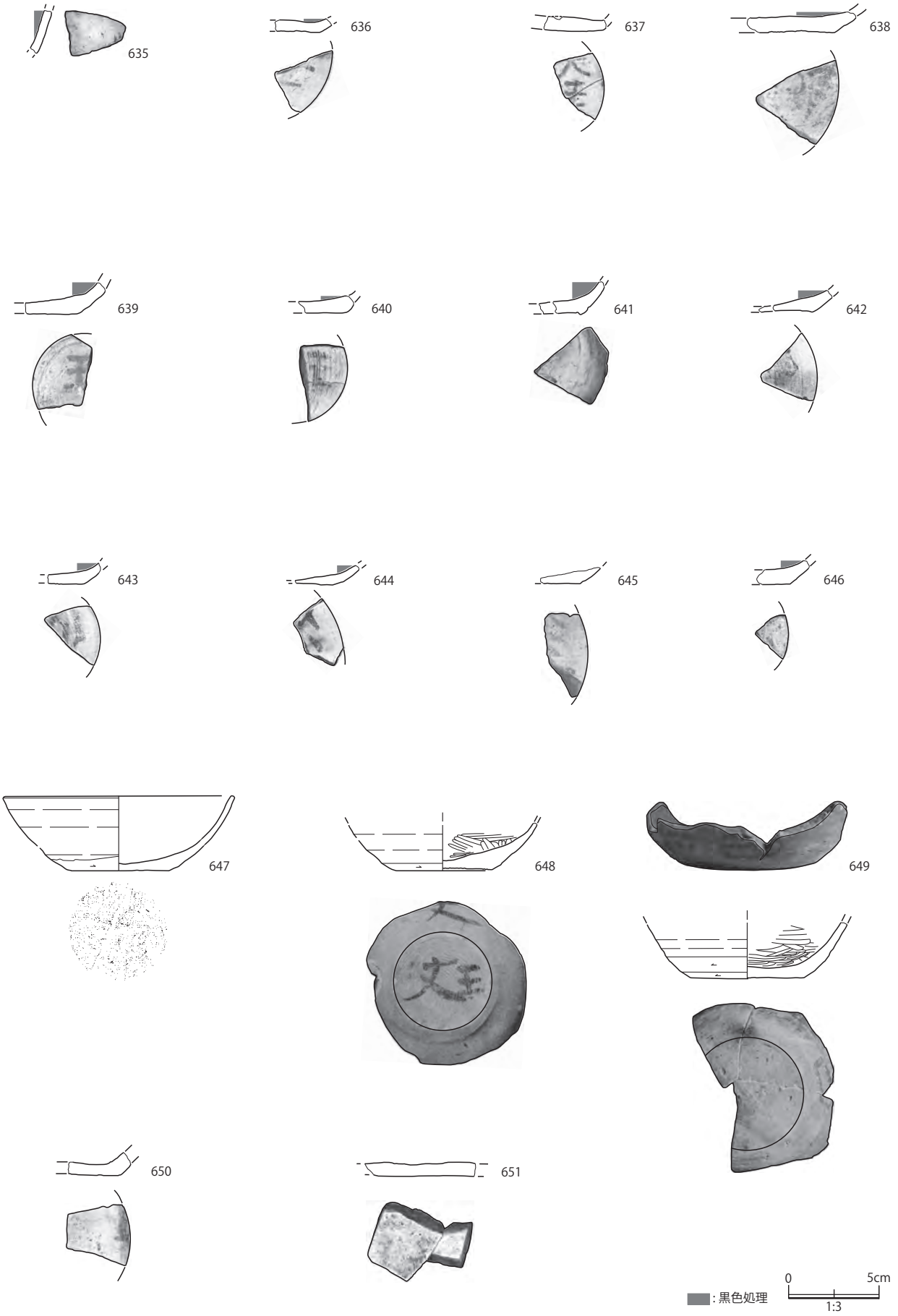
第 213 図　D 区　河川 SG1（16）出土遺物



第 214 図　D 区　河川 SG1（17）出土遺物

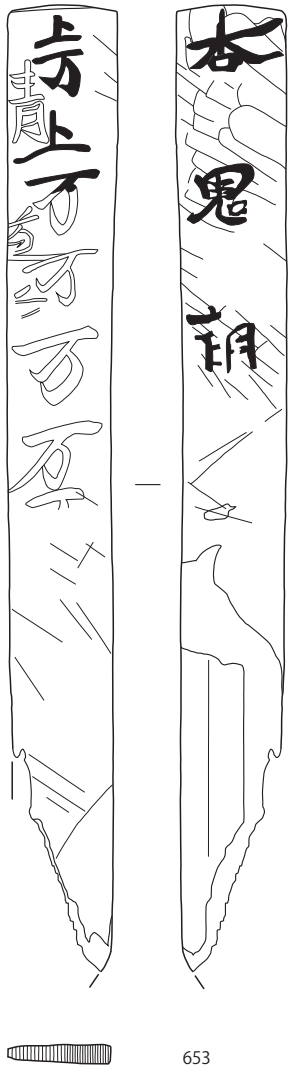


第 215 図　D 区　河川 SG1（18）出土遺物

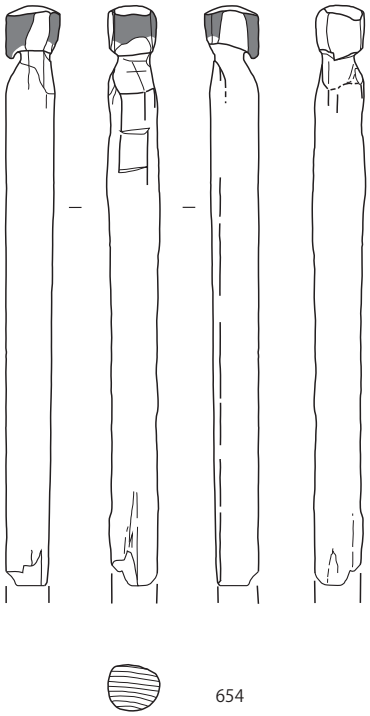


第 216 図　D 区　河川 SG1（19）出土遺物

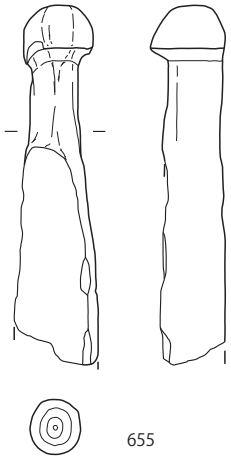
652



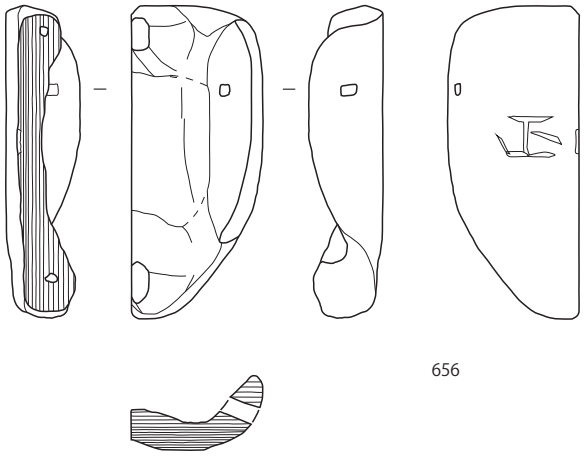
653



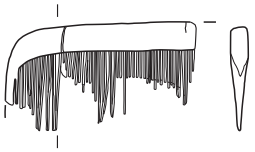
654



655



656

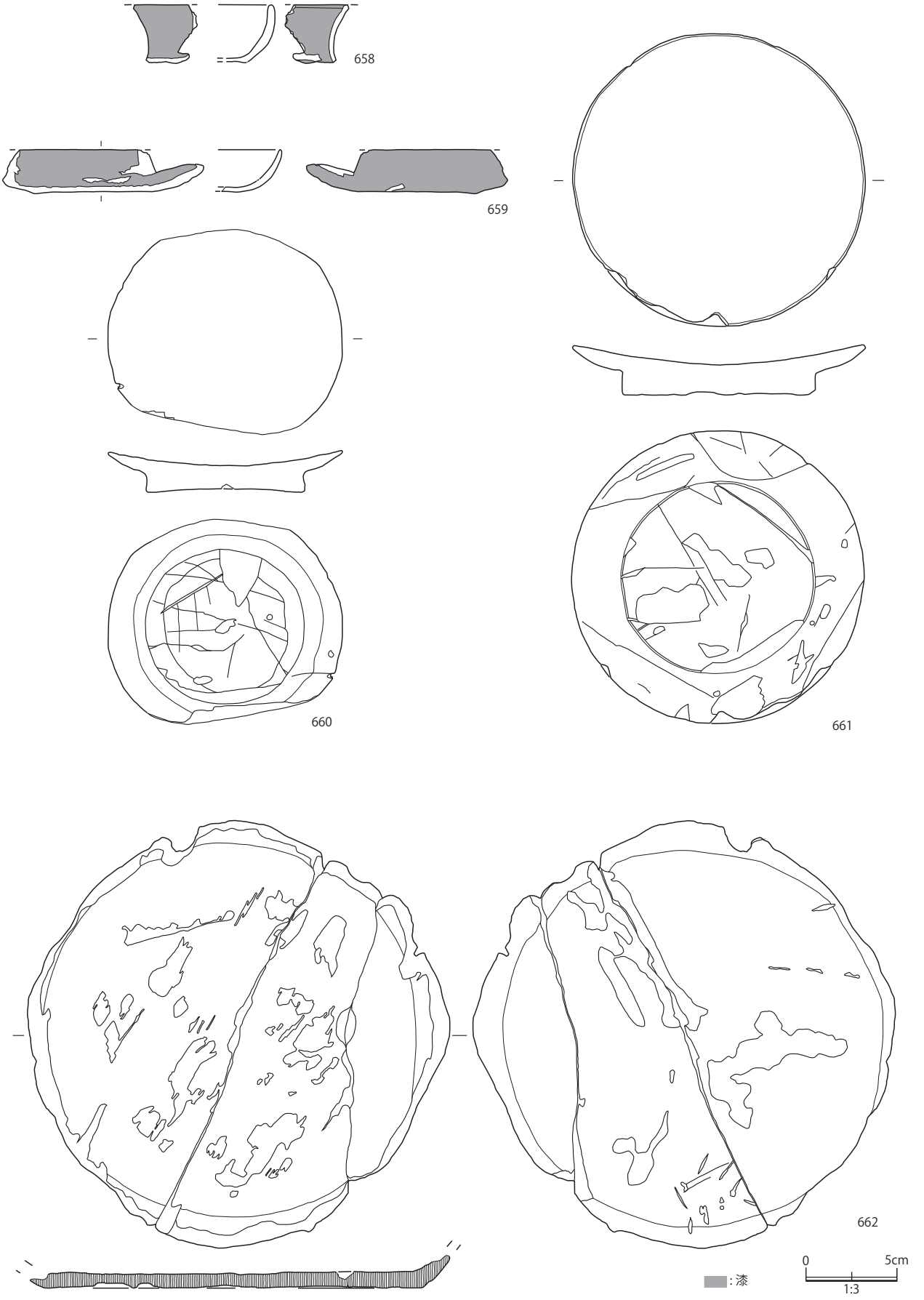


657

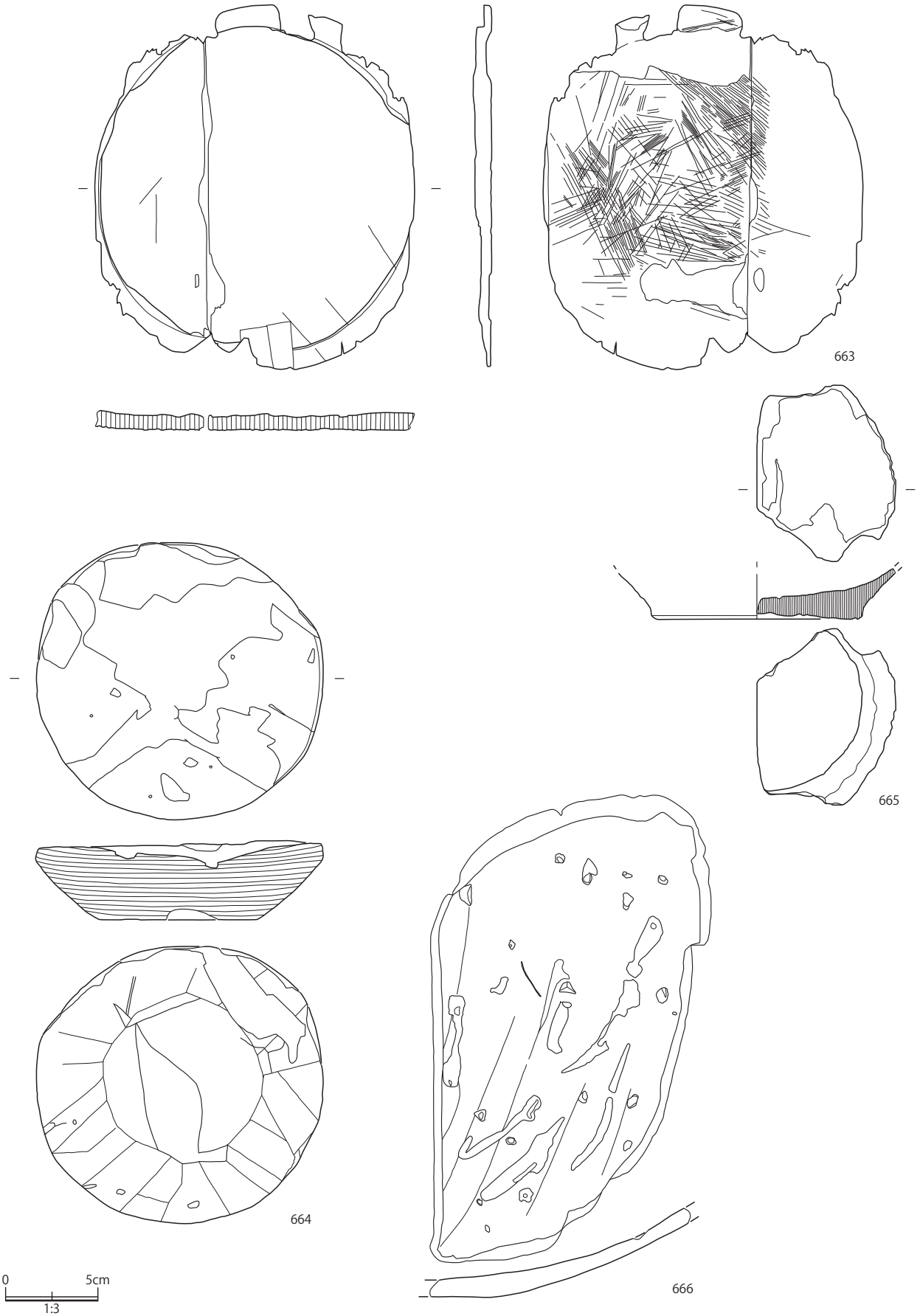
■：炭化

0　5cm
1:3

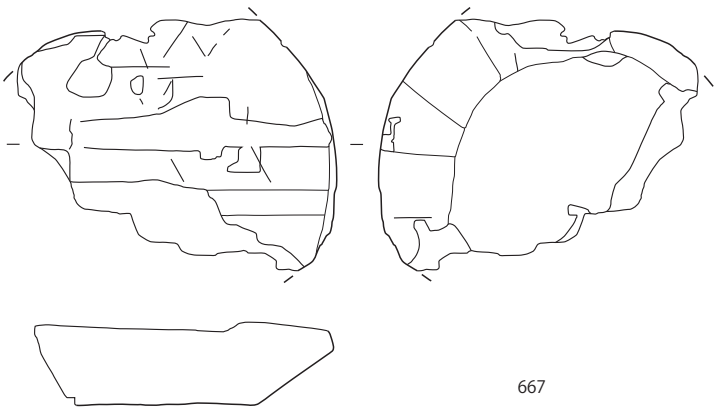
第 217 図　D 区　河川 SG1（20）出土遺物

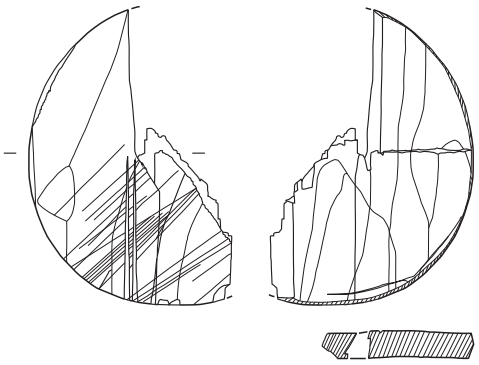


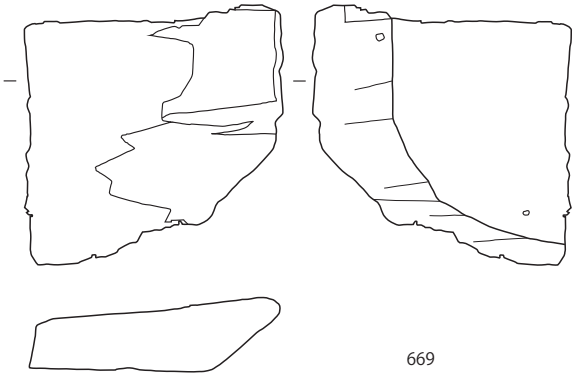
第 218 図　D 区　河川 SG1（21）出土遺物

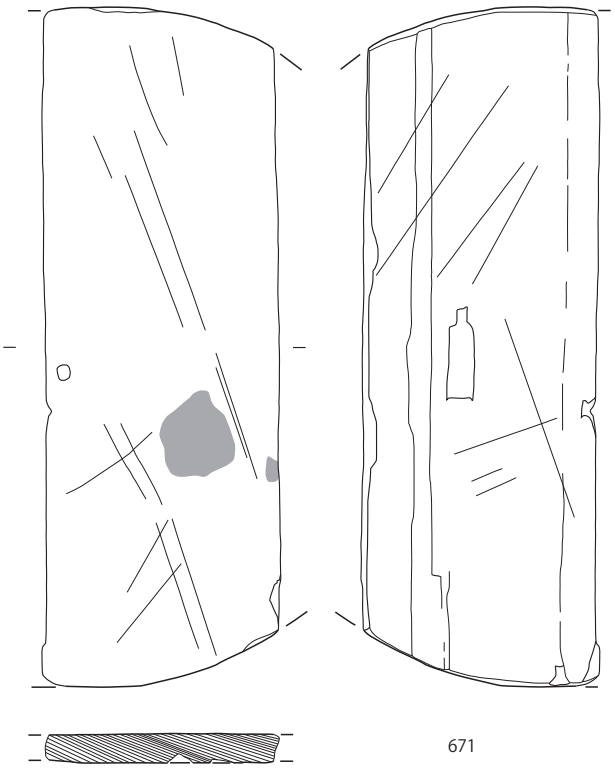


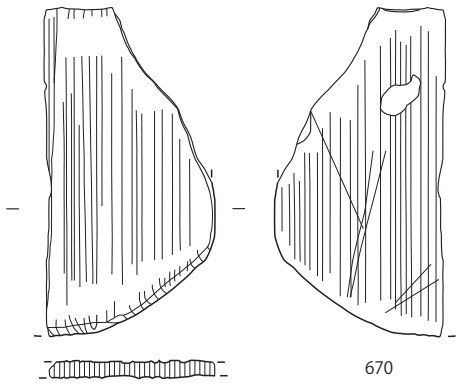
第 219 図　D 区　河川 SG1（22）出土遺物

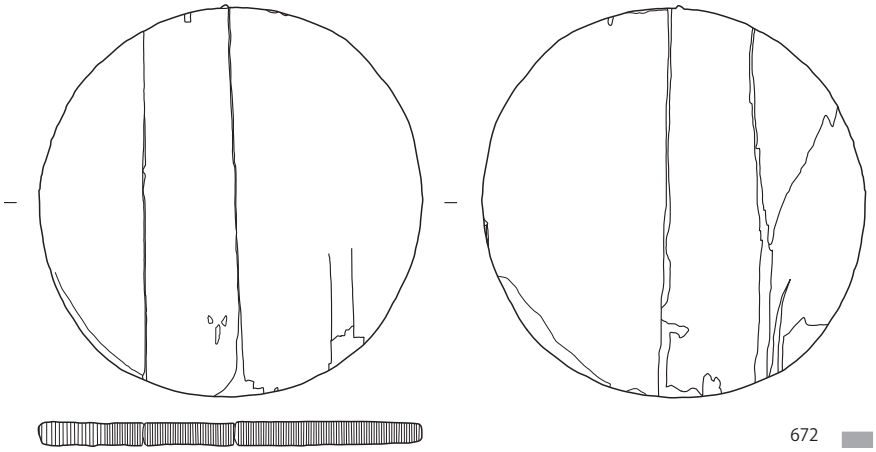

667


668


669

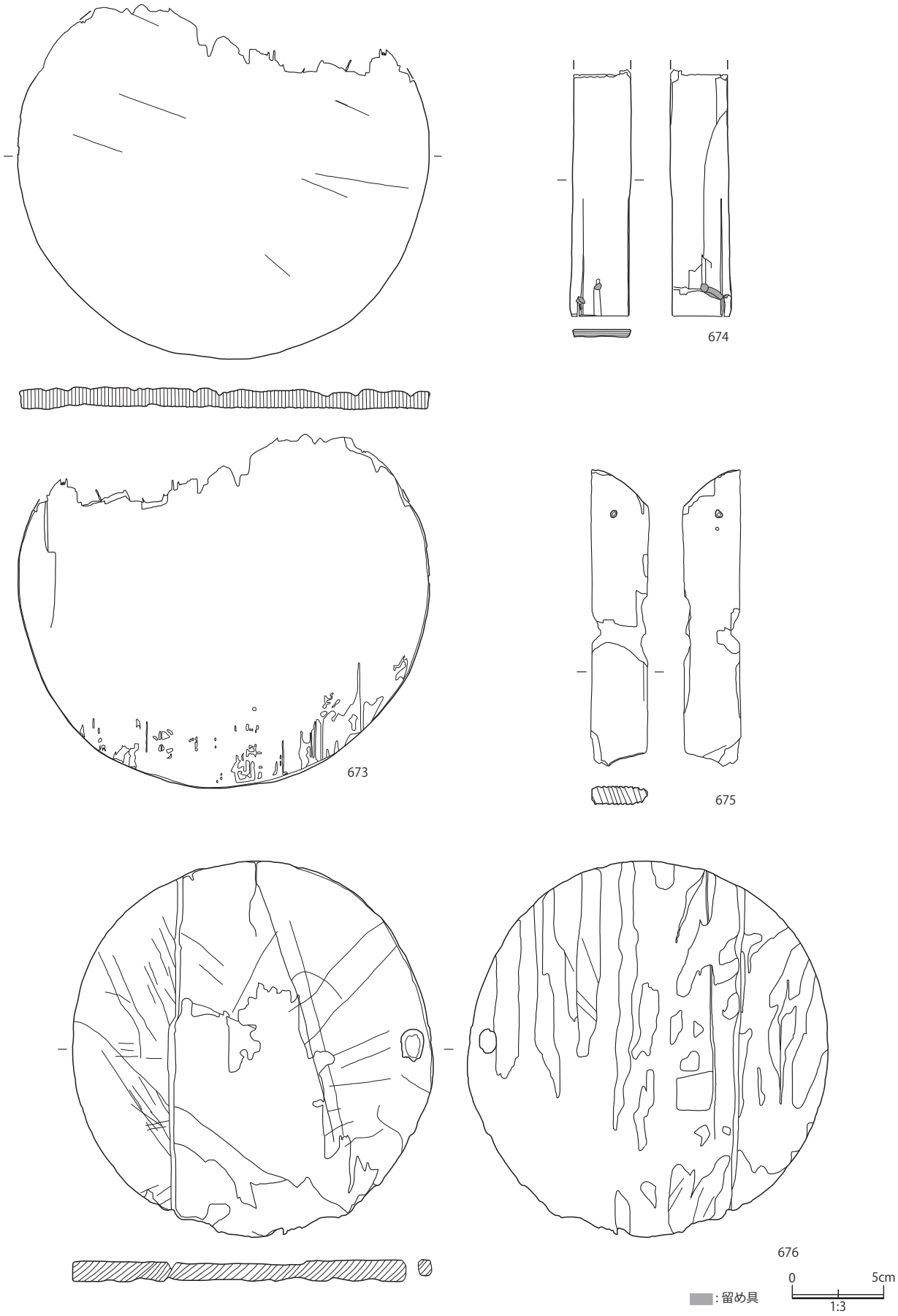

671


670

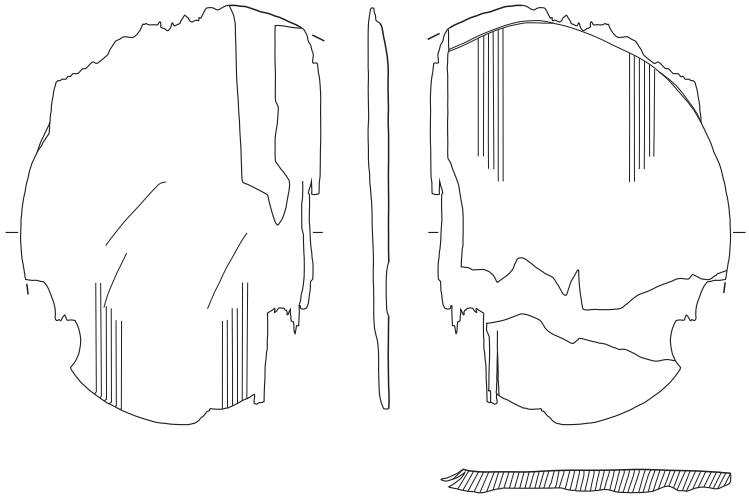

672

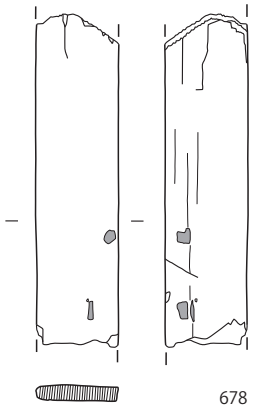
: 炭化　0　5cm　1:3

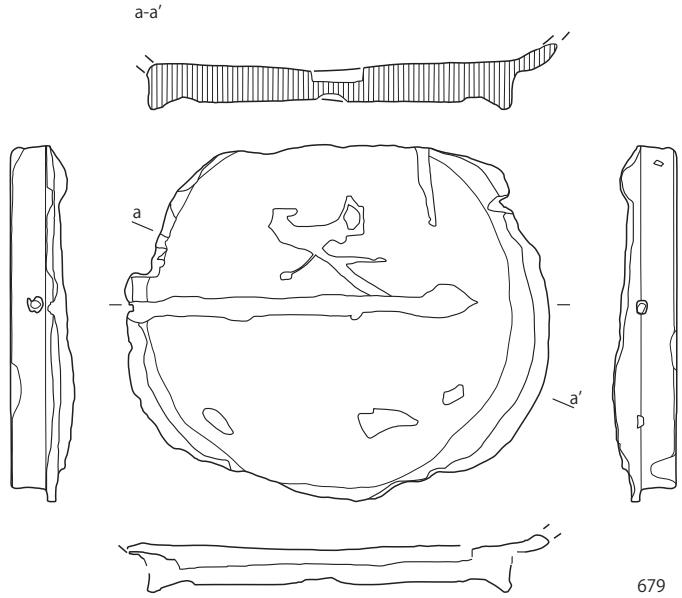
第 220 図　D 区　河川 SG1（23）出土遺物

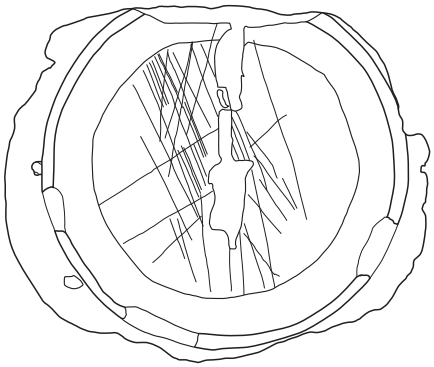


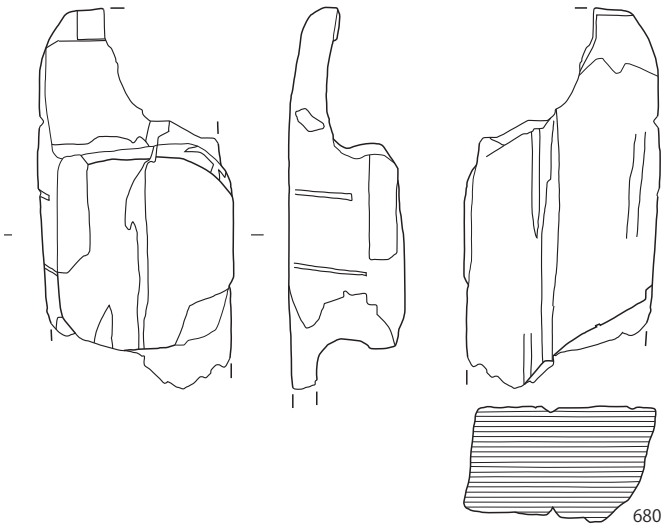
第 221 図　D 区　河川 SG1（24）出土遺物

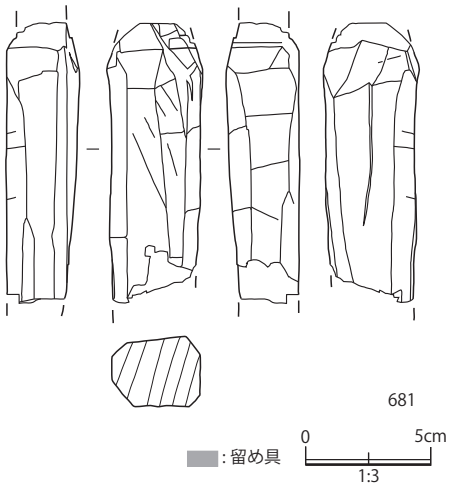




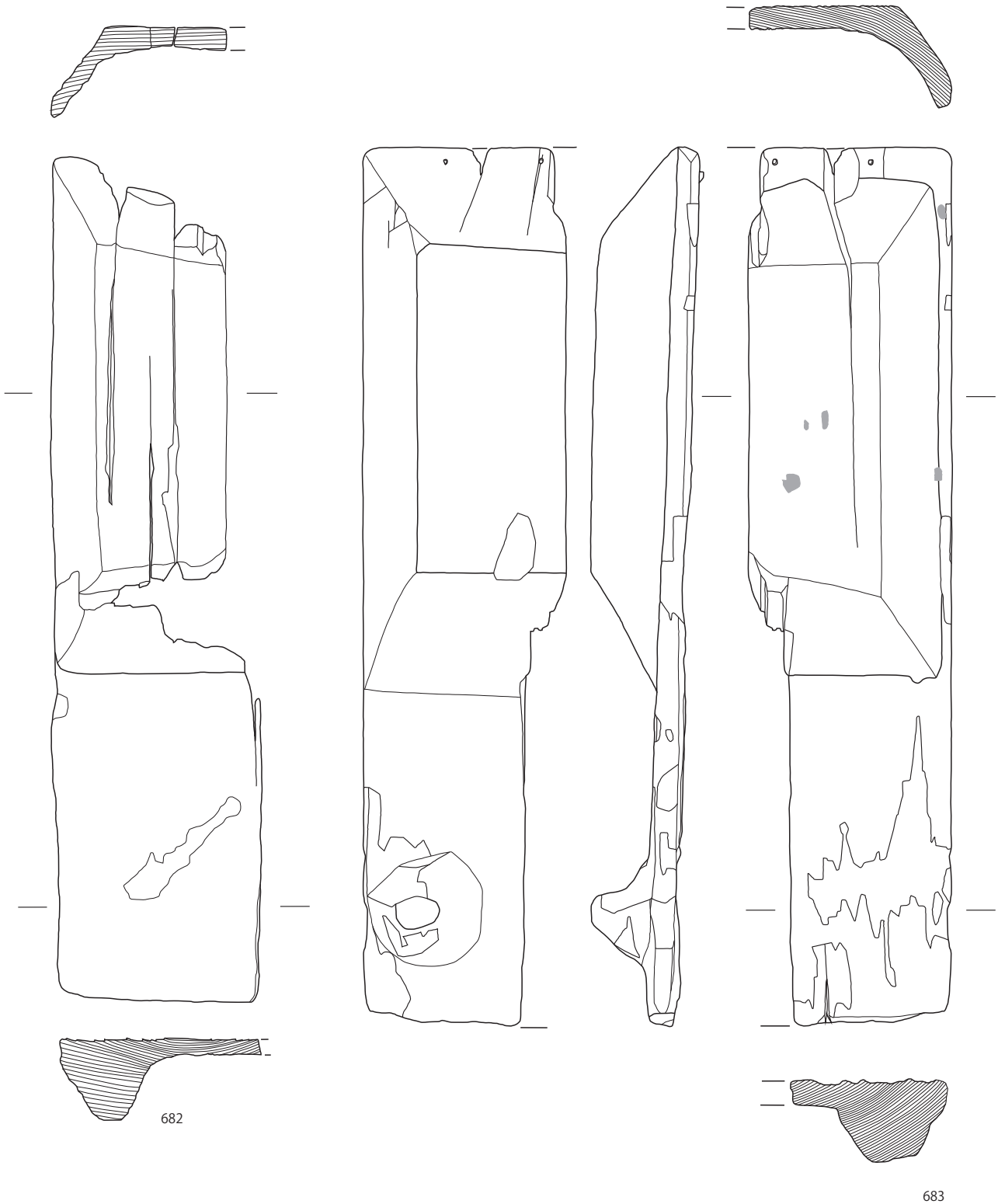




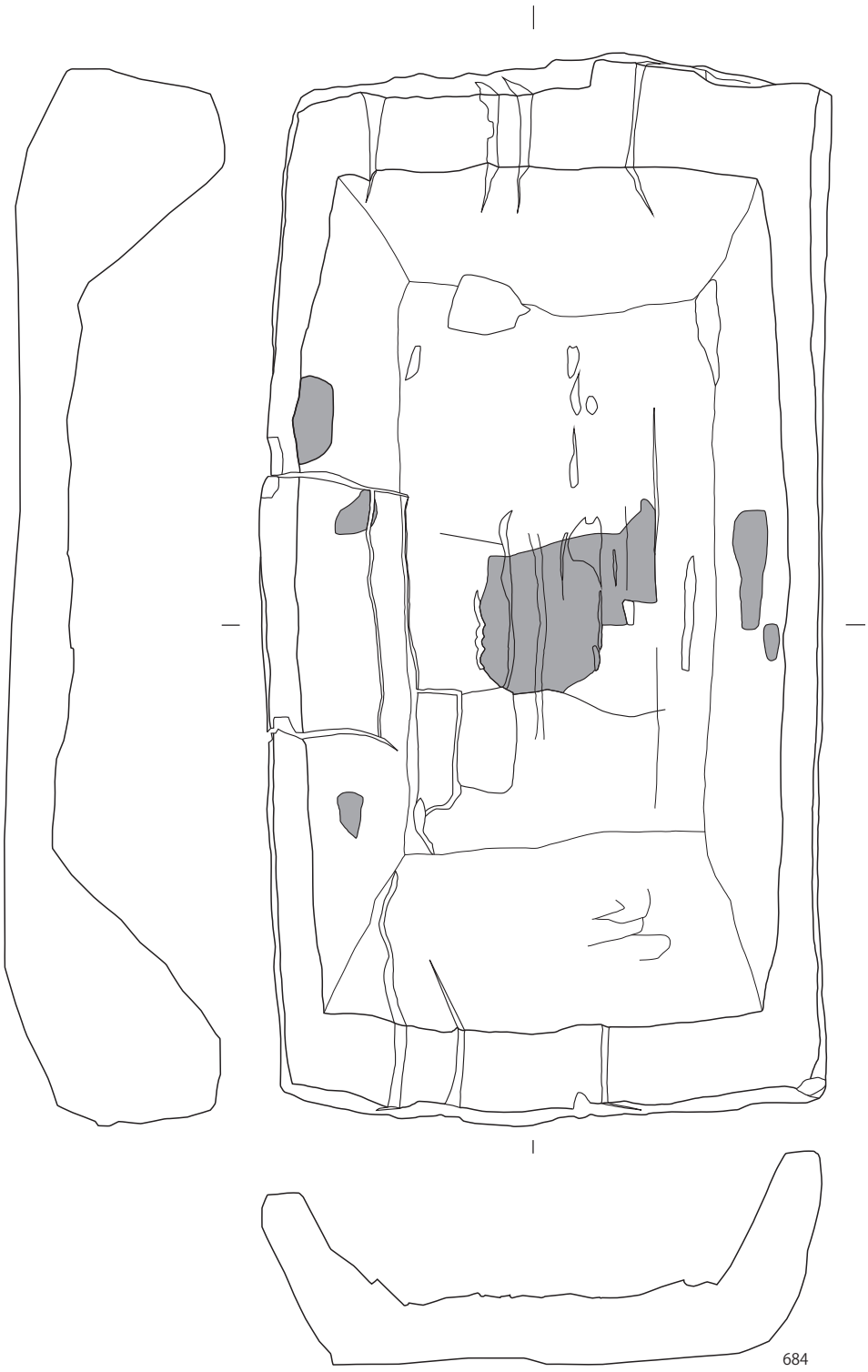




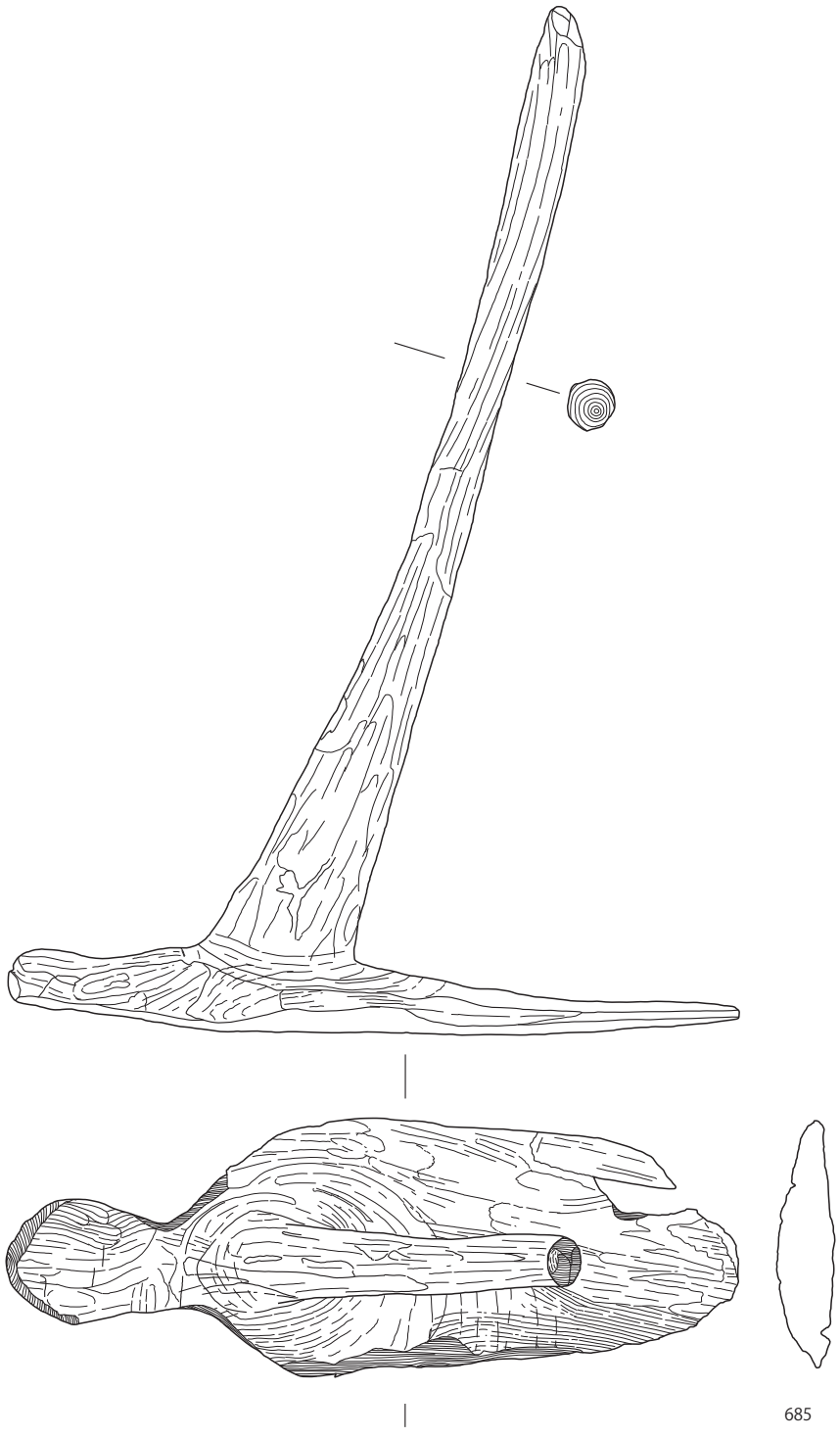
第 222 図　D 区　河川 SG1（25）出土遺物



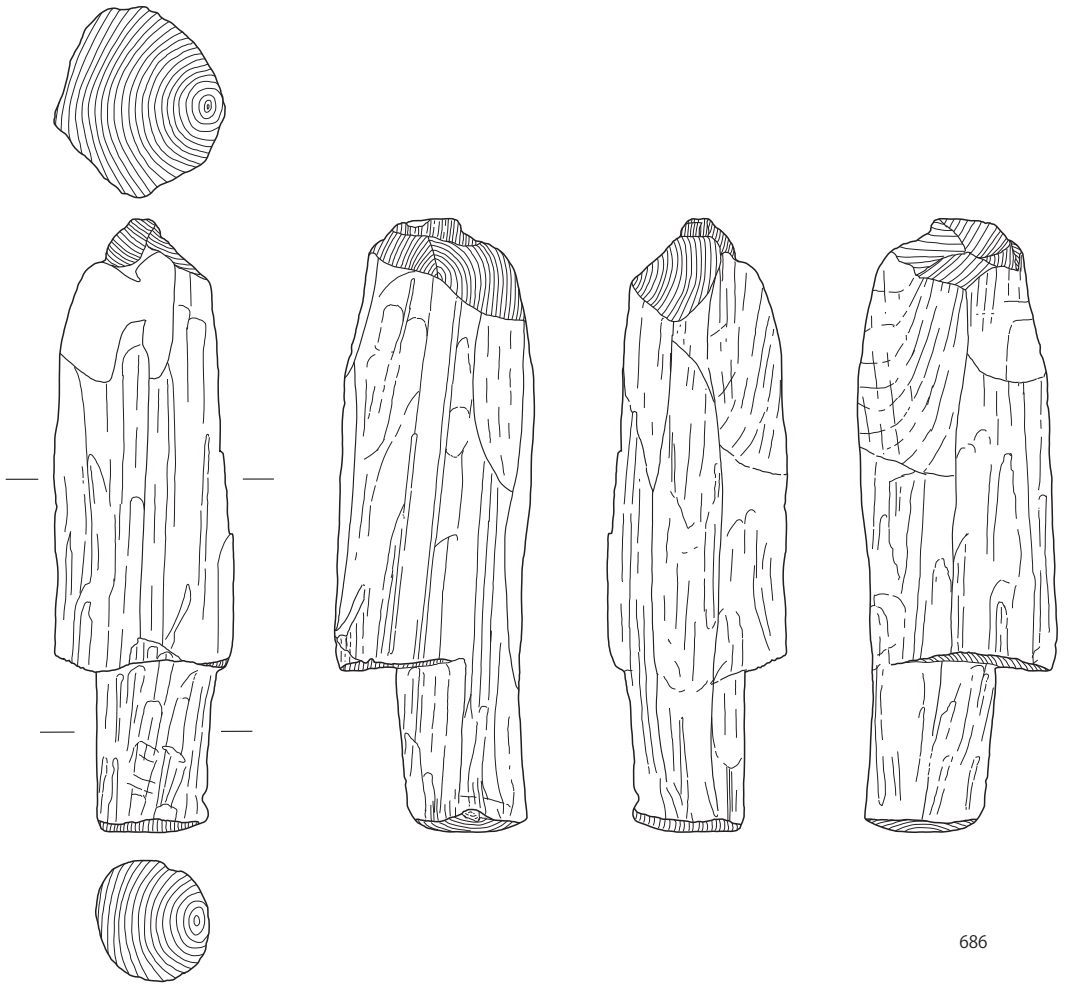
第 223 図　D 区　河川 SG1（26）出土遺物



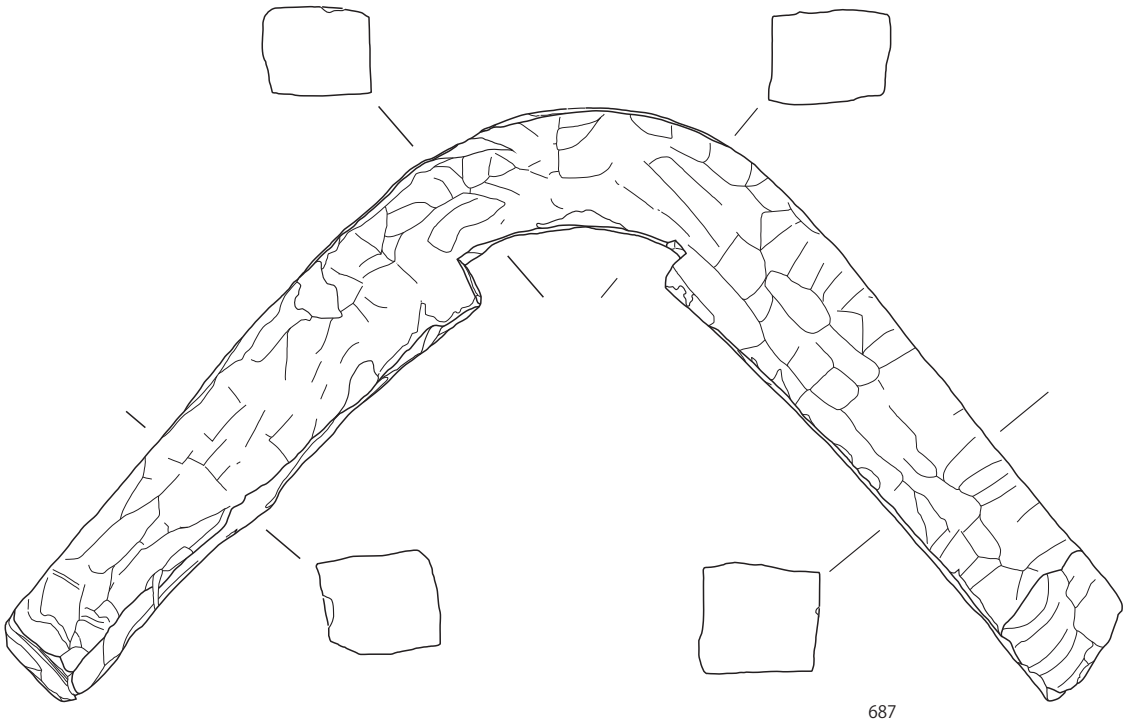
第 224 図　D 区　河川 SG1（27）出土遺物



第 225 図　D 区　河川 SG1（28）出土遺物



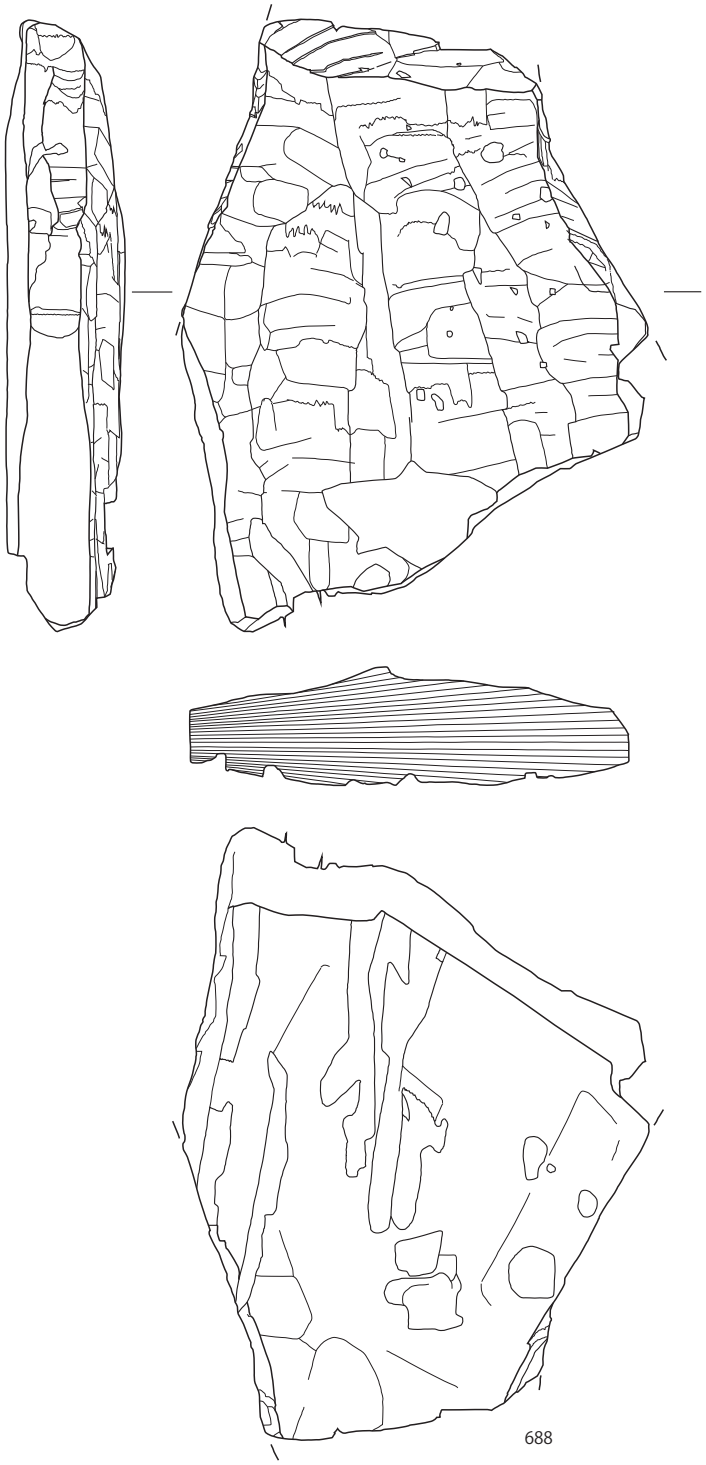
686



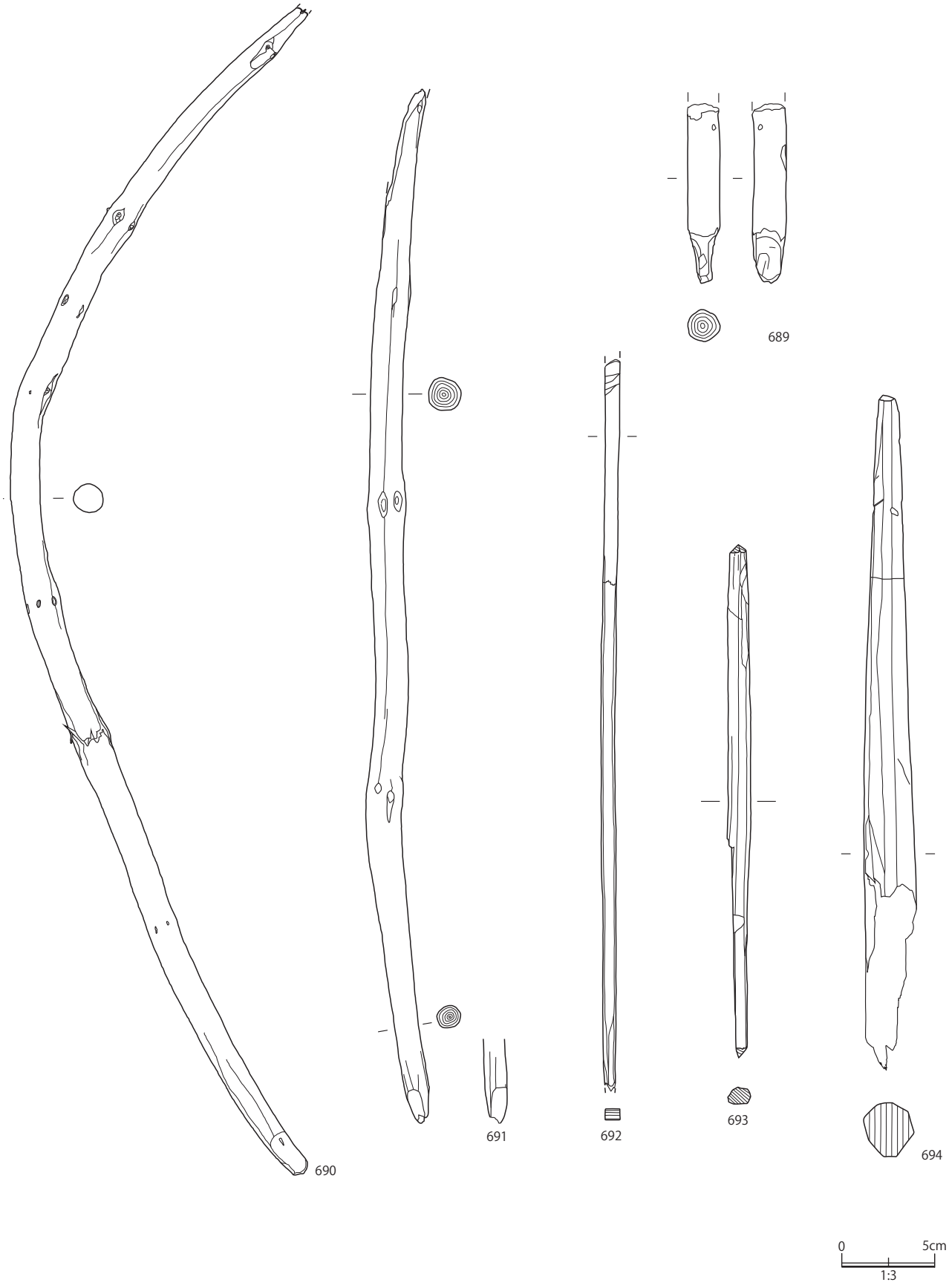
687

0　5cm
1:3

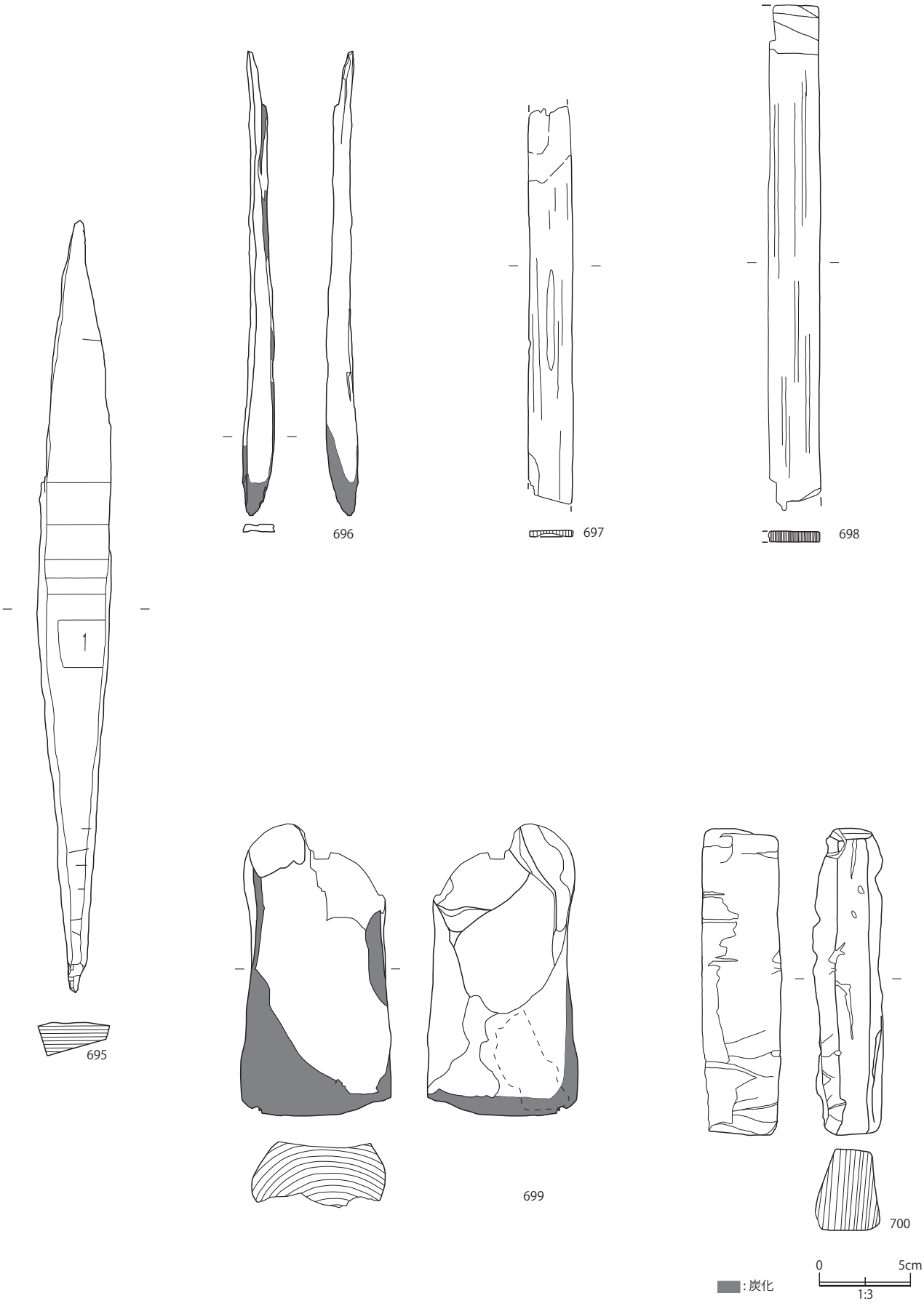
第 226 図　D 区　河川 SG1（29）出土遺物



第 227 図　D 区　河川 SG1（30）出土遺物



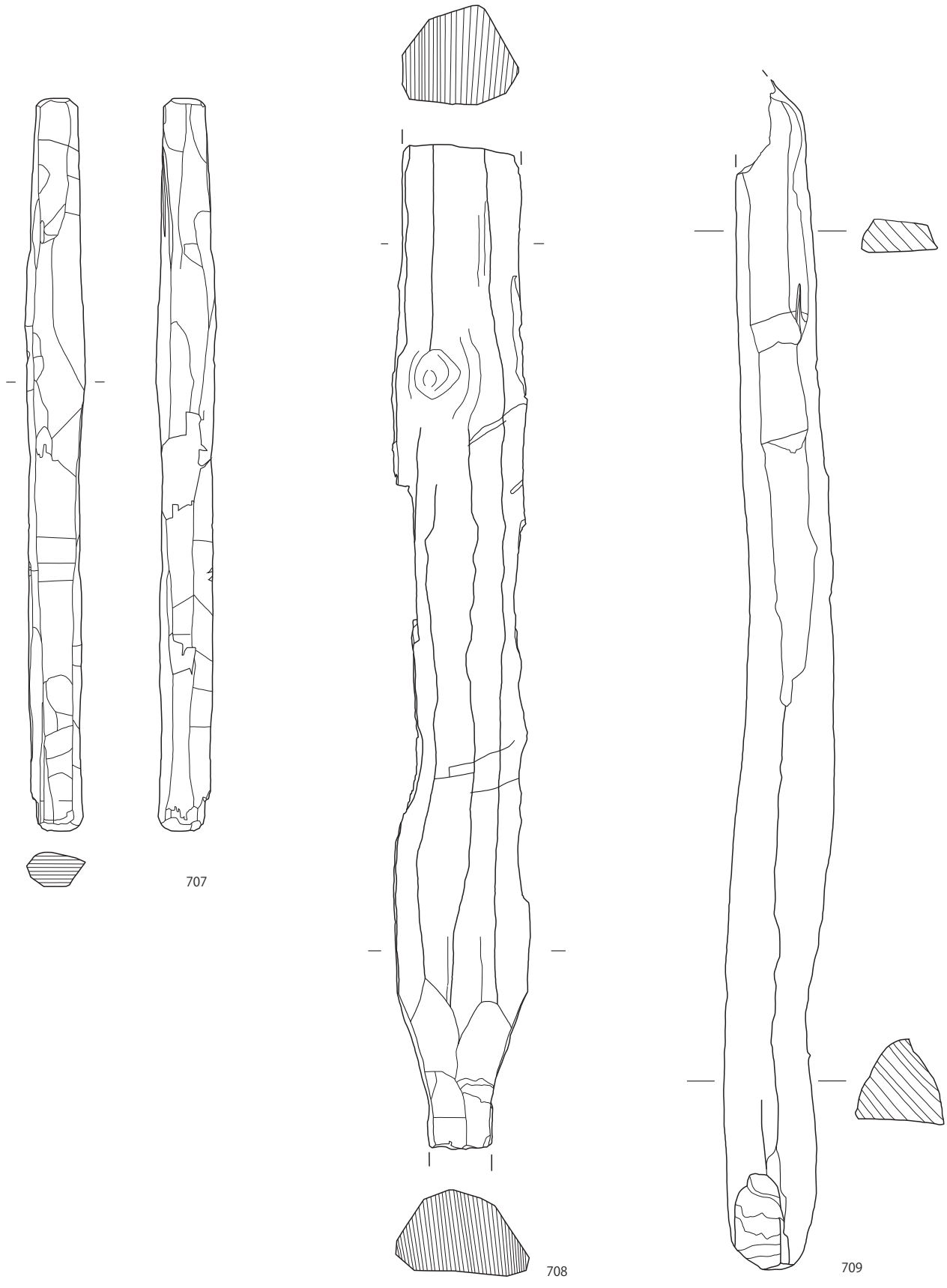
第 228 図　D 区　河川 SG1（31）出土遺物



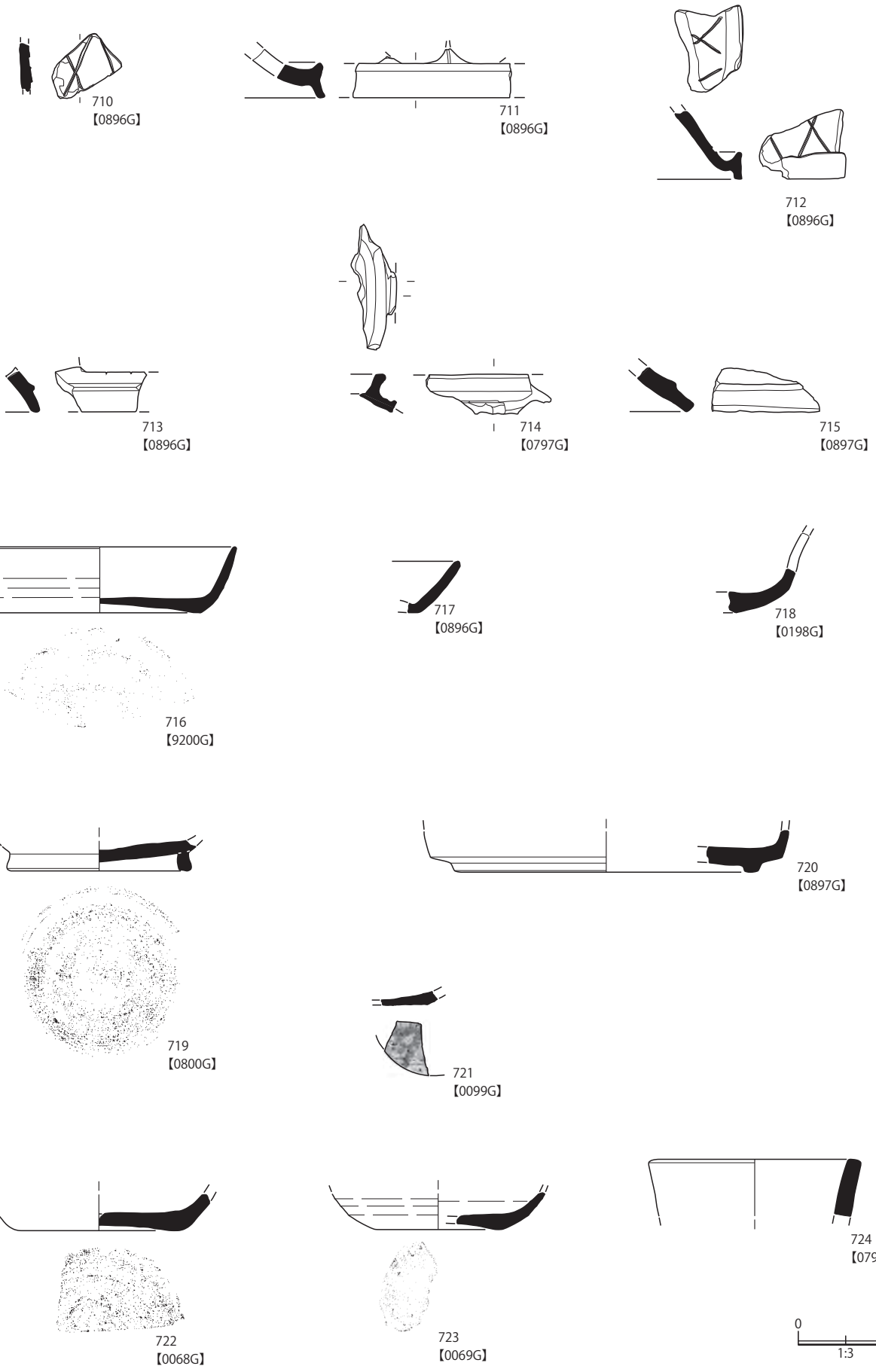
第 229 図　D 区　河川 SG1（32）出土遺物

第 230 図　D 区　河川 SG1（33）出土遺物

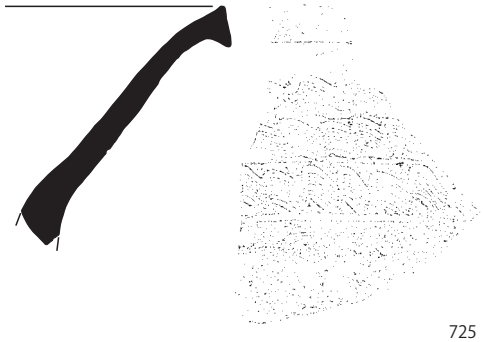
第 231 図　D 区　河川 SG1（34）出土遺物

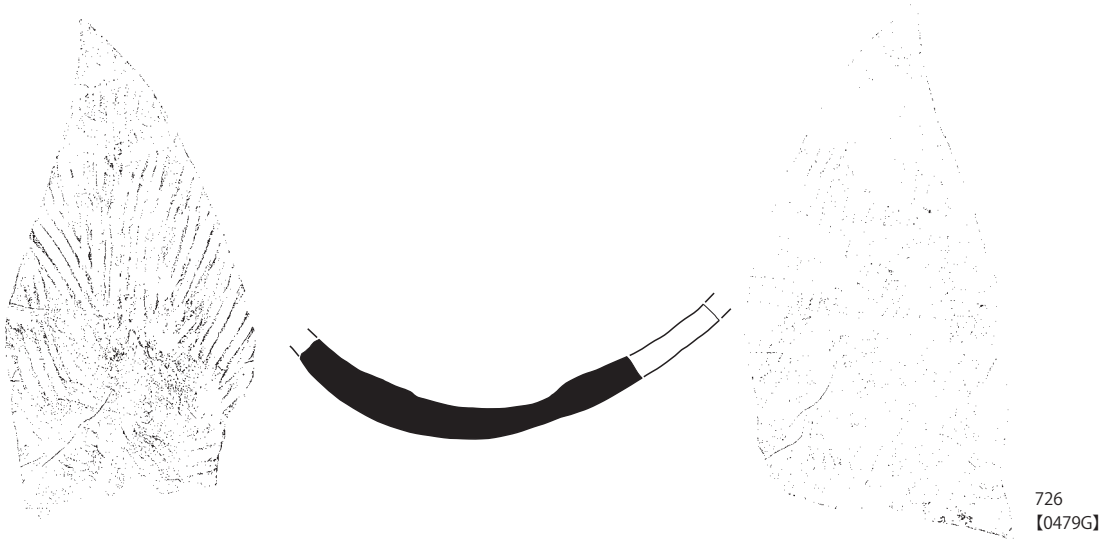


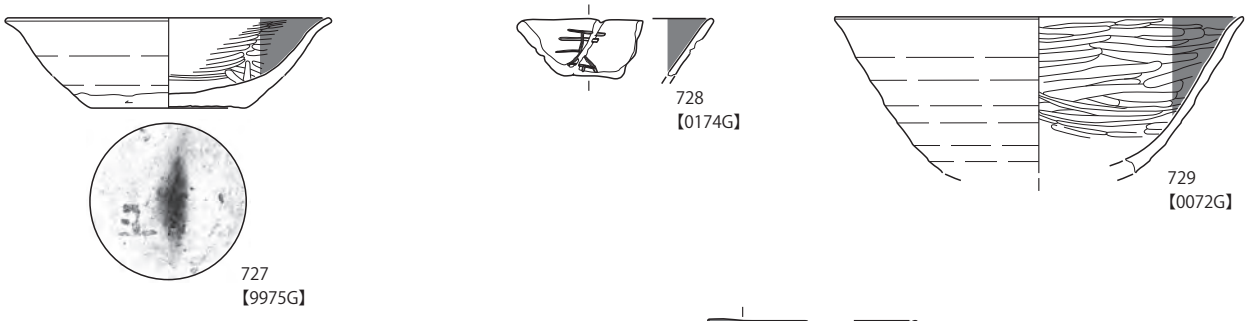
第 232 図　D 区　河川 SG1（35）出土遺物

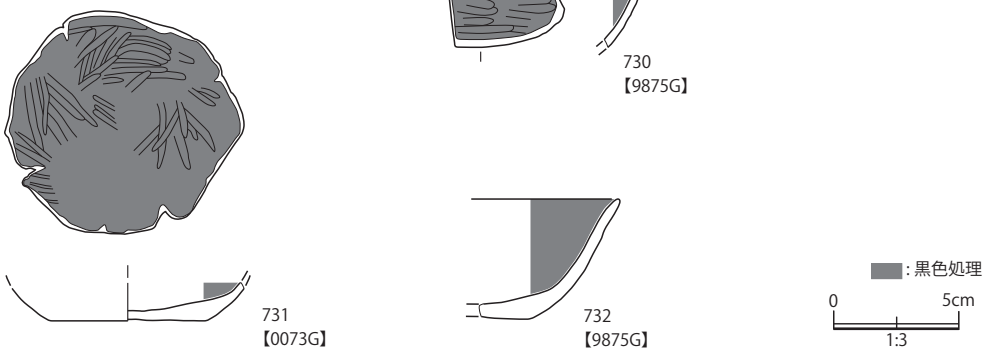


第 233 図　グリッド出土遺物（1）



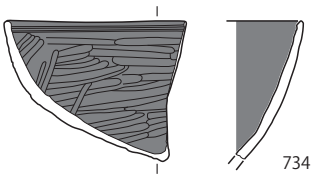


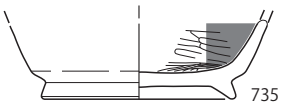




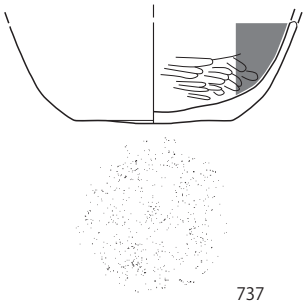
第 234 図　グリッド出土遺物（2）

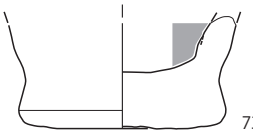
733
【0479G】

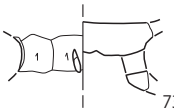

734
【0397G】

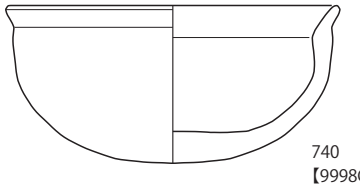

735
【0479G】

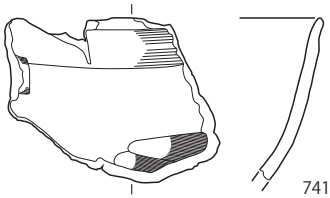
736
【9974G】

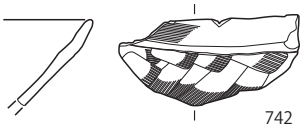

737
【9875G】

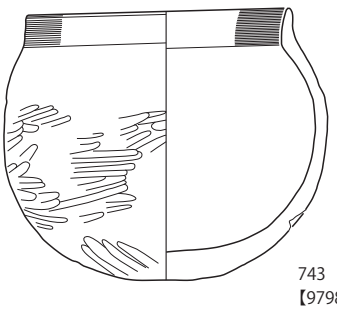

738
【0896G】

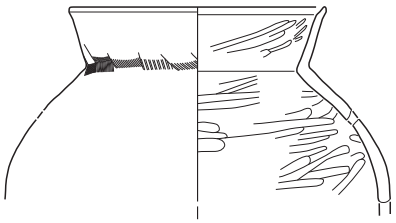

739
【9285G】

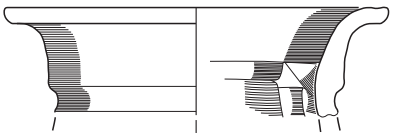

740
【9998G】

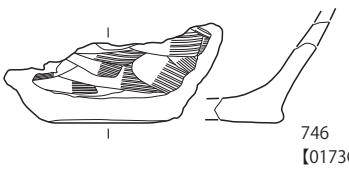

741
【9798G】

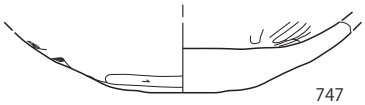

742
【0381G】


743
【9798G】


744
【0381G】

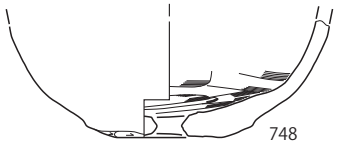

745
【0381G】


746
【0173G】


747
【9998G】

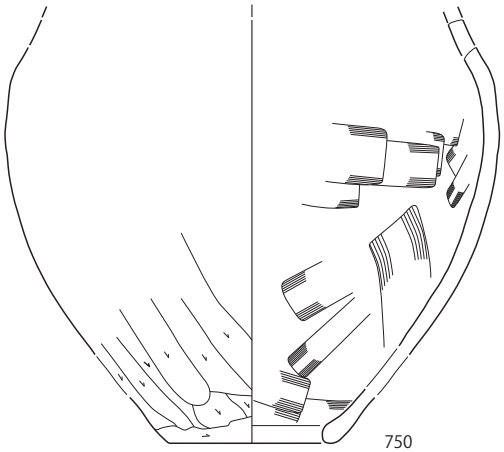
■：黒色処理　0　5cm　1:3

第 235 図　グリッド出土遺物（3）

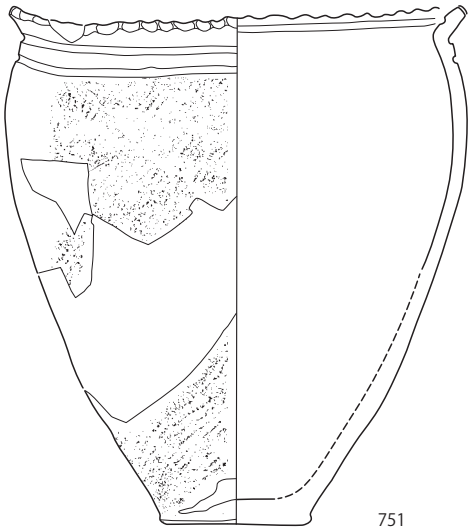


748
【9798G】

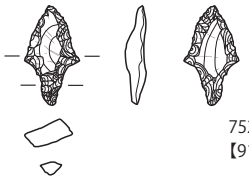
749
【0897G】



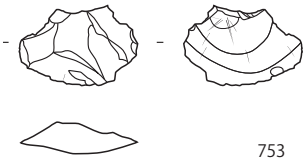
750
【9798G】



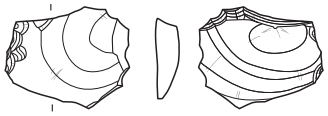
751
【0173G】



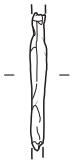
752
【9173G】



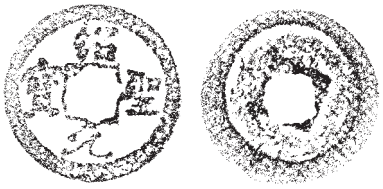
753
【9273G】



754
【9273G】



755
【0877G】



（S=1:1）

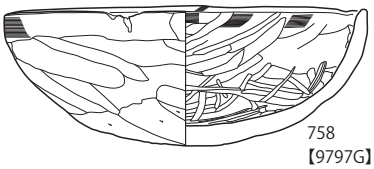
756
【0003G】

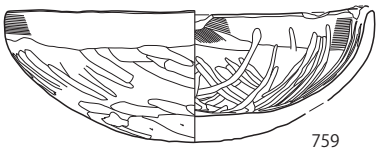
757
【0797G】

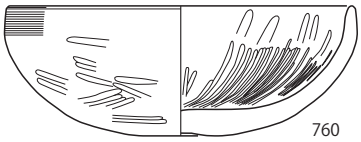
0　5cm
1:3

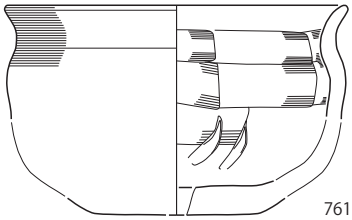
（752・753・754）0　5cm
1:2

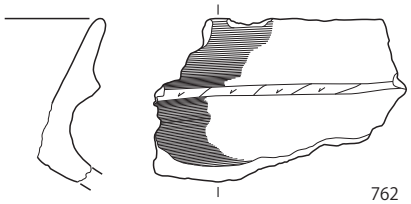
第 236 図　グリッド出土遺物（4）

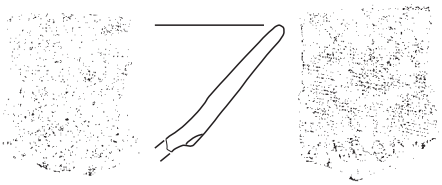

758
【9797G】

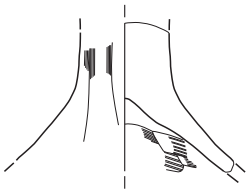

759
【9698G】

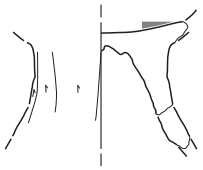

760
【9797G】

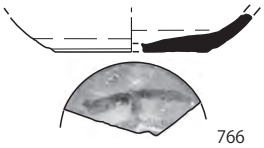

761
【9797G】

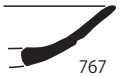

762


763


764

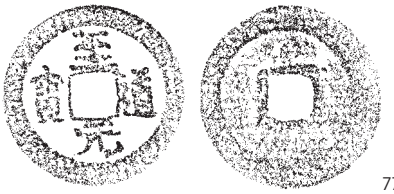

765


766


767

768

769


770
（S=1:1）

0　5cm
1:3

第 237 図　グリッド出土遺物（5）、出土地点不明遺物

表 2　土器観察表

番号	種別	器種	調査区	グリッド	遺構		層位	登録番号	計測値（mm）		
									口径	底径	器高
1	須恵器	有台坏	A 区		ST1200		床面	RP42		(70)	〔20〕
2	須恵器	無台坏	A 区		ST1200		床面		(144.5)	66.5	39.5
3	須恵器	無台坏	A 区		ST1200		床面	RP43	140	66	37
4	須恵器	無台坏	A 区		ST1200						〔13〕
5	須恵器	瓶類	A 区		ST1200						〔47〕
6	黒色土器	無台坏	A 区		ST1200						〔21〕
7	土師器	甕	A 区		ST1200		床面	RP41			〔91〕
8	土師器	甕	A 区		ST1200	EL2528		RP40			〔330〕
9	土師器	甕	A 区		ST1200		床面	RP43			〔45.5〕
10	土師器	甕	A 区		ST1200	EL2528		RP40		(104)	〔19〕
12	土師器	甕	A 区		ST1200	EL2528		RP40			〔28.5〕
13	土師器	甕	A 区		ST1200	EP2530					〔36.5〕
14	須恵器	無台坏	A 区		ST1210		床面		(146)	(84)	40
15	須恵器	無台坏	A 区		ST1210						38
16	須恵器	甕	A 区		ST1210		床面				〔37〕
17	ロクロ土師器	蓋	A 区		ST1210		床面				〔8〕
18	黒色土器	無台坏	A 区		ST1210						〔29〕
19	黒色土器	無台坏	A 区		ST1210						〔13〕
20	土師器	甕	A 区		ST1210		床面				〔75〕
21	土師器	甕	A 区		ST1210						〔38.5〕
24	須恵器	無台坏	A 区		ST1210	EP2621					〔23.5〕
25	土師器	甕	A 区		ST1210	EP2621					〔61〕
26	土師器	不明	A 区		ST1210	EP2621					〔24〕
27	土師器	甕	A 区		ST1210	EP2621					〔9.5〕
28	土師器	壺	A 区		ST1210	EP2692					〔18.5〕
29	須恵器	無台坏	A 区		ST1441		床面				40
30	土師器	甕	A 区		ST1441		床面	RP66	(216)		〔48.5〕
31	土師器	甕	A 区		ST1441			RP66		79	(96.5)
32	土師器	甕	A 区		ST1441・2591			RP53、54、56	229		〔245〕
33	須恵器	甕	A 区		ST1441		床面	RP67			〔186.5〕
34	土師器	甕	A 区		ST1441	EL2863				(122)	〔67〕
35	須恵器	有台坏	A 区		ST1441・1554	EK2804		RP65	164	83	79.5
36	須恵器	蓋	A 区		ST1441						〔11.5〕
37	須恵器	不明	A 区		ST1441	EP2787					〔39〕
38	土師器	鉢か	A 区		ST2591			RP55			〔41〕
39	土師器	甕	A 区		ST2591			RP55			〔49〕
40	土師器	甕	A 区		ST2591				142.5	106	113.5
41	土師器	甕	A 区		ST2591			RP53		100	〔119〕
42	土師器	甕	A 区		ST2591			RP53、56	(198)		〔171〕
43	土師器	甕	A 区		ST2591			RP52、53、55			〔273〕
44	土師器	甕	A 区		ST2591			RP55		104	〔186〕
45	土師器	甕	A 区		ST2591			RP55		105	〔157〕
46	土師器	甕	A 区		ST2591			RP55		(110)	〔166.5〕
47	土師器	甕	A 区		ST2591	EL2678				80	〔48〕
48	須恵器	無台坏	A 区		ST2591	EL2678					〔14〕

調整			備考
外面	内面	底部	
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	打ち欠きか
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	内外面に火襷痕
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→回転ヘラケズリ	
ロクロナデ	ロクロナデ		
ナデ	ミガキ	ケズリ→ナデ	内黒
ハケメ	ハケメ	木葉痕	
ハケメ			
ハケメ	ハケメ		
ハケメ		網代痕	
	ハケメ	木葉痕	
ハケメ		木葉痕	
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
ロクロナデ	アテ		
ロクロナデ			
ロクロナデ	ミガキ		内黒
ロクロナデ	ミガキ		内黒
ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ		内外面でハケメの仕様が違う
	ハケメ	網代痕	
ロクロナデ	ロクロナデ		
ハケメ	ハケメ		
	ハケメ		
		木葉痕	
	ヘラナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ		
ヨコナデ、ハケメ	ハケメ		全体的に被熱
	ハケメ	木葉痕	内外面被熱、表面の剥がれ多
ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ		
タタキ	アテ		
ハケメ	ハケメ	木葉痕	
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
ロクロナデ	ロクロナデ		
ケズリ			
ミガキ	ミガキ		
	ハケメ	木葉痕	外面磨耗
ハケメ		木葉痕	
ハケメ	ハケメ		
ハケメ	ハケメ		
ハケメ	ハケメ	木葉痕	
ハケメ	ハケメ	木葉痕	
ハケメ	ハケメ		
		木葉痕	
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	

番号	種別	器種	調査区	グリッド	遺構		層位	登録番号	計測値（mm）		
									口径	底径	器高
49	黒色土器	無台坏	A区		ST1554				(122)	(60)	46.5
50	黒色土器	無台坏	A区		ST1554						〔37〕
51	黒色土器	有台坏	A区		ST1554						〔41.5〕
52	黒色土器	無台坏	A区	0274G	ST1554				(131.5)	60	(44.5)
53	かわらけ	Ⅲ	A区		ST1554		検出面		90		22
54	ロクロ土師器	無台坏	A区		ST1554						〔16.5〕
55	ロクロ土師器	無台坏	A区		ST1554						〔40〕
56	ロクロ土師器	無台坏	A区		ST1554						〔36.5〕
57	ロクロ土師器	甕	A区		ST1554						〔91〕
58	ロクロ土師器	甕	A区		ST1554						〔78.5〕
59	黒色土器	無台坏	A区		ST1554	EK2595					〔14.5〕
60	黒色土器	無台坏	A区		ST1554	EK2595					〔44〕
61	土師器	甕	A区		ST1554	EK2838、EP1552			(246)		〔27.5〕
62	黒色土器	無台坏	A区		ST1554	EK2595					〔49〕
63	須恵器	碗	A区	0274G	ST1554	EK2595					〔52〕
64	土師器	甕	A区		ST1554	EK2838、EP1552				104	〔37〕
65	土師器	甕	A区		ST1554	EK2838、EP1552				98	〔35〕
66	土師器	甕	A区		ST1554	EP1552					〔49〕
67	ロクロ土師器	無台坏	A区		ST2361						〔40〕
68	黒色土器	無台坏	A区		ST2361					60	〔25.5〕
69	黒色土器	無台坏	A区		ST2361	EK2665			(144)	71	45
70	ロクロ土師器	鉢か	A区		ST2361						〔81〕
71	ロクロ土師器	甕	A区	0877G	ST2361	EK2665、EK2667、EK2680					〔172.5〕
72	黒色土器	無台坏	A区		ST2361	EK2667			(136)	60	51
73	ロクロ土師器	有台坏	A区		ST2361	EK2667					〔28〕
74	ロクロ土師器	無台坏	A区		ST2361	EK2667					〔43〕
75	黒色土器	甕	A区		ST2361	EK2667					〔131〕
76	黒色土器	耳皿	A区		ST2361、SE1660	EK2667				64	〔46〕
77	土師器	甕	A区		ST2361	EK2667					〔104〕
78	須恵器	甕	A区		ST2361	EK2667					〔127〕
79	黒色土器	有台坏	A区		ST2361	EK2667				(92)	〔36〕
80	ロクロ土師器	甕	A区		ST2361	EK2672			(134)		〔36.5〕
81	土師器	甕	A区		ST2361	EK2672					〔11〕
82	ロクロ土師器	無台坏	A区		ST2361	EK2783			(146)	60	46.5
83	黒色土器	無台坏	A区		ST2361	EK2783				60	〔39〕
84	ロクロ土師器	甕	A区		ST2361	EL2782					〔45〕
85	ロクロ土師器	甕	A区	0876G	ST2361	EL2782			(208)		〔62〕
86	ロクロ土師器	甕	A区		ST2361	EL2782					〔98.5〕
87	ロクロ土師器	甕	A区		ST2361	EL2782					〔86〕
88	ロクロ土師器	甕	A区		ST2361	EP2860				84	〔20〕
89	黒色土器	無台坏	A区		ST2361	EP2860			(142)	56	49.5
90	須恵器	無台坏	A区		ST2554			RP46	(143)	56	38.5
91	須恵器	有台坏	A区		ST2554			RP47	144		〔41〕
92	土師器	甕	A区		ST2554				(150)	(96)	137.5
93	土師器	甕	A区		ST2554			RP50		(98)	〔103〕
94	土師器	甕	A区		ST2554			RP49		(86)	(27)

調整			備考
外面	内面	底部	
ロクロナデ	ミガキ	回転ヘラ切り→ナデ？	内黒
ロクロナデ	ミガキ		内黒
ロクロナデ	ミガキ		内黒
ロクロナデ、手持ちヘラケズリ	ミガキ	切り離し後ケズリ	内黒
ナデ	ナデ		手づくね、13c か
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
ロクロナデ	ミガキ		
ロクロナデ	ミガキ		
ケズリ、タタキ	ハケメ		
ロクロナデ	ハケメ		
ロクロナデ	ミガキ		内黒
ロクロナデ	ミガキ		内黒
ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ		
ロクロナデ	ミガキ		内黒
ロクロナデ	ロクロナデ		焼成不良か
	ハケメ	木葉痕	
ハケメ	ハケメ		
ハケメ	ハケメ	木葉痕	
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り	内黒
ロクロナデ、手持ちヘラケズリ	ミガキ	切り離し後手持ちヘラケズリ	内黒
ロクロナデ	ミガキ		
ロクロナデ、カキメ、ケズリ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ミガキ	切り離し後、ナデ	
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ミガキ		
ロクロナデ、カキメ、ケズリ	ミガキ		内黒
ミガキ	ミガキ	ミガキ	内黒
ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ		
タタキ	アテ		外面に薄く自然釉
ロクロナデ	ミガキ	回転ヘラ切り→ロクロナデ	底部ヘラガキ「ー」、内黒
ロクロナデ	ロクロナデ		
		網代痕	
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
ロクロナデ、手持ちヘラケズリ	ミガキ	切り離し後→手持ちヘラケズリ	内黒
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ、タタキ、ケズリ	ロクロナデ		
ロクロナデ、タタキ	ロクロナデ		
ケズリ			
ロクロナデ	ミガキ		内黒
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ロクロナデ	
ハケメ	ハケメ		外面に付着物（鉄か）
ハケメ		木葉痕	外面に付着物（鉄か）
	ハケメ	木葉痕	

番号	種別	器種	調査区	グリッド	遺構		層位	登録番号	計測値（mm）		
									口径	底径	器高
95	ロクロ土師器	甕	A区		ST2554			RP48		90	〔55〕
96	土師器	甕	A区		ST2554	EL2569				(124)	〔54〕
97	須恵器	瓶類か	A区		SB300	EB302					〔26.5〕
98	須恵器	甕	A区		SB300	EB302					〔38〕
99	土師器	甕	A区		SB1240	EB1242					〔17〕
100	土師器	甕	A区		SB1882	EB1075					〔29.5〕
101	須恵器	無台坏	A区		SB2341	EB2342					〔31〕
102	須恵器	無台坏	A区		SB2341	EB2342					〔23.5〕
103	須恵器	甕	A区		SB2341	EB2342					〔29〕
104	不明	不明	A区		SB2341	EB2349					〔56.5〕
105	ロクロ土師器	甕	A区		SB2341	EB2352					〔44〕
106	土師器	甕	A区		SB2518	EB1419					〔42〕
107	土師器	甕	A区		SB2518	EB1426					〔17〕
108	土師器	坏か	A区		SB2518	EB1426					〔8〕
109	土師器	甕	A区		SB2518	EB1426					〔27〕
111	土師器	甕	A区		SB2518	EB1822					〔15〕
112	土師器	不明	A区		SB2518	EB1823					〔31〕
113	土師器	甕	A区		SB2518	EB1830					〔33〕
114	須恵器	甕	A区		SB2518	EB1823					〔29〕
115	須恵器	甕	A区		SB2518	EB2592					〔51〕
116	須恵器	無台坏	A区		SB2520	EB1510				(80)	〔22〕
117	須恵器	無台坏	A区		SB2520	EB2501					〔28〕
118	須恵器	蓋	A区		SB2520	EB1859					〔8.5〕
119	須恵器	無台坏	A区		SB2520	EB1871					〔31.5〕
120	須恵器	瓶類	A区		SB2520	EB2525					〔48〕
121	ロクロ土師器	無台坏	A区		SB2520	EB2501					〔35〕
122	土師器	壺か	A区		SB2520	EB2525					〔12.5〕
123	須恵器	瓶類	A区		SB2522	EB1870					〔9.5〕
124	須恵器	甕	A区		SB2522	EB1870					〔27.5〕
125	土師器	甕	A区		SB2523	EB1374					〔30〕
126	土師器	甕か	A区		SB2523	EB1448					〔21〕
127	土師器	甕	A区		SB2523	EB2517					〔15.5〕
128	須恵器	無台坏	A区		SB2527	EB1219					〔9.5〕
129	土師器	甕	A区		SB2527	EB1377					〔28〕
130	須恵器	無台坏	A区		SB2547	EB2546					〔34.5〕
131	須恵器	無台坏	A区		SB2547	EB2544					〔12〕
132	土師器	器台	A区		SB2547	EB2516					〔34〕
133	須恵器	長頸瓶	A区		SB2793	EB2691					〔26〕
134	ロクロ土師器	双耳坏	A区		SE1660						〔16〕
135	弥生土器	不明	A区		SE1660						(33)
136	弥生土器	不明	A区		SE1660						〔44〕
137	須恵器	蓋	A区		SE1660				(140)	(35)	27.5
138	須恵器	無台坏	A区		SE1660					64	〔16.5〕
139	須恵器	無台坏	A区		SE1660					63	〔28〕
140	須恵器	甕	A区		SE1660						〔51.5〕
141	黒色土器	無台坏	A区		SE1660				(151)	(82)	41
142	黒色土器	無台坏	A区	0674G	SE1660					62	〔14.5〕
143	黒色土器	無台坏	A区		SE1660						〔40〕

調整			備考
外面	内面	底部	
ロクロナデ	ロクロナデ		内外面に鉄分の塊付着
		木葉痕	
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ		
ハケメ	ヘラナデ		
	ハケメ		
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ	カキメ		
ハケメ			
		木葉痕	
ヘラナデ			
ヨコナデ	ヨコナデ		
ヨコナデ	ヨコナデ		
タタキ	アテ		
タタキ、カキメ	カキメ		
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	打ち欠きか
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ミガキ		
ロクロナデ	ロクロナデ		外面に自然釉
タタキ	アテ		
ヨコナデ	ヨコナデ		
ハケメ			
ケズリ	ヘラナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ロクロナデ	
ヨコナデ、ハケメ	ハケメ		
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
ミガキ	ミガキ		外面に赤彩か
ロクロナデ	ロクロナデ		頸部にリング状の粘土突帯が廻る
			耳のみ
絡状体			RL
絡状体	ミガキ→ナデ？		RL
ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	内外面に火襷痕
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	全面に火襷痕
ロクロナデ、櫛描波状文２段	ロクロナデ		
ロクロナデ	ミガキ	切り離し後、ナデ	内黒
ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り	内黒
ロクロナデ	ミガキ	回転ヘラ切り→再調整	打ち欠きか、底部に線刻

番号	種別	器種	調査区	グリッド	遺構	層位	登録番号	計測値（mm）		
								口径	底径	器高
144	黒色土器	有台坏	A区		SE1660			(146)	(68)	61
145	黒色土器	有台坏	A区		SE1660				(93)	〔15〕
146	ロクロ土師器	甕	A区	0674G	SE1660			(222)		〔137〕
147	土師器	甕	A区		SE1660				63	〔17〕
148	土師器	甕	A区		SE1660	覆土			76	〔103.5〕
149	須恵器	蓋	A区	0575G	SE1671				(163)	〔52.5〕
150	須恵器	無台坏	A区		SE1671			(138)	(68)	44
151	須恵器	有台坏	A区		SE1671			(164)	(98)	75.5
152	ロクロ土師器	無台坏	A区		SE1671			(146)	(70)	39
153	ロクロ土師器	無台坏	A区		SE1671			(146)	74	39
154	土師器	壺か	A区		SE1671	覆土				〔36〕
155	須恵器	無台坏	A区		SE1671			(138)		〔40.5〕
156	土師器	坏か	A区		SE1671				(58)	〔20〕
157	黒色土器	無台坏	A区		SE1671					〔69.5〕
158	黒色土器	有台坏	A区		SE1671				(88)	〔20〕
159	黒色土器	無台坏	A区		SE1671				86	〔26〕
160	黒色土器	無台坏	A区		SE1671					〔32〕
161	土師器	甕	A区		SE1671					〔80〕
162	土師器	鉢か	A区		SE1671			(122)	(82)	(58.5)
163	土師器	甑	A区		SE1671	覆土				〔74〕
164	土師器	器台	A区		SE1671	覆土				〔39.5〕
165	土師器	甕	A区		SE1671	覆土			(80)	〔125〕
166	須恵器	甕	A区		SE1671			(240)		〔85.5〕
167	須恵器	甕	A区		SE1671					〔118〕
168	須恵器	甕	A区		SE1671					〔99〕
169	須恵器	瓶類	A区	0575G	SE1671					〔71〕
170	土師器	甕	A区		SE1706					〔39.5〕
171	須恵器	甕	A区		SE1706					〔30〕
172	ロクロ土師器	無台坏	A区		SE1706					〔25〕
173	ロクロ土師器	無台坏	A区		SE1940					〔25〕
174	ロクロ土師器	甕	A区		SE1940					〔28〕
175	黒色土器	無台坏	A区		SE1940					〔31〕
176	須恵器	無台坏	A区		SE1940					〔30.5〕
177	須恵器	甕	A区		SE1940					〔29〕
178	ロクロ土師器	甕	A区		SE1940					〔54〕
179	弥生土器か	甕	A区		SE2081					〔33〕
180	土師器	甕	A区		SE2081					(63)
181	黒色土器	無台坏	A区		SE2081					〔55〕
182	黒色土器	無台坏	A区		SE2081				60	〔41.5〕
183	土師器	小型壺	A区		SE2081				(75)	〔51〕
184	土師器	甕	A区		SE2081				104	〔76〕
185	須恵器	無台坏	A区		SE2081			(144)	64	48.5
186	須恵器	無台坏	A区		SE2081			(129)	(58)	45
187	須恵器	無台坏	A区		SE2081			(124)	(67)	36
188	須恵器	無台坏	A区		SE2081			(134)	(65)	45
189	須恵器	甕	A区		SE2081			(206)		〔59〕
190	須恵器	甕	A区		SE2081					〔76.5〕
191	須恵器	大甕	A区		SE2081					〔165〕

調整			備考
外面	内面	底部	
ロクロナデ	ミガキ		内黒
ロクロナデ	ミガキ	回転ヘラ切り→ロクロナデ	
ロクロナデ	ロクロナデ		
ハケメ、ケズリ	ヘラナデ	網代痕	
ロクロナデ	ロクロナデ		壺蓋か　外面に火襷痕あり　内外面に自然釉
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	外面上部に重ね焼の痕跡
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	焼成不良か
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り→ロクロナデ	
ミガキ	ハケメ		
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ミガキ		内黒
ロクロナデ	ミガキ	回転ヘラ切り→ナデ	内黒
ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ミガキ	回転ヘラ切り→回転ヘラケズリ	内黒
ロクロナデ、ミガキ	ミガキ		両黒
ハケメ	ハケメ		
ハケメ	ハケメ	木葉痕	
ハケメ	ハケメ、ミガキ		単孔式
ミガキ			
ハケメ	ヘラナデ	木葉痕	
ロクロナデ、タタキ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ、櫛描波状文３段	ロクロナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ		外面の一部に自然釉
ハケメ	ハケメ	網代痕	
タタキ	アテ		
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ハケメ		
ロクロナデ	ミガキ		内黒
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ、沈線	ロクロナデ		
ミガキ			口縁部下半端部に縄文原体の側縁圧痕が連続して施される
ハケメ			
ロクロナデ	ミガキ	切り離し後、再調整	内黒
ロクロナデ	ミガキ		内黒、内外面共に磨耗
ヘラナデ	ヘラナデ	木葉痕→菊花状の痕跡	
ハケメ		網代痕	
ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸切り	外面上部に重ね焼きの痕跡
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ、タタキ	ロクロナデ、アテ		
ロクロナデ、櫛描波状文、タタキ	ロクロナデ		

番号	種別	器種	調査区	グリッド	遺構	層位	登録番号	計測値（mm）		
								口径	底径	器高
192	須恵器	甕	A区		SE2081					〔125〕
193	須恵器	甕	A区		SE2081				108	〔107.5〕
194	須恵器	甕	A区		SE2081				(176)	〔76〕
195	須恵器	大甕	A区		SE2081				(180)	〔328.5〕
196	土師器	埦か坏	A区	9772G	SK1329					〔27〕
197	土師器	甕	A区		SK1329				(70)	(25)
198	土師器	甕	A区		SK1350					〔47〕
199	土師器	坏	A区	9670G	SK1350					〔40〕
200	黒色土器	坏	A区		SK1350					〔30.5〕
202	ロクロ土師器	無台坏	A区		SK1603					〔30〕
205	土師器	甕	A区		SK1658					〔25〕
206	土師器	高坏	A区		SK1658					〔47〕
207	黒色土器	無台坏	A区		SK1658			132	64	45
208	須恵器	無台坏	A区		SK1658			(156)		〔41〕
209	須恵器	無台坏	A区		SK1658					45
210	須恵器	瓶類	A区		SK1658			(136)		〔70〕
212	黒色土器	無台坏	A区		SK1659				70	〔15〕
213	土師器	甕	A区		SK1884					〔57〕
214	黒色土器	有台坏	A区		SK1919		RP60	(169)	68	59.5
215	黒色土器	無台坏	A区		SK1919		RP61			〔33.5〕
216	ロクロ土師器	無台坏	A区		SK1919					〔33.5〕
217	ロクロ土師器	無台坏	A区		SK1919					〔46〕
218	須恵器	壺	A区		SK1919		RP62	(114)	(84)	117.5
219	ロクロ土師器	甕	A区		SK1919			(262)		〔135〕
220	ロクロ土師器	甕	A区		SK1919		RP61		(132)	〔166〕
221	土師器	甕	A区		SK1919				(110)	〔63〕
222	土師器	甕	A区		SK1919				(144)	〔28.5〕
223	黒色土器	有台坏	A区		SK1924					〔26〕
224	黒色土器	無台坏	A区		SK1968				54	〔28.5〕
225	黒色土器	無台坏	A区		SK2016			(136)	(66)	46
226	ロクロ土師器	甕	A区		SK2057					〔51.5〕
227	ロクロ土師器	甕	A区		SK2057					〔37〕
228	須恵器	無台坏	A区		SK2060					〔34〕
229	須恵器	無台坏	A区		SK2060					〔27〕
230	ロクロ土師器	双耳坏	A区		SK2060					〔18〕
231	土師器	甕	A区		SK2060					〔30〕
233	黒色土器	無台坏	A区		SK2060・2067			(139)		〔32〕
234	土師器	甕	A区		SK2067					〔47〕
235	土師器	甕	A区		SK2091					〔59.5〕
236	土師器	甕	A区		SK2091				64	〔48.5〕
237	土師器	甕	A区		SK2145					〔29〕
238	ロクロ土師器	双耳坏	A区		SK2145					〔20〕
239	ロクロ土師器	無台坏	A区		SK2148					〔24〕
240	土師器か	ミニチュアか	A区		SK2167					〔24〕
241	ロクロ土師器	蓋	A区		SK2167					〔7〕
242	黒色土器	坏	A区		SK2167			(119)		43
243	黒色土器	無台坏	A区		SK2609			(148)	(102)	39
244	土師器	高坏	A区		SK2627					〔43.5〕

調整			備考
外面	内面	底部	
ロクロナデ、タタキ	ロクロナデ、アテ		
ケズリ	カキメ		
ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	
タタキ	アテ		底部外面に付着物
ミガキ	ミガキ		
ハケメ	ハケメ		
ヨコナデ、ハケメ	ハケメ		
ケズリ	ヘラナデ		
ヨコナデ、ケズリ	ミガキ		内黒
ロクロナデ	ロクロナデ		
ヘラナデ			
ロクロナデ	ミガキ	切り離し後、ケズリ	内黒
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ミガキ	回転ヘラ切り→ロクロナデ	内黒
ハケメ	ハケメ	木葉痕	
ロクロナデ	ミガキ		内黒
ロクロナデ	ミガキ		内黒
ロクロナデ	ミガキ		
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ	切離し後、ケズリ	内外面に自然釉
ロクロナデ、ヘラナデ	ロクロナデ、ヘラナデ		
ケズリ、ハケメ	ハケメ		
ケズリ			
	ヘラナデ	網代痕	
ロクロナデ	ミガキ		内黒
ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り	内黒
ロクロナデ	ミガキ		内黒、全体的に磨耗
ケズリ	ヘラナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ		内面が磨滅しているため調整が判然としない
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
			耳のみ (ケズリ)
ハケメ	ハケメ	木葉痕	
ロクロナデ	ミガキ		内黒
ハケメ	ハケメ		
ハケメ	ハケメ		
	ハケメ		
		網代痕	
			耳のみ (ケズリ)
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
ロクロナデ	ロクロナデ		
ミガキ	ミガキ		両黒
ロクロナデ	ミガキ	回転ヘラ切り→ナデ	内黒

番号	種別	器種	調査区	グリッド	遺構	層位	登録番号	計測値（mm）		
								口径	底径	器高
245	土師器	甕	A区		SK2627					〔40〕
247	須恵器	無台坏	A区		SK2719				70	〔16〕
248	土師器	甕	A区		SK2719					〔40〕
249	黒色土器	無台坏	A区		SK2719			(141)	(84)	38.5
250	土師器	甕	A区		SK2731					〔35〕
251	土師器	甕	A区		SK2844				(102)	(28)
252	黒色土器	坏	A区		SK2844					〔41〕
253	土師器	甕	A区		SK2879			(152)		〔36〕
254	須恵器	無台坏	A区		SK2882					〔26〕
255	ロクロ土師器	有台坏	A区		SP1018					〔16.5〕
256	須恵器	甕	A区		SP1164					〔42〕
257	土師器	甕	A区		SP1024			(225)		〔91.5〕
258	弥生土器	高坏か	A区		SP1167					〔37〕
259	土師器	甕	A区		SP1167				76	〔23.5〕
260	土師器	甑か	A区		SP1178					〔26〕
262	土師器	坏か	A区		SP1264					〔25〕
263	瓷器系陶器	甕	A区		SP1312					〔130〕
265	須恵器	無台坏	A区		SP1548					〔30.5〕
266	土師器	甕	A区		SP1614					〔31〕
267	土師器	甕	A区		SP1742					〔62.5〕
268	黒色土器	無台坏	A区		SP2156			(138)	54	39
269	須恵器	無台坏	A区		SP1937				70	〔20.5〕
270	須恵器	甕	A区		SP2610					〔38〕
273	土師器	小型埦か	A区		SP2206					〔27〕
274	土師器	高坏	A区		SP2206			(111)		〔52.5〕
275	土師器	不明	A区		SP2206					〔34〕
276	土師器	甕	A区		SP2206			(192)		〔187〕
277	須恵器	甕	A区		SP2636					〔54〕
278	ロクロ土師器	甕	A区		SP2645					〔46.5〕
279	土師器	甕	A区		SP2655				(59)	〔35〕
280	須恵器	無台坏	A区		SP2715					〔26〕
281	土師器	壺	A区		SP2657			(164)		〔73〕
282	土師器	甕	A区		SP2738					〔63〕
283	黒色土器	無台坏	A区		SP2745				〔86〕	〔20〕
284	土師器	甕	A区		SP2745					〔43〕
285	黒色土器	無台坏	A区		SP2857				74	〔17.5〕
286	黒色土器	無台坏	A区		SP2857					〔34.5〕
287	黒色土器	坏	A区		SD2022					〔30〕
289	土師器	坏	A区	0771・0772G	SG1661			(157)		51
290	土師器	坏	A区	0772G	SG1661			(144)		56
291	土師器	有孔鉢	A区	0770・0771G	SG1661			(188)		118.5
292	土師器	甕	A区	0771G	SG1661			(172)		〔55〕
293	土師器	甕	A区	0659G	SG1661					〔128〕
294	土師器	壺	A区	0770G	SG1661					〔89〕
295	黒色土器	無台坏	A区	0872G	SG1661				(55)	〔23〕
296	土師器	甕	A区	0771G	SG1661			(175)		〔198〕
297	黒色土器	有台坏	A区	0773G	SG1661				78	〔27〕
298	須恵器	無台坏	A区	0768・0769G	SG1661			(144)	82	38.5

調整			備考
外面	内面	底部	
ヨコナデ	ハケメ		
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
ハケメ		木葉痕	
ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り	内黒、外面磨滅
	ヘラナデ	木葉痕	
ヨコナデ、ヘラナデ	ミガキ		内黒
ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ヘラナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ		
矢羽根タタキ			
ヘラナデ	ハケメ		※棒状のヘラナデ
不明	ミガキ		
	ハケメ		
ハケメ	ヘラナデ		
			13c ～ 14c か
ロクロナデ	ロクロナデ		
ヨコナデ	ヨコナデ		
ハケメ、ミガキ			
ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ミガキ		内黒
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
ロクロナデ	ロクロナデ		
	ナデ		
ヨコナデ、ミガキ	ミガキ		
ハケメ	ハケメ、ヘラナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ		
	ハケメ	ヘラ切り	
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	
ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ヘラナデ		
ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ		
ロクロナデ	ミガキ	回転ヘラ切り	内黒
ヘラナデ	ハケメ	木葉痕	
ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ミガキ	回転糸切り	内黒
ロクロナデ	ミガキ		内黒
	ミガキ		内黒
	ハケメ		
ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ		
ヨコナデ	ハケメ		
ミガキ			
ロクロナデ	ミガキ		内黒
ヨコナデ、ハケメ、ケズリ	ハケメ、ヘラナデ		
ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り	内黒
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	

番号	種別	器種	調査区	グリッド		遺構	層位	登録番号	計測値（mm）		
									口径	底径	器高
299	須恵器	甕	A区	0768・0770G	SG1661				(190)		〔127.5〕
300	須恵器	無台坏	A区	0772G	SG1661				(140)		〔41〕
301	須恵器	甕	A区	0772G	SG1661						〔26〕
302	須恵器	甕	A区	0668G	SG1661						〔52.5〕
303	須恵器	甕	A区		SX1351						〔35〕
304	須恵器	有台坏	A区		SX1352					(82)	〔18〕
305	須恵器	甕	A区		SX1352						〔55〕
306	青磁	碗	A区		SX1352						〔34〕
307	黒色土器	無台坏	A区		SX1352						〔17〕
308	土師器	甕	A区		SX1352					(94)	〔11.5〕
309	土師器	甕	A区		SX2144					86	〔18〕
310	ロクロ土師器	無台坏	A区		SX2870						〔33.5〕
311	土師器	甕	A区		SX2870						〔22〕
312	ロクロ土師器	無台坏	A区		SX2870						〔20〕
313	ロクロ土師器	甕	A区		SX2870					(70)	〔19〕
314	黒色土器	無台坏	A区		SX2870				(138)	(62)	43.5
315	黒色土器	無台坏	A区		SX2870						〔47.5〕
316	黒色土器	無台坏	A区		SX2870						〔33〕
317	黒色土器	鉢か	A区		SX2870						〔71〕
318	須恵器	無台坏	A区		SX2870						〔38.5〕
319	須恵器	甕	A区		SX2870						〔100〕
320	土師器	甕	B区		ST2435			RP64			(34.5)
321	土師器	甕	B区		ST2435						〔32〕
322	土師器	甕	B区		ST2435	EK2821					〔37〕
323	土師器	甕	B区		ST2435			RP64	(156)		〔103〕
324	土師器	甕	B区		ST2435			RP63	(151)		〔59〕
325	土師器	甕	B区		ST2435			RP63		51	〔34.5〕
326	土師器	ミニチュア	B区		ST2435					44	〔38〕
327	土師器	坏	C区		ST250		検出面	RP26	(141)		65
328	土師器	鉢	C区		ST250		検出面		(172)		(126.5)
330	土師器	坏	C区		ST250	EL251、EK351		RP35	(146)		57.5
331	土師器	坏	C区		ST250	EL251	袖		(158)		66
332	土師器	甕	C区		ST250	EL251			(162)		〔121〕
333	土師器	甕	C区		ST250	EL251				68	〔42〕
334	土師器	甕	C区		ST250	EL251			(168)		〔237〕
335	土師器	甕	C区		ST250	EL251			(198)		〔239〕
336	土師器	甕	C区		ST250	EL251、EK351		RP20、25	186.5	79	269
337	土師器	坏	C区		ST250	EK351		RP19、20、35	137.5		56.5
338	土師器	坏	C区		ST250	EK351		RP29	134.5		56
339	土師器	坏	C区		ST250	EK351		RP17	(141)		52
340	土師器	坏	C区		ST250	EK351		RP19、20、35	170.5		56.5
341	土師器	坏	C区		ST250	EK351		RP31、32	167		〔66〕
342	土師器	坏	C区		ST250	EK351		RP38	125		54.5
343	土師器	坏	C区		ST250	EK351		RP22、35	160		(67)
344	土師器	坏	C区		ST250	EK351		RP22、26、35	151		67
345	土師器	坏	C区		ST250	EK351		RP34	(150)		71
346	土師器	坏	C区		ST250	EK351		RP37	140		71.5
347	土師器	坏	C区		ST250	EK351		RP18	(124)		65

調整			備考
外面	内面	底部	
ロクロナデ、カキメ、タタキ	ロクロナデ、カキメ、アテ		内面の口唇から頸部にかけて自然釉
ロクロナデ	ロクロナデ		内外面に火襷痕
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ		内外面に自然釉
カキメ	カキメ		
ロクロナデ	ロクロナデ		
ハケメ	ハケメ		
ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り	内黒
		木葉痕	
ヘラナデ		木葉痕	
ロクロナデ	ロクロナデ		
	ヘラナデ	網代痕	
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ、手持ちヘラケズリ	ミガキ		内黒
ロクロナデ	ミガキ		内黒
ロクロナデ	ミガキ		内黒
ロクロナデ	ミガキ		内黒
ロクロナデ	ロクロナデ		焼成不良及び火はねか
タタキ	アテ		外面全体に自然釉
ハケメ			口唇に刻み目あり
ハケメ	ハケメ		
ハケメ	ハケメ		
ヨコナデ、ハケメ			
ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ		
	ミガキ		種子圧痕あり
	ヘラナデ		
			内外面ともに磨耗、種子圧痕あり
ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ		
ヨコナデ、ハケメ			内面調整不明
			外面で火はねしている
ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	ヨコナデ、ヘラナデ		
ハケメ	ハケメ	ヘラナデ	内面に種子圧痕あり
ヨコナデ、ケズリ、ハケメ、ミガキ	ヨコナデ、ケズリ		内面に種子圧痕あり
ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ヘラナデ		
ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ		
ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	ケズリ	内面に種子圧痕あり
ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ		外面に種子圧痕あり
ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ		内面に種子圧痕あり
ヨコナデ	ヨコナデ		内外面ともに磨耗、内面に種子圧痕
			内外面ともに磨耗
ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ		内外面に種子圧痕あり
ヨコナデ	ヨコナデ、ミガキ		内面に種子圧痕あり
ヨコナデ、ミガキ	ハケメ、ヨコナデ		
ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ		
ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ミガキ		作りが丁寧
ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ		

番号	種別	器種	調査区	グリッド	遺構		層位	登録番号	計測値（mm）		
									口径	底径	器高
348	土師器	鉢	C区		ST250	EK351		RP25、27、28、38	137.5		85
349	土師器	鉢	C区		ST250	EK351		RP21、24、25	(138)		91
350	土師器	鉢	C区		ST250	EK351		RP27	(126)	74	(107)
351	土師器	甑	C区		ST250	EK351		RP31	271.5	86	220.5
352	土師器	有孔鉢	C区	0197G	ST250	EK351			(155)	55	101.5
353	土師器	甑	C区		ST250	EK351		RP30、31	202		〔349.5〕
354	土師器	壺	C区		ST250	EK351		RP16			〔97〕
355	土師器	壺	C区		ST250	EK351		RP15		77	〔13〕
356	土師器	甕	C区		ST250	EK351		RP22、24、25	(156)	80	169.5
357	土師器	甕	C区		ST250	EK351		RP24	(116)	60	214
358	土師器	甕	C区		ST250	EK351		RP14	(167)	50	282
359	土師器	甕	C区		ST250	EK351		RP15		62	〔164〕
360	土師器	壺	C区		ST250	EK351		RP15	(164)		〔115〕
361	土師器	坏	C区		ST250	EP325		RP8、9	136		54
362	土師器	坏	C区		ST250	EP325		RP10	133		60
363	土師器	坏	C区		ST250	EP325		RP13	(147)		72
364	土師器	坏	C区		ST250	EP325		RP11、12	144		61
365	土師器	坏	C区		ST250	EP325		RP8、9	164.5		70.5
366	土師器	坏	C区		ST250	EP325		RP11、12	163		72
367	土師器	坏	C区		ST250	EP325		RP8、9	(152)		62
368	土師器	甕	C区		ST250	EL251、EP324		RP6	137.5	51	186
369	土師器	甕	C区		ST250	EP312				68	〔62〕
370	須恵器	不明	C区		SB2760	EB2301					〔51〕
371	須恵器	無台坏	C区		SB2760	EP2302					〔14〕
372	土師器	壺	C区		SK1103						〔40〕
373	土師器	坏	C区		SK1103			RP57			〔46〕
374	土師器	壺	C区		SK1103						〔28〕
375	土師器	壺	C区		SK1103						〔86〕
376	土師器	壺	C区		SK1103			RP53、57、58			〔115.5〕
377	土師器	壺	C区		SK1103						〔100〕
378	土師器	甕	C区		SK1103			RP57	(218.5)	74	(255)
379	土師器	坏	C区		SK1103			RP57	126		67
380	土師器	坏	C区		SK1103			RP57	124		80.5
381	土師器	鉢	C区		SK1103			RP57、58	(152)		〔53.5〕
382	土師器	坏	C区		SK1104						(44)
383	土師器	甕	C区		SK1104						〔33〕
384	土師器	甕	C区		SK1259						〔68〕
385	土師器	甕	C区		SK1259						〔45〕
386	土師器か	甕か	C区		SK2380						〔18〕
387	土師器か	甕	C区		SK2380						〔49.5〕
388	黒色土器	坏	C区		SK2405・2438			RP45	(140)		39
389	黒色土器	坏	C区		SK2438			RP45	(158)		〔44〕
390	黒色土器	坏	C区		SK2405・2438			RP45	154		〔50〕
391	土師器	甕	C区		SK2438			RP45		74	〔267〕
392	須恵器	無台坏	C区		SP379						〔30〕
394	須恵器	不明	C区		SP2704					(69)	〔13.5〕
395	黒色土器	坏	C区		SD193						〔20〕
396	青磁	盤	C区		SD2708						〔15.5〕

調整			備考
外面	内面	底部	
ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ		
ハケメ	ヘラナデ		
ヨコナデ、ミガキ、ケズリ	ヨコナデ、ヘラナデ		
ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ		単孔式　口縁部付近に穿孔が２つ対に位置する
ハケメ	ハケメ		単孔式　外面に種子圧痕あり
ヨコナデ、ハケメ、ケズリ	ヨコナデ、ケズリ		多孔式
ミガキ			胴部のみ
ハケメ		ヘラナデ、ケズリ	
ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ	ヘラナデ	内面に種子圧痕あり
ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ヘラナデ	ヘラナデ	内面に種子圧痕あり
ヨコナデ、ハケメ、ケズリ、ミガキ	ケズリ、ヘラナデ、ヨコナデ	ケズリ	
ハケメ	ハケメ	ケズリ	種子圧痕あり
ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ		
ヨコナデ、ミガキ、ケズリ			内面に種子圧痕あり
ミガキ	ミガキ		
ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ミガキ		内外面に種子圧痕あり
			全体に被熱、磨滅
ヨコナデ、ハケメ			内外面に種子圧痕あり
ヨコナデ			内外面ともに磨耗、内面に種子圧痕あり
ヨコナデ			内外面ともに磨耗
ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ		
ハケメ	ハケメ	ケズリ	
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
ヨコナデ、ミガキ	ミガキ		内面が赤色化
ヨコナデ	ミガキ		
ハケメ	ハケメ、ミガキ		外面が赤色化
ハケメ	ハケメ、ナデ		
ハケメ	ハケメ		
ケズリ、ミガキ	ナデ、沈線		
ヨコナデ、ハケメ→ミガキ	ハケメ→ナデ		
ヨコナデ、ミガキ、ケズリ	ミガキ		
ヨコナデ、ミガキ			
ヨコナデ	ミガキ		
ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ		
ヨコナデ、ヘラナデ	ヨコナデ		
ヨコナデ			
刻み目			
ヨコナデ、ハケメ			
ヨコナデ、ミガキ	ミガキ		内黒
	ミガキ		内黒
ヨコナデ、ヘラナデ	ミガキ		内黒
ハケメ	ハケメ	木葉痕	外面にスス、コゲあり
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	
	ミガキ	ミガキ	内黒
			15 ｃか

番号	種別	器種	調査区	グリッド	遺構	層位	登録番号	計測値（mm）		
								口径	底径	器高
397	須恵器	無台坏	C 区		SD2708					〔12.5〕
398	須恵器	無台坏	C 区		SD2100					〔11.5〕
399	須恵器	蓋	C 区	9381G	SD2100					〔16〕
400	ロクロ土師器	甕	C 区		SD2100、SP2663					〔91〕
401	土師器	高坏	C 区		SD2100					〔57〕
402	須恵器	蓋	C 区	0794G	SG72					〔13〕
403	須恵器	蓋	C 区	0793G	SG72					〔21〕
404	須恵器	無台坏	C 区	0694G	SG72				(94)	〔18〕
405	須恵器	無台坏	C 区	0694G	SG72				(70)	〔10.5〕
406	土師器	甕	C 区	0893G	SG72					〔33〕
407	須恵器	甕	C 区	0892G	SG72					〔34〕
408	土師器	壺	C 区	9286G	SG2887					〔106.5〕
409	土師器	甕	C 区	9285・9286G	SG2887					〔81.5〕
410	土師器	甕	C 区	0186G	SG2887				56	〔33〕
411	土師器	高坏	C 区	9285・9286G	SG2887			(166)		〔41〕
412	土師器	高坏	C 区	9284・9285G	SG2887					〔52〕
413	土師器	高坏	C 区	9284・9285・9286G	SG2887			(163)		〔114.5〕
414	土師器	高坏	C 区	9285G	SG2887					〔65.5〕
415	土師器	高坏	C 区	9285・9286G	SG2887					〔67〕
416	土師器	高坏	C 区	9285・9286G	SG2887					〔93〕
417	土師器	高坏	C 区	9284・9285・9286G	SG2887				(196)	〔123〕
418	須恵器	有台坏	C 区	9285・9286G	SG2887				(75)	〔76〕
419	須恵器	無台坏	C 区	0085G	SG2887					〔43〕
420	土師器	坏	D 区		SK352					〔27.5〕
421	黒色土器	坏	D 区		SK352					〔48〕
422	土師器	甕	D 区		SK352				78	〔13〕
423	黒色土器	坏	D 区		SP360					〔31〕
424	須恵器	蓋	D 区	0697G	SG1			59		20.5
425	須恵器	蓋	D 区	0497G	SG1					〔21.5〕
426	須恵器	蓋	D 区	0697G	SG1					〔15〕
427	須恵器	蓋	D 区	0697G	SG1			(141)		27
428	須恵器	蓋	D 区	0399G	SG1			(180)		35
429	須恵器	蓋	D 区	0798・0799G	SG1			175		29
430	須恵器	有台坏	D 区	0700・0800・0900G	SG1			170	111	36
431	須恵器	有台坏	D 区	0700・0799G	SG1			169	109	44
432	須恵器	有台坏	D 区	0698G	SG1			(136)	(80)	48
433	須恵器	有台坏	D 区	0700G	SG1			(166)	(107)	50.5
434	須恵器	有台坏	D 区	0800G	SG1					44
435	須恵器	有台坏	D 区	0698G	SG1				(97)	〔23.5〕
436	須恵器	有台坏	D 区	0597G	SG1			(140)	(73)	52.5
437	須恵器	稜埦	D 区	0697・0698G	SG1				(108)	〔44〕
438	須恵器	有台坏	D 区	0697・0698G	SG1			(145)		〔70.5〕
439	須恵器	稜埦	D 区	0598G	SG1					〔31.5〕
440	須恵器	稜碗	D 区	0696G	SG1					〔34〕
441	須恵器	盤か	D 区		SG1					〔33〕
442	須恵器	双耳坏	D 区	0597G	SG1					〔26.5〕
443	須恵器	双耳坏	D 区	0697G	SG1					〔18〕
444	須恵器	無台坏	D 区	0598G	SG1			(149)	(82)	42

調整			備考
外面	内面	底部	
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	
ロクロナデ	ロクロナデ		
タタキ	アテ		須恵器の焼成不良か
ヘラナデ	ヘラナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ		内面が火はねしている
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
ハケメ	ハケメ	ヘラナデ	外面に種子圧痕あり
矢羽根タタキ			焼成不良
ヨコナデ			二重口縁壺、接合部に刻目が廻る
ヨコナデ、ハケメ			
ハケメ	ハケメ	ヘラナデ	
ミガキ	ミガキ		表面が全体的に磨耗
ハケメ	ナデ		
ミガキ			
			全体的に磨耗
ミガキ	ナデ		
ミガキ	ミガキ		
ケズリ、ミガキ	ナデ		脚部に有段
ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	回転糸切り→ロクロナデ	
ロクロナデ	ロクロナデ		
ヨコナデ	ミガキ		有段
ヨコナデ	ミガキ		内黒
ハケメ		木葉痕	
ヨコナデ	ミガキ		内面に漆付着、内黒
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ		宝珠形
ロクロナデ	ロクロナデ		ツマミの径（41 ㎜）
ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ		
ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ		内面に重ね焼きの痕跡、外面に自然釉
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ロクロナデ	体部下半部に稜あり
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→回転ヘラケズリ	体部下半部に稜あり
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ロクロナデ	
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ロクロナデ	体部及び脚部に打ち欠きか
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	打ち欠きか
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ロクロナデ	
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ロクロナデ	
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ		耳にケズリ
ロクロナデ	ロクロナデ		耳にケズリ
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	

番号	種別	器種	調査区	グリッド	遺構	層位	登録番号	計測値（mm）		
								口径	底径	器高
445	須恵器	無台坏	D区	0698・0798G	SG1	砂層		(144)	74	37
446	須恵器	無台坏	D区	0800G	SG1			145.5	88	34
447	須恵器	無台坏	D区	0800G	SG1			171	101.5	48
448	須恵器	無台坏	D区	0698・0798G	SG1			162.5	85	44
449	須恵器	無台坏	D区	0698G	SG1			(134)	56	43.5
450	須恵器	無台坏	D区	0900G	SG1			135	47	45
451	須恵器	蓋	D区	0999G	SG1					〔39〕
452	須恵器	不明	D区	0900G	SG1					〔12〕
453	須恵器	甕	D区	0597G	SG1			(202)		〔86〕
454	須恵器	壺	D区	0597・0598・0697G	SG1			(178)		〔155〕
455	須恵器	甕	D区	0299G	SG1				(102)	〔98〕
456	須恵器	甕	D区	9003G	SG1				106	〔123.5〕
457	須恵器	甕	D区	0697・0698G	SG1			(196)		(181)
458	須恵器	甕	D区	0800G	SG1			(130)	100	142.5
459	須恵器	壺	D区	0596G	SG1			(113)		〔91.5〕
460	須恵器	甕	D区	9201・9202・9302G	SG1					〔108.5〕
461	須恵器	長頸瓶	D区	0597・0696G	SG1			(114)	115	(243)
462	須恵器	横瓶	D区	9201・9202・9302G	SG1					〔78〕
463	須恵器	横瓶	D区	9201・9202・9302G	SG1					〔75.5〕
464	須恵器	瓶類	D区	0900G	SG1					〔113〕
465	陶硯	円面硯	D区	0900G	SG1					〔59〕
466	陶硯	円面硯	D区	0696G	SG1					〔18〕
467	陶硯	円面硯	D区	0698G	SG1					〔31〕
468	陶硯	円面硯	D区	0697G	SG1					〔15.5〕
469	陶硯	円面硯	D区	0497G	SG1			(148)		〔43〕
470	陶硯	円面硯	D区	0798G	SG1	F1				〔19〕
471	陶硯	円面硯	D区	0696G	SG1					〔28〕
472	陶硯	円面硯	D区	0697G	SG1					〔33〕
473	黒色土器	坏	D区	0799G	SG1			(140)		〔30〕
474	黒色土器	坏	D区	0800G	SG1			(140)		34
475	黒色土器	無台坏	D区	0698G	SG1			(113)	68	36.5
476	黒色土器	坏	D区	0598G	SG1			(180)		〔39.5〕
477	黒色土器	坏	D区	0799G	SG1			(184)		〔31〕
478	黒色土器	坏	D区	0800・0900G	SG1			(160)		42
479	黒色土器	坏	D区	9201・9202・9302G	SG1			(162)		41.5
480	黒色土器	坏	D区	9201・9202・9302G	SG1					〔34〕
481	黒色土器	坏	D区		SG1					〔30〕
482	黒色土器	坏	D区	0800G	SG1			(172)		44.5
483	黒色土器	無台坏	D区	0800・0900G	SG1			151		36
484	黒色土器	坏	D区	0999G	SG1			145	46	50.5
485	黒色土器	坏	D区	0800G	SG1			(142)		35
486	黒色土器	無台坏	D区	0201・0301G	SG1			(140)	90	36
487	黒色土器	無台坏	D区	0900G	SG1			145.5	98	42
488	黒色土器	無台坏	D区	0700G	SG1			(152)	96	42.5
489	黒色土器	無台坏	D区	0800G	SG1			(109)	68	35.5
490	黒色土器	無台坏	D区	0900G	SG1			107.5	74	36
491	黒色土器	無台坏	D区	0698・0798G	SG1			155.5	81	60
492	黒色土器	無台坏	D区	0799G	SG1	砂層		158	86	62

調整			備考
外面	内面	底部	
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→回転ヘラケズリ	
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ		
タタキ	アテ		
ロクロナデ、ケズリか	ロクロナデ、カキメ		
タタキ	ロクロナデ		内面に漆付着
ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ		
ロクロナデ、タタキ	ロクロナデ、アテ		
ロクロナデ	ロクロナデ		焼成不良
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ、櫛描波状文	ロクロナデ		
ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ロクロナデ	
タタキ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ		
透孔、体部縦位沈線、植物（葉）の装飾か			圏足円面硯
脚部に縦位沈線			圏足円面硯
ロクロナデ	ロクロナデ		
			脚部に縦位沈線
ロクロナデ	ロクロナデ		
			圏足円面硯
			透孔残存、圏足円面硯
			圏足円面硯
ミガキ	ミガキ		両黒
ミガキ	ミガキ	ミガキ	両黒
ロクロナデ→ミガキ	ロクロナデ→ミガキ	ミガキ	両黒
ヨコナデ、ケズリ	ミガキ		内黒、有段
			内黒、有段、内面に漆付着
ヨコナデ	ミガキ		内黒
ヨコナデ、ケズリ	ミガキ	ケズリ	内黒
ヨコナデ、ケズリ	ミガキ		内黒　有段
ヨコナデ、ケズリ	ミガキ		内面の一部が黒色化
ヨコナデ、ケズリ	ミガキ		内黒
ヨコナデ、ケズリ	ミガキ	ケズリ	内黒
ヨコナデ、ケズリ	ミガキ	静止糸切り	内黒
ヨコナデ、ケズリ	ミガキ		内黒、有段
ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ミガキ	回転ヘラ切り→回転ヘラケズリ	内黒
ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ミガキ	回転ヘラ切り→回転ヘラケズリ	内黒
ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ミガキ		内黒
ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ミガキ	回転ヘラ切り→回転ヘラケズリ	内黒
ロクロナデ	ミガキ	回転ヘラ切り→回転ヘラケズリ	内黒
ロクロナデ、回転ヘラケズリ、ミガキ	ミガキ	回転糸切り	内黒
ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ミガキ	回転糸切り	内黒

番号	種別	器種	調査区	グリッド	遺構	層位	登録番号	計測値（mm）		
								長さ	幅	厚さ
493	黒色土器	埦	D区	0698G	SG1				85	〔63.5〕
494	黒色土器	無台坏	D区	0900G	SG1			(167)	100	58
495	黒色土器	双耳坏	D区	0798G	SG1			(126)		〔27.5〕
496	黒色土器	有台坏	D区	0698・0799G	SG1	砂層		209.5	(76)	91
497	黒色土器	有台坏	D区	0800G	SG1			(132)		〔39.5〕
498	土師器	坏	D区	0900G	SG1					〔33〕
499	土師器	坏	D区		SG1					〔35.5〕
500	土師器	坏か	D区	9201・9202・9203G	SG1					〔25.5〕
501	土師器	坏	D区	0900G	SG1			138		〔44.5〕
502	土師器	坏	D区	0800G	SG1			(154)		〔36〕
503	土師器	坏	D区	0800G	SG1			189		52
504	土師器	坏	D区	0399G	SG1			(154)		41
505	土師器	坏	D区	9201・9202・9302G	SG1			(140)		〔33.5〕
506	土師器	坏	D区	9201・9202・9302G	SG1			(140)		49
507	土師器	坏	D区	0800G	SG1			(174)		54.5
508	須恵器	蓋	D区	0696G	SG1					15
509	ロクロ土師器	無台坏	D区	0300G	SG1			(148)	86	40
510	ロクロ土師器	無台坏	D区	0698G	SG1			136	70	36.5
511	土師器	坏	D区	9201・9202 G・302G	SG1					〔35〕
512	黒色土器	有台坏	D区	0697G	SG1				90	〔22.5〕
513	土師器	坏か	D区	0598G	SG1			(94)		54
514	土師器	坏	D区	0399G	SG1					〔42〕
515	土師器	器台	B区	0901G	SG1					〔38.5〕
516	土師器	壺	D区	0399G	SG1			(250)		〔49.5〕
517	土師器	高坏	D区	0697G	SG1					〔29〕
518	土師器	甕	D区	0698G	SG1					〔58.5〕
519	土師器	鉢	D区	9201・9202・9203G	SG1					〔124〕
520	土師器	甕	D区	0900・9367G	SG1			(151)		〔189〕
521	土師器	甕	D区	0900G	SG1					〔184.5〕
522	土師器	甕	D区	9201・9202・9302G	SG1			(197)		〔236〕
710	陶硯	円面硯	B区	0896G						〔20〕
711	陶硯	円面硯	B区	0896G	面整理					〔25.5〕
712	陶硯	円面硯	D区	0896G						〔35.5〕
713	陶硯	円面硯	B区	0896G						〔23.5〕
714	陶硯	円面硯	D区	0797G						〔21〕
715	陶硯	円面硯	D区	0897G						〔23.5〕
716	須恵器	無台坏	D区	9200G				(144)	(106)	34.5
717	須恵器	無台坏	B区	0896G						〔27〕
718	須恵器	稜椀	D区	0198G						〔42〕
719	須恵器	有台坏	B区	0800G	面整理				(97)	〔16〕
720	須恵器	盤	B区	0897G					(150)	〔21.5〕
722	須恵器	無台坏	A区	0068G					(86)	〔19〕
723	須恵器	無台坏	A区	0069G					(68)	〔19.5〕
724	須恵器	こね鉢か	D区	0799G				(112)		〔30〕
725	須恵器	甕	D区	0003G						〔90.5〕
726	須恵器	甕	C区	0479G						〔54.5〕
729	黒色土器	無台坏	A区	0072G				(162)		〔62〕
730	黒色土器	無台坏	A区	9875G						〔34〕

調整			備考
外面	内面	底部	
ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ミガキ	回転ヘラ切り	内黒
ロクロナデ	ミガキ	回転ヘラ切り	内黒、全面に漆付着、昆虫付着
ロクロナデ	ミガキ		内黒、耳にケズリ
ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ミガキ		内黒、外面に漆付着
ロクロナデ	ミガキ	切り離し後、ロクロナデ	内黒
ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ		有段
ヨコナデ、ケズリ	ハケメ		
ヨコナデ、ハケ、ミガキ	ミガキ		
ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ		
ヨコナデ、ケズリ	ミガキ		有段
ハケメ→ヨコナデ、ナデ、ケズリ	ヘラナデ		
ヨコナデ、ケズリ			
ヨコナデ	ハケメ		
ヨコナデ、ケズリ、ミガキ	ミガキ、ハケメ	ナデ	
			全体的に磨耗
カキメ			焼成不良か、ツマミの径（42 ㎜）
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	内外面の一部が黒色に変色
ヨコナデ	ヨコナデ	ケズリ	
ロクロナデ	ミガキ	回転ヘラ切り→ロクロナデ	内黒
ケズリ	ミガキ		
ヨコナデ、ハケメ	ヘラナデ		
ミガキ			
ヨコナデ	ヨコナデ		
ケズリ	ミガキ		内黒
ハケメ、ヨコナデ	ヘラナデ		
ヨコナデ、ヘラナデ	ヘラナデ		
ハケメ、ヨコナデ	ヘラナデ		
ハケメ	ハケメ		
ハケメ、ヨコナデ	ハケメ		
沈線による斜格子文			
透穴（円形２個）、縦位沈線			
沈線による斜格子文			圏足円面硯
			圏足円面硯　透孔に刻み目あり
			肩部
			圏足円面硯
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ロクロナデ	打ち欠きか
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
ロクロナデ	ロクロナデ		端部に湿台痕、内外面に付着物、自然釉
櫛描波状文	ロクロナデ		外面に自然釉
タタキ	アテ		
ロクロナデ	ミガキ		内黒
ロクロナデ	ミガキ		内黒

番号	種別	器種	調査区	グリッド	遺構	層位	登録番号	計測値（mm）		
								口径	底径	器高
731	黒色土器	無台坏	A区	0073G					(62)	〔15〕
732	黒色土器	無台坏	A区	9875G						47.5
733	黒色土器	蓋	C区	0479G						〔21〕
734	黒色土器	無台坏	D区	0397G	面整理					〔54.5〕
735	黒色土器	有台坏	B区	0479G					(77)	〔30〕
736	黒色土器	有台坏	A区	9974G						〔21.5〕
737	黒色土器	無台坏	A区	9875G					64	〔40〕
738	土師器	不明	B区	0896G					82	〔42〕
739	土師器	高坏	B区	9285G						〔27〕
740	土師器	坏	B区	9998G				(132)		62.5
741	土師器	坏か	A区	9798G						〔64〕
742	土師器	坏か	A区	0381G						〔34〕
743	土師器	鉢	D区	9798G				106	23	107.5
744	土師器	甕	A区	0381G				(102)		〔77〕
745	土師器	甕	A区	0381G				(152)		〔43〕
746	土師器	甕	A区	0173G						〔40〕
747	土師器	不明	B区	9998G						〔28〕
748	土師器	甑	D区	9798G						〔46〕
749	土師器か	不明	D区	0897G	面整理					〔32.5〕
750	土師器	甑	D区	9798G					66	〔168〕
751	縄文土器	深鉢	A区	0173G			RP68	181.5	56	205
758	土師器	坏	D区	9797G		表土		144		54
759	土師器	坏	D区	9698G		表土	RP4	145		54
760	土師器	坏	D区	9797G		表土	RP2	(138)		51.5
761	土師器	鉢	D区	9797G		表土	RP3	(136)	(68)	83
762	土師器	壺		北側						〔64.5〕
763	弥生土器か	甕			XO（暗渠）					〔50.5〕
764	土師器	高坏			北側暗渠跡					〔59〕
765	黒色土器	高坏			暗渠跡					〔48.5〕
767	須恵器	無台坏								〔23.5〕
768	須恵器	瓶類		北側						〔25〕
772	須恵器	甕	D区	0697・0698・0799G	SG1					〔158〕
773	黒色土器	坏	D区	0698G	SG1					〔36.5〕
774	黒色土器	坏	D区	0697G	SG1					〔37.5〕
775	黒色土器	坏	D区	0697G	SG1					〔35.5〕
776	黒色土器	坏	D区	0698G	SG1					〔38〕
777	黒色土器	坏	D区	0697G	SG1					〔28.5〕
778	須恵器	壺	D区	0697・0698・0799G	SG1			(118)	(146)	

調整			備考
外面	内面	底部	
ロクロナデ	ミガキ		内黒
ロクロナデ	ミガキ		内黒
ロクロナデ、ケズリ	ミガキ		内黒
ロクロナデ	ミガキ		内黒、内面の口縁部付近に横位沈線
ロクロナデ	ミガキ		内黒
ロクロナデ	ミガキ		内黒
ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り	内黒
			内面に漆付着
ケズリ	ナデ		透孔あり
	ヘラナデ、ハケメ		
ヨコナデ、ハケメ			
ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ	ミガキ	内外面が磨滅
ハケメ	ミガキ		
ヨコナデ	ヨコナデ、ハケメ		二重口縁
	ハケメ		
ヘラナデ、ケズリ	ミガキ		
ケズリ	ヘラナデ		
	沈線による斜格子文		
ケズリ	ヘラナデ		内面に種子圧痕
縄目			縄目 LR
ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ミガキ		ほぼ完形　内面に種子圧痕
ヨコナデ、ミガキ、ケズリ	ヨコナデ、ミガキ		
ヨコナデ、ミガキ	ミガキ		
ヨコナデ	ヘラナデ		
ケズリ、ナデ	ヨコナデ		二重口縁
ハケメ、刻目	ハケメ		
ヘラナデ	ハケメ		外面に赤彩
ケズリ	ミガキ		内黒
ロクロナデ	ロクロナデ		
ロクロナデ	ロクロナデ		外面に自然釉及び付着物
ロクロナデ	ロクロナデ		写真のみ　内外面に自然釉
ミガキ	ミガキ		写真のみ　両黒　精製漆、内面に薄く付着　漆パレットとして使用か
ハケメ	ミガキ		写真のみ　内黒　精製漆、顔料の混和なし　内面と外面の一部に付着　一部縮みしわあり　漆パレットとして使用か
ハケメ	ミガキ		写真のみ　精製漆､顔料の混和なし　内面･外面に付着　漆パレットとして使用か
ナデ	ミガキ		写真のみ　内黒　精製漆が薄い膜状になって、口縁から体部内外面に付着
ナデ	不明（ミガキか）		写真のみ　精製漆、顔料の混和なし　内面に付着　漆パレットとして使用か
ロクロナデ・タタキ	ロクロナデ・アテ		写真のみ　内外面自然釉

表３　墨書・刻書土器観察表

番号	銘	種別	器種	部位	方向	年代	出土遺構（グリッド）		計測値（㎜）		
									口径	底径	器高
232	「大」ヵ	黒色土器	有台坏	底部	—	9ｃ後半	SK2060			(64)	〔26〕
527	「傳」	須恵器	無台坏	底部	—	8ｃ後半	SG1	0300G		92	〔28.5〕
528	「傳」	須恵器	無台坏	底部	—	8ｃ後半	SG1	0399G	157	91	43.5
529	「大王」	須恵器	無台坏	底部	—	8ｃ後半	SG1	0799G	153	90	44.5
530	不明	須恵器	蓋	体部（内面）	—	8ｃ後半	SG1	0399・0499G	(178)		37.5
531	「大王」	須恵器	無台坏	底部	—	8ｃ後半	SG1		158	97.5	48
532	「王」	須恵器	稜碗	底部	—	8ｃ後半	SG1	0596・0597G		99	〔45〕
533	「大呆」、「王」ヵ	須恵器	無台坏	底部	—	9ｃ前半	SG1	0696G		80	〔27〕
534	「大来」、「王」ヵ	須恵器	無台坏	底部	—	9ｃ前半	SG1	0697・0698G	(165)	90	40.5
535	「大■」	須恵器	無台坏	底部	—	9ｃ前半	SG1	0799G	141	77	37.5
536	不明	須恵器	無台坏	底部	—	9ｃ中葉	SG1	0697G	(146)	(92)	34.5
537	「大■」	須恵器	無台坏	底部	—	9ｃ中葉	SG1	0697G	(142)	(74)	30
538	「大王」ヵ	須恵器	無台坏	底部	—		SG1	0496G	(152)	(94)	43.5
539	「大■」	須恵器	無台坏	底部	—	9ｃ中葉	SG1	0799G	142	72	34
540	「在」	須恵器	無台坏	底部	—	9ｃ中葉	SG1	0698・0799G	140	65	37
541	「在」	須恵器	無台坏	底部	—	9ｃ中葉	SG1	0698G	(136)	68	35
542	不明	須恵器	無台坏	底部	—		SG1	0496G			41
543	不明	須恵器	無台坏	底部	—	9ｃ中葉	SG1	0697G		(76)	〔29〕
544	「王」	須恵器	無台坏	底部	—	9ｃ中葉	SG1	0597G		76	〔14.5〕
545	「卅」か「王」	須恵器	無台坏	底部	—	9ｃ中葉	SG1	0698・0799G	146.5	78	44
546	「王」	須恵器	無台坏	底部	—	9ｃ中葉	SG1	0597G		(71)	〔17.5〕
547	不明	須恵器	有台坏	底部	—	9ｃ	SG1	0697G		(92)	〔51〕
548	「中」	須恵器	有台坏	底部	—	9c	SG1	0696G		(72.5)	〔27〕
549	「王」ヵ	須恵器	無台坏	底部	—	9ｃ中葉	SG1	0597G		(66)	38
550	「主」か「王」	須恵器	無台坏	底部	—	9ｃ中葉	SG1	0798・0896G	(156)	(76)	40.5
551	「王」	須恵器	無台坏	底部	—	9ｃ中葉	SG1	0698G	(140)	66	40
552	「方」	須恵器	無台坏	底部	—	9ｃ中葉	SG1	0597G	(137)	63	43
553	「王」ヵ	須恵器	無台坏	底部	—	9ｃ中葉	SG1	0697・0698G	(148)	(72)	42.5
554	「王」	須恵器	無台坏	底部	—	9ｃ中葉	SG1	0700G	144	56	46
555	「王」ヵ	須恵器	無台坏	底部	—	9ｃ中葉	SG1	0697・0698G	(137)	(68)	36
556	「王」ヵ	須恵器	無台坏	底部	—	9ｃ中葉	SG1	0597G	(139)	(58)	39
557	「王」	須恵器	無台坏	底部	—	9ｃ中葉	SG1	0698G	(134)	64	38.5
558	不明 「吉」・「王」	須恵器	無台坏	体部 底部	— —	9ｃ中葉	SG1		135.5	64	40.5
559	「王」	須恵器	無台坏	底部	—	9ｃ中葉	SG1	0596・0696G	(141)	73	37
560	「卅」ヵ「王」	須恵器	無台坏	底部	—	9ｃ中葉	SG1	0597G		66	〔14.5〕
561	「王」	須恵器	無台坏	底部	—	9ｃ中葉～後半	SG1	0597・0697G		(74)	〔21.5〕
562	「王」	須恵器	無台坏	底部	—	9ｃ中葉～後半	SG1	0697G		(62)	〔21〕
563	不明	須恵器	無台坏	底部	—	9ｃ中葉～後半	SG1	0597G		(63)	〔10.5〕
564	「達」ヵ	須恵器	無台坏	底部	—	9ｃ中葉～後半	SG1	0697G		75	〔20.5〕
565	「王」	須恵器	無台坏	底部	—	9ｃ中葉～後半	SG1	0697G		62	〔33〕
566	「王」ヵ	須恵器	無台坏	底部	—	9ｃ中葉～後半	SG1	0697G		(66)	〔23.5〕
567	不明	須恵器	無台坏	底部	—	9ｃ中葉～後半	SG1	0697・0698G		68	〔17〕
568	「火」ヵ	須恵器	無台坏	底部	—	9ｃ中葉～後半	SG1	0597・0697G		66	〔22〕
569	「火」ヵ	須恵器	無台坏	底部	—	9ｃ中葉～後半	SG1	0597G		69	〔13.5〕

調整			備考
外面	内面	切り離し技法	
ロクロナデ	ミガキ	切り離し後、ナデ	内黒
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→回転ヘラケズリ	打ち欠きか　焼成良　切り離しに鋭利なヘラを使用
ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→回転ヘラケズリ	焼成良　内面に付着物　口縁部の内外面の一部に煤→灯明皿に転用か
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	焼成不良　内面の付着痕と外面口縁付近の煤の様なコゲ跡→灯明皿として使用か
ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ		焼成良　外面のツマミ付近に漆付着、漆容器の蓋か
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	焼成良
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ロクロナデ	打ち欠きか　焼成良
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	打ち欠きか　焼成良　底部内外面の全面に墨痕か
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	打ち欠きか
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	■＝東・束・来？　焼成やや良
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	打ち欠き　焼成良　外側に打点三箇所　内面変色、油か
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデヵ	打ち欠きか　焼成やや良　底部磨耗　内面に付着物
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	外面の一部に油染みのようなものや、付着物（窯壁か）
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	打ち欠きか
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	焼成やや良
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	墨痕か　焼成やや良　内外面に付着物及び火襷痕
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	打ち欠きか　焼成やや良　内面に付着物か
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	焼成不良
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	焼成生焼け
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り→ナデ	焼成良　打ち欠きか　底部外面中央に打痕のような跡
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	打ち欠きか　焼成良　内面にも墨の痕→転用硯か
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	焼成やや良　内面に付着物（外面にも？）
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	焼成不良　重ね焼きの痕跡有り
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	焼成良　打ち欠きか
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	焼成やや良　打ち欠きか
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	打ち欠きか
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	打ち欠きか　焼成やや良　外面に煤付着、内面に油付着により灯明皿として使用か
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	打ち欠きか
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	転用硯か　内面に薄く墨痕　底部内面が磨滅　打ち欠きか 文字の向きが異なる
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	焼成やや生焼き　打ち欠きか
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	打ち欠き　焼成は生焼けに近い　内面に付着物か
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	打ち欠きか　焼成は生焼きに近い
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	打ち欠きか　焼成良　底部内外面に指圧痕→回転した形跡
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	焼成良
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	打ち欠きか　焼成やや良
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	打ち欠きか
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	焼成やや良
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	絵か記号　打ち欠きか
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	打ち欠きか　焼成やや良　内面に付着物
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	打ち欠きか　焼成良

番号	銘	種別	器種	部位	方向	年代	出土遺構（グリッド）		計測値（㎜）		
									口径	底径	器高
570	「山」	須恵器	無台坏	底部	—	9c 中葉～後半	SG1	0697G		(74)	〔13.5〕
571	「大■」カ	須恵器	無台坏	底部	—	9c 中葉～後半	SG1	0597・0598G		(84)	〔11.5〕
572	「王」カ	須恵器	無台坏	底部	—	9c 中葉～後半	SG1	0597G		70	〔12〕
573	「王」	須恵器	無台坏	底部	—	9c 中葉～後半	SG1	0698G		(68)	〔9.5〕
574	「王」カ	須恵器	無台坏	底部	—	9c 中葉～後半	SG1	0697G		(74)	〔11.5〕
575	「王」カ	須恵器	無台坏	底部	—	不明	SG1	0496G			〔9.5〕
576	「王」	須恵器	無台坏	底部	—	9c 中葉	SG1	0496G	(138)	68	40.5
577	「王」	須恵器	無台坏	底部	—	9c 後半	SG1	0697G		71	〔13.5〕
578	「王」	須恵器	無台坏	底部	—	不明	SG1	0696G			〔11.5〕
579	「王」カ	須恵器	無台坏	底部	—	9c 中葉	SG1	0596G	(149.5)	(82)	42
580	不明 不明	須恵器	無台坏	体部 底部	— —	9c 後半	SG1	0596G		78	〔20〕
581	「益」カ	須恵器	無台坏	底部	—	9c 後半	SG1	0697・0698G		(61)	〔26〕
582	不明	須恵器	無台坏	底部	—	9c 後半	SG1	0696G		(60)	〔24.5〕
583	不明	須恵器	無台坏	底部	—	9c 後半	SG1	0697G		(65)	〔12〕
584	「大」カ	須恵器	無台坏	底部	—	9c	SG1	0597G			〔14〕
585	不明	須恵器	無台坏	底部	—	9c	SG1	0697G			〔7〕
586	不明	須恵器	無台坏	体部	—	9c	SG1	0696G			〔19.5〕
587	「大」カ	須恵器	無台坏	底部	—	9c	SG1	0597G			〔10.5〕
588	不明	須恵器	無台坏	体部	—	9c	SG1	0698G			〔35〕
589	「大」カ「北」	須恵器	無台坏	底部	—	9c	SG1	0697G			〔5.5〕
590	不明	須恵器	無台坏	底部	—	9c	SG1	0597G			〔7〕
591	不明	須恵器	無台坏	底部	—	9c	SG1	0697G		(65)	〔12〕
592	「王」	須恵器	無台坏	底部	—	9c	SG1	0597G			〔26.5〕
593	不明	須恵器	無台坏	底部	—	9c	SG1	0597G			〔15〕
594	「王」カ	須恵器	無台坏	底部	—	9c	SG1	0697G			〔8〕
595	「王」カ	須恵器	無台坏	底部	—	9c	SG1	0696G		(64)	〔11.5〕
596	「王」カ	須恵器	無台坏	底部	—	9c	SG1	0698G			〔13〕
597	不明	須恵器	無台坏	底部	—	9c	SG1	0698G			〔12〕
598	「王」カ	須恵器	無台坏	底部	—	9c	SG1	0697G			〔8〕
599	不明 不明	須恵器	無台坏	体部 底部	— —	9c	SG1	0697G			〔14.5〕
600	不明	須恵器	無台坏	底部	—	9c	SG1	0697G			〔11〕
601	「王」カ	須恵器	無台坏	底部	—	9c	SG1	0697G			〔10.5〕
602	不明	須恵器	無台坏	底部	—	9c	SG1	0698G			〔13.5〕
603	「大王」	黒色土器	無台坏	底部	—	8c 末	SG1	0900G	151.5	105	41.5
604	「大王」	黒色土器	無台坏	底部	—	8c 末	SG1		(154)	(107)	43.5
605	「大王」	黒色土器	無台坏	底部	—	8c 末	SG1	0799G	150	101	39
606	「大王」	黒色土器	無台坏	底部	—	8c 末	SG1	0698G	(150)	(99)	45.5
607	「大王」	黒色土器	無台坏	底部	—	9c 前半	SG1	0698G	(144)	(92)	40.5
608	不明	黒色土器	無台坏	底部	—	9c 前半	SG1	0698G	140.5	86	43
609	「大王」	黒色土器	無台坏	底部	—	8c 後半	SG1	0697G		98	〔17.5〕
610	「大井」カ	黒色土器	無台坏	底部	—	8c 後半	SG1	0697・0698G		100	〔17〕

調整			備考
外面	内面	切り離し技法	
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	打ち欠きか
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	■＝東・束・来？　焼成良　底部外面外側の磨耗が著しい
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	打ち欠き　焼成やや良　内面に付着物
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	焼成良
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	打ち欠きか　焼成やや良　内面に付着物か
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	焼成良
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	焼成良（途中で酸素供給か）
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	焼成やや良
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	焼成やや良　内面に付着物か
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	焼成ほぼ生焼け　火はねと考えられる破損が体部外面下部と底部に見られる　内面に付着物か
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	焼成やや良　内面に付着物→灯明皿などの可能性
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	焼成良　一本の棒状の跡が底部に残存　内面に墨が付着、パレットとして利用か　内面中央部擦痕　通常使用→転用硯→墨書土器→打ち欠き後に廃棄か
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	内面に墨痕有り、磨滅がないためパレットとして利用か　焼成良　通常使用→パレット→墨書土器→打ち欠き後に廃棄
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	焼成若干甘い
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	焼成良
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	焼成良
ロクロナデ	ロクロナデ		焼成良　重ね焼きの痕跡が口縁部下方にみられる
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	焼成良　火襷痕あり
ロクロナデ	ロクロナデ		焼成良
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	焼成やや良
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	焼成は生焼けに近い
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	打ち欠きか　焼成良
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	焼成良
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	焼成やや良
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	焼成良
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	焼成やや良　内面に付着物有り（油か）
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	焼成やや良　内面に付着物か
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切りか→ナデ	焼成良
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	焼成やや良
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	体部外面底部付近に墨痕有り 打ち欠きか
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	焼成やや良
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	墨痕か　打ち欠きか　焼成やや良
ロクロナデ	ミガキ	回転ヘラ切り	内黒　口縁部外面に一部「煤」付着　灯明皿の可能性あり
ロクロナデ、下部回転ヘラケズリ	ミガキ	回転ヘラ切り→回転ヘラケズリ	内黒　打ち欠きか　調整及び削りに鋭利な刃物仕様、外面口縁部に煤付着、内面に油付着の可能性→灯明皿か
ロクロナデ、下端回転ヘラケズリ	ミガキ	回転ヘラ切り→回転ヘラケズリ	内黒　底部内面中央に付着物　内面黒色部劣化
ロクロナデ、下部回転ヘラケズリ	ミガキ	回転ヘラ切り→回転ヘラケズリ	内黒　再調整及び下部ヘラケズリに鋭利な道具を使用
ロクロナデ	ミガキ	回転ヘラ切り→回転ヘラケズリ	内黒　再調整時鋭利な工具使用
ロクロナデ、下端回転ヘラケズリ	ミガキ	回転ヘラ切り→回転ヘラケズリ	内黒　底部外面に１字か２字の墨書、口縁部の一部に煤付着→灯明皿か
ロクロナデ	ミガキ	回転ヘラ切り→回転ヘラケズリ	内黒　底部を明確に作り出している
ロクロケズリ	ミガキ	回転ヘラ切り→ナデヵ	内黒

番号	銘	種別	器種	部位	方向	年代	出土遺構（グリッド）		計測値（mm）		
									口径	底径	器高
611	「王」カ	黒色土器	無台坏	底部	—	9c 中葉	SG1	0698G		(59)	〔19.5〕
612	「大王」カ	黒色土器	無台坏	底部	—		SG1	0697G			〔16〕
613	「王」	黒色土器	無台坏	底部	—	9c 中葉		0499G	(135.5)	(76)	42
614	不明	黒色土器	無台坏	底部	—	9c	SG1	0697・0698G		94	〔9.5〕
615	不明	黒色土器	無台坏	体部	—	9c 中葉	SG1	0697・0698G	(148)	(96)	41.5
616	「大王」	黒色土器	無台坏	底部	—	9c 前半	SG1	0697G		(87)	〔11〕
617	不明	黒色土器	有台坏	底部	—		SG1	0597G			〔12〕
618	「王」	黒色土器	有台坏	底部	—	9c	SG1	0598・0698G	(158)	(74)	64
619	「木」	黒色土器	有台坏	底部	—		SG1	0697G		(82)	〔25〕
620	「大王」カ	黒色土器	有台坏	底部	—		SG1	0598G			〔13.5〕
621	「利」カ	黒色土器	蓋	摘み	—		SG1	0596G			〔18〕
622	「大十」か「在」	黒色土器	無台坏	底部	—	9c 中葉～後半	SG1	0697G	(134)	(60)	(45.5)
623	「王」	黒色土器	無台坏	底部	—	9c 中葉～後半	SG1	0696・0697G	(133)	60	48
624	「王」カ	黒色土器	無台坏	底部	—	9c 中葉～後半	SG1	0698G	(135)	(64)	42.5
625	不明 「前」	黒色土器	無台坏	体部 底部	— —	9c 中葉～後半	SG1	0698G		(61)	〔20.5〕
626	「王」	黒色土器	無台坏	底部（内面）	—	9c 中葉～後半	SG1	0698・0799G	(132)	(62)	44
627	「王」	黒色土器	無台坏	底部	—	9c 中葉～後半	SG1	0697G		(62)	〔16.5〕
628	不明	黒色土器	無台坏	底部	—		SG1	0698G			35.5
629	「王」	ロクロ土師器	無台坏	底部	—	9c 後半	SG1	0698G		(62)	〔7〕
630	「吉」	黒色土器	無台坏	底部	—	9c 後半	SG1	0697G			〔12〕
631	「王」	ロクロ土師器	有台坏	底部	—	9c	SG1	0597G		(70)	〔11.5〕
632	不明	黒色土器	無台坏	底部	—	9c 後半	SG1	0696G		(62)	〔15.5〕
633	不明	黒色土器	有台坏	底部	—	9c 後半	SG1	0696G		(66)	〔19〕
634	「人」カ	黒色土器	蓋	摘み	—		SG1	0597G			〔15〕
635	不明	黒色土器	無台坏	体部	—	9c	SG1	0697G			〔23.5〕
636	不明	黒色土器	無台坏	底部	—	9c	SG1	0697G			〔7.5〕
637	「大王」	黒色土器	無台坏	底部	—	9c	SG1	0697G			〔8〕
638	不明	黒色土器	無台坏	底部	—	9c	SG1	0698G			〔11.5〕
639	「王」カ	黒色土器	無台坏	底部	—	9c	SG1	0497G			〔17.5〕
640	「王」	黒色土器	無台坏	底部	—	9c	SG1	0698G			〔9.5〕
641	不明	黒色土器	有台坏	底部	—	9c	SG1	0696G			〔17.5〕
642	「得」カ	黒色土器	無台坏	底部	—	9c	SG1	0596G			〔12〕
643	不明	黒色土器	無台坏	底部	—	9c	SG1	0697G			〔11.5〕
644	不明	黒色土器	無台坏	底部	—	9c	SG1	0696G			〔11〕
645	「大王」カ	ロクロ土師器	無台坏	底部	—	9c	SG1	0697G			〔8.5〕
646	不明	黒色土器	無台坏	底部	—	9c	SG1	0697G			〔13〕
647	「王」	ロクロ土師器	無台坏	底部	—	9c 中葉～後半	SG1	0596G	(127)	0	41
648	「丈」 「丈」・「王」	黒色土器	無台坏	体部 底部	正位 —	9c 中葉～後半	SG1	0597G		54	〔26〕
649	不明 不明	ロクロ土師器	無台坏	体部 底部	正位 —	9c 中葉～後半	SG1	0698G		(62)	〔30.5〕
650	不明	ロクロ土師器	無台坏	体部～底部	—		SG1	0597G			〔12.5〕
651	不明	ロクロ土師器	無台坏	底部	—		SG1	0798G			〔8〕
721	不明	須恵器	無台坏	底部	—	9c 後半	面整理	0099G			〔8〕
727	「王」カ	黒色土器	無台坏	底部	—	9c 中葉～後半		9975G	(129)	62	35.5
728	「奉」カ	黒色土器	無台坏	体部（内面）	正位	9c	面整理	0174G			〔22〕
766	「王」カ	須恵器	無台坏	底部	—	9c 後半	表土			(60)	〔14.5〕

調整			備考
外面	内面	切り離し技法	
ロクロナデ、下半回転ヘラケズリ	ミガキ	回転糸切り→回転ヘラケズリ	内黒　打ち欠きか
ロクロナデ	ミガキ	回転ヘラ切り→回転ヘラケズリ	内黒
ロクロナデ	ミガキ	回転ヘラ切り→回転ヘラケズリ	内黒
ロクロナデ	ミガキ	回転ヘラ切り→回転ヘラケズリ	内黒　打ち欠きか
ロクロナデ、下部回転ヘラケズリ	ミガキ	回転ヘラ切り→回転ヘラケズリ	内黒
ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ミガキ	回転ヘラ切り	内黒　打ち欠きか
ロクロナデ	ミガキ	回転ヘラ切り→ロクロナデ	内黒　墨痕ヵ
ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り→ケズリ	内黒　底部外面高台内に墨書　打ち欠きか
ロクロナデ	ミガキ	切離し後ロクロナデ	内黒　打ち欠きか
ロクロナデ	ミガキ	切り離し不明	刻書　内黒　底部外面右側上部に「大王」の刻書
ロクロナデ	ミガキ		内黒　摘みの外側
ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り→ロクロナデ	内黒
ロクロナデ、下端回転ヘラケズリ	ミガキ	切離し後、ヘラケズリ	内黒　内面に油付着か→灯明皿の可能性　打ち欠き後廃棄か
ロクロナデ、下端回転ヘラケズリ	ミガキ	切離し後ヘラケズリ	内黒　底部の平滑化
ロクロナデ	ミガキ	切離し後、ヘラケズリ	内黒　打ち欠きか
ロクロナデ	ミガキ	切離し後ヘラケズリ	刻書　内黒　外面に使用痕のような傷痕有り
ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り→ナデ	内黒　打ち欠きか
ロクロナデ	ミガキ	回転ヘラ切り→ロクロナデ	内黒　底部外面に墨書
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	刻書
ロクロナデ	ミガキ	切り離し後、回転ヘラケズリ	刻書　内黒
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り→ロクロナデ	
ロクロナデ	ミガキ	切り離し後、ロクロナデ	内黒　底部中央付近に墨痕
ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り後、ナデか	内黒　墨痕か
ロクロナデ	ロクロナデ		内黒
ロクロナデ	ミガキ		内黒
ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り	内黒
ロクロナデ	ミガキ	切離し後回転ヘラケズリ	内黒
ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り	内黒
ロクロナデ	ミガキ	切離し後回転ヘラケズリ	内黒
ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り	内黒
ロクロナデ	ミガキ		内黒
ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り	内黒
ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り	内黒
ロクロナデ	ミガキ	回転ヘラ切りか	内黒
ロクロナデ		回転ヘラ切りか	小破片
ロクロナデ	ミガキ		内黒
ロクロナデ、下部手持ちヘラケズリ	ミガキ	切り離し後、手持ちヘラケズリ	刻書
ロクロナデ、下部回転ヘラケズリ	ミガキ	回転糸切り→回転ヘラケズリ	内黒
ロクロナデ、下部回転ヘラケズリ	ミガキ	切離し後回転ヘラケズリ	体部外面底部付近に墨痕有り、二文字か　打ち欠きか
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	体部外面下部に墨痕
ロクロナデ	ロクロナデ		底部に墨痕か
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	
ロクロナデ	ミガキ	回転糸切り→ナデ	内黒　底部外面中央付近に、棒状工具で削った痕跡有り
ロクロナデ	ミガキ		刻書　内黒
ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	焼成良

表４　木製品観察表

番号	器種	調査区	グリッド	遺構	層位	登録番号	計測値（mm）			備考
							長さ	幅	厚さ	
652	木簡	D区	0596G	SG1			248	33.5	8.5	付編参照
653	木簡	B区	9101・9102・9202G	SG1			383	44	7.5	付編参照
654	陽物か	D区	0799G	SG1			230	21	21.5	頭部のみ炭化
655	陽物か	D区	0596G	SG1			142.5	33	29.5	
656	把手状木製品	D区	0700G	SG1			124	52	29.5	付編参照
657	横櫛	D区	0697G	SG1			43	75.5	7	
658	漆器	D区	0697G	SG1					〔31.5〕	内外面共に黒漆の塗膜
659	漆器（椀）	D区	0697G	SG1					〔23〕	内外面共に黒漆
660	皿（挽物）	D区	0497G	SG1			128	87	23	
661	皿（挽物）	D区	0901G	SG1			160	105	27	
662	皿（挽物）	D区	0900G	SG1			233	231	18	
663	曲物（底板）	D区	0900G	SG1			196	172	10.5	
664	皿（未成品）	D区	0496G	SG1			154.5	85	42.5	型打ちか
665	皿（挽物）	D区	9570G	SG1		RW33	149	113	27.5	
666	容器（挽物）	D区	0697G	SG1					〔47.5〕	
667	皿（未成品）	D区	0496G	SG1			100	127	33	型打ちか
668	曲物(底板か)	D区	9191G				117	80.5	11	
669	皿（未成品）	D区	0496G	SG1			103	103	29.5	型打ちか
670	曲物（底板）			X-O	深掘り		130.5	68	7	
671	曲物（底板）	D区	0596G	SG1			270	95	11.5	一部が炭化している
672	曲物（底板）	D区	9186G	遺構外			155	152	9.5	
673	曲物（底板）	D区	0700G	SG1			192	223	12	
674	板材	D区	9301G	SG1			134	32	4	桜材の留め具が残る
675	曲物（底板）	D区	0800G	SG1			161	31.5	9.5	
676	曲物（底板）	D区	0698G	SG1	トレンチ	砂層	204	196	11.5	
677	曲物（底板）	D区	0900G	SG1			166	119	9	
678	板材	D区	0596G	SG1			132	33	6	桜材の留め具が残る
679	皿（挽物）	D区	0800G	SG1			141	169	26	
680	下駄か	D区	0596G	SG1			151	78	46	
681	把手か	D区	9301G	SG1			111	38	29	
682	脚付容器	D区	0700・0799G	SG1			576	142.5	62	脚部と容器の２分割の状態
683	脚付容器	D区	0900G	SG1			599	139	77	一部炭化、容器縁部に２ヶ所穿孔あり
684	槽	D区	0697G	SG1			468	249.5	96	
685	鍬	D区	0496G	SG1			395.5	140	555	柄の先端に縄の痕跡のようなもの有り
686	横槌	D区	0800G	SG1			243	71	79.5	
687	鞍	D区	0696G	SG1			314.5	591	59	
688	農具か	D区	0496G	SG1			243	185	47.5	上・下部共に意図的に切断されている
689	弭弓(弭部か)	D区	0700G	SG1			96	17	18	
690	弓	D区	0800G	SG1			832	21	20.5	両端部が鋭く、加工されている
691	弓か	D区	0697G	面整理			737	27.5	23	下端部が鋭く、加工されている
692	串	D区	0697G	SG1			391	8	6	下端部が鋭く加工されている
693	棒状木製品	D区	0800G	SG1			274	11.5	9	両端部が鋭く加工
694	棒状木製品	D区	9101・9201G	SG1			361	28	29	
695	加工材	D区	0698G	SG1	トレンチ	砂層	421.5	40	18	両端部が鋭く加工されている
696	炭化材	D区	0900G	SG1			253	17	4	付木か
697	板材	D区	0697G	SG1			217	24.5	3.5	
698	板材	D区	0596G	SG1			275.5	28.5	6	
699	炭化材	D区	0596G	SG1			159	82	36	
700	角材	D区	0496G	SG1			167	38	44	
701	角材	D区	0496G	SG1			476	201	63	上、下部共に加工されている
702	角材	D区	0496G	SG1			448	226	77	上部が加工されている
703	角材	D区	0496G	SG1			218.5	109	80	
704	角材	D区	0496G	SG1			239	134	84	
705	板材	D区	0899G	SG1			663	99	21	
706	板材	D区	0899G	SG1			496	97	28.5	
707	棒状木製品	D区	0800G	SG1			388	31	18	
708	杭	D区	9101・9102G	SG1			710	96	70	
709	杭ヵ	D区	0596G	SG1			630	47	45	

表 5　石製品観察表

番号	器種	調査区	グリッド	遺構		層位	登録番号	計測値（mm・g）				備考
								長さ	幅	厚さ	重量	
11	砥石	A 区		ST1200		覆土		148	59	45	402.85	細粒凝灰岩
22	不明	A 区		ST1210				262.5	186	59	3680	緑色岩
23	不明	A 区		ST1210				306.5	311	90	10920	安山岩
110	石鏃	A 区	0371G	SB2518	EB1822			36.5	13	4.5	1.67	玉髄
211	剥片	A 区	0776G	SK1659				33	30.5	4.5	5.17	被熱　チャート or 頁岩
288	砥石か	A 区	0768G	SG1661				72	49	10	52.6	細粒凝灰岩
329	砥石か	B 区		ST250			RQ39	〔137〕	78	79.5	1679.86	凝灰岩
523	砥石か	D 区	0597G	SG1				91	65	10	70.04	凝灰岩
525	礫	D 区	9201・9202・9302G	SG1				118	98	35	573.62	安山岩
526	砥石か	D 区	0299G	SG1				119	87	70	781.89	細粒凝灰岩
752	石鏃	A 区	9173G				RQ69	26	14.5	7	1.28	珪質凝灰岩
753	剥片	A 区	9273G					21	31	8	4.64	チャート
754	剥片	区	9273G					27	33	6	6.02	チャート

表 6　土製品観察表

番号	器種	調査区	グリッド	遺構	層位	登録番号	計測値（mm）			備考
							長さ	幅	厚さ	
524	紡錘車	D 区		SG1			上面：21	下面：26	22	
757	土玉	D 区	0797G				上面：34	下面：27	25	漆に覆われている
778	羽口か	A 区	0873G	SG1661			51.6	48.4	20.5	写真のみ
779	羽口か	A 区	9772G	SK1329			45.5	34.5	17.5	写真のみ
780	羽口か	A 区	0668G	SG1661			20	18	9	写真のみ

表 7　金属製品観察表

番号	器種	調査区	グリッド	遺構	層位	登録番号	計測値（mm・g）				備考
							長さ	幅	厚さ	重量	
201	刀子か	A 区	0271G	SK1428			(46.5)	12	7	4.35	
203	不明	A 区	0573G	SK1658			104	20	7	12.6	
204	不明	A 区	0573G	SK1658			〔36〕	8.5	〔6〕	2.5	
246	不明	A 区	9974G	SK2719			(36.5)	16.5	7.5	5.7	
261	不明	A 区	9770G	SP1227			〔49〕	9	7.5	4.38	
264	不明	A 区	9771G	SP1384			〔78〕	9	6	11.14	
271	不明	A 区	0271G	SP2513		RM44	〔57〕	11.5	6	4.02	
272	刀子か	A 区	0271G	SP2513		RM44	220	30	11	79.72	
393	釘	C 区	0785G	SP2706			31.5	52	7.5	6.33	
755	不明	A 区	0877G				〔54.5〕	7	5	3.6	
756	古銭	D区	0003G				23.2	7.5	1.8	4.04	紹聖元宝　11c 初頭か
769	不明		X－O				〔86〕	8	6	5.83	
770	古銭		X－O				24.1	6.5	1.4	2.79	至道元宝　宋銭
771	不明	A 区	0172G	SP1489			82	15	12.5	24.94	

Ⅳ　元立北遺跡

1　遺跡の概要

A　概　　要

遺跡は山形県立米沢工業高等学校の北西、県道 1 号線沿いの低地に位置する。調査以前の地目は水田で、西に馳上遺跡が隣接する。調査面積は 1000 ㎡となる。

今回の調査で検出した遺構は竪穴建物、土坑、溝跡、河川などで、時期は古墳・奈良平安時代が主体となる。遺物は河川、竪穴建物から出土したものが多く、土師器・須恵器・石製品・木製品などが見つかった。

なお、7 次調査にて調査した T33（第 14 図）から遺物が出土していることと、トレンチが元立北遺跡内に入ることから、T33 出土遺物についてこの章中で記載する。また、同様に 7 次調査で出土した遺物について、元立北遺跡の遺物と接合したものは、元立北遺跡の出土した遺構番号に寄っている。判断がつきにくい遺物については観察表にて予測出土遺構を括弧書きにて表記している。

B　基本層序

基本層序（第 246 図）は大きく分けて 5 層に分けることができる。

Ⅰ層：水田耕作土（1 層）
Ⅱ層：黒色シルト層（2 層）
Ⅲ層：黒褐色細砂質シルト（33 層）
Ⅳ層：地山層（34 層）
Ⅴ層：地山層（36 層）
以上のように分けられる。

Ⅰ層は現地表面を含む水田耕作土である。一部の遺構はこの耕作土により攪乱を受けている。

Ⅱ層は遺構検出面にあたる。この層を掘り込んで竪穴建物 ST60 が構築されているため、堆積年代は古墳時代中期以前と考えられる。

Ⅲ層は河川または湿地帯であった頃の堆積層と思われる。

Ⅳ・Ⅴ層は地山層である。どちらも砂質シルトであるが色調に違いがみられた。河川堆積とみられ同時期の互層と判断した。

2　D 区の遺構と遺物

A　竪穴建物

竪穴建物は 1 棟検出されている。記載にあたり建物内のカマド構造について、袖や両脇を、カマドに向かって左側を「左袖」・「左脇」、右側を「右袖」・「右脇」とする。

竪穴建物 ST51（第 243 図）

調査区中央、0230G を中心に位置し、南西に河川 SG1 が位置する。平面形は方形を呈し、南北 7.2m、東西 8.3m を測る。主軸方位は N-29° -W を示す。検出面から底面までの深さは 4 ～ 29cm で、底面には多少の起伏がある。貼床は建物の北区画のみで確認された。ほとんどが地山の灰黄色粘土をそのまま床として利用していたと考えられる。

床面には細かい炭化物が東部から北部床面上に広く堆積しているほか、建物の構築材と思われる棒状の炭化材が壁際から中央に向かって倒れるように検出された。また、一部床面に被熱を受けたであろう焼土も確認出来た。

炭化材と焼土の検出状況から、火災で焼失した建物の可能性が高いといえる。しかし、炭を含む層の堆積が薄く、炭化物層から出土した土師器坏 4・8（第 255 図）に被熱痕が確認できないことが若干の疑問を提起する。

なお、この炭化物を放射性炭素年代測定したところ、2 α 暦年代範囲で西暦 415 年～ 538 年という測定結果が得られている (第Ⅴ章)。

主柱穴は EP65、70、76 が検出されている。柱間距離は EP76-70 間 4.2m、EP76-65 間 4.3m を測る。東隅の主柱穴は検出されていないが、柱穴があったと推定される位置が暗渠と重なるため、暗渠構築の際破壊された可能性がある。この暗渠から出土したと思われるオニグルミを放射性炭素年代測定にかけており、西暦 1694 年から 1919 年という結果を得ている（Ⅴ章）。暗渠には土管が設置してあったため、測定年代以降に構築され、埋戻し

の際に流れ込んだと考えられる。

EP79 から柱材と思われる木材が出土しており、棟持ち柱などの補助的な柱穴だった可能性が考えられる。ほかにも柱穴と思われるピットは検出されているが、配置が不規則なためどのような用途があったのかは不明である。

柱穴 EP65・EP79 の出土柱材についても放射性炭素年代測定を行っている。結果、EP65 は西暦 399 年から 535 年、EP79 出土柱材は西暦 393 年から 535 年と測定された。この数値は床面直上で検出された炭化材の測定結果とほぼ同様の年代を示し、炭化材も建物の構造物の一部であった可能性が高いといえる。遺物は第 255 図 1 ～ 24 が出土している。 1 、 2 が須恵器の𤭯(はそう)であり、陶邑編年 TK23 併行期のものと考えられる。 1 は床面から、 2 は覆土内からの出土である。製作過程はいずれも頸部、体部上部、体部下半及び底部の三つを部材とし、成形を行う。続いて頸部と体部上面を接合し、内面を整形、最後に体部下半から底部の部品を接合する。接合後、空気を抜くため口縁部から直径 21 ㎜ほどの当て具を挿入し、外面を叩き締める。その後、外面接合部の整形のため回転させながらヘラで余計な粘土を削り取る。次に、波状文を体部屈曲面に施し、屈曲面から頸部下部まで整形する。頸部の整形は先の形状が四角の工具で段を 2 段形成し、先の丸い棒状の工具で沈線を作り出す。沈線を作り出した際に下の段も形成しその後、波状文を施す。上段の波状文を施す場所には予め、濡れた粘土を施す。この作業は先の段を施す前に行った可能性もある。次に波状文を施す。その後、体部の屈曲部に直径 12 ㎜程度の穴を開け、筒を通し、その筒が設置する内面部分を一段下げ完成となる。一段下げには底部を叩き締めるのに使用した当て具を使用した可能性があるが定かではない。 3 ～ 11 は坏類であり、 4 ～ 8 は体部の上部で内側に屈曲し、口縁部は外傾するものである。いずれも成形の段階であろうと考えられる体部と頸部を接続した痕跡が確認された。 3 は 8 世紀の所産と考えられる黒色土器である。流れ込みと考えられる遺物である。底部外面に刻書がなされるが文字の判読は出来ない。 4 ～ 6 は坏身内部が横に広いタイプであり、内外共にケズリ及びミガキで調整を行っている。 5 ・ 6 については口縁部を横ナデで整形している。 7 ・ 8 は坏身が 4 ～ 6 と比べ深いタイプといえる。赤色処理が前面に施される。 9 ～ 11 は口縁部が内湾するタイプである。汁物用の容器であった可能性が高い。 3 は黒色土器であり坏身の浅い土器でる。

13 は鉢であり、体部及び口縁部も含め内外面ともにハケメで調整を行っている。煮炊き具と考えられる。12 及び 14 は別個体の中型の丸底坩(つぼ)であり、12 が頸部から口縁部、14 が体部になる。14 の内部には明瞭な粘土紐の単位が残されている。また、12 は内面に 14 は底部に種子圧痕が確認されている。15 は甑と考えられる土器であり、体部上端に貫通孔があり、対照的な場所ではないが反対側にも貫通孔がある。16・18 は甕であり、若干長胴のものである。内外面ともハケメで調整してあり、頸部から口縁部は横ナデで調整されている。17 は大型の砥石と考えられ、一部被熱が加わっていると考えられる。廃棄行為もしくは分割し、小さい砥石として使用しようとしていたのか不明であるが、規則正しく割られた痕跡が確認出来た。使用痕と考えられる細かい傷を確認出来る。19 は石製模造品である。製作時に割れたものである可能性が高く、本来は方形を目指して作られていたと思われる。両端に貫通孔がある。20 は石器の剥片で性格不明遺構 SX61 や河川 SG 1 から縄文時代の遺物や、石器の剥片等が確認されていることから、この遺物は流れ込みと考えられる。21 ～ 23 は砥石であり、21 と 23 は石質から同一個体であると考えられる。いずれも明瞭な使用痕が確認されている。17 も含め使用痕も鋭利な傷跡が多く、金属器に使用されていた可能性が高いと考えられる。24 は木製品であるが用途は不明である。

内部施設は、建物南辺中央からやや東寄りにカマド EL67、南辺中央やや西寄りに貯蔵穴と思われる土坑 EK84 が検出された。

カマド EL67 は長軸約 2m、短軸約 1.2m で、燃焼部・両袖・煙道が確認できた。煙道は長さ約 65cm、掘り込みは 1 ～ 2cm と浅い。煙道手前付近から土師器の甕 29（第 257 図）が横位の状態でつぶれて出土した。左袖周辺には大型の石が多数出土し、袖の構築材であった可能性がある。その他の遺物は第 257 図 25 や 27 の様な小型の鉢、26 は坏と思われる土器の一部、28 の有孔鉢が出土した。埦以外は調理器具と考えられ、25 や 27 はおかずもしくは汁物用の小鍋と考えられる。

土坑 EK84 は建物の南壁をやや掘り込むように検出され、長軸 1.9m、短軸 0.9m を測る。平面形は東西に延

びる長方形で、断面形は東西面が船底形、南北面は緩やかな擂鉢状を呈する。底面までの深さは 10 ～ 25cm を測る。土坑の底面には炭化物の堆積（第 243 図 :d-d'、e-e'4 層）がみられる。焼失した際の堆積物かは判然としない。遺物は古墳時代の土師器坏（第 258 図 30・31・33）がほぼ完形で 3 点と、小型の鉢 32 が一点出土した。30・31 は頸部から口縁部が内湾するもの、33 は逆に外反するものである。遺物は全て炭化物層に挟まれるようにして出土した。3 点が炭化物層上に正位で置かれ、一点は壁に張りつくように配置された状態で出土している。遺物上面の炭化物層には建物の構築物であったと考えられる炭化した部材が出土している。このことから建物焼失時に埋没したものと考えられる。遺物下の炭化物層は焼失以前のものであると考えられる。その場合、土器の下に何かを敷いており、それが建物の焼失に伴って焼失したかなどのことが考えられる。31 は内面に、33 は底部内面に種子圧痕が確認されている。建物床面直上から石製模造品や臼といった遺物が出土していることから、この集落内では特殊な地位にいた人物の建物であった可能性がある。規模の面からも一般的な建物とは違った役割を担っていたことが可能性として挙げられる。

出土遺物の年代観から古墳時代中期後葉の建物跡と考えられる。

B　土　　坑

土坑 SK57（第 247 図）

調査区西部 0128G に位置し、SG1 と切りあって検出された。不整円形を呈し、長軸 1.3m、短軸 0.95m、深さは 30 ～ 35cm を測る。断面形は上部が広がる逆台形で、底面はほぼ平坦である。遺物の出土は認められず、詳細な時期は不明だが、SG1 との重複関係から奈良・平安時代以降に帰属するものと考えられる。

土坑 SK62（第 247 図）

調査区北東 0332G に位置し、SD53 を掘り下げたところ検出された土坑である。平面形は不整円形、断面形はいびつな皿状を呈す。長軸 1.1m、短軸 0.7m、深さ 18cm を測る。

遺物は土師器の小破片 4 点のみの出土で明確な時期は判断できないが、古墳時代の所産と思われる。

C　溝　　跡

溝跡 SD53（第 247 図）

調査区北東 0430 ～ 0432G に位置し、SK62 を切る溝跡である。平面形は両端が膨らみ、中央部が細い不整形を呈し、東西に延びる。長軸 13m、短軸 4m、底面までの深さは 9 ～ 14cm を測る。遺物は土師器の小破片と平安時代の土師器片 1 点のみが出土した。詳細な時期は不明なものの、溝の構築時期は古墳時代と考えられる。平安時代の遺物は 1 点のみの出土で、かつ小破片のため後世の流れ込みと考えられる。

溝跡 SD58（第 247 図）

ST51 東側、SD53 の南 0331・0332G に位置する。平面形は不整楕円形を呈し、東西へ延びる。長軸 5m、短軸 3m、底面までの深さは 4 ～ 12cm を測る。遺物の出土はなく、時期は不明である。

D　河　　川

河川 SG1（第 245・252 図）

調査区南壁から北に延び、ST51 手前で西に流れを変える。そのまま西調査区外へ伸びるものと、途中で北に延びていくものに流路が分かれる。北へ向かう流路はさらに北西の調査区外へと続いていく。川幅は最長で 7.8m、最短で 2.4m を測り、各所でばらつきが大きい。底面までの深さは調査区南端（第 245 図 :c-c'）では 54cm と比較的浅いが、北部（第 245 図 :a-a'）になると 78cm を測り、北に行くほど深くなっていく。このことから、この河川は当時北流していたと考えられる。

調査区南端では古墳時代の流路と奈良平安時代の流路が存在することが確認できたが、調査区中央部付近（第 245 図 :b-b'）では古墳時代の流路は確認できなかった。流れを変えていく中で徐々に古墳時代の流路は消失していったものと考えられる。

遺物は、調査区南壁際（9631・9632G）から特に多く出土している。主体となる時期は古墳時代で、土師器坏や甕などがまとまって出土した。北へ向うにつれて奈良・平安時代の遺物が出土するようになる。同じ地点で縄文時代晩期の土器も出土している。上層からの出土で、隣接している SX61 からの流れ込みと考えるのが妥当であろう。図化したのは第 258 図 34 ～ 49 である。34・35 は

性格不明遺構 SX61 から流れ込んだと考えられる縄文土器である。34 は綾絡（あやくり）文が縦に配される粗製深鉢と考えられるものである。縄文時代中期の特徴を持つが、胎土は周辺で出土している晩期の土器と類似している。正確な帰属時期は不明である。35 は横方向に S 字結節縄文が配される粗製深鉢と考えられ、縄文晩期大洞 BC 式期の所産と考えられる。36 ～ 41 は古墳時代の所産と考えられる土器群である。36 は甕底部の破片で底部内面に種子圧痕が確認される。37 は口縁部が外反する坏、38 ～ 40 は坏であり、39 は内外面とも赤彩を施してある。41 はミニチュア、もしくは小型鉢の底部と考えられる。42 は鞴（ふいご）の羽口の破片である。時期は不明である。43 は須恵器無台坏で 9 世紀前半のものである。44 は須恵器有台坏で口縁部内面に漆が付着している。断面にも付着していることから割れたのちに漆塗りのパレットの様な形で使用されたと考えられる。9 世紀前半の所産である。

45 ～ 48 は石製模造品である。いずれも整形のための擦痕が確認される。45 は両端部を薄くし、斜面を作り出している。46・47 はそういった斜面は作られず、いずれも割れによる欠損があることから製作時に破損し、廃棄されたものといえる。48 は著しい欠損もなく、破損した様子もないが全体の形が丸型になってしまっている。方形を目指していたとすれば器形の成形を失敗したことによる廃棄だと考えられる。そのことから製作の初期段階、器形の成形前に貫通孔は開けられていたといえる。

49 は古銭である。至道元宝と考えられる。995 ～ 997 年に鋳造された宋銭であるが、日本にもたらされたのは 12 世紀後半であるので、この SG1 は少なくとも 12 世紀後半の段階で開口していたといえる。しかし、49 以外でその年代の遺物を確認することが出来ないため、その時点でこの遺跡周辺の人々の生活は一旦終了したものと思われる。

D　ピ　ッ　ト

図示した遺構は 23 基である。柱穴と思われる遺構もあったが、いずれも他の柱穴と対応関係になかったため、一律でピット（小穴）と区分した。いずれのピットも遺物の出土はなく時期は不明である。

ピット SP4（第 248 図）

調査区北西 0627G に位置する。平面形は不整円形、断面形はＵ字形を呈する。長軸 22cm、短軸 19cm、検出面からの深さは 42cm を測る。

ピット SP5（第 248 図）

調査区北西 0527G に位置する。平面形は不整円形、断面形は長方形を呈する。長軸 27cm、短軸 21cm、底面までの深さは 36cm を測る。

ピット SP8（第 248 図）

調査区西側 0327G に位置する。平面形は不整楕円形、断面形は不整擂鉢状を呈する。長軸 27cm、短軸 17cm、底面までの深さは 10cm を測る。

ピット SP9（第 248 図）

調査区西側 0327G に位置し、SP8 と隣接する。平面形は楕円形、断面形は歪な皿状を呈する。長軸 20cm、短軸 15cm、底面までの深さは 4 ～ 9cm を測る。

ピット SP10（第 248 図）

調査区西側 0327G に位置し、河川 SG1 と隣接する。平面形は円形、断面形は歪んだＵ字形を呈する。長軸 34cm、短軸 29cm、底面までの深さは 30cm を測る。

ピット SP11（第 248 図）

調査区西側 0227G に位置し、SG1 と隣接する。平面形は方形に近い円形、断面形はＵ字形を呈す。長軸 24cm、短軸 23cm、底面までの深さは 17cm を測る。

ピット SP12（第 249 図）

調査区西側 0327G に位置し、SG1 と隣接する。平面形は不整円形、断面形は不整Ｕ字形を呈する。長軸 20cm、短軸 19cm、底面までの深さは 18cm を測る。

ピット SP20（第 249 図）

調査区北西 0428G に位置する。平面形は両端が尖る楕円形で、断面形は壁面が急に立ち上がるＵ字形を呈する。長軸 31cm、短軸 12cm、底面までの深さは 12cm を測る。

ピット SP23（第 249 図）

調査区北東隅 0633G に位置する。平面形は隅丸方形、断面形は中央が窪む皿状を呈する。長軸 47cm、短軸 32cm、底面までの深さは 12cm を測る。

ピット SP25（第 249 図）

調査区北東 0632G に位置する。平面形は楕円形、断面形はやや横長なＵ字形を呈する。長軸 39cm、短軸 29cm、底面までの深さは 18cm を測る。

ピット SP30（第 249 図）

調査区北東 0532G に位置する。平面形はひし形に近い円形で、断面形は不整Ｕ字形を呈する。長軸 29cm、短軸 27cm、底面までの深さは 21cm を測る。

ピット SP31（第 249 図）

調査区北東 0531、0532G に位置する。平面形は円形、断面形は壁面が急に立ち上がるＵ字形を呈する。長軸 20cm、短軸 15cm、底面までの深さは 11cm を測る。

ピット SP35（第 250 図）

調査区北東 0531G に位置する。平面形は両端が尖る楕円形、断面形はすり鉢形を呈する。長軸 37cm、短軸 19cm、底面までの深さは 21cm を測る。

ピット SP36（第 250 図）

調査区北東 0631G に位置する。平面形は不整楕円形、断面形は南側が少し張り出す擂鉢形を呈する。長軸 23cm、短軸 15cm、底面までの深さは 10cm を測る。

ピット SP39（第 250 図）

調査区北側 0530G に位置する。平面形は不整円形、断面形はＵ字形を呈する。長軸 15cm、短軸 15cm、底面までの深さは 8cm を測る。

ピット SP40（第 250 図）

調査区北側 0530G に位置する。平面形は隅丸長方形、断面形はすり鉢状を呈する。長軸 53cm、短軸 23cm、底面までの深さは 25cm を測る。

ピット SP42（第 250 図）

調査区北側 0530G に位置し、SD53 と隣接する。平面形は不整楕円形、断面形は南側が広がるＵ字形を呈する。長軸 31cm、短軸 22cm、底面までの深さは 19cm を測る。

ピット SP43（第 250 図）

調査区中央北 0429G に位置し、SD53 と隣接する。平面形は不整円形、断面形は西側に段を持ち、壁面が急に立ち上がるＵ字形を呈する。長軸は 26cm、短軸 20cm、底面までの深さは 9cm を測る。

ピット SP44（第 251 図）

調査区中央北 0429G に位置する。平面形は隅丸長方形、断面形は皿状を呈する。長軸 26cm、短軸 17cm、底面までの深さは 6cm を測る。

ピット SP45（第 251 図）

調査区中央北 0429G に位置する。平面形は不整円形、断面形は西側に段がつく逆台形を呈する。長軸 23cm、短軸 20cm、底面までの深さは 12cm を測る。

ピット SP47（第 251 図）

調査区北西 0528G に位置する。平面形は方形、断面形は北東に段がつくＵ字形を呈する。長軸 18cm、短軸 15cm、底面までの深さは 9cm を測る。

ピット SP49（第 251 図）

調査区西側 0126G に位置し、SG1 と隣接する。平面形はひし形、断面形はすり鉢状を呈する。長軸 25cm、短軸 17cm、底面までの深さは 11cm を測る。

ピット SP50（第 251 図）

調査区西側 0126G に位置し、ピット SP49 と隣接する。平面形は西側が飛び出る不整円形、断面形はＵ字形を呈する。長軸 22cm、短軸 17cm、底面までの深さは 21cm を測る。

3　B 区の遺構と遺物

A　竪穴建物

竪穴建物 ST60（第 253 図）

調査区東部中央 0133G に位置する。調査区の制限により西側のみの検出となったが、おおよそ方形を呈する。規模は南北 5.8m、東西 5.6m 以上を測る。検出面から床面までの深さは 10 ～ 20cm を測る。主軸方位は N-23°-W を示す。0133G 北部から 0233G の範囲にかけて、暗渠及び地山の一部から多量の湧水により地山が液状化し、建物北壁・床面はほとんど確認できなかった。

近現代の攪乱により上層を削られおり、建物の覆土は 10cm ほどしか残っていない。貼床は確認できず、地山をそのまま床として利用していたと考えられる。

主柱穴と思われる遺構は EP80、81、85 が検出されている。南東隅の柱穴は調査区外のため検出できなかった。柱間距離は EP80-81 間が 3.7m、EP80-85 間は 3.9m を測る。EP80 底面から細かい木片が多く出土しており、柱材の遺存物と考えられる。ST60 からは第 259 図の 50 ～ 64 が出土している。ほとんどが供膳具である、坏類である。50 ～ 52 は内面の頸部と体部の間で稜を作り、その後、外反させながら口縁を作り出すもので口縁外面は僅かに外反する。53 ～ 55 は頸部で屈曲し、わずかに内湾しながら口縁端部まで作り出すもの。56 ～ 58 は丸型の器形で明確な頸部を持たないもの。59・60 は 53 ～ 55 とほぼ同形ではあるが、口縁径が大きいものである。54・

57・58 からは種子圧痕が確認された。62 は鍋に使用されたと考えられる甕、63 はミニチュア土器、64 は小型の鉢である。EP81 からは 65 の砥石が出土している。

内部施設は貯蔵穴と考えられる土坑 EK82 が検出された。カマドは検出されなかったが、調査区外に存在する可能性がある。EK82 は建物南東、調査区東壁に近いところで検出された。平面形は不整楕円形、断面形は逆台形を呈する。長軸 1m、短軸 0.85m を測り、床面から 17 ～ 20cm ほどの深さがある。覆土に炭化物を含み、底から土師器の甕 66 など（第 260 図）が横位に倒れた状態で出土した。この土坑からは 66 から 68 までの甕類が出土している。67 は内面にススやコゲが確認出来るため煮炊きに使用された鍋と考えられる。66・68 も同様の使用方法と考えられる。この土坑から検出した炭化物を放射性炭素年代測定にかけている。年代は 1680 ± 20yrBp であった。古木効果も含め、遺構構築時期も少し考慮に入れる必要があると考えられる。なお、掲載番号 58 の底部内面に存在した地下茎についても同様の測定を行っている。結果こちらは 940 ± 20BP であった。つまり 10 世紀ごろには埋没後上部に草が茂る状態になっていたことが伺える。

遺物の帰属時期から古墳時代中期後葉の建物跡と考えられ、D 区の ST51 と同時期のものである。

B　性格不明遺構

性格不明遺構 SX61（第 242 図）

調査区南東部 9733G に位置し、SG1 と隣接する。調査区の制限により遺構の東半は未検出だが、不整長方形を呈すると思われる。断面形は歪な皿型である。幅は 2.2 ～ 3.4m を測り、底面までの深さは 6 ～ 15cm である。遺物は縄文時代晩期、大洞 B2 式期の所産と考えられる注口土器（第 260 図 69）や同時期の深鉢と思われる小破片が出土し、縄文晩期に構築された遺構の一部の可能性がある。

出土量は少ないが、縄文時代晩期の土器がまとまって出土している。

69 は、注口部の根本を一周する玉抱き三叉文（さんさもん）が施文され、体部には磨消（すりけし）縄文が配される注口土器である。縄文時代晩期大洞 B 2 式期の所産と考えられる。

71 は深鉢型の器型で、口縁部周縁に連続的に三叉文が施され、その直下に並行沈線が 2 本巡る。体部は地文のみである。口縁部の特徴から縄文時代晩期大洞 B 式期の所産と考えらえる。

70 は周縁部が欠損しているが、口縁部の小破片である。羊歯（しだ）状文が確認でき、縄文時代晩期大洞 BC 式期の鉢と考えられる。

4　その他の出土遺物

T33（第 261 図 72・73）

縄文土器が 2 点出土している。72 は地文のみの粗製深鉢で、縄文時代晩期大洞 B 2 式期のものと考えられる。73 も粗製深鉢と考えられるが、無文である。底部に網代痕が残る。正確な時期は不明である。

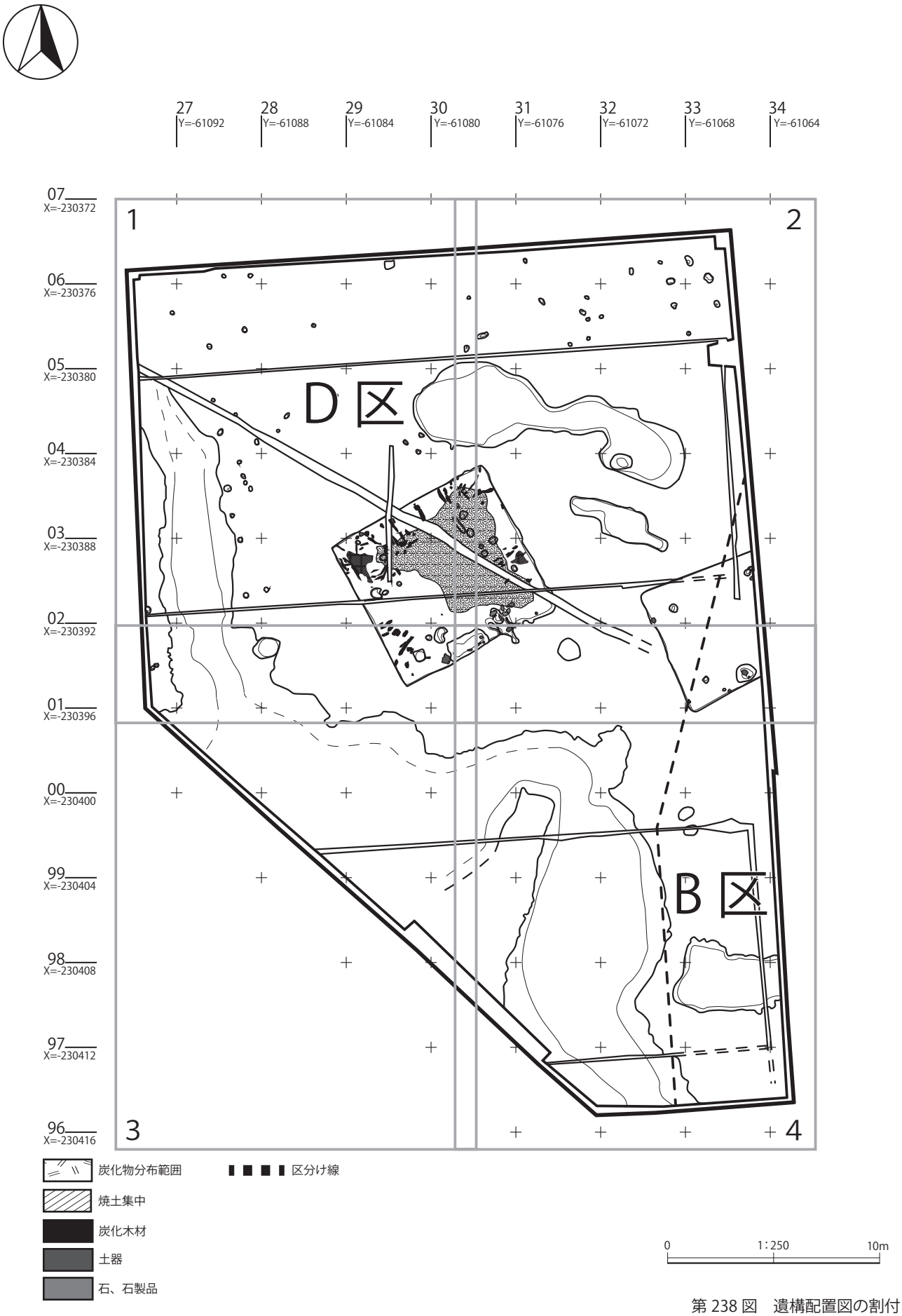
グリッド（第 261 図 74・75)

74 は口縁部周縁に玉抱き三叉文を配し、その下に沈線を 2 本施文している鉢である。口縁はほぼ垂直に立ち上がり、口唇部、内面ともに丁寧に磨かれている。文様の特徴から縄文時代晩期大洞 B 2 式期のものと考えられる。

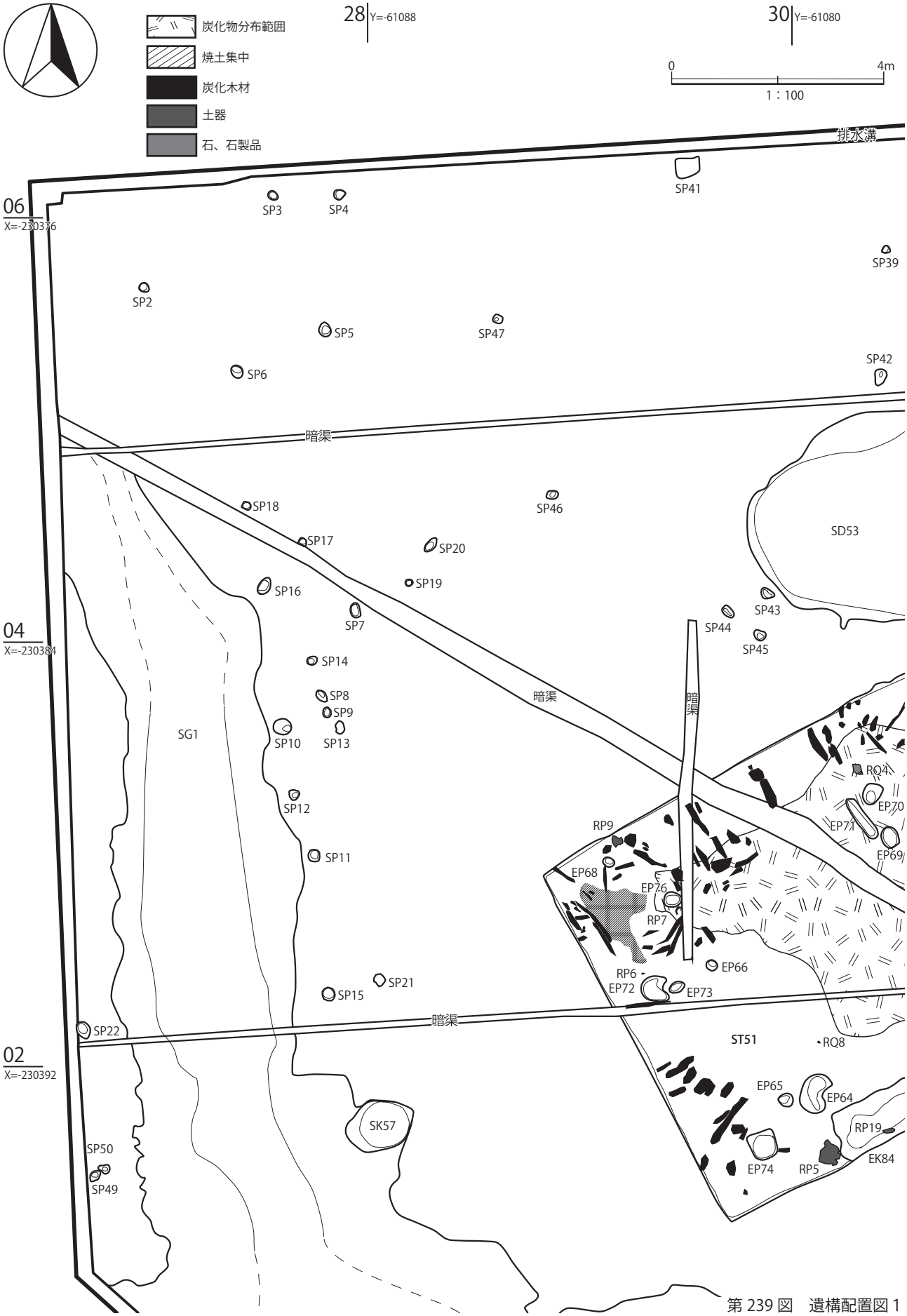
75 は口縁部のみの破片資料で、内外面ともに激しく磨滅している。口縁部周縁に入組状三叉文が配される。縄文時代晩期大洞 B 式期のものと考えられる。

出土地点不明遺物（第 261 図 76・77）

76 は内耳土鍋の内耳部分の破片である。77 は黒色土器の底部破片で底部外面に十字の刻書がなされる。

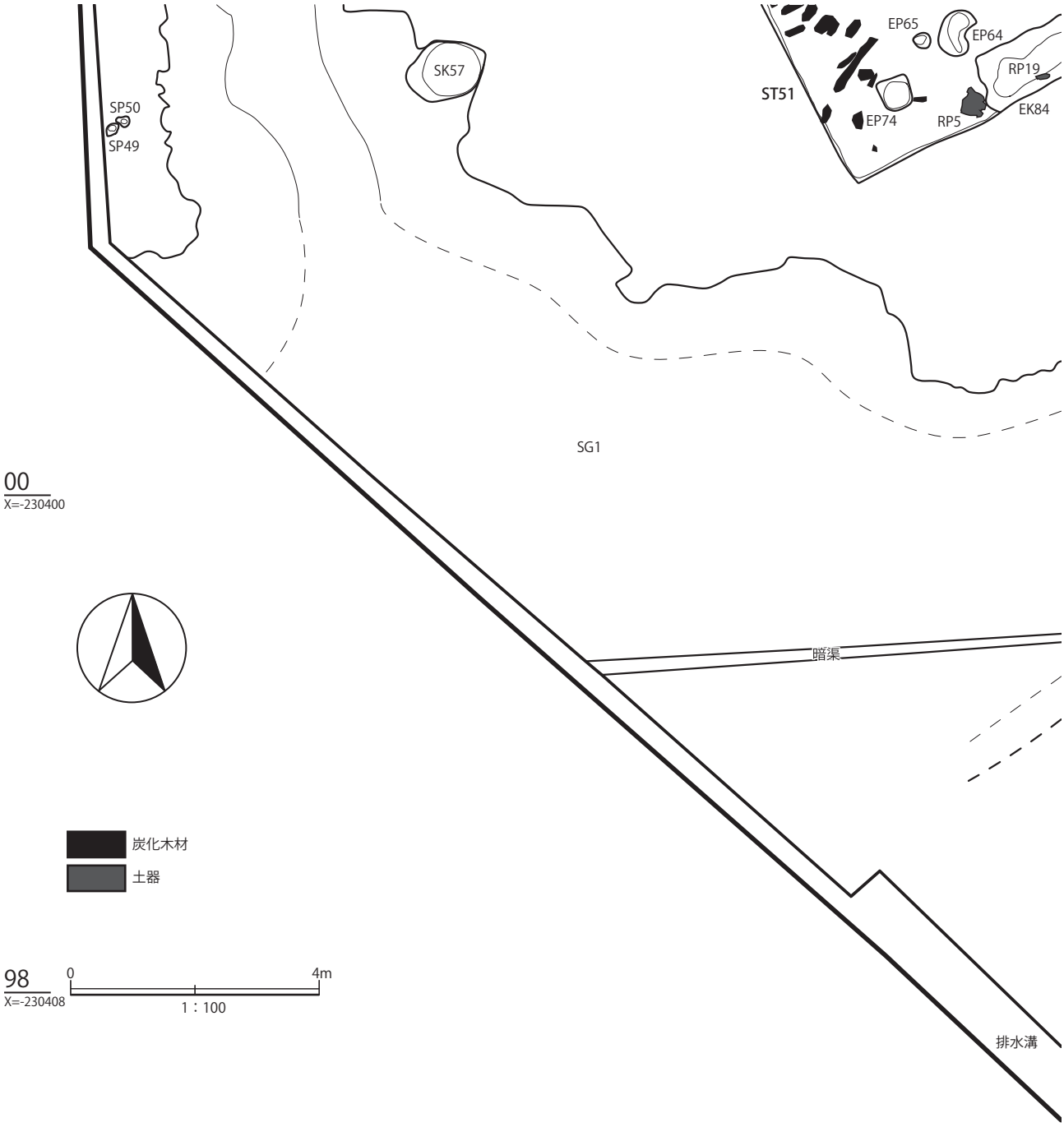


第 238 図　遺構配置図の割付

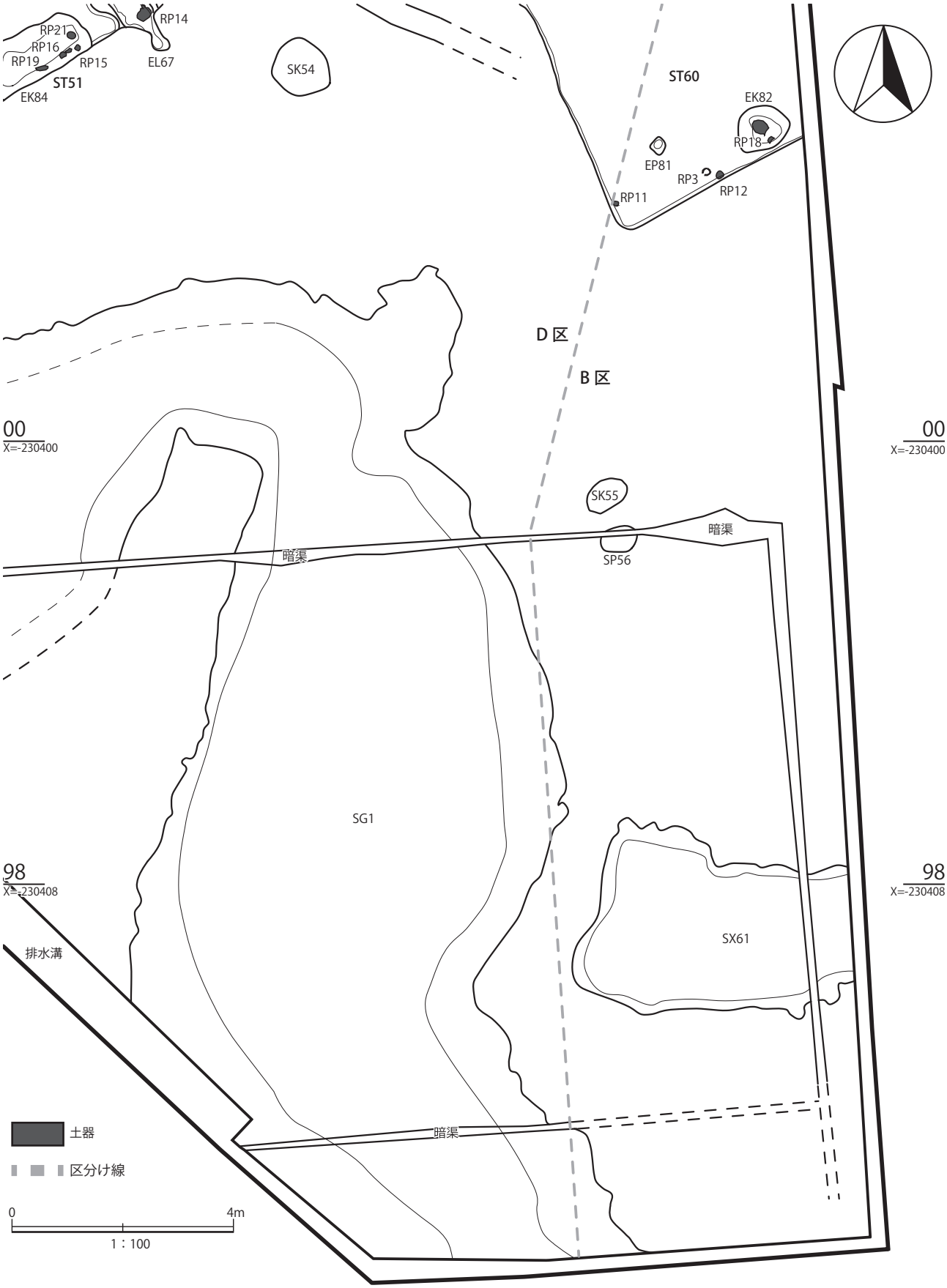


第 239 図　遺構配置図 1

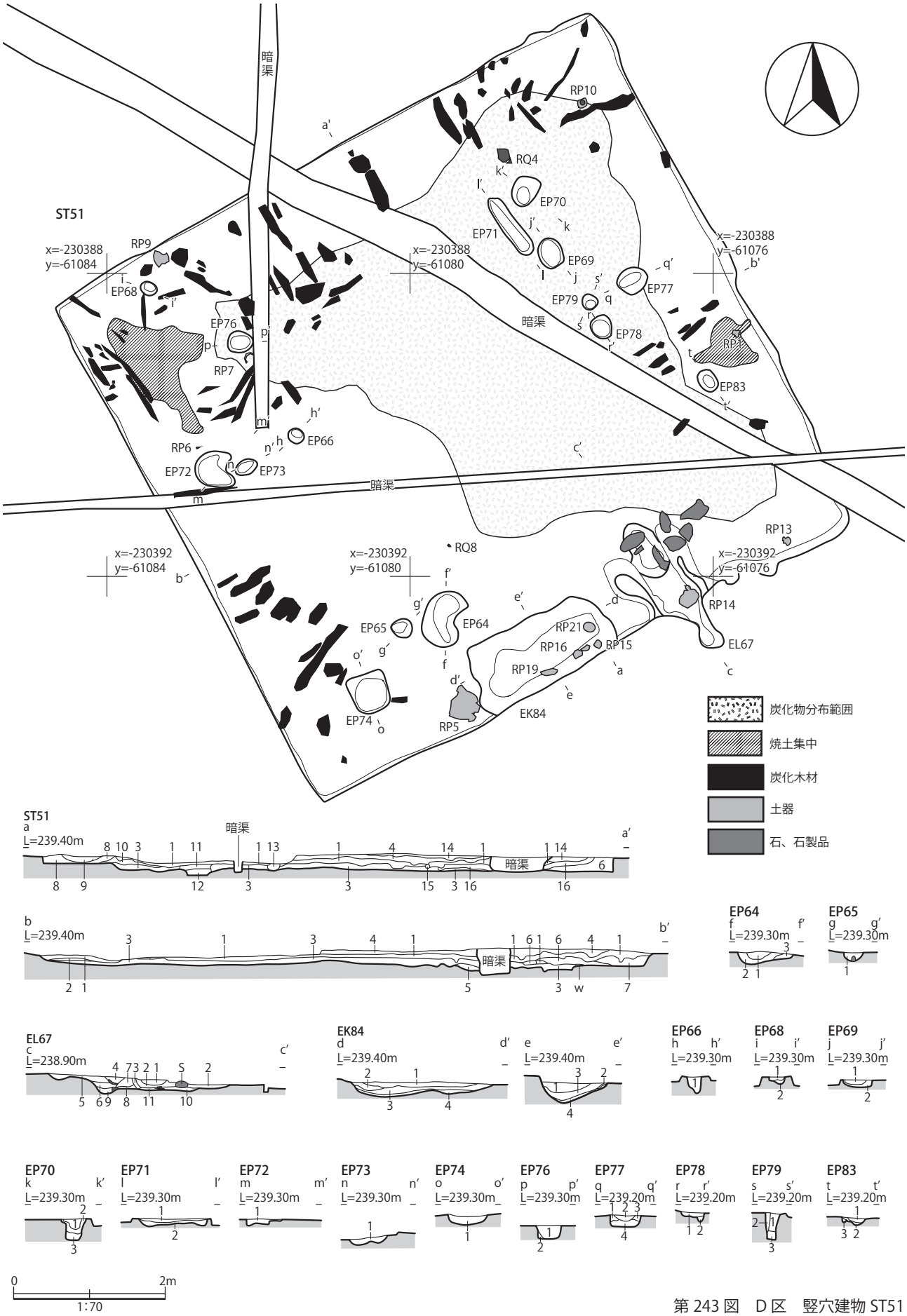
第 240 図　遺構配置図 2



第 241 図　遺構配置図 3



第 242 図　遺構配置図 4



第 243 図　D 区　竪穴建物 ST51

ST51
1. 10YR1.7/1 黒色シルト　10YR7/2 にぶい黄橙色砂質シルトをブロック状、斑状に少量含む　炭化物を粒状に少量含む　しまりあり
2. 10YR1.7/1 黒色シルト　炭化物を多量に含む　しまりなし
3. 10YR4/1 褐灰色砂質シルト　10YR1.7/1 黒色シルトを斑状に少量含む　10YR5/6 黄褐色砂粒を帯状に多量に含む　しまりなし　貼り床
4. 10YR1.7/1 黒色粘質シルト　2.5Y5/1 黄灰色砂質シルトを斑状に多量に含む　有機物を多量に含む　固くしまる
5. 2.5Y6/4 にぶい黄色砂質シルト　純層　しまりなし
6. 2.5Y3/1 黒褐色粘質シルト　2.5Y6/4 にぶい黄色粘質シルトを斑状に少量含む　黒色炭化物を粒状に多量に含む
10YR5/6 黄褐色焼土を斑状に微量に含む　しまりあり
7. 2.5Y3/1 黒褐色粘質シルト　2.5Y5/3 黄褐色粘質シルトを粒状に多量に含む　有機物を多量に含む　しまりあり
8. 10YR1.7/1 黒色シルト　10YR8/1 灰白色砂粒を少量含む　有機物を多く含む　しまりあり
9. 2.5Y2/1 黒色シルト　2.5Y3/2 黒褐色シルトをブロックを多く含む　しまりあり
10. 2.5Y5/6 黄褐色砂粒　2.5Y4/1 黄褐色粘質シルトをブロック状に多く含む　しまりなし
11. 2.5Y5/4 黄褐色砂質シルト　2.5Y3/1 黒褐色粘質シルト及び 2.5Y7/6 明黄褐色粘質シルトを斑状に少量含む
12. 10Y5/1 灰色粘土　2.5Y2/1 黒色粘質シルトを斑状に少量含む　しまりあり
13. 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質シルト　有機物を多量に含む　固くしまる
14. 2.5Y3/1 黒褐色粘質シルト　有機物を多量に含む　固くしまる
15. 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト　有機物を多量に含む　しまりなし
16. 2.5Y2/1 黒色シルト　2.5Y6/4 にぶい黄色砂粒を点状に多量に含む　有機物を多量に含む　しまりなし

EL67
1. 10YR4/1 褐灰色砂質シルト　2.5Y5/1 黄灰色粘質シルト、2.5Y5/1 黄灰砂を多量に含む　粘性あり　しまりなし
2. 10YR1.7/1 黒色粘質シルト　2.5Y5/1 黄灰色砂を層状に多量に含む　炭化物を多量に含む　粘性あり　しまりあり
3. 10YR4/1 褐灰砂質シルト　2.5Y5/1 黄灰色粘質シルトを含む　粘性あり　しまりややあり
4. 10YR3/1 黒褐色粘質シルト　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト、炭化物を多量に含む　粘性ややあり　しましなし
5. 10YR3/1 黒褐色粘質シルト　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルトを多量、炭化物を少量含む　粘性ややあり　しまりややあり
6. 10YR3/1 黒褐色粘質シルト　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト、炭化物を小粒状に少量含む　粘性ややあり　しまりややあり
7. 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト　2.5Y5/1 黄灰色砂を含む　粘性ややあり　しまり強
8. 10YR3/2 黒褐色粘質シルト　10YR5/4,5/6 黄褐色粘質土粒を多量に含み、焼土小粒、炭化物小粒を少量含む　粘性ややあり　しまりなし
9. 10YR3/2 黒褐色粘質シルト　10YR5/4 黄褐色粘質土粒を含む　粘性ややあり　しまりなし
10. 10YR3/1 黒褐色粘質シルト　10YR5/6 黄褐色粘質土小ブロック、焼土粒、炭化物粒を含む　粘性ややあり　しまりなし
燃焼部の覆土か？上位に袖の石材を含む
11. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト　上面がやや赤茶色がかる（10YR4/3）燃焼面か　粘性なし　しまりややあり

EK84
1. 10YR2/1 黒色粘質シルト　10YR1.7/1 黒色粘質シルトを含む　粘性あり　しまりややあり
2. 10YR3/1 黒褐色シルト　10YR4/4 褐色粘質シルトをブロック状に少量含む　炭化物を少量含む　しまりあり
3. 10YR2/2 黒褐色シルト　10YR5/4 にぶい黄褐色砂粒を少量含む　炭化物を少量含む　しまりあり
4. 10YR5/1 黒褐色粘質シルト　炭化物を帯状に多量含む　しまりなし

EP64
1. 5Y2/2 オリーブ黒色砂質シルト　2.5GY 明オリーブ灰色砂粒をブロック状に少量含む　炭化物を少量含む　しまりあり
2. 5Y3/3 暗オリーブ褐色砂質シルト　炭化物を粒状に少量含む　しまりなし
3. 2.5Y2/1 黒色砂質シルト　2.5Y5/6 黄褐色砂粒をブロック状に少量含む　炭化物を少量含む　しまりあり

EP65
1. 5Y2/2 オリーブ黒色砂質シルト　2.5GY 明オリーブ灰色砂粒をブロック状に少量含む　炭化物を少量含む　しまりなし

EP66
1. 2.5Y2/1 黒色砂質シルト　炭化物を少量含む　しまりなし

EP68
1. 2.5Y3/1 黒褐色粘質シルト　5Y3/2 オリーブ黒色粘質シルトを帯状に多量に含む　10YR6/8 明黄褐色焼土を粒状に微量に含む　しまりなし
2. 5Y5/3 灰オリーブ色粘質シルト　2.5Y3/1 黒褐色粘質シルトを斑状に多量に含む　しまりなし

EP69
1. 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質シルト　2.5Y3/1 黒褐色粘質シルトを斑状に多く含む　炭化物を少量含む　しまりあり
2. 2.5Y6/4 にぶい黄色粘質シルト　有機物を少量含む　しまりあり

EP70
1. 2.5Y2/1 黒色粘質シルト　炭化物及び有機物を多量に含む　しまりなし　アタリ
2. 5Y5/3 灰オリーブ色粘質シルト　5Y3/1 オリーブ黒色粘質シルトを斑状に少量含む　しまりなし
3. 5Y3/2 オリーブ黒色粘質シルト　5Y2/2 オリーブ黒色粘質シルトを斑状に少量含む　有機物を多量に含む　しまりあり

EP71
1. 2.5Y2/1 黒色シルト　2.5Y7/1 灰白粘質シルトを斑状に少量含む　炭化物を含む　しまりなし
2. 2.5Y6/5 黄褐色粘質シルト　炭化物を少量含む　しまりなし

EP72
1. 2.5Y2/1 黒色粘質シルト　2.5Y4/2 暗灰黄色粘質シルトをブロック状に少量含む　5Y5/3 黄褐色砂粒を全体に多量に含む　しまりなし

EP73
1.5Y4/2 灰オリーブ色粘質シルト　炭化物を少量含む　しまりなし

EP74
1. 2.5Y2/1 黒色粘質シルト　2.5Y6/4 にぶい黄色砂粒を斑状に多量に含む　しまりなし

EP76
1. 2.5Y3/1 黒褐色粘質シルト　5GY7/1 明オリーブ灰色砂粒を多量に含む　有機物を多量に含む
2. 5GY7/1 オリーブ灰色砂粒　有機物を多量に含む　しまりなし

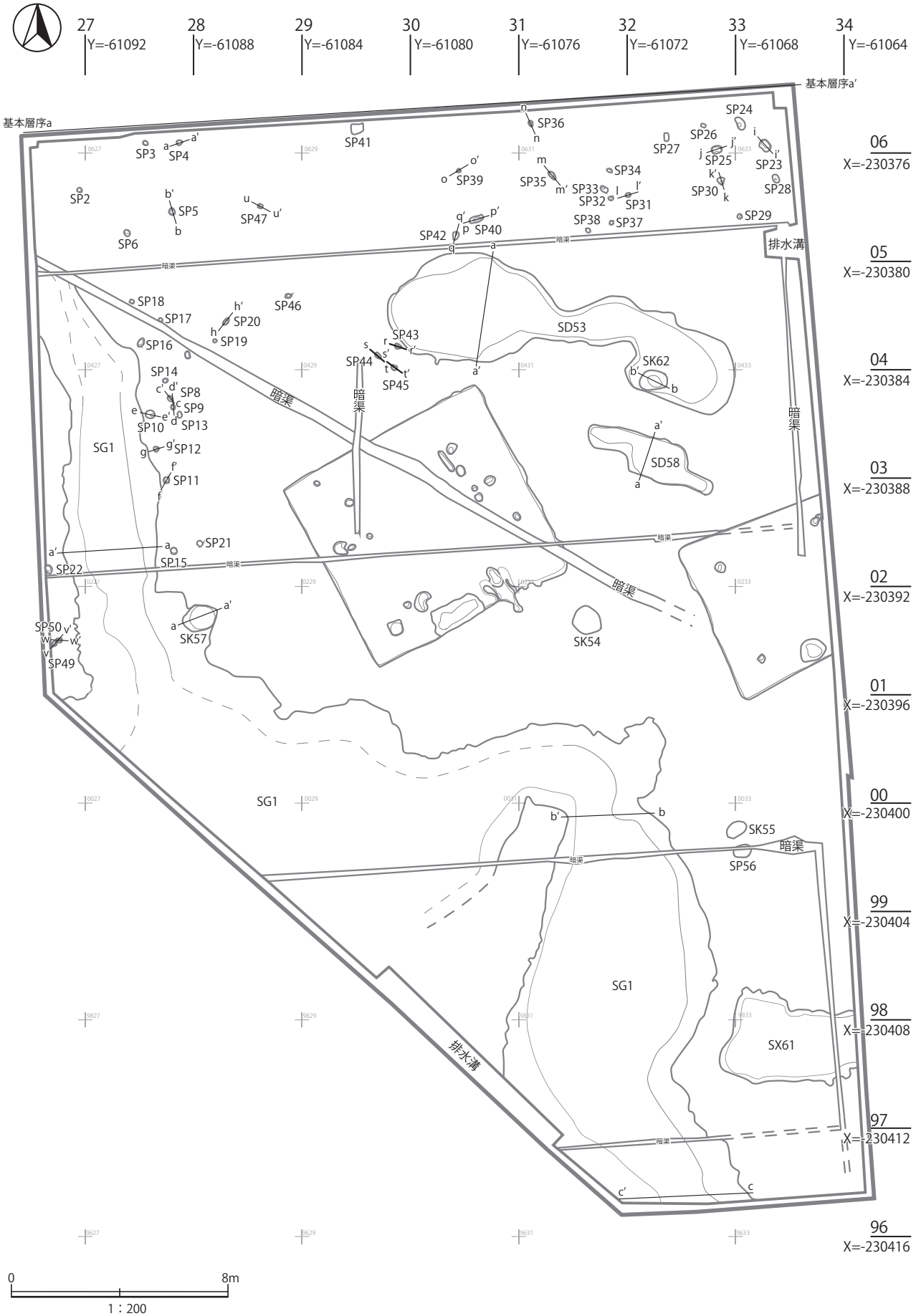
EP77
1. 10Y7/1 灰白色粘質シルト　10Y4/1 灰色粘土を斑状に少量含む　しまりあり
2. 10Y7/1 灰白色粘質シルト　10Y4/1 灰色粘土を斑状に多量に含む　炭化物を少量含む　しまりあり
3. 10Y4/1 灰色粘質シルト　10Y7/1 灰白色粘質シルトを斑状に少量含む　炭化物、有機物を微量に含む　しまりあり
4. 10Y4/1 灰色粘質シルト　10Y8/1 灰白色粘質シルトを斑状に多量に含む　炭化物をブロック状に少量含む　しまりあり

EP78
1. 10Y4/1 灰色粘質シルト　10Y8/1 灰白色粘質シルトを斑状に多量に含む　炭化物を粒状に少量含む　しまりあり
2. 10Y7/1 灰白色粘質シルト　炭化物をブロック状に少量含む　10Y4/1 灰色粘質シルトを斑状に少量含む　しまりなし

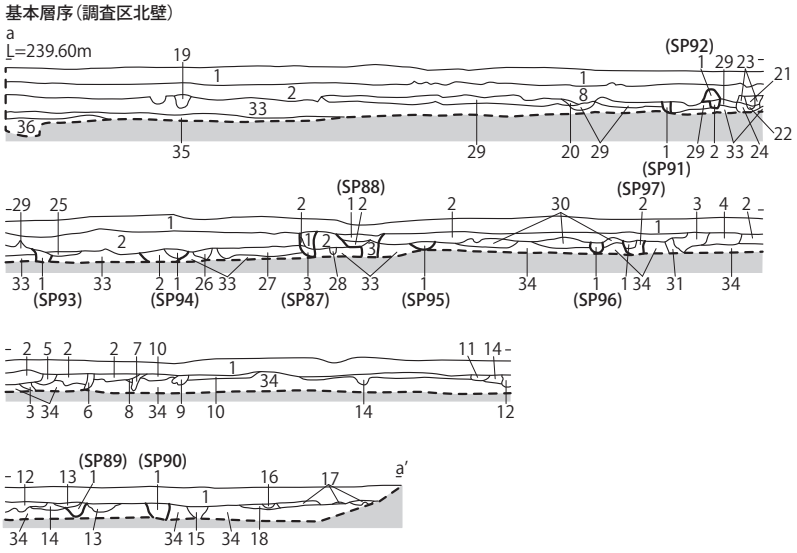
EP79
1. 10YR4/1 褐灰色粘質シルト　10YR7/1 灰白色粘質シルト粒を含む　炭化物を少量含む　粘性あり　しまりなし
2. 10YR6/1 褐灰色粘質シルト　10YR4/1 褐灰色粘質シルトを少量含む　粘性あり　しまりなし
3. 10YR6/1 褐灰色粘質シルト　10YR7/1 灰白色粘質シルトを含む　粘性あり　しまりややあり

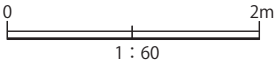
EP83
1. 5GY7/1 明オリーブ灰色粘質シルト　5Y3/1 オリーブ黒色粘質シルトを斑状に多量に含む　しまりなし
2. 5Y3/1 オリーブ黒色粘質シルト　有機物を多く含む　しまりなし
3. 10Y5/1 灰色粘質シルト　純層　しまりなし

第 244 図　D 区　竪穴建物 ST51 の注記



第 245 図　D 区　基本層序及び各遺構のセクション取得位置





基本層序（調査区北側）

1. 10YR3/1黒褐色シルト	10YR2/1黒色シルトをブロック状に含み、炭化物を少し含む
2. 10YR2/1黒色シルト	10YR1.7/1黒色シルトと2.5Y3/1黒褐色シルトを少し含む
3. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルトと10YR3/1黒褐色シルトをマーブル状に含む
4. 2.5Y4/1黄灰色シルト	10YR2/1黒色シルトをマーブル状に少し含む
5. 2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト	2.5Y4/1黄灰色シルトを含む
6. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y4/1黄灰色シルトをマーブル状に含む
7. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト	10YR2/1黒色シルトをマーブル状に含む
8. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト	混ざりなし
9. 10YR2/1黒色シルト	10YR3/1黒褐色シルトと2.5Y4/2暗灰黄色シルトをマーブル状に含む
10. 2.5Y4/2暗灰黄色砂	10YR3/1黒褐色シルトを少し含む
11. 10YR2/1黒色シルト	10YR3/1黒褐色シルトをブロック状に含む
12. 10YR3/1黒褐色シルト	10YR2/1黒色シルトをマーブル状に含む
13. 10YR2/1黒色シルト	10YR3/1黒褐色シルトを少し含む
14. 10YR3/1黒褐色シルト	10YR1.7/1黒色シルトを筋状にわずかに含む
15. 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト	10YR3/1黒褐色シルトを含み、炭化物をわずかに含む
16. 10YR2/1黒色シルト	10YR3/1黒褐色シルトを小ブロックで少し含む
17. 10YR2/1黒色シルト	10YR3/1黒褐色シルトを小ブロックで少し含み、礫を含む
18. 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト	混ざりなし
19. 10YR2/1黒色粘質土	10YR3/1黒褐色シルトをわずかに含む
20. 2.5Y3/1黒褐色シルト	10YR2/1黒色シルトを斑状に含む
21. 10YR3/1黒褐色シルト	10YR2/1黒色シルトを小ブロックで少し含む
22. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを含む
23. 2.5Y3/1黒褐色シルト	10YR2/1黒色シルトをマーブル状に少し含む
24. 2.5Y3/1黒褐色シルト	10YR3/1黒褐色シルトを少し含む
25. 2.5Y3/1黒褐色シルト	10YR2/1黒色シルトを少し含む
26. 10YR3/1黒褐色シルト	10YR2/1黒色シルトを少し含む
27. 2.5Y3/1黒褐色シルト	10YR2/1黒色シルトをマーブル状に含む
28. 10YR2/1黒色粘質土	10YR3/1黒褐色粘質土を小ブロックでわずかに含む
29. 2.5Y3/1黒褐色シルト	10YR3/1黒褐色シルトを含み、10YR2/1黒色シルトをマーブル状に含む
30. 2.5Y3/1黒褐色シルト	10YR3/1黒褐色シルトを上部に少し含み炭化物をわずかに含む
31. 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト	10YR2/1黒色シルトをマーブル状に少し含む
32. 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト	10YR3/1黒褐色砂質シルトを少し含む
33. 2.5Y3/1黒褐色細砂質シルト	混ざりなし
34. 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト	地山
35. 2.5Y4/1黄灰色粘土	混ざりなし
36. 2.5Y5/1黄灰色砂質シルト	地山

SP87

1. 10YR2/1黒色シルト	10YR3/1黒褐色シルトを少し含む
2. 10YR3/1黒褐色シルト	10YR2/1黒色シルトを少し含む
3. 10YR2/1黒即シルト	2.5Y3/1黒褐色シルトを含む

SP88

1. 10YR3/1黒褐色シルト	10YR2/1黒色シルトをマーブル状に少し含む
2. 10YR3/1黒褐色シルト	2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルトを斑状に含み、10YR2/1黒色シルトをわずかに含む
3. 10YR3/1黒褐色シルト	2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルトと10YR2/1黒色シルトを斑状に含む

SP89

1. 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト	10YR3/1黒褐色シルトと炭化物を斑状に少し含む

SP90

1. 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト	10Y3/1黒褐色シルトを少し含み、10YR1.7/1黒色シルトを筋状にわずかに含み、炭化物をわずかに含む

SP91

1. 2.5Y3/1黒褐色粘質土	10YR2/1黒色シルトをマーブル状に少し含む

SP92

1. 10YR3/1黒褐色シルト	10YR2/1黒色シルトを含む
2. 2.5Y3/1黒褐色シルト	10YR2/1黒色シルトを含む

SP93

1. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y4/1黄灰色シルトと7.5Y5/1灰色砂質シルトと炭化物を斑状に含む

第 246 図　D 区　基本層序の注記（1）

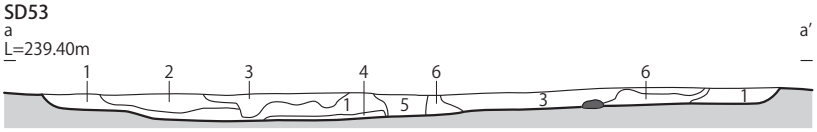
SP94
1. 10YR3/1黒褐色シルト　10YR2/1黒色シルトと2.5Y2/1黒色シルトを斑状に少し含む
2. 2.5Y3/1黒褐色シルト　10YR2/1黒色シルトを含む

SP95
1. 2.5Y3/1黒褐色シルト　10YR3/1黒褐色シルトを上部に少し含み、2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルトと炭化物をわずかに含む

SP96
1. 2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト　10YR3/1黒褐色シルトを斑状に含む

SP97
1. 2.5Y3/1黒褐色シルト　10YR2/1黒色シルトを斑状に少し含む
2. 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト　2.5Y3/1黒褐色シルトをわずかに含む

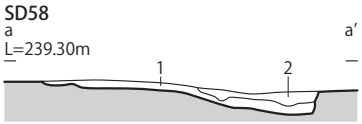
SD53



石

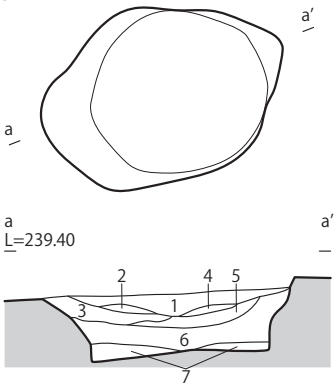
SD53
1. 10YR1.7/1黒色粘質シルト　有機物を多量に含む　しまりあり
2. 10YR2/1黒色粘質シルト　10YR3/2黒褐色粘質シルトをブロック状に多量に含む　有機物を多量に含む　しまりあり
3. 2.5YR2/1黒色粘質シルト　10YR3/1黒褐色粘質シルトを斑状に多量に含む　固くしまる
4. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト　有機物を多量に含む　しまりあり
5. 2.5Y2/1黒色粘質シルト　有機物を多量に含む　固くしまる
6. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト　純層　しまりあり

SD58



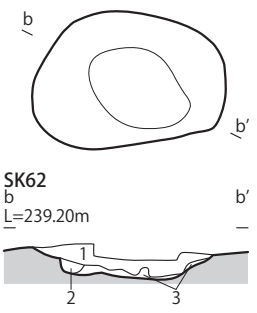
SD58
1. 2.5Y3/2黒褐色粘質シルト　有機物を多量に含む　しまりあり
2. 2.5Y4/3オリーブ褐色粘質シルト　有機物を多量に含む　化物を少量含む　しまりあり

SK57



SK57
1. 10YR1.7/1黒色粘質シルト　植物遺体を少量含む
2. 10YR1.7/1黒色粘質シルト　5Y4/1灰色砂を多く含む
3. 10YR2/1黒色シルト　5Y4/1灰色砂と10YR1.7/1黒色粘質シルト及び炭化物を斑状に少量含む
4. 10YR2/1黒色シルト　10YR1.7/1黒色粘質シルトをわずかに含む
5. 10R1.7/1黒色粘質シルト　5Y4/1灰色砂及び炭化物をわずかに含む
6. 10YR1.7/1黒色粘質シルト　植物遺体を少量含む
7. 10YR1.7/1黒色粘質土　植物遺体をわずかに含む

SK62

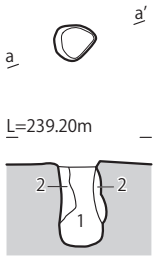


SK62
1. 2.5Y2/1黒色粘質シルト　有機物を多量に含む　しまりあり
2. 5Y3/1オリーブ黒色粘質シルト　5Y4/1灰色粘質シルトをブロック状に少量含む　しまりなし
3. 5Y4/1灰色粘質シルト　5Y4/3暗オリーブ色粘質シルトを多量に含む　しまりなし

0　2m
1：40

第 247 図　D 区　基本層序の注記（2）、溝跡 SD53・58、土坑 SK57・62

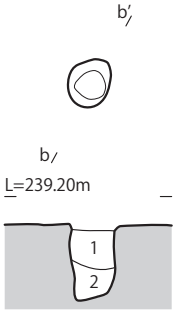
SP4



SP4

1. 10YR1.7/1黒色粘質シルト	10YR8/1灰白色微細砂粒を微量に含む　しまりあり
2. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR4/1褐灰色砂質シルトを斑状に少量含む　しまりあり

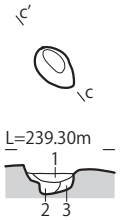
SP5



SP5

1. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR3/1黒褐色粘質シルトを斑状に含む　有機物を微量に含む　しまりあり
2. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト	有機物を多量に含む　しまりあり

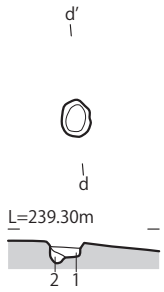
SP8



SP8

1. 2.5Y2/1黒色粘質シルト	2.5Y3/2黒褐色粘質シルトを斑状に含む　有機物を少量含む　しまりあり
2. 2.5Y4/1黄灰色粘質シルト	有機物を少量含む　しまりあり
3. 2.5Y4/1黄灰色粘質シルト	2.5Y2/1黒色粘質シルトを斑状に少量含む　しまりあり

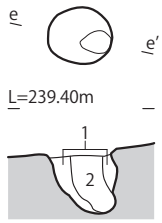
SP9



SP9

1. 2.5Y4/1黄灰色粘質シルト	2.5Y2/1黒色粘質シルトを斑状に少量含む　しまりあり
2. 2.5Y5/1黄灰色粘質シルト	2.5Y2/1黒色粘質シルト斑状に少量含む　有機物を含む　しまりあり

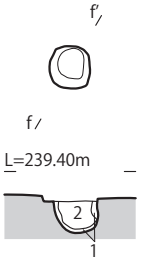
SP10



SP10

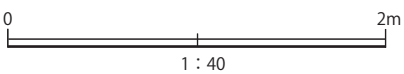
1. 2.5Y3/1 黒褐色粘質シルト	2.5Y4/1 黄灰色粘質シルトを斑状に多量に含む　有機物を少量含む　しまりあり
2. 2.5Y2/1 黒色粘質シルト	10YR6/2 灰黄褐色粘質シルトを斑状に多量に含む　しまりあり

SP11



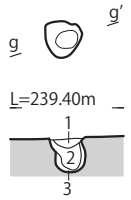
SP11

1. 10YR2/1黒色粘質シルト	有機物及び砂粒を多量に含む　しまりなし
2. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	10YR5/1褐灰色粘質シルトを斑状に少量含む　有機物を少量含む　しまりあり



第 248 図　D 区　ピット SP4・5・8 ～ 11

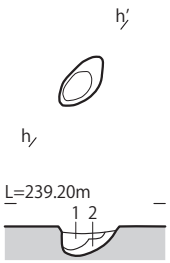
SP12



SP12

1. 10YR4/1褐灰色粘質シルト	有機物を少量含む　しまりあり
2. 10YR1.7/1黒色粘質シルト	有機物を少量含む　砂粒を微量に含む　しまりあり
3. 2.5Y5/1黄灰色粘質シルト	10YR1.7/1黒色粘質シルト斑状に少量含む　しまりあり

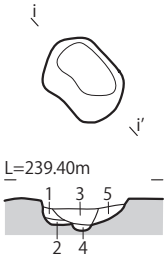
SP20



SP20

1. 10YR2/1黒色粘質シルト	2.5Y3/1黒褐色粘質シルトをブロック状に含む　しまりあり
2. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト	10YR1.7/1黒色シルトを斑状に多量に含む　しまりあり

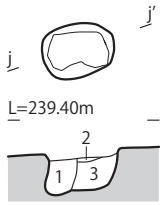
SP23



SP23

1. 10YR1.7/1黒色粘質シルト	2.5Y5/1黄灰色砂質シルトを斑状に含む　しまりあり
2. 2.5Y6/2灰黄色粘質シルト	10YR1.7/1黒色シルトを斑状に少量含む　しまりあり
3. 10YR1.7/1黒色シルト	2.5Y6/2灰黄色粘質シルトを斑状に少量含む　微量の有機物を含む　しまりあり
4. 2.5Y5/2暗灰黄色粘質シルト	微量の有機物を含む　しまりあり
5. 2.5YR6/2灰黄色粘質シルト	10YR1.7/1黒色シルトを斑状に少量含む　しまりあり

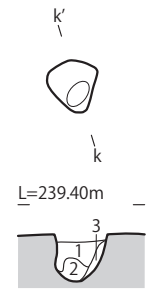
SP25



SP25

1. 10YR1.7/1黒色粘質シルト	10YR4/1褐灰色砂質シルトを斑状に極微量含む　しまりあり
2. 10YR1.7/1黒色粘質シルト	有機物を少量含む　しまりあり
3. 10YR1.7/1黒色粘質シルト	2.5Y6/1黄灰色粘質シルトを帯状に多量に含む　有機物を微量に含む　しまりあり

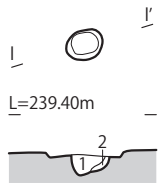
SP30



SP30

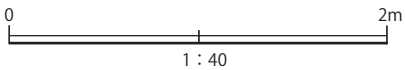
1. 2.5Y2/1黒色粘質シルト	2.5Y5/2暗灰黄色粘質シルトをブロック状に多量に含む 有機物を多量に含む　しまりあり
2. 2.5Y2/1黒色粘質シルト	2.5Y4/1黄灰色粘質シルトを斑状に少量含む　しまりあり
3. 2.5Y5/2暗灰黄色粘質シルト	2.5Y2/1黒色粘質シルトを斑状に多量に含む　有機物を多量に含む　しまりあり

SP31



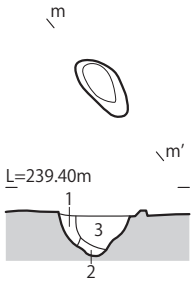
SP31

1. 10YR2/1黒色シルト	2.5Y8/1灰白色粘質シルトを斑、ブロック状に少し含む　しまる
2. 2.5Y8/1灰白色粘質シルト	10YR2/1黒色シルトを斑状に少し含む　しまる



第 249 図　D 区　ピット SP12・20・23・25・30・31

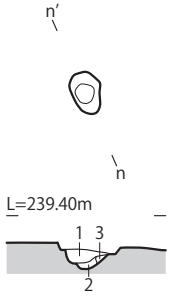
SP35



SP35

1. 2.5Y5/2暗灰黄色粘質シルト	10YR1.7/1黒色シルトを斑状に微量に含む　有機物を少量含む　しまりあり
2. 2.5Y5/2暗灰黄色粘質シルト	10YR1.7/1黒色シルトを斑状に少量含む　有機物を少量含む　しまりあり
3. 10YR1.7/1黒色シルト	2.5Y5/1黄灰色粘質シルトを粒状に少量含む　有機物を微量に含む　しまりあり

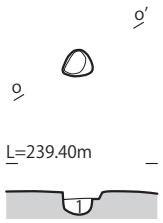
SP36



SP36

1. 2.5Y2/1黒色粘質シルト	2.5Y5/1黄灰色粘質シルトを粒状に少量含む　有機物を微量に含む　しまりあり
2. 10Y6/1灰色粘質シルト	10YR1.7/1黒色シルトを斑状に少量含む　有機物を微量に含む　しまりあり
3. 2.5Y4/1黄灰色粘質シルト	有機物を少量含む　しまりあり

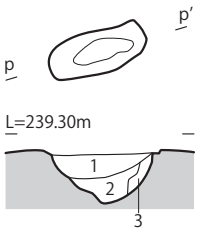
SP39



SP39

1. 2.5Y3/1黒褐色シルト	10YR5/6黄褐色有機物を柱状(極細)に少量含む　しまりあり

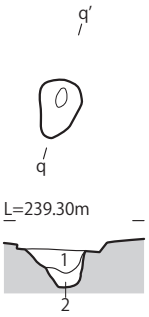
SP40



SP40

1. 2.5Y2/1黒色粘質シルト	有機物を少量含む　しまりあり
2. 2.5Y2/1黒色粘質シルト	2.5Y4/1黄灰色粘質シルトを帯状、斑状に多量に含む　しまりあり
3. 2.5Y4/1黄灰色粘質シルト	2.5Y2/1黒色粘質シルトを斑状に少量含む　有機物を少量含む　しまりあり

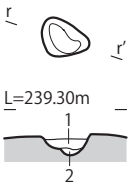
SP42



SP42

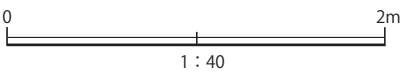
1. 10YR1.7/1黒色粘質シルト	2.5Y4/1黄灰色粘質シルトを斑状に少量含む　しまりあり
2. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト	2.5Y4/1黄灰色粘質シルトを斑状に多量に含む　しまりあり

SP43



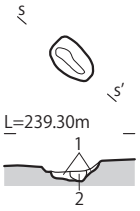
SP43

1. 10YR1.7/1黒色粘質シルト	2.5Y4/1黄灰色粘質シルトを斑状に少量含む　しまりあり
2. 2.5Y4/1黄灰色粘質シルト	2.5Y2/1黒色シルトを斑状に多量に含む　しまりあり



第 250 図　D 区　ピット SP35・36・39・40・42・43

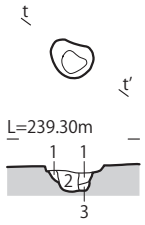
SP44



SP44

1. 2.5Y2/1黒色粘質シルト	有機物を多量に含む　2.5Y4/1黄灰色粘土を斑状に含む　しまりあり
2. 10YR1.7/1黒色シルト	2.5Y3/1黒褐色粘質シルトを斑状に多量に含む　しまりあり

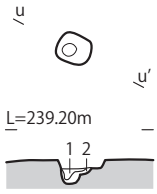
SP45



SP45

1. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト	2.5Y2/1黒色粘質シルトを斑状に多量に含む　しまりあり
2. 2.5Y2/1黒色粘質シルト	2.5Y4/1黄灰色粘質シルトを斑状に多量に含む　しまりあり
3. 2.5Y3/2黒褐色砂質シルト	有機物を多量に含む　しまりあり

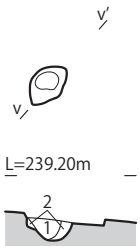
SP47



SP47

1. 10YR1.7/1黒色粘質シルト	2.5Y4/1黄灰色粘質シルトをブロック状に少量含む　しまりあり
2. 2.5Y4/1黄灰色粘質シルト	10YR1.7/1黒色粘質シルトを斑状に微量に含む　しまりあり

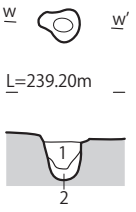
SP49



SP49

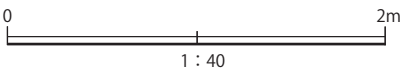
1. 10YR2/1黒色粘質シルト	10YR7/6明黄褐色砂粒を少量含む　有機物を多量に含む　しまりあり
2. 2.5Y2/1黒色粘質シルト	2.5Y5/1黄灰色粘質シルトを少量含む　しまりあり

SP50



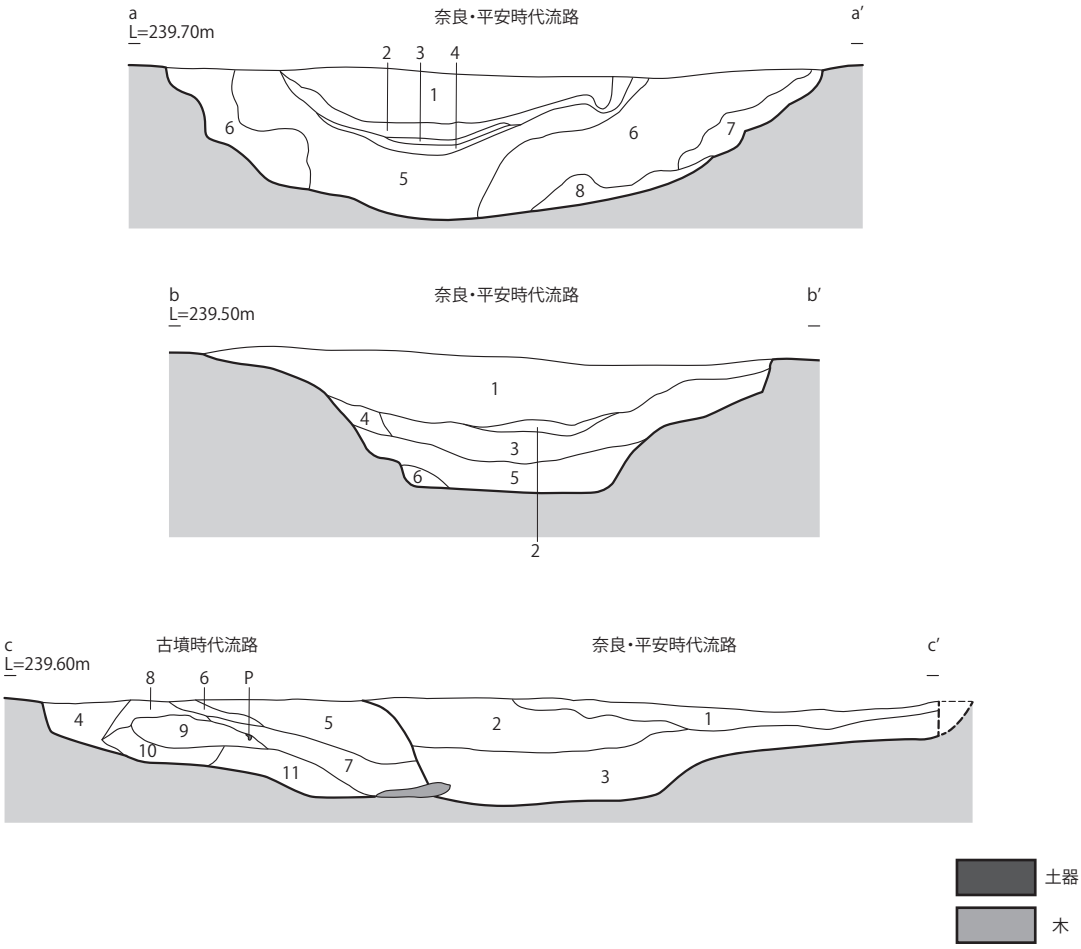
SP50

1. 2.5Y2/1黒色粘質シルト	2.5Y5/1黄灰色粘質シルトをブロック状に少量含む　微細砂粒を少量含む
2. 2.5Y6/2黄灰色粘質シルト	2.5Y3/1黒褐色粘質シルトを斑状に多量に含む
	有機物を多量に含む　しまりあり



第 251 図　D 区　ピット SP44・45・47・49・50

SG1



SG1 a-a′

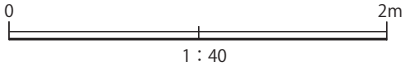
1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	多量の植物遺体を含む
2. 10YR4/2灰黄褐色粘質土	10YR1.7/1黒色粘質土を斑状に含む　10YR4/2は植物遺体の可能性あり
3. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト	10YR1.7/1黒色粘質土と植物遺体を少量含む
4. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト	10YR3/1黒褐色粘質土と植物遺体を含む
5. 10YR2/1黒色粘質シルト	多量の植物遺体を含む
6. 2.5Y4/1黄灰色シルト	2.5Y4/1黄灰色粘質シルトをブロックで少量含む
7. 2.5Y5/1黄灰色粘質シルト	上部に2.5Y3/1黒褐色粘質シルトを含む
8. 10YR1.7/1黒色粘質シルト	上部に2.5Y4/1黄灰色砂を含む

SG1 b-b′

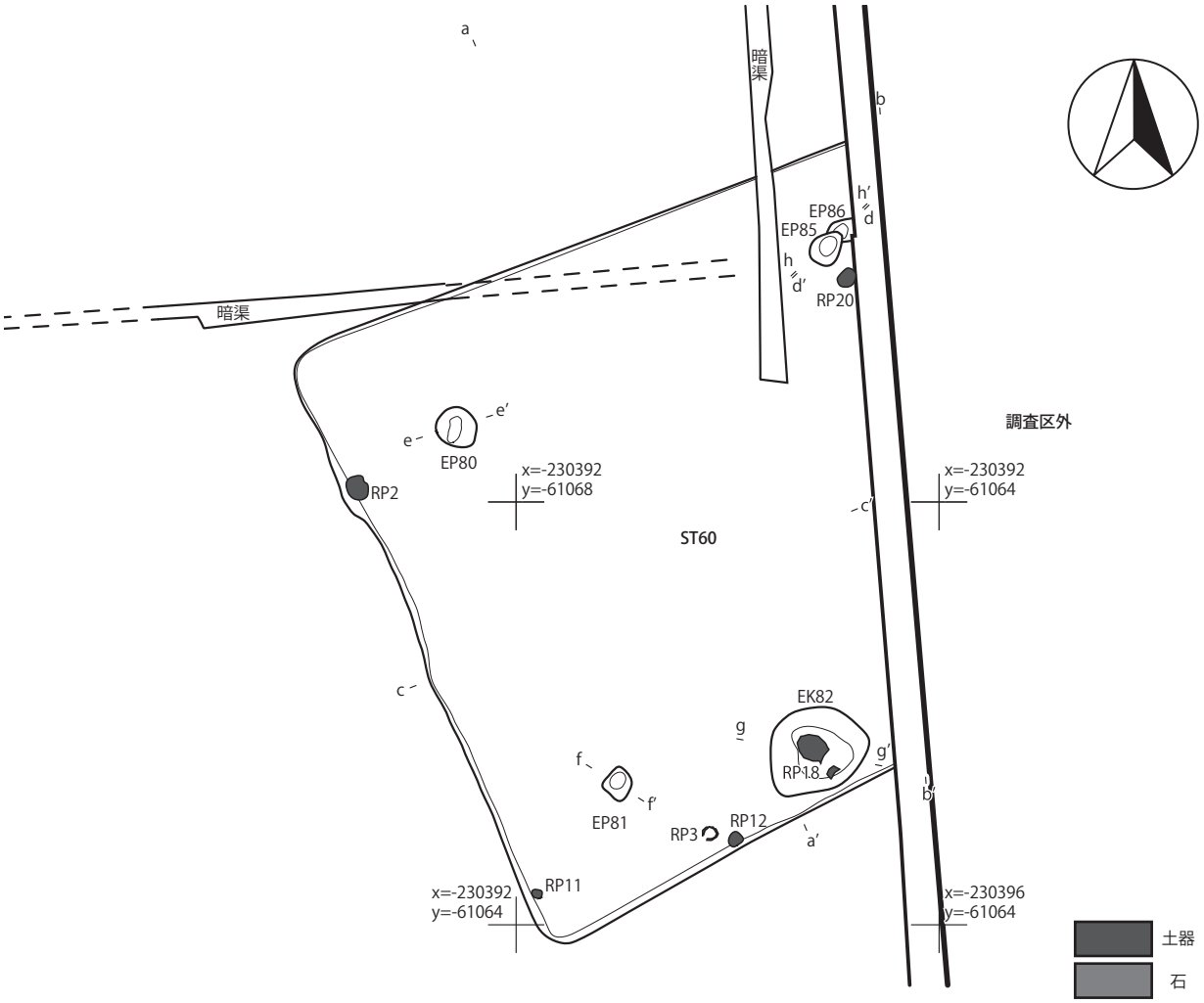
1. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	多量の植物遺体を含む
2. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト	10YR3/1黒褐色粘質土と植物遺体を含む
3. 10YR4/2灰黄褐色粘質土	10YR1.7/1黒色粘質土を斑状に含む　10YR4/2は植物遺体の可能性あり
4. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト	10YR3/1黒褐色粘質土と植物遺体を含む
5. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト	10YR1.7/1黒色粘質土と植物遺体を少量含む
6. 10YR2/1黒色粘質シルト	多量の植物遺体を含む

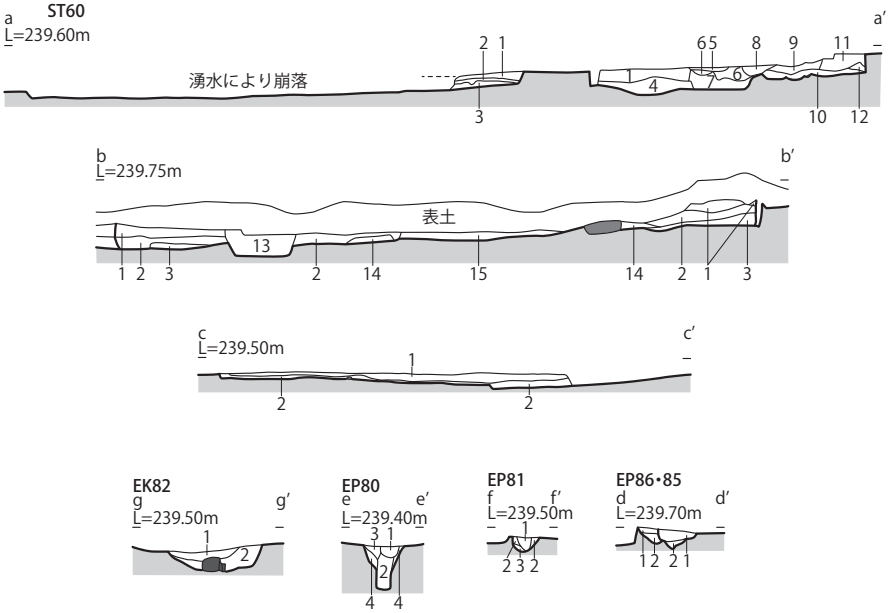
SG1 c-c′

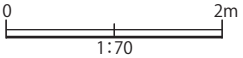
1. 7.5Y2/1黒色粘質シルト	7.5Y4/2灰オリーブ色粘質シルトを斑状に多量に含む　かたくしまる
2. 10Y2/1黒色粘質シルト	有機物を多量に含む　しまりあり
3. 5Y3/2オリーブ黒色粘質シルト	有機物を多量に含む　木片(大)を含む しまりなし
4. 10YR3/1黒褐色粘質シルト	多量の植物遺体を含む
5. 2.5Y4/1黄灰色シルト	2.5Y4/1黄灰色粘質シルトをブロックで少量含む
6. 10YR2/1黒色粘質シルト	多量の植物遺体を含む
7. 2.5Y5/1黄灰色粘質シルト	上部に2.5Y3/1黒褐色粘質シルトを含む
8. 10YR4/2灰黄褐色粘質土	10YR1.7/1黒色粘質土を斑状に含む　10YR4/2は植物遺体の可能性あり
9. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト	10YR1.7/1黒色粘質土と植物遺体を少量含む
10. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト	10YR3/1黒褐色粘質土と植物遺体を含む
11.10YR1.7/1黒色粘質シルト	上部に2.5Y4/1黄灰色砂を含む



第 252 図　D 区　河川跡 SG1 断面図







第 253 図　B 区　竪穴建物 ST60

ST60

1. 2.5Y3/2 黒褐色シルト	2.5Y8/1 灰白色微細砂粒を含む　有機物を多量に含む　しまりなし　撹乱
2. 2.5Y3/2 黒褐色シルト	2.5Y5/2 暗灰黄色砂質シルトをブロック状に少量含む　しまりなし
3. 5Y6/2 灰オリーブ色砂質シルト	地山
4. 5Y2/2 オリーブ黒色シルト	1~2mm大の砂粒を多量に含む　しまりなし
5. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粘質シルト	2.5Y3/1 黒色粘質シルトを斑状に少量含む　10YR5/6 黄褐色有機物を多量に含む　固くしまる
6. 5Y2/1 黒色粘質シルト	10YR4/3 にぶい黄褐色粘質シルトを斑状に多量に含む　しまりなし
7. 2.5Y3/1 黒褐色粘質シルト	2.5Y2/1 黒色粘質シルト　5Y6/2 灰オリーブ色砂粒を帯状に多量に含む 10YR6/8 明黄褐色砂粒を少量含む　しまりあり
8. 10YR1.7/1 黒色粘質シルト	2.5Y5/3 黄褐色粘質シルト　10YR6/8 明黄褐色砂粒を少量含む　しまりあり
9. 2.5Y2/1 黒色粘質シルト	微細炭化物を多量に含む　2.5Y6/8 明黄褐色有機物を多量に含む　しまりあり
10. 5Y4/2 灰オリーブ色粘質シルト	2.5Y2/1 黒色粘質シルトを帯状に多量に含む　しまりなし
11. 5Y2/1 黒色粘質シルト	微細炭化物及び有機物を多量に含む　2.5Y6/8 明黄褐色砂粒を粒状に少量含む　しまりあり
12. 7.5Y4/1 灰色粘質シルト	有機物を多量に含む　しまりなし
13. 10YR1.7/1 黒色粘質シルト	5Y7/1 灰白色粘土を斑、ブロック状に多く含む　しまる
14. 5Y7/1 灰白色粘土	10YR2/1 黒色粘質シルトを斑状にわずかに含む　しまる
15. 10YR1.7/1 黒色粘質シルト	5Y7/1 灰白色粘土を斑状に多く含む　しまる

EK82

1. 10YR1.7/1黒色粘質シルト	2.5Y5/1黄灰色粘質シルト粒と炭化物を多量に含む　粘性あり　しまりなし
2. 2.5Y2/1黒色粘質シルト	2.5Y5/1粘質シルト小ブロックを含む　炭化物小粒を少量含む　粘性あり　しまりなし

EP80

1. 7.5Y4/2灰オリーブ色粘質シルト	2.5Y3/1黒褐色粘質シルトブロック及び2.5Y5/2暗灰黄色砂を含む　粘性あり　しまりややあり
2. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト	2.5Y5/2暗灰黄色砂を多量に含む　粘性あり　しまりややあり
3. 2.5Y2/1黒色粘質シルト	炭化物を多量に含む　7.5Y4/2灰オリーブ色粘質シルトブロックを含む　粘性あり　しまりなし
4. 7.5Y4/2灰オリーブ色粘質シルト	2.5Y5/2暗灰黄色砂を多量に含む　粘性ややあり　しまりややあり

EP81

1. 2.5Y2/1黒色シルト	2.5Y5/2暗灰黄色砂を多量に含む　炭化物を少量含む　粘性あり　しまりなし
2. 10YR1.7/1黒色粘質シルト	炭化物を多量に含む　粘性あり　しまりなし
3. 2.5Y3/2黒褐色粘質シルト	2.5Y5/2暗灰黄色砂を多量に含む　粘性あり　しまりなし

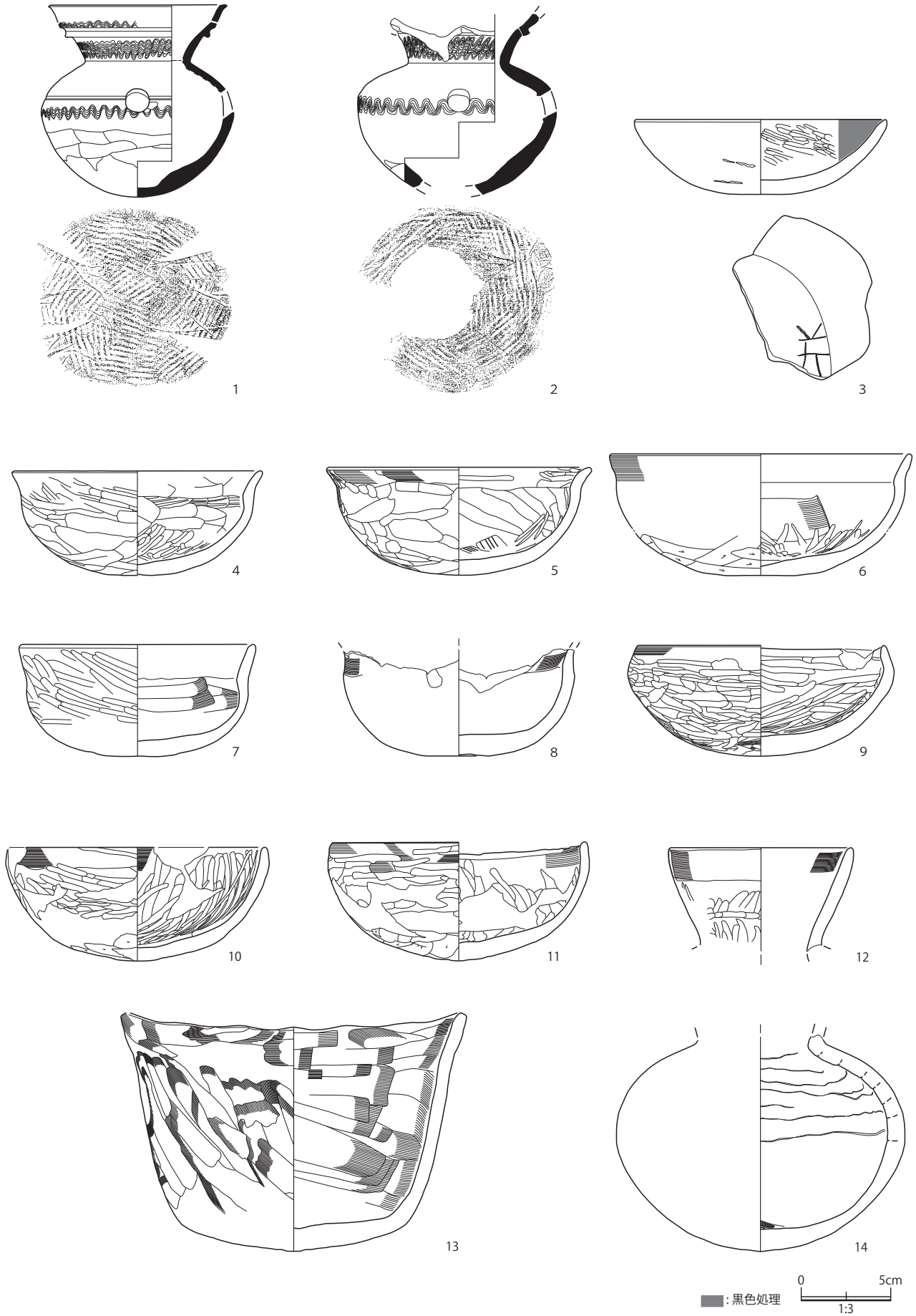
EP85

1. 10YR1.7/1黒色粘質シルト	炭化物を多量に含む　10YR5/6黄褐色焼土を粒状に微量に含む　しまりなし
2. 5Y4/1灰色粘質シルト	2.5Y5/4黄褐色粘質シルトをブロック状に多量に含む　炭化物を少量含む　しまりなし

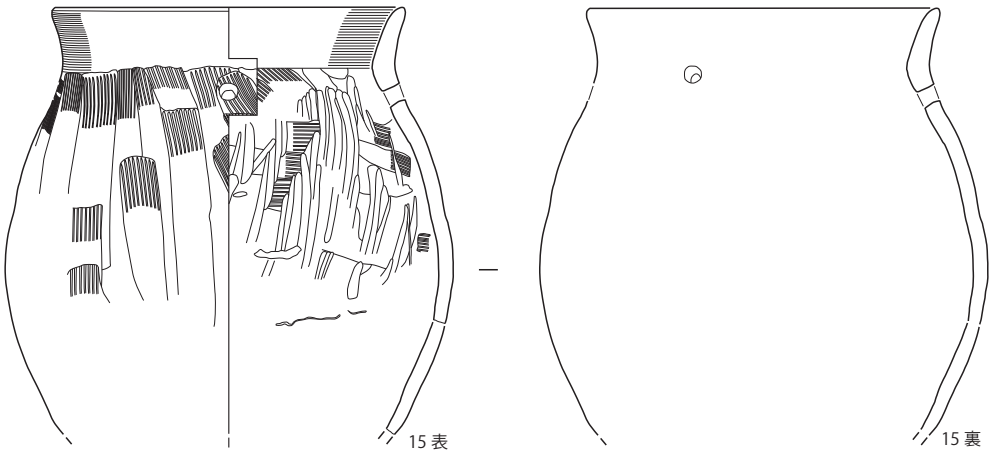
EP86

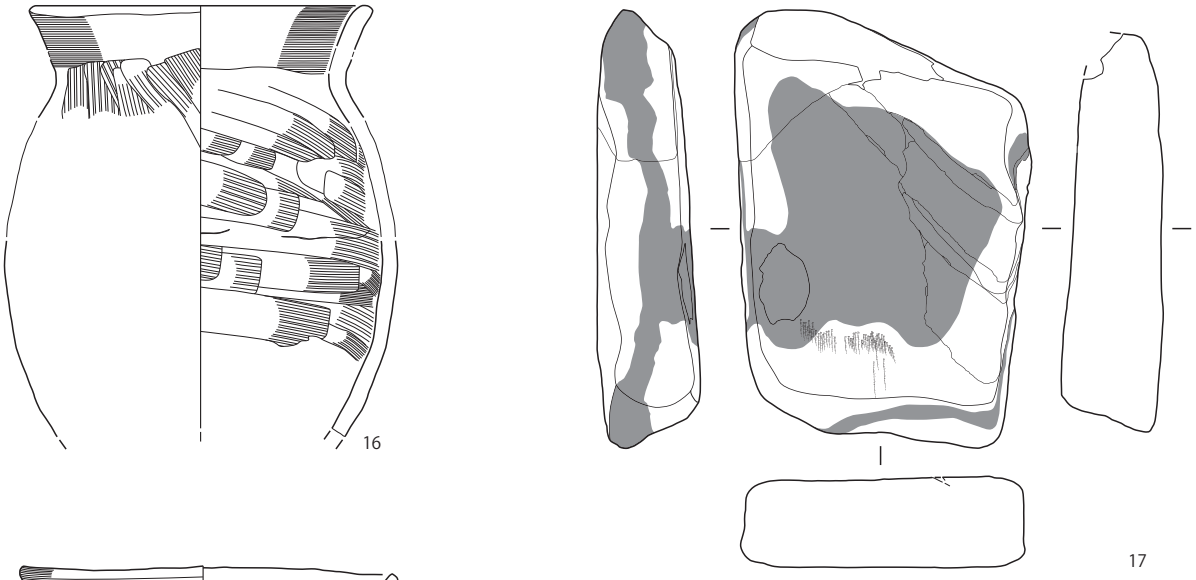
1. 10YR1.7/1黒色粘質シルト	有機物を多量に含む　炭化物を粒状に多量に含む　しまりあり
2. 5Y4/1灰色粘質シルト	2.5Y5/4黄褐色粘質シルトをブロック状に少量含む　炭化物を粒状に多量に含む　しまりなし

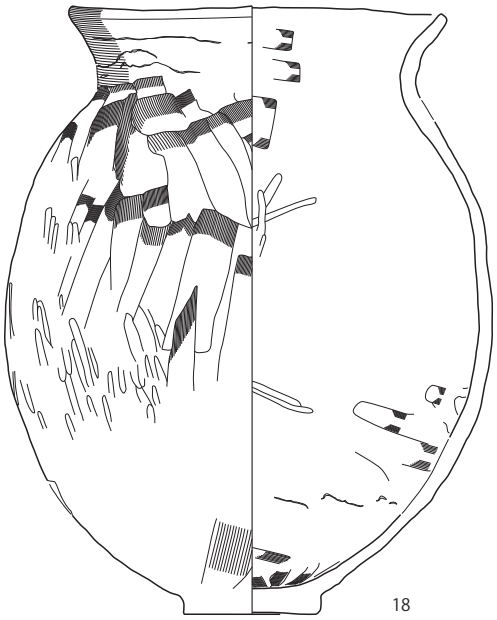
第 254 図　B 区　竪穴建物 ST60 の注記

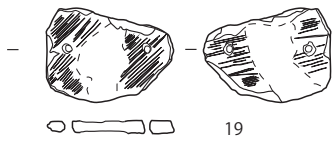


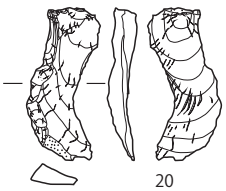
第 255 図　D 区　竪穴建物 ST51 出土遺物（1）

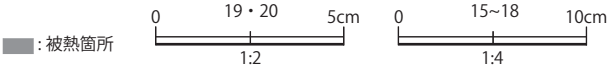






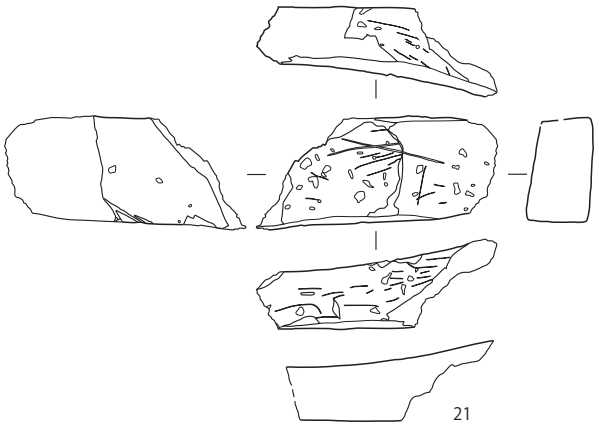


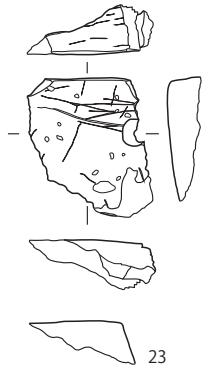


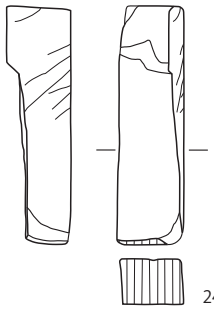


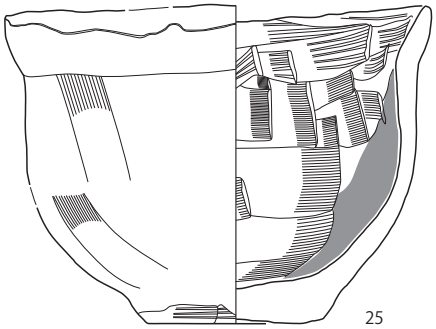
第 256 図　D 区　竪穴建物 ST51 出土遺物（2）

ST51

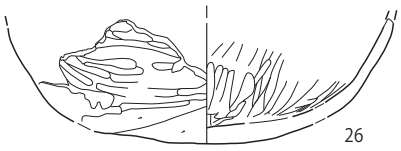


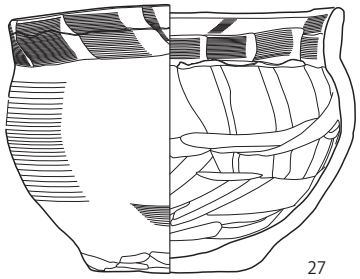


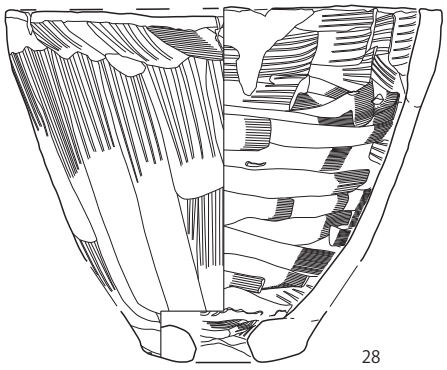


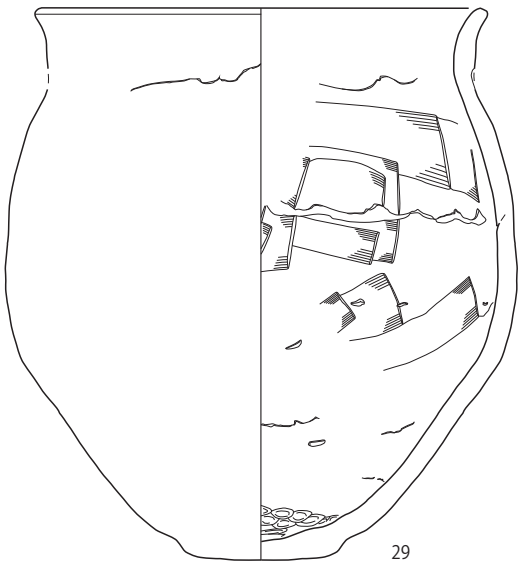


ST51 内 EL67









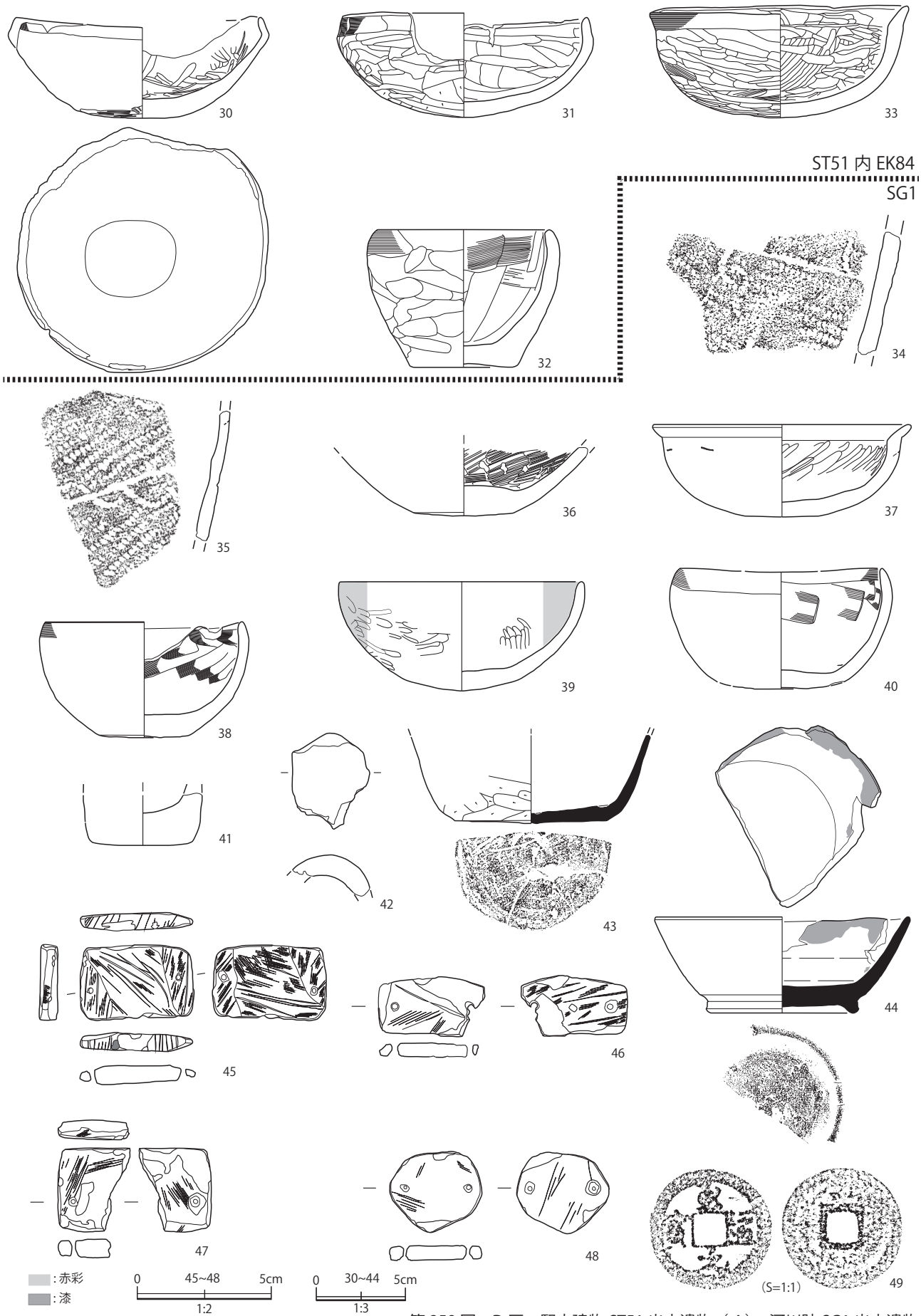
: ススコゲ

0　21~24　5cm　1:2

0　25~28　5cm　1:3

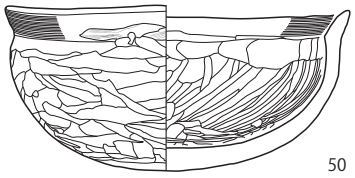
0　29　10cm　1:4

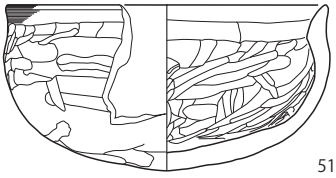
第 257 図　D 区　竪穴建物 ST51 出土遺物（3）

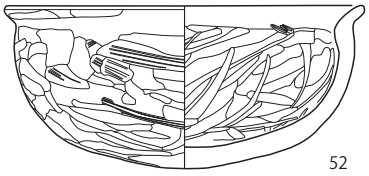


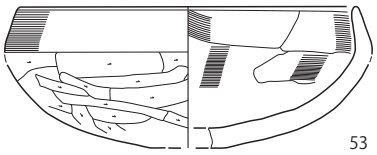
第 258 図　D 区　竪穴建物 ST51 出土遺物（4）、河川跡 SG1 出土遺物

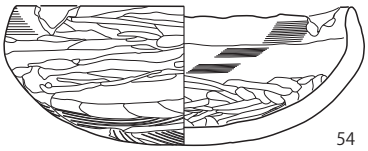
ST60

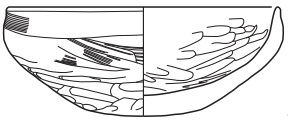

50

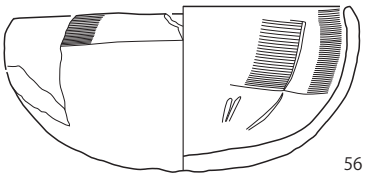

51

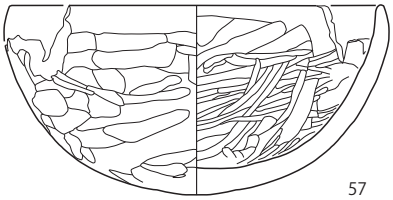

52

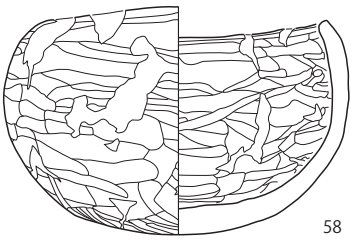

53

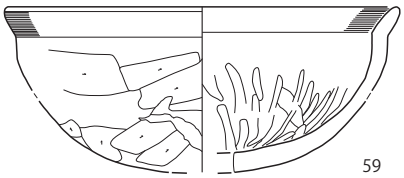

54

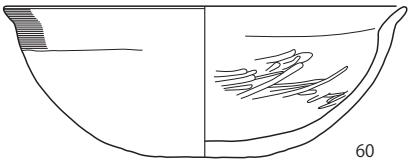

55

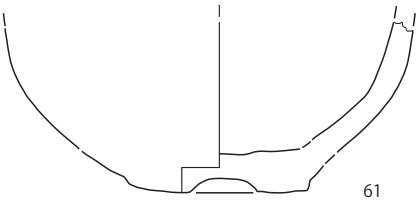

56

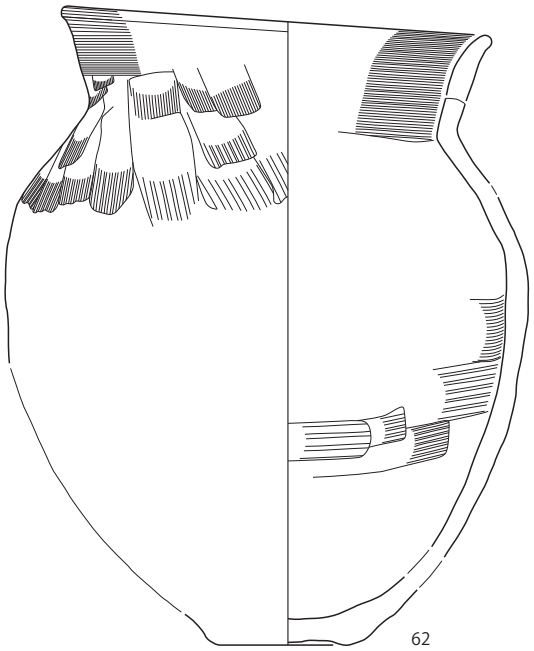

57

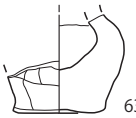

58

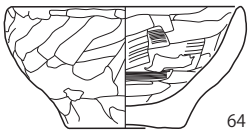

59


60

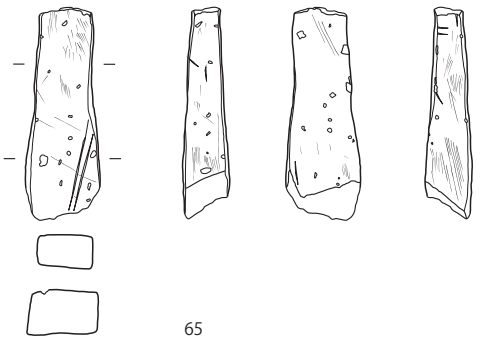

61


62


63


64

ST60 内 EP81

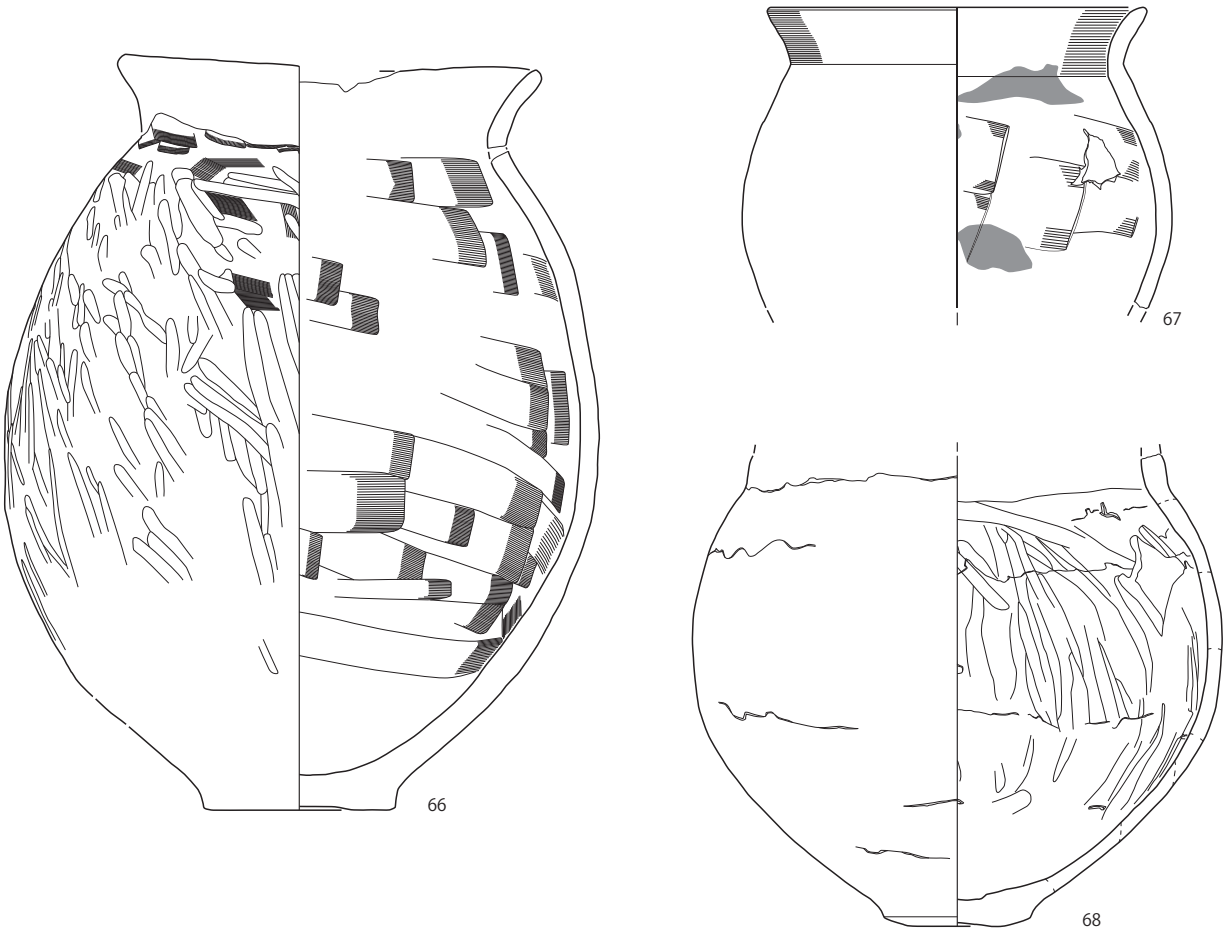

65

0　65　5cm
1:2

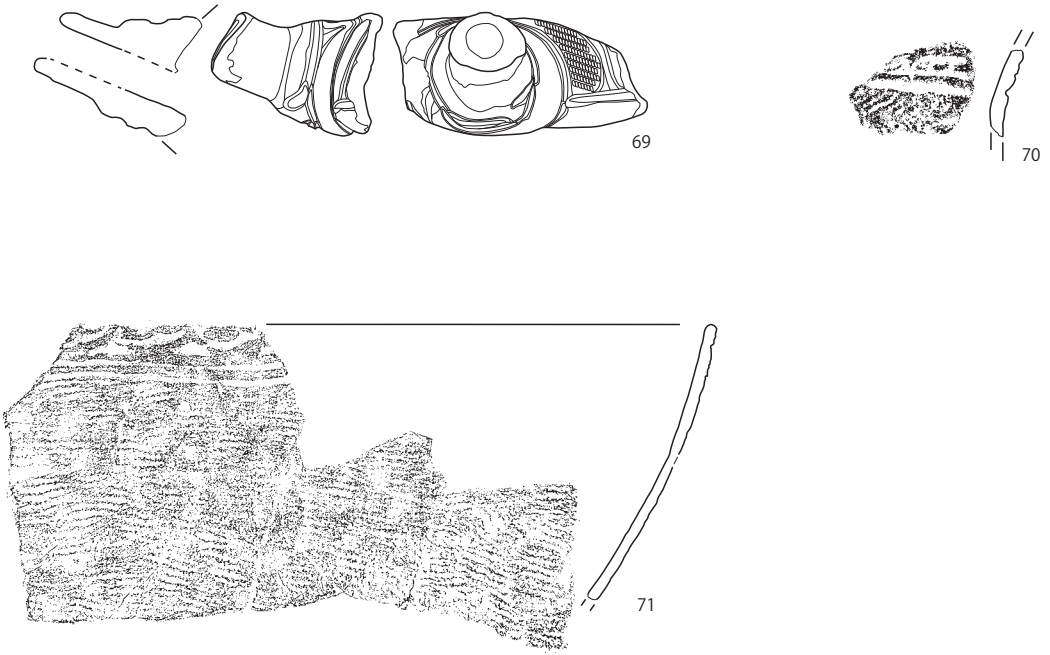
0　50~64　5cm
1:3

第 259 図　B 区　竪穴建物 ST60 出土遺物（1）

ST60 内 EK82



SX61



■: ススコゲ

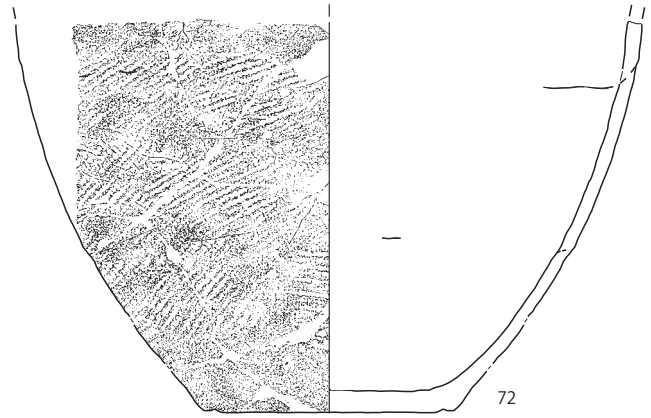
69・70　0　5cm　1:2

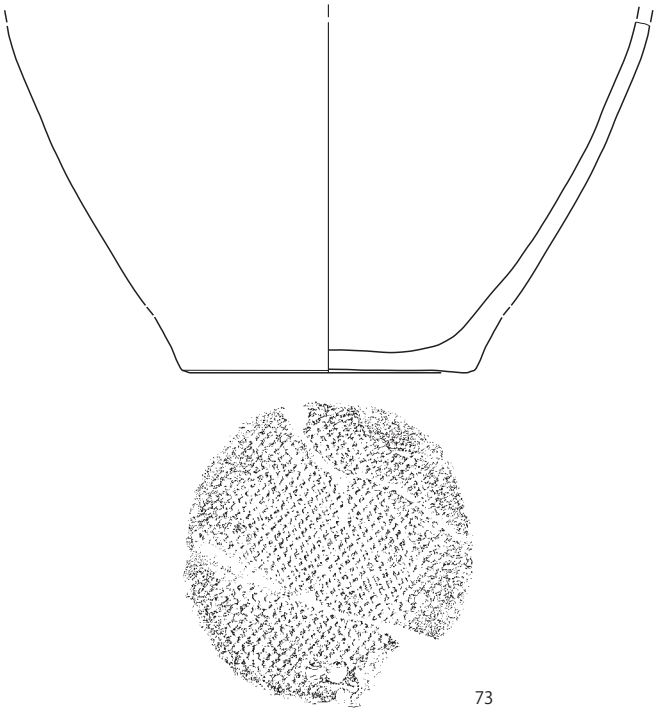
66・67・71　0　5cm　1:3

68　0　10cm　1:4

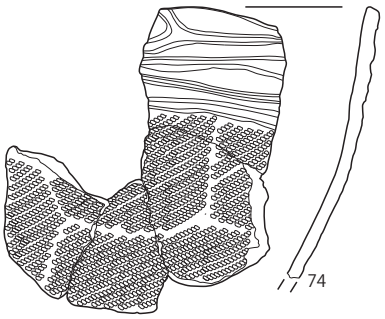
第 260 図　B 区　竪穴建物 ST60 出土遺物（2）、性格不明遺構 SX61 出土遺物

T33

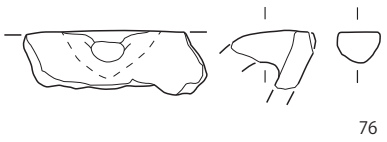


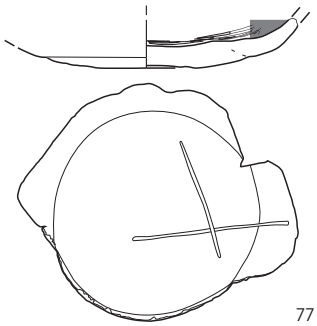


グリッド



出土地点不明遺物





: 黒色処理

0　73・74　5cm
1:2

0　72・75～77　5cm
1:3

第 261 図　7 次 T33、グリッド、出土地点不明遺物

表 8　土器観察表

番号	種別	器種	調査区	グリッド	遺構	層位	登録番号	計測値（mm）		
								口径	底径	器高
1	須恵器	甕	D 区		ST51		RP13	(99)		106.5
2	須恵器	甕	D 区		ST51		RP1			〔99.5〕
3	土師器	坏	D 区		ST51			(140)		41.5
4	土師器	坏	D 区		ST51		RP7	(139)		58
5	土師器	坏	D 区		ST51	床面		147		60
6	土師器	坏	D 区		ST51	床面		(168)		67.5
7	土師器	坏	D 区		ST51	床面		(132)		62
8	土師器	坏	D 区		ST51		RP10			〔59〕
9	土師器	坏	D 区		ST51	床面		(136)		61.5
10	土師器	坏	D 区		T3（ST51）			（144）		63
11	土師器	坏	D 区		T3（ST51）			（142）		65.5
12	土師器	壺	D 区		ST51	床面		103		〔57.5〕
13	土師器	鉢	D 区		ST51		RP9	(192)	124	132
14	土師器	壺	D 区		ST51	床面				〔119〕
15	土師器	甑か	D 区		ST51、T31	床面		188		[235.5]
16	土師器	甕	D 区		ST51	床面		182		〔227.5〕
18	土師器	甕	D 区		ST51		RP5	200	73	322.5
25	土師器	鉢	D 区		ST51、EL67		RP17	169.5	70	126.5
26	土師器	坏	D 区		ST51、EL67		RP14			〔48〕
27	土師器	鉢	D 区		ST51、EL67		RP17	133	64	106.5
28	土師器	有孔鉢	D 区		ST51、EL67		RP14、17	(173)	65	141
29	土師器	甕	D 区		ST51、EL67		RP14	(240)		292
30	土師器	坏	D 区		ST51、EK84		RP15、16			56.5
31	土師器	坏	D 区		ST51、EK84		RP19	137		58.5
32	土師器	坏	D 区		ST51、EK84		RP15	(96)	60	76.5
33	土師器	坏	D 区		ST51、EK84		RP21	144.5		62.5
34	縄文土器	深鉢か	D 区	9832G	SG1	1 層				
35	縄文土器	深鉢	D 区	9832G	SG1					
36	土師器	甕	D 区	9632G	SG1				56	〔38〕
37	土師器	坏	D 区	9631・9632G	SG1	1 層		(144)		51.5
38	土師器	坏	D 区	9632G	SG1			(109)	50	64.5
39	土師器	坏	D 区	9631・9632G	SG1			(137)		61
40	土師器	坏	D 区	9631・9632G	SG1			(113)		67
41	土師器	ミニチュア	D 区	9632G	SG1				56	〔28〕
43	須恵器	無台坏	D 区	0030G	SG1				85	〔49〕
44	須恵器	有台坏	D 区	0127G	SG1			(142)	(85)	53.5
50	土師器	坏	B 区		ST60	床面	RP3	137		66
51	土師器	坏	B 区		ST60	1 層		128		66
52	土師器	坏	B 区		ST60	表土		143		64.5
53	土師器	坏	B 区		ST60	床面	RP20	134		〔56〕
54	土師器	坏	B 区		ST60		RP20	133		55
55	土師器	坏	B 区		ST60			(109)		43.5
56	土師器	坏	B 区		ST60	床面		(132)	40	66
57	土師器	坏	B 区		ST60		RP2	(149)		75
58	土師器	坏	B 区		ST60	床面	RP12	114.5		90.5
59	土師器	坏	B 区	0133G	ST60	1 層、床面	RP3	(157)		〔65.5〕

調整			備考
外面	内面	底部	
ロクロナデ、櫛描波状文、手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	タタキ	陶邑編年　TK23
ロクロナデ、櫛描波状文、手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	タタキ	陶邑編年　TK23
	ミガキ		内黒　底部外面に刻書
ミガキ	ハケメ、ミガキ	ケズリ	
ヨコナデ、ミガキ	ハケメ、ミガキ		2 次被熱（内外面）
ヨコナデ、ケズリ	ハケメ、ミガキ	ケズリ	
ミガキ	ハケメ	ケズリ	
ヨコナデ			外面被熱
ヨコナデ、ミガキ、ハケメ	ミガキ		
ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	ケズリ	ST51 か
ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	ケズリ	ST51 か
ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ		内面に種子圧痕（8 × 3 ㎜）
ハケメ	ハケメ	ケズリ	
	ハケメ		輪積（蹴の可能性あり）　底部に種子圧痕多数
ヨコナデ、ハケメ	ハケメ、ミガキ		穴が 2 つ存在（対極ではない）
ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ		
ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	ハケメ、ミガキ		
ハケメ	ハケメ	ハケメ	
ミガキ、ケズリ	ミガキ	ケズリ	
ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ヘラナデ	ケズリ	
ハケメ	ハケメ		単孔式
	ヘラナデ		
ヨコナデ、ハケメ	ミガキ	ハケメ	平面が隅丸方形を呈する
ヨコナデ、ミガキ	ミガキ	ケズリ	内面に種子圧痕あり（5 × 3 ㎜）
ヨコナデ、ナデ	ハケメ	木葉痕	
ヨコナデ、ミガキ	ミガキ		内面に種子圧痕あり（3 × 6.5 ㎜）
綾絡文（縦位）、LR			
S 字結節縄文、LR・RL			晩期　大洞 BC
	ハケメ		内面（底）に種子圧痕あり（6 × 3 ㎜）
	ミガキ		
ヨコナデ、ハケメ	ハケメ		
ミガキ	ミガキ		赤彩
ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラナデ		
ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	焼成不良
ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ	口縁端部、内側に付着物あり（漆）
ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	ケズリ	
ヨコナデ、ミガキ	ミガキ	ケズリ	
ハケメ、ミガキ	ミガキ	ケズリ	
ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ	ケズリ	
ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	ハケメ	底部（外）に種子圧痕あり
ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	ミガキ		
ヨコナデ	ヨコナデ、ミガキ		
ミガキ	ミガキ	ケズリ	内外面に種子圧痕あり
ミガキ	ミガキ		内面（底）に種子圧痕あり
ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ミガキ	ケズリ	

番号	種別	器種	調査区	グリッド	遺構	層位	登録番号	計測値（mm）		
								口径	底径	器高
60	土師器	坏	B区		ST60、EK82	床面	RP18	〔160〕		60
61	土師器	甕	B区		ST60	床面			70	〔67.5〕
62	土師器	甕	B区		ST60	床面		(170.5)	51	253.5
63	土師器	ミニチュア	B区		ST60	1層			37	〔39〕
64	土師器	小型鉢	B区		ST60	床面	RP11	(91)	48	48.5
66	土師器	甕	B区		ST60、EK82		RP18	(168)	76	(300)
67	土師器	甕	B区		ST60、EK82	床面	RP18	(150)		〔119〕
68	土師器	甕	B区		ST60、EK82	1層、床面			78	〔249〕
69	縄文土器	注口土器	B区		SX61	表層				〔32〕
70	縄文土器	鉢	B区		SX61	1層				[22.5]
71	縄文土器	深鉢か	B区		SX61	表層				[109]
72	縄文土器	深鉢			T33				(100)	[150.5]
73	縄文土器	深鉢			T33				117	[139]
74	縄文土器	鉢		0032G						[70]
75	縄文土器	鉢		0032G						〔52.5〕
76	土師質土器	内耳土堝			X－O					〔23〕
77	土師器	坏			X－O					〔19〕

表 9　石製品観察表

番号	器種	調査区	グリッド	遺構	層位	登録番号	寸法（mm・g）				備考
							長さ	幅	厚さ	重量	
17	砥石	D区		ST51		RQ4	〔232〕	167.5	54.5	2960	大型の仕上げ砥か 凝灰岩
19	有孔円板	D区		ST51		RQ6	33.5	25	3.5	4.18	緑色片岩
20	剥片	D区		ST51（T33）			40.5	20	5.5	2.83	珪質頁岩
21	砥石	D区		ST51	1・2層、床面		69	30	24.5	28.68	凝灰岩
22	砥石	D区		ST51	床面		61	32	31	60.62	凝灰岩
23	砥石	D区		ST51		RQ8	37	34	13	12.94	凝灰岩
45	有孔円板	D区	9632G	SG1			42	28	7	14.8	緑色片岩
46	有孔円板	D区	9632G	SG1			39	22	5	6.73	緑色片岩
47	有孔円板	D区	9632G	SG1	1層		27	31	7	7.98	緑色片岩
48	有孔円板	D区	9632G	SG1			34	31	5	8.92	緑色片岩
65	砥石	B区		ST60、EP81	覆土		56.5	20	12	16.87	凝灰岩

表 10　土製品観察表

番号	器種	調査区	グリッド	遺構	層位	登録番号	計測値（㎜・g）				備考
							長さ	幅	厚さ	重量	
42	羽口	D区	0300G	SG1	検出面		53.5	43	23	25.74	

調整			備考
外面	内面	底部	
ヨコナデ	ミガキ	ケズリ→ナデ	付着物あり（漆ではない）
ヨコナデ、ハケメ	ハケメ		
ナデ			
ミガキ	ハケメ		内外面に種子圧痕あり
ハケメ、ミガキ	ハケメ		
ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ヘラナデ		内面にスス、コゲ
	ナデ		
玉抱き三叉文、LR			晩期　大洞 B2
羊歯状文、地文 LR			晩期　大洞 BC
三叉文、沈線、LR			波状口縁、晩期　大洞 B
地文　横位 LR		網代痕	晩期 大洞 B2 ヵ
		網代痕	後晩期ヵ
玉抱き三叉文、沈線、RL			晩期　大洞 B2
入組状三叉文			晩期　大洞 B
	ミガキ		内黒、底部にヘラガキ「×」

表 11　木製品観察表

番号	器種	調査区	グリッド	遺構	層位	登録番号	計測値（mm）			備考
							長さ	幅	厚さ	
24	角材	D 区		ST51	1 層		63	17.5	12	

表 12　金属製品観察表

番号	種類	調査区	グリッド	遺構	層位	登録番号	計測値（mm・g）				備考
							外縁径	方孔径	厚さ	重量	
49	古銭	D 区	0127G	SG1	面整理		22.6	5.5	1.3	2.79	至道元宝　宋銭か

Ⅴ　理化学分析

1　馳上遺跡の放射性炭素年代測定（1）

株式会社　加速器分析研究所

1　測定対象試料

馳上遺跡の測定対象試料は、竪穴住居跡等の遺構から出土した木炭と炭化物の合計７点である（表 13）。出土遺物等から推定される試料の時期は、試料１が古墳時代中期頃、試料２が平安時代もしくはそれ以降、試料 3、5 ～ 7 が平安時代、試料 4 が平安時代以前である。

2　化学処理工程

（1）メス・ピンセットを使い、付着物を取り除く。
（2）酸 - アルカリ - 酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/ ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表 13 に記載する。
（3）試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。
（4）真空ラインで二酸化炭素を精製する。
（5）精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。
（6）グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

3　測定方法

加速器をベースとした ^{14}C-AMS 専用装置（NEC 社製）を使用し、^{14}C の計数、^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）、^{14}C 濃度（$^{14}C/^{12}C$）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

4　算出方法

（1）$\delta^{13}C$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表 13）。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
（2）^{14}C 年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期（5568 年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C 年代は $\delta^{13}C$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 13 に、補正していない値を参考値として表 14 に示した。^{14}C 年代と誤差は、下 1 桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、^{14}C 年代の誤差（± 1 σ）は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2％であることを意味する。
（3）pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい（^{14}C が少ない）ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上（^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上）の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}C$ によって補正する必要があるため、補正した値を表 13 に、補正していない値を参考値として表 14 に示した。
（4）暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差（1 σ ＝ 68.2％）あるいは 2 標準偏差（2 σ ＝ 95.4％）で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、$\delta^{13}C$ 補正を行い、下 1 桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 デー

タベース（Reimer et al. 2013）を用い、OxCalv4.2 較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表 14 に示した。暦年較正年代は、^{14}C 年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

5　測 定 結 果

試料の測定結果を表 13、14 に示す。

馳上遺跡出土試料の ^{14}C 年代は、1590 ± 20yrBP（試料 1）から 650 ± 20yrBP（試料 7）の間にある。暦年較正年代（1 σ）は、最も古い試料 1 が古墳時代中期から後期頃、最も新しい試料 7 が鎌倉から室町時代に相当する（佐原 2005）。古墳時代中期とされる試料 1、平安時代もしくはそれ以降とされる試料 2、平安時代とされる試料 3、平安時代以前とされる試料 4 は推定される年代を含む結果であるが、平安時代とされる試料 5 は推定よりやや古く、試料 7 は新しく、試料 6 もわずかに推定と重なるが新しい可能性がある。

推定より古い年代値が示された試料に関しては、以下に記す古木効果が影響している可能性も考慮する必要がある。

樹木の年輪の放射性炭素年代は、その年輪が成長した年の年代を示す。したがって樹皮直下の最外年輪の年代が、樹木が伐採され死んだ年代を示し、内側の年輪は、最外年輪からの年輪数の分、古い年代値を示すことになる（古木効果）。今回測定された試料はいずれも樹皮が確認されていないことから、古木効果によって実際より古い年代値が示されている可能性があるため、推定より古い年代となった試料を中心に、この点も考慮した方が良いと考えられる。

試料の炭素含有率はすべて 60％を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

引用・参考文献

Bronk Ramsey C.　2009　Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360
Reimer, P.J. et al.　2013　IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 55(4), 1869-1887
佐原眞　2005　「日本考古学・日本歴史学の時代区分」『ウェルナー・シュタインハウス監修 , 奈良文化財研究所編集 , 日本の考古学 上　ドイツ展記念概説』学生社 p.14-19
Stuiver M. and Polach H.A.　1977 Discussion: Reporting of 14C data, Radiocarbon 19(3), 355-363

表 13　放射性炭素年代測定結果（δ ^{13}C 補正値）（1）

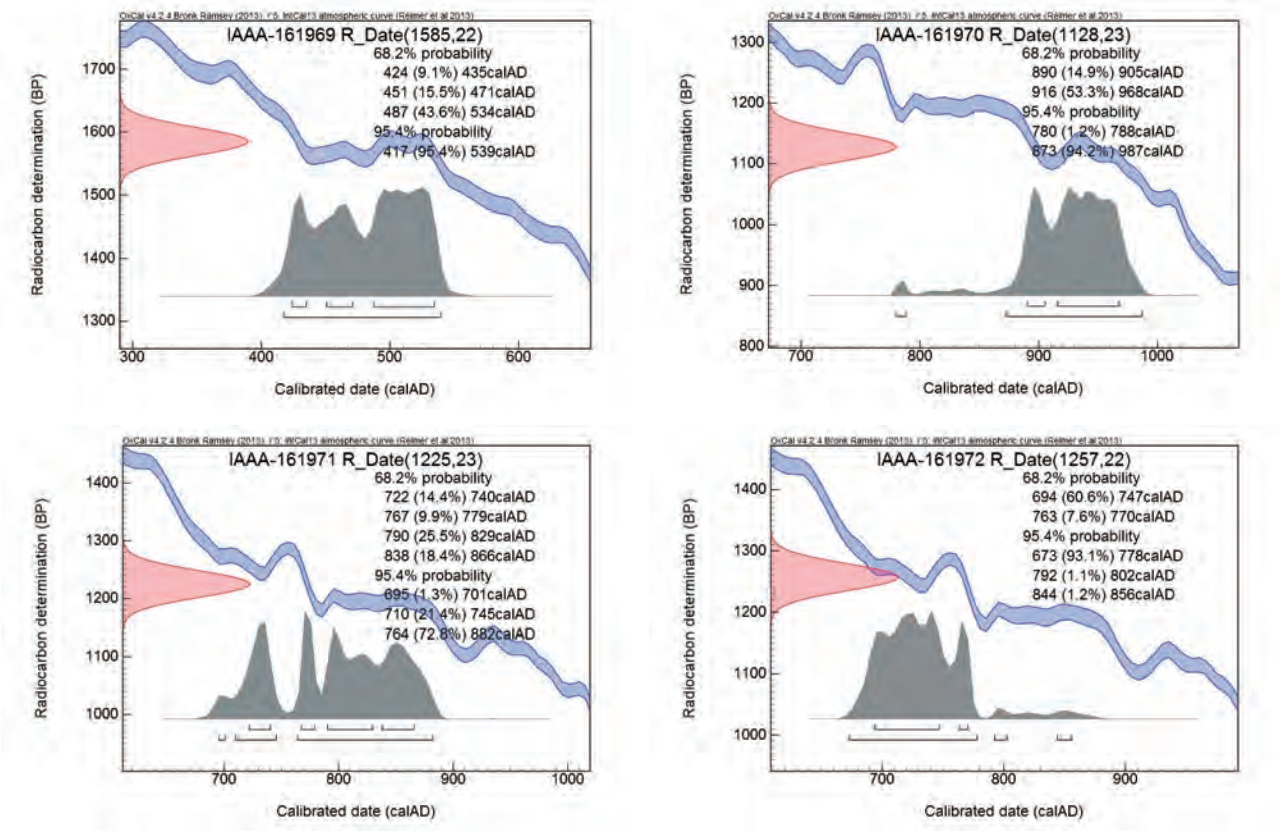
測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ ^{13}C (‰) (AMS)	δ ^{13}C 補正あり	
						Libby Age（yrBP）	pMC (%)
IAAA-161969	試料 1	ST250 内 EK351	炭化物	AAA	-25.14 ± 0.28	1,590 ± 20	82.09 ± 0.23
IAAA-161970	試料 2	ST1554	木炭	AAA	-23.36 ± 0.35	1,130 ± 20	86.89 ± 0.26
IAAA-161971	試料 3	ST2554 内 EP2574	木炭	AAA	-25.22 ± 0.35	1,230 ± 20	85.85 ± 0.25
IAAA-161972	試料 4	SG1(0799G(砂層))	炭化物	AAA	-27.98 ± 0.41	1,260 ± 20	85.51 ± 0.24
IAAA-161973	試料 5	SK1022	炭化物	AAA	-24.88 ± 0.29	1,300 ± 20	85.04 ± 0.25
IAAA-161974	試料 6	SP1232	木炭	AAA	-24.05 ± 0.41	840 ± 20	90.02 ± 0.25
IAAA-161975	試料 7	SP1384	木炭	AAA	-25.95 ± 0.60	650 ± 20	92.18 ± 0.26

[#8350, 8351]

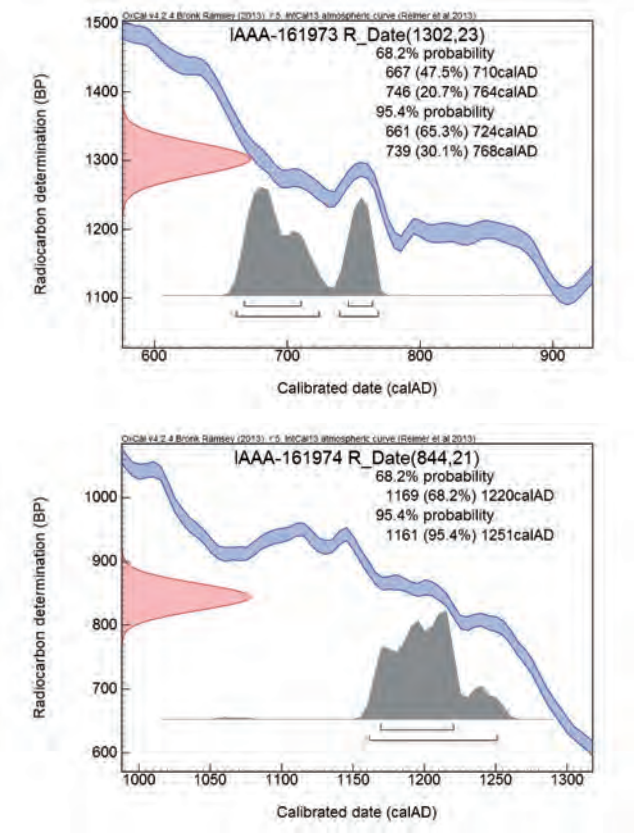
表 14　放射性炭素年代測定結果（δ ^{13}C 未補正値、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代）（1）

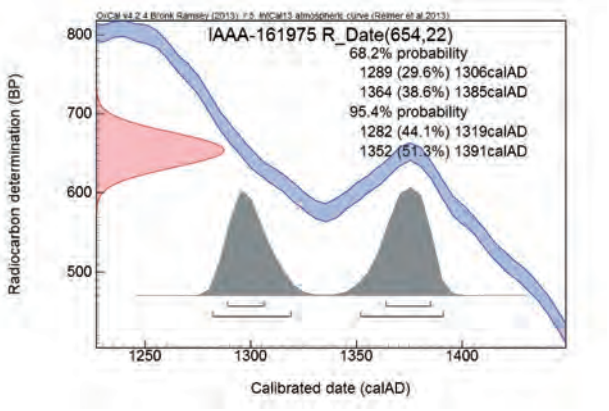
測定番号	δ ^{13}C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age　(yrBP)	pMC　(%)			
IAAA-161969	1,590 ± 20	82.06 ± 0.22	1,585 ± 22	424calAD - 435calAD (9.1%) 451calAD - 471calAD (15.5%) 487calAD - 534calAD (43.6%)	417calAD - 539calAD (95.4%)
IAAA-161970	1,100 ± 20	87.19 ± 0.25	1,128 ± 23	890calAD - 905calAD (14.9%) 916calAD - 968calAD (53.3%)	780calAD - 788calAD (1.2%) 873calAD - 987calAD (94.2%)
IAAA-161971	1,230 ± 20	85.81 ± 0.25	1,225 ± 23	722calAD - 740calAD (14.4%) 767calAD - 779calAD (9.9%) 790calAD - 829calAD (25.5%) 838calAD - 866calAD (18.4%)	695calAD - 701calAD (1.3%) 710calAD - 745calAD (21.4%) 764calAD - 882calAD (72.8%)
IAAA-161972	1,310 ± 20	84.99 ± 0.23	1,257 ± 22	694calAD - 747calAD (60.6%) 763calAD - 770calAD (7.6%)	673calAD - 778calAD (93.1%) 792calAD - 802calAD (1.1%) 844calAD - 856calAD (1.2%)
IAAA-161973	1,300 ± 20	85.06 ± 0.25	1,302 ± 23	667calAD - 710calAD (47.5%) 746calAD - 764calAD (20.7%)	661calAD - 724calAD (65.3%) 739calAD - 768calAD (30.1%)
IAAA-161974	830 ± 20	90.19 ± 0.23	844 ± 21	1169calAD - 1220calAD (68.2%)	1161calAD - 1251calAD (95.4%)
IAAA-161975	670 ± 20	91.99 ± 0.24	654 ± 22	289calAD - 1306calAD (29.6%) 1364calAD - 1385calAD (38.6%)	1282calAD - 1319calAD (44.1%) 1352calAD - 1391calAD (51.3%)

[参考値]



第 262 図　暦年較正結果（1）





第 263 図　暦年較正結果（2）

2　馳上遺跡の放射性炭素年代測定（2）

パリノ・サーヴェイ株式会社
赤堀岳人　田中義文　高橋敦

1　試　　料

分析試料は、木製品の鞍（SG1 0696G、試料番号１）、木製品の槽（SG1 0700G、試料番号２）、草本？（SG1 RP5、試料番号３）、木製品の槽（SG1 0697G、試料番号４）、堅果類（ミズナラ　SG1 0699G、試料番号５）の５試料である。

2　分 析 方 法

試料からの表面を洗浄したあと、塩酸（HCl）により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム（NaOH）により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HCl によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid）。溶液の濃度は HCl、NaOH 共に 1mol/L である（AAA と記載）。試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化（鉄を触媒とし水素で還元する）は Elementar 社の vario ISOTOPE cube と Ionplus 社の Age3 を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を NEC 社製のハンドプレス機を用いて内径 1mm の孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした ^{14}C-AMS 専用装置（NEC 社製）を用いて、^{14}C の計数、^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）、^{14}C 濃度（^{14}C/^{12}C）を測定する。AMS 測定時に、米国国立標準局（NIST）から提供される標準試料（HOX- Ⅱ）、国際原子力機関から提供される標準試料（IAEA-C6 等）、バックグラウンド試料（IAEA-C1 等）の測定も行う。

δ^{13}C は試料炭素の ^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表したものである。放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う（Stuiver & Polach,1977）。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。

暦年較正に用いるソフトウエア Oxcal4.3（Bronk,2009）を用いる。較正曲線は Intcal13（Reimer et al., 2013）を用いる。

3 結　果

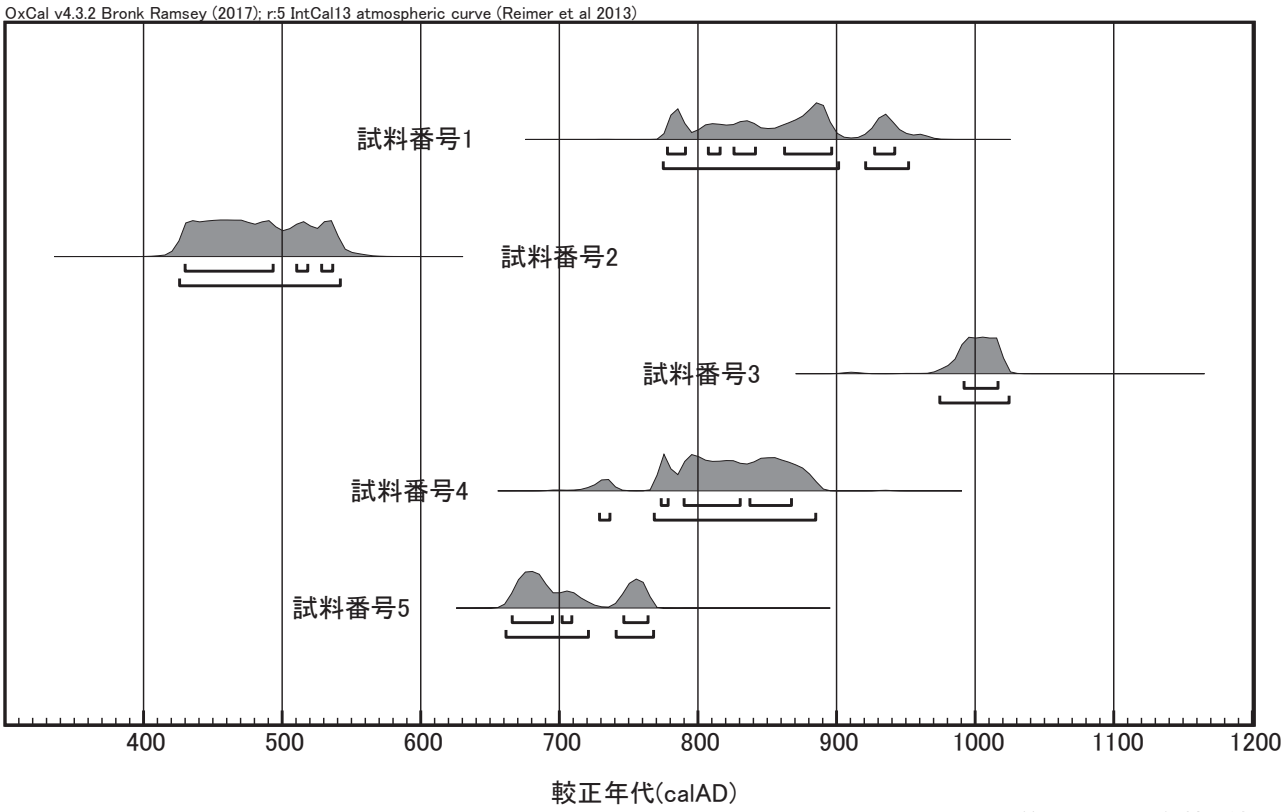
結果を表 15 に示す。いずれの試料も年代測定を行うのに十分な炭素を回収することができた。また、試料の状態もよく、AAA 処理においてアルカリ溶液の濃度を既定値まで上げることができた（1mol/L､AAA と記載)。同位体補正を考慮した年代値は、試料番号 1（SG1 0696G）は 1160 ± 20BP、試料番号 2（SG1 0700G）は 1570 ± 20BP、試料番号 3（SG1 RP5）は 1045 ± 20BP、試料番号 4（SG1 0697G）は 1210 ± 20BP、試料番号 5（SG1 0699G）は 1305 ± 20BP である。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}C の半減期 5730 ± 40 年）を較正することによって、暦年代に近づける手法である。較正のもとになる直線は暦時代がわかっている遺物や年輪（年輪は細胞壁のみなので、形成当時の ^{14}C 年代を反映している）等を用いて作られており、最新のものは 2013 年に発表された Intcal13（Reimer et al.,2013）である。なお、年代測定値に関しては、国際的な取り決めにより、測定誤差の大きさによって値を丸めるのが普通であるが（Stuiver & Polach 1977)、将来的な較正曲線ならびにソフトウエアの更新に伴う比較、再計算がしやすいように、図表には丸めない値（1 年単位）を記す。2 σの年代値は、試料番号 1（SG1 0696G）は calAD775 ～ 952、試料番号 2（SG1 0700G）は calAD426 ～ 542、試料番号 3（SG1 RP5）は calAD974 ～ 1024、試料番号 4（SG1 0697G）は calAD729 ～ 885、試料番号 5（SG1 0699G）は calAD661 ～ 768 である。

表 15　放射性炭素年代測定結果（1）

試料名	性状	方法	補正年代 (BP)	δ ^{13}C (‰)	暦年較正年代				Code pal-	Code YU-
						年代値		確率		
1 SG1 0696G	木材	1M (AAA)	1160 ± 20 (1162 ± 20)	-30.30 ± 0.38	σ	cal AD 778 - cal AD 791	1172 - 1159 calBP	0.113	10695	6636
						cal AD 807 - cal AD 816	1143 - 1134 calBP	0.048		
						cal AD 826 - cal AD 841	1124 - 1109 calBP	0.097		
						cal AD 862 - cal AD 896	1088 - 1054 calBP	0.314		
						cal AD 927 - cal AD 942	1023 - 1008 calBP	0.110		
					2 σ	cal AD 775 - cal AD 901	1175 - 1049 calBP	0.791		
						cal AD 921 - cal AD 952	1029 - 998 calBP	0.163		
2 SG1 0700G	木材	1M (AAA)	1570 ± 20 (1569 ± 20)	-25.11 ± 0.42	σ	cal AD 430 - cal AD 493	1520 - 1457 calBP	0.548	10696	6637
						cal AD 510 - cal AD 518	1440 - 1432 calBP	0.066		
						cal AD 528 - cal AD 536	1422 - 1414 calBP	0.068		
					2 σ	cal AD 426 - cal AD 542	1524 - 1408 calBP	0.954		
3 SG1 531	草本	1M (AAA)	1045 ± 20 (1043 ± 20)	-27.53 ± 0.39	σ	cal AD 992 - cal AD 1016	958 - 934 calBP	0.682	10697	6638
					2 σ	cal AD 974 - cal AD 1024	976 - 926 calBP	0.954		
4 SG1 0697G	木材	1M (AAA)	1210 ± 20 (1208 ± 20)	-29.16 ± 0.40	σ	cal AD 773 - cal AD 778	1177 - 1172 calBP	0.047	10698	6639
						cal AD 790 - cal AD 830	1160 - 1120 calBP	0.365		
						cal AD 837 - cal AD 867	1113 - 1083 calBP	0.270		
					2 σ	cal AD 729 - cal AD 736	1221 - 1214 calBP	0.023		
						cal AD 768 - cal AD 885	1182 - 1065 calBP	0.931		
5 SG1 0699G	堅果類 ミズナラ	1M (AAA)	1305 ± 20 (1305 ± 20)	-29.16 ± 0.40	σ	cal AD 666 - cal AD 695	1284 - 1255 calBP	0.417	10699	6640
						cal AD 702 - cal AD 709	1248 - 1241 calBP	0.056		
						cal AD 746 - cal AD 764	1204 - 1186 calBP	0.208		
					2 σ	cal AD 661 - cal AD 721	1289 - 1229 calBP	0.672		
						cal AD 741 - cal AD 768	1209 - 1182 calBP	0.282		

1）年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用。
2）BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。
3）付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の 68%が入る範囲）を年代値に換算した値。
4）AAA は、酸、アルカリ、酸処理、AaA は、アルカリの濃度を薄くした処理を示す。
5）計算には、Oxcal v4.3 を使用
6）計算には () 内に示した丸める前の値を使用している。
7）1 桁目を丸めるのが慣例だが､較正曲線や較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように､1 桁目を丸めていない。
8）統計的に真の値が入る確率はσは 68%、2 σは 95% である



第 264 図　暦年較正結果（3）

3　馳上遺跡の放射性炭素年代測定（3）

パリノ・サーヴェイ株式会社
赤堀岳人　高橋敦

1　試　　料

試料は、漆器塗膜（試料番号 1）、遺物付着の炭化材（試料番号 2）、柱材 4 点（試料番号 3 ～ 6）の合計 6 点である。

漆器塗膜（試料番号 1）は、一部に木胎が僅かに残るが、微量であり、木取りは不明。年代測定試料としても、木胎は微量で足りないため、塗膜部分で年代測定を実施する。年代測定用と塗膜分析用に試料を 2 分割し、年代測定用の破片については木胎部分を可能な限り除去した。

遺物付着の炭化材（試料番号 2）は、観察した範囲で組織構造が全く認められないことから、炭質物である。全量を測定試料とした。

柱材 4 点は、いずれも採取された木片である。観察した範囲で樹皮は認められない。観察範囲内での外側 5 年分をそれぞれ測定試料として採取した。

2　分 析 方 法

試料の表面を洗浄したあと、塩酸（HCl）により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム（NaOH）により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HCl によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid）。溶液の濃度は HCl、NaOH 共に 1mol/L である（AAA と記載）。

試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化（鉄を触媒とし水素で還元する）は Elementar 社の vario ISOTOPE cube と Ionplus 社の Age3 を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を NEC 社製のハンドプレス機を用いて内径 1mm の孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした ^{14}C-AMS 専用装置（NEC 社製）を用いて、^{14}C の計数、^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）、^{14}C 濃度（^{14}C/^{12}C）を測定する。AMS 測定時に、米国国立標準局（NIST）から提供される標準試料（HOX- Ⅱ）、国際原子力機関から提供される標準試料（IAEA-C6 等）、バックグラウンド試料（IAEA-C1 等）の測定も行う。

δ^{13}C は試料炭素の ^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表したものである。放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代（BP）

であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う（Stuiver & Polach,1977）。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。暦年較正に用いるソフトウエアは、Oxcal4.3（Bronk,2009）を用いる。較正曲線は Intcal13（Reimer et al., 2013）を用いる。

2　結果と考察

測定結果を表 16 に示す。炭質物 1 点を除く各試料からは年代測定を行うのに十分な炭素を回収することができた。また、試料の状態もよく、AAA 処理においてアルカリ溶液の濃度を既定値まで上げることができた（1mol/L、AAA と記載）。一方、炭質物は炭素量が少ないため、AAA 処理時にアルカリ濃度を下げて処理を実施した（0.1mol/L、AaA と記載）。

同位体補正を考慮した年代値は、試料番号 1（SG10697G）が 1250 ± 20BP、試料番号 2（SK2438）が 1355 ± 20BP、試料番号 3（SP361）が 1290 ± 20BP、試料番号 4（SP375）が 1285 ± 20BP、試料番号 5（ST362 EP369）が 1265 ± 20BP、試料番号 6（ST250 EP319）が 1600 ± 20BP である。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}C の半減期 5730 ± 40 年）を較正することによって、暦年代に近づける手法である。較正のもとになる直線は暦時代がわかっている遺物や年輪（年輪は細胞壁のみなので、形成当時の ^{14}C 年代を反映している）等を用いて作られており、最新のものは 2013 年に発表された Intcal13（Reimer et al.,2013）である。なお、年代測定値に関しては、国際的な取り決めにより、測定誤差の大きさによって値を丸めるのが普通であるが（Stuiver & Polach 1977）、将来的な較正曲線ならびにソフトウエアの更新に伴う比較、再計算がしやすいように、図表には丸めない値（1 年単位）を記す。2 σ の暦年較正値は、試料番号 1 が calAD680 ～ 864、試料番号 2 が calAD645 ～ 711、試料番号 3 が calAD669 ～ 769、試料番号 4 が calAD669 ～ 769、試料番号 5 が calAD681 ～ 772、試料番号 6 が calAD405 ～ 536 である。

なお、柱材 4 点（試料番号 3 ～ 6）は、いずれも広葉樹のコナラ属コナラ亜属コナラ節に同定された。

4　馳上遺跡の出土木製品樹種同定（1）

パリノ・サーヴェイ株式会社
赤堀岳人　田中義文　高橋敦

1　試　　料

試料は、出土した鞍 1 点（試料番号 1：掲載番号 687）、脚付容器 1 点（試料番号 2：掲載番号 682）槽 1 点（3：掲載番号 684）である。いずれも年代測定と同じ木片を用いる。

2　分析方法

剃刀を用いて木片から木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール（抱水クロラール，アラビアゴム粉末，グリセリン，蒸留水の混合液）で封入してプレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）、Wheeler 他（1998）、Richter 他（2006）を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林（1991）や伊東（1995,1996,1997,1998,1999）を参考にする。

3　結　　果

樹種同定結果を表 17 に示す。木製品は、針葉樹 1 分類群（スギ）と広葉樹 2 分類群（コナラ属コナラ亜属コナラ節・ケンポナシ属）に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

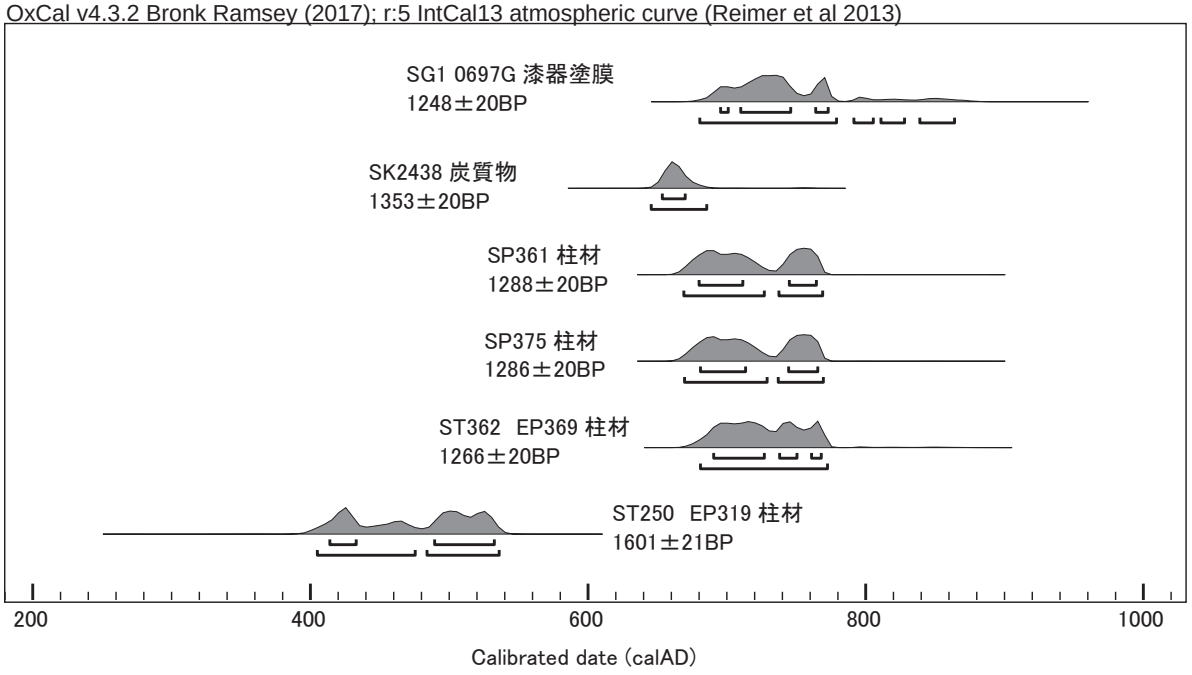
・スギ（*Cryptomeria japonica (L. f.) D. Don*）　スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅

表 16　放射性炭素年代測定結果（2）

試料名	性状	方法	補正年代 (BP)	δ 13C (‰)	暦年較正年代				Code pal-	Code YU-
						年代値		確率		
1 SG1 0697G	漆器塗膜	1M （AAA）	1250 ± 20 (1248 ± 20)	-29.15 ± 0.45	σ	cal AD 695 - cal AD 701	1255 - 1249 calBP	0.052	10753	6818
						cal AD 710 - cal AD 746	1240 - 1204 calBP	0.517		
						cal AD 764 - cal AD 773	1186 - 1177 calBP	0.113		
					2 σ	cal AD 680 - cal AD 779	1270 - 1171 calBP	0.865		
						cal AD 791 - cal AD 805	1159 - 1145 calBP	0.027		
						cal AD 811 - cal AD 828	1139 - 1122 calBP	0.023		
						cal AD 839 - cal AD 864	1111 - 1086 calBP	0.039		
2 SK2438	炭質物	0.1M （AaA）	1355 ± 20 (1353 ± 20)	-28.98 ± 0.43	σ	cal AD 653 - cal AD 670	1297 - 1280 calBP	0.682	10754	6819
					2 σ	cal AD 645 - cal AD 711	1305 - 1239 calBP	0.954		
3 SP361 柱材	木材	1M （AAA）	1290 ± 20 (1288 ± 20)	-29.01 ± 0.50	σ	cal AD 680 - cal AD 791	1270 - 1159 calBP	0.402	10755	6820
						cal AD 745 - cal AD 764	1205 - 1186 calBP	0.280		
					2 σ	cal AD 669 - cal AD 727	1281 - 1223 calBP	0.593		
						cal AD 737 - cal AD 769	1213 - 1181 calBP	0.360		
4 SP375 柱材	木材	1M （AAA）	1285 ± 20 (1286 ± 20)	-28.48 ± 0.48	σ	cal AD 681 - cal AD 713	1269 - 1237 calBP	0.398	10756	6821
						cal AD 744 - cal AD 765	1206 - 1185 calBP	0.284		
					2 σ	cal AD 669 - cal AD 729	1281 - 1221 calBP	0.590		
						cal AD 737 - cal AD 769	1213 - 1181 calBP	0.364		
5 ST362 EP369 柱材	木材	1M （AAA）	1265 ± 20 (1266 ± 20)	-28.24 ± 0.44	σ	cal AD 690 - cal AD 727	1260 - 1223 calBP	0.448	10757	6822
						cal AD 738 - cal AD 750	1212 - 1200 calBP	0.151		
						cal AD 761 - cal AD 768	1189 - 1182 calBP	0.083		
					2 σ	cal AD 681 - cal AD 772	1269 - 1178 calBP	0.954		
6 ST250 EP319 柱材	木材	1M （AAA）	1600 ± 20 (1601 ± 21)	-31.39 ± 0.44	σ	cal AD 414 - cal AD 433	1536 - 1517 calBP	0.210	10698	6823
						cal AD 489 - cal AD 532	1461 - 1418 calBP	0.472		
					2 σ	cal AD 405 - cal AD 475	1545 - 1475 calBP	0.461		
						cal AD 484 - cal AD 536	1466 - 1414 calBP	0.493		

1) 年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用。
2)BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。
3) 付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の 68％が入る範囲）を年代値に換算した値。
4)AAA は、酸、アルカリ、酸処理、AaA は、アルカリの濃度を薄くした処理を示す。
5) 計算には、Oxcal v4.3 を使用
6) 計算には () 内に示した丸める前の値を使用している。
7)1 桁目を丸めるのが慣例だが、較正曲線や較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1 桁目を丸めていない。
8) 統計的に真の値が入る確率はσは 68%、2 σは 95% である



第 265 図　暦年較正結果（4）

は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1 分野に 2-4 個。放射組織は単列、1-10 細胞高。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節（*Quercus subgen. Quercus sect. Prinus*）　ブナ科

環孔材で、孔圏部は 1-2 列、孔圏外で急激に径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20 細胞高のものと複合放射組織とがある。

・ケンポナシ属（*Hovenia*）　クロウメモドキ科

環孔材で、孔圏部は 1-5 列、孔圏外でやや急激に径を減じたのち、厚壁の道管が単独または 2 個が放射方向に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1-5 細胞幅、1-40 細胞高。

4　考　　察

樹種同定を実施した木製品は、馬具の鞍と容器の槽である。いずれも破片であり、元の形状・木取りの詳細は不明である。これらの木製品には、合計で 3 種類が確認された。各種類の材質についてみると、針葉樹のスギは木理が通直で割裂性と耐水性が比較的高く、加工は容易である。広葉樹のコナラ節は、重硬で強度が高く、加工は困難な部類に入る。ケンポナシ属は、強度が中庸とされ、加工は容易な部類に入る。

器種別にみると、鞍にはコナラ節が利用されており、強度の高い木材の利用が推定される。伊藤・山田（2012）のデータベースを見ると、山形県を含む東北地方では古代の鞍について樹種同定を実施した例は掲載されていない。一方、関東地方ではいくつかの事例があるので参考までに見てみると、下田町遺跡（埼玉県熊谷市）の鞍（前輪）がクヌギ節、下宅部遺跡（東京都東村山市）の小鞍（前輪）がクヌギ節、池子遺跡群（神奈川県逗子市）の鞍（後輪）がカエデ属との報告例がある。クヌギ節はコナラ節に近い種類であり、材質もよく似ている。カエデ属も重硬で強度が高い材質を有する。これらの事例から、鞍（特に前輪・後輪）では重硬な木材の利用が推定され、今回の結果も既存の結果と整合的といえる。

槽は、スギとケンポナシ属が認められ、針葉樹と広葉樹が共に利用されたことが推定される。スギとケンポナシ属は、材質は異なるが、加工が容易な部類に入る点で共通点があり、槽には加工性の高い木材が利用されたことが推定される。伊藤・山田（2012）のデータベースでは、山形県内では古墳時代前期の槽について樹種同定を実施した例があり、高擶南遺跡（天童市）の 3 点がいずれもスギ、藤治屋敷遺跡（山形市）の 4 点がスギ 2 点、カツラとケヤキが各 1 点となっている。重硬なケヤキも 1 点含まれるが、スギを中心に加工が容易な木材が利用される傾向が見られる点は、今回の結果とも整合的であり、古代においても同様の木材利用が継続して見られたと考えられる。

表 17　樹種同定結果（1）

試料番号	出土遺構	器種	掲載番号	種類
1	SG1 0696G	鞍	687	コナラ属コナラ亜属コナラ節
2	SG1 0700G	脚付容器	682	スギ
3	SG1 0697G	槽	684	ケンポナシ属

5　馳上遺跡の出土木製品樹種同定（2）

株式会社　吉田生物研究所

1　試　　料

試料は山形県馳上遺跡から出土した工具 1 点、農具 2 点、武器 2 点、服飾具 1 点、容器 4 点、文房具 2 点、祭祀具 1 点、用途不明品 3 点の合計 16 点である。

2　観 察 方 法

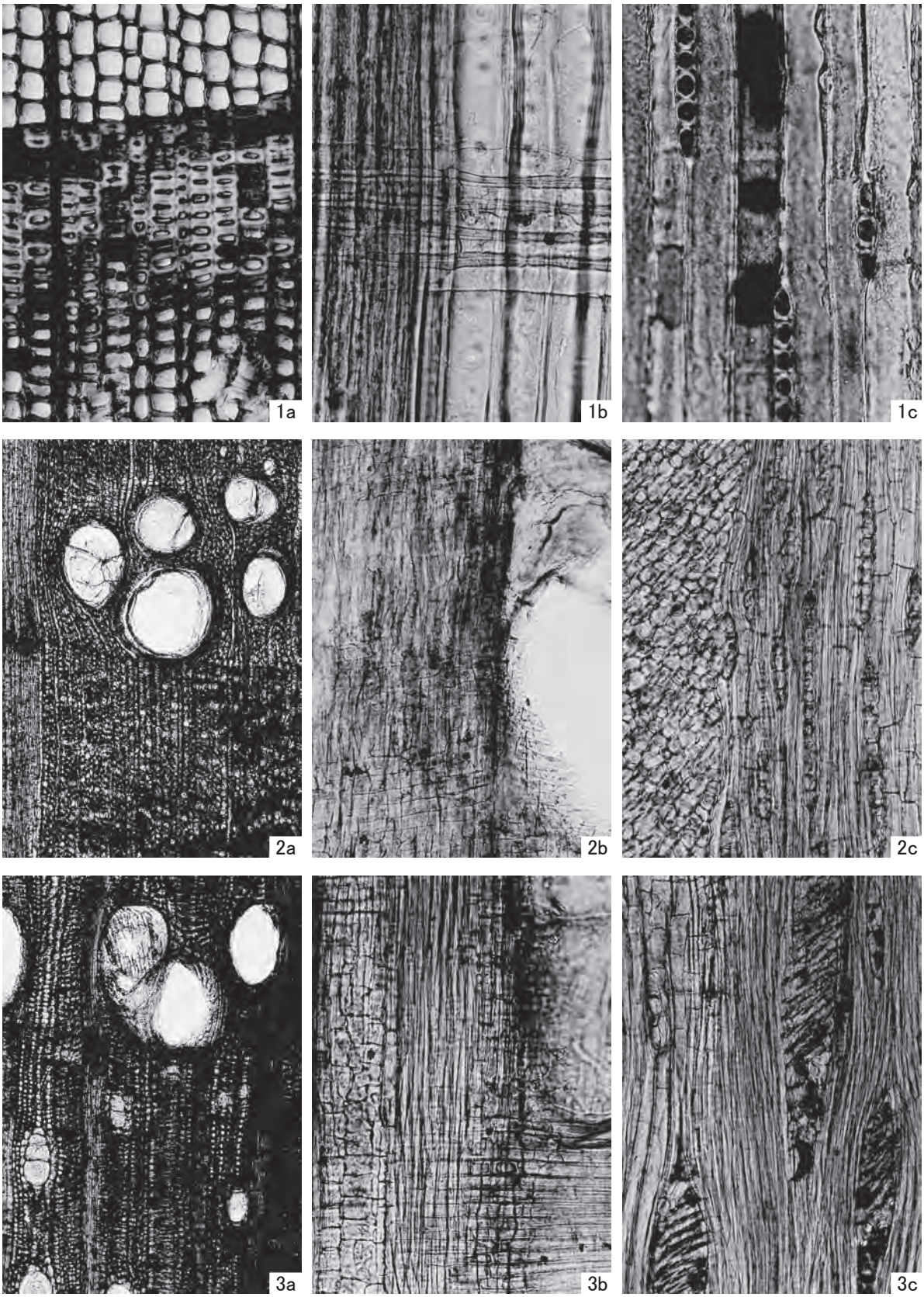
剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3　結　　果

樹種同定結果（針葉樹 2 種、広葉樹 8 種）の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

1）イヌガヤ科イヌガヤ属イヌガヤ（*Cephalotaxus Harringtonia K. Koch f. drupacea Kitamura*）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は漸



1.スギ(試料番号4)
2.コナラ属コナラ亜属コナラ節(試料番号3)
3.ケンポナシ属(試料番号6)
　a:木口, b:柾目, c:板目

100 μ m:2-3a
100 μ m:1a,2-3b,c
100 μ m:1b,c

第 266 図　木材（1）

進的で、晩材の幅は非常に狭く、年輪界がやや不明瞭で均質な材である。樹脂細胞はほぼ平等に散在し数も多い。柾目では放射組織の分野壁孔はトウヒ型で 1 分野に 1 ～ 2 個ある。仮道管内部には螺旋肥厚が見られる。短冊形をした樹脂細胞が早材部、晩材部の別なく軸方向に連続（ストランド）して存在する。板目では放射組織はほぼ単列であった。イヌガヤは本州（岩手以南）、四国、九州に分布する。

2）スギ科スギ属スギ（*Cryptomeria japonica D.Don*）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部で接線方向に並んでいた。柾目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で 1 分野に 1 ～ 3 個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね偏平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

3）クルミ科クルミ属オニグルミ（*Juglans mandshurica Maxim. subsp. SieboldianaKitamura*）

散孔材である。木口では比較的大型の道管（～ 350 μ m）が散在し、晩材部で径を減じる傾向にある。軸方向柔細胞は周囲状、および 1 細胞幅の接線状あるいは網状柔組織である。柾目では道管は単穿孔と側壁に交互壁孔を有する。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性である。板目では放射組織は 1 ～ 4 細胞列、高さ～ 600 μ m であった。オニグルミは北海道、本州、四国、九州に分布する。

4）ブナ科クリ属クリ（*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*）

環孔材である。木口では円形ないし楕円形で大体単独の大道管（～ 500 μ m）が年輪にそって幅のかなり広い孔圏部を形成している。孔圏外は急に大きさを減じ薄壁で角張った小道管が単独あるいは 2 ～ 3 個集まって火炎状に配列している。柾目では道管は単穿孔と多数の有縁壁孔を有する。放射組織は大体において平伏細胞からなり同性である。板目では多数の単列放射組織が見られ、軸方向要素として道管、それを取り囲む短冊型柔細胞の連なり（ストランド）、軸方向要素の大部分を占める木繊維が見られる。クリは北海道（西南部）、本州、四国、九州に分布する。

5）ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節（*Sect. Prinus Loudon syn. Diversipilosae, Dentatae*）

環孔材である。木口では大道管（～ 380 μ m）が年輪界にそって 1 ～ 3 列並んで孔圏部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、薄壁で角張っている小道管が単独あるいは 2 ～ 3 個複合して火炎状に配列している。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は単穿孔と対列壁孔を有する。放射組織は全て平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には大型の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と肉眼でも見られる典型的な複合型の広放射組織が見られる。コナラ節にはコナラ、ミズナラ、カシワ等があり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

6）ニレ科ケヤキ属ケヤキ（*Zelkova serrata Makino*）

環孔材である。木口ではおおむね円形で単独の大道管（～ 270 μ m）が 1 列で孔圏部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、多角形の小道管が多数集まって円形、接線状あるいは斜線状の集団管孔を形成している。軸方向柔細胞は孔圏部では道管を鞘状に取り囲み、さらに接線方向に連続している（イニシアル柔組織）。放射組織は 1 ～数列で多数の筋として見られる。柾目では大道管は単穿孔と側壁に交互壁孔を有する。小道管はさらに螺旋肥厚も持つ。放射組織は平伏細胞と上下縁辺の方形細胞からなり異性である。方形細胞はしばしば大型のものがある。板目では放射組織は少数の 1 ～ 3 列のものと大部分を占める 6 ～ 7 細胞列のほぼ大きさの一様な紡錘形放射組織がある。紡錘形放射組織の上下端の細胞は、他の部分に比べ大型である。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。

7）マンサク科イスノキ属イスノキ（*Distylium racemosum Sieb. et Zucc.*）

散孔材である。木口ではやや小さい道管（～ 50 μ m）がおおむね単独で、大きさ数とも年輪全体を通じて変化なく平等に分布する。軸方向柔細胞は黒く接線方向に並び、ほぼ一定の間隔で規則的に配列している。放射組織は 1 ～ 2 列のものが多数走っているのが見られる。柾目では道管は階段穿孔と内部に充填物（チロース）がある。軸方向には黒いすじの柔細胞ストランドが多数走っており、一部は提灯状の細胞になっている。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。板目では放射組織は 1 ～ 2 細胞列、高さ～ 1mm で多数分布している。イスノキは本州（関東以西）、四国、九州、琉球に分布する。

8）クロウメモドキ科ケンポナシ属ケンポナシ（*Hovenia dulcis Thunb.*）

環孔材である。木口ではやや大きい道管（～300 μm）が2～3列でやや疎に孔圏部を形成する。孔圏外では厚壁の小道管が2～数個複合して散在している。軸方向柔細胞は道管のまわりにあつまっている（周囲状柔細胞）。柾目では道管は単穿孔と側壁に交互壁孔を有する。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。板目では放射組織は1～6細胞列、高さ～950 μmからなる。ケンポナシは本州、四国、九州に分布する。

◆使用顕微鏡◆

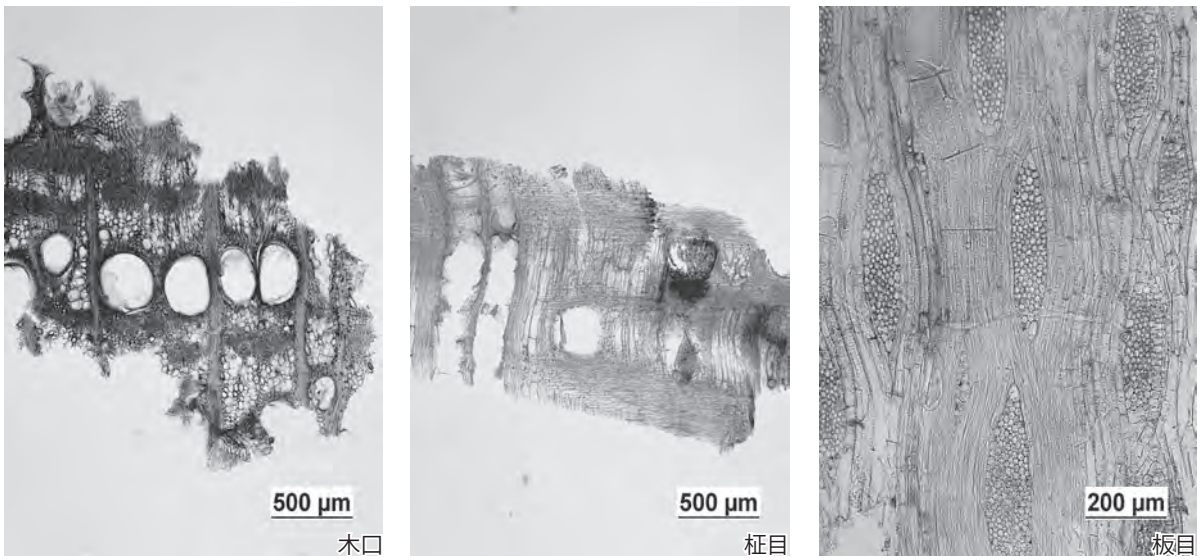
Nikon DS-Fi1

引用・参考文献

林 昭三　1991 『日本産木材顕微鏡写真集』京都大学木質科学研究所
伊東隆夫　1999 『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～Ⅴ』京都大学木質科学研究所
島地 謙・伊東隆夫　1988 『日本の遺跡出土木製品総覧』雄山閣出版
北村四郎・村田 源　1979 『原色日本植物図鑑木本編Ⅰ・Ⅱ』保育社
奈良国立文化財研究所　1985 『奈良国立文化財研究所 史料第27冊 木器集成図録 近畿古代篇』
奈良国立文化財研究所　1993 『奈良国立文化財研究所 史料第36冊 木器集成図録 近畿原始篇』

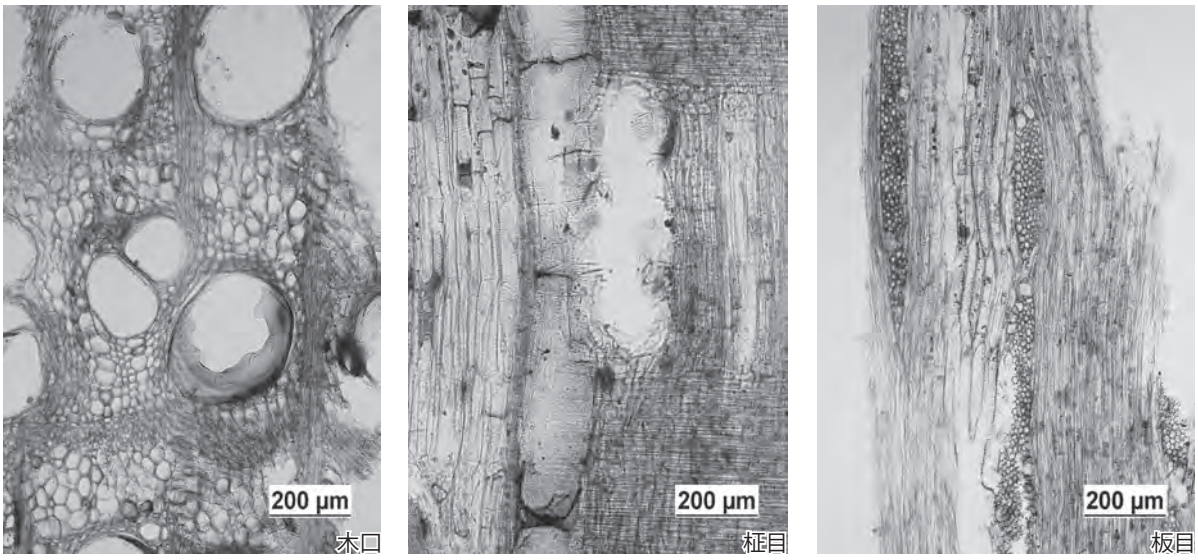
表18　樹種同定結果（2）

No.	掲載番号	品名	樹種
1	661	皿（挽物）	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
2	660	皿（挽物）	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
3	654	陽物？	スギ科スギ属スギ
4	653	木簡	スギ科スギ属スギ
5	652	木簡	スギ科スギ属スギ
6	656	把手状木製品	スギ科スギ属スギ
7	688	農具？	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節
11	683	脚付容器	スギ科スギ属スギ
12	691	弓？	イヌガヤ科イヌガヤ属イヌガヤ
13	690	弓	イヌガヤ科イヌガヤ属イヌガヤ
14	701	板材	クルミ科クルミ属オニグルミ
15	702	板材	クルミ科クルミ属オニグルミ
16	684	槽	クロウメモドキ科ケンポナシ属ケンポナシ
17	657	横櫛	マンサク科イスノキ属イスノキ
18	685	鍬	ブナ科クリ属クリ
19	686	横槌	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節

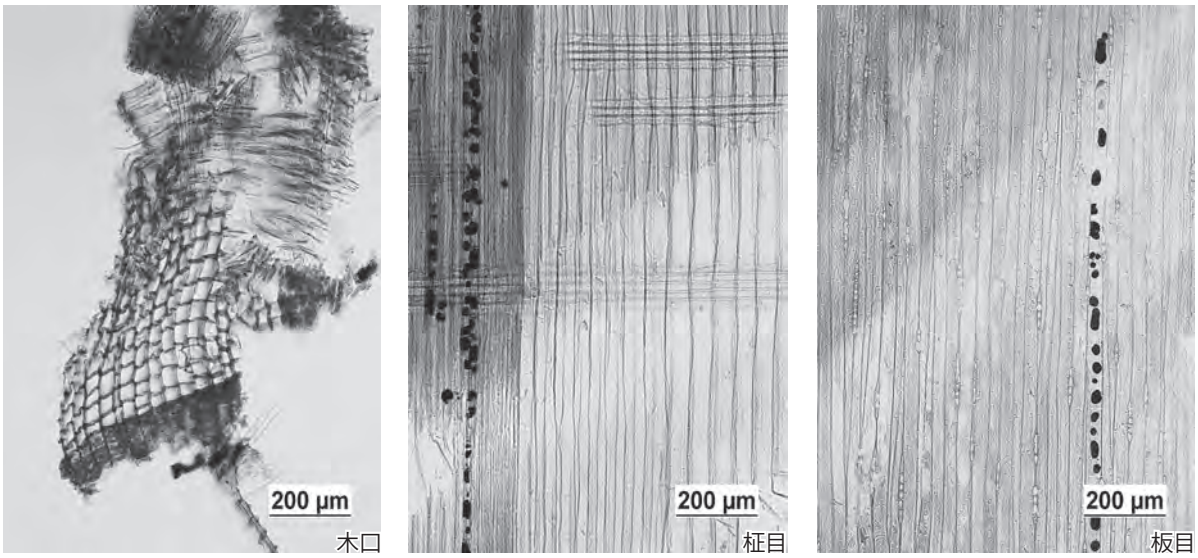


No.1　ニレ科ケヤキ属ケヤキ

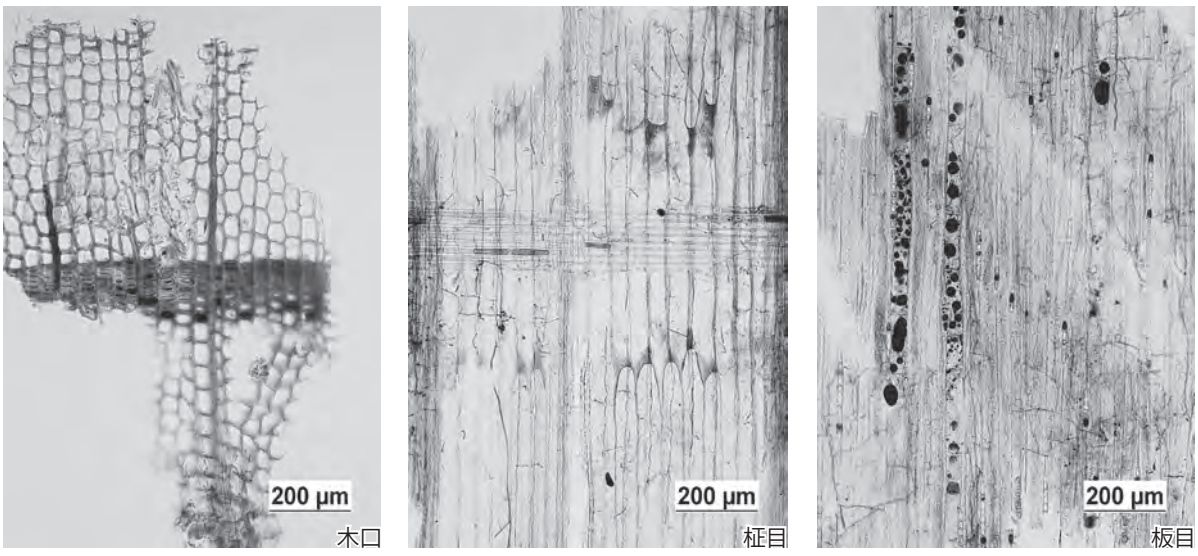
第267図　木材（2）



No.２　ニレ科ケヤキ属ケヤキ

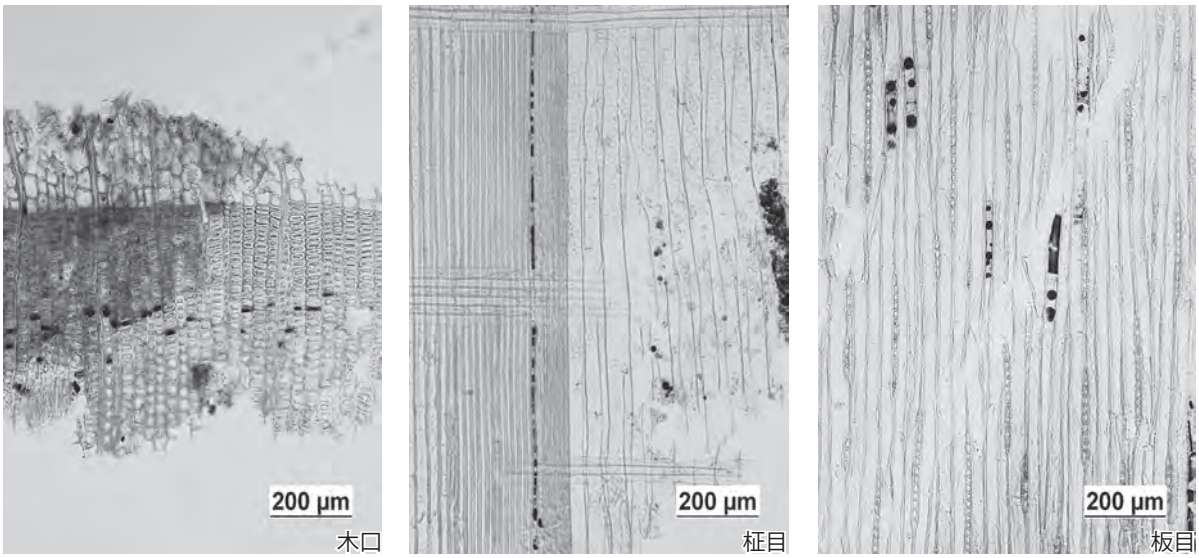


No.３　スギ科スギ属スギ

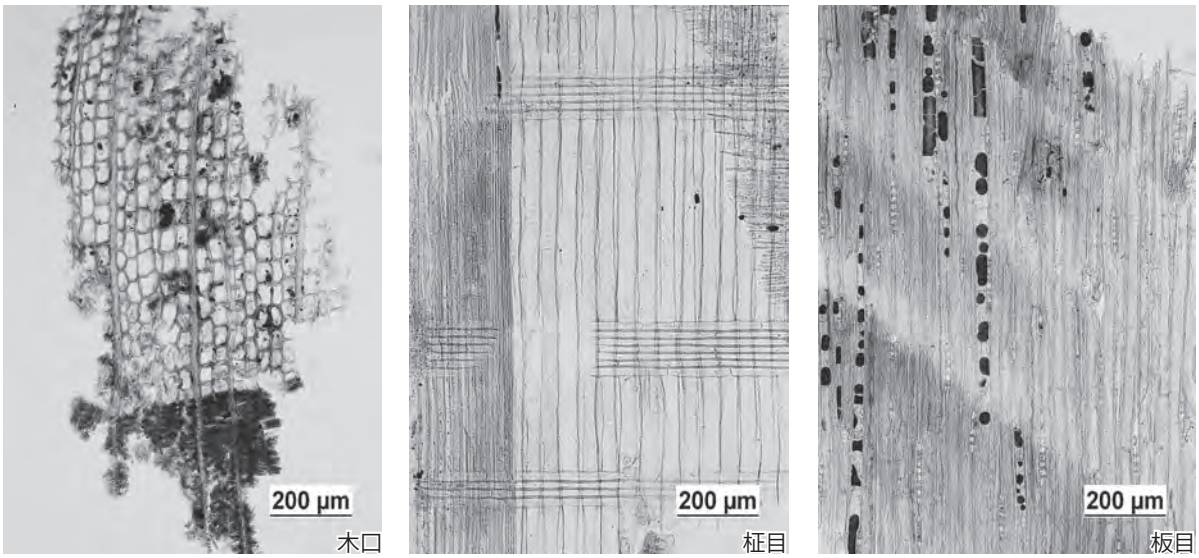


No.４　スギ科スギ属スギ

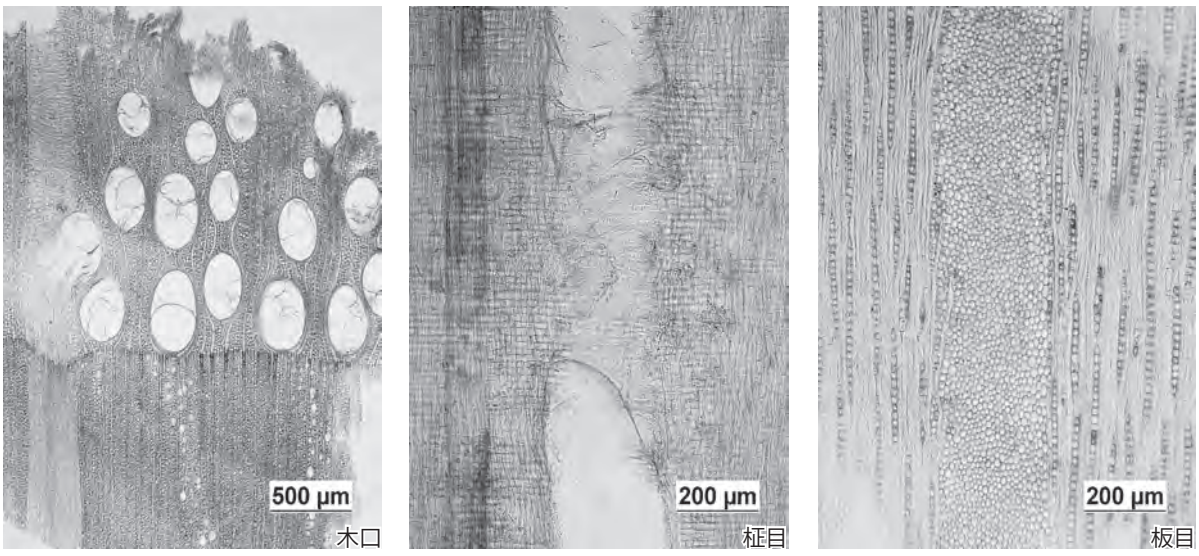
第 268 図　木材（3）



No.5　スギ科スギ属スギ

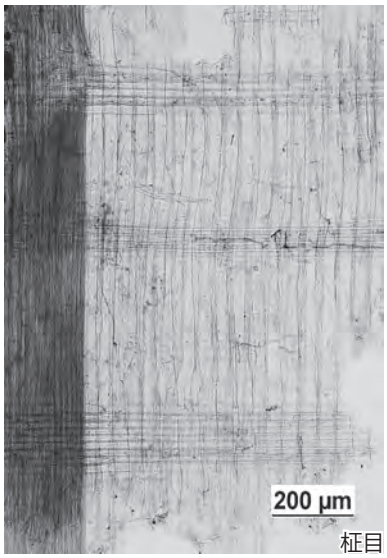


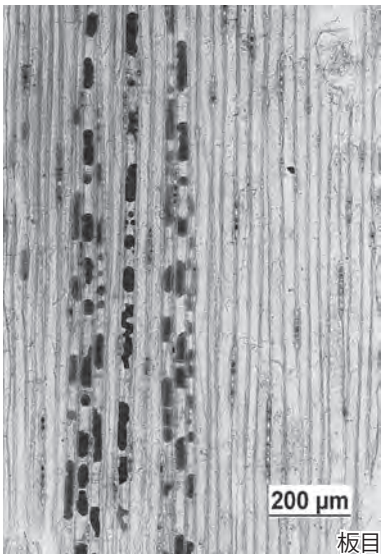
No.6　スギ科スギ属スギ



No.7　ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節

第 269 図　木材（4）



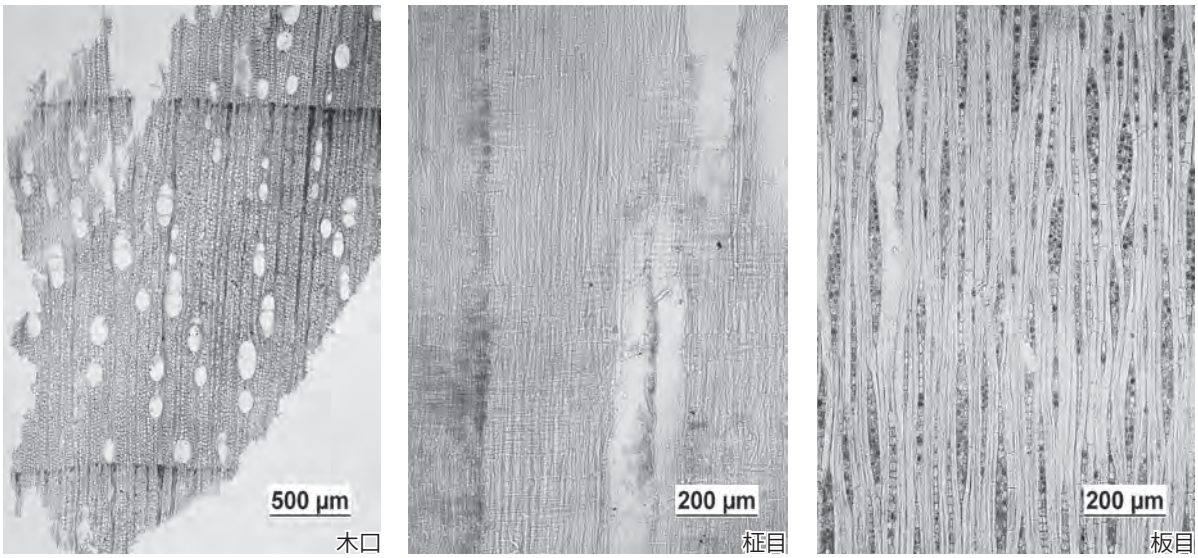


No. 11　スギ科スギ属スギ

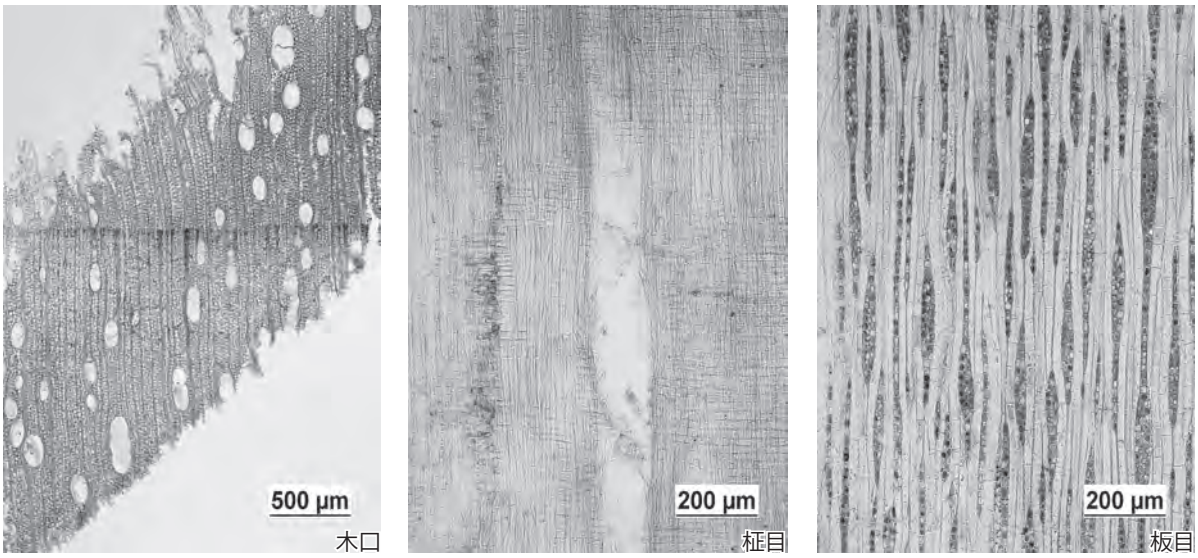
No. 12　イヌガヤ科イヌガヤ属イヌガヤ

No. 12　イヌガヤ科イヌガヤ属イヌガヤ

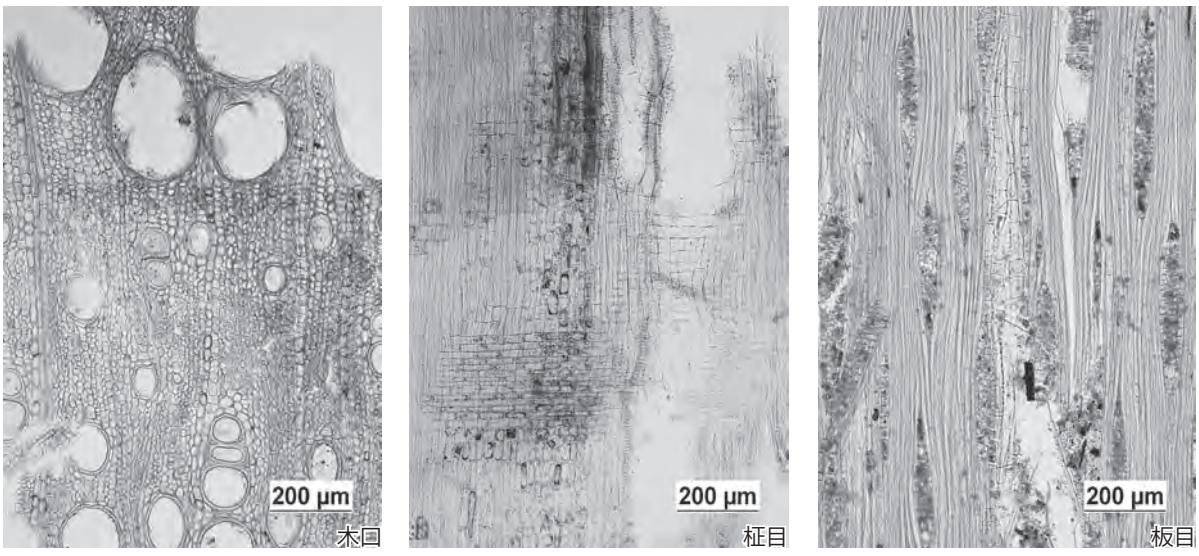
第 270 図　木材（5）



№14 クルミ科クルミ属オニグルミ

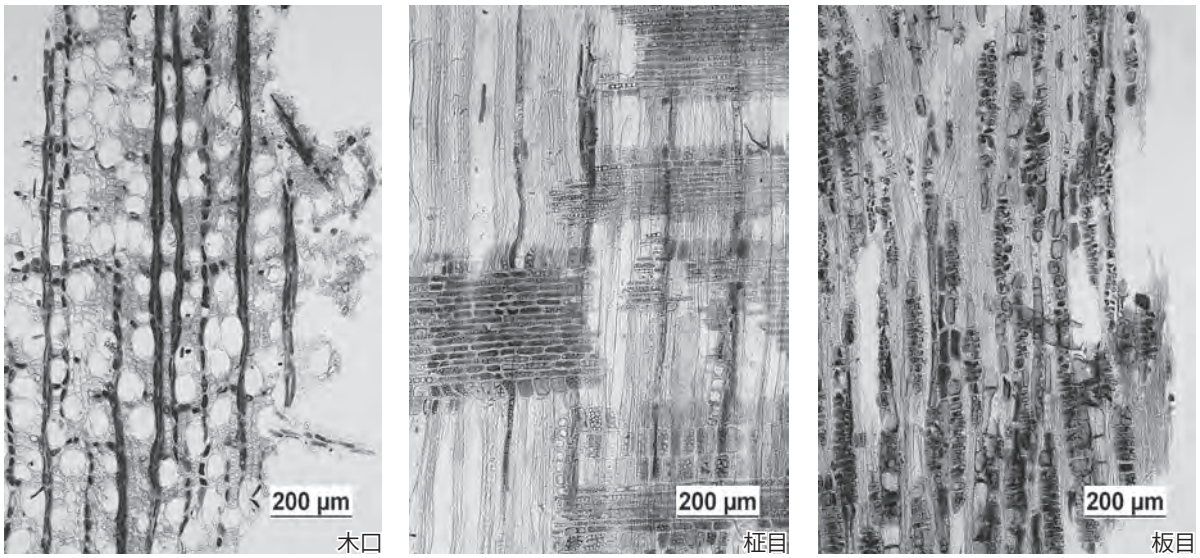


№15 クルミ科クルミ属オニグルミ

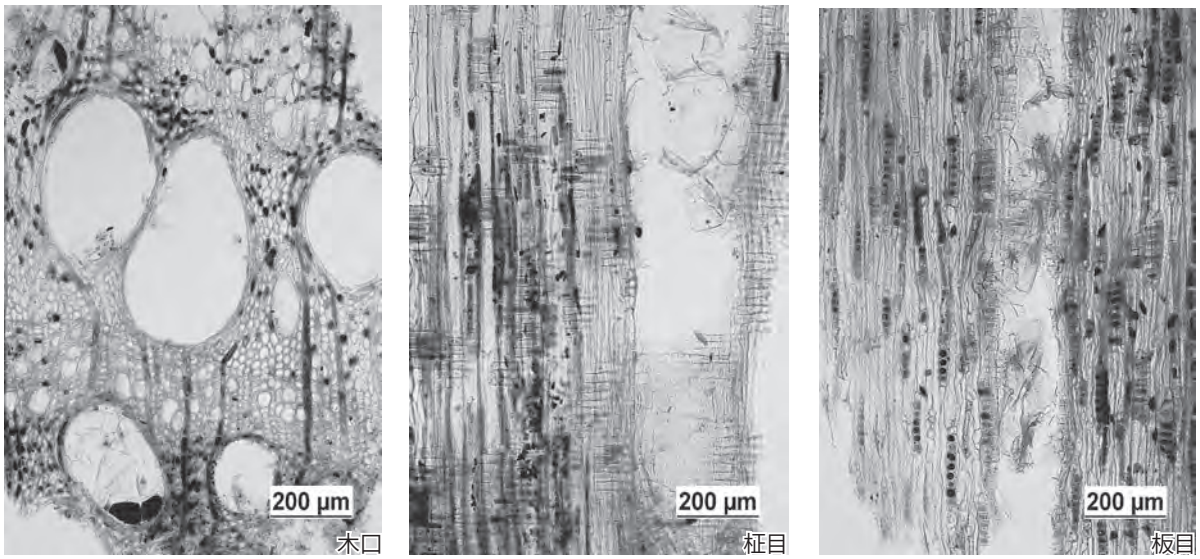


№16　クロウメモドキ科ケンポナシ属ケンポナシ

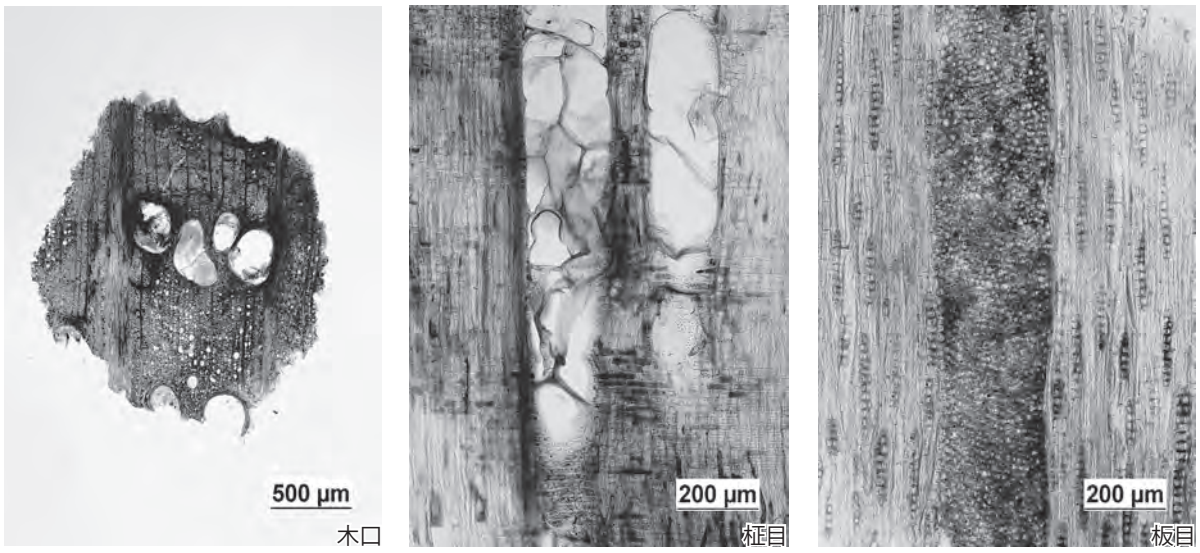
第 271 図　木材（6）



No. 17　マンサク科イスノキ属イスノキ



No. 18　ブナ科ブナ属クリ



No. 19　ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節

第 272 図　木材（7）

6　馳上遺跡の出土木製品樹種同定（3）

（公財）山梨文化財研究所

1　はじめに

米沢市に所在する馳上遺跡第 8 次から出土した木製品 2 点について樹種同定を行った。

2　試料と方法

試料は、SG1（0697G）から出土した漆器椀（No. 1）と、挽物容器（No.2）の、計 2 点である。

これらの試料から、剃刀を用いて 3 断面（横断面・接線断面・放射断面）の切片を採取し、ガムクロラールで封入してプレパラートを作製した。これを光学顕微鏡で観察および同定し、写真撮影を行った。

3　結　　果

樹種同定の結果、2 点とも広葉樹のケヤキであった。結果を表 19 に示す。

次に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、光学顕微鏡写真を図版に示す。

（1）ケヤキ　*Zelkova serrata (Thunb.) Makino*　ニレ科

第 273 図：1a-1c（No. 1）、第 274 図 2a-2c（No.2）

大型の道管が年輪のはじめに 1 列に並び、晩材部では小道管が集団をなして接線状から斜線状に配列する環孔材である。道管の穿孔は単一で、小道管にはらせん肥厚がみられる。放射組織は 3 ～ 5 列幅程度の異性で、上下端の細胞に大きな結晶をもつ。

4　考　　察

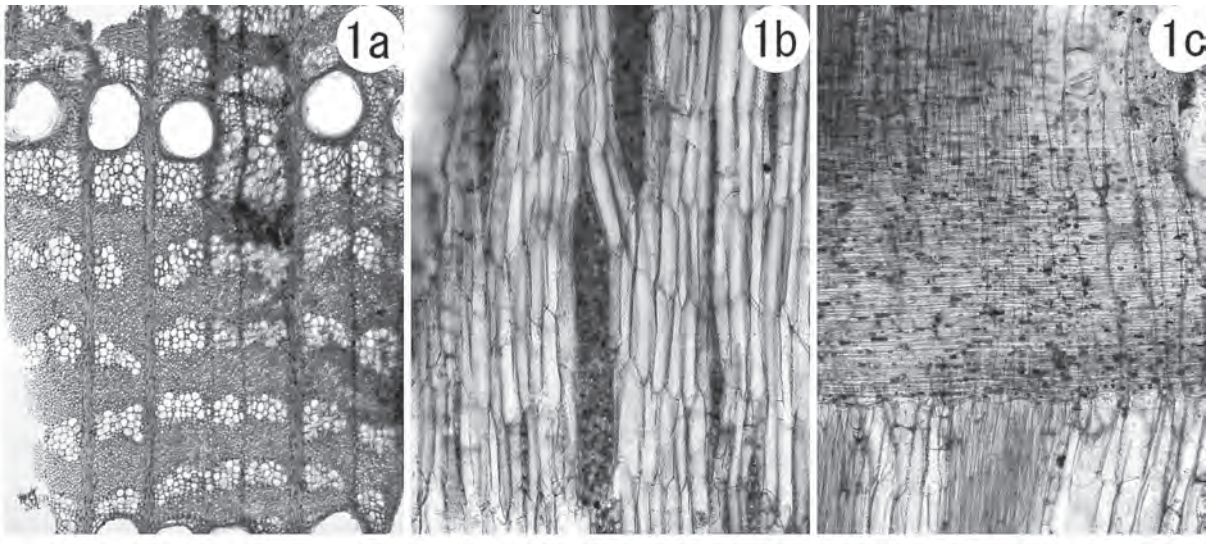
ケヤキの材は、重硬だが加工はそれほど困難ではなく、保存性が高い（平井，1996）。古代以降の椀や皿などの漆器木地には、全国的にケヤキやトチノキ、ブナ属が多く利用される傾向がある（伊東・山田編，2012）。今回の資料も同様の傾向を示した。

表 19　樹種同定結果（3）

No.	掲載番号	遺構番号	器種	樹種	木取り
1	659	SG1（0697G）	漆器椀	ケヤキ	横木取り
2	666	SG1（0697G）	容器（挽物）	ケヤキ	横木取り

引用文献

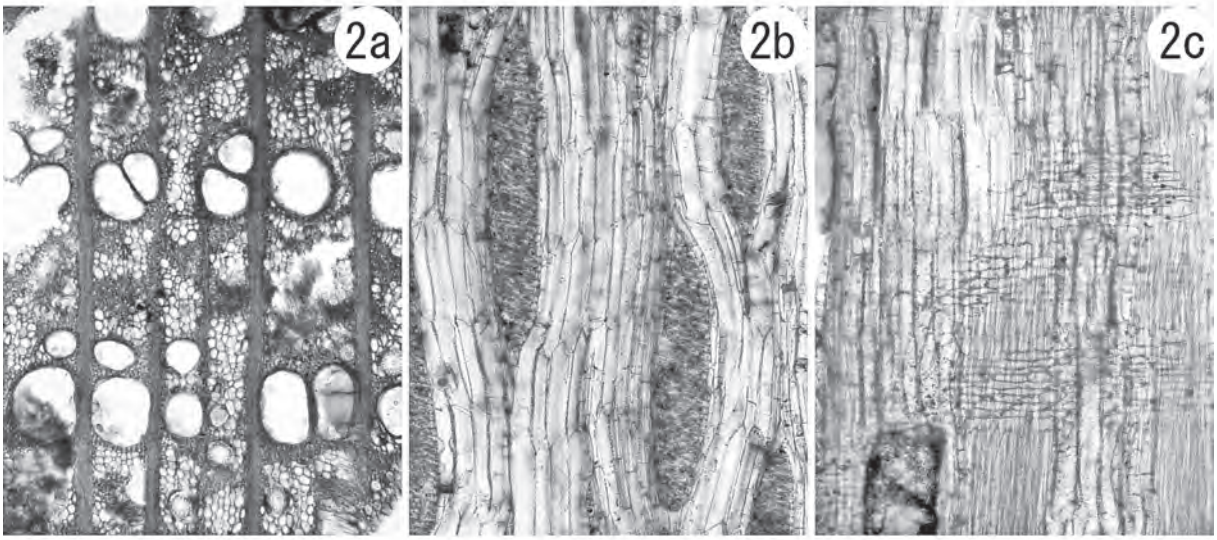
平井信二　1996 『木の大百科』p.394　朝倉書店
伊東隆夫・山田昌久編　2012 『木の考古学－出土木製品用材データベース－』p.449　海青社



1a-1c. ケヤキ（No. 1）

a：横断面（スケール =500 μ m）、b：接線断面（スケール =200 μ m）、c：放射断面（スケール =200 μ m）

第 273 図　木製品の光学顕微鏡写真（1）



2a-2c．ケヤキ（No.2）
a：横断面（スケール =500 μ m）、b：接線断面（スケール =200 μ m）、c：放射断面（スケール =200 μ m）

第 274 図　木製品の光学顕微鏡写真（2）

7　馳上遺跡の植物遺体同定（プラントオパール分析）

パリノ・サーヴェイ株式会社
赤堀岳人　高橋敦

1　試　　料

試料は、草本？（SG1 531、試料番号 3）で放射性炭素年代測定と同一である。淡褐色で幅 3 ～ 4mm 程度の草の茎葉のようなものが、幾重にも巻きついた状態であり、径 10cm、幅 2cm のリング状になっている（第 275 図）。

2　分 析 方 法

全体の観察を行ったあと、マイクロスコープで拡大し、茎葉を観察する。状態の良さそうな茎葉を 2 ～ 3 本選んで採取し、過酸化水素水と塩酸の混合液中で加熱することにより灰化させる。灰化後の組織片を光学顕微鏡や電子顕微鏡で観察し、細胞壁の状態や、細胞内に含まれる植物珪酸体の有無、配列、形状などを確認し種類の特定を試みる。

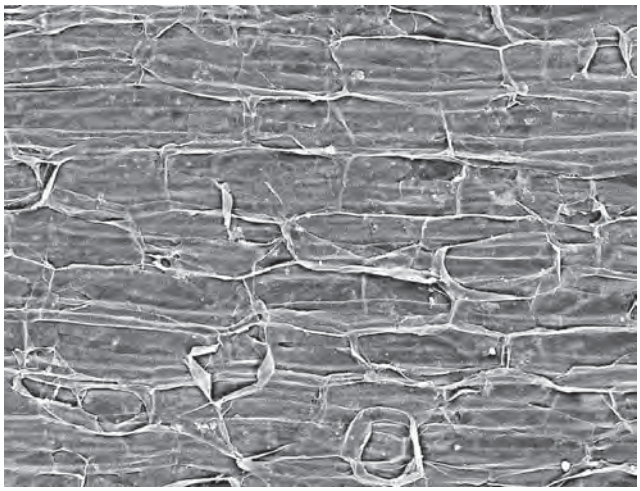
3　結　　果

観察像を第 275 図に示す。マイクロスコープでの観察の結果、ドーナツ状に巻きついている茎葉は、淡褐色で幅 3 ～ 4mm、長さは不明だが脆くて切れやすく、数 cm 剥がすと切れてしまう。表面は縦長の細胞が連なっているが、希に正方形に近い細胞がみられる。気孔、維管束等の構造は明瞭に認められない。また、植物珪酸体も認められない。

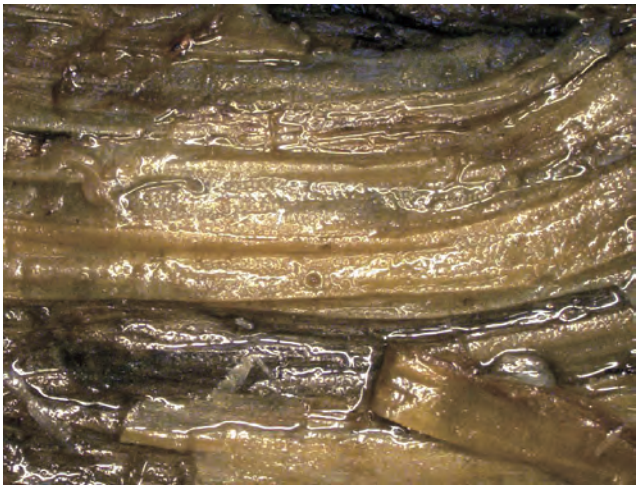
灰化後の試料を光学顕微鏡と電子顕微鏡で観察する。長さ 100 μ m、幅 25 μ m ほどの縦長の細胞が配列しているのが観察できる。その他、長さと幅がほぼ等しい正方形の細胞も所々にみられる。珪酸分が沈着している細胞（植物珪酸体）は全く認められないため、植物珪酸体の形状ならびに配列による種類の同定はできない。その他、維管束等の構造は認められない。構造自体が灰化の過程で分解した可能性もあるが、灰化前の組織をマイクロスコープや光学顕微鏡で観察した際も認められなかったことから、経年変化により構造が消失している可能性が高い。

以上の特徴から、この試料は草本類の茎（地下茎を含む）と思われるが、細かな種類については不明である。経年変化により組織が失われ、比較的堅い表皮部分の細胞のみが残ったと思われる。

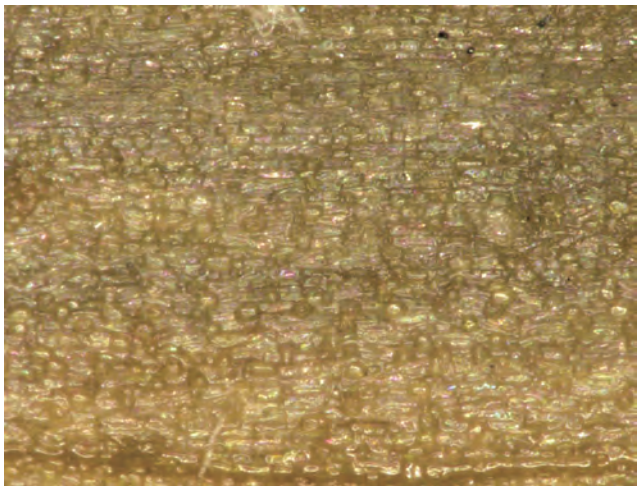
全体像　2cm



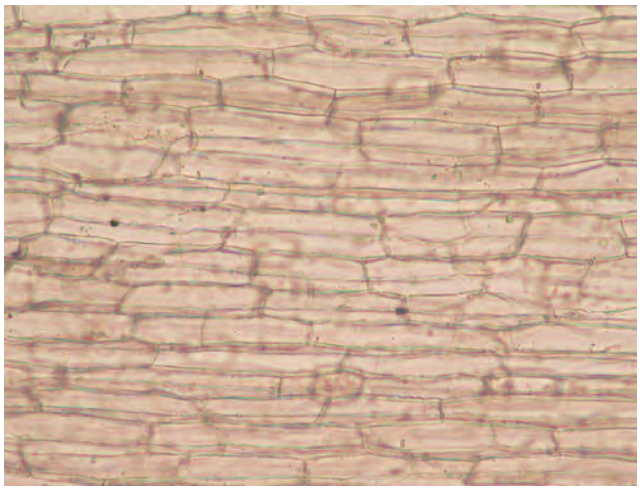
電子顕微鏡像　100μm



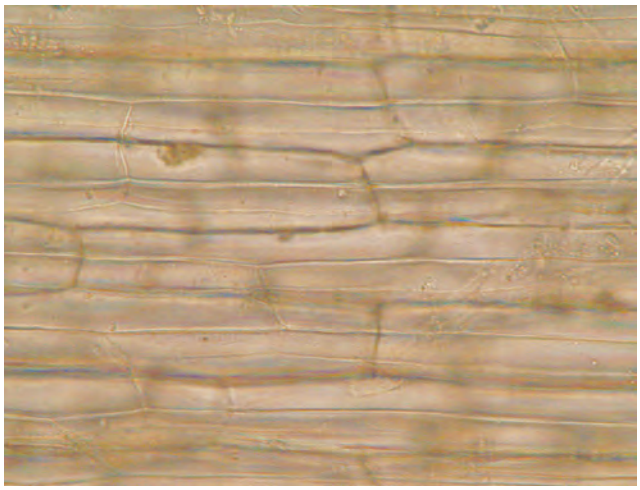
マイクロスコープ像　1mm



マイクロスコープ像　500μm



光学顕微鏡像　100μm



光学顕微鏡像　50μm

第 275 図　顕微鏡写真

8　馳上遺跡の漆塗膜分析（1）

パリノ・サーヴェイ株式会社
赤堀岳人　高橋敦

1　試　　料

試料は、漆塗膜片 1 点（試料番号 1）である。塗膜片は 3 片ある中から最大の破片 1 片を用いる。

2　分 析 方 法

塗膜片をエポキシ系接着剤で合成樹脂製の試料台に接着する。試料台と塗膜片を合成樹脂で包埋し、樹脂を固化させる。塗膜の断面が出るようにダイヤモンドカッターで切断し、切断面を研磨する。研磨面をスライドグラスに接着し、反対側も切断と研磨を行ってプレパラートとする。

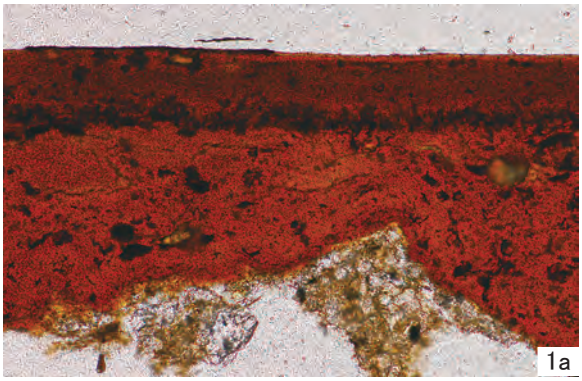
プレパラートは、生物顕微鏡、落射蛍光顕微鏡、偏光顕微鏡で塗膜の状況や混和物について観察する。

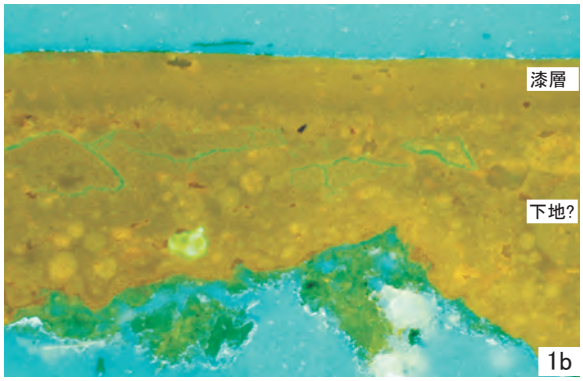
3　結　　果

分析対象となった塗膜片は、表面が黒色を呈する。塗膜部分のみであり、器種・部位の詳細は不明である。

塗膜の下面側には、木地の断片と思われる植物組織が僅かに認められる。下面側の凹凸が激しく、下地層と思われる層は厚さが 100 ～ 200 μ m となる。厚さの違いは、木地の凹凸を反映していると思われる。下地層と思われる層は、漆に何らかの粒子が混じっているが、粒子の由来は不明である。下地層と思われる層の上には、混和物の無い透明漆が、約 50 μ m の厚さで 1 層塗られている。

漆層が 1 層のみであり、作業工程の少ない比較的簡単な作りの漆製品と考えられる。





1.漆塗膜断面(試料番号1)　a:透過光、b:楽射蛍光

第 276 図　漆塗膜断面（1）

塗膜断面の観察から、木炭を用いた下地の上に透明漆が 1 層塗られている。漆層が少なく、作業工程の少ない簡素な作りの漆器と考えられる。透明漆を通して、下地の木炭を用いた下地を見ることで黒色を呈していると考えられる。

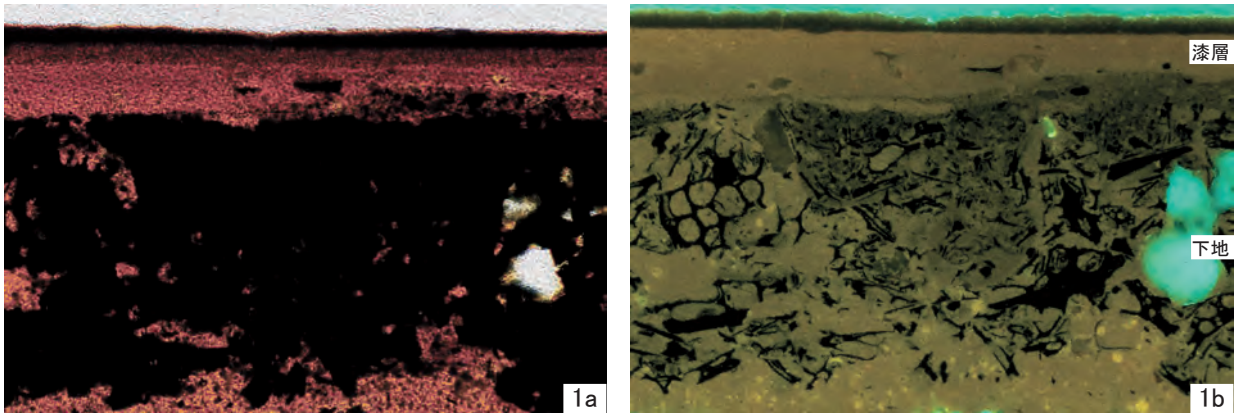
9　馳上遺跡の漆塗膜分析（2）

パリノ・サーヴェイ株式会社
赤堀岳人　高橋敦

1　塗 膜 分 析

塗膜片の木胎が残る側には、炭粉を用いた下地層が認められ、もっとも厚い部分で 200 μ m 以上ある。下地の上には混和物の無い透明漆が 1 層、30 ～ 60 μ m の厚さで認められる。

分析対象となった塗膜片は、肉眼観察の結果から表面が黒色を呈する。木胎が残ることから、木製漆器と判断されるが、木胎部分は僅かであり、木取りや樹種は不明である。



1.漆塗膜断面(試料番号1;SG1 0697G)
a:透過光、b:落射蛍光

第 277 図　漆塗膜断面（2）

10　馳上遺跡の金属遺物の分析

パリノ・サーヴェイ株式会社
赤堀岳人　高橋敦

1　試　　料

出土した鉄滓（椀形鍛冶滓）1 点について、外観観察、顕微鏡組織の観察、化学組成分析、EPMA 調査を実施した。

2　分 析 方 法

・外観観察

鉄滓の外観的な特徴、着磁性や金属探知器反応の有無を記載した。

・顕微鏡組織

光学顕微鏡（オリンパス光学工業㈱製 BX61）を用いて、遺物の断面観察、写真撮影をした。供試材を切り出した後、断面をエメリー研磨紙の #150、#240、#320、#600、#1000、及びダイヤモンド粒子の 3 μm と 1 μm で順を追って研磨した。また滓中の微細な金属鉄の腐食（Etching）には、3%ナイタル（硝酸アルコール液）を用いた。

・化学組成分析

以下の方法で鉄滓の定量分析を実施した。

全鉄分（Total Fe）、金属鉄（Metallic Fe）、酸化第一鉄（FeO）：容量法。

炭素（C）：燃焼容量法、硫黄（S）：燃焼赤外吸収法。

二酸化硅素（SiO2）、酸化アルミニウム（Al2O3）、酸化カルシウム（CaO）、酸化マグネシウム（MgO）、酸化カリウム（K2O）、酸化ナトリウム（Na2O）、酸化マンガン（MnO）、二酸化チタン（TiO2）、酸化クロム（Cr2O3）、五酸化燐（P2O5）、バナジウム（V）、銅（Cu）、二酸化ジルコニウム（ZrO2）：ICP（Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer）：誘導結合プラズマ発光分光分析法。

3　結　　果

・外観観察：ほぼ完形の椀形鍛冶滓（90.3g）である。表面には黄褐色の土砂や茶褐色の鉄錆が付着するが、金属探知器反応はなく、まとまった鉄部はみられない。滓の地の色調は暗灰色で、着磁性はごく弱い。上下面とも細かい木炭痕が残る。気孔は少なく緻密な滓である。

・顕微鏡組織：第 278 図に示す。滓中には白色粒状結晶ウスタイト（Wustite:FeO）、淡灰色柱状結晶ファヤライト（Fayalite：$2FeO{\cdot}SiO_2$）が晶出する。砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の鉄チタン酸化物は確認されなかった。

また②③中央の微細な明白色粒は金属鉄である。3%ナイタルで腐食したところ、②はフェライト（Ferrite：α鉄）単相の組織、③はフェライト素地に少量黒色層状のパーライト（Pearlite）が析出する亜共析組織が確認された。パーライトの面積率からいずれも炭素含有率が 0.1% 以下の軟鉄と推定される。

・化学組成分析

化学組成分析結果を表 20 に示す。全鉄分（Total Fe）55.27% に対して、金属鉄（Metallic Fe）は 0.21%、酸化第 1 鉄（FeO）が 56.12%、酸化第 2 鉄（Fe_2O_3）

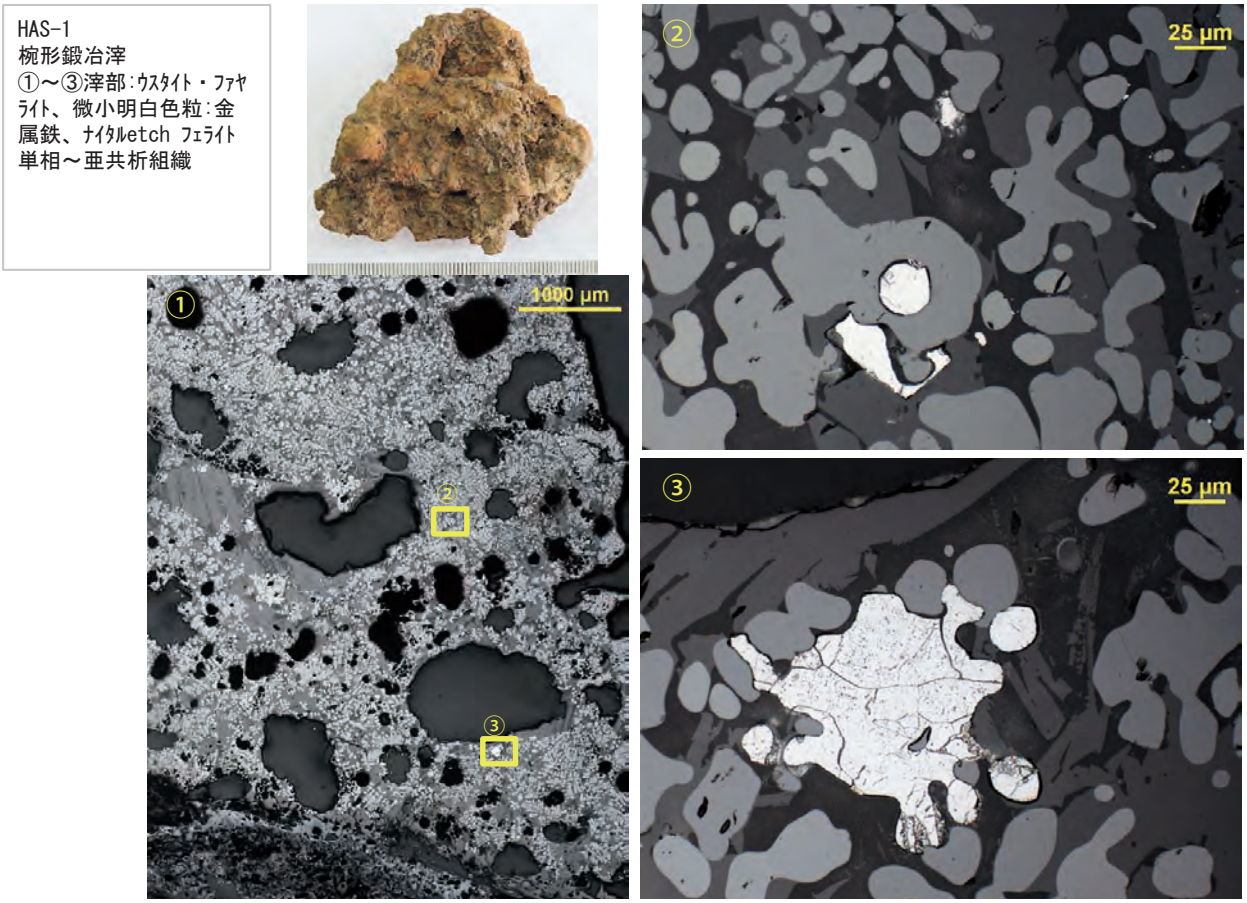
16.36% の割合であった。造滓成分（SiO_2 ＋ Al_2O_3 ＋ CaO ＋ MgO ＋ K_2O ＋ Na_2O）は 22.24% で、このうち塩基性成分（CaO ＋ MgO）は 1.21% と低値であった。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は 0.13%、バナジウム（V）は＜ 0.01% と低値であった。また酸化マンガン（MnO）も＜ 0.01%、銅（Cu）＜ 0.01% と低値であった。

4　考　　察

馳上遺跡（第 8 次）から出土した椀形鍛冶滓は、主に鉄酸化物と粘土溶融物（SiO_2 主成分）からなり、製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の脈石成分（TiO_2、V、MnO）の低減傾向が顕著であった。この特徴から、椀形鍛冶滓（HAS － 1）は鉄素材を熱間で鍛打加工した時の反応副生物（鍛錬鍛冶滓）と判断される。

表 20　化学組成分析結果

符号	全鉄分 (Total Fe)	金属鉄 (Metallic Fe)	酸化第 1 鉄 (FeO)	酸化第 2 鉄 (Fe2O3)	＊ 二酸化珪素 (SiO2)	＊ 酸化ｱﾙﾐﾆｳﾑ (Al2O3)	＊ 酸化ｶﾙｼｳﾑ (CaO)	＊ 酸化ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ (MgO)	＊ 酸化ｶﾘｳﾑ (K2O)	＊ 酸化ﾅﾄﾘｳﾑ (Na2O)	酸化ﾏﾝｶﾞﾝ (MnO)	二酸化ﾁﾀﾝ (TiO2)	酸化ｸﾛﾑ (Cr2O3)	硫黄 (S)	五酸化燐 (P2O5)	炭素 (C)	ﾊﾞﾅｼﾞｳﾑ (V)	銅 (Cu)	二酸化ｼﾞﾙｺﾆｳﾑ (ZrO2)	Σ＊ 造滓成分
HAS-1	55.27	0.21	56.12	16.36	15.97	3.82	0.82	0.39	0.81	0.43	<0.01	0.13	0.04	0.029	0.24	0.26	<0.01	<001	<0.01	22.24



第 278 図　金属遺物（1）

11　馳上遺跡の漆付着土器から発見された双翅目昆虫とその意義について

森　勇一（金城学院大学）

1　はじめに

時期を特定できる土器から、昆虫が発見されることは珍しい。山形県埋蔵文化財センターの水戸部秀樹氏から、「平安時代の土器表面に“カ（蚊）”のような昆虫がくっついているので、調べてもらえないか」と、写真が送付されてきたのは、2017 年 5 月 15 日のことであった。

その後、昆虫が付着した土器（第 203 図 494）を確認し、ムシの存在に着目した同センターの渡辺和行氏が筆者のところまで昆虫付着土器を持参され、虫体の状況を顕微鏡下で直接、観察することができたのは同年 7 月 14 日のことである。残念ながら、この段階では、土器表面に保存処理が施され、昆虫の体の構造は一部よく見えないものになっていたが、体部、およびはね・肢・触角などの形態や構造などを詳細に調査した結果、漆付着土器より認められた昆虫は、晩秋から早春にかけて羽化し、雪の上を歩く姿も観察されるという双翅目（そうしもく）の仲間（ガガンボダマシの一種）の昆虫であることが明らかになったので、ここに報告する。

2　土器付着昆虫の観察

昆虫が付着した土器が発見されたのは、山形県米沢市に位置する馳上遺跡である。馳上遺跡からは、古墳時代と奈良・平安時代の住居や井戸跡などが検出され、これに伴い多くの土器や木製品などが見つかっている。昆虫は、漆が付着した平安時代の土器の内面から発見されたものである。漆付着土器は複数の断片に破壊・分離しており、筆者が観察したときにはすでに接合された状態であった。なお、漆は土器に意図的に塗られたものではなく、生成した漆を別の何かに塗る際の、取り分けるために利用された容器であった可能性が指摘されている。

次に、土器片 1 および土器片 2（同じ土器の別破片）より確認された昆虫について述べる。土器片 1 から 12 点（標本 1 ～ 12）、土器片 2 から 1 点（標本 13）の、計 13 点の虫体が確認された。なお、ここに言う 13 点の虫体は、各体節に分離したのち離れた場所に移動した虫体片については計数していないため、虫体数はそのまま個体数を表しているものと考えられる。

標本 1（第 279 図 1・第 281 図 1）

双翅目と考えられるほぼ全身の側面観である。左右 2 枚のはね（双翅目であれば前翅）、および胸部・腹部・右前肢、後肢などが観察される。はねの長さ約 4.5mm、腹部の長さ約 2.8mm、腹部と胸部を合わせた長さ 4.0mm。前肢の腿節の長さ 2.0mm である。2 複眼、および触角なども識別され、触角は長く少なくとも約 2.6mm に達している。複眼の直径は約 0.2mm であった。なお、胸部からは、平均棍（へいきんこん）と考えられる長さ 0.8mm の直線状の突起が延びている様子が確認される（第 279 図 3）。

標本 2（第 279 図 2）

双翅目と考えられるほぼ全身を背面から見たものである。腹部の後半は失われているか、または隠れていて見えない。観察できない腹部後端を除いた胸部および腹部を合わせた長さは約 3.5mm である。右前肢・右中肢・右後肢、左中肢・左後肢、およびはねなども観察される。

標本 3（第 279 図 4）

双翅目と考えられる胸部と、右前肢・右中肢・右後肢（ただしすべて一部）、左前肢、および左中肢の腿節の一部のみが確認される。胸部（切断面）の大きさは約 1.3mm である。

標本 4（第 279 図 4）

双翅目と考えられる胸部および腹部の背面観と、右のはねの一部、および左肢の一部が観察される。胸部および腹部を合わせた長さは約 3.2mm である。

標本 5（第 279 図 5、第 282 図 1）

胸部の一部と左右の肢（ただし一部）、右はねなどが観察できる。確認しうるはねの長さは約 3.0mm である。はねには、明瞭な翅脈が観察される。なお、胸部および左右の肢と、はねについては、別個体である可能性も考えられる。

標本 6（第 279 図 6、第 282 図 2）

胸部ないし腹部の断面と、左はねが観察される。左はねはほぼ完全な形状が保存されており、標本 5 同様、翅脈の配列や構造を観察することが可能である。左はねの全長は約 4.2mm である。

標本７

胸部ないし腹部の断面観のみが観察される。胸部ないし腹部の断面の大きさは約 1.4mm である。

標本８（第 280 図１）

双翅目と考えられる全身を左側面から見たものである。胸部および腹部については観察できるが、頭部の存在は不明である。触角と推定される長く曲がった線状の体節が識別される。触角の長さは、約 2.5mm。胸部と腹部を合わせた長さは、約 3.7mm である。左右いずれかのはね、および左前肢・左中肢・左後肢などについては観察可能であるが、右肢の状況は明瞭ではない。

標本９

双翅目と考えられる胸部から腹部にかけの隆起（おそらく背面観？）と､肢の一部（２本）のみが観察される。確認しうる虫体片の長さは、肢の部分も含め約 2.8mm である。

標本 10（第 280 図２）

双翅目と考えられる胸部周辺の円形の高まりと、重なりあった２枚のはねが観察される。はねの長さは約 4.0mm、胸部周辺の切断面の直径は約 0.6mm である。

標本 11（第 280 図４）

双翅目と考えられる胸部周辺部の円形切断面観と、左右２枚のはね、右前肢・右中肢・右後肢（ただしすべて一部）、左前肢・右中肢などが観察される。はねは先端部を欠くが、付け根付近の形状や翅脈などがよく保存されている。残存する両はねの長さは約 3.5mm である。

標本 12

双翅目と考えられる腹部の一部、および胸部などが観察される。確認しうる腹部の長さは約 2.2mm、胸部と腹部を合わせた長さは約 3.3mm である。

標本 13（第 280 図３）

標本１～ 12 が付着した土器片とは別の土器片２から発見されたものである。双翅目と考えられる腹部環節計５節分の背面観、および胸部や頭部と推定される膨隆部の背面観が観察される。確認しうる腹部の長さ約 2.0mm、途中の欠損部を含め腹部および胸部・頭部の全長は約 3.8mm であった。

3　昆虫種の同定結果

馳上遺跡の漆付着土器から発見された昆虫は、胸部およびこの周辺の部位の計数結果から計 13 点、つまり 13 頭分の虫体が閉じこめられていることが判明した。13 点のいずれも、同一分類群に属する昆虫である。

昆虫 Insecta は、無翅亜綱 Apterygota と有翅亜綱 Pterygota に分類されるが、無翅亜綱ははねのないシミ目 Thysanura やイシノミ目 Microcoryphia など、原始的な体の造りの昆虫のみで構成される（平嶋ほか、1989)。一方、有翅亜綱に属する昆虫は、トンボ目 Odonata、バッタ目 Orthoptera、コウチュウ目 Coleoptera、チョウ目 Lepidoptera などが含まれ、多様な環境に適応するためにはねの構造や大きさのみならず、体の造りをさまざまに変化させ、現在、地球上で最も繁栄する生物となっている。

以下に､馳上遺跡出土昆虫(馳上標本という)について、同定結果を述べる。馳上標本には、標本１、標本５、標本６、標本 10、および標本 11 に見られるように、複数のはねの存在が確認される。その結果、馳上標本は有翅昆虫に所属するものであることは明らかである｡次に、標本１を見ると、胸部より斜め後方に延びる平均棍が存在することが分かる。平均棍は飛翔を安定させるため後翅が変化したもの（平嶋・森本、2008）とされ、双翅目（ハエ目）昆虫の重要な特徴である。このため、馳上標本は、２枚のはね（前翅）だけを持つ有翅亜綱・双翅目 Diptera に分類される昆虫である、とみなされる。双翅目は、わが国では 104 科約 5300 種、世界では 160 ～ 170 科約 11 万種を含むとされ（諏訪、1997)、コウチュウ目・ハチ目・チョウ目と並んで最も種数の多い分類群の一つである。

一方、双翅目は、多等節の長い触角と３～４節の小腮鬚をもつ長角亜目 Nematocera（いわゆる「カの仲間」）と、不等節の短い触角と１～２節の小腮鬚を有する短角亜目 Brachycera（いわゆる「アブの仲間」および「ハエの仲間」) に分類されている。馳上標本は、長い触角が認められる（標本１および標本８）ことから、長角亜目に分類される。長角亜目には、カ科 Culicidae、ユスリカ科 Chironomidae、ケバエ科 Bibionidae、キノコバエ科 Mycetophilidae、アミカ科 Blephariceridae、チョウバエ科 Psychodidae、ガガンボ科 Tipulidae、ハネカ科 Nymphomylidae、ブユ科 Simuliidae など、26 科（諏訪、1997）とも 29 科（平嶋ほか、1989）とも

いわれる多くの科が含まれるが、長角亜目に属する「カの仲間」は、多様な食性や異なる生活史戦略を獲得する過程で、体サイズやはねの形状などに著しい違いを生じている。

駈上標本の翅形や翅脈は、筆者採集の現生標本との比較からカ科やユスリカ科・チョウバエ科などとは異なり、広義のガガンボ類に属するものであることが容易に理解できる。広義のガガンボ類には、ガガンボ科・シリブトガガンボ科 Cylindrotomidae・ヒメガガンボ科 Limoniidae・ガガンボダマシ科 Trichoceridae の 4 科が所属する（平嶋ほか、1989）。

次に、これら 4 科について、翅脈上の主な相違点を記す。ガガンボ科の翅脈は、亜前縁脈（Sc 脈）の先端が後方に曲がり、第一径脈（R1 脈）上で終わる。シリブトガガンボダマシ科は、亜前縁脈（Sc 脈）の先端が亜前縁脈と径脈とをつなぐ Sc-r 横脈直後で消失する。ヒメガガンボ科は、Sc-r 横脈が通常は Sc 脈の先端近くに位置しており（平嶋・森本、2008）、また第一肛脈（A1 脈）はないかあっても非常に短く不明瞭である（平嶋ほか、1989）。一方、ガガンボダマシ科の翅脈は、亜前縁脈（Sc 脈）の先端がはねの前縁に沿って延長され、また第一肛脈（A1 脈）が短く、通常は後肘脈（PCu 脈）の 1 ／ 2 より短く、しばしば先端部が強く湾曲することにより識別される（平嶋・森本、2008）。

以上、述べた翅脈の特徴をもとに駈上標本の同定を試みる。駈上標本の亜前縁脈が後方に曲がらない特徴から、ガガンボ科に分類されるものではない。駈上標本の亜前縁脈は長く延びており、亜前縁脈の先端と径脈とをつなぐ Sc-r 横脈直後で消失するとするシリブトガガンボダマシ科や、Sc 脈の先端付近に Sc-r 横脈が位置するヒメガガンボ科などと識別される。そもそも，駈上標本では亜前縁脈の先端周辺に Sc-r 横脈は存在しないように見える。亜前縁脈が前縁に沿って直線的に延長される駈上標本の特徴（標本６）は，ガガンボダマシ科の翅脈とよく合致する。一方で、ガガンボダマシ科に見られる第一肛脈が短く、その先端が湾曲するさまは、翅柄部が欠落した標本１・標本５・標本６のいずれもからも観察することは難しい。翅柄部は、標本 11 で観察可能であるが、第一肛脈の湾曲について断定するには至らない。

なお、ガガンボダマシ科・ガンボダマシ属 *Trichocera* sp. の前翅については、平嶋・森本（2008）に詳細な図（第 282 図３）が掲載されており、本図に示された翅脈の特徴は、駈上標本における M1 脈・M2 脈・M3 脈・CuA 脈・Cup 脈など翅脈の類似性のみならず、中室や第２基室・cua 室などの形状まで酷似しており（第 282 図１および２）、駈上標本がガガンボダマシ科昆虫であることを強く支持するものである。ガガンボダマシ科の現生標本には、筆者採集のウスモンガガンボダマシ *Trichocera maculipnnis*（愛知県日進市岩崎御嶽山；2010 年 12 月 2 日採集）がある。ウスモンガガンボダマシは、前翅に淡褐色の斑紋があり、翅端が尖ってやや大型種であるが、翅脈配置などは駈上標本ともよく似る。つづいて、本稿執筆中の 2018 年 1 月 14 日午後 2 時頃、三重県桑名市多度町の自宅庭にて、ニッポンガガンボダマシ *T. japonica* が樹木の周りを群飛するのを目撃し、うち 4 頭を採集した。4 頭の体長は 5.1 ｍｍ～ 5.3 ｍｍ、翅長は 4.9 ｍｍ～ 6.2 ｍｍであった。ニッポンガガンボダマシの現生標本は、はねの形状・翅脈、および胸部や腹部の大きさや形など、駈上標本と細部に至るまでよく一致する（第 281 図３）。

ガガンボダマシ科は、日本に計 13 種が知られている（平嶋・森本、2008）が、うち、大きさや色・形態・分布などから、次の 4 種が駈上標本と比較しうるものである。オオガガンボダマシ *Trichocera regelationis*（体長５～６mm）、ニッポンガガンボダマシ *T. japonica*（体長４～６mm）、フユガガンボダマシ *T. hiemalis*（体長 4.3 ～ 6.7mm）、ワオガガンボダマシ *T. annulata*（体長 3.7 ～ 6.0mm）である。4 種とも、冬季に成虫が現れるが、最も普通種で群飛する傾向が強いのは、ニッポンガガンボダマシであることから、駈上標本はニッポンガガンボダマシに同定される可能性が最も高いといえる。

ニッポンガガンボダマシの体は黒褐色を帯びた灰色、はねは透明で、幅はやや広く、先端は尖らない特徴がある。r 横脈と r-m 横脈上に淡色紋が認められる（伊藤ほか、1988）。翅長はオスで 6.2 ～ 6.5mm、メスで 6.5 ～ 7.0mm（鳥居、1997）とされ、駈上標本のはねの長さはこの値と比べるとやや小さい。伊藤ほか（1988）に、本種の全体図（第 281 図 2）が示されており、この図に見られる形態的特徴は駈上標本ときわめてよく一致する。ニッポンガガンボダマシは、頭頂に３つの単眼を持

つことにより、他のガガンボ類と区別できる（伊藤ほか、1988）といい、頭部を背面から観察できる標本13で３単眼を識別できる可能性がある。

なお、ガガンボやガガンボダマシとよく似た名称の昆虫に、ガガンボモドキ *Bittacus nipponicus* という名のムシがいる。ガガンボモドキはシリアゲムシ目ガガンボモドキ科 Bittacidae に属し、形態的にはガガンボやガガンボダマシなどに幾分似るものの両者とはまったく異なる分類群の昆虫であり、肉食性でオスが交尾の際、メスにプレゼントする習性があることで知られている。

4　考　　察

山形県米沢市・馳上遺跡の平安時代の土器片から、計13点の昆虫が漆に絡め取られた状態で発見された。そのいずれもが、双翅目・長角亜目に属するガガンボダマシ科の昆虫であることが明らかになった。一般に、双翅目は飛翔能力にすぐれすばやく移動することができるが、ガガンボダマシ科を含むガガンボ類はよく発達した大きな前翅と長大な６本肢を有するにも関わらず、飛ぶ力が弱く、また異常に長い肢も歩行やエサの獲得などに有効には機能していない。

ガガンボダマシ科は、成虫の出現が冬季に限られる特殊なグループであり、多くの種が群飛する。系統学的には、ガガンボ科に近縁であるが、生活史のうえではガガンボ科の出現期が主に夏季であるのに対して、ガガンボダマシ科は老熟幼虫・蛹・成虫ともに晩秋から早春にかけて現れるため、多くの捕食者にとって重要な餌とはなりにくい。幼虫は、腐敗植物質・堆肥・真菌類・貯蔵いも・齧歯類（げっしるい）の巣穴などの中で成長する（鳥居、1997）。

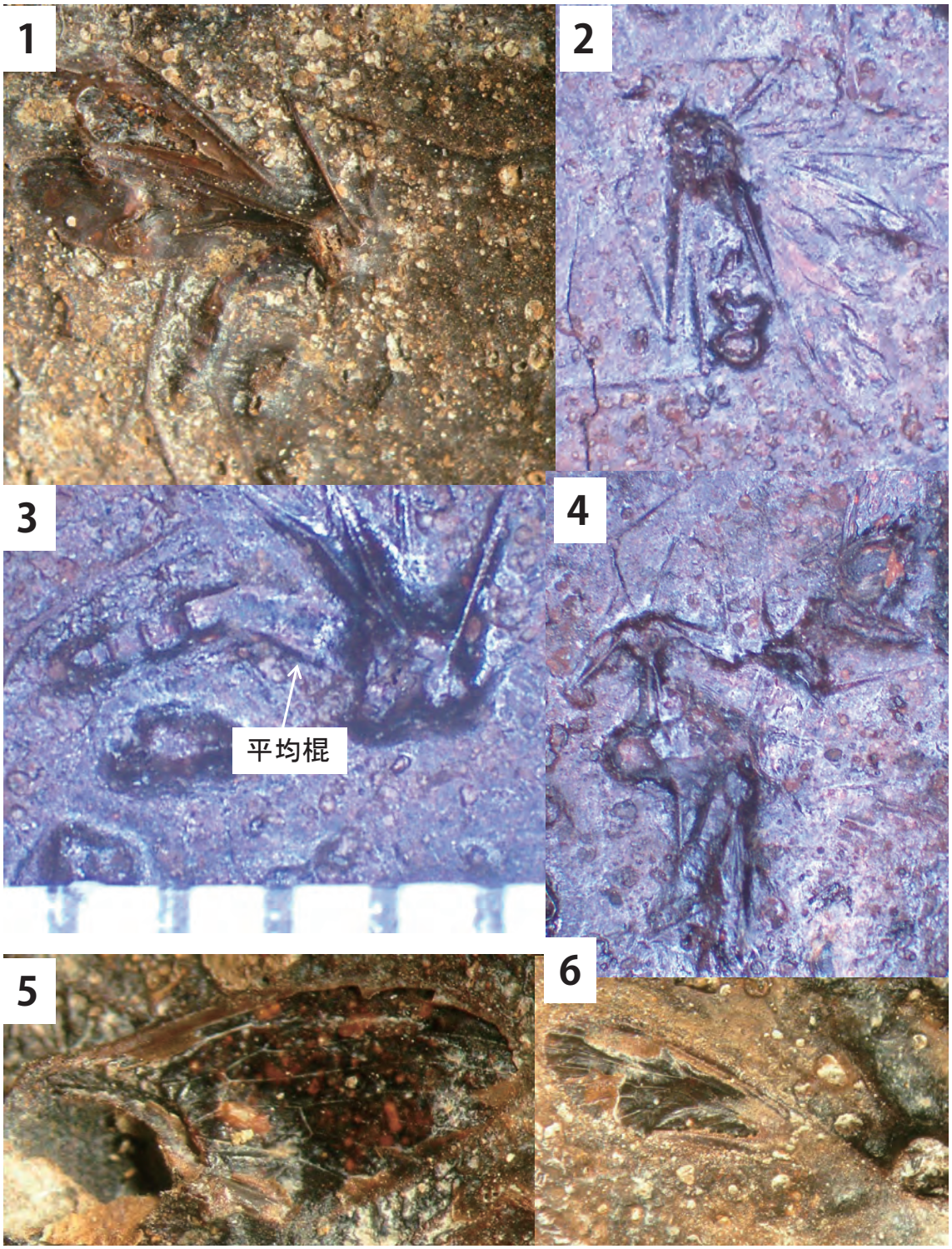
ニッポンガガンボダマシは、ガガンボダマシ科の中では中型種にあたり、北海道・本州などに分布し、晩秋から早春にかけて羽化し、多くのオスが樹木や軒先などに集まり、上り下りして群飛する（伊藤ほか、1988）姿が見られるという。

馳上遺跡から見つかった双翅目昆虫は、ニッポンガガンボダマシに同定される可能性が高い昆虫であるが、仮にそれが種名特定まで至らなくてもはねに現れた多くの特徴から、ガガンボダマシ科に所属する昆虫であることはほぼ間違いないものである。

そして、ガガンボダマシ科昆虫が、漆付着土器より得られたことの最大の意義は、この昆虫の成虫の羽化時期とその活動期間の短さから、馳上遺跡で漆工芸作業が行われた季節が他でもない厳冬期を含む冬の時期であったことを示す動かしがたい証拠を提供するものである。

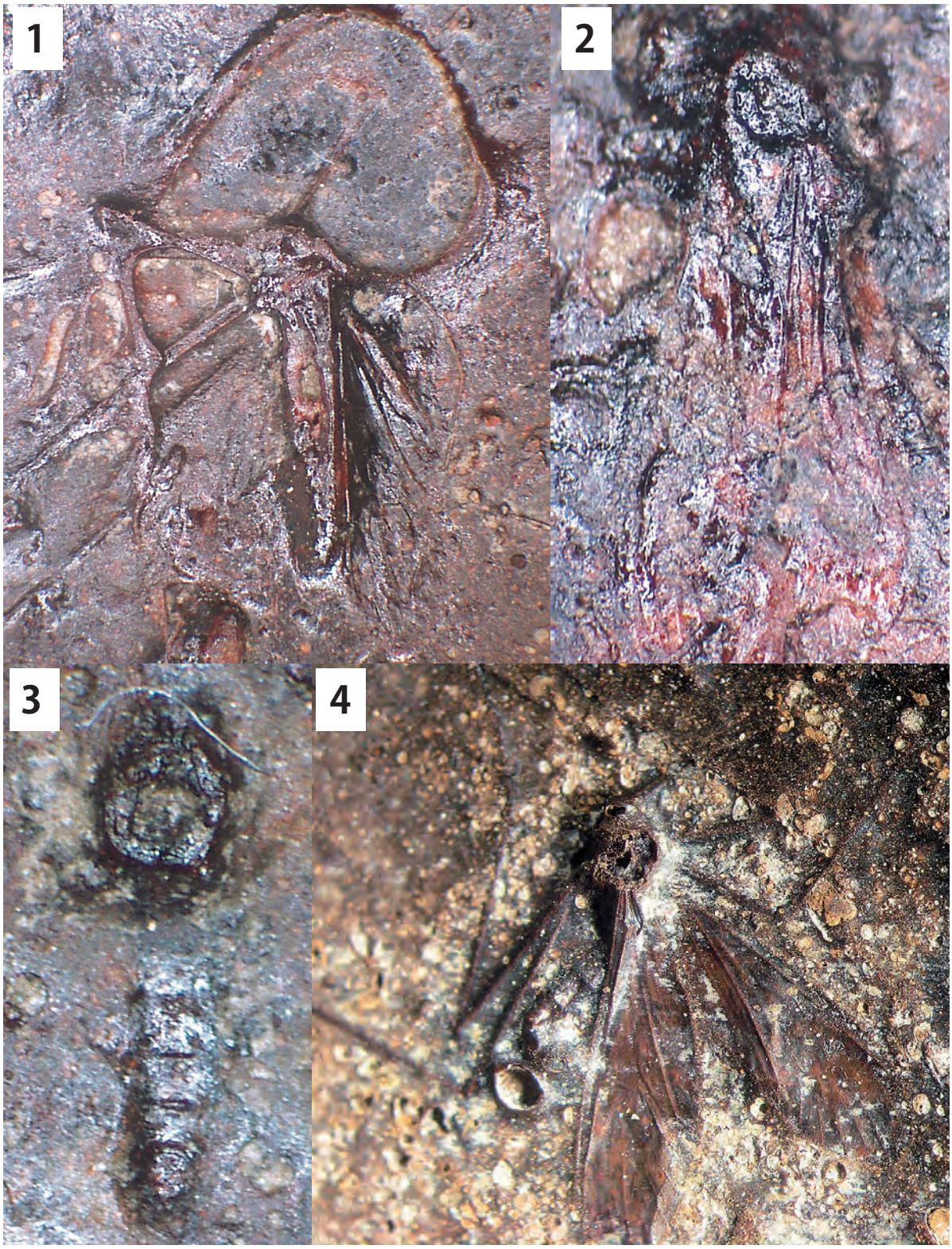
引用文献

伊藤修四郎・井上　寛・奥谷禎一・白水　隆・中根猛彦・日浦　勇　1988『学生版日本昆虫図鑑』北隆館　505p.
平嶋義宏・森本　桂　2008『新訂原色昆虫大図鑑』第３巻　北隆館　654p.
平嶋義宏・森本　桂・多田内修　1989『昆虫分類学』川島書店　597p.
日高敏隆監修　1997『日本動物百科（第９巻）昆虫Ⅱ』平凡社　181p.
諏訪正明　1997「双翅類（ハエ目）」『動物百科（第９巻）昆虫Ⅱ』平凡社　p.106-107
鳥居隆史　1997「ガガンボ類」『動物百科（第９巻）昆虫Ⅱ』平凡社　p.110-112



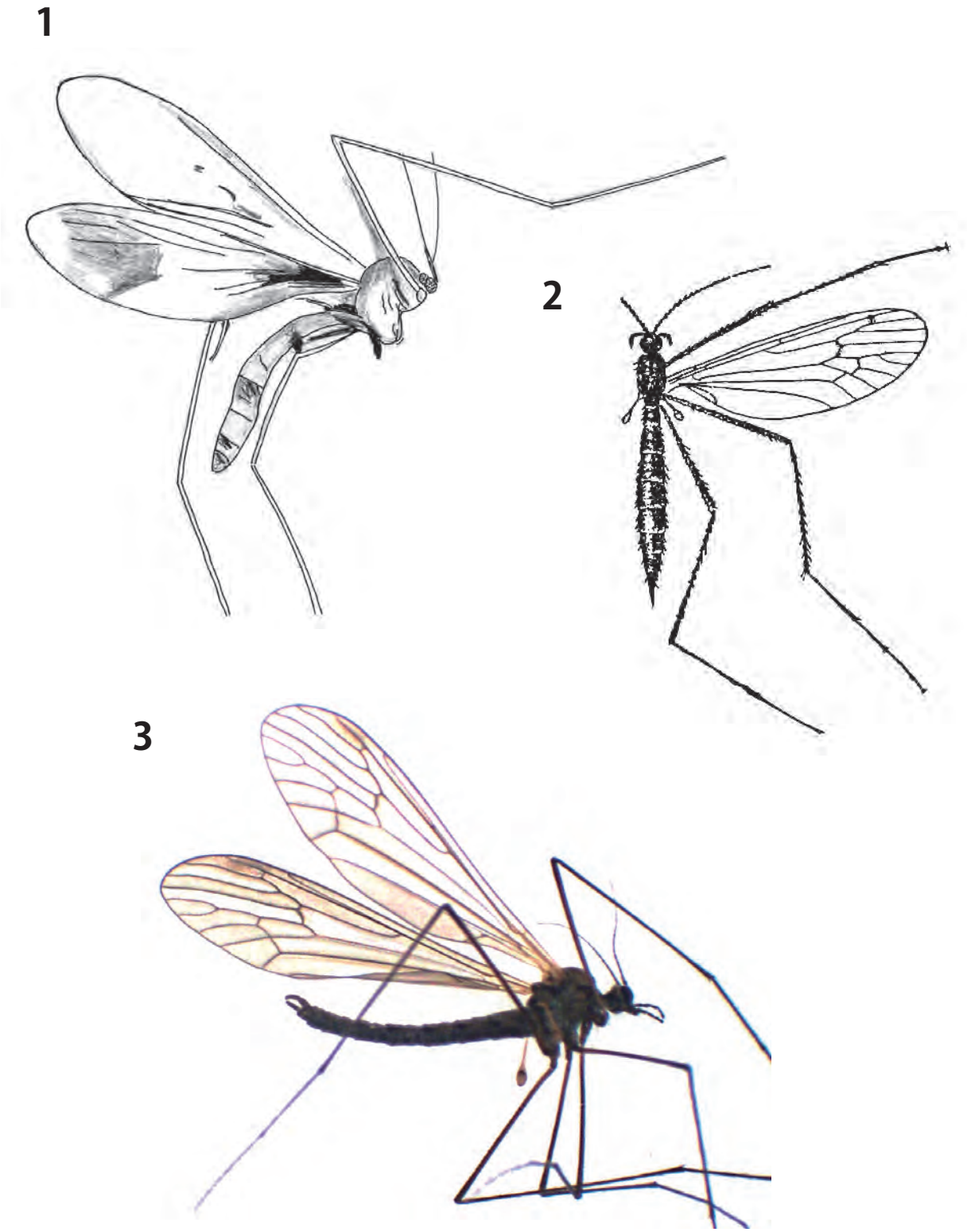
1．ガガンボダマシの仲間　*Trichocera* sp.　保存処理前
　標本１　全身（右向き側面観）　胸部と腹部を合わせた長さ 4.0mm、はねの長さ 4.5mm
2．標本２　ほぼ全身（背面観）　保存処理後
　観察できない腹部後端を除いた胸部および腹部の長さ 3.5mm
3．標本１（拡大）　保存処理後
　胸部後端より延びる平均棍（0.8mm）が見える
4．標本３、標本４、および標本５　保存処理後
　標本４（下端）の胸部および腹部を合わせた長さ 3.2mm
5．標本５　はねの拡大　保存処理前
　翅柄部を欠くはねの長さ 3.0mm
6．標本６　胸部および左前翅　保存処理前
　確認しうる左前翅の長さ 4.2mm

第 279 図　標本 1 ～ 6 の顕微鏡写真



1．標本８　全身（左向き側面観；図では上向きに回転）　保存処理後
　胸部と腹部を合わせた長さ 3.7mm
2．標本 10　胸部および左右前翅　保存処理後
　はねの長さ 4.0mm
3．標本 13　保存処理後
　欠損部を含め頭部・胸部、および腹部の長さ 3.8mm
4．標本 11　保存処理前
　胸部周辺部と左右２枚のはね
　残存するはねの長さ 3.5mm

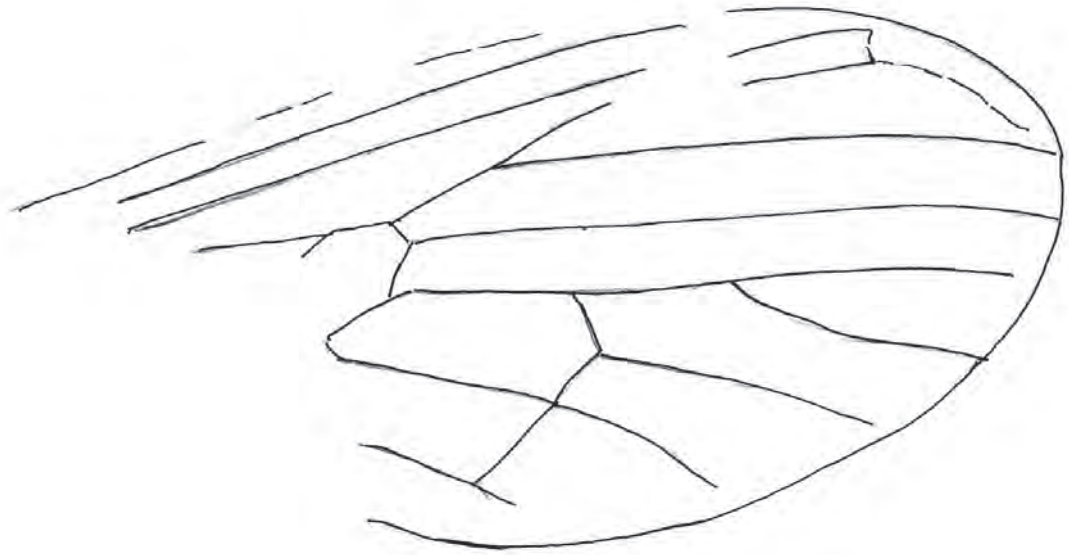
第 280 図　標本 8 ～ 11 の顕微鏡写真



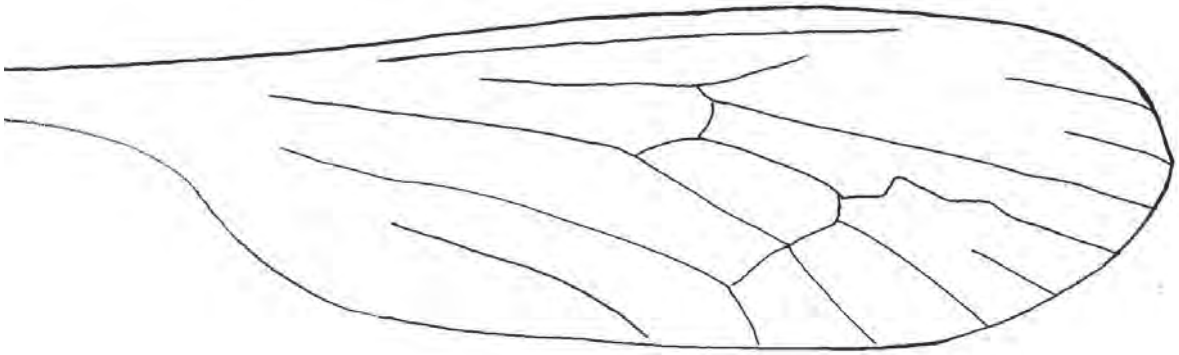
1．ガガンボダマシの仲間　*Trichocera* sp.
　　馳上標本 1（全身）のスケッチ図
2．ニッポンガガンボダマシ *Trichocera japonica*　のスケッチ図
　伊藤ほか（1988）「学生板日本昆虫図鑑」より
3．ニッポンガガンボダマシ *Trichocera japonica* Matsumura
　　現生標本（体長 5.2mm、翅長 6.0mm）
2018 年 1 月 14 日、三重県桑名市多度町にて筆者採集

第 281 図　馳上標本 1 とニッポンガガンボダマシのスケッチ図、ニッポンガガンボダマシの現生標本

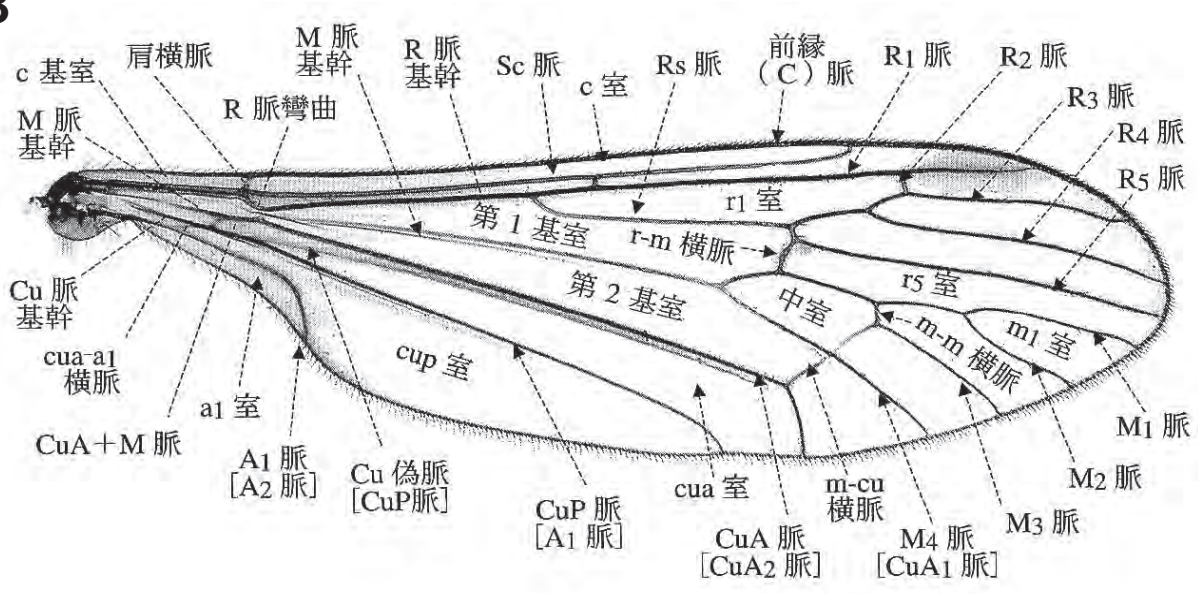
1



2



3



1．右前翅（標本５）のスケッチ図　長さ 3.0mm
2．左前翅（標本６）のスケッチ図　長さ 4.2mm
　図１および図３に合わせ、左右反転して図化
3．ガガンボダマシ科・ガンボダマシ属 *Trichocera* sp. の右前翅
　平嶋・森本（2008）「新訂原色昆虫大図鑑（第３巻）」より

第 282 図　標本 5・6 のスケッチ図、ガガンボダマシ科・ガガンボダマシ属 *Trichocera* sp. の右前翅

12　元立北遺跡の放射性炭素年代測定（1）

株式会社　加速器分析研究所

1　測定対象試料

元立北遺跡の測定対象試料は、竪穴住居跡及びその中から検出された遺構から出土した木炭と炭化物の合計 3 点である（表 21）。これらの試料は、出土遺物から古墳時代中期（450 年頃）と考えられている。

2　化学処理工程

（1）メス・ピンセットを使い、付着物を取り除く。
（2）酸 - アルカリ - 酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/ ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。
（3）試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。
（4）真空ラインで二酸化炭素を精製する。
（5）精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。
（6）グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

3　測 定 方 法

加速器をベースとした ^{14}C-AMS 専用装置（NEC 社製）を使用し、^{14}C の計数、^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）、^{14}C 濃度（$^{14}C/^{12}C$）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

4　算 出 方 法

（1）$\delta^{13}C$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表 21）。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
（2）^{14}C 年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期（5568 年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C 年代は $\delta^{13}C$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 21 に、補正していない値を参考値として表 22 に示した。^{14}C 年代と誤差は、下 1 桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、^{14}C 年代の誤差（± 1 σ）は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2％であることを意味する。
（3）pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい（^{14}C が少ない）ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上（^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上）の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}C$ によって補正する必要があるため、補正した値を表 21 に、補正していない値を参考値として表 22 に示した。
（4）暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差（1 σ＝ 68.2％）あるいは 2 標準偏差（2 σ＝ 95.4％）で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、$\delta^{13}C$ 補正を行い、下 1 桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース（Reimer et al. 2013）を用い、OxCalv4.2 較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表 22 に示した。暦年較正年代は、^{14}C 年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

5　測定結果

試料の測定結果を表 21、22 に示す。

元立北遺跡出土試料の ^{14}C 年代は、試料 1 が 1590 ± 20yrBP、試料 2 が 1560 ± 20yrBP、試料 3 が 1680 ± 20yrBP である。暦年較正年代（1 σ）は、試料 1、2 が古墳時代中期から後期頃、試料 3 が古墳時代前期から中期頃に相当する（佐原 2005）。3 点ともおおむね推定される時期に近いと見られるが、古墳時代中期の中でも 450 年頃というより細かな推定に対して、試料 3 はやや古い値となっている。

樹木の年輪の放射性炭素年代は、その年輪が成長した年の年代を示す。したがって樹皮直下の最外年輪の年代が、樹木が伐採され死んだ年代を示し、内側の年輪は、最外年輪からの年輪数の分、古い年代値を示すことになる（古木効果）。今回測定された試料はいずれも樹皮が確認されていないことから、古木効果によって実際より古い年代値が示されている可能性があるため、推定より古い年代となった試料を中心に、この点も考慮した方が良いと考えられる。

試料の炭素含有率はすべて 60％を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

引用・参考文献

Bronk Ramsey C.　2009　Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360

Reimer, P.J. et al.　2013　IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 55(4), 1869-1887

佐原眞　2005 「日本考古学・日本歴史学の時代区分」『 ウェルナー・シュタインハウス監修 , 奈良文化財研究所編集 , 日本の考古学 上　ドイツ展記念概説』 学生社　p.14-19

Stuiver M. and Polach H.A.　1977 Discussion: Reporting of 14C data, Radiocarbon 19(3), 355-363

表 21　放射性炭素年代測定結果（δ ^{13}C 補正値）（2）

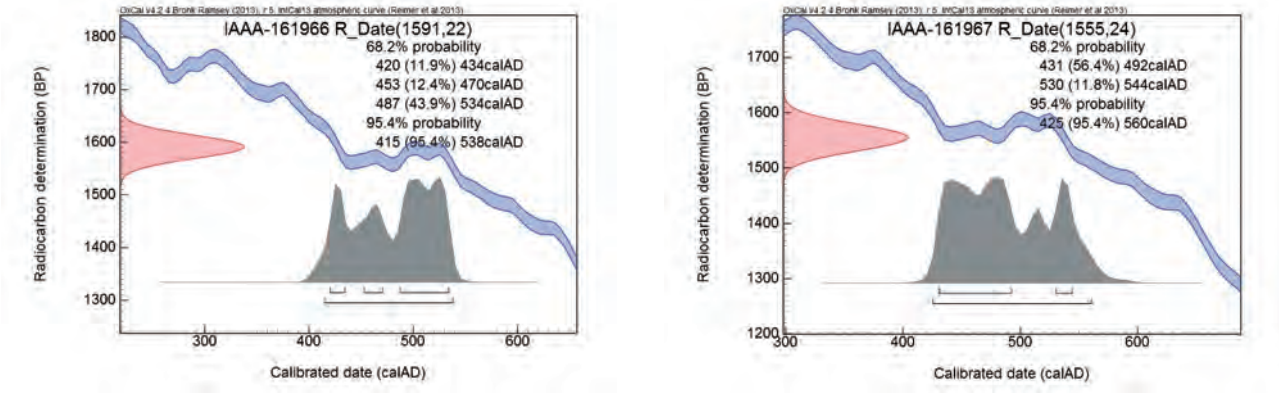
測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ ^{13}C (‰) (AMS)	δ ^{13}C 補正あり	
						Libby Age（yrBP）	pMC (%)
IAAA-161966	試料 1	ST51	木炭	AAA	-25.43 ± 0.29	1,590 ± 20	82.02 ± 0.23
IAAA-161967	試料 2	ST51 内 EP77	炭化物	AAA	-26.08 ± 0.51	1,560 ± 20	82.39 ± 0.25
IAAA-161968	試料 3	ST60 内 EK82	炭化物	AAA	-27.74 ± 0.44	1,680 ± 20	81.17 ± 0.23

[#8350, 8351]

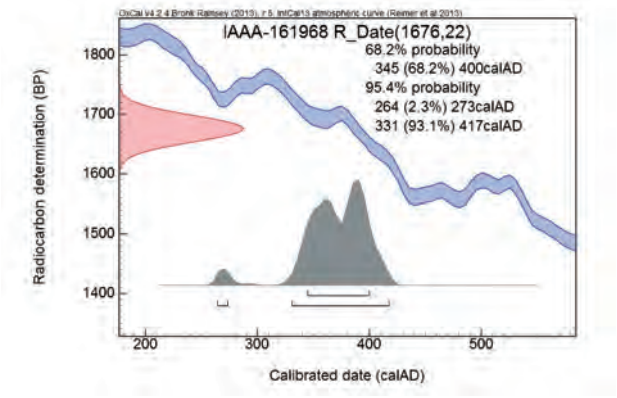
表 22　放射性炭素年代測定結果（δ ^{13}C 未補正値、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代）（2）

測定番号	δ ^{13}C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ暦年代範囲	2 σ暦年代範囲
	Age　(yrBP)	pMC　(%)			
IAAA-161966	1,600 ± 20	81.95 ± 0.23	1,591 ± 22	420calAD - 434calAD (11.9%) 453calAD - 470calAD (12.4%) 487calAD - 534calAD (43.9%)	415calAD - 538calAD (95.4%)
IAAA-161967	1,570 ± 20	82.21 ± 0.23	1,555 ± 24	431calAD - 492calAD (56.4%) 530calAD - 544calAD (11.8%)	425calAD - 560calAD (95.4%)
IAAA-161968	1,720 ± 20	80.71 ± 0.22	1,676 ± 22	345calAD - 400calAD (68.2%)	264calAD - 273calAD (2.3%) 331calAD - 417calAD (93.1%)

[参考値]



第 283 図　暦年較正結果（5）



第 284 図　暦年較正結果（6）

13　元立北遺跡の放射性炭素年代測定（2）

パリノ・サーヴェイ株式会社
赤堀岳人　田中義文　高橋敦

1　試　　料

分析試料は、オニグルミ（ST51-2 区、試料番号 1）、地下茎と根（ST60 RP12、試料番号 2）の 2 試料である。2 試料ともに必要量切り出して分析に供したが、オニグルミには通常分解して残らない子葉が少量残存する。

2　分 析 方 法

分析試料からの表面を洗浄したあと、塩酸（HCl）により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム（NaOH）により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HCl によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid）。溶液の濃度は HCl、NaOH 共に 1mol/L である（AAA と記載）。

試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化（鉄を触媒とし水素で還元する）は Elementar 社の vario ISOTOPE cube と Ionplus 社の Age3 を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を NEC 社製のハンドプレス機を用いて内径 1mm の孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした ^{14}C-AMS 専用装置（NEC 社製）を用いて、^{14}C の計数、^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）、^{14}C 濃度（^{14}C/^{12}C）を測定する。AMS 測定時に、米国国立標準局（NIST）から提供される標準試料（HOX- Ⅱ）、国際原子力機関から提供される標準試料（IAEA-C6 等）、バックグラウンド試料（IAEA-C1 等）の測定も行う。

δ^{13}C は試料炭素の ^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表したものである。放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う（Stuiver & Polach,1977）。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。

暦年較正に用いるソフトウエアは Oxcal4.3（Bronk,2009）を用いる。較正曲線は Intcal13（Reimer et al., 2013）を用いる。

3　結　　果

結果を表 23 に示す。いずれの試料も年代測定を行うのに十分な炭素を回収することができた。また、試料の状態もよく、AAA 処理においてアルカリ溶液の濃度を既定値まで上げることができた（1mol/L、AAA と記載）。

同位体補正を考慮した年代値は、試料番号 1（ST51-2 区）は 80 ± 20BP、試料番号 2（ST60 RP12）は 940 ± 20BP である。

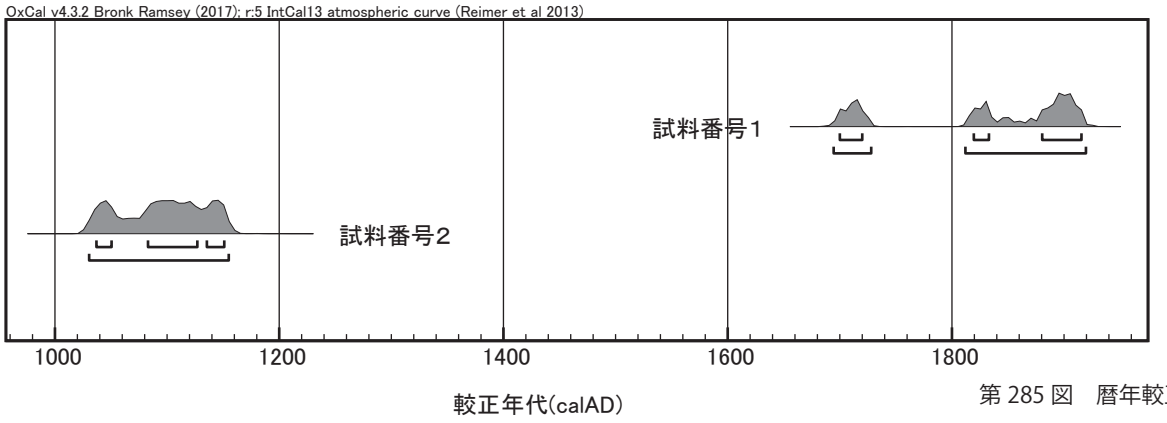
暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}C の半減期 5730 ± 40 年）を較正することによって、暦年代に近づける手法である。較正のもとになる直線は暦時代がわかっている遺物や年輪（年輪は細胞壁のみなので、形成当時の ^{14}C 年代を反映している）等を用いて作られており、最新のものは 2013 年に発表された Intcal13（Reimer et al.,2013）である。なお、年代測定値に関しては、国際的な取り

決めにより、測定誤差の大きさによって値を丸めるのが普通であるが（Stuiver & Polach 1977）、将来的な較正曲線ならびにソフトウエアの更新に伴う比較、再計算がしやすいように、図表には丸めない値（1 年単位）を記す。2 σの年代値は、試料番号 1（ST51 2 区）は calAD1694 ～ 1919、試料番号 2（ST60 RP12）は calAD1030 ～ 1155 である。

表 23　放射性炭素年代測定結果（3）

試料名	性状	方法	補正年代 (BP)	δ 13C (‰)	暦年較正年代 年代値			確率	Code pal-	Code YU-
1 ST51 2 区	堅果類 オニグルミ	1M (AAA)	80 ± 20 (79 ± 20)	-28.39 ± 0.39	σ	cal AD 1700 - cal AD 1720	250 - 230 calBP	0.164	10700	6641
						cal AD 1819 - cal AD 1833	131 - 117 calBP	0.121		
						cal AD 1880 - cal AD 1915	70 - 35 calBP	0.397		
					2 σ	cal AD 1694 - cal AD 1728	256 - 222 calBP	0.246		
						cal AD 1812 - cal AD 1919	138 - 31 calBP	0.708		
2 ST60 RP12	根、地下茎	1M (AAA)	940 ± 20 (940 ± 20)	-28.71 ± 0.37	σ	cal AD 1037 - cal AD 1050	913 - 900 calBP	0.123	10701	6642
						cal AD 1083 - cal AD 1127	867 - 823 calBP	0.414		
						cal AD 1135 - cal AD 1151	815 - 799 calBP	0.145		
					2 σ	cal AD 1030 - cal AD 1155	920 - 795 calBP	0.954		

1) 年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用。
2)BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。
3) 付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の 68%が入る範囲）を年代値に換算した値。
4)AAA は、酸、アルカリ、酸処理、AaA は、アルカリの濃度を薄くした処理を示す。
5) 計算には、Oxcal v4.3 を使用
6) 計算には () 内に示した丸める前の値を使用している。
7)1 桁目を丸めるのが慣例だが、較正曲線や較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1 桁目を丸めていない。
8) 統計的に真の値が入る確率はσは 68%、2 σは 95% である



第 285 図　暦年較正結果（7）

14　元立北遺跡の放射性炭素年代測定（3）

パリノ・サーヴェイ株式会社
赤堀　岳人　高橋　敦

1　資　　料

試料は、同じ建物を構成する柱材 2 点（試料番号 1,2）である。試料番号 1（ST51 EP65）と試料番号 2（ST51RP79）は、いずれも木片で、樹皮は認められない。それぞれ、観察された中での外側 2 ～ 3 年分を採取して測定試料とした。

2　分 析 方 法

分析試料の表面を洗浄したあと、塩酸（HCl）により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム（NaOH）により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HCl によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid）。溶液の濃度は HCl、NaOH 共に 1mol/L である（AAA と記載）。

試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化（鉄を触媒とし水素で還元する）は Elementar 社の vario ISOTOPE cube と Ionplus 社の Age3 を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を NEC 社製のハンドプレス機を用いて内径 1mm の孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした ^{14}C-AMS 専用装置（NEC 社製）を用いて、^{14}C の計数、^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）、

^{14}C 濃度（$^{14}C/^{12}C$）を測定する。AMS 測定時に、米国国立標準局（NIST）から提供される標準試料（HOX- Ⅱ）、国際原子力機関から提供される標準試料（IAEA-C6 等）、バックグラウンド試料（IAEA-C1 等）の測定も行う。

$\delta\ ^{13}C$ は試料炭素の ^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表したものである。放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5568 年を使用する。また､測定年代は 1950 年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う（Stuiver & Polach,1977）。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。暦年較正に用いるソフトウエアは、Oxcal4.3（Bronk,2009）を用いる。較正曲線は Intcal13（Reimer et al., 2013）を用いる。

3　結果と考察

結果を表 24 に示す。いずれの試料も年代測定を行うのに十分な炭素を回収することができた。また、試料の状態もよく、AAA 処理においてアルカリ溶液の濃度を既定値まで上げることができた（1mol/L､AAA と記載)。

同位体補正を考慮した年代値は、試料番号 1(ST51 EP65) は 1605 ± 20BP、試料番号 2（ST51 EP79）は 1615 ± 20BP である。

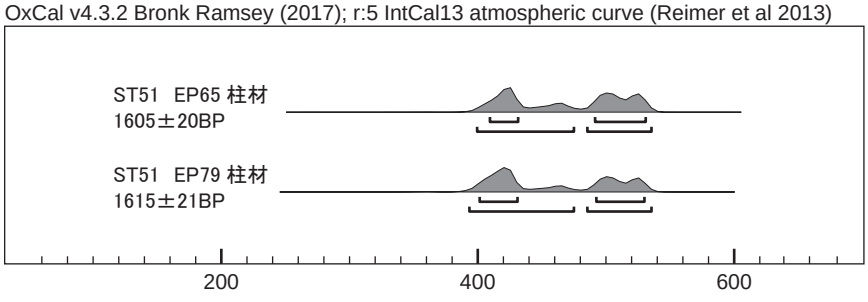
暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}C の半減期 5730 ± 40 年）を較正することによって、暦年代に近づける手法である。較正のもとになる直線は暦時代がわかっている遺物や年輪（年輪は細胞壁のみなので、形成当時の ^{14}C 年代を反映している）等を用いて作られており、最新のものは 2013 年に発表された Intcal13（Reimer et al.,2013）である。なお、年代測定値に関しては、国際的な取り決めにより、測定誤差の大きさによって値を丸めるのが普通であるが（Stuiver & Polach 1977)、将来的な較正曲線ならびにソフトウエアの更新に伴う比較、再計算がしやすいように、図表には丸めない値（1 年単位）を記す。2 σの年代値は、試料番号 1 が calAD399 ～ 535、試料番号 2 が calAD393 ～ 535 である。

なお、柱材の樹種は、試料番号 1 が広葉樹のコナラ属コナラ亜属コナラ節、試料番号 2 が針葉樹のマツ属複維管束亜属に同定された。

表 24　放射性炭素年代測定結果（4）

試料名	性状	方法	補正年代 (BP)	δ ^{13}C (‰)	暦年較正年代				Code pal-	Code YU-
					年代値			確率		
1 ST51 EP65 柱材	木材	1M （AAA)	1605 ± 20 (1606 ± 20)	-27.34 ± 0.38	σ	cal AD 409 - cal AD 431	1541 - 1519 calBP	0.267	10699	6824
						cal AD 491 - cal AD 531	1459 - 1419 calBP	0.415		
					2 σ	cal AD 399 - cal AD 475	1551 - 1475 calBP	0.492		
						cal AD 485 - cal AD 535	1465 - 1415 calBP	0.492		
2 ST51 EP79 柱材	木材	1M （AAA)	1615 ± 20 (1615 ± 21)	-26.34 ± 0.41	σ	cal AD 401 - cal AD 431	1549 - 1519 calBP	0.368	10699	6825
						cal AD 492 - cal AD 530	1458 - 1420 calBP	0.314		
					2 σ	cal AD 393 - cal AD 475	1557 - 1475 calBP	0.560		
						cal AD 485 - cal AD 535	1465 - 1415 calBP	0.394		

1) 年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用。
2)BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。
3) 付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の 68％が入る範囲）を年代値に換算した値。
4)AAA は、酸、アルカリ、酸処理、AaA は、アルカリの濃度を薄くした処理を示す。
5) 計算には、Oxcal v4.3 を使用
6) 計算には () 内に示した丸める前の値を使用している。
7)1 桁目を丸めるのが慣例だが、較正曲線や較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1 桁目を丸めていない。
8) 統計的に真の値が入る確率はσは 68%、2 σは 95% である



第 286 図　暦年較正結果（8）

15　元立北遺跡の金属遺物の分析

パリノ・サーヴェイ株式会社
赤堀岳人　高橋敦

1　資　　料

元立北遺跡から出土した鉄滓？ 1 点について外観観察、顕微鏡組織の観察、EPMA 調査（化学組成分析）を実施した。

2　分 析 方 法

・外観観察

鉄滓の外観的な特徴、着磁性や金属探知器反応の有無を記載した。

・顕微鏡組織

光学顕微鏡（オリンパス光学工業㈱製 BX61）を用いて、遺物の断面観察、写真撮影をした。供試材を切り出した後、断面をエメリー研磨紙の #150、#240、#320、#600、#1000、及びダイヤモンド粒子の 3 μm と 1 μm で順を追って研磨した。また滓中の微細な金属鉄の腐食（Etching）には、3%ナイタル（硝酸アルコール液）を用いた。

・EPMA 調査

EPMA（日本電子製㈱ JXA-8230）を用いて、炉壁粘土の溶融物（ガラス質滓）と滓中の溶着金属の組成を調査した。測定条件は以下の通りである。加速電圧：15kV、照射電流（分析電流）：2.00E-8A。

3　結　　果

・外観観察：非常に小形の炉壁片（1.7g）と推測される。内面は強い熱影響を受けてガラス質化しており、表面には微細な気孔が点在する。外面側は灰褐色の被熱粘土で、凹凸があり、剥離面の可能性がある。

・顕微鏡組織：第 287 図に示す。強い熱影響を受けて、素地部分はガラス質化している。また滓中には微細な石英などの砂粒が混在する。またガラス質滓中の微細な明白色粒は金属鉄である。

・EPMA 調査：微細な金属粒およびその周囲の滓部の反射電子像（COMP）を第 287 図⑤に示す。明白色の金属粒は特性 X 線像では、鉄（Fe）にのみ強い反応がみられる。定量分析値は 97.8%Fe（分析点 1）であった。金属鉄（Metallic Fe）である。左上の砂粒は珪素（Si）に強い反応があり、定量分析値は 99.3%SiO_2（分析点 2）であった。石英（Quartz：SiO_2）に同定される。また素地部分の定量分析値は 60.3%SiO_2 － 17.1%Al_2O_3 － 3.3%CaO － 4.9%K_2O － 2.6%Na_2O － 8.1%FeO（分析点 3）であった。非晶質硅酸塩である。

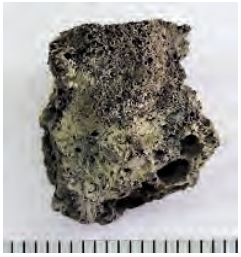
4　考　　察

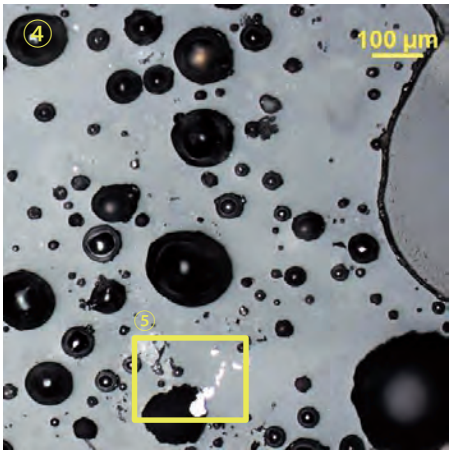
元立北遺跡から出土した鉄滓？は内部に微細な金属鉄粒が確認された。鉄器の生産に伴う炉材の小破片と推定される。

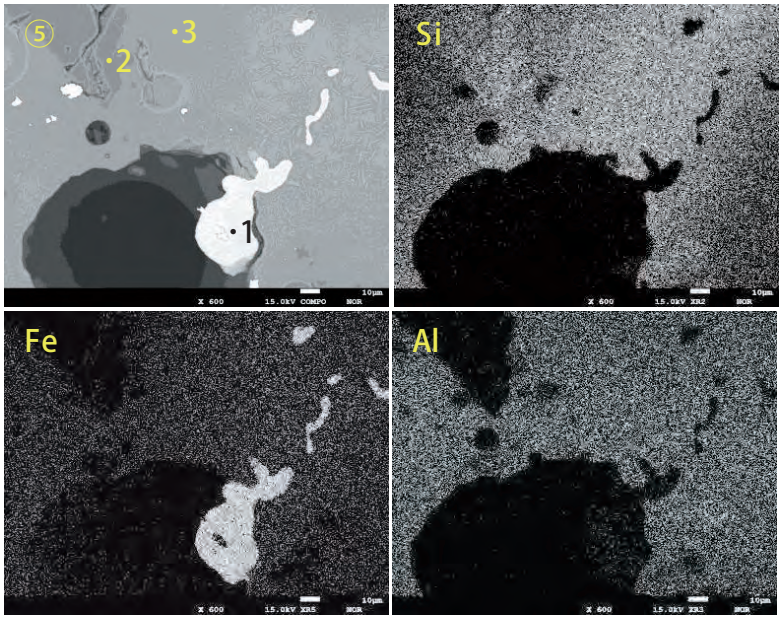
引用文献

Bronk RC.　2009　Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon ,51, 337-360.
林　昭三　1991 『日本産木材　顕微鏡写真集』 京都大学木質科学研究所
伊東隆夫　1995 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ」『木材研究・資料 31』 京都大学木質科学研究所　p.81-181
伊東隆夫　1996 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ」『木材研究・資料 32』 京都大学木質科学研究所　p.66-176
伊東隆夫　1997 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ」『木材研究・資料 33』 京都大学木質科学研究所　p.83-201
伊東隆夫　1998 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ」『木材研究・資料 34』 京都大学木質科学研究所　p.30-166
伊東隆夫　1999 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ」『木材研究・資料 35』 京都大学木質科学研究所　p.47-216
伊藤隆夫・山田昌久 (編)　2012 『木の考古学　出土木製品用材データベース』 海青社　p.449
Reimer PJ., Bard E., Bayliss A., Beck JW., Blackwell PG., Bronk RC., Buck CE., Cheng H., Edwards RL., Friedrich M., Grootes PM., Guilderson TP., Haflidason H., Hajdas I., Hatté C., Heaton TJ., Hoffmann DL., Hogg AG., Hughen KA., Kaiser KF., Kromer B., Manning SW., Niu M., Reimer RW., Richards DA., Scott EM., Southon JR., Staff RA., Turney CSM., van der Plicht J.. ,2013,IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0–50,000 years cal BP. Radiocarbon ,55,1869–1887.
Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E （編） 2006 『針葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト . 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘（日本語版監修）』 海青社　p.70p［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］.
島地　謙・伊東隆夫　1982 『図説木材組織』 地球社 p.176
Stuiver M., & Polach AH.,1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon ,19, 355-363.
Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編） 1998 『広葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト . 伊東隆夫・藤井智之・佐伯浩（日本語版監修）』 海青社　p.122 ［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.

HAS-2　炉壁片
④ｶﾞﾗｽ質滓(石英粒混在)、
微小明白色粒:金属鉄







ｶﾞﾗｽ質滓中の溶着金属の反射電子像・特性X線像

定量分析値

Element	1
N	0.116
O	0.201
Si	0.020
Al	0.007
S	0.012
P	0.072
Fe	97.780
Mn	0.002
Cr	0.005
Total	98.215

Element	2	3
MgO	–	0.581
SiO_2	99.296	60.257
Na_2O	–	2.563
Al_2O_3	0.045	17.125
CaO	0.022	3.270
TiO_2	0.032	0.641
S	0.002	0.010
P_2O_5	0.109	0.927
K_2O	0.023	4.876
FeO	0.143	8.080
MnO	–	0.143
Cr_2O_3	–	0.010
V_2O_3	0.021	0.069
CoO	0.006	0.020
Total	99.699	98.572

第 287 図　金属遺物 (2)

Ⅵ　総　　括

1　馳上遺跡

はじめに

馳上遺跡の総括として、SG1 の遺物で重要なものを紹介し、次に漆塗について、最後に遺跡の動向について検討したい。

A　河川 SG1 出土遺物

ここでは第Ⅲ章で記載した通り、円面硯・墨書土器・木製品、特に木簡や鞍・漆器・容器と考えられるものについて紹介する。

円面硯（第 202 図 465 ～ 472）

今回の調査では風字硯の出土は確認されておらず、円面硯の破片が多く出土した。圏足円面硯がほとんどである。出土地点のほとんどが SG1 からの出土である。グリッドから出土したもの（第 233 図 710 ～ 715）もある。しかし､ほとんどが SG1 の範囲内のグリッドであり、面整理の最中に出土したものである。

465 は蓮の花弁の文様を体部に書き、同じく体部に円形の透かしを持つものである。466・468 は体部に縦方向の刻みが確認される破片で、465 と同一個体の可能性もある。469 は装飾がない、墨だまりを作り出す上部の返しが低い等の特徴がある。467 は円面硯の肩の破片、470 ～ 472 は脚部の破片である。グリッド出土の円面硯では 710・712 が体部に斜格子状の刻みをもつ破片、711 は 465 と同様、体部に円形の透かしをもつものである。透かしと透かしの間には縦方向の刻みを 1 条もつ。713 は体部から脚部の破片で、方形の透かしをもち､方形透かしの脚部側に 2 か所の刻みをもつ。

円面硯は奈良時代に多く作られた硯の形式であり、その後、風字硯に代わっていく。465 ～ 468 までは焼成不足である。710・712 も同様である。装飾に凝ったものの焼成が不十分な傾向にあることがいえる。円面硯が出土したことは、この地で何らかの字を書く行為がなされていたことを伺わせる。

墨書・刻書土器（第 207 ～ 216 図 527 ～ 651）

SK2060 出土の第 182 図 232 とグリッド出土の第 233 図 721、第 234 図 727・728 以外は SG1 出土である。721 は須恵器底部の破片で底部外面に墨書がある。記載文字は不明である。727・728 は黒色土器の坏である。727 は底部外面に「王」、728 は黒色処理した内面に刻書で 1 字記載がある。文字は「奉」の可能性があるが明確ではない。SG1 出土の墨書・刻書土器は須恵器や黒色土器などの種類ごとに、器形から判断して古いものから順に掲載している。破片資料については各種別の最後に掲載している。確認出来た墨書・刻書土器は、全て掲載している。年代は古いもので 8 世紀中ごろ、新しいもので 9 世紀後半と考えられる。詳細は観察表を確認頂きたい。文字は 8 世紀中頃から後半で「大王」・「大呆」・「大来」・「傳」などが確認出来る。記載箇所は底部外面である。9 世紀代に入ると記載場所は変わらないが「在」・「王」・「卅」・「中」・「方」・「吉」・「達」・「火」・「山」等、字種が増加する。また、「大○」といった表記がなくなり、一文字と化す。中にはイレギュラーなものもあり、第 215 図 625・第 216 図 648・649 は体部及び底部外面の二か所に記載されている。さらに､648 については、底部に「丈王」と 2 文字の記載がある。　黒色土器については刻書されたものも数点あり、内面に「王」と刻書された 626 がある。その他は底部外面に「吉」や「王」と記載されている。須恵器に刻書したものはない。

このことから、焼成後もしくは使用後の廃棄段階に文字を刻んだことが確実であり、刻書を行う土器の選択性が裏付けられる。また、墨書・刻書土器には使用痕が明瞭に残るものも多く、油煙が付着するものや、内面に何らかの付着物を有するものが見受けられる。祭祀を行った際の痕跡かそれ以前の痕跡かは不明であるが、その観点からすれば、いずれも廃棄（祭祀）行為の直前に墨書を行った可能性が高く、土器の循環と墨書土器の祭祀行為といったものが、この遺跡では連動していた可能性が高い。また、廃棄時に意図して器を割る打ち欠き行為がなされていたことが、土器の観察によって確認出来る。

墨書土器の出土地点は、馳上遺跡第 2 ～ 4・6 次発掘

調査報告書でも河川からの出土がほとんどである。出土した土器の年代は、9 世紀前半に位置付けられる。今回出土した遺物は前述のように、8 世紀後半から 9 世紀後半に該当する。もちろん、その中には 9 世紀前半代の遺物も含まれており、同時期に同遺跡内で別の場所を使用し、墨書土器を使用した祭祀行為が行われていたのは興味深いところである。馳上遺跡第 2 ～ 4・6 次との違いは文字の点で「奉」が多く、8 次調査では「王」の文字が多い点、馳上遺跡第 2 ～ 4・6 次では 9 世紀前半代がほとんどであるのに対し、8 次は 8 世紀後半から 9 世紀後半までという時期幅が存在する点などがあげられる。

理由として現状で 3 点程考えられる。まず、1 点目、時期的な差を考えるのならば、祭祀行為自体は同様でも 8 次調査は継続的な行為であり、馳上遺跡第 2 ～ 4・6 次は臨時的なものであった。2 点目、場所と文字の違いから祭祀行為そのものが違う。3 点目、祭祀行為は同様で臨時的な行為というよりはそれぞれの場所で行う必要があった、などである。いずれにせよ、墨書土器で行う祭祀そのものがどういったものなのかはっきりしない限り確定は難しい。

その中でヒントとなるのは馳上遺跡第 2 ～ 4・6 次で多く出土した文字「奉」が動詞であるのに対し、8 次調査で出土した文字が「王」という名詞であることである。「奉」は文字の通り、目上のものに対して献上するというの意味を有する。これは馳上遺跡第 2 ～ 4・6 次報告書で記載されている通りである。対して「王」は名詞であり、そのものを示す。器自体の所有者を示すのかまたは、祭祀を取り仕切る者を指すのかは判然としないがその場、その行為にあたって実在したと考えられる。

このことから祭祀行為自体が違っていた可能性がある。もしくは、祭祀を行う対象が現存するか現存しないかの違いと考えられ、2 点目として指摘した可能性が高いと思われる。但し、あくまでもこの遺跡内においてのことであり、他の文字について詳細に検討したわけではないため、可能性として留める。

なお、8 次調査で出土した墨書土器の文字は一部を除き、記号化されている可能性が高い。

木簡（第 217 図 652・653・656）

3 点出土している。文字や形状についての詳細は付編をご覧頂きたい。656 について記載する。656 は木製品であり、刻書が施されている。側面には釘穴と考えられる穴が二ヶ所開いており、反対側の側面には貫通孔が開いている。形状から把手のようなものと考えられる。刻書は部材の取り付け方向を示していると考えられる。その場合、刻書は普段見えない場所に位置する。そのため、刻書されている側を下にして取り付けられていたとみられる。

木製品（第 217 ～ 232 図 654・655・657 ～ 709）

多くの木製品が出土した。注目される遺物について報告したい。まず、654・655 である。恐らく「陽物」と考えられる。木簡や墨書土器も含め、祭祀遺物として注目される。654 については先端の丸みを帯びた部分が一部炭化している。廃棄前に火を使用した行為の可能性を示す。

658・659 は漆器であり、同一個体である。放射性炭素年代測定を行った結果（第Ⅴ章 3 節）、680 年～ 864 年の年代が得られており、古代の範囲内に収まる。後述するが、馳上遺跡では漆に関わる遺物が少なからず存在している。今回、この漆器が出土したことにより、遺跡内で漆塗りの作業を行っていたことがほぼ確実になった。また、漆塗膜分析も行っており、下地に木炭を用い、その上に透明漆を塗ることで見た目を黒くしていることが判明した。下地として塗った木炭は延喜式の内匠寮式に記載のある「掃墨（はいずみ）」にあたると考えられる。

馳上遺跡第 2 ～ 4 次・6 次でも漆膜のみではあるが SK8005 土坑から出土している。こちらも放射性炭素年代測定を行っており、775 年から 898 年との測定結果を得ている。遺跡内で作られたものと推定される。

682・683 は脚付容器としたもので、容器となる部分と脚付の卓上の部分とが合わさって、一つの形を形成している。682・683 は同一個体の可能性があるが寸法が合わない部分があり、2 個体として記載した。劣化の進行具合でズレが生じた可能性が高い。683 は容器の先端に 2 か所貫通孔が確認される。何かを取り付けていたと考えられるが判然としない。また、一部にススコゲがみられる。なお、682 は破片が 2 個体に分かれる。また、682 を放射性炭素年代測定に出したところ、426 年から 542 年との測定結果が示された。古墳時代の中期から後期にあたり、伐採年代からの加工を考えると

542 年以降の可能性が高い。また、測定試料は容器部分の中ほどの破片である。最外輪ではないため、古い年代を示している可能性がある（第Ⅴ章 2 節）。

684 は槽と考えられる容器で、木材を半分に割って内部を刳り貫き、底部を平滑に加工したものである。こちらも破片を放射性炭素年代測定に出しており、測定結果は 779 年から 885 年である。平安時代の範疇に入る。内面に炭化箇所が確認され、廃棄に伴う行為に関係すると思われる。

687 は馬具の鞍の部品である、前輪もしくは後輪だと考えられる。装飾的な要素は見られず、簡素な作りである。同様の形状のものが静岡県居倉遺跡から出土している。その報告では荷鞍であるとされている。今回出土のものも同様と考えている。前輪もしくは後輪が出土したという観点から、馳上遺跡第 1 次調査出土の第 82 図 1 も同様のものである可能性が高い。但しこちらは荷鞍ではなく、人が乗るための鞍の前輪もしくは後輪である。馬の存在は、馳上遺跡第 2 ～ 4・6 次で骨が検出同定されている。遺跡内で馬が飼育され荷物の運搬や人の移動に重宝されていたといえる。また、今回、出土した鞍に関しても放射性炭素年代測定を行っており、測定結果は 775 年～ 952 年であった。

出土した木製品 24 点に対して樹種同定を行っている。

漆器の木胎（659）や皿（660・661）、刳り物（666）はケヤキを使用し、作られていた。農具（688・685・686）や鞍（687）などはコナラやクリなど強度が必要な道具には広葉樹が使用されている。

これらから、作り出す道具に対して適切な木材を使用し作成していたと考えられる。それはつまり、木材の特性を熟知し、判断できる人物が存在していたことを示す。

その他の樹種については第Ⅴ章 4 ～ 6 節をご覧いただきたい。

小結

SG1 の遺物について記載してきた。今回の調査で遺物を一番多く出土したのは河川跡 SG1 である。廃棄されたものとはいえ、そこには多くの情報を持った各年代の遺物が存在する。また、河川の使用方法も大事な集落の生活活動の一部である。船運による使用、祭祀の場としての使用、遺物の廃棄場所としての使用。また、飲用水を確保する場であったかもしれない。そういった観点もあり、総括に SG1 の出土遺物について記載を行った。SG1 では祭祀に関わる遺物が多く出土している。木簡や陽物を始めとする木製品、墨書・刻書土器、また、双耳坏の破片（442・443）や環状突帯付長頸瓶（461）も出土している。その上で、各時代の遺物が出土していることから、SG1 は集落の中で重要な位置を占めていたと考えられる。

それは氾濫原を形成するような水に関する祭祀に関わることなのか、遺跡東端に関する境界祭祀に関することなのか、はっきりとは分からない。だが、曲物の蓋や底板が多数出土していることから、集団での飲食がなされていたと考えられる。そういった、集団で使用する場であった SG1 は 10 世紀後半に流れが止まったようである。第 207 図 529 の内面底部に草本が渦状になった状態で検出された。種類は判明しなかったものの放射性炭素年代測定で 974 年から 1024 年との結果が出ている（第Ⅴ章 2 節）。10 世紀後半から 11 世紀である。流れがあれば内面にしかも渦巻状に堆積するとは考えがたい。上部からの重みで草本が押しつけられた状態でなければ装着しないであろう。SG1 の堆積層の内、上部は未分解の植物遺体を多く含む、腐植土層であった。10 世紀後半代にはそういった土層が形成され、流れがあっても少量の水が流れているのみであったと推察できる。鞍はこの時期に廃棄されたとみられる。いずれにせよ、祭祀を行うような河川ではなくなっていたといえる。

B　漆関係遺物

当遺跡では一定数の漆が付着した土器が出土している。今回の第 8 次調査でも 494 を始め、漆塗のパレットに使用したと考えられる土器類が出土している。また、紡錘車（757）に漆を塗ったものも出土している。馳上遺跡第 2 ～ 4・6 次ではパレットも含め、漆の保管容器なども出土している。そういった観点でみると須恵器の蓋で内面に墨書されている 530 が出土しているが、外面ツマミ付近に漆が付着していることから、漆保管容器の蓋であった可能性がある。今回の調査で漆器 658・659 が出土したことにより、本遺跡内で漆塗の作業を行っていたことがほぼ確実となった。保管容器などから漆を搬入保管し、黒色土器を主にパレットとして漆器などを製作していたと考えられる。また、その作業は冬も

行われていた。494 は黒色土器全面に漆が付着した土器である。

この土器内面には、昆虫が漆に閉じ込められた形で存在しているのが確認された。この昆虫の同定を依頼したところ、ガガンボダマシであることが確認された（第Ⅴ章 11 節）。ガガンボダマシは冬季にのみ生息する。土器の使用方法と廃棄理由、漆が前面に付着している状況を加味すると、漆塗りの作業を行っていた最中に土器を漆保管容器の中に誤って落としたための廃棄、もしくは漆容器からパレットへ小分けするための器であった可能性が高い。また、昆虫の他に細かい木片なども漆の中に混入していた。土器に付着していた漆は精製漆であり、そういった不純物を除いたうえで作られている。つまり、これら木片は昆虫と同様のタイミングで混入したと考えられる。なお、出土地点は河川跡 SG1 である。漆を使用したのち、すぐ SG1 に廃棄したとすれば、砂や草本が付着すると考えられる上、漆が膜として固形化するとは考えがたい。そのことから SG1 へ廃棄する前段階にガガンボダマシや木片が混入し、尚且つ、漆が固形化する場所へ放置していたとみられる。そういった状況を踏まえると、漆容器からパレット等へ小分けするのに使用していた器であった可能性が高い。冬期間の漆塗りの作業は、延喜式内匠寮の朱漆器に單功という記載がある。これは律令営繕令から 10 月～ 12 月の作業工人であることが分かる。そのことから冬期間でも漆塗りの作業を行っていたといえる。

漆が硬化するには 20 ～ 30 度程度の温度と 65％～ 80％の湿度が必要である。冬期間でも火を焚き続け、お湯を沸かすなどすれば厳冬期の米沢でも漆塗は可能である。こうして作られた漆器はその重要性から、郡衙や国府に運ばれた可能性が高い。今回の調査では残念ながら漆塗りを行った竪穴建物等は確認出来なかった。

だが、馳上遺跡で手工業的な作業を行っていたといえるのは遺跡の性格を考える上で重要である。

C　遺跡の動向

地山形成期から集落の開始まで

第 236 図 751 ～ 753 は地山の中から出土した。周辺に土色の変化は確認出来なかった。馳上遺跡第 1 次調査においても縄文時代中期の土器が出土している。その際は正位で出土したこともあり、甕棺墓の可能性が示されている。地形的起伏等の関係で地山の形成は一様ではないといえるが、今回検出面とした地山層は縄文時代を通じて形成されたものと言える。なお、元立北遺跡の状況も踏まえると、縄文時代晩期にはほぼ今回の地山が出来上がっていたと解される。その後、空白期があり、弥生時代のものと考えられる遺物が散見される様になる。SE1660 出土 135・136、SP1167 出土 258 がそれである。馳上遺跡第 2 ～ 4・6 次調査では、流れ込みではあるが、弥生時代中期に相当する焼骨が出土している。この時期から人々の何らかの活動が行われていたと思われる。この後､古墳時代前期から集落が形成されていった。

集落形成期から遺跡低調期まで

古墳時代前期に ST2435 が営まれる形で集落形成が開始されたとみられる。今回の調査で古墳前期に該当する遺構はこの一棟のみである。その後、古墳時代中期の 5 世紀後半に ST250 が営まれる。集落の主体は同時代の竪穴建物を検出した元立北遺跡にあると考えられるが馳上遺跡東側もその集落範囲に含まれていると考えられる。その後、馳上遺跡内では遺物・遺構が激減する。その後、8 世紀後半から最盛期を迎える。なお、激減した中で 7 世紀中葉と考えられる 388 ～ 391 が出土したことは興味深い。

集落の最盛期から中世

遺物の出土量及び遺構が増加するのは、8 世紀後半から 9 世紀後半までである。8 世紀中葉の遺物も河川から出土しているのでその時期から古代集落の形成がなされていったと考えられる。馳上遺跡第 2・4 ～ 6 次の報告では 8 世紀初頭頃の竪穴建物 ST4000 を検出している。

集落内では多くの掘立柱建物が建てられている。竪穴建物も共存するため、両者の使い分けがなされていたことは明白である。その中で、円面硯や木簡の出土から、ある程度の文書行政を行っていたとみられる。さらには漆塗の作業も集落内で行われていたとみられ、手工業的な作業を竪穴建物で行い、文書の作成などは掘立柱建物で行ったと考えられる。また、ST1441 からは鉄滓も出土しており、鉄を持ち込んでの鍛冶を行っていたと見られる。馳上遺跡第 2 ～ 4・6 次でも焼土遺構が検出されており、羽口等も出土している。

そういった、工業的な面と、行政的な円面硯などの出

土品、また河川付近に位置する倉庫と考えられる総柱の建物。また、一般集落に流通しないような歪んだ須恵器壺（778）や馳上遺跡第２・４～６次で報告された、鉢形に成形した器を分解して作られた風字硯（馳上遺跡第２・４～６次：第 286 図 912）など特殊な遺物が存在する。そういったことから各集落（郷）、もしくは生産地から税として郡もしくは国府へ運ぶ際の一つの集積地であり、集積された物品の管理、また、製作を行った場所であったと考え得る。そこで働く人々と SG1 を使用し祭祀などを行ったと考えることも可能である。

そういった集落であった馳上遺跡は９世紀前半から中ごろに SG1661 及び SG2887 が埋没過程に入る。SG1 についても９世紀後半以降、小さな河川へと変貌する。

こういった立地環境の影響も踏まえ、集落を移転する何らかの理由が生じ、９世紀後半から末にかけて井戸跡を埋め立てるなどの廃棄を行った。そして、馳上遺跡は、一旦役割を終えたと考えられる。この後、12 世紀に西谷地ｂ遺跡も含め再開発が始まるとみられる。以上、概観的に馳上遺跡の動向について記述した。詳細な部分はまだ不明であるため、今後の研究に期待したい。

2　元立北遺跡

今回の調査では、古墳時代中期頃の集落跡を確認した。西側に位置する馳上遺跡でも同時期の集落が営まれており、広く同じ集落域と考えることもできる。

竪穴建物 ST51 からは他地域との交流を示す須恵器の鬶が２点出土した。覆土と床面の違いはあるが鬶を所有するだけの人物が存在していたといえる。並びに石製模造品、大型の砥石など多種にわたる遺物が出土している。鉄滓と考えられた遺物は鍛冶炉などの炉壁である可能性が分析により示された（第Ⅴ章 15 節）。焼失住居という特性から、一括性の高い遺物群が出土したことは当期の土器組成を考える上で重要な発見である。

同様に竪穴建物 ST60 からも一括性の高い出土遺物が得られている。いずれの建物からも砥石が検出されていることから、当期にこの場所で金属製品のメンテナンスを行っていたことが確実といえ、炉壁の検出から鍛冶を行っていた可能性があるが、該当する遺構は検出されなかった。

奈良時代・平安時代に該当する遺物も出土しているが、これらは西側に位置する馳上遺跡との関係するものと思われる。検出した河川 SG1 の周辺は、奈良・平安時代において湿地もしくは草木がはえる水辺となっていたと考えられる（第Ⅳ章）。

また、縄文時代晩期の遺物を確認できたことで、当遺跡または周辺に集落跡が存在していたことが推測される。元立北遺跡は市道から西側部分しか調査していない。今後の調査によって新たな知見をえられることに期待したい。

参考文献

公益財団法人山形県埋蔵文化財センター　2014　『馳上遺跡第５次・西谷地ｂ遺跡第３次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 210 集
公益財団法人山形県埋蔵文化財センター　2015　『西谷地ｂ遺跡第１・２次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 215 集
公益財団法人山形県埋蔵文化財センター　2016　『馳上遺跡第２～４・６次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 225 集
財団法人山形県埋蔵文化財センター　2002　『馳上遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 101 集
米沢市史編さん委員会　1991　『米沢市史　近世編１』米沢市
財団法人山形県埋蔵文化財センター　1999　『宮の前遺跡第３次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 65 集
財団法人山形県埋蔵文化財センター　2011　『作野遺跡第２次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 194 集
青森県八戸市教育委員会　2005　『是川中居遺跡５』八戸市内遺跡発掘調査報告書 23
藤沼邦彦・関根達人　2008　「亀ヶ岡式土器（亀ヶ岡式系土器群）」『総攬縄文土器』総攬縄文土器刊行委員会
我孫子昭二　2008　「注口土器」『総攬縄文土器』総攬縄文土器刊行委員会
利部修　2008　『出羽の古代土器』同成社
四柳嘉章　2012　『ものと人間の文化史 131- Ⅰ　漆 1』法政大学出版局
黒坂勝美編　1992　『新訂増補国史大系　延喜式　中編』吉川弘文館
井上光貞他編　1994　『日本思想体系新装版　律令』　岩波書店
大阪府立近つ飛鳥博物館　2006　『年代のものさし - 陶邑の須恵器 -』大阪府立近つ飛鳥博物館図録 40
古代城柵官衙遺跡検討会　1999　『第 25 回　古代城柵官衙遺跡検討会資料』古代城柵官衙遺跡検討会
小林正史編　2017　『モノと技術の古代史　陶芸編』吉川弘文館
奈良国立文化財研究所　1993　『木器集成図録　近畿原子編（解説）』奈良国立文化財研究所　史料第 36 冊